

SETSUNAN UNIVERSITY
SYLLABUS

2018 理 工 学 部 授業
計 画
建 築 学 科

理 工 学 部

(学部略号：T)

Faculty of Science and Engineering

建築学科

(学科略号：A)

Department of Architecture

理工学部（共通）

◎教育研究上の目的

人間性豊かな専門職業人をめざし、科学技術者として必要な基礎知識と実践力を有し、社会の問題を解決できる人材を養成する。

◎ディプロマ・ポリシー(DP:卒業認定・学位授与の方針)[学習・教育到達目標]

本学部各学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士の学位を授与します。

■科学技術教養

[DP-I] 科学技術の幅広い分野に関する基礎知識を身につけ、新しい情報に対して知的好奇心を有する。

■人文社会教養

[DP-II] わが国と世界の文化、社会、歴史、思想などに関する基礎知識を身につけ、社会問題に対して関心を有する。

■科学技術者倫理

[DP-III] 科学技術者としての誇りと謙虚さを有し、科学技術が社会に与える影響の大きさを理解し、判断することができる。また、社会生活においては、他者の模範として規範やマナーを遵守することができる。

■数理能力

[DP-IV] 数学、科学、情報処理の基礎知識を身につけ、与えられた課題に対しては、定量的に分析し解を求めることができる。

■専門実践力(学科独自)

[DP-V] 専門分野の基礎知識を有し、実践的な解決ができる。

■コミュニケーション力

[DP-VI] 科学技術者として必要な日本語による記述力、対話力、傾聴力、発表力を身につけている。また、国際的コミュニケーションのための基本的な意思疎通ができる能力を有する。

■学習習慣

[DP-VII] 自主的に情報収集を行い、自ら学習する習慣を身につけている。科学技術的課題の解決、キャリア形成のために計画的に自主学習ができる。

■課題解決能力

[DP-VIII] 科学技術的課題に対して、情報の収集と分析を行い、計画的に解決策を見つけることができるデザイン能力を有する。

■チームワーク

[DP-IX] 科学技術的課題の解決のため、自らの役割を理解して他者に配慮しながら共同活動ができる。

◎教育研究上の目的

地球環境を含めた広範な人間の生活環境に対する的確な問題意識を持ち、生活基盤となる建築・都市空間の安全性、機能性、審美性の追究と、社会や環境への適切な配慮のできる包括的な知識と技能、さらには倫理観を持った建築設計および建築生産などにかかわる技術者を養成する。

◎ディプロマ・ポリシー(DP:卒業認定・学位授与の方針)[学習・教育到達目標]

本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士(工学)の学位を授与します。

■科学技術教養 ■人文社会教養

[DP-A] 工学技術者として求められる幅広い視野と教養を身につけ、社会の抱える問題を説明できる。

■科学技術者倫理

[DP-B] 技術が人間社会や自然に与える影響、および建築・都市工学技術者の果たすべき役割について学び、倫理的に判断できる。

■コミュニケーション力

[DP-C] 語学教育により国内外の文献や資料から幅広い知識を獲得でき、また建築・都市工学技術者として日本語および外国語を用いたコミュニケーションができる。

■数理能力

[DP-D] 建築・都市工学技術者として必要な専門知識の理解を深めるために、数学や物理学などの基礎的な考え方が説明でき、それらを応用できる。

■課題解決能力

[DP-E] 建築・都市工学技術者に求められる空間表現と情報処理技術を学び効果的にプレゼンテーションができる。

■専門実践力

[DP-F] 建築・都市計画に必要な、計画・意匠・歴史・環境に関する基礎的な考え方が説明でき、それらを応用できる。

■課題解決能力

[DP-G] 建築・都市の問題点と課題の抽出方法および改善提案に結びつく調査・分析方法を学び、チームワーク力を発揮して社会の問題を解決するためのデザインを提案できる。

■専門実践力

[DP-H] 建築構造設計および施工管理に関する建築材料、構造設計および施工管理の基礎的な考え方が説明でき、それらを応用できる。

◎カリキュラム・ポリシー(CP:教育課程編成・実施の方針)

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

- A 知的専門職業人にふさわしい科学技術の幅広い分野に関する基礎知識を身につけるため、教養科目・社会を知る教養群の科学技術教養系「科学技術教養 R1」などの科目を配置する。
- B 技術が人間社会や自然に与える影響、および建築・都市工学技術者の果たすべき役割について学び、倫理的に判断できる技術者としての素養を身につけるため、専門科目「建築法規」、「建築倫理」などの科目を配置する。
- C 国内外の文献や資料から幅広い知識を獲得でき、また建築・都市工学技術者として日本語および外国語を用いたコミュニケーション能力を身につけるため、教養科目・語学系「基礎英語 I a」、「実践英語入門」などの科目を配置する。
- D 建築・都市工学技術者として必要な専門知識の理解を深めるために、数学や物理学などの基礎的な考え方が説明でき、それらを応用できる能力を身につけるため、専門科目・専門基礎群などの科目を配置する。
- E 建築・都市工学技術者に求められる空間表現と情報処理技術を学び効果的にプレゼンテーションができる能力を身につけるため、専門科目「情報リテラシー I」、「建築情報処理基礎」などの科目を配置する。
- F 建築・都市計画に必要な、計画・意匠・歴史・環境に関する基礎的な考え方が説明でき、それらを応用できる能力を身につけるため、専門科目「建築計画基礎」、「建築環境工学 I」、「設計演習 I」などの科目を配置する。
- G 建築・都市の問題点と課題の抽出方法および改善提案に結びつく調査・分析方法を学び、チームワーク力を発揮して社会の問題を解決するためのデザインを提案できる能力を養うため、専門科目「建築ゼミ I」、「卒業研究」などの科目を配置する。
- H 建築構造設計および施工管理に関する建築材料、構造設計および施工管理の基礎的な考え方が説明でき、それらを応用できる能力を身につけるため、専門科目「構造力学 I」、「建築材料 I」などの科目を配置する。

◎アドミッション・ポリシー(AP:入学者受入れの方針)

本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。

■知識・理解

- ①高校までの数学、物理の基礎知識を身につけている。
- ②高校までの国語または英語の基礎知識を身につけている。

■思考・判断

- ③問いに対して筋道を立てて思考し、解答を得ることができる。

■関心・意欲・態度

- ④建築・都市分野に関する興味を有している。
- ⑤勉学や課外活動で主体的に活動した経験を有する。

■技能・表現

- ⑥口頭または文章によって意見を表現し相手に伝えることができる。
- ⑦2級建築施工管理技士(学科試験)や建築CAD検定(3級)などの資格を取得している。
または、それらに繋がる技能などを有している。

入学者選抜の実施にあたっては、学力試験、適性検査をはじめとして、大学入試センター試験、面接、学修計画書、小論文、高等学校調査書、英語ほかの資格検定試験の結果などを入試毎に組み合わせて評価します。

科目履修にあたっての注意事項

科目の内容を理解するためには、授業に出席することがとても重要です。特に、専門科目では、下記のように期末試験だけの成績が良くても単位取得できないことがあるので注意してください。

1. 講義・演習・ゼミ・製図・1年次の実験科目では、原則として出席率80%以上を成績評価の対象とします。
2. 専門の実験・実習科目では、原則として出席率100%を成績評価の対象とします。
3. 講義・演習・ゼミ・製図科目では、原則として30分以上の遅刻は欠席扱いとします。
4. 実験・実習科目では、原則として15分以上の遅刻は欠席扱いとします。
5. 遅刻は、原則として2回で欠席1回とみなします。
6. 病欠、クラブなどの欠席では、ただちに教員の居室を訪ねて指示を受け、それに従って課題等をすみやかに提出してください。
7. 各教室に掲示されている「授業中におけるマナーについて」にマナー違反としてあげられている項目について、このような行為を行い注意に従わない場合は、退室を求め、欠席とします。
8. 1～7に示した出席管理のルールや成績評価の方法は科目により若干異なるので、シラバスをよく読み、教員のアナウンスや掲示板の掲示に注意してください。

授 業 計 画

科目名	担当者	ページ
イ		
インターンシップ I	水野 武	121
インターンシップ II	水野 武	122
インテリア概論	大谷 由紀子	9
エ		
英語基礎会話 a	アレン ニール	124
英語基礎会話 b	アイビス ウィリアム	125
カ		
海外語学研修	鳥居 祐介	126
海外ビジネスインターンシップ	佐井 英子	127
解析学	寺本 惠昭	10
科学英語	平尾 秀実	128
科学技術教養 C 1	片桐 信	129
科学技術教養 C 2	片桐 信	130
科学技術教養 E 1	片田 喜章	131
科学技術教養 E 2	片田 喜章	132
科学技術教養 M 1	堀江 昌朗	134
科学技術教養 M 2	諏訪 晴彦	135
科学技術教養 R 1	大橋 巧	137
科学技術教養 R 2	大橋 巧	139
科学技術教養 T 1	長島 健	140
科学技術教養 T 2	島田 伸一	142
科学技術教養 V 1	西村 仁	144
科学技術教養 V 2	青笹 治	146

キ		
幾何学 I	小林 俊公	11
幾何学 II	島田 伸一	12
企業経営	大田 住吉	148
技術英語	平尾 秀実	150
基礎英語 I a	梅田 尋道	152
基礎英語 I a	矢富 弘	153
基礎英語 I a	小川 一美	154
基礎英語 I a	齋藤 安以子	156
基礎英語 I a	江崎 早苗	158
基礎英語 I b	井原 駿	159
基礎英語 I b	高橋 佑宜	161
基礎英語 I b	松井 信義	162
基礎英語 I b	東野 厚子	163
基礎英語 I b	平尾 秀実	165
基礎英語 II a	梅田 尋道	167
基礎英語 II a	矢富 弘	168
基礎英語 II a	小川 一美	169
基礎英語 II a	永富 真梨	171
基礎英語 II a	江崎 早苗	173
基礎英語 II b	井原 駿	174
基礎英語 II b	高橋 佑宜	176
基礎英語 II b	松井 信義	177
基礎英語 II b	東野 厚子	178

科目名	担当者	ページ
基礎英語 II b	平尾 秀実	180
基礎数学演習	小林 俊公	13
基礎力学演習	前田 純一郎	15
北河内を知る	荻田 喜代一	182
キャリアデザイン I (BASIC)	石井 三恵	183
キャリアデザイン I (BASIC)	中川 浩一	185
キャリアデザイン I (BASIC)	水野 武	187
キャリアデザイン I (BASIC)	中川 浩一	189
キャリアデザイン I (BASIC)	山岡 亮太	191
キャリアデザイン II (ADVANCE)	水野 武	193
キャリアデザイン II (ADVANCE)	橋本 朗子	194
教育課程論	大野 順子	361
教育経営論	朝日 素明	363
教育原理	小山 裕樹	365
教育実習 I	朝日 素明	367
教育実習 II	朝日 素明	368
教育実習 III	朝日 素明	369
教育社会学	大野 順子	370
教育心理学	吉田 佐治子	372
教育相談	吉田 佐治子	373
教育方法論	林 茂樹	374
教職実践演習 (中・高)	小山 裕樹	376
教師論	朝日 素明	378
近代建築史	竹内 正明	16
近代文学から学ぶ	細川 知佐子	195

ク

空間表現論	山本 一貴	17
グローバルな視点から多文化共生を考える	糟谷 英之	196

ケ

健康論	堀 美幸	197
現代韓国事情	田中 悟	198
現代作品論	竹内 正明	18
現代と地理学	笠原 俊則	200
現代ビジネス論	牧 美喜男	201
建築環境工学 I	宮本 征一	20
建築環境工学 II	宮本 征一	21
建築環境工学 III	原 直也	22
建築環境工学演習	宮本 征一	23
建築関連法規	笠井 精二	25
建築企画	生川 慶一郎	27
建築計画各論	木多 彩子	28
建築計画基礎	小林 健治	29
建築材料 I	柳 沢 学	30
建築材料 II	高木 恭子	31
建築情報処理応用	宮本 征一	32
建築情報処理基礎	木多 彩子	33
建築施工 I	渡邊 信夫	34
建築施工 II	渡邊 信夫	35
建築設備学	宮本 征一	36
建築ゼミ I	宮本 征一	37

科目名	担当者	ページ
建築ゼミⅡ	宮本 征一	38
建築ゼミⅢ	宮本 征一	40
建築法規	上田 尚延	41
建築倫理	飯田 匡	42

コ

工業科教育法Ⅰ	福岡 優	380
工業科教育法Ⅱ	福岡 優	381
工業数学Ⅰ	小泉 耕蔵	44
工業数学Ⅱ	小泉 耕蔵	45
鋼構造Ⅰ	谷口 与史也	46
鋼構造Ⅱ	西村 勝尚	47
構造実験	柳沢 学	49
構造力学・構造基礎	池内 淳子	51
構造力学Ⅰ	池内 淳子	52
構造力学Ⅰa	池内 淳子	54
構造力学Ⅰb	西村 勝尚	56
構造力学Ⅱ	池内 淳子	58
構造力学Ⅱ	西村 勝尚	59
構造力学Ⅲ	西村 勝尚	61
構造力学実践	池内 淳子	62
国際理解概論	田中 鉄二	203
古典文学から学ぶ	細川 知佐子	204
コミュニケーションⅠ	櫻井 清華	205
コミュニケーションⅡ	櫻井 清華	206
Conflictの表象－20世紀マンガ・アニメの文化誌－	橋本 正俊	207

サ

材料デザイン	伊熊 昌治	63
産業技術史	照元 弘行	208
産業社会と知的財産	関堂 幸輔	210

シ

実践英語上級	中野 阿佐子	212
実践英語初級	高橋 章夫	214
実践英語初級	俣野 裕美	215
実践英語初級	谷脇 康子	218
実践英語初級	東野 厚子	219
実践英語初級	田村 康子	221
実践英語中級	近藤 未奈	223
実践英語中級	有本 好一郎	225
実践英語中級	西谷 継治	226
実践英語中級	松浦 茂寿	227
実践英語中級	中野 華子	228
実践英語中級	西谷 継治	229
実践英語中級	久田 歩	230
実践英語入門	近藤 未奈	232
実践英語入門	有本 好一郎	234
実践英語入門	西谷 継治	235
実践英語入門	松浦 茂寿	236
実践英語入門	中野 華子	237
実践の思想	柿本 佳美	238

科目名	担当者	ページ
実践の思想	山口 尚	240
地盤工学	細野 久幸	65
社会の仕組み	金 政芸	241
社会の仕組み	谷口 裕久	242
就職実践基礎	橋本 朗子	244
就職実践基礎	山岡 亮太	245
就職実践基礎	亀田 峻宣	246
生涯スポーツ実習	河瀬 泰治	247
生涯スポーツ実習	河瀬 泰治	248
生涯スポーツ実習	近藤 潤	249
情報リテラシーⅠ	妹尾 史郎	67
情報リテラシーⅡ	妹尾 史郎	68
職業指導	水野 武	383
心理と社会	牧野 幸志	250

ス

数学科教育法Ⅰ	小林 俊公	385
数学科教育法Ⅱ	小林 俊公	387
数学科教育法Ⅲ	富永 雅	389
数学科教育法Ⅳ	富永 雅	391
図学Ⅰ	木多 彩子	69
図学Ⅱ	小林 健治	70
スポーツ科学実習Ⅰ	河瀬 泰治	251
スポーツ科学実習Ⅱ	河瀬 泰治	252

セ

青少年育成ファシリテーター養成講座	浅野 英一	253
生徒指導論	朝日 素明	393
西洋建築史	加嶋 章博	71
設計演習Ⅰ	木多 彩子	73
設計演習Ⅱa	大谷 由紀子	74
設計演習Ⅱb	加嶋 章博	75
設計演習Ⅲa	竹原 義二	76
設計演習Ⅲb	小林 健治	77
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	橋本 正治	254
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	石田 裕子	255
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	浅野 英一	256
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	久保 貞也	257
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	鶴坂 貴恵	258
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	尾山 廣	259
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	居場 嘉教	260
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	一色 美博	261
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	大田 住吉	262
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	栢木 紀哉	263
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	石井 信輝	264
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	水野 武	265
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	上野山 裕士	266
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	吉田 佐治子	267
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	藤林 真美	268
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	橋本 正治	269
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	石田 裕子	270
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	浅野 英一	271

科目名	担当者	ページ
摂南大学PBLプロジェクトII	久保 貞也	272
摂南大学PBLプロジェクトII	鶴坂 貴恵	273
摂南大学PBLプロジェクトII	尾山 廣	274
摂南大学PBLプロジェクトII	居場 嘉教	275
摂南大学PBLプロジェクトII	一色 美博	276
摂南大学PBLプロジェクトII	大田 住吉	277
摂南大学PBLプロジェクトII	栢木 紀哉	278
摂南大学PBLプロジェクトII	石井 信輝	279
摂南大学PBLプロジェクトII	水野 武	280
摂南大学PBLプロジェクトII	上野山 裕士	281
摂南大学PBLプロジェクトII	吉田 佐治子	282
摂南大学PBLプロジェクトII	藤林 真美	283
線形代数I	寺本 惠昭	78
線形代数I	東 武大	79
線形代数II	安井 幸則	80
線形代数II	西脇 純一	81
専門日本語FI	佐々木 成美	284
専門日本語FII	門脇 薫	285
専門日本語R	佐々木 成美	286

ソ

造形演習I	山崎 秀昭	82
造形演習II	山崎 秀昭	84
ソーシャル・イノベーション実務総論	石井 三恵	287
測量	長岡 弘隆	85
卒業研究	宮本 征一	86

タ

大学教養入門	荻田 喜代一	289
耐震工学	足立 博之	87
代数学	中津 了勇	88
ダイバーシティとコミュニケーション	石井 三恵	291

チ

地域貢献実践演習	鶴坂 貴恵	293
地域と私	鶴坂 貴恵	294
地域連携教育活動I	吉田 佐治子	296
地域連携教育活動II	吉田 佐治子	297
チームビルディング	水野 武	298
地球環境論	宮本 征一	89

テ

哲学から学ぶ	柿本 佳美	299
哲学から学ぶ	森本 誠一	300
鉄筋コンクリート構造I	柳沢 学	90
鉄筋コンクリート構造II	柳沢 学	91

ト

統計学	中津 了勇	92
道徳教育の研究	小山 裕樹	394
特別活動の理論と方法	林 茂樹	396
都市・地域計画	加嶋 章博	93

科目名	担当者	ページ
ニ		
日本建築史	中川 等	94
日本語会話FI	藤原 京佳	303
日本語会話FII	藤原 京佳	304
日本語会話R	藤原 京佳	305
日本国憲法	大仲 淳介	306
日本語総合FI	古川 由理子	307
日本語総合FII	古川 由理子	308
日本語総合R	古川 由理子	309
日本語読解	櫻井 清華	310
日本語読解	松尾 佳津子	312
日本語読解FI	佐々木 成美	313
日本語読解FII	佐々木 成美	314
日本語読解R	佐々木 成美	315
日本語表現	久田 行雄	316
日本語表現作文FI	佐々木 成美	317
日本語表現作文FII	佐々木 成美	318
日本語表現作文R	佐々木 成美	319
日本語文法FI	佐々木 成美	320
日本語文法FII	佐々木 成美	321
日本語文法R	佐々木 成美	322
日本事情FI	梅野 将之	323
日本事情FII	門脇 薫	324
日本事情RI	梅野 将之	325
日本事情RII	門脇 薫	326
日本の政治	和田 泰一	327
人間力と心理	毛 新華	329

ノ

脳の情報処理	寺内 睦博	331
--------	-------	-----

ハ

犯罪被害者の支援と法的救済	小野 晃正	332
---------------	-------	-----

ヒ

ビジネスマナー	奥田 和子	334
微積分I	寺本 惠昭	95
微積分I	中津 了勇	97
微積分I	田畑 謙二	99
微積分II	島田 伸一	101
微積分II	佐々木 洋平	102

フ

福祉すまい環境	大谷 由紀子	103
物理学I	長島 健	104
物理学II	前田 純一郎	105
物理学実験	神嶋 修	106
プレゼンテーション論	石井 三恵	336
プロポーザル・デザイン	北村 浩	338

科目名	担当者	ページ
-----	-----	-----

ホ

法学入門	大 仲 淳 介	340
保存再生論	所 千 夏	108

マ

マーケティング	田 中 祥 司	341
マーケティングと歴史	武 居 奈緒子	342
マクロ経済学入門	奥 西 達 也	343
マクロ経済学入門	内 田 勝 巳	344

ミ

身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	中 沼 丈 晃	345
--------------------	---------	-----

モ

ものづくりインターンシップ基礎	奥 野 竜 平	347
ものづくりインターンシップ基礎	諏 訪 晴 彦	349
ものづくりインターンシップ実践	奥 野 竜 平	350
ものづくり海外インターンシップ	諏 訪 晴 彦	352

ヤ

役立つ金融知力	陸 川 富 盛	353
---------	---------	-----

ユ

ユニバーサルデザイン	大 谷 由紀子	110
------------	---------	-----

ラ

ライフサイエンスの基礎	西 矢 芳 昭	355
-------------	---------	-----

リ

理科教育法Ⅰ	菅 波 昌 広	398
理科教育法Ⅱ	菅 波 昌 広	400
理科教育法Ⅲ	菅 波 昌 広	402
理科教育法Ⅳ	菅 波 昌 広	404
力学Ⅰ	松 尾 純 子	111
力学Ⅰ	島 津 浩 哲	113
力学Ⅱ	松 尾 純 子	114
力学Ⅱ	前 田 純一郎	115
理工学基礎実験	池 内 淳 子	116
緑地計画	吉 永 規 夫	117

レ

歴史に学ぶ	織 田 康 孝	356
歴史に学ぶ	村 上 司 樹	358

專 門 科 目

科目名	インテリア概論	科目名(英文)	Introduction to Interior Design
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大谷 由紀子
ディプロマポリシー(DP)	F◎		

授業概要・目的	[授業概要・目的] 建築の内部空間を身体、行動、心理、環境など人の側からアプローチする科目である。内部空間の考え方、および基礎的知識について解説し、具体的事例を参照しながら計画手法を講義する。
到達目標	[到達目標] 建築の内部空間計画に必要な基礎的知識を習得する。具体的には 1) 空間の形と身体寸法、動きとの関係の理解、2) 内部空間の計画に必要な基礎知識の習得
授業方法と留意点	テキストをもとに、板書、写真、DVD、サンプルなどを用いて講義や事例紹介、演習課題を行う。 ミュージアム、話題の建築など学外に出向き見学やリサーチなどを行う。また、また、実務家をゲストスピーカーに招く場合もある。 授業時間内で予習・復習課題を課す。 上記以外に、雑誌に掲載された話題の建築を見学し、多くの建築空間を体験してほしい。
科目学習の効果(資格)	設計演習Ⅲa, Ⅲb、および、一級・二級建築士資格試験取得のための重要な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	建築と身体	建築空間と人々の身体、動作との関係	予習・復習課題 私の部屋の計測
2	住宅を「食」から考える1	「つくる」と「カタチ」の関係	予習・復習課題 私の部屋の図面化
3	住宅を「食」から考える2	「食べる」と「カタチ」の関係	予習・復習課題 キッチン、ダイニングのリサーチ
4	住宅を「集まる」から考える1	リビングがつくる空間	予習・復習課題 リビングのリサーチ
5	住宅を「集まる」から考える2	椅子がつくる空間	予習・復習課題 リビングのリサーチ
6	住宅を「寝」「あそぶ」から考える	寝る空間、こどもの空間	予習・復習課題 私の部屋の評価
7	住宅の小さな空間を考える	玄関、水廻り、収納、間仕切り	予習・復習課題 私の部屋の改善案
8	ケーススタディ リノベーション	リノベーションの事例分析	予習・復習課題 建築雑誌の事例を学習
9	ケーススタディ	建築見学、または、ゲストスピーチ	予習・復習課題 建築雑誌で事例を学習
10	商業と空間1	ものを売る、探す、買う行為と内部空間	予習・復習課題 店舗のリサーチ
11	商業と空間2	コンビニ空間と購買	予習・復習課題 店舗のリサーチ
12	商業と空間3	旗竿店の空間	予習・復習課題 建築雑誌で事例を学習
13	商業と空間4	多様な商業の空間	予習・復習課題 新しい事例、海外の事例を検索
14	空間の見せ方	建築プレゼンにおける内部空間の表現	予習・復習課題 建築雑誌で図面の表現を学習
15	まとめテストと解説	授業のまとめテスト及びその解説	テストにそなえてこれまでの復習をしておくこと

関連科目 専門科目全般、特に、建築計画各論・設計演習Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、Ⅲb、建築環境工学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コンパクト建築資料集成	日本建築学会	丸善
2	カタチから考える住宅発想法	大塚篤	彰国社	
3	宮脇檀の住宅デザインの教科書	中山繁信	エクスナレッジ	

評価方法(基準) まとめテスト(60%)、演習課題(40%)

学生へのメッセージ 様々な建築空間の体験を通じて、そこでの人々のふるまいを観察することが重要です。空間の印象、特徴、居心地のよさ、問題点などが何に依るのか、観察し、体験し、読み取る力をつけてほしいと思います。また、課題を通じて発表の機会を設けます。

担当者の研究室等 8号館3階 大谷教授室

備考 見学、ゲストは先方の都合により、土曜日に振り替えの可能性もある。詳細は事前に授業でアナウンスする。
事前学習：授業のテーマに即して、毎回0.5時間程度、文献や建築雑誌で学習する。
事後学習：授業内容について、毎回0.5時間以上授業内容を確認し、課題を行う。

科目名	解析学	科目名(英文)	Analysis
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺本 恵昭
ディプロマポリシー(DP)	D◎		

授業概要・目的	微積分学の厳密な展開を目標にする。理工学部初年度の微積分では計算技法の習得に主眼がおかれ、その基礎となる実数についての理解は直感にたよっている。この授業では、実数を厳密に構成しそれに基づいて連続、収束の概念の明確な理解をめざす。そして連続関数、微分可能関数のもつ重要な性質の理解、また関数の集合が与えられたときの関数族としてもつ性質についての理解を目標にする。
到達目標	関数の収束概念、各点収束と一様収束の違いを理解する。微分方程式や積分方程式などの解の存在定理および解の定性的性質を示すために一様収束の概念がどのように有効に働いているのかを理解し、数理工学に現れる諸問題の数値計算や近似計算ができる。
授業方法と留意点	授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める： 線形代数 I、線形代数 II、微積分 I、微積分 II 講義を基本とし理解度をみるため適宜演習をおこなう。また他者に説明できるまで授業内容を把握しているかもみるので出席を重視する。
科目学習の効果(資格)	数学教職免許取得に不可欠。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実数の構成と性質(1)	論証の用語, 和集合, 共通部分 有理数と実数	課題レポート
2	実数の構成と性質(2)	無限集合, 濃度の比較, 有理数の可算性と実数の非可算性	課題レポート
3	実数の構成と性質(3)	実数の連続性, 実数の作る集合の性質 限・下限, 上極限・下極限, 数列の極限, ε - N 論法	課題レポート
4	実数の構成と性質(4)	コーシー列, 実数の完備性, ボルツァーノ・ワイエルシュトラスの定理	課題レポート
5	関数の性質(1)	関数の定義, 関数の極限, 関数の連続性と ε - δ 論法,	課題レポート
6	関数の性質(2)	中間値の定理, 最大値・最小値の存在	課題レポート
7	連続関数	逆関数の定義, 合成関数の連続性, 一様連続性, リプシッツ・ヘルダー連続性	課題レポート
8	微分と積分(1)	微分係数の定義, 導関数の定義 微分可能な関数の作る空間	課題レポート
9	微分と積分(2)	リーマン積分可能性と定積分, 微積分の基本定理	課題レポート
10	平均値の定理とテーラー展開(1)	ロルの定理, コーシーの平均値の定理, 有限増分の公式	課題レポート
11	平均値の定理とテーラー展開(2)	べき級数の収束と収束半径 多項式近似定理	課題レポート
12	関数列	数列の収束と関数列の収束 一様収束と各点収束,	課題レポート
13	関数空間	関数の作る空間, ノルム区間と完備性, アスコリ・アルツェラの定理,	課題レポート
14	関数方程式と関数空間(1)	関数方程式と関数空間 縮小写像の原理と不動点定理	課題レポート
15	関数方程式と関数空間(2)	色々な関数方程式と解の存在	課題レポート

関連科目 微積分 I・II, 線形代数 I・II, 力学, 物理学など。特に微積分 I・II の修得は不可欠。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜プリント教材を配布する。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	レポート30%、定期テスト(期末)70%で判定し評価する。
学生へのメッセージ	講義内容に関することはどんな事でも遠慮なく質問すること。いつでも親切に答えるようにしています。参考書を貸し出しますので相談に来て下さい。また、スチューデントアワー(月-金の5限目)には3号館3階準備室に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。

科目名	幾何学 I	科目名 (英文)	Geometry I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 俊公
ディプロマポリシー (DP)	D◎		

授業概要・目的	幾何学は、公理と公準から正しい推論により導かれる命題の体系として確立された最初の学問である。三角形、四辺形、円などの図形の性質を学ぶとともに、古典幾何の形成をたどりながら、論理的に述べられた文章を理解し、論理的に考え、論理的に記述することができるようになることを目的とする。																																																																
到達目標	(1) 命題に関する基本的な事柄について理解している。 (2) 命題の基本的な証明方法を使うことができる。 (3) 線分、角、三角形、四辺形、円などの図形に関する基本的な事柄について理解している。 (4) 平行線の公理について理解している。 (5) 三角形、四辺形、円などの図形に関する基本的な命題を、定義や公理を用いて証明することができる。																																																																
授業方法と留意点	講義を中心に行います。授業中は集中して、論理的な文章の理解の仕方、記述の仕方等を掴んでいってください。また毎回の課題レポートは、時間をかけて取り組むようにしましょう。論理的な文章が書けるように、練習を積んでください。																																																																
科目学習の効果 (資格)	数学における論理を平面幾何を通じて学ぶことは、内容の異なる代数学や解析学の理解にもつながる。																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>推論と証明(1)</td><td>命題、三段論法、背理法</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>2</td><td>推論と証明(2)</td><td>命題の逆、対偶、必要十分条件</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>3</td><td>平面幾何の諸定理(1)</td><td>合同の概念、線分と角の合同</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>4</td><td>平面幾何の諸定理(2)</td><td>三角形の合同定理</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>5</td><td>平面幾何の諸定理(3)</td><td>直角の存在、垂線の存在</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>6</td><td>平面幾何の諸定理(4)</td><td>三角不等式、線分の中点、角の二等分線</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>7</td><td>平面幾何の諸定理(5)</td><td>三角形の外心、内心、重心、垂心</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>8</td><td>平面幾何の諸定理(6)</td><td>円に内接する四角形</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>9</td><td>平行線の公理(1)</td><td>三角形の内角の和</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>10</td><td>平行線の公理(2)</td><td>平行四辺形の性質、長方形の存在</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>11</td><td>平面幾何学の公理系(1)</td><td>点と直線、無定義の用語、公理</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>12</td><td>平面幾何学の公理系(2)</td><td>あらためて平行線の公理、直角仮説</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>13</td><td>平面幾何学の公理系(3)</td><td>非ユークリッド幾何</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>14</td><td>平面上の曲線</td><td>2次曲線、媒介変数表示</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>15</td><td>複素数平面</td><td>複素数による図形表示、ド・モアブルの定理</td><td>課題レポート</td></tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	推論と証明(1)	命題、三段論法、背理法	課題レポート	2	推論と証明(2)	命題の逆、対偶、必要十分条件	課題レポート	3	平面幾何の諸定理(1)	合同の概念、線分と角の合同	課題レポート	4	平面幾何の諸定理(2)	三角形の合同定理	課題レポート	5	平面幾何の諸定理(3)	直角の存在、垂線の存在	課題レポート	6	平面幾何の諸定理(4)	三角不等式、線分の中点、角の二等分線	課題レポート	7	平面幾何の諸定理(5)	三角形の外心、内心、重心、垂心	課題レポート	8	平面幾何の諸定理(6)	円に内接する四角形	課題レポート	9	平行線の公理(1)	三角形の内角の和	課題レポート	10	平行線の公理(2)	平行四辺形の性質、長方形の存在	課題レポート	11	平面幾何学の公理系(1)	点と直線、無定義の用語、公理	課題レポート	12	平面幾何学の公理系(2)	あらためて平行線の公理、直角仮説	課題レポート	13	平面幾何学の公理系(3)	非ユークリッド幾何	課題レポート	14	平面上の曲線	2次曲線、媒介変数表示	課題レポート	15	複素数平面	複素数による図形表示、ド・モアブルの定理	課題レポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	推論と証明(1)	命題、三段論法、背理法	課題レポート																																																														
2	推論と証明(2)	命題の逆、対偶、必要十分条件	課題レポート																																																														
3	平面幾何の諸定理(1)	合同の概念、線分と角の合同	課題レポート																																																														
4	平面幾何の諸定理(2)	三角形の合同定理	課題レポート																																																														
5	平面幾何の諸定理(3)	直角の存在、垂線の存在	課題レポート																																																														
6	平面幾何の諸定理(4)	三角不等式、線分の中点、角の二等分線	課題レポート																																																														
7	平面幾何の諸定理(5)	三角形の外心、内心、重心、垂心	課題レポート																																																														
8	平面幾何の諸定理(6)	円に内接する四角形	課題レポート																																																														
9	平行線の公理(1)	三角形の内角の和	課題レポート																																																														
10	平行線の公理(2)	平行四辺形の性質、長方形の存在	課題レポート																																																														
11	平面幾何学の公理系(1)	点と直線、無定義の用語、公理	課題レポート																																																														
12	平面幾何学の公理系(2)	あらためて平行線の公理、直角仮説	課題レポート																																																														
13	平面幾何学の公理系(3)	非ユークリッド幾何	課題レポート																																																														
14	平面上の曲線	2次曲線、媒介変数表示	課題レポート																																																														
15	複素数平面	複素数による図形表示、ド・モアブルの定理	課題レポート																																																														
関連科目	微積分 I・II、線形代数 I・II など。																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>幾何入門</td><td>砂田利一</td><td>岩波書店</td></tr> <tr><td>2</td><td>幾何への誘い</td><td>小平邦彦</td><td>岩波書店</td></tr> <tr><td>3</td><td>幾何のおもしろさ</td><td>小平邦彦</td><td>岩波書店</td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	幾何入門	砂田利一	岩波書店	2	幾何への誘い	小平邦彦	岩波書店	3	幾何のおもしろさ	小平邦彦	岩波書店																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1	幾何入門	砂田利一	岩波書店																																																														
2	幾何への誘い	小平邦彦	岩波書店																																																														
3	幾何のおもしろさ	小平邦彦	岩波書店																																																														
評価方法 (基準)	レポート、演習、小テストで30%、定期テストで70%の割合で判定し評価する。																																																																
学生へのメッセージ	授業の中でわからないことがあれば遠慮なく質問してください。また、毎回の課題レポートでは難しいものもあるかもしれませんが、まずは「考えることに意義がある」と思って、じっくり取り組んでください。そしてできるだけ欠かさず提出することを心がけましょう。																																																																
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室																																																																
備考	事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。																																																																

科目名	幾何学Ⅱ	科目名(英文)	Geometry II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田 伸一
ディプロマポリシー(DP)	D◎		

授業概要・目的	微分幾何学の見地から、日常によくみる曲面、曲線がいかに分類されているのか、その理解を目標とする。																																																																		
到達目標	基礎知識を身につけ、課題に対して定量的な解を求めることができる基礎的能力を有する： 1) 2次曲線の焦点・準線・極形式を理解する 2) 焦点の性質と微分方程式を用いた解析を理解する 3) 2次曲線を座標軸の回転により標準形に直す 4) 平面曲線の弧長・曲率を理解する 5) 曲面の接平面を理解する 6) 曲面積分と曲面の重心が計算できる。																																																																		
授業方法と留意点	授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める： 線形代数Ⅰ、線形代数Ⅱ、微積分Ⅰ、微積分Ⅱ 講義を基本とし理解度をみるため適宜演習をおこなう。また他者に説明できるまで授業内容を把握しているかもみるので出席を重視する。																																																																		
科目学習の効果(資格)	教職科目なので教員の資格を得るためには取る事が望ましい。空間の理解に役に立ち、線形代数・微積分のみごとな応用を見る事ができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2次曲線(1)</td> <td>放物線、グラフ、標準形、準線、焦点、極形式</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2次曲線(2)</td> <td>放物線の焦点の性質、接線(接空間)、微分方程式を立てて解く。</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2次曲線(3)</td> <td>楕円、標準形、準線、焦点、極形式</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>2次曲線(4)</td> <td>楕円の焦点の性質、接線(接空間)、パラメータ表示、面積</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>2次曲線(5)</td> <td>双曲線、標準形、準線、焦点、極形式</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>2次曲線(6)</td> <td>双曲線の焦点の性質、接線(接空間)、パラメータ表示、微分方程式を立てて解く。</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>2次曲線(7)</td> <td>座標軸の回転と固有値</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>2次曲線(8)</td> <td>固有値による2次曲線の分類</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>平面の曲線(1)</td> <td>弧長、曲率</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>平面の曲線(2)</td> <td>曲率円</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>平面曲線(3)</td> <td>曲率と平面曲線の特徴付け、フルネセレーの公式</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>空間内の曲面(1)</td> <td>陰関数表示、パラメータ表示、接平面</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>空間内の曲面(2)</td> <td>曲面積分、曲面積、重心</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>空間内の曲面(3)</td> <td>平均曲率、ガウス曲率(1)</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>空間内の曲面(4)</td> <td>平均曲率、ガウス曲率(2)</td> <td>課題レポート</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	2次曲線(1)	放物線、グラフ、標準形、準線、焦点、極形式	課題レポート	2	2次曲線(2)	放物線の焦点の性質、接線(接空間)、微分方程式を立てて解く。	課題レポート	3	2次曲線(3)	楕円、標準形、準線、焦点、極形式	課題レポート	4	2次曲線(4)	楕円の焦点の性質、接線(接空間)、パラメータ表示、面積	課題レポート	5	2次曲線(5)	双曲線、標準形、準線、焦点、極形式	課題レポート	6	2次曲線(6)	双曲線の焦点の性質、接線(接空間)、パラメータ表示、微分方程式を立てて解く。	課題レポート	7	2次曲線(7)	座標軸の回転と固有値	課題レポート	8	2次曲線(8)	固有値による2次曲線の分類	課題レポート	9	平面の曲線(1)	弧長、曲率	課題レポート	10	平面の曲線(2)	曲率円	課題レポート	11	平面曲線(3)	曲率と平面曲線の特徴付け、フルネセレーの公式	課題レポート	12	空間内の曲面(1)	陰関数表示、パラメータ表示、接平面	課題レポート	13	空間内の曲面(2)	曲面積分、曲面積、重心	課題レポート	14	空間内の曲面(3)	平均曲率、ガウス曲率(1)	課題レポート	15	空間内の曲面(4)	平均曲率、ガウス曲率(2)	課題レポート
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	2次曲線(1)	放物線、グラフ、標準形、準線、焦点、極形式	課題レポート																																																																
2	2次曲線(2)	放物線の焦点の性質、接線(接空間)、微分方程式を立てて解く。	課題レポート																																																																
3	2次曲線(3)	楕円、標準形、準線、焦点、極形式	課題レポート																																																																
4	2次曲線(4)	楕円の焦点の性質、接線(接空間)、パラメータ表示、面積	課題レポート																																																																
5	2次曲線(5)	双曲線、標準形、準線、焦点、極形式	課題レポート																																																																
6	2次曲線(6)	双曲線の焦点の性質、接線(接空間)、パラメータ表示、微分方程式を立てて解く。	課題レポート																																																																
7	2次曲線(7)	座標軸の回転と固有値	課題レポート																																																																
8	2次曲線(8)	固有値による2次曲線の分類	課題レポート																																																																
9	平面の曲線(1)	弧長、曲率	課題レポート																																																																
10	平面の曲線(2)	曲率円	課題レポート																																																																
11	平面曲線(3)	曲率と平面曲線の特徴付け、フルネセレーの公式	課題レポート																																																																
12	空間内の曲面(1)	陰関数表示、パラメータ表示、接平面	課題レポート																																																																
13	空間内の曲面(2)	曲面積分、曲面積、重心	課題レポート																																																																
14	空間内の曲面(3)	平均曲率、ガウス曲率(1)	課題レポート																																																																
15	空間内の曲面(4)	平均曲率、ガウス曲率(2)	課題レポート																																																																
関連科目	微積分Ⅰ・Ⅱ、線形代数Ⅰ・Ⅱ、幾何学Ⅰ、解析学、代数学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	レポート(宿題)で45%、期末試験55%で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	講義内容に関することはどんな事でも遠慮なく質問すること。いつでも親切に答えるようにしています。参考書を貸し出しますので相談に来て下さい。また、スチューデントアワー(月-金の5限目)には3号館3階準備室に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。																																																																		
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室																																																																		
備考	毎回プリントを配布し講義する。 事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。																																																																		

科目名	基礎数学演習	科目名(英文)	Exercises in Basic Mathematics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 俊公
ディプロマポリシー(DP)	D◎		

授業概要・目的	この講義は微積分学への準備となるように意図されている。微積分の講義では説明が省略されるか簡単に済まされるものに対して詳しい説明と演習を行う。微積分学は瞬間の変化を記述し、微小なものを足し合わせる方法を教えている。その動機付けとなるような問題も扱いたいと思っている。そのため物理からの簡単な応用問題も取り上げたいと思っている。
到達目標	主な目標は (1) 種々の量を文字式で表現できる。 (2) 初等関数の性質を利用した計算ができる。 (3) 平行移動、対称移動を利用して関数のグラフが描ける。
授業方法と留意点	教科書に基づく講義と演習を中心に進める。これと並行して、各単元の内容の演習を演習教材(ワークブック)を用いて次のサイクルで実施する: (1) 授業で指定された演習問題に解答する。(2) 教員の評価を受け、正解するまでやり直す。(3) その単元的全問題に正答した時点で、教員から検印を貰う。
科目学習の効果(資格)	微積分、線形代数のための基礎を身につけて、専門科目で用いられる数式理解に役立てる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	整数・有理数・無理数	・オリエンテーション ・整数・有理数・無理数の諸性質	演習テキスト 第1.1~1.4章 レポート課題
2	複素数・無理数	・複素数の四則演算	演習テキスト 第1.5~1.6章 レポート課題
3	複素平面と極形式	・複素数の極形式表示	演習テキスト 第1.7章 レポート課題
4	文字式	・文字式の展開・因数分解	演習テキスト 第2.1~2.3章 レポート課題
5	2次方程式	・解の公式等による2次方程式の解法	演習テキスト 第2.4章 レポート課題
6	高次方程式	・因数定理を用いた高次方程式の解法	演習テキスト 第2.4章 レポート課題
7	1次関数(1)	・直線の式、直交条件	演習テキスト 第3.1章 レポート課題
8	1次関数(2)	・1次関数の応用	演習テキスト 第3.1章 レポート課題
9	2次関数	・グラフ	演習テキスト 第3.2章 レポート課題
10	無理関数	・グラフ	演習テキスト 第3.2章 レポート課題
11	分数式	・計算・部分分数分解	演習テキスト 第4.1-4.2章 レポート課題
12	分数式	・グラフ	演習テキスト 第4.2章
13	三角比(1)	・一般角、三平方の定理とその応用	演習テキスト 第5.1章 レポート課題
14	三角比(2)	・三角関数の定義、グラフ	演習テキスト 第5.2章 レポート課題
15	三角比(3)	・三角比の計算、余弦定理	演習テキスト 第5.2~5.3章 レポート課題
16	絶対値(1)	・絶対値の基本的性質	演習テキスト 第6.1章 レポート課題
17	絶対値(2)	・絶対値付きの方程式の解法、グラフ	演習テキスト 第6.2~6.3章 レポート課題
18	指数関数(1)	・指数法則	演習テキスト 第7.1章 レポート課題
19	指数関数(2)	・指数関数のグラフ、方程式の解法	演習テキスト 第7.1章 レポート課題
20	対数関数(1)	・対数の定義、底の変換公式	演習テキスト 第7.2章 レポート課題
21	対数関数(2)	・対数関数を含む方程式	演習テキスト 第7.2章 レポート課題
22	対数関数(3)	・対数関数のグラフ	演習テキスト 第7.2章 レポート課題
23	三角関数(1)	・加法定理	演習テキスト 第8.1章 レポート課題
24	三角関数(2)	・加法定理を用いた計算問題	演習テキスト 第8.1章 レポート課題
25	三角関数(3)	・加法定理から導かれる種々の公式	演習テキスト 第8.2章 レポート課題
26	三角関数(4)	・加法定理を用いた三角関数のグラフの描き方	演習テキスト 第8.3章 レポート課題
27	数列	・等差数列、等比数列	演習テキスト 第9.1~9.3章 レポート課題
28	和の公式	・等差数列、等比数列の和、シグマ記号に慣れる	演習テキスト 第9.2~9.4章 レポート課題
29	数学的帰納法	・数学的帰納法を用いた証明	演習テキスト 第9.5章 レポート課題

	30	総合演習	・応用問題	レポート課題
関連科目	数式を用いるすべての科目、特に微積分。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学の基礎	摂南大学基礎理工学機構数学教室編	
	2	日々の演習	摂南大学基礎理工学機構数学教室編	
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全単元の検印を受けて演習教材(ワークブック)を完遂した者のみを成績評価の対象とし、演習、小テスト、演習教材(ワークブック)で30%、中間35%、期末35%の割合で判定し評価する。			
学生への メッセージ	教科書の問題を自分で何度も解いて数式を扱う経験を十分に積むよう努力してください。演習は必ず自分で解こうと努力し、わからないところは質問する積極的な姿勢を望みます。			
担当者の 研究室等	3号館3階 数学研究室			
備考	事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。			

科目名	基礎力学演習	科目名(英文)	Exercises in Basic Mechanics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	前田 純一郎
ディプロマポリシー(DP)	D◎		

授業概要・目的	物理学は近代の科学技術の基礎となっており、力学はこの物理学の基礎柱の一つである。力学はものづくりにも必要な日常的な現象をとらえることのできる学問であり、理工学部専門科目を理解する上で必要不可欠である。基礎力学演習では、日常において経験している力学現象の表し方や取り扱い方を学ぶ。
到達目標	建築・都市工学技術者として必要な専門知識の理解を深めるために、数学や物理学などの基礎的な考え方が説明でき、それらに応用できる。
授業方法と留意点	30分の講義と1時間の演習にて行う。演習問題は友達と相談して解いてもよいので勉強の仲間作りのきっかけにしよう。
科目学習の効果(資格)	理工学の基礎として必要不可欠な力学の理解に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	力学と自然現象	自然科学とは何だろうかを身近な例をとって分かりやすく説明する。また、物理を理解する上で基本となる単位についても説明する。	授業中に行った単位変換の問題を復習すること。
2	重力	質量と重力加速度	予習・復習課題1 質量と重量の違い
3	質点のつりあい(1)	1質点にかかる力の合力	予習・復習課題2 運動方程式とつり合いの条件を求める1
4	質点のつりあい(2)	力の合成と分解	予習・復習課題3 運動方程式とつり合いの条件を求める2
5	質点のつり合い(3)	質点のつり合いの総合問題に取り組む。	予習・復習課題4 運動方程式とつり合いの条件を求める3
6	剛体のつり合い(1)	重心について	予習・復習課題5 様々な図形での重心点を求める
7	剛体のつり合い(2)	天秤、シーソー	予習・復習課題6 力のモーメント
8	剛体のつり合い(3)	棒のつり合い	予習・復習課題7 剛体が回転しないための条件を求める
9	運動する物体(1)	等速直線運動	予習・復習課題8 位置と速度との関係
10	運動する物体(2)	等加速度運動	予習・復習課題9 速度と加速度との関係
11	運動する物体(3)	円運動	予習・復習課題10 角度の時間に関する変化
12	作用・反作用	作用と反作用	予習・復習課題11 物体の衝突問題
13	エネルギー	仕事とエネルギー	予習・復習課題12 力学的エネルギー保存則
14	さまざまな力学現象	さまざまな力学現象の解法	予習・復習課題13 運動方程式から、物体の速度と位置を求める
15	基礎力学演習のまとめ	総合問題に取り組む。	

関連科目 微積分I, 線形代数I, 力学I, 物理学実験

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理	潮秀樹, 上村洗	森北出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 期末試験(60%)と演習問題の解答・取り組みに関する授業態度(40%)の割合で評価する。

学生へのメッセージ 物理は試験問題と考えると難しく思われがちですが、自然現象や自らの経験をもとに考えると取り組みやすい学問です。この授業を通して、1つ1つみなさんが体験している現象の原因を突き止めてみましょう。

担当者の研究室等 8号館2階 物理準備室

備考 教科書や授業当日の配布されるプリントを1時間以上かけて丁寧に読み直し、可能であれば再度問題を解く事こと。また、理解出来なかった点を洗い出し可能な限り次の授業で質問すること。
質問・相談時間：火曜 13:40 ~ 14:10

科目名	近代建築史	科目名(英文)	History of Modern Architecture
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	竹内 正明
ディプロマポリシー(DP)	F◎		

授業概要・目的	近代建築は社会の変革と共に発展してきた。この授業では、その一連の流れを解説する。産業革命がもたらした社会の変革は、都市建築の風景をも大きく変えていくことになった。激動の世紀末を迎え、20世紀に入ると現代建築の基礎となる概念が形成されていく。「近代建築」と我々が呼んでいるものとそれを取り巻く環境の変遷を通じて、巨匠たちの建築作品がどのような歴史的意義を持ち得たのかを考え、今日の建築につながる問題を考える。
到達目標	(1) 建築が今日に至るまでどのような展開をなしたか、(2) どのような建築家がモダニズムの重要な位置を占め、どのような建築を生み出したか、(3) 現代建築のデザインにどのような課題がみえるかを理解すること。
授業方法と留意点	図面や写真の映写を多用し、視覚的理解に重点をおく。講義は教科書に概ね対応して進めるので、受講前に必ず該当箇所を読んでくること。
科目学習の効果(資格)	建築に携わる者としての基礎的知識ならびに建築に対する評価眼を養い、設計思想に役立てる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
1	ル・コルビュジェ	ル・コルビュジェの建築・都市に対する考え方を理解する。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
2	ミース・ファン・デル・ローエ	ミース・ファン・デル・ローエの設計手法および作品の分析をおこなう。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
3	批判の対象としての古典主義	近代建築の批判の対象となった古典主義について、時代ごとの特徴を解説する。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
4	近代建築の萌芽と曙光	19世紀の工学、理想社会、様式へのまなざしについて解説するとともに、19世紀の建築と都市の変遷を概観する。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
5	近代への多様な道のり	アール・ヌーヴォー、ウィーン分離派など世紀転換期の動向や鉄筋コンクリートなどの新素材による建築・都市の新たな視点について解説する。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
6	建築のアヴァンギャルド	20世紀初頭の前衛的な建築思潮について解説する。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
7	近代建築の実験場としてのドイツ	ドイツ工作連盟、表現主義建築、バウハウス、ジードルンクなど、ドイツにおける建築の近代化について解説する。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
8	中間レポートの発表と講評	提出した中間レポートの発表および講評をおこなう。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
9	アメリカにおける近代建築の形成	建築の高層化、アメリカの古典主義、フランク・ロイド・ライトの建築など、アメリカにおける建築の近代化について解説する。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
10	教義としての近代建築	建築における規格化、機能的都市、インターナショナル・スタイル、建築における空間という視点について解説する。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
11	近代建築のひろがりと変容	アメリカ近代建築の展開、規格化と構造の表現、風土のなかの建築、イデオロギーと建築について解説する。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
12	近代建築への懐疑と超克	CIAMとチーム10、都市の再発見、場所の力、多様性について、近代建築への評価について解説する。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
13	建築のポスト・モダン	モダニズムの相対化、ポスト・モダン建築の多義性、都市のコンテクスト、テクノロジーへの視点、ポスト・モダニズムへの懐疑、建築のディスプレイ・プログラミングについて解説する。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
14	テーマ化するモダニティ	次の建築家たちによる設計姿勢を分析する。レム・コールハース、ヘルツォーク・アンド・ド・ムロン、フランク・O・ゲーリー、妹島和世、西沢立衛。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
15	まとめ	20世紀の建築家の作品分析および模型による再現について解説する。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。

関連科目	西洋建築史、設計演習、卒業研究
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキスト 建築の20世紀	本田昌昭・末包伸吾 編著	学芸出版社

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	カラー版 図説 建築の歴史	西田雅嗣・矢ヶ崎善太郎 編著	学芸出版社

評価方法(基準)	授業への積極的な関与や質問への回答(20%)、中間レポート(30%)、期末試験(50%)を総合的に判断する。
----------	--

学生へのメッセージ	近代の建築・都市・デザインを理解することは、これから自分が創り出そうとする建築のコンセプトや空間そのものに大きなヒントを与えてくれます。単なる歴史の暗記ということではなく、自分が評価したい対象を模索するきっかけとなるはずですよ。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む
----	---------------------------------------

科目名	空間表現論	科目名(英文)	Spatial Design
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 一貴
ディプロマポリシー(DP)	F◎		

授業概要・目的	本講義は、空間デザインを単なる形態操作の問題として捉えるのではなく、その形態を生み出している社会的、経済的、文化的背景との関係から理解することを目的とする。また、講義では、具体的な事例を通して空間デザインの理論と方法論を学び、情報化や環境に配慮した空間デザインなど現代社会特有の試みも合わせて紹介し、今後の可能性を展望する。
到達目標	空間デザインを社会的、経済的、文化的背景との関係から考察し、論理的に説明することができる。
授業方法と留意点	主にスライドを用いて講義を行う。各回の講義の終わりに、ワークシートを配布し、テーマや講義内容に関する気づきや考え、そしてそれらを踏まえてこれから取り組むことについて、記述を求める。レポート課題について、進め方の目安や評価の指標を出題時に示す。グループに分かれてプレゼンテーションを行う時間も設ける。
科目学習の効果(資格)	空間・建築・都市に対する自らの考え方を形づくり、設計・表現活動へ展開する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	機能と形態(1)	機能と形態との関係を軸に空間デザインのあり方を考察する	教科書 pp. 72-73
3	機能と形態(2)	機械をモチーフとした空間デザインのあり方を考察する	教科書 pp. 66-67
4	機能と形態(3)	生物をモチーフとした空間デザインのあり方を考察する	教科書 pp. 140-141
5	近代の解体と継承(1)	時間との関わりから空間デザインのあり方を考察する	教科書 pp. 182-183 及び pp. 186-187
6	近代の解体と継承(2)	場所との関わりから空間デザインのあり方を考察する	教科書 pp. 168-169 及び pp. 202-203
7	近代の解体と継承(3)	現代建築に潜むモダニズムとの相同性から空間デザインのあり方を考察する	教科書 pp. 204-205
8	中間まとめ	中間まとめとレポート・プレゼンテーション	レポート課題(1)の提出。受講前にはそのプレゼンテーションの準備も進めておくこと
9	近代の解体と継承(4)	モダニズムとの相同性に関してケーススタディを試みるー(その1)表層	教科書 pp. 30-31 及び pp. 126-127
10	近代の解体と継承(5)	モダニズムとの相同性に関してケーススタディを試みるー(その2)組み立て	教科書 pp. 46-47 及び pp. 82-83
11	近代の解体と継承(6)	モダニズムとの相同性に関してケーススタディを試みるー(その3)プログラム	教科書 pp. 192-193
12	持続可能な社会へ(1)	近現代建築の保存・再生の理論と手法から空間デザインのあり方を考察する	教科書 pp. 222-223
13	持続可能な社会へ(2)	環境意識の変化との関係から空間デザインのあり方を考察する	教科書 pp. 216-217
14	持続可能な社会へ(3)	情報技術の発達との関係から空間デザインのあり方を考察する	教科書 pp. 218-219
15	まとめ	全体のまとめとレポート・プレゼンテーション、今後の展望を考察する	レポート課題(2)の提出。受講前にはそのプレゼンテーションの準備も進めておくこと

関連科目 西洋建築史、日本建築史、近代建築史、設計演習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マトリクスで読む 20 世紀の空間デザイン	矢代真己、田所辰之助、濱崎良実 著	彰国社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	テキスト建築の 20 世紀	本田昌昭、末包伸吾編著	学芸出版社
2	テキスト建築意匠	平尾和洋、末包伸吾編著	学芸出版社
3			

評価方法(基準) レポート課題(1)(30%)、レポート課題(2)(40%)、各回の授業中に行うワークシート(30%)の合計点により評価する。なお、いずれかのレポートが期限内に提出されない場合、あるいは、公欠などの正当な理由が示されることなく、未提出のワークシートが4つとなった場合、その時点以降の提出物は評価しない。

学生へのメッセージ 空間・建築・都市をつくる設計の論理を、より深くより広く捉えようとする意欲のある人に向けた講義です。これからの社会に対していかなる課題を構想し設定するか、そして、いかなるかたちにより現実化するかをめぐって、頭と手を動かす機会になれば嬉しいです。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 ●事前学習：事前事後学習課題欄に示した教科書の範囲について、毎回1時間以上の時間をかけて、全体の構成を捉えたり、個々の用語や事例を調べたりして、内容の理解に取り組むこと。
●事後学習：講義を通じて気づいたことや考えたことについて、毎回1時間以上の時間をかけて、資料を探したり、設計・表現活動への展開を試行錯誤したりして、学びを深めること。
●応対等：質問等は授業時間中に、または、配付するワークシートを用いて対応する。また、ワークシート及びレポート課題に対するフィードバックは、授業時間中に、または、提出物の返却をもって対応する。

科目名	現代作品論	科目名(英文)	Issues in Modern Architecture
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	竹内 正明
ディプロマポリシー(DP)	F◎		

授業概要・目的	建築を取り巻く状況は常に大きく変貌し続けている。戦後の日本においても、目まぐるしい社会変動に翻弄されるかのように建築は移り変わってきた。そのなかで建築家たちは、テクノロジーの発展、ライフスタイルの変化など、人びとの価値観を揺るがす「時代の意思」を鋭敏に読み取り、それを建築作品に反映させようと多くの試みをおこなってきた。そして、このような先達の試みは現在第一線で活躍している建築家たちに多くの示唆を与えている。 この授業の目的は、現代建築の潮流のなかでターニングポイントとなった作品やプロジェクト案、コンペティション案を振り返りつつ議論することで、現代における建築と建築家のあり方を学ぶことにある。
到達目標	1. 建築を取り巻く状況を把握するために必要な基礎知識を習得すること 2. 自らの視点で建築について評価し、それを言語化できるようになること
授業方法と留意点	現代建築のターニングポイントとなったトピックスを取り上げ、その象徴となる建築作品について図面や写真を用いて解説する。また、建築作品について自分で考える能力を養うためのディスカッションを授業内にて随時おこなう。活発な議論を展開するために、授業で扱う各トピックスに関連する内容を参考書などで事前に調べてから受講すること。
科目学習の効果(資格)	現代社会における建築や建築家の役割についての理解力を高めるとともに、建築や都市空間に対する批評力を培う。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	長屋の実践と建築ストックの活用	建築ストックの活用は、人口減少社会における重要なテーマのひとつである。大阪長屋の耐震改修工事の事例を紹介しながら、建築ストック活用の実情について解説する。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
2	風景としての建築	ランドスケープにおけるひとつの要素として風景に溶け込む建築。場所の特性を活かした建築作品を検証し、建築における場所性のあり方について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
3	表層の建築表現	環境との関係性のなかで表層的な意匠を重視した建築が生み出された。このような建築作品を検証し、環境のなかでの建築のあり方について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
4	アートと建築	極限まで研ぎすまされたミニマムな建築表現。現代美術の領域から広がったスーパーフラットという概念。同時代的なアートの領域と連動する建築作品を検証し、建築と芸術の関係性について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
5	脱構築からプログラム論へ	1980年代には脱構築の理論が、1990年代にはプログラム論が建築界を席卷した。これらの理論に基づく建築作品を検証し、既成のプログラムを組み直すことの建築的意義について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
6	道標としての近代建築	近代建築の巨匠であるル・コルビュジェとミース・ファン・デル・ローエ。彼らの建築作品を検証し、日本における近代建築の継承とその意味について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
7	伝統性と地域主義	近代建築の新たな地平として出現した地域主義的建築。その中心となった建築作品を検証し、近代建築にどのような形で地域性が加味されていたのかを学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
8	中間レポートの発表と講評	提出した中間レポートの発表および講評をおこなう。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
9	日本の住まいとモダンリビング	清家清、増沢旬らによって模索された戦後日本の小住宅。その革新性の中心となった建築作品を検証し、現代住宅に多大な影響をもたらすモダンリビングという概念について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
10	未来都市のイメージ	1960年代に一世を風靡したメタボリズムやアーキグラム。彼らが描いたプロジェクト案を検証し、未来都市を提起するという可能性とその限界について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
11	建築の解体という手法	磯崎新が提言した「建築の解体」という概念を手がかりに1970年代の建築作品を検証し、近代主義建築の枠を超える新しい試みとして実践された建築手法について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
12	野武士と称された建築家	1970年代に頭角を現した安藤忠雄や伊東豊雄といった革新的な若手建築家たち。「平和な時代の野武士たち」と称された彼らの初期作品を検証し、現代の日本建築界をリードする建築家たちが若き日に描いた建築について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
13	建築表現におけるテクノロジーの系譜	1970年代後半から80年代前半にかけて流行したハイテク建築。この検証を通して、時代を越えて繰り返し現れるテクノ	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。

			ロジエの建築表現について学ぶ。																	
	14	リノベーションという方法	建築に新たな役割を与えて生まれ変わらせるリノベーションという手法。リノベーションによる建築作品を検証し、建築ストックの活用という現代社会の大命題に対する建築的アプローチについて学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。																
	15	まとめ	戦後日本の建築事情を整理し、現代における建築と建築家のあり方を学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。																
関連科目	西洋建築史、近代建築史、設計演習など																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>カラー版 図説 建築の歴史</td> <td>西田雅嗣・矢ヶ崎善太郎 編著</td> <td>学芸出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	カラー版 図説 建築の歴史	西田雅嗣・矢ヶ崎善太郎 編著	学芸出版社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	カラー版 図説 建築の歴史	西田雅嗣・矢ヶ崎善太郎 編著	学芸出版社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>テキスト 建築の20世紀</td> <td>本田昌昭・末包伸吾 編著</td> <td>学芸出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	テキスト 建築の20世紀	本田昌昭・末包伸吾 編著	学芸出版社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	テキスト 建築の20世紀	本田昌昭・末包伸吾 編著	学芸出版社																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	中間レポート (30%)、期末試験(50%)、授業への積極的関与および質問への回答(20%)によって総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	図面を読み込み、各時代のエッセンスを感じてください。建築家たちの鋭敏な感性は、今という時代を読み解くうえでのヒントになります。																			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																			
備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む																			

科目名	建築環境工学 I	科目名 (英文)	Architectural Environmental Engineering I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	宮本 征一
ディプロマポリシー (DP)	F◎		

授業概要・目的	快適な建築空間を構築するには、熱環境・光環境・空気環境・音環境の概略を理解し、知識を深める必要がある。具体的には、日照の問題、伝熱・結露、換気の必要性、通風計画、照明計画、音響計画と騒音対策などについて学習する。
到達目標	人体や建物を取り巻く多くの環境について考えることで、建築環境に関する理解を深め、建築環境工学に関する基礎知識を身につける。
授業方法と留意点	授業テーマに関して、日頃から問題意識を持って生活することが望ましい。授業中に課題を課すため、毎回出席すること。
科目学習の効果 (資格)	一級・二級建築士資格取得のために必須である。その他、カラーコーディネーター、色彩検定、インテリアコーディネーターなど。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	熱環境 気候	都市や建築室内の熱環境を左右する気候 (気温、湿度、風、雨と雪) について理解を深める。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
3	熱環境 室内気候	人体の生理心理反応と温熱要素、温熱環境指標について理解を深める。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
4	熱環境 伝熱	伝熱の基礎を理解して、熱貫流、断熱性能、蓄熱性能などと温熱環境との関係を理解する。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
5	熱環境 結露	結露の発生とその害について理解して、結露防止の対策を考える。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
6	空気環境 室内空気質	室内空気質を左右する汚染物質について理解を深める。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
7	空気環境 換気と通風	室内空気環境を改善するための換気や温熱環境を改善するための通風について理解を深める。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
8	熱・光環境 日照と日射と建築計画	日照の効果を理解して、太陽の位置 (高度・方位) について理解を深める。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
9	熱・光環境 日影の検討と日照の調整	日影曲線、日照図表、太陽位置図などの使用方法を理解して、日射・日照の調整について理解を深める。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
10	光環境 採光	測光量と見やすさについて理解を深めて、採光計画について理解する。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
11	光環境 照明	人工光源の種類と照度基準について把握して、光束法による照明計算による照明計画を理解する。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
12	光環境 色彩	色彩について建築空間に対する心理的・生理的效果などを理解する。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
13	音環境 音の性質	音の基本的な性質について理解して、遮音と吸音について理解する。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
14	音環境 音響計画	騒音と振動、音響について理解を深める。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
15	復習	講義ノートに書かれている重要な語句を中心に理解を深める。	事前学習は、今までの講義ノートを読み直すこと。事後学習は、重要な語句について理解を深めること。

関連科目	建築環境工学II・建築環境工学III・建築環境工学演習・建築設備学
------	-----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	環境工学教科書	環境工学教科書研究会	彰国社

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	期末試験 (60%) の成績と授業中の課題 (40%) とで総合的に評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	受身の態度でなく、自ら考えながら積極的に授業に参加してください。教科書の図表を参照したりしますので持参し、予習・復習を心がけてください。
-----------	--

担当者の研究室等	宮本教授室
----------	-------

備考	事前学習 (授業テーマの内容が記述している部分を教科書で探して読む) は、20 分以上してください。事後学習 (授業で示した教科書の部分を読み、理解を深める) は、70 分以上してください。
----	---

科目名	建築環境工学Ⅱ	科目名(英文)	Architectural Environmental Engineering II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	宮本 征一
ディプロマポリシー(DP)	F◎		

授業概要・目的	熱環境分野、および空気環境分野の専門的内容を学習する。いずれも人間の生理的・心理的反応に着目しながら、建築計画に際して知っておくべき基本的要件と、解析法・測定法や評価法について理解を深める。
到達目標	熱環境と空気環境に関して、問題点とそれに対する改善策や設計計画への応用が考えられる知識を得ることとする。
授業方法と留意点	教科書に沿った授業を行うため、教科書は必ず持参すること。
科目学習の効果(資格)	一級・二級建築士資格取得のために必須である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	風土と暮らしと建築環境	南北に長い日本の風土を知り、その風土に適し建築物が、どのように造られてきたのかを把握する。	事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
2	建築環境制御と地球・都市環境との関係	建築環境を快適に保つための建築部材や建築環境の制御についてを把握し、地球・都市環境との関わりについて大まかに把握する。	事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
3	温度と熱の移動(1)	熱移動の基本原理解である熱伝導と熱対流についての基本的な知識を身につける。	事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
4	温度と熱の移動(2)	熱移動の基本原理解である熱放射と熱貫流についての基本的な知識を身につける。	事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
5	熱貫流・熱負荷の演習	一級建築士レベルの熱貫流や熱負荷についての計算問題を解きながら、知識を身につける。	事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
6	断熱・気密と結露/人間の生理心理反応	結露のメカニズムについての基本的な知識を身につける。また、人間の生理・心理反応について把握する。	事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
7	温熱環境(1)	人間の体温調節機能と熱環境、熱環境を評価するため測定法を把握する。	事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
8	温熱環境(2)	人間の体温調節機能と熱環境、熱環境を評価するための温熱環境指標について専門知識を身につける。	事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
9	太陽の動き	日射・日照についての基礎知識を身につけて、熱環境の視点からの日射の利用と遮蔽について理解する。	事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
10	換気と汚染濃度	流体力学の基礎及び換気力学についての基本的な知識を身につける。	事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
11	重力換気・風力換気	重力換気と風力換気の原理について理解するとともに、換気計算手法についての知識を身につける。	事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
12	室内の温度分布と換気計画	気流の流れについて大まかに把握して、温度分布をイメージする。換気設備について基本的な知識を身につける。	事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
13	通風計画/気密性能と換気	通風による温熱環境の改善について基礎的な知識を身につける。また、気密性能などについて基礎的な知識を身につける。	事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
14	重力換気・風力換気の演習	一級建築士レベルの熱貫流や熱負荷についての計算問題を解きながら、知識を身につける。	事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
15	復習	復習問題を実施し、理解不十分な箇所の補足解説を行う。	解けない復習問題があれば、教科書を見るなどをして、解けるようにすること。

関連科目 建築環境工学Ⅰ・建築環境工学演習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	環境工学教科書	環境工学教科書研究会編著	彰国社

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準) 期末試験(70%)と授業中に実施する演習など(30%)とで総合的に評価する。

学生へのメッセージ 講義には毎回必ず教科書を持参し、自宅学習でも教科書を用いて予習・復習を心がけてください。

担当者の研究室等 宮本教授室

備考 事前学習は、45分以上してください。事後学習は、45分以上してください。暗記をするのではなく、理解するようにしてください。

科目名	建築環境工学Ⅲ	科目名(英文)	Architectural Environmental Engineering III
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	原 直也
ディプロマポリシー(DP)	F◎		

授業概要・目的	[授業概要・目的] 健康で快適な生活を営む上で、重要な役割を果たす様々な環境要因の中で、日照・日射、光環境と音環境に着目して、それらと人間の生理的・心理的反応との関係を理解するとともに、建築計画や設計に際して、承知しておくべき基本的要因と、計画・設計の結果として得られる状況の解析法や評価法についての理解を深める。
到達目標	日照、光環境と音環境について、建築計画や設計において必要な基礎知識を身につける。
授業方法と留意点	講義による授業を行う。講義のストーリーは教科書とは異なり、一部教科書に無い内容を含む。教科書との参照を付記しながら講義を進める。日常生活で経験する日照・日射、光環境と音環境に関する種々の事柄に関心を持つように心掛ける。
科目学習の効果(資格)	一級、二級建築士の学科試験の受験において、必要不可欠な最低限の知識を習得できる。インテリアコーディネーター、インテリアプランナー、照明士などの資格取得に有効である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	太陽の動きと日照	居住環境における太陽エネルギーの効果、太陽の運行と位置の表示と算定法、時刻の表現	指定教科書 (I17, I18) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
2	太陽放射と昼光光源	日照検討の項目・内容、日影曲線・太陽位置図・日照図表による検討	指定教科書 (II10.1, III2.1) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
3	視覚と表色、色彩の効果	視環境の構成、目の構造・機能、表色系、色彩、色彩の効果	指定教科書 (III1.1, III3) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
4	測光量と視環境要件	光の量、基本測光量、見やすさ、明るさ・視野の輝度分布	指定教科書 (II2.2, 1.3) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
5	視環境要件と照明基準	グレア、光色と演色、光の方向性と立体感、照明基準	指定教科書 (III1.3) を参考に知った予習と、講義内容の復習を行なうこと
6	測光量の相互関係	点光源による照度、物体表面での光の反射、輝度の算定	指定教科書 (III2.2, 2.4) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
7	照明計算	面光源による照度、立体角投射率の算定、間接照度の算定	指定教科書 (III.2.4) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
8	室内視環境設計	照明の変遷、光源の特性、発光原理とランプ、照明用光源の特性、人工照明設計の方法、昼光光源の種類と特徴、昼光照度、昼光率、採光計画	指定教科書 (III1.4-6, 2.1, 2.3) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
9	聴覚と音環境	聴覚生理、聴覚心理、音環境計画の構成、建物の用途と着眼点	指定教科書 (V1, V3.1) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
10	音波と音響レベル	音波とその性質、音の実用単位	指定教科書 (V2) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
11	騒音レベルと音の伝播	音響レベルの合成と、等ラウドネス曲線、周波数補正、音の伝搬過程	指定教科書 (V9) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
12	音響エネルギーの伝播	距離減衰、回折減衰、空気の吸収減衰、音響エネルギーの反射、吸収、透過と吸音	指定教科書 (V4) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
13	騒音制御と遮音	遮音の性能表示、遮音の機構と特性、二重構造の遮音性能	指定教科書 (V7) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
14	室内音響と吸音	室内音場の特徴、吸音の機構と吸音特性、拡散音場、残響時間	指定教科書 (V5, 6) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
15	音響の評価と設計	最適残響時間、室内音響指標	指定教科書 (V.8) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと

関連科目	建築環境工学Ⅰ、建築環境工学演習
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	環境工学教科書第二版	環境工学教科書研究会編著	彰国社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	期末試験(100%)
----------	------------

学生へのメッセージ	日常的な生活環境で観察可能な現象を科学的に取り扱う学問である。講義内容を知識として修得するだけでなく、生活環境の工学的な取り扱うための考え方を身につけてもらいたい。
-----------	--

担当者の研究室等	なし
----------	----

備考	事前学習・事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む
----	---------------------------------------

科目名	建築環境工学演習	科目名(英文)	Exercises in Architectural Environmental Engineering
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	宮本 征一、北本 裕之、中嶋 麻起子
ディプロマポリシー(DP)	F◎		

授業概要・目的	建築環境工学Ⅰ、建築環境工学Ⅱ、建築環境工学Ⅲで学んだ知識を基に、実務に沿った状況を想定した課題に取り組むことによって、理論と知識の理解を深める。具体的な数値を用いた演算処理を通して、各種の演算式の意味内容の理解や処理結果の考察などの実務対応能力の向上を図ることを目的とする。
到達目標	演習を通して、適正な建築環境の実現、ひいては、合理的な建築計画の実施に資する素養を身に着ける。
授業方法と留意点	課題と資料を配布し、課題の要点を解説を行った後、課題に取り組み、授業終了時に成果物を提出する。各課題におけるキーワードについての予習と復習を欠かさぬこと。また、熱環境、光環境、音環境の測定を通して理解を深めること。
科目学習の効果(資格)	建築の環境工学、建築設備の実務において、処理すべきさまざまな課題に対する解決能力が身につく。また、一級、二級建築士の学科試験の取り組みにおいて、学習契機の形成や学習意欲の向上を図ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	日照の検討	日影曲線図を活用して、検討建物の日影図を描き、日影の面積を算定する。また、検討建物の天球上の射影図を描き、太陽位置図を活用して、日影となる時間帯を求める。	キーワード【赤緯、時角、真太陽時、日影曲線図、太陽位置図、日影の範囲、日影の時間帯】の理解を深める
2	熱環境測定計画	温度と湿度を測定する機器を用いて熱環境の測定を行うための計画を立案する。そして、測定を開始する。	
3	熱移動の基礎	伝導、対流、放射による熱移動形態の違いを理解し、壁体の各部位および、壁体全体を流れる熱量の算定式を誘導する。この算定式を活用して、断熱処理の効果を検討する。	キーワード【伝導、対流、放射、熱伝導率、熱伝達率、熱貫流率】の理解を深める
4	結露の検討	多層壁体内部の温度および、絶対湿度(水蒸気分圧)の分布を求め、表面結露、内部結露の判定を試みる。また、断熱材、防湿材の位置と結露の発生の関係を考察する。	キーワード【飽和水蒸気分圧、露点温度、表面結露、内部結露】の理解を深める
5	熱環境測定分析	熱環境測定計画で計画して測定したデータを分析する。目的通りに測定できたかを確認する。	
6	昼光率分布の検討	矩形の高窓を持つ室の床面上の検討点における直接昼光率(立体角投射率)を、計算式及び、計算図表により算定し、床面の格子点の値に基づいて昼光率の分布図を作成する。	キーワード【立体角投射率、昼光率】の理解を深める
7	人工照明の設計	光の量を表現する諸量の関係を理解した上で、点光源で照らされた紙面の輝度を算定する。また、製図室を蛍光灯器具で照度基準を充足するように照明する場合の器具配置計画を試みる。	キーワード【光束、光度、照度、輝度、照度基準、照明率、保守率、室指数】の理解を深める
8	光環境測定	照度計を用いて、教室の照度分布を測定する。昼光のみ、人工照明のみ、昼光+人工照明の場合の差異を考察する。	
9	換気の検討の基礎	室内汚染質の発生量と換気量を各種の組み合わせの場合の、汚染質濃度の変化過程を算定する。また、ベルヌーイの式を理解し、開口部の圧力損失と流量の関係を誘導する。	キーワード【汚染質濃度、換気量、換気回数、ベルヌーイの式、圧力損失】の理解を深める
10	換気量の検討	空気流量の算定式に基づいて、複数開口を持つ室の相当開口面積を算定する。また、重力換気と風力換気が複合する場合について、2つの開口を持つ室の換気量を算定する。	キーワード【開口部流量、流量係数、圧力差、重力換気、風力換気】の理解を深める
11	騒音レベルの検討	周波数特性が既知の電車騒音の距離減衰と回折減衰を考慮して、住居の窓前における騒音レベルを予測する。	キーワード【音圧レベル、周波数帯域、距離減衰、回折減衰、聴感補正、騒音レベル】の理解を深める
12	残響時間の検討	内装仕上げの面積と吸音率が既知である、簡単な舞台と平土間の客席を持つ集会室の残響時間を予測する。	キーワード【残響時間、吸音率、吸音力】の理解を
13	音環境測定分析	騒音計を用いて、交通騒音を測定する。距離元帥について考察する。	
14	総合問題①	一級建築士試験の過去問から抽出した、環境工学及び設備に関する基本問題の解答を試みる。	これまでの講義、演習の内容の理解を深める
15	総合問題②	一級建築士試験の過去問から抽出した、環境工学及び設備に関する基本問題の解答を試みる。	これまでの講義、演習の内容の理解を深める

関連科目	建築環境工学Ⅰ、建築環境工学Ⅱ、建築環境工学Ⅲ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各課題に対する成果物で評価（成果物 100%）する。定期試験は実施しない。			
学生への メッセージ	受講に際して準備するもの：建築環境工学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの授業における教科書、配布資料、ノート、関数機能付き電卓、20cm 程度の三角定規1組、A4判レポート用紙			
担当者の 研究室等	宮本教授室			
備考	事前学習は、建築環境工学で使用した教科書やノートを見直すことを30分以上してください。 事後学習は、演習で解いた内容の理解を深めることを60分以上してください。			

科目名	建築関連法規	科目名(英文)	Architectural Regulations and Policy
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	笠井 精二
ディプロマポリシー(DP)	B◎		

授業概要・目的	<p>建築を志した者が、建築業界で活躍するためには建築関係業界の実態を知ることが大変重要である。そのため最新の建築社会情勢を、建築業界毎に整理し、最新情報を提供する。</p> <p>授業内容としては、建築社会のルールである「建築関連法」の説明を中心に、その解説及び運用について勉強する。</p> <p>また将来取得を目指す「一級建築士」の資格試験での「学科Ⅲ法規」の対策等を中心に勉強し、早期の取得を目指す。</p>
到達目標	<p>まず実社会に出て体験する「建築業界」について、各々の業界の概要を理解できる。</p> <p>「建築関連法規」を中心に、「建築法規」とは、どのようなものであるか理解し、各種の建築関係資格試験で問われる知識の習得ができる。</p>
授業方法と留意点	<p>主に、授業で配布するテキスト(資料等)を用いた授業方式とし、法律の背景や内容の解釈を中心に、実社会において、どのように運用されているか、できるだけ具体的な事例を通じて理解・習得する。</p> <p>なお授業終了後に理解度テストと簡単なレポートの提出を求る。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>まずは「二級建築士」資格の取得を目指し、実務経験を積んだ後に「一級建築士」の資格の取得を目指す計画の道筋を立てる。また建築関連業務で活躍できる基礎的な法律の知識を得ることにより、社会人としての常識の幅を広げる。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、総合的に見た建築業界の最近の動向について	理解度テストとレポート (授業へのアンケートや理解度チェック)
	2	建築業界の現状について	建築設計業界 建設業界 不動産業界 住宅業界 建築構造業界 建築設備業界 確認検査業界の実態等	理解度テストとレポート
	3	耐震改修促進法	耐震基準、耐震診断、耐震改修などについて 「建築物の耐震改修の促進に関する法律」などの概要について	理解度テストとレポート
	4	バリアフリー法	高齢者、障害者等の移動等の円滑化に関する法律の概要について	理解度テストとレポート
	5	省エネルギー法	住宅・建築物関係における省エネ措置を行う省エネルギー関連法の概要について	理解度テストとレポート
	6	建築士法	建築物の設計、工事監理等を行うことのできる資格の建築士法について	理解度テストとレポート
	7	建設業法	建築物の耐震改修の促進に関する法律などの概要について	理解度テストとレポート
	8	都市計画法	都市計画法設立の経緯及び概要及び都市計画の各種事業手法及び各種手続きについて	理解度テストとレポート
	9	宅地・土砂災害関係法	宅地造成等規制法、土砂災害防止法等の概要および技術的基準について	理解度テストとレポート
	10	景観行政について	良好な景観を形成するための「景観緑3法」などの概要について	理解度テストとレポート
	11	まちづくり関連法	まちづくり3法において、中心市街地の活性化などの概要について	理解度テストとレポート
	12	住宅品質確保法	住宅業界の実態と住宅の品質確保の促進に関する法律の概要について	理解度テストとレポート
	13	長期優良住宅普及促進法などストック対策について	ストック重視の長期優良住宅の普及の促進に関する法律などの概要について	理解度テストとレポート
	14	消防法	消防法に関する留意事項及び事例紹介について	理解度テストとレポート
	15	授業全体のまとめと、建築士試験について	授業全体のまとめとして、最も重要な点についての再確認するとともに、建築士資格試験の受験対策について	理解度テストとレポート (授業全体に対するアンケート)

関連科目
・建築基準法を中心とした『建築法規』 また、幅広い知識を得るため、『自然科学関連科目』ほもちろん『社会科学関連科目』での学習を通じ、社会の動き、経済の動きを知る。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築関係 法令集 平成30年度版	総合資格学院 編	総合資格学院
	2			
	3			

評価方法(基準)
定期試験 60%、毎回 授業の最後に行う理解度テスト20%、毎回提出するレポート20%の割合で評価する。

学生へのメッセージ
建築関連法規は、建築物を建てる際の絶対条件であり、設計する際にも、その道筋を示すものでもある。しかし、多岐にわたる建築関連法律は、その正確さを期すことから一読しても理解できないものが多い。しかし、その根本を知れば、常識的なもの

	の が 多 く あ る 。 そ こ ま で の 道 筋 を 自 ら の 知 識 と し て 知 っ て ほ し い 。
担 当 者 の 研 究 室 等	7 号 館 2 階 非 常 勤 講 師 室
備 考	最 新 の 建 築 業 界 の ト ピ ク ス を 、 授 業 の 中 で 取 り 上 げ 問 題 点 な ど を 整 理 す る 。 毎 回 の 理 解 度 テ ス ト や レ ポ ー ト を 提 出 し て 授 業 の 理 解 を 深 め る 。 事 前 ・ 事 後 学 習 欄 に 示 し た 内 容 に つ い て 、 毎 回 1.5 時 間 以 上 か か け て 取 り 組 む

科目名	建築企画	科目名(英文)	Management of Architectural Projects
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	生川 慶一郎
ディプロマポリシー(DP)	F◎		

授業概要・目的	<p>「建築企画」とは「建築に関する事業において、なすべき仕事のイメージを描き、全体的または細部にわたる構想を練って取りまとめた提案およびそれに至る過程」と定義される(出典:建築企画事典)。近年、建築に関する事業は、その計画敷地で完結することなく、周辺地域や都市と関係性が問われており、さまざまな経済活動、まちづくりとの連携も重要となっている。</p> <p>本講義では、「建築企画」に伴う事業主体のあり方に始まり、継続的な協議体制の確立や多様な財源の確保、事業・取り組みの優先順位やその決定プロセスなど、都市が抱えている課題の解決に資する知見について学習する。</p>																																																																		
到達目標	<p>①都市が抱えている多岐にわたる課題に関する包括的な理解を深める。 ②具体的な「建築企画」の提案発表を通じて、事業実施に関する実践的な理論・手法・技能について習得する。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>①景観まちづくり、②地域まちづくり、③空家の利活用促進、④防災・減災まちづくり、⑤まちなか観光、⑥里山再生・農ある暮らし、⑦繁華街の安全・安心、⑧地域福祉、⑨団地マネジメント、⑩市街地住宅の再生、⑪地域住宅計画、以上11テーマを取り上げ、実例を通じた課題解説とそれに対する「建築企画」の提案発表を行う。また、参加型のワークショップを2回実施し、議論を深化させる実践的なアプローチを試みる。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	特になし																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>都市再生分野で求められる建築企画</td> <td>都市再生・まちづくりの経緯と現状</td> <td>都市・住宅政策</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>テーマ1 京都の景観まちづくり</td> <td>保全再生される京町家、地域で取り組む景観づくり</td> <td>京町家再生プラン 21</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>テーマ2 地域まちづくり</td> <td>地域コミュニティの再生</td> <td>パートナーシップ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テーマ3 空家の利活用流通促進</td> <td>六原学区における空家活用まちづくり</td> <td>都市部において急増する空家の現状とその発生要因</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>テーマ4 防災・減災まちづくり</td> <td>災害後応急対策と事前対策</td> <td>3・3・3の原則、住まいの耐震化</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ワークショップ【発表】</td> <td>自分の気にいる都市景観を提出し、その選定および評価について発表</td> <td>都市に対する観察眼を養う</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>テーマ5 まちづくり観光</td> <td>長崎さるく博、歩いて暮らせるまちづくり、くらしそ京都の取組</td> <td>まちなか交通戦略、まちづくり観光</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>テーマ6 農ある暮らし</td> <td>木津中央地区におけるニュータウン開発、中間組織による地域コミュニティ育成</td> <td>里山再生の現状、</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>テーマ7 繁華街の安全・安心まちづくり</td> <td>廃校小学校を活用した文化・交流</td> <td>繁華街の抱える課題</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ワークショップ【発表】</td> <td>今日的な都市課題を考える</td> <td>課題解決に資する企画を提案</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>テーマ8 地域福祉</td> <td>地域包括ケアシステム、終の棲家</td> <td>少子高齢化で破綻する社会保障</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>テーマ9 団地マネジメント</td> <td>武庫川団地における団地マネジメント、行列ができる公的住宅団地</td> <td>公的住宅の現状と課題</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>テーマ10 市街地住宅の再生①</td> <td>京都府住宅供給公社堀川団地の再生ビジョン</td> <td>公的資産としての団地再生の現状と課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>テーマ10 市街地住宅の再生②</td> <td>京都府住宅供給公社堀川団地の再生ビジョン</td> <td>21世紀型の団地再生まちづくり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>テーマ11 地域住宅</td> <td>京都まちなかこだわり住宅、平成の京町家、震災復興住宅プロジェクト</td> <td>HOPE計画の趣旨とその限界</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	都市再生分野で求められる建築企画	都市再生・まちづくりの経緯と現状	都市・住宅政策	2	テーマ1 京都の景観まちづくり	保全再生される京町家、地域で取り組む景観づくり	京町家再生プラン 21	3	テーマ2 地域まちづくり	地域コミュニティの再生	パートナーシップ	4	テーマ3 空家の利活用流通促進	六原学区における空家活用まちづくり	都市部において急増する空家の現状とその発生要因	5	テーマ4 防災・減災まちづくり	災害後応急対策と事前対策	3・3・3の原則、住まいの耐震化	6	ワークショップ【発表】	自分の気にいる都市景観を提出し、その選定および評価について発表	都市に対する観察眼を養う	7	テーマ5 まちづくり観光	長崎さるく博、歩いて暮らせるまちづくり、くらしそ京都の取組	まちなか交通戦略、まちづくり観光	8	テーマ6 農ある暮らし	木津中央地区におけるニュータウン開発、中間組織による地域コミュニティ育成	里山再生の現状、	9	テーマ7 繁華街の安全・安心まちづくり	廃校小学校を活用した文化・交流	繁華街の抱える課題	10	ワークショップ【発表】	今日的な都市課題を考える	課題解決に資する企画を提案	11	テーマ8 地域福祉	地域包括ケアシステム、終の棲家	少子高齢化で破綻する社会保障	12	テーマ9 団地マネジメント	武庫川団地における団地マネジメント、行列ができる公的住宅団地	公的住宅の現状と課題	13	テーマ10 市街地住宅の再生①	京都府住宅供給公社堀川団地の再生ビジョン	公的資産としての団地再生の現状と課題	14	テーマ10 市街地住宅の再生②	京都府住宅供給公社堀川団地の再生ビジョン	21世紀型の団地再生まちづくり	15	テーマ11 地域住宅	京都まちなかこだわり住宅、平成の京町家、震災復興住宅プロジェクト	HOPE計画の趣旨とその限界
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	都市再生分野で求められる建築企画	都市再生・まちづくりの経緯と現状	都市・住宅政策																																																																
2	テーマ1 京都の景観まちづくり	保全再生される京町家、地域で取り組む景観づくり	京町家再生プラン 21																																																																
3	テーマ2 地域まちづくり	地域コミュニティの再生	パートナーシップ																																																																
4	テーマ3 空家の利活用流通促進	六原学区における空家活用まちづくり	都市部において急増する空家の現状とその発生要因																																																																
5	テーマ4 防災・減災まちづくり	災害後応急対策と事前対策	3・3・3の原則、住まいの耐震化																																																																
6	ワークショップ【発表】	自分の気にいる都市景観を提出し、その選定および評価について発表	都市に対する観察眼を養う																																																																
7	テーマ5 まちづくり観光	長崎さるく博、歩いて暮らせるまちづくり、くらしそ京都の取組	まちなか交通戦略、まちづくり観光																																																																
8	テーマ6 農ある暮らし	木津中央地区におけるニュータウン開発、中間組織による地域コミュニティ育成	里山再生の現状、																																																																
9	テーマ7 繁華街の安全・安心まちづくり	廃校小学校を活用した文化・交流	繁華街の抱える課題																																																																
10	ワークショップ【発表】	今日的な都市課題を考える	課題解決に資する企画を提案																																																																
11	テーマ8 地域福祉	地域包括ケアシステム、終の棲家	少子高齢化で破綻する社会保障																																																																
12	テーマ9 団地マネジメント	武庫川団地における団地マネジメント、行列ができる公的住宅団地	公的住宅の現状と課題																																																																
13	テーマ10 市街地住宅の再生①	京都府住宅供給公社堀川団地の再生ビジョン	公的資産としての団地再生の現状と課題																																																																
14	テーマ10 市街地住宅の再生②	京都府住宅供給公社堀川団地の再生ビジョン	21世紀型の団地再生まちづくり																																																																
15	テーマ11 地域住宅	京都まちなかこだわり住宅、平成の京町家、震災復興住宅プロジェクト	HOPE計画の趣旨とその限界																																																																
関連科目	特になし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	小テスト(適宜)30%、2回のワークショップに関する提案内容10%、および最終試験(記述式筆記試験)60%により評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	都市再生・まちづくり分野に興味を持ち、積極的な議論を望む学生を求めます。																																																																		
担当者の研究室等	特になし																																																																		
備考	特になし 事前学習:事後学習欄に示した内容について、毎回1時間程度取り組む																																																																		

科目名	建築計画各論	科目名(英文)	Architectural planning and Building Types
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	木多 彩子, 柳沢 学
ディプロマポリシー(DP)	F◎		

授業概要・目的	[授業概要・目的] 建築計画各論は、人間の活動の受け皿としての空間を、その空間の使われ方(ビルディングタイプ)に応じて知見を整理する講義である。具体的には、利用者と使用者という二つの視点からみた「建物の使われ方」、文化的背景を踏まえた「規模計画」、近年注目されている具体的な実例などをとりあげる。
到達目標	[到達目標] 1)各種ビルディングタイプの特徴の理解 2)規模計画の基本的事項の把握 3)代表的な事例とプランタイプの理解
授業方法と留意点	講義全般において建築計画上の要点をおさえつつ、近年注目される建築事例を紹介します。Moodle を活用した資料提供を利用して、学生の皆さんも積極的に外に出て、講義で習った事項を実際の場所や空間で体験するようにしてください。
科目学習の効果(資格)	設計演習Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、Ⅲb、および卒業設計、さらに建築士試験において必要な基礎的知識を得られる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	建築計画とは何か	建築計画が教えること・教えないこと 建築計画各論の目的 生活圏とコミュニティ施設、プレテスト	予習課題(1)
	2	居住施設の計画 1	独立住宅の計画と実例	予習課題(2)
	3	居住施設の計画 2	集合住宅の計画(かたち、関係、しくみ)と実例	予習課題(3)
	4	居住施設の計画 3	集合住宅の計画(住宅地、住宅関連産業)と実例	予習課題(4)
	5	商業・業務施設の計画 1	店舗・SCの計画と実例	予習課題(5)
	6	商業・業務施設の計画 2	オフィス・駐車場の計画と実例	予習課題(6)
	7	商業・業務施設の計画 3	ホテル・宿泊研修施設の計画と実例	予習課題(7)
	8	中間テスト	第1回から第7回の学習内容習得状況の確認	試験対策
	9	学校・教育施設の計画	幼稚園・小学校の計画と実例	予習課題(8)
	10	社会・文化施設の計画 1	ホール・劇場の設計と実例	予習課題(9)
	11	社会・文化施設の計画 2	図書館の設計と実例	予習課題(10)
	12	社会・文化施設の計画 3	美術館の設計と実例	予習課題(11)
	13	医療・福祉施設の計画 1	病院の設計と実例	予習課題(12)
	14	医療・福祉施設の計画 2	ケーススタディ 福祉関連施設見学	予習課題(13)
	15	多様化するデザイン概念	建物再生、人々によるデザイン、未完成のデザイン	-----

関連科目 「建築計画基礎」、「構造力学・構造基礎」をあらかじめ修得しておくこと。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築空間計画	積田 洋 他	彰国社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 学期末試験成績(30%)、中間試験(30%)、復習・予習課題(40%)

学生へのメッセージ 色々な建物や街の環境を体験し、その場所の良さや価値(問題も含めて)が、空間・人・社会・使い方・歴史などによって、どのように成立しているかを考えることが重要です。建築計画で得た知識を元に、各自が体験し、読みとった場所を、復習・予習課題を通じて報告する機会を設けます。

担当者の研究室等 8号館3階 木多教授室

備考 事前学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回0.5時間以上かけて取り組み、授業開始時に課題を提出する

科目名	建築計画基礎	科目名(英文)	Introduction to Architectural Planning
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小林 健治・加嶋 章博
ディプロマポリシー(DP)	F◎		

授業概要・目的	建築の設計・計画の基礎知識と基本的技法等を実例を紹介しながら、講義する。建築士資格相当の設計・計画の基礎知識を修得することを目的とする。
到達目標	1) 建築計画に関する基礎知識の修得、2) 各種単位空間の計画知識の修得、3) 社会や時代に対応した人間的な建築を計画する基礎の理解、4) 建築と人間の関わりに関する重要な概念の理解、5) 建築を計画する上で必要なボキャブラリーを組み立てる基礎の理解、6) 建築計画に関する基本的技法の理解。
授業方法と留意点	配布資料を用いたノート講義形式です。スライドや板書等の資料を積極的にメモすることで知識の修得を行ってください。知識は建築や空間を実体験することでさらに理解が深まるので、積極的に建築や空間を体験してもらおう復習課題を課します。順番、内容は変更される場合があります。
科目学習の効果(資格)	設計演習Ⅰ、Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、Ⅲb、及び卒業設計、さらに建築士資格取得のための基礎知識を修得することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	建築の範囲(これまでの建築)	授業概要・目的・到達目標、専門関連科目との関係、講義の進め方、建築が扱ってきた範囲及び基本ボキャブラリー	予習課題
2	身近な環境における建築計画 1	住宅における単位空間	復習または予習課題
3	身近な環境における建築計画 2	公共施設における単位空間	復習または予習課題
4	日常の生活を支える建築計画 1	建築の機能性、経済性	復習または予習課題
5	日常の生活を支える建築計画 2	建築の安全性、耐久性	復習または予習課題
6	人間と建築の関係からみた建築計画 1	建築の快適性、更新性	復習または予習課題
7	人間と建築の関係からみた建築計画 2	パーソナルスペース、テリトリー、人間の属性	復習または予習課題
8	中間試験・建築の寸法	形態とスケール、建築の秩序	復習または予習課題
9	屋外空間の生活とデザイン 1	人の居方・アクティビティ	復習または予習課題
10	屋外空間の生活とデザイン 2	関係性のデザイン	復習または予習課題
11	建築の技法 1	敷地、計画目標、イメージ、フィールドサーヴェイ	復習または予習課題
12	建築の技法 2	平面計画、断面計画、ファサードデザイン	復習または予習課題
13	建築の構成 1	建築の構法	復習または予習課題
14	建築の構成 2	建築の一般構造	復習または予習課題
15	建築の範囲(これからの建築)	計画を伝えるための技法や手法、建築が扱わなければならない範囲	復習または予習課題

関連科目 設計演習Ⅰ、Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、Ⅲb、建築計画各論、構造力学・構造基礎など

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会編	丸善株式会社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	建築計画	長澤泰編著、塚礼子、西出和彦著	市ヶ谷出版会
2	(新版) 建築計画Ⅰ	岡田光正、柏原士郎、森田孝夫、鈴木克彦著	鹿島出版会
3	初めての建築設計ステップ・バイ・ステップ	川北健雄、三上晴久、倉知徹、水島あかね、花田佳明著	彰国社

評価方法(基準) 中間試験と期末試験(併せて70%)、予習・復習課題(30%)とする。

学生へのメッセージ 建築を学ぶためには、自分が経験、体験することが必要です。講義で紹介した視点を思い出しながら、その場所で建築が生み出している場所の質を観察してください。また幅広く本を読み、各種メディアにアンテナを張るようにしてください。

担当者の研究室等 8号館3階 小林講師室

備考 事前学習: 内容に記載した事柄について毎回0.5時間以上取り組む。
事後学習: 講義した事柄について身近な環境におきかえて毎回0.5時間以上取り組む。

科目名	建築材料 I	科目名 (英文)	Building Materials I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柳沢 学, 木多 彩子, 山田 知輝
ディプロマポリシー (DP)	H◎		

授業概要・目的	[授業概要・目的] 建築材料には、建物の柱、梁、床、耐力壁、基礎など建物の骨組を構成する構造材料がある。これらの材料を使用して建築物を設計する時、あらかじめ材料の長所、短所あるいは材質など基礎的知識と応用を熟知し適材を適所に用いる方法を間違えないことが大切である。
到達目標	[到達目標] 1) 建築材料で用いる用語を理解し利用できる 2) フレッシュコンクリートの性能を理解し調査設計ができる 3) 硬化コンクリートの性能を理解し構造設計に適用できる 4) 鋼材の種類および性能を理解し利用できる
授業方法と留意点	教科書を中心とした講義とするが、事前に反転授業 (Web 事前講義・Web 小テスト) を受けてくる方法をとることがある。グループで課題をまとめて発表することもある。能動的学習用に Web による全小テストも用意している。事前・事後学習、授業中の積極的 (能動的) な参加を期待する。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士および二級建築士学科試験の「構造」および「材料・施工」部門に関係する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	セメント 概説	種類と製法 諸性質	教科書 p 6～p 12
3	コンクリート 1 特徴 構成材料	セメント 水 骨材 各種コンクリート	教科書 p 12～p 19, p 45～p 48
4	コンクリート 2 混和材料	AE 剤 減水剤 AE 減水剤 混和材	教科書 p 19～p 20
5	コンクリート 3 コンクリートの調合	調合設計の目標・手順 調合強度 スランプ値 水セメント比 単位水量 単位セメント量 細骨材率 空気量 混和材料 計画調合の表し方	教科書 p 33～p 45
6	コンクリート 4 フレッシュコンクリートの性質	ワーカビリティ スランプ 空気量 材料分離 コールドジョイント	教科書 p 20～p 23
7	コンクリート 5 硬化したコンクリートの性質	コンクリートの強度 強度理論 コンクリートの圧縮強度に及ぼす要因	教科書 p 24～p 28
8	コンクリート 6 コンクリート強度	強度試験方法と各種強度 力学的性質	教科書 p 24～p 28
9	コンクリート 7 コンクリートの耐久性	中性化 塩害 アルカリ骨材反応	教科書 p 28～p 33
10	コンクリート 8 コンクリート製品	プレキャストコンクリート プレストレストコンクリート コンクリートブロック ALC パネル	教科書 p 48～p 57
11	金属 1 鉄類 製鉄と加工・成形	製鉄 圧延	教科書 p 58～p 60
12	金属 2 炭素鋼の性質・種類	物理的性質 機械的性質 熱的性質 熱処理 構造用鋼材の種類	教科書 p 60～p 64
13	金属 3 炭素鋼以外の鉄類、鉄類以外の金属、金属の腐食とその防止	鋳鉄 合金鋼 銅とその合金 アルミニウムとその合金 腐食 防食法	教科書 p 65～p 73
14	金属 4 金属製品	構造用材 形鋼 鉄筋コンクリート用棒鋼	教科書 p 73～p 82
15	全体 まとめ	全体的なまとめ	1 回～14 回の見直し

関連科目	鉄筋コンクリート構造 I, II 鋼構造 I, II 構造実験
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築材料 (第四版)	橋高義典, 杉山央	市ヶ谷出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Web による事前講義・Web 小テスト (25%) と、演習・レポートなど (25%)、定期試験 (50%) の割合で評価する。60%以上を合格とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	多くの建築材料の特性を知り、その使用用途や使用適正個所への判断を誤らないような知識の習得が重要である。主に構造材料に時間を割いている。はば広く知識を得ることを希望する。 授業中は私語を慎み、集中して授業内容の理解に努めて下さい。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館3階 柳沢教授室
----------	-------------

備考	Web 事前講義、Web 小テスト、Web 全小テスト、教科書や事前学習ノート・演習の見直しなどには1回あたり1.5時間以上かけること。
----	--

科目名	建築材料Ⅱ	科目名(英文)	Building Materials II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	高木 恭子
ディプロマポリシー(DP)	H◎		

授業概要・目的	建築物の構造材、仕上材ごとにその要求性能に応じた材料の長所・短所について学び、建物の設計、積算、施工といった過程を縦断する基礎的知識を得る。
到達目標	1) 建築物を構成する部位ごとにその要求性能から材料を選択する理由を説明することができる。 2) 木構造の構成と各部位における木材の長所・短所を理解する。 3) 1つの建築物を構成する材料について、数量や価格からその概要を知る。
授業方法と留意点	教科書及び配布資料を中心とした講義形式とし、課題として講義内容に応じた材料を図面から読みとる。各授業時の課題をまとめることで、最終レポートとしてまとめる。 課題作成に計算や図面の読み取りを行うので、三角スケールと計算機、色鉛筆(またはサインペン等図面に色分けができるもの)を持参すること。
科目学習の効果(資格)	一級・二級建築士資格取得のために必須である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 建物を構成する材料の種類	授業の目的と概要、評価基準と注意事項の確認。 建物各部の構成概要の説明。	予習：建築材料Ⅰの内容について復習しておくこと。 復習：課題となる建物の概要をまとめる。
2	木構造1：木材の概要	木の種類とその特徴	復習：住宅事例の使用木材をリストアップし、どのような種類がどのような部分に使用されているか、またその特性を確認する。
3	木構造2：木構造の構成	構造部材の名称1	復習：住宅事例の柱、梁、筋交い等構造に関わる部材を分類し、その数量と価格を確認する。
4	木構造3：下地材の構成	構造部材の名称2	復習：住宅事例の床、屋根、壁の下地材をリストアップし、その数量と価格を確認する。
5	木構造4：木構造に関するまとめ	木質材料の長所と短所	予習：木構造に関するレポートの作成し、その特性をまとめる。
6	構造材と内外装材の特性	住宅事例から確認した構造材・仕上材の特性。	予習：住宅事例の構造材及び下地材をまとめ、木構造に関わる価格を把握する。
7	外装材1：屋根材料(防水材)	屋根の機能と要求性能、屋根葺き材、屋根勾配と防水材	復習：住宅事例の屋根の仕上げ材をリストアップし、その数量と価格を確認する。
8	外装材2：外壁材料	外壁の機能と要求性能	復習：住宅事例の外装材をリストアップし、その数量と価格を確認する。
9	外装材3：開口部と接合材料(外部の開口部)	ガラス、枠材、シーリング材の要求性能	復習：住宅事例の外部開口部材をリストアップし、その数量と価格を確認する。
10	内装材1：開口部と接合材料(内部の開口部)	内部建具の要求性能	復習：住宅事例の内部建具をリストアップし、その数量と価格を確認する。
11	内装材2：床材料	床の機能と要求性能	復習：住宅事例の床材をリストアップし、その数量と価格を確認する。
12	内装材3：内壁・天井材	内壁・天井の機能と要求性能	復習：住宅事例の内壁材、天井材をリストアップし、その数量と価格を確認する。
13	内外装材に関するまとめ	非住宅事例から確認した構造材・仕上材の特性。	予習：非住宅事例の内外装材に関するレポートを作成する。
14	建築材料に関するまとめ1 (建物全体を構成する材料)	建物に関わるその他の材料について	復習：住宅事例の建物全体を構成する材料を確認する。
15	建築材料に関するまとめ2 (各材料の再利用と廃棄)	建物の廃棄までの流れと建材のリサイクルについて	復習：住宅事例の建物全体を構成する材料をまとめる。

関連科目 設計演習関連科目、建築材料Ⅱ、鉄筋コンクリート構造、鉄筋コンクリート構造Ⅱ、鋼構造Ⅰ、鋼構造Ⅱ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	建築材料 第四版	橘高義典、杉山央	市ヶ谷出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	初学者の建築講座 建築材料	橘高義典・小山明男・中村成春	市ヶ谷出版社
2	構造用教材	日本建築学会	丸善株式会社
3	積算ポケット手帳 建築編	建築資料研究社	建築資料研究社

評価方法(基準) 授業への積極的関与(30%)、ミニレポート(20%)、まとめレポート(50%)により総合的に判断する。

学生へのメッセージ 建築物には多くの材料が使用されています。それらを理解することは、建物の設計、積算、施工といった過程の具体的な把握へとつながると共に、材料の開発や選択する際の評価基準を検討する一指標となることと考えます。授業を通し、一つの建物を完成させていく過程の把握と、設計や環境、構造といった様々なテーマを材料を通して理解することを目指します。
主に木造とその仕上げ材料に関して学ぶので、建築材料Ⅰの学習内容はよく理解しておいて下さい。

担当者の研究室等 8号館3階 建築学科共通準備室

備考 事前事後学習で、該当する教科書の内容を読み随時その材料の特性を確認しておくこと。
事後学習では、各授業時での課題を完了しておくこと。
上記学習内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組むこと。

科目名	建築情報処理応用	科目名(英文)	Architectural Computer Science
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	宮本 征一、小林 健治、辻井 麻衣子
ディプロマポリシー(DP)	E◎		

授業概要・目的	企画、設計、施工という建設業務の多くでは、文書作成、表計算、プレゼンテーション能力が必要とされている。そのため、Excel、Photoshop、Illustrator を用いて、報告書の作成、簡易な表計算、プレゼンテーションの手法について実習を中心に学ぶ。そのために必要なデータの統計処理等の数学的手法について学ぶ。
到達目標	1)Excel を用いて図表の作成と表計算ができること、2) Word を用いて報告書を作成できること、3) Photoshop および Illustrator を用いて計画のダイアグラムやプレゼンテーションボードが作成できること。
授業方法と留意点	始めに簡単な説明をしますが、講義の基本は自発的な演習と質問に対する回答という方法で行います。
科目学習の効果(資格)	将来の実務・現場でのデータ処理やプレゼンテーション能力の基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	建築写真・パース、建築図面の加工 2	色の補正、明るさの補正	建築写真の表現方法を検討する。
3	建築写真・パース、建築図面の加工 3	断面図の表現	建築系雑誌、コンペ等の図面表現の事例を調べる。
4	建築写真・パース、建築図面の加工 4	平面図の表現	建築系雑誌、コンペ等の図面表現の事例を調べる。
5	伝わるデザイン 1	レイアウトのルール、ストーリー	紙面デザインの事例を調べる。
6	伝わるデザイン 2	紙面構成、グループ化、階層化	紙面構成のルールを分析する。
7	伝わるデザイン 3	ターゲット、コンテンツ	表現手法、レイアウトを検討する。
8	伝わるデザイン 4	発表と講評	他者のデザインに対する批評を行い、自身のデザインと向き合う。
9	データ分析 1 データ分析のテーマ	実測された温度と湿度のデータについて。 グループ分け。(3～4人) データ分析の方向性を決める。	建築環境工学で使用した教科書の熱環境の分野を読み、教科書を持参すること。 どのような分析をするのか考えること。
10	データ分析 2 データ分析の計画	PP で分析テーマを発表。 他グループの分析テーマを聞き分析テーマを修正。 新しい分析テーマを決定。	どのような分析をするのか決めてくること。 建築環境工学の視点からどのような図表が適しているか考えてくること。
11	データ分析 3 データ分析の作成	グループごとにデータ整理と分析を行い、図表を作成する。 建築環境工学の視点から統計学を用いて考察をすること。	建築環境工学の視点からどのような図表が適しているか考えてくること。 統計学を用いて考察をすること。
12	データ分析 4 データ分析の作成	分析資料(PDF) A4 と PP の作成する。	建築環境工学の視点から統計学を用いて考察をすること。
13	データ分析 5 データ分析の発表	PP を用いて発表。 他のグループは、PP と分析資料を見ながら聴講。	発表原稿を作成して、発表練習をすること。 どのように修正するかを議論すること。
14	データ分析 6 データ分析の発表の修正	分析資料とパワーポイントの修正	どのように修正するかを議論すること。
15	データ分析 7 データ分析の最終発表	最終発表。 他のグループは、PP と分析資料を見ながら聴講。	他のグループの良いところと悪いところをまとめて、A4 で提出すること。

関連科目	建築設計Ⅲ b 卒業研究
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	前半(グラフィックデザイン):各課題の成果物の合計(50%) 後半(データ分析):建築環境工学の視点からの分析テーマとなっているか(5%)適切な作図ができているか(10%)、適切な図表の量であるか(10%)、適切な分析(考察)ができているか(15%)、提出物の不備なく提出できているか(10%)
----------	--

学生へのメッセージ	講義に対して積極的に取り組んでください。教科書や参考書の指定はしませんが、個々に合った本を購入して利用するようにしてください。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館3階 宮本教授室・小林講師室
----------	-------------------

備考	事前・事後学習:事前事後学習欄に記載した内容を毎回1時間以上取り組むこと。 本講義で教授するスキルは、設計演習Ⅲ b のプレゼンテーションや調査分析に非常に関係があり、卒業研究を行うための基礎的なスキルである。そのため、スキルを身につけるようにすること。
----	--

科目名	建築情報処理基礎	科目名(英文)	Introduction to Architectural Computer Science
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	木多 彩子, 小林 宏彰, 辻井 麻衣子
ディプロマポリシー(DP)	E◎		

授業概要・目的	[授業概要・目的] 建築の設計・施行に際して必要となるコンピュータを用いた製図技術 (CAD : Computer Aided Design)の修得を目的とする。本講義では2次元CADはAutoCADを利用し、3次元CADはSketchUpを用いる。本講義は情報処理室で行うが、パソコン台数と作業時間に限りがあるので、3年次学生の履修を優先する。
到達目標	[到達目標] 1)AutoCADで基本的な操作を覚える。2)AutoCADで一般図が作成できる。3)SketchUpでプレゼンテーション図面が作成できる。
授業方法と留意点	授業時間内に作業を進め、完了するためには、無遅刻、無欠席が必須である
科目学習の効果(資格)	CADを用いた製図は、とりわけ透視図作成時に活用度が高い。また他のCAD・CGソフト習得時の理解が速まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	AutoCAD平面図作成 1	通り芯、寸法の作図 柱、壁の作図	配布プリント (参考書p.90からp.140)
3	AutoCAD平面図作成 2	建具、設備の作図 文字入力、印刷出力	配布プリント (参考書p.141からp.186)
4	中間作業確認	AutoCAD操作修得の確認	配布プリント
5	SketchUpの概要 基本操作	SketchUpの基本コマンド、基本操作、練習問題	教科書 (p.27からp.70)
6	SketchUpによるプロダクトモデリング 1	マグカップのデザインと作成	教科書 (p.72からp.90)
7	SketchUpによるプロダクトモデリング 2	椅子のデザインと作成	配布資料
8	SketchUpによる住宅のモデリング 1	平面図の作成と立体化	教科書 (p.92からp.114)
9	SketchUpによる住宅のモデリング 2	外部建具の作成と配置	教科書 (p.115からp.136)
10	SketchUpによる住宅のモデリング 3	外装/内装の作成と仕上げ	教科書 (p.137からp.155)
11	SketchUpによる住宅のモデリング 4	画像の出力/アニメーションの作成 DXFデータの読み込みと利用	教科書 (p.156からp.194)
12	SketchUpと3Dプリンタ	3Dプリントサービスの概要 模型用データの作成	教科書 (p.213からp.242)
13	SketchUpによる建物のモデリング 1	形態作成 マテリアルの表現	配布資料
14	SketchUpによる建物のモデリング 2	見せ方の工夫 プレゼンテーションの作成	配布資料
15	期末作業確認	SketchUp操作修得の確認	配布資料

関連科目	設計演習Ⅰ・Ⅱa・Ⅱb
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SketchUp パーフェクト作図実践編	阿部秀之	X-Knowledge
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしく学ぶAutoCAD LT	芳賀百合	X-Knowledge
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題点(40%)、中間作業確認(30%)、期末作業確認(30%)
----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	私語を慎み熱心に取り組めば、授業時間内に作業を完了させることが充分にできます。もし、自宅で復習や自習をする場合にはwindowsのコンピュータが必要です。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館3階 木多教授室
----------	-------------

備考	事後学習：事前・事後学習課題欄に示した内容について、毎回0.5時間以上かけて作業手順を確認する。
----	--

科目名	建築施工 I	科目名 (英文)	Construction Method of Buildings I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	渡邊 信夫
ディプロマポリシー (DP)	H◎		

授業概要・目的	建築の主な構造体である RC 造、SRC 造、S 造を用いた大型事務所ビルをモデルとして、イラストを多用した教科書を用いて、着工から竣工までの工事進捗に沿った工事の流れと管理ポイントを学ぶ。
到達目標	教科書のイラストとその内容説明を細かく受ける事によって、各工事の概要と管理ポイントを知り、建築施工とは何かを理解し、建築施工管理技術者としての基礎知識を得る。
授業方法と留意点	教科書を中心とした授業としていますが、建築施工はその状況がどれだけイメージ出来るかがポイントなので、適時写真や図など関連資料を示したり、演習や課題を入れながら授業を進めます。授業の中で質問時間も設けますが、ノートをとったり、質問のやりとり、演習や課題レポート等の内容を評価します。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士や一級施工管理技士の資格取得の学科試験「施工部門」に関係する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	建築生産	工事に携わる人と組織体制、役割、建築施工の工事管理について説明する。	教科書 p14～p25, p160～p164
3	準備工事	着工までの調査、現場事務所の設置等、仮設工事を含めた準備工事を説明する。	教科書 p28～p37, p165～p167
4	地業・土工事	山留め・杭・土工事について説明する。	教科書 p38～p53, p168～p171
5	鉄筋コンクリート工事 1	RC 躯体工事の流れと型枠工事について説明する。	1～4 回までの小テストを行う 教科書 p54～p61, p172～p174
6	鉄筋コンクリート工事 2	RC 躯体工事の流れと鉄筋工事、コンクリート工事について説明する 小テストについて解説する。	教科書 p62～p71, p174～p178
7	鉄骨工事	地上躯体部分の鉄骨造において鉄骨製作から現場作業について説明する。	教科書 p72～p83, p179～p180
8	防水、カーテンウォール工事	防水、シール工事、外装カーテンウォール工事について説明する。	5～7 回までの小テストを行う 教科書 p84～p91, p181～p184
9	石・左官・タイル工事	小テストについて解説する。 各工事の概要と管理ポイントについて説明する。	教科書 p92～p99, p184～p187
10	建具・ガラス・塗装・軽量鉄骨下地・内装・ALC	各工事の概要と管理ポイントについて説明する。	教科書 p100～p113, p187～p190
11	電気・空調・給排水設備工事	各設備工事の概要と管理ポイントについて説明する。	教科書 p114～p123
12	昇降機・機械駐車設備工事・防災・建築と設備	各設備工事の概要と管理ポイント、建築と設備のかかわりについて説明する。	8～12 回までの小テストを行う 教科書 p124～p131
13	外構・その他工事・竣工	小テストについて解説する。外構工事の概要、検査・引渡しまでの業務について説明する。	教科書 p132～p139
14	維持・保全・改修工事	建物の維持、保全の内容、改修工事の概要等について説明する。	教科書 p142～p149, p190～p191
15	解体工事 全体 まとめ	一般的なビルの解体工事について概要、手順について説明する。 全体的なまとめを行う。	教科書 p152～p157, p192～p193

関連科目 建築施工 II 建築材料 その他構造関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	期末試験 50% 小テスト 30% 演習、課題レポート等 20% の割合で総合的に評価します。
学生へのメッセージ	建築施工は業界の特殊用語が多く、言葉だけではイメージがわきにくい。この為イラストを多用した教科書を採用しているので、事前に目を通して授業に臨んでほしい。経験談をまじえた講義により建築施工の面白さを伝え、次世代を担う技術者の道への興味を持ってもらいたい。
担当者の研究室等	8号館 3階 共通準備室
備考	事前事後の学習は 1 回あたり 1.5 時間以上かけるようにする。授業時間外の質問については、授業の前後を利用して対応する。

科目名	建築施工Ⅱ	科目名(英文)	Construction Method of Buildings II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	渡邊 信夫
ディプロマポリシー(DP)	H◎		

授業概要・目的	「建築施工Ⅰ」で学んだ事をベースに、現場管理業務の流れに沿った実務を工事毎に更に掘り下げて講義する事によって、建築施工の面白さと興味を深めてもらう。
到達目標	工事毎の管理ポイントを更に掘り下げ、適時演習や作業を行なう事によって実務に近い内容を体得する事を目標とする。
授業方法と留意点	教科書や板書を中心に授業を進め、適時関連した資料を示して講義する。講義内容によっては、内容を実務として理解できるように演習や小テストを実施し、理解度を確認してもらう。結果や解説は講義内や次回の講義の初めに行う。
科目学習の効果(資格)	一級建築士や一級施工管理技士の資格取得の学科試験「施工部門」に関係する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	準備工事、仮設工事	工事着工までの準備工事、共通仮設工事、直接仮設工事について説明する。足場の計画演習を行う。	教科書 P28～37、165～167
3	杭工事	杭の種類、工法、施工計画、施工管理を説明する。	教科書 P46～49、169～170
4	山留工事、土工	山留めと支保工、土工の計画、施工管理を説明する。	教科書 P38～45、P50～53 P168～169、P171
5	鉄筋コンクリート工事の流れ 型枠工事	鉄筋コンクリートの躯体工事の流れ、型枠工事の計画、施工管理を説明する。型枠支保工についての計画演習を行う。	教科書 P56～61、172～173
6	鉄筋工事、コンクリート工事	鉄筋工事、コンクリート工事の計画、施工管理を説明する。	教科書 62～71、174～178
7	躯体図(コンクリート寸法図)	設計図(意匠、構造)に基づいて、躯体図の見方、書き方を説明し、作図演習を行う。	演習での作図復習をすること
8	鉄骨工事	鉄骨工事の施工計画、検査の内容など施工管理のポイントを説明する。	教科書 P72～83、P179～180
9	防水、カーテンウォール、ALC、ECP工事	防水工事の施工管理と留意点、外装カーテンウォール、ALC、ECPの施工計画と管理について説明する。	教科書 P84～91、181～184
10	石、左官、タイル、建具 ガラス工事	石、左官、タイル、建具、ガラス工事について、施工計画、管理、作業手順等について説明する。	教科書 P92～105、185～187
11	塗装、軽量鉄骨、内装工事	塗装、軽量鉄骨、内装工事について、種類、工法、作業手順、管理のポイントについて説明する。	教科書 P106～113、187～190
12	工程管理	工程計画と管理について、ネットワーク工程を用いて説明する。躯体工事のネットワーク工程の作成演習を行う。	教科書 P162～164
13	設備工事	電気・空調・給排水・昇降機・機械駐車・防災設備工事について、方式や機器などを説明、建築工事との関りについて説明する。	教科書 P114～131
14	品質管理・仕様書	特記仕様書、標準仕様書、監理指針などの書類をもとに、品質に関する基準を説明する。	各仕様書の見方を復習すること
15	安全管理、原価管理、まとめ	安全管理と原価管理について、その概要、関連法、管理のポイントなどを説明し、最後に全体のまとめを行う。	今までの総復習をしておくこと

関連科目	建築施工Ⅰ 建築材料Ⅰ・Ⅱ その他構造関連科目
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	施工がわかるイラスト建築生産入門	日本建設業連合会編 イラスト 川崎一雄	彰国社
2				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	誰でもわかる 建築施工 改訂版	雨宮幸蔵 荒井一彦 池永博威 長内軍士 河合弘泰 倉持幸由	彰国社

評価方法(基準)	期末試験 50% 小テスト 30% 演習、課題レポート等 20%の割合で総合的に評価します。
----------	--

学生へのメッセージ	物をつくることにたずさわる醍醐味は、建物が完成した時のみならず、それぞれの過程で自分がどのように関わったかで、その面白さや喜びが違ってきます。 物をつくる過程や様子が判るように、具体的な例や体験を交えて、ものづくりの面白さや興味が湧く講義にしたいと思っています。
-----------	--

担当者の研究室等	8号館3階 共通準備室
----------	-------------

備考	事前事後の学習は1回あたり1.5時間以上かけるようにする。授業時間外の質問については、授業の前後を利用して対応する。
----	--

科目名	建築設備学	科目名(英文)	Building Services
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	宮本 征一
ディプロマポリシー(DP)	F◎		

授業概要・目的	建築物における建築設備の役割を説明する。空調設備・給排水衛生設備とそれらに関する電気設備などの内容を説明する。地球環境負荷の低減に向けての建築設備設計の役割について説明する。建築環境工学で学んだ知識を基に、地球環境への配慮した設備計画を提案できる能力を身につけること、またはそれらを理解したうえで建築計画を行なう能力を身につけることを目的とする。
到達目標	空調設備・給排水衛生設備とそれらにかかわる電気設備などの内容を理解し、一級建築士の資格試験に出題される用語を理解して、概略の設備計画をまとめることを到達目標とする。
授業方法と留意点	教科書に沿った講義を行うため、第2回の授業までに、教科書を購入して、必ず持参すること。
科目学習の効果(資格)	建築設備士、一級建築士、一級管工事施工管理技士、などの資格を取得するために重要な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	空調設備・給排水衛生設備の概要	建築設備の必要性について学ぶ。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
2	空調設備 1	空調設備の概要、室内の温熱環境・空気環境について学ぶ。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
3	空調設備 2	空調設備の負荷について学ぶ。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
4	空調設備 3	熱源システムについて学ぶ。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
5	空調設備 4	空調システムについて学ぶ。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
6	空調設備 5	暖房方式、排煙設備、空調設備にかかわる省エネルギー技術、空調設備のマネージメントについて学ぶ。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
7	空調設備に関する演習	一級建築士レベルの空調設備に関する問題を解答し、理解を深める。	事後学習は、授業で解いた問題の理解を深めること。関連する内容を復習すること。
8	給排水衛生設備 1	給排水衛生設備の概要、給水設備について学ぶ。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
9	給排水衛生設備 2	給湯設備、衛生器具設備について学ぶ。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
10	給排水衛生設備 3	排水通気設備、排水処理・雨水利用設備について学ぶ。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
11	給排水衛生設備 4	消火設備、ガス設備について学ぶ。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
12	給排水衛生設備に関する演習	一級建築士レベルの空調設備に関する問題を解答し、理解を深める。	事後学習は、授業で解いた問題の理解を深めること。関連する内容を復習すること。
13	空調設備・衛生設備に関する電気設備	電気設備の概要、電力設備の概要、通信・情報・防災・中央監視制御設備の概要、搬送設備の概要について学ぶ。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
14	建築設備の見学会	履屋川キャンパスの建築設備について見学して具体的な建築設備について学ぶ。	事前学習は、教科書の図・写真を見てください。事後学習は、見学できた機器について教科書などで理解を深めること。
15	建築設備学総論	建築設備に関する重要な語句について学ぶ。	事後学習は、今までの授業の内容について体系的に復習すること。

関連科目 建築環境工学をはじめとする建築に関する専門知識が必要である。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	空調設備・衛生設備の知識	空調設備・衛生工学会	オーム社

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準) 演習(40%)および期末試験(60%)で評価する。

学生へのメッセージ 建築設備の基本的知識を身につけるために、復習すること。教科書の図表を使用して講義を行うため、教科書を必ず持参すること。

担当者の研究室等 宮本教授室

備考 事前学習は、20分以上してください。事後学習は、70分以上してください。暗記するのではなく、建築環境工学の知識と関連付けて理解すること。

科目名	建築ゼミ I	科目名 (英文)	Seminar in Architecture I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	宮本 征一, 池内 淳子, 大谷 由紀子, 加嶋 章博, 木多 彩子, 小林 健治, 竹原 義二, 西村 勝尚, 柳沢 学
ディプロマポリシー (DP)	G◎		

授業概要・目的	建築学は計画環境系・構造生産系の広い分野からなり、専任教員の専門分野も多岐にわたる。早期に各教員と身近に接し、各分野をどのように学べばよいか、建築学の概要を学び、大学での勉学・調査・研究の仕方と倫理を具体例を通して体験する。建築全般について、また学生生活全般にわたって、教員に相談が出来る機会でもある。																		
到達目標	[到達目標] 1) 建築学の各分野の概要把握、2) 大学での勉学の仕方を身につける。																		
授業方法と留意点	建築ゼミ I では、各教員に同人数となるようにゼミ分けをする。ここでのゼミ担当者が3年次前期までの担任であり、日常的な質問や相談の窓口になる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>以下の流れに沿って、各回教員毎の9グループに分かれ、建築・都市に関する課題を模擬的に体験する。</p> <p>〈第1回〉全体ゼミ1：建築学科で学ぶ内容（コース概要・倫理教育等）について（ファーストイヤーガイドを用いて研究不正の防止や IS014000 の取り組みなどを知る）</p> <p>〈第2回〉全体ゼミ2：PC 環境（成績管理システム・履修確認）・コース申請等について</p> <p>〈第3回〉かたちと言葉の関係を考える1（課題説明・建築模型材料の加工方法）</p> <p>〈第4回〉かたちと言葉の関係を考える2（グループディスカッション・課題制作）</p> <p>〈第5回〉かたちと言葉の関係を考える3（課題制作）</p> <p>〈第6回〉かたちと言葉の関係を考える4（建築をみる視点・課題制作）</p> <p>〈第7回〉かたちと言葉の関係を考える5（プレゼンテーション）</p> <p>〈第8回〉かたちと言葉の関係を考える6（制作の仕上（ハコの制作））</p> <p>〈第9回〉かたちの力学的性質を考える1（ストローによる建築構造の制作）</p> <p>〈第10回〉かたちの力学的性質を考える2（ストローによる建築構造の実験）</p> <p>〈第11回〉かたちの力学的性質を考える3（発泡スチロールによる梁の制作）</p> <p>〈第12回〉かたちの力学的性質を考える4（発泡スチロールによる梁の実験）</p> <p>〈第13回〉かたちの力学的性質を考える5（実験結果の考察・発表）</p> <p>〈第14回〉全体ゼミ3：ふりかえりと到達目標（全体をふりかえる）</p> <p>〈第15回〉全体ゼミ4：（建築見学会+レポート）</p>																		
関連科目	専門科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教科書・教材は毎回プリントを配布する。その他必要なものは、各教員の指示に従って用意すること。参考書・授業で紹介</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教科書・教材は毎回プリントを配布する。その他必要なものは、各教員の指示に従って用意すること。参考書・授業で紹介			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	教科書・教材は毎回プリントを配布する。その他必要なものは、各教員の指示に従って用意すること。参考書・授業で紹介																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題に対する積極性やグループワークにおける責任遂行および連携の取り組み（チームワーク力）（75%） 作品・実験結果・調査分析・レポート等の提出物（25%）																		
学生へのメッセージ	建築をはじめて学ぶ諸君に幅広い専門分野を紹介し、これから学ぶ建築学に導きます。まずは建築に興味を抱き、将来の職業イメージをもつことは日々の学習意欲を高めます。また、社会に貢献する建築家、建築技術者を目指すには、広範に、深く学び、時間をかけて思索する姿勢、さらに様々な人とコミュニケーションを図り協力する姿勢を培うことが大切です。そのきっかけの場になるものとして、このゼミを位置付けて欲しいと思います。 建築ゼミにおいて、担任とのつながりを再確認し、学習方法や態度を反省するとともにアドバイスなどを受けることも大切です。																		
担当者の研究室等	8号館3階 各教員の研究室																		
備考	第15回建築見学会は、曜日・場所の変更となる可能性がある。また見学先の都合により全体を分割して実施する場合がある。詳細は授業で伝達する。 事前・事後学習：授業テーマに即してさまざまな課題が提示される。各回の事前・事後併せて3時間程度、これらの課題に取り組み成果を振り返ること。																		

科目名	建築ゼミⅡ	科目名(英文)	Seminar in Architecture II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	宮本 征一, 池内 淳子, 大谷 由紀子, 加嶋 章博, 木多 彩子, 小林 健治, 竹原 義二, 西村 勝尚, 柳沢 学
ディプロマポリシー(DP)	G◎		

授業概要・目的	建築学は計画・環境・構造・生産など広い分野からなる。各専任教員が各専門分野の概要などを示し、建築学の分野の領域を把握する。分野に関連する課題を通して、社会が抱える問題を理解し、調査内容を編集し、プレゼン能力を高めることを目的とする。共同で課題に取り組むことで、多面的価値観を育成し、コミュニケーション力の向上を図るとともに、キャリアデザインを考える一助とする。演習課題は、計画・役割分担・考察・発表といった協働作業を少人数グループで取り組むことで、担任との、また学生間の交流促進をはかる。
到達目標	到達目標 1) 建築学における専門分野の概要を把握する。 2) 課題を探索し、解決のプロセスを考え、発表する能力を高める。 3) 建築分野における就業イメージを持つ。建築ゼミⅡでは特に協働作業に積極的に参加することで、自身の役割を見極め、チームワーク力を高める力を培う。
授業方法と留意点	当該担当教員による講義と演習がある。また共通課題が与えられ、各グループで課題や解決プロセスを探索する。
科目学習の効果(資格)	幅広い分野を持つ建築学の各分野に関連付けながら社会が抱える課題を理解できるようになる。同時に、建築の社会がいかなるものか、キャリアデザインの一助になる。一級建築士、二級建築士

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			ゼミⅠにおける共同作業の振り返り、ゼミⅡにおける共同作業の方法を考える
1	ガイダンス/共同作業へのアプローチを考える	建築専門分野の概要、および、建築の仕事の新しい動向などを紹介する。また、共同作業へのアプローチについて概説する	
2	建築環境系 1	建築および周囲環境で用いられている建築材料の表面温度を測定することと、その建築材料に触れた時の温冷感を把握することを行い、温冷感に影響を及ぼす物理要因は何であるのか。また、感覚知覚の個人差はどの程度であるのかを明らかにする。	身近な建築物を構成している材料に触れて、どのような感触であるのか、その材料は何であるのかを調べておく。
3	建築環境系 2	グループ作業の進捗と成果を確認・議論し、課題と取り組み方を共有する。	観測内容と方法を確認し復習しておく。
4	建築環境系 3	グループ作業の成果を発表し、課題と取り組み方を共有する。	プレゼンテーションの準備をゼミで取り組む。
5	建築意匠・デザイン系 1	人々の活動の受け皿として建築・都市空間の美しさ、優しさを体験学習をとおして考える。	身近な建築やまちに目を向け、意匠や景観、使いやすさなど各々が問題意識をもって観察しておく。
6	建築意匠・デザイン系 2	グループ作業の進捗と成果を確認し、課題を再度議論し、取り組み方を共有する。	グループワークの進捗を確認し、最終成果に向けてゼミで作業に取り組む。
7	建築意匠・デザイン系 3	グループ作業の成果を発表し、課題と取り組み方を共有する。建物見学会の事前レクチャーを聞く	プレゼンテーションの準備をゼミで取り組む。
8	建物見学会	学外の建物見学に行き、建物の意匠・構造・環境・設備について学ぶ。	事前レクチャーの内容を復習し、見学する建築に関する文献、資料に目を通す。見学後はまとめておく。
9	建築構造系 1	コンクリートの基本をなすモルタルを用いた模型梁を製作する。	建築材料Ⅰの「コンクリート」を復習しておく。
10	建築防災系 1	災害・防災をテーマにワークショップ(避難所運営訓練)を行う。	災害に関する報道や事例に目を通しておく。ワークショップ結果をまとめる。
11	建築防災系 2	防災系 1 で実施したワークショップをグループごとに議論しまとめる	防災系 1 で実施した WS の結果を個人的に分析し、議論に備える。結果をまとめる。
12	建築防災系 3	ワークショップの成果を発表し、課題と取り組み方を共有する。	成果発表準備を行う。他班の発表を聞き、自分の班の結果を振り返る
13	建築構造系 2	モルタルで作った模型梁の構造実験を行い、力の大きさと壊れ方の関係を観察する。	構造力学Ⅰの単純梁の曲げモーメントおよびせん断力を復習しておく。
14	建築構造系 3	グループ作業の成果を発表し、課題と取り組み方を共有する。	プレゼンテーションの準備をゼミで取り組む。
15	総合発表会	各チームのベストジョブの発表を行う。レポートをまとめる。	これまでの取り組みから各チームのベストジョブに対するプレゼン内容をブラッシュアップする。他チームの発表から自分たちとの比較を行う。

関連科目 専門科目全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 以下で評価を行う。

(基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対する積極性やグループワークにおける責任遂行および連携の取り組み（チームワーク力）（75%） ・作品・実験結果・調査分析・レポート等の提出物（25%）
学生へのメッセージ	<p>建築学のさまざまな専門分野を知り、興味を抱くこと、また将来の職業イメージをもつことは日々の学習意欲を高めることに繋がる。建築ゼミⅡにおいて、担任とのつながりを再確認し、一年間の大学での学習結果などを踏まえて、学習方法や態度を反省するとともにアドバイスなどを受けることも大切である。</p>
担当者の研究室等	<p>8号館3階 各教員の研究室</p>
備考	<p>講義、実習等の順番は変更となる場合がある。その場合は事前に通告するので、掲示等をよく見ること。 事前・事後学習：授業テーマに即してさまざまな課題が提示される。事前・事後併せて4.5時間程度、これらの課題に取り組み成果を振り返ること。</p>

科目名	建築ゼミⅢ	科目名(英文)	Seminar in Architecture III
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	宮本 征一, 池内 淳子, 大谷 由紀子, 加嶋 章博, 木多 彩子, 小林 健治, 竹原 義二, 西村 勝尚, 柳沢 学
ディプロマポリシー(DP)	G◎		

授業概要・目的	建築学は、計画・環境・構造系などの分野からなり、9人の専任教員の分野も多岐にわたる。この科目では、4年次の卒業研究を考える第1段階として、専任教員の専門分野に関連する演習にゼミ単位で取り組み、基礎的な知識を修得する。																																																																		
到達目標	卒業研究に向けた専門分野選択やテーマ選定を行う上で必要な素養を身につけることを到達目標とする。																																																																		
授業方法と留意点	専任教員ごとの9グループ(ゼミ)に分かれ、各教員の専門に関連した演習を行う。従って、ゼミ課題は基本的にゼミごとに異なる。ゼミ分属は、各ゼミがおおよそ同人数となるよう決定する。その際に本人の希望が優先されるが、1,2年次の成績や修得単位数などを参考に人数調整が行われる場合があるので、日常的な勉学に励むこと。																																																																		
科目学習の効果(資格)	卒業研究を行うために重要な科目である																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>各ゼミで課題や指導方針の説明など 研究者倫理に関する基礎的な解説</td> <td>各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>各ゼミの個別課題</td> <td>各教員の専門に関連した演習</td> <td>各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>各ゼミの個別課題</td> <td>各教員の専門に関連した演習</td> <td>各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各ゼミの個別課題</td> <td>各教員の専門に関連した演習</td> <td>各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各ゼミの個別課題</td> <td>各教員の専門に関連した演習</td> <td>各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>卒業研究中間発表会の聴講</td> <td>4年生の卒業研究中間発表会を聴講し概要を記録する</td> <td>卒業研究中間発表会の聴講レポート(ゼミ間共通課題)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>卒業研究中間発表会の聴講</td> <td>4年生の卒業研究中間発表会を聴講し概要を記録する</td> <td>卒業研究中間発表会の聴講レポート(ゼミ間共通課題)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各ゼミの個別課題</td> <td>各教員の専門に関連した演習</td> <td>各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各ゼミの個別課題</td> <td>各教員の専門に関連した演習</td> <td>各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各ゼミの個別課題</td> <td>各教員の専門に関連した演習</td> <td>各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各ゼミの個別課題</td> <td>各教員の専門に関連した演習</td> <td>各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各ゼミの個別課題</td> <td>各教員の専門に関連した演習</td> <td>各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>各ゼミの個別課題</td> <td>各教員の専門に関連した演習</td> <td>各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>卒業研究審査会の聴講</td> <td>4年生の卒業研究審査会を聴講し概要を記録する</td> <td>卒業研究審査会の聴講レポート(ゼミ間共通課題)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>卒業研究審査会の聴講</td> <td>4年生の卒業研究審査会を聴講し概要を記録する</td> <td>卒業研究審査会の聴講レポート(ゼミ間共通課題)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	各ゼミで課題や指導方針の説明など 研究者倫理に関する基礎的な解説	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題	2	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題	3	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題	4	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題	5	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題	6	卒業研究中間発表会の聴講	4年生の卒業研究中間発表会を聴講し概要を記録する	卒業研究中間発表会の聴講レポート(ゼミ間共通課題)	7	卒業研究中間発表会の聴講	4年生の卒業研究中間発表会を聴講し概要を記録する	卒業研究中間発表会の聴講レポート(ゼミ間共通課題)	8	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題	9	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題	10	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題	11	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題	12	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題	13	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題	14	卒業研究審査会の聴講	4年生の卒業研究審査会を聴講し概要を記録する	卒業研究審査会の聴講レポート(ゼミ間共通課題)	15	卒業研究審査会の聴講	4年生の卒業研究審査会を聴講し概要を記録する	卒業研究審査会の聴講レポート(ゼミ間共通課題)
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	各ゼミで課題や指導方針の説明など 研究者倫理に関する基礎的な解説	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題																																																																
2	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題																																																																
3	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題																																																																
4	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題																																																																
5	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題																																																																
6	卒業研究中間発表会の聴講	4年生の卒業研究中間発表会を聴講し概要を記録する	卒業研究中間発表会の聴講レポート(ゼミ間共通課題)																																																																
7	卒業研究中間発表会の聴講	4年生の卒業研究中間発表会を聴講し概要を記録する	卒業研究中間発表会の聴講レポート(ゼミ間共通課題)																																																																
8	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題																																																																
9	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題																																																																
10	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題																																																																
11	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題																																																																
12	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題																																																																
13	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題																																																																
14	卒業研究審査会の聴講	4年生の卒業研究審査会を聴講し概要を記録する	卒業研究審査会の聴講レポート(ゼミ間共通課題)																																																																
15	卒業研究審査会の聴講	4年生の卒業研究審査会を聴講し概要を記録する	卒業研究審査会の聴講レポート(ゼミ間共通課題)																																																																
関連科目	建築専門科目全般、一般教養科目、特に人文系、社会科学系																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対する積極性やグループワークにおける責任遂行および連携の取り組み(チームワーク力)(30%) ・学科共通レポート等の提出物(30%) ・ゼミ内の作品・実験結果・調査分析・レポート等の提出物(40%) 																																																																		
学生へのメッセージ	4年生の卒業研究を考えていく上で、きっかけとなる重要な科目です。																																																																		
担当者の研究室等	8号館3階 建築学科専任教員(9人)の研究室																																																																		
備考	4年生の卒業研究中間発表会および卒業研究審査会の日程は、変更の可能性がある。別途、提示する。 事前・事後学習：事前・事後併せて4.5時間程度、課題に取り組み成果を振り返ること。																																																																		

科目名	建築法規	科目名(英文)	Building Code
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 尚延
ディプロマポリシー(DP)	B◎		

授業概要・目的	建築物を建設する場合だけでなく、建設市場の動向をもコントロールするものの一つが建築法規であるため、建設関係のどの職種においても欠かせないツールであることを認識し、その必要となる法規制の基本的知識の諷旨、内容を理解すること。
到達目標	基本的用語の理解に始まり、建物の主要技術的基準や、都市計画区域内の建築制限を把握した上で、建築関係規定の概観し、建築確認申請・検査の手続きを理解し、建設技術者としての社会的責任を理解する
授業方法と留意点	建築基準法法令集と図解・建築基準法を併用した講義方式であるが、建築法規であるためプロジェクター等を使用し、なるべく立体的な表現を目指し、講義・演習を行い、理解し習得する。
科目学習の効果(資格)	二級建築士及び一級建築士等の資格を取得するのに重要な試験項目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	建築基準法(用語の解説(2))	防火関係の用語、面積、高さ及び階数の求め方等について	演習問題
3	建築基準法(建築手続)	既存不適格建築物、建築確認申請、中間、完了検査等について	演習問題
4	建築基準法(単体規定)	敷地の安全、居室の採光、換気、遮音等について	演習問題
5	建築基準法(建築設備)	電気、避雷針、昇降機、給水、排水等について	演習問題
6	建築基準法(構造強度(1))	構造耐力、構造計算、荷重と外力等について	演習問題
7	建築基準法(構造強度(2))	木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造、特定天井等について	演習問題
8	建築基準法(防火関係(1))	耐火建築物などとしなければならない特殊建築物、防火地域と準防火地域、防火区画について	演習問題
9	建築基準法(防火関係(2))	防火区画の設置基準、面積区画と高層階区画、堅穴区画、異種用途区画、内装制限等について	演習問題
10	建築基準法(避難関係等)	廊下、階段、排煙設備、非常用照明装置等の避難について	演習問題
11	建築基準法(集団規定(1))	道路、都市計画区域等、用途地域内の建築制限について	演習問題
12	建築基準法(集団規定(2))	容積率、前面道路の幅員の緩和、建ぺい率、外壁後退について	演習問題
13	建築基準法(高さ関係)	高さ制限、道路斜線、隣地斜線、北側斜線等について	演習問題
14	建築基準法(まちづくり)	天空率、日影規制及び総合設計制度、建築協定等について	演習問題
15	建築基準法(関係法令)	消防法、建築士法、バリアフリー新法、都市計画法等について	なし

関連科目 建築設計を行うに当たっては、建築設備としての電気工学や機械工学等の習得が必要である。。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	建築基準法関係法令集 2018年版(平成30年版)オレンジ本・横書き	建築資料研究所/日建学院	建築資料研究所
2	史上最強図解 よくわかる建築基準法	大脇賢次	ナツメ社
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験の成績(70%)と演習問題やレポート等の内容(30%)を用いて評価する。
学生へのメッセージ	条文が難解なため、最初はかっこ内は読まない等工夫し、全部を読むとせず、興味のある部分から読み始めると理解が進むと考えます。また、学習が進むほどに、以外と楽しくなると考えます。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	質問などあれば、講義の前後の時間等、教室で対応したいと思います。 授業の内容はかなり多いため、事前・事後学習はもちろん演習問題など授業内容について、毎回1.5時間以上かけて自習に取り組む事が必要と考えます。

科目名	建築倫理	科目名(英文)	Architectural Ethics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	飯田 匡
ディプロマポリシー(DP)	B◎		

授業概要・目的	建築倫理とは、建築技術者が実務の場で直面するであろう諸問題への対処方法を考える際に、その拠り所となる普遍的な規準である。建築を取り巻く社会環境が大きく変化の中、将来を支える優れた建築技術者は、こうした規準、すなわち専門家としての心構えを身につけることが不可欠である。そこで本講義では、リスク、責任、義務、技術等に関する具体的な事例の分析を通して、これからの建築技術者に求められる倫理的責任を学習する。また、事故や失敗を起こさないためには、どのように考え、行動すべきであるのかといった議論を通して、バランス感覚のとれた建築技術者の育成を図る。
到達目標	これまでに技術者の関わる場で生じた倫理的な問題や事故、失敗等の発生した理由、およびその後の対処等を学ぶことにより、技術者がこうした状況でどのように責任を果たすべきかを理解できる。 また、自身がそうした問題に巻き込まれたり、引き起こしたりしないためには、どのような規準を頼りに行動すべきかを知ることができる。
授業方法と留意点	建築倫理の基本を学ぶ講義を行うと同時に、建築に限らず様々な工学分野における事故や失敗事例等の紹介を行う。事故・失敗事例に関しては、グループ討議等を通してその原因の分析や対策等について考える。また、さらに理解を深めるために定期的にレポート課題を課す。
科目学習の効果(資格)	建築倫理は、技術的な知識だけではなく、人間の行動や社会状況に関する知識の活用が重要であることを理解し、良識ある建築技術者として、持てる技術を活かし、社会の要求に応えるために必要な普遍的なバランス感覚を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	建築倫理の概要	建築倫理とは何か、なぜ建築倫理を学ぶ必要があるのかを理解する。	レポート課題1
2	倫理と倫理学	正しい意思決定のためのツールとも捉えられる倫理学の基礎概念を理解し、よりよく使う方法を学ぶ。	復習・予習課題
3	工学倫理の基礎1	工学は本質的には危険を伴う社会的実験という側面を持つことを理解し、そうした中で工学技術者が果たすべき責任はどうあるべきかを学ぶ。	復習・予習課題
4	工学倫理の基礎2	倫理的に問題を解決するための手段を学び、具体的な事例を対象に検討を行う。	レポート課題2
5	事故事例に学ぶ1	構造計算書偽装事件、六本木ヒルズ回転扉事故、ジョン・ハンコック・タワーのガラス崩落事故等の事故事例の分析から、建築における事故発生メカニズムを理解する。	復習・予習課題
6	製造物責任	消費者の救済を目的とする製造物責任法の理念について学び、設計者・製造者が製品の設計・製造時に注意すべきことを理解する。	復習・予習課題
7	施工管理	基本的には一品生産であり、多種の材料や職種が関わるため、複雑にならざるを得ない建築の施工管理における問題点について学習する。	レポート課題3
8	失敗事例に学ぶ1	手抜き工事による欠陥住宅や、構造計算書偽造事件等の事例分析から、建築における設計?施工?監理のシステムの問題について考える。	復習・予習課題
9	ヒューマンエラーとリスクマネジメント	人が介在することによって引き起こされるヒューマンエラーの発生メカニズム、およびリスクを組織的に管理し、効果的に危険や損失を回避するリスクマネジメントの基本的な概念を理解する。	復習・予習課題
10	事故事例に学ぶ2	明石花火大会事故ほか、過去に起こった群集事故等の事例から、建築や都市空間における事故発生メカニズムを分析し、より安全な建築・都市の設計方法を考える。	レポート課題4
11	倫理綱領	日本建築学会の定める倫理綱領等を参考に、技術者を対象とする様々な倫理綱領や行動規範を理解し、建築技術者に求められる倫理や社会的責任等について学ぶ。	復習・予習課題
12	知的財産権	特許や著作権といった知的財産権の概要と、建築分野における知的財産権の扱いについて具体的な事例から学習する。	復習・予習課題
13	失敗事例に学ぶ2	期待された性能を満たさない「がっかり建築」の事例分析から、建築の評価の難しさと建築技術者の立ち位置について考える。	レポート課題5
14	ビジネス倫理	経済最優先ではなく、企業の社会的責任が重視されるようになってきた今日、技術者といえども理解しておくべきビジネスの倫理について学ぶ。	復習・予習課題
15	応用倫理・総括	建築倫理と同様の技術倫理である、様々な応用倫理の基本について学習する。また、本講義の総括として、教訓と戒めをまとめる。	レポート課題6

関連科目	特になし。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築倫理用教材	日本建築学会編	日本建築学会
	2	はじめての工学倫理 第2版	齊藤了文、坂下浩司編	昭和堂
	3	テクノリテラシーとは何か	齊藤了文	講談社
評価方法 (基準)	期末試験 (70%)、レポート (6回) (30%) により評価する。			
学生への メッセージ	授業への主体的な参加を望む。			
担当者の 研究室等	8号館3階 (建築学科共通準備室)			
備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む。			

科目名	工業数学 I	科目名 (英文)	Applied Mathematics for Engineers I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小泉 耕蔵
ディプロマポリシー (DP)	D◎		

授業概要・目的	工学の分野では、法則は微分方程式で定式化され、解は積分で表現される場合が多い。また積分は種々の物理量の計算に用いられる。この講義では、まずはじめにベクトルの内積・外積等について復習及び工学への応用について学習するとともに、幾何学的な感覚を養う。そして、微分に関する話題を復習しながら、速度、加速度、典型的な物理現象に触れる。また、積分については重心・慣性モーメントを中心にその定義の物理的意味と計算技法を学ぶ。このように、物理の言葉が数学にどのように翻訳されるかを学び、数学の計算から物理現象を理解できるのだという、ささやかな経験を積むことを目標とする。																																																																		
到達目標	微積分及び線形代数の主要な計算を実行でき、専門基礎で用いられる数学的表現を理解する能力を有すること。																																																																		
授業方法と留意点	比較的平易な内容に限定し容易に理解出来るものであるもので、確実に自分のものとするよう心掛けて頂きたい。 そのためには、第一に欠席をせず、毎回授業の前には復習をしておくこと、第二にどんなに些細でも不明なことは質問すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	本講義の内容は、工業数学 II 及び諸々の専門科目の習得に引き継がれる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>関数のグラフ</td> <td>・微分の図形的意味、増減凹凸表、最大最小値の計算</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>最大値、最小値の計算</td> <td>・微分を用いた最大最小値の計算及び工学への応用</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>関数の積分</td> <td>・種々の関数の積分の計算方法</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ベクトル (1)</td> <td>・ベクトルの内積の図形的意味</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ベクトル (2)</td> <td>・ベクトルの外積の図形的意味</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>行列式の計算</td> <td>・種々の行列式の計算方法</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>行列式の応用</td> <td>・平行 6 面体の体積の計算</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>一次独立、一次従属</td> <td>・ベクトルの一次独立、一次従属性の判定</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>速度・加速度 (1)</td> <td>・微分・積分を用いた速度、加速度の定義、運動方程式の記述</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>速度・加速度 (2)</td> <td>・ポテンシャル、エネルギー保存則、単振動と三角関数</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ベクトルを用いた物理量 (1)</td> <td>・直線上の運動、投げ上げ、斜方投射への応用</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ベクトルを用いた物理量 (2)</td> <td>・外積を用いた、角運動量と力のモーメントの記述</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>重積分の計算 (1)</td> <td>・重積分の逐次積分法</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>重積分の計算 (2)</td> <td>・ヤコビ行列を用いた変数変換</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>重心と慣性モーメント</td> <td>・重積分を用いた定義とその物理的意味</td> <td>演習問題</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	関数のグラフ	・微分の図形的意味、増減凹凸表、最大最小値の計算	演習問題	2	最大値、最小値の計算	・微分を用いた最大最小値の計算及び工学への応用	演習問題	3	関数の積分	・種々の関数の積分の計算方法	演習問題	4	ベクトル (1)	・ベクトルの内積の図形的意味	演習問題	5	ベクトル (2)	・ベクトルの外積の図形的意味	演習問題	6	行列式の計算	・種々の行列式の計算方法	演習問題	7	行列式の応用	・平行 6 面体の体積の計算	演習問題	8	一次独立、一次従属	・ベクトルの一次独立、一次従属性の判定	演習問題	9	速度・加速度 (1)	・微分・積分を用いた速度、加速度の定義、運動方程式の記述	演習問題	10	速度・加速度 (2)	・ポテンシャル、エネルギー保存則、単振動と三角関数	演習問題	11	ベクトルを用いた物理量 (1)	・直線上の運動、投げ上げ、斜方投射への応用	演習問題	12	ベクトルを用いた物理量 (2)	・外積を用いた、角運動量と力のモーメントの記述	演習問題	13	重積分の計算 (1)	・重積分の逐次積分法	演習問題	14	重積分の計算 (2)	・ヤコビ行列を用いた変数変換	演習問題	15	重心と慣性モーメント	・重積分を用いた定義とその物理的意味	演習問題
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	関数のグラフ	・微分の図形的意味、増減凹凸表、最大最小値の計算	演習問題																																																																
2	最大値、最小値の計算	・微分を用いた最大最小値の計算及び工学への応用	演習問題																																																																
3	関数の積分	・種々の関数の積分の計算方法	演習問題																																																																
4	ベクトル (1)	・ベクトルの内積の図形的意味	演習問題																																																																
5	ベクトル (2)	・ベクトルの外積の図形的意味	演習問題																																																																
6	行列式の計算	・種々の行列式の計算方法	演習問題																																																																
7	行列式の応用	・平行 6 面体の体積の計算	演習問題																																																																
8	一次独立、一次従属	・ベクトルの一次独立、一次従属性の判定	演習問題																																																																
9	速度・加速度 (1)	・微分・積分を用いた速度、加速度の定義、運動方程式の記述	演習問題																																																																
10	速度・加速度 (2)	・ポテンシャル、エネルギー保存則、単振動と三角関数	演習問題																																																																
11	ベクトルを用いた物理量 (1)	・直線上の運動、投げ上げ、斜方投射への応用	演習問題																																																																
12	ベクトルを用いた物理量 (2)	・外積を用いた、角運動量と力のモーメントの記述	演習問題																																																																
13	重積分の計算 (1)	・重積分の逐次積分法	演習問題																																																																
14	重積分の計算 (2)	・ヤコビ行列を用いた変数変換	演習問題																																																																
15	重心と慣性モーメント	・重積分を用いた定義とその物理的意味	演習問題																																																																
関連科目	授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める。 微積分 I, 微積分 II, 線形代数 I, 線形代数 II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>工業数学の基礎 (2017 年度版)</td> <td></td> <td>摂南大学 基礎理工学機構編</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	工業数学の基礎 (2017 年度版)		摂南大学 基礎理工学機構編	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	工業数学の基礎 (2017 年度版)		摂南大学 基礎理工学機構編																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	小テストで 30%、習熟度確認テストで 35%、期末テストで 35% 判定し評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	3 号館 3 階に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。																																																																		
担当者の研究室等	3 号館 3 階 数学研究室																																																																		
備考	事前事後学習は、毎回 1 時間以上かけること。																																																																		

科目名	工業数学Ⅱ	科目名(英文)	Applied Mathematics for Engineers II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小泉 耕蔵
ディプロマポリシー(DP)	D◎		

授業概要・目的	工学の分野では微分方程式はもっとも頻繁に使われている数学の1つである。講義の前半は、1階の常微分方程式の解法及び工学・自然現象への応用について学習する。そして講義の後半では2階の定数係数常微分方程式の解法・応用、及び微分方程式の数値的な解法について学習する。
到達目標	主に質点の運動方程式を微分方程式で表して解けるなど、専門科目の学習で出会う微分方程式を理解して解く能力を有すること。
授業方法と留意点	比較的平易な内容に限定し容易に理解出来るものであるもので、確実に自分のものとするよう心掛けて頂きたい。そのためには、第一に欠席をせず、毎回授業の前には復習をしておくこと、第二にどんなに些細でも不明なことは質問すること。
科目学習の効果(資格)	本講義の内容は、諸々の専門科目の習得に引き継がれる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	微分方程式の解	・微分方程式とは何か、原始関数(不定積分)と微分方程式	教科書の演習問題
2	1階常微分方程式(1)	・変数分離形1階微分方程式の解法	教科書の演習問題
3	1階常微分方程式(2)	・定数変化法による1階線形微分方程式の解法	教科書の演習問題
4	1階常微分方程式(3)	・微分方程式を用いた運動方程式の記述	教科書の演習問題
5	1階常微分方程式(4)	・空気抵抗中の運動など物理への応用	教科書の演習問題
6	2階定数線形微分方程式(1)	・基本解の導出	教科書の演習問題
7	2階定数線形微分方程式(2)	・基本解・解の表示	教科書の演習問題
8	2階定数線形微分方程式(3)	・未定係数法(1) $y''+ay'+by=(多項式)$ の解法	教科書の演習問題
9	習熟度確認試験及び解説講義	第1-7回目までの内容に関する習熟度確認試験、及びその解説講義	
10	2階定数線形微分方程式(4)	・未定係数法(2) $y''+ay'+by=(指数関数)$ の解法	教科書の演習問題
11	2階定数線形微分方程式(5)	・未定係数法(3) $y''+ay'+by=(三角関数)$ の解法	教科書の演習問題
12	2階定数線形微分方程式の応用(2)	・強制振動など物理への応用	教科書の演習問題
13	数値計算(1)	・差分を用いた微分の記述、オイラー法による微分方程式の解法	教科書の演習問題
14	数値計算(2)	・ルンゲ・クッタ法による微分方程式の解法	教科書の演習問題
15	総合演習	・応用問題	教科書の演習問題

関連科目	授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める。 微積分 I, 微積分 II, 線形代数 I, 線形代数 II, 工業数学 I
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微分方程式の基礎(2016年度版)		摂南大学 基礎理工学機構編
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	小テストで30%、習熟度確認テストで35%、期末テストで35%判定し評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	3号館3階に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室
----------	-------------

備考	事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。
----	-----------------------

科目名	鋼構造 I	科目名 (英文)	Steel Structures I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 与史也
ディプロマポリシー (DP)	H◎		

授業概要・目的	【授業概要】鋼構造建築物の構造設計をするうえで基礎となる構造解析理論をもとに鋼材の材料、接合法、各構造部材の特性を理解し、鋼構造における設計、施工技術に関連する基本的事項を学習する。
到達目標	【到達目標】鋼構造建築物の設計・施工に関連する基本的な品質管理を行う能力を修得することを到達目標とする。
授業方法と留意点	教科書、配布資料に沿って要点を板書して説明しますので、専用ノートを用意してください。また演習を2回実施しますので関数電卓を持参して必ず出席してください。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士、構造設計、設計監理、施工管理、技術士

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	序論	鋼構造の特徴、形式、部材の構成	教科書 1.1-1.3 の内容について教科書を初回から持参すること
2	材料	鉄と鋼、生産過程、構造用鋼材など	教科書 2.1-2.3, 2.5 の内容について 1.5 時間以上の事後学習に取り組む
3	許容応力度	機械的性質、疲労強度、ボルト接合、実験ビデオによる学習	教科書 2.4 の内容について 1.5 時間以上の事前・事後学習に取り組む
4	引張材	構造設計概要、断面算定、有効断面積	教科書 3.1-3.3, 4.1-4.4 の内容について 1.5 時間以上の事前・事後学習に取り組む
5	圧縮材	単材の許容圧縮応力度、座屈長さ	教科書 5.1-5.2 の内容について 1.5 時間以上の事前・事後学習に取り組む
6	同 上	組立圧縮材、局部座屈、実験ビデオによる学習	教科書 5.3-5.4 の内容について 1.5 時間以上の事前・事後学習に取り組む
7	演 習	圧縮材の検討	教科書 5 章末例題 関数電卓を持参すること
8	曲げ材	せん断応力度、せん断中心、降伏モーメント	教科書 6.1-6.2 の内容について 1.5 時間以上の事前・事後学習に取り組む
9	同 上	横座屈、曲げ材の検定	教科書 6.3-6.4 の内容について 1.5 時間以上の事前・事後学習に取り組む
10	接合部の設計	ボルト接合、高力ボルト接合	教科書 7.1 の内容について 1.5 時間以上の事前・事後学習に取り組む
11	同 上	溶接、溶接欠陥、各種接合部の検討	教科書 7.1, 配布資料の内容について 1.5 時間以上の事前・事後学習に取り組む
12	演 習	曲げ材、接合部の検討	教科書 6・7 章末例題 関数電卓を持参すること
13	仕 口	柱梁仕口、システムトラス接合部、柱脚	教科書 7.2, 配布資料の内容について 1.5 時間以上の事前・事後学習に取り組む
14	耐震設計	地震被害、耐震設計	スライド
15	まとめ	期末試験の準備	

関連科目	建築材料学, 構造力学, 鋼構造 2
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	鉄骨構造 基礎知識 (第3版)	橋本篤秀編著	市ヶ谷出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	演習 (40%), 期末試験 (60%) 演習は小テスト形式で授業時間内の提出とするので、遅刻・欠席のないように留意すること。
学生へのメッセージ	授業中ノートを探り、教科書を確認しながら復習すること。また建築関連の雑誌などに掲載されている鋼構造に関する設計詳細をよく観ることで理解が深まる。
担当者の研究室等	建築学科共通準備室 (8号館)
備考	演習は期末試験を補完するもので、とても重要なので欠席することのないようにしっかり準備してください。

科目名	鋼構造Ⅱ	科目名(英文)	Steel Structures II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	西村 勝尚
ディプロマポリシー(DP)	H◎		

授業概要・目的	鋼は重量に比して強度と変形能力に優れた構造材料であり、低層建築から高層建築まで幅広く用いられている。鋼構造を構成する柱や梁部材、および鋼構造の構築にとって重要な接合部の力学的特性とそれに基づく設計法の基礎を修得する。鋼構造建築物の安全性を決定する2つの大きな要因は座屈と接合部である。この科目では、構造力学の各科目、鋼構造Ⅰ、構造材料で学習した知識・技能に基づき、各種の座屈現象とこれを抑止するための諸条件について学習する。健全な鋼構造物を設計・施工するための基礎知識を学び、演習を通して理解を深める。
到達目標	(1)鋼構造に現れる座屈現象と接合部の機能や力学的性状の理解、(2)柱、梁といった部材の単純な事例の設計演習を通して、鋼構造部材の設計の基本的な考え方を修得。
授業方法と留意点	指定教科書「建築鋼構造—その理論と設計—」と配布資料を用い、講義形式で授業を進める。適宜、演習問題を課す。演習では数値の計算も行うので、電卓を持参する。
科目学習の効果(資格)	建築の施工や設計の実務に携わるための、基礎的知識と技法が身に着く。一級・二級建築士などの資格取得に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 梁の設計(1)	小梁設計の考え方を学ぶ。荷重、許容応力度制約、たわみ制約など。	(事前) 鋼構造Ⅰの復習しておく。教科書第1部6.1、6.2、第4部1章を読む。 (事後) 配布資料等授業内容を復習する。
2	梁の設計(2)	小梁設計の考え方と方法を理解するため、簡単な小梁設計の演習を行う。	(事前) 教科書第4部2.3を読む。第1回の内容の復習。 (事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答を復習。
3	梁の設計(3)	横座屈荷重、座屈長さ、局部座屈、幅厚比、許容曲げ応力度などの基礎事項を理解し、骨組構造の主要部材である大梁の設計法について学ぶ。	(事前) 教科書第4部2.3を読む。 (事後) 講義中に解いた演習問題を再解答する。第1-3回の配布プリント、演習問題の復習。
4	柱の設計(1)	中心圧縮中の座屈について学ぶ。オイラー座屈荷重、座屈長さ、細長比、許容圧縮応力度など基本事項を学ぶ。	(事前) 教科書第4部1章2.1、2.2を読む。 (事後) 配布プリント等を復習しておく。出来れば、座屈に関する参考資料を自主的に学習し、理解を深めて置く。第4回の配布プリントを良く復習する。
5	柱の設計(2)	中心圧縮中の座屈を理解するため、座屈長さ、オイラー座屈荷重などについての演習を行う。	(事前) 教科書第4部2.4.1~2.4.3を読む。 (事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答を復習。
6	柱の設計(3)	骨組構造の主要部材である軸力と曲げを受ける柱の設計法について学ぶ。	(事前) 教科書第4部2.4.4を読む。 (事後) 第1-6回の内容を総復習し、中間テスト1に備える。
7	中間テスト1	梁の設計、中心圧縮中の座屈、柱の設計。	(事前) 梁の設計、中心圧縮中の座屈についてよく復習する。 (事後) 解答例を良く見直しておく。
8	鋼構造の梁、柱部材設計の総復習	中間テスト1解答の解説を通して、梁や柱の設計、座屈に関する要点を総復習する。	(事前) 中間テスト1の範囲である第1-6回の内容の復習。 (事後) 演習、中間試験で間違えた所を訂正し、正しい理解を得る。
9	鋼構造の接合部の成立ちと設計	鋼構造の各種接合方式を説明し、設計法の考え方を解説する。	(事前) 教科書第4部3.1、3.2を読む。 (事後) 配布プリント等を復習する。
10	溶接接合(1)	突き合わせ溶接、隅肉溶接など各種溶接法、溶接記号、設計上の問題点について学習する。	(事前) 教科書第4部3.3を読む。 (事後) 今回の配布プリントを復習する。
11	溶接接合(2)	隅肉溶接の設計、溶接記号などの演習を行う。	(事前) 第9、10回の配布プリントの復習 (事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答を復習。
12	高力ボルト接合(1)	高力ボルト接合の力学原理、設計法について学ぶ。	(事前) 第9、10回の教科書第4部3.4.1、3.4.2を読む。 (事後) 今回の配布プリントを復習する。
13	高力ボルト接合(2)	高力ボルト接合部の設計に関する演習を行う。	(事前) 教科書第4部3.4.3~3.4.5を読む。 (事後) 接合部に関する総復習を行い、中間試験に備える。
14	中間試験2	鋼構造の各種接合方式、溶接接合、高力ボルト接合。	(事前) 溶接接合、高力ボルト接合についてよく復習する。 (事後) 解答例を良く見直しておく。
15	接合部設計の総復習	中間テスト2解答の解説を通して、溶接接合部や高力ボルト接合の設計に関する要点を総復習する。	(事前) 中間テスト2の範囲である第9-13回の内容の復習。 (事後) 演習、中間試験で間違えた所を訂正し、正しい理解を得る。

関連科目 専門関連科目(微積分、線形代数、力学、物理等)、理工学基礎実験、鋼構造Ⅰ、構造力学Ⅰ、構造力学Ⅱ、構造力学実践、その他建築構造関係の全科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築鋼構造—その理論と設計—	井上一郎、吹田啓一郎	鹿島出版会
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	演習課題、中間試験（40%）と期末試験（60%）により総合的に判断する。		
学生への メッセージ	構造力学系科目の修得には、建物の挙動、特に安全性に係る諸現象を知り、それらが何故どのように生じるかを力学の原理原則に基づいて理解し、イメージすることが重要である。その上で、建物の変形や限界状態を解析し、解析結果を理解および説明する能力を身につけることができる。重要なことは、与えられた公式をただ形式的に理解し計算する技術を学ぶだけでは応用できない。実際の現象と力学的な理解を結びつけた技能および結びつける知識、能力が重要であり、そこからアイデアが新たな技術が生まれる。		
担当者の 研究室等	8号館3階 西村教授室		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：事前学習欄に示した内容について、毎日0.5時間以上調べておく。 ・事後学習：事後学習欄に示した内容について、毎日0.1時間以上かけて復習する。授業で演習・解答した問題は必ず解きなおす。 		

科目名	構造実験	科目名(英文)	Experiments in Structural Elements
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柳沢 学, 池内 淳子, 西村 勝尚
ディプロマポリシー(DP)	H◎		

授業概要・目的	[授業概要・目的] 建築物を構成する主要な構造要素・材料の力学的特性および物理・化学的特性の試験・実験法とその特性を下記の実験を通じて学ぶ。ただし、天候等によって、順番、内容を一部変更することもある。
到達目標	[到達目標] 1) 毎回出席して実験を肌で感じる。2) 実験で使用する器具や機器を覚える。3) 結果を一般解と比較して考察できる。4) コンクリートの調合設計ができる。5) 後半の材料試験、鉄骨梁、鉄筋コンクリート梁の実験では予想値と比較して実際を確認し、比較・検討できる楽しみがある。
授業方法と留意点	班毎にまとまって作業する。毎回、講義室で実験概要を説明し実験室にて実験する。翌日、観察、養生する場合もある。実験後レポートを作成し提出する。
科目学習の効果(資格)	構造実験は建築士受験資格のある指定学科では必要科目となっている。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、班分け	構造実験概要 安全マニュアルの熟読	シラバスを熟読してくること 安全マニュアルの理解
2	セメント比重試験	セメントの比重の計測方法を理解し、その比重を市販品の値と比較して評価する。	教科書 p 8
3	セメント凝結試験	セメントの凝結試験方法を理解し凝結時間を計測し硬化状況を確認する。	教科書 p 9
4	セメント強度試験のための供試体作製	セメント強度試験のための供試体を作製する。	教科書 p 9～p 11
5	骨材比重試験	細骨材および粗骨材の比重を計測し地域別の値と比較する。	教科書 p 18～p 21
6	コンクリート調合設計	コンクリートの調合設計の仕方を理解し、翌週のコンクリート打設のための調合計画を行う。	教科書 p 36～p 45
7	コンクリート強度試験のための供試体作製	コンクリートを構成する、水、セメント、細骨材、粗骨材および混和剤を計量し、練り混ぜ後、スランプ試験の実施と供試体を3本を作製する。	教科書 p 45～p 51
8	骨材粒度分布試験	コンクリートを構成する骨材のふるい分け試験を行い、f. m. 値算出と粒度分布曲線を求め JIS 規格範囲と比較・検討する。	教科書 p 13～p 16
9	セメント強度試験	セメントの強度試験を行い、曲げ強度および圧縮強度を算出し、評価・検討する。	教科書 p 9～p 11
10	細骨材中の有機不純物、塩化物の定量分析	有機不純物試験方法を理解し、実験を行い評価する。塩化物の定量分析を行いコンクリート用骨材として使用できるかを検討する。	教科書 p 25～p 26
11	コンクリート強度試験、鋼材引張試験	コンクリート強度試験(圧縮および割裂)の実施。鋼材の引張試験により、降伏強度、引張強度および伸びを計測し規格値と比較する。	教科書 p 51～p 54 教科書 p 86～p 88
12	鉄骨はりの曲げ実験 試験体製作	鉄骨はりの曲げ実験を理解し、鉄骨はりの曲げ耐力を推定する。また、翌週実験する試験体にひずみゲージを貼付して実験準備をする。	教科書 p 94～p 97
13	鉄骨はりの曲げ実験 実験実施	鉄骨はりの曲げ実験を行い諸荷重等を計算値と比較する。	教科書 p 94～p 97
14	鉄筋コンクリートはりの曲げせん断実験 耐力算定	鉄筋コンクリートはりの曲げせん断実験を理解し、鉄筋コンクリートはりの諸耐力、諸剛性を算出する。	教科書 p 70～p 72
15	鉄筋コンクリートはりの曲げせん断実験 実験実施	鉄筋コンクリートはりの曲げせん断実験を行い諸荷重等を計算値と比較する。	教科書 p 70～p 72

関連科目	鉄筋コンクリート構造Ⅰ、Ⅱ 鋼構造Ⅰ、Ⅱ
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築材料実験用教材	日本建築学会	日本建築学会
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	実験教科であり、100%の出席を前提とする。レポート課題点(60%)および実験態度点(40%)の成績を総合し、到達目標の達成度に応じて可否を判定する。実験態度点は積極的に実験に参加し材料特性や構造性能を理解しようとする態度に基づいて評価する。
学生への	原則として実験資材は大学で用意するが、作業服・靴は用意しない。作業服・靴を購入する必要はないが、実験の内容により砂・セメント・油な

メッセージ	どで衣服が汚れる場合、足下が悪い場合がある。 授業中は私語を慎み集中して授業内容の理解に努めること。
担当者の 研究室等	8号館3階 各教授室 [共同担当者] 西村勝尚・池内淳子
備考	事前・事後の学習（レポート作成含む）には1回あたり2時間程度を確保する必要がある。

科目名	構造力学・構造基礎	科目名(英文)	Introduction to Structural Mechanics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	池内 淳子
ディプロマポリシー(DP)	H◎		

授業概要・目的	建築の空間を自然災害から守り、安全に支えるために必要な要件の概説を行い、構造力学の基礎を学ぶ。また、特に構造力学修得に必要なとなる数学および物理学に対して、高校課程までの学習内容の補足を行うとともに、今後学習する構造系科目との関連付けを学ぶ。
到達目標	1) 建築における構造の役割と重要性の理解 2) 構造関連科目それぞれが持つ役割の理解 3) 構造力学修得に必要なとなる数学および物理学に関して深く理解する。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせる授業を行うため、遅刻・欠席をしないこと。 やむを得ず、欠席をした場合には配布プリントの再配布は行わない。また、欠席した場合の授業内容については自己責任において回復すること。
科目学習の効果(資格)	構造力学Ⅰや構造力学Ⅱ、構造力学実践など、構造力学系科目を学ぶ基礎となる。一級・二級建築士資格取得のために必須である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 建築構造力学とは?	授業の目的と概要、評価基準と注意事項、専門関連科目との関係、建築士試験と構造力学、安全を支える構造力学	(事前) 建築構造力学とはどのような学問であるかを調べる (事後) 配布資料等授業内容を復習する
2	構造力学に必要な基礎知識	三角比、三角関数、微分・積分、方程式とグラフ、質量と重量等について理解度を確認し、簡単な構造力学の演習を行う。	(事前) 高校課程の復習を行う、配布資料を読む (事後) 配布資料等授業内容を復習する
3	建物に作用する荷重(1)	固定荷重・積載荷重とそのモデル化について学ぶ	(事前) 配布資料を読む (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
4	建物に作用する荷重(2)	雪荷重とそのモデル化について学ぶ	(事前) 配布資料を読む (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
5	建物に作用する荷重(3)	風荷重とそのモデル化について学ぶ	(事前) 配布資料を読む (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
6	建物に作用する荷重(4)	地震荷重とそのモデル化について学ぶ	(事前) 配布資料を読む (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
7	静力学の基礎(1)	ベクトル、力、合力と分力、力のモーメント	(事前) 高校課程の復習、配布資料を読む (事後) 講義中に解いた演習問題を再解答する。
8	静力学の基礎(2)	示力図、連力図	(事前) 高校課程の復習、配布資料を読む (事後) 講義中に解いた演習問題を再解答する。
9	梁から学ぶ構造力学(1)	外力・反力・応力について、支点と接点について	(事前) 配布資料を読む (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
10	梁から学ぶ構造力学(2)	反力算定(1)単純梁・片持梁	(事前) 配布資料を読む (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
11	梁から学ぶ構造力学(3)	反力算定(2)静定ラーメン	(事前) 配布資料を読む (事後) すべての演習問題を解き直し内容の理解を深める。
12	静定梁の断面力(1)	断面力・応力とは?	(事前) 配布資料を読む (事後) 本日解いた問題を再解答する
13	静定梁の断面力(2)	単純梁の断面力、断面力図	(事前) 配布資料を読む (事後) 本日解いた問題を再解答する
14	静定梁の断面力(3)	片持梁の断面力、断面力図	(事前) 配布資料を読む (事後) 本日解いた問題を再解答する
15	静定梁の断面力(4)	断面力図の意味と符号の確認=力の流れを意識する=	(事前) 配布資料を読む (事後) 本日解いた問題を再解答する

関連科目	専門関連科目(微積分、線形代数、力学、物理等)、 理工学基礎実験、構造力学Ⅰ、構造力学Ⅱ、構造力学実践、その他建築構造関係の全科目								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1			
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1									
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>図説 構造力学入門</td> <td>豊田正敏/島村和夫</td> <td>東洋書店</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	図説 構造力学入門	豊田正敏/島村和夫	東洋書店
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1	図説 構造力学入門	豊田正敏/島村和夫	東洋書店						
評価方法(基準)	復習課題の提出(30%)と期末試験(70%)により総合的に判断する。								
学生へのメッセージ	構造力学系科目の修得には、たゆまぬ努力が必要である。本講義は、これら構造力学系科目の導入に位置づけられており、必要に応じて高校課程までで学習した数学や物理等の補足も行う。積極的に取り組み、「理解できた喜び」や「解ける喜び」をいち早く感じる事が構造力学系科目の修得には近道である。								
担当者の研究室等	8号館3階 池内教授室								
備考	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習: 事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回0.5時間以上の時間をかけること 事後学習: 事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1時間以上かけて問題を解きなす。特に授業で解答した問題は必ず解きなすこと。 理解できなくなったら、早めに質問に来ること。その際は、自分が解いたノートを持参すると、より理解が深まる。また、教育支援センターでも構造力学の質問は受け付けてもらえるため、積極的に活用すること。 								

科目名	構造力学 I	科目名 (英文)	Structural Mechanics I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	池内 淳子, 西村 勝尚, 藤井 章男
ディプロマポリシー (DP)	H◎		

授業概要・目的	建築物の構造的安全性を確保するための構造上の基礎的知識を修得する。他の構造関係の科目を学習する上で必要な重要科目である。構造材料の力学的性質、静力学の基礎的事項を述べ、静定骨組構造の力学的解析法について解説する。静定梁、静定ラーメン、静定トラスなど簡単な構造要素について構造物の支点反力や内部に生ずる断面力を正確に求め、断面力図を描くための演習を行う。また、静定梁の応力の解析手法を解説し、そのための演習を行う。
到達目標	1) 静定骨組構造の断面力を求め、断面力図を描くことができる、2) 静定トラス構造の断面力を求めることができる、3) 骨組部材の断面力から応力を求めることができる
授業方法と留意点	講義形式による解説と演習を繰り返しながら進める。よって遅刻・欠席などないようにすること。 欠席した場合のプリントの再配布は行わない。また、欠席した場合の授業内容については、自己責任において回復すること。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士・二級建築士資格取得のために必須である。 本講義については、単位修得のために取り組むのではなく、将来の一級建築士・二級建築士受験時をみすえて取り組むこと

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンス・反力算定	授業の目的と概要、評価基準と注意事項、専門関連科目との関係、反力算定の確認・復習	(事前) 構造力学・構造基礎で学んだ反力算定の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
2	静定梁の断面力 (1)	集中荷重の断面力、断面力図	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
3	静定梁の断面力 (2)	分布荷重の断面力、断面力図	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
4	静定ラーメンの断面力 (1)	静定ラーメン (単純梁) の断面力、断面力図	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
5	静定ラーメンの断面力 (2)	静定ラーメン (片持ち梁) の断面力、断面力図	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
6	静定ラーメンの断面力 (3)	静定ラーメンの断面力図の意味と符号の確認=力の流れを意識する=	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
7	ヒンジを有する静定梁の断面力	連続梁の断面力、断面力図	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
8	ヒンジを有するラーメン構造の断面力	3 ヒンジラーメン・連続梁の断面力と断面力図	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
9	断面力算定	断面力算定の確認テスト	(事前) これまで解いた問題を再解答	(事後) テストの振り返り
10	静定トラス (1)	トラスとは? トラスの種類	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
11	静定トラス (2)	トラスの解法 (接点でのつり合い)	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
12	静定トラス (3)	トラスの解法 (接点法)	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
13	静定トラス (4)	トラスの解法 (梁のつり合い)	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
14	静定トラス (5)	トラスの解法 (切断法)	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
15	静定力学のまとめ	反力算定から断面力算定まで、力の流れ	(事前) これまでの学習内容について総復習する	(事後) 本日解いた問題を再解答する
16	中間テスト	-----	(事前) これまでの学習内容について総復習する	(事後) 本日解いたテスト問題を再解答する
17	断面の性質 (1)	断面 1 次モーメントについて	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
18	断面の性質 (2)	断面 2 次モーメントについて	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
19	断面の性質 (3)	図心軸からずれる断面 2 次モーメントについて	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
20	断面の性質 (4)	断面 2 次モーメントの算定	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
21	軸方向力のみを受ける梁要素	軸方向力のみをうける梁要素の応力算定手法	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
22	断面力の定義、応力ブロック	断面力と断面力に作用する応力 (応力ブロック)	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
23	断面に作用する応力 (1)	軸方向力と曲げモーメントが作用する場合の応力算定	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
24	断面に作用する応力 (2)	軸方向力と曲げモーメントが作用する場合のラーメンの応力算定	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
25	断面に作用する応力 (3)	軸方向力と曲げモーメントが作用する場合のラーメンの応力算定 (解法)	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
26	断面に作用する応力 (4)	2 方向の曲げをうける梁要素の応力	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
27	断面に作用する応力 (5)	軸方向力と 2 方向の曲げをうける梁要素の応力	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
28	許容応力度設計	梁の構造設計法について学び、応力を求めたのち、断面算定を行う。	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
29	曲げに伴うせん断応力 (1)	曲げに伴う梁のせん断応力を求める。	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する

	30	曲げに伴うせん断応力 (2)	H型鋼のせん断応力と曲げ応力	(事前) 配布資料を読む (事後) 本日解いた問題を再解答する	
関連科目	構造力学・構造基礎、構造力学Ⅱ、構造力学実践、構造力学Ⅲ、その他建築構造関係の全科目				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1				
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	図説 構造力学入門		豊田正敏、島村和夫	東洋書店
	2				
	3				
評価方法 (基準)	講義内に実施する中間テスト(1回)と期末試験の成績を合計して70%、また、講義内で行う確認テストや確認レポート(合計5回程度)の成績を30%とし、あわせて100%で評価を行い、60%以上を合格とする。				
学生への メッセージ	建築の構造安全性を考える上で、重要な基礎科目である。 この科目を履修するためには、構造力学・構造基礎で履修した知識を必要とする。特に、構造力学・構造基礎で学んだ反力の算定、断面力算定はもう一度復習すること。毎回の講義で行う演習問題を復習していくと、理解が一層進む。				
担当者の 研究室等	8号館3階 池内教授室				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回0.5時間以上の時間をかけること ・事後学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1時間以上かけて問題を解きなおす。特に授業で解答した問題は必ず解きなおすこと。 ・藤井先生・・・火曜5限担当 				

科目名	構造力学 I a	科目名 (英文)	Structural Mechanics Ia
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	池内 淳子, 西村 勝尚, 藤井 章男
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	建築物の構造的安全性を確保するための構造上の基礎的知識を修得する。他の構造関係の科目を学習する上で必要な重要科目である。構造物の力学的性質、静力学の基礎的事項を述べ、静定骨組構造の力学的解析法について解説する。静定梁、静定ラーメン、静定トラスなど簡単な構造要素について構造物の支点反力や内部に生ずる断面力を正確に求め、断面力図を描くための演習を行う。また、静定梁の応力の解析手法を解説し、そのための演習を行う。
到達目標	1) 静定骨組構造の断面力を求め、断面力図を描くことができる、2) 静定トラス構造の断面力を求めることができる、3) 骨組部材の断面力から応力を求めることができる
授業方法と留意点	講義形式による解説と演習を繰り返しながら進める。よって遅刻・欠席などないようにすること。 欠席した場合のプリントの再配布は行わない。また、欠席した場合の授業内容については、自己責任において回復すること。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士・二級建築士資格取得のために必須である。 本講義については、単位修得のために取り組むのではなく、将来の一級建築士・二級建築士受験時をみすえて取り組むこと

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンス・反力算定	授業の目的と概要、評価基準と注意事項、専門関連科目との関係、反力算定の確認・復習	(事前) 構造力学・構造基礎で学んだ反力算定の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
2	静定梁の断面力 (1)	集中荷重の断面力、断面力図	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
3	静定梁の断面力 (2)	分布荷重の断面力、断面力図	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
4	静定ラーメンの断面力 (1)	静定ラーメン (単純梁) の断面力、断面力図	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
5	静定ラーメンの断面力 (2)	静定ラーメン (片持ち梁) の断面力、断面力図	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
6	静定ラーメンの断面力 (3)	静定ラーメンの断面力図の意味と符号の確認=力の流れを意識する=	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
7	ヒンジを有する静定梁の断面力	連続梁の断面力、断面力図	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
8	ヒンジを有するラーメン構造の断面力	3 ヒンジラーメン・連続梁の断面力と断面力図	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
9	断面力算定	断面力算定の確認テスト	(事前) これまで解いた問題を再解答	(事後) テストの振り返り
10	静定トラス (1)	トラスとは? トラスの種類	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
11	静定トラス (2)	トラスの解法 (接点でのつり合い)	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
12	静定トラス (3)	トラスの解法 (接点法)	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
13	静定トラス (4)	トラスの解法 (梁のつり合い)	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
14	静定トラス (5)	トラスの解法 (切断法)	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
15	静定力学のまとめ	反力算定から断面力算定まで、力の流れ	(事前) これまでの学習内容について総復習する	(事後) 本日解いた問題を再解答する
16	中間テスト	-----	(事前) これまでの学習内容について総復習する	(事後) 本日解いたテスト問題を再解答する
17	断面の性質 (1)	断面 1 次モーメントについて	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
18	断面の性質 (2)	断面 2 次モーメントについて	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
19	断面の性質 (3)	図心軸からずれる断面 2 次モーメントについて	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
20	断面の性質 (4)	断面 2 次モーメントの算定	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
21	軸方向力のみを受ける梁要素	軸方向力のみをうける梁要素の応力算定手法	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
22	断面力の定義、応力ブロック	断面力と断面力に作用する応力 (応力ブロック)	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
23	断面に作用する応力 (1)	軸方向力と曲げモーメントが作用する場合の応力算定	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
24	断面に作用する応力 (2)	軸方向力と曲げモーメントが作用する場合のラーメンの応力算定	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
25	断面に作用する応力 (3)	軸方向力と曲げモーメントが作用する場合のラーメンの応力算定 (解法)	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
26	断面に作用する応力 (4)	2 方向の曲げをうける梁要素の応力	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
27	断面に作用する応力 (5)	軸方向力と 2 方向の曲げをうける梁要素の応力	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
28	許容応力度設計	梁の構造設計法について学び、応力を求めたのち、断面算定を行う。	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
29	曲げに伴うせん断応力 (1)	曲げに伴う梁のせん断応力を求める。	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する

	30	曲げに伴うせん断応力 (2)	H型鋼のせん断応力と曲げ応力	(事前) 配布資料を読む (事後) 本日解いた問題を再解答する	
関連科目	構造力学・構造基礎、構造力学Ⅱ、構造力学実践、構造力学Ⅲ、その他建築構造関係の全科目				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1				
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	図説 構造力学入門		豊田正敏、島村和夫	東洋書店
	2				
	3				
評価方法 (基準)	講義内に実施する中間テスト(1回)と期末試験の成績を合計して70%、また、講義内で行う確認テストや確認レポート(合計5回程度)の成績を30%とし、あわせて100%で評価を行い、60%以上を合格とする。				
学生への メッセージ	建築の構造安全性を考える上で、重要な基礎科目である。 この科目を履修するためには、構造力学・構造基礎で履修した知識を必要とする。特に、構造力学・構造基礎で学んだ反力の算定、断面力算定はもう一度復習すること。毎回の講義で行う演習問題を復習していくと、理解が一層進む。				
担当者の 研究室等	8号館3階 池内教授室				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回0.5時間以上の時間をかけること ・事後学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1時間以上かけて問題を解きなおす。特に授業で解答した問題は必ず解きなおすこと。 ・藤井先生・・・火曜5限担当 				

科目名	構造力学 I b	科目名 (英文)	Structural Mechanics Ib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西村 勝尚, 池内 淳子, 福井 弘久
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	建物を支持する骨組はほとんどが不静定構造で構成されている。構造力学 I で学んだ静定構造物は力の釣合だけを考慮して応力 (断面力) を算出できた。しかし、不静定構造物の応力や変形を計算するには、力の釣合式に加えて変位とひずみに関する適合条件式を用いなければならない。この講義では不静定構造物の代表的な解法である、たわみ角法、変位法 (剛性法)、モーメント分配法、応力法について学ぶ。
到達目標	(1) 解法の原理の理解、(2) 簡単な骨組について、方程式を立て、応力を計算できる能力の習得。
授業方法と留意点	参考書「構造力学図説・演習 II」と配布資料を用い、講義+演習の形式で授業を進める。適宜演習を課す授業なので 100% の出席を前提とする。やむを得ず欠席する場合は文書で届け出る。また、欠席した授業内容は自己責任で補充すること。
科目学習の効果 (資格)	一級・二級建築士資格取得のための必須科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	不静定構造の考え方 (1)	静定と不静定、力の釣合と変形の適合。講義+演習	(事前) 構造力学 I の復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
2	不静定構造の考え方 (2)	梁の釣合微分方程式とたわみの計算。講義+演習	(事前) 前回の復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
3	不静定構造の考え方 (3)	仮想仕事の原理と単位仮想荷重法。講義+演習	(事前) 前回までの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
4	不静定構造の考え方 (4)	単純な静定構造の変位計算。講義+演習	(事前) 前回までの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
5	中間テスト 1	静定トラスと静定骨組の変位計算	(事前) 前回までの学習内容の総復習。	(事後) 解答例を良く見直しておく。
6	たわみ角法 (1)	基本仮定, たわみ角法公式。講義+演習	(事前) 第 2 回の内容の復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
7	たわみ角法 (2)	剛度と剛比, たわみ角法実用公式。講義+演習	(事前) 第 6 回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
8	たわみ角法 (3)	変位の適合条件式, 節点方程式。講義+演習	(事前) 第 6, 7 回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
9	たわみ角法 (4)	せん断力, 軸力の計算。講義+演習	(事前) 第 6-8 回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
10	たわみ角法 (5)	節点移動のない場合の総復習。講義+演習	(事前) 第 6-9 回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
11	中間テスト 2	節点移動のない場合のたわみ角法	(事前) 節点移動のない場合のたわみ角法を良く復習し、の解法について総復習する。	(事後) 解答例を良く見直しておく。
12	たわみ角法 (6)	中間荷重が作用する場合。講義+演習	(事前) 第 6, 7 回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
13	たわみ角法 (7)	節点移動がある場合の変位と変形、部材角間の関係。講義+演習	(事前) 第 6-9 回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
14	たわみ角法 (8)	層方程式。講義+演習	(事前) 第 9, 12 回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
15	たわみ角法 (9)	層方程式、多層・多スパン骨組。講義+演習	(事前) 第 13-14 回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
16	たわみ角法 (10)	節点移動がある場合の総復習。講義+演習	(事前) これまでの内容の総復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
17	中間テスト 3	たわみ角法全般	(事前) 中間荷重の扱いや、層方程式の立て方を含め、たわみ角法全般をよく復習する。	(事後) 解答例を良く見直しておく。
18	モーメント分配法 (1)	基本仮定, 解法の原理。講義+演習	(事前) 第 6, 7 回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
19	モーメント分配法 (2)	節点の回転拘束と単位回転角を与える材端モーメント。講義+演習	(事前) 第 18 回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
20	モーメント分配法 (3)	モーメントの分配と伝達。講義+演習	(事前) 第 18, 19 回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
21	モーメント分配法 (4)	複数節点のモーメント解放。講義+演習	(事前) これまでの総復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
22	中間テスト 4	モーメント分配法	(事前) モーメント分配法全般をよく復習する。	(事後) 解答例を良く見直しておく。
23	変位法 <剛性法> (1)	基本的考え方, トラス部材と曲げを受ける部材の剛性行列。講義+演習	(事前) 第 2, 6 回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
24	変位法 <剛性法> (2)	重ね合わせによる系剛性方程式の構築, 境界条件と求解。講義+演習	(事前) 第 23 回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
25	変位法 <剛性法> (3)	部材剛性方程式の座標変換。	(事前) 第 18 回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
26	応力法 (1)	単純モデルによる応力法の考え方, 変位法と応力法の対比, 適合条件。講義+演習	(事前) 第 1-4 回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
27	応力法 (2)	静定基本形, 不静定力。	(事前) 第 26 回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
28	応力法 (3)	不適合適合成分, 適合条件式。	(事前) 第 26, 27 回プリントの復習。	

		講義+演習	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答.																
	29	応力法 (4)	一般手順. (事前) 第1-4回プリントの復習.																
	30	中間テスト5	変位法 <剛性法>と応力法 (事前) モーメント分配法全般をよく復習する. (事後) 解答例を良く見直しておく.																
関連科目	常に構造力学 I を復習しながら進むこと。構造力学の演習では、解析により部材の断面力 (応力) を得たら必ず構造力学 I で学んだ方法により断面力図と変形の略図を描くこと。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>建築構造力学図説・演習 II</td> <td>中村恒善</td> <td>丸善</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	建築構造力学図説・演習 II	中村恒善	丸善	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	建築構造力学図説・演習 II	中村恒善	丸善																
2																			
3																			
評価方法 (基準)	5 回の中間テストの成績 (50%) および期末試験成績 (50%) の総計で評価する。																		
学生へのメッセージ	必ずしも簡単な内容ではありませんが、授業に毎回出席し、講義にしっかりと耳を傾け、演習課題を納得がいくまで繰返し反芻すれば、将来役立つ知識や能力を必ず身に着けることができます。																		
担当者の研究室等	8 号館 3 階 西村教授室																		
備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回 1.5 時間以上かけて取り組む																		

科目名	構造力学Ⅱ	科目名(英文)	Structural Mechanics II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	池内 淳子, 西村 勝尚, 柳沢 学
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	建築物の構造的安全性を確保するための構造上の基礎的知識を復習し、実践力を養う。建築構造分野で用いる用語の定義や荷重・外力について二級建築士および一級建築士問題を用いて確かめる。また、静定梁の力のつり合い、断面力・応力、棒材の伸縮変形、曲げ変形について実践的な解法を学ぶ。さらに、建築骨組みに用いられる木材、セメント、鋼材等について、理解を深める。
到達目標	1) 構造分野で用いられる用語を理解する、2) 荷重・外力・力のつり合い・断面力・応力・変形に関する実践的解法を理解し、基礎的な演習問題を回答できる、3) 建築構造物の各種材料について理解する。
授業方法と留意点	講義形式による解説と演習を繰り返しながら進める。よって遅刻・欠席などないようにすること。欠席した場合のプリントの再配布は行わない。また、欠席した場合の授業内容については、自己責任において回復すること。頻繁に課される演習問題を次週までに必ず解答してくる。
科目学習の効果(資格)	一級建築士・二級建築士資格取得のために必須である。本講義については、単位修得のために取り組むのではなく、将来の一級建築士・二級建築士受験時をみすえて取り組むこと。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンス・構造力学で用いる用語	授業の目的と概要、評価基準と注意事項、構造力学で用いる用語	(事前) 構造力学Ⅰ・構造力学Ⅱで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
2	荷重・外力	建物に作用する荷重と外力	(事前) 構造力学・構造基礎で学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
3	力のつり合い (1)	梁の断面力計算と断面力図	(事前) 構造力学Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
4	力のつり合い (2)	ラーメン構造の断面力計算と断面力図	(事前) 構造力学Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
5	力のつり合い (3)	静定梁の断面力計算と断面力図まとめ	(事前) 構造力学Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
6	断面の性質	断面二次モーメントの算出	(事前) 構造力学Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
7	静定トラス	トラス構造物の実践的解法	(事前) 構造力学Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
8	断面に作用する応力 (1)	曲げモーメントが作用する場合の応力算定	(事前) 構造力学Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
9	断面に作用する応力 (2)	軸方向力と2方向の曲げをうける梁要素の応力	(事前) 構造力学Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
10	梁の変形 (1)	梁構造のたわみ・たわみ角	(事前) 構造力学Ⅱで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
11	梁の変形 (2)	ラーメン構造のたわみ・たわみ角	(事前) 構造力学Ⅱで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
12	梁の変形 (3)	ラーメン構造のたわみ・たわみ角	(事前) 構造力学Ⅱで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
13	木材	木材の性質と強度	(事前) 建築材料Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
14	セメント・コンクリート	セメントの性質と強度、コンクリートの性質	(事前) 建築材料Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
15	鋼材	鋼材の性質と強度	(事前) 建築材料Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する

関連科目 構造力学・構造基礎、構造力学Ⅰa、構造力学Ⅰb、建築材料Ⅰ他、建築構造関係の全科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「図説 構造力学入門」	豊田正敏/島村和夫	東洋書店
2	「建築構造力学Ⅰ 図説・演習」	中村恒善	丸善
3	「鉄筋コンクリート構造の基本と部材の設計」	永坂具也・柳沢学	彰国社

評価方法(基準) 3回の講義内テスト(20%×3回)と期末試験(40%)の成績を合計して評価する。

学生へのメッセージ 一級建築士・二級建築士資格取得のために構成した科目です。本講義については、単位修得のために取り組むのではなく、将来の一級建築士・二級建築士受験時をみすえて取り組んでください。単に数式や計算手法を学ぶだけではなく、建築骨組みの力の流れや変形の様子などを理解できるよう心がけること。

担当者の研究室等 8号館3階・・・池内教授室、西村教授室、柳沢教授室

備考 ・事前学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回0.5時間以上の時間をかけること
・事後学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1時間以上かけて問題を解きなす。特に授業で解答した問題は必ず解きなすこと。

科目名	構造力学Ⅱ	科目名(英文)	Structural Mechanics II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西村 勝尚, 池内 淳子, 福井 弘久
ディプロマポリシー(DP)	H◎		

授業概要・目的	建物を支持する骨組はほとんどが不静定構造で構成されている。構造力学Ⅰで学んだ静定構造物は力の釣合だけを考慮して応力(断面力)を算出できた。しかし、不静定構造物の応力や変形を計算するには、力の釣合式に加えて変位とひずみに関する適合条件式を用いなければならない。この講義では不静定構造物の代表的な解法である、たわみ角法、変位法(剛性法)、モーメント分配法、応力法について学ぶ。
到達目標	(1)解法の原理の理解、(2)簡単な骨組について、方程式を立て、応力を計算できる能力の習得。
授業方法と留意点	参考書「構造力学図説・演習Ⅱ」と配布資料を用い、講義+演習の形式で授業を進める。適宜演習を課す授業なので100%の出席を前提とする。やむを得ず欠席する場合は文書で届け出る。また、欠席した授業内容は自己責任で補充すること。
科目学習の効果(資格)	一級・二級建築士資格取得のための必須科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	不静定構造の考え方(1)	静定と不静定、力の釣合と変形の適合。講義+演習	(事前) 構造力学Ⅰの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
2	不静定構造の考え方(2)	梁の釣合微分方程式とたわみの計算。講義+演習	(事前) 前回の復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
3	不静定構造の考え方(3)	仮想仕事の原理と単位仮想荷重法。講義+演習	(事前) 前回までの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
4	不静定構造の考え方(4)	単純な静定構造の変位計算。講義+演習	(事前) 前回までの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
5	中間テスト1	静定トラスと静定骨組の変位計算	(事前) 前回までの学習内容の総復習。	(事後) 解答例を良く見直しておく。
6	たわみ角法(1)	基本仮定、たわみ角法公式。講義+演習	(事前) 第2回の内容の復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
7	たわみ角法(2)	剛度と剛比、たわみ角法実用公式。講義+演習	(事前) 第6回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
8	たわみ角法(3)	変位の適合条件式、節点方程式。講義+演習	(事前) 第6,7回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
9	たわみ角法(4)	せん断力、軸力の計算。講義+演習	(事前) 第6-8回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
10	たわみ角法(5)	節点移動のない場合の総復習。講義+演習	(事前) 第6-9回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
11	中間テスト2	節点移動のない場合のたわみ角法	(事前) 節点移動のない場合のたわみ角法を良く復習し、の解法について総復習する。	(事後) 解答例を良く見直しておく。
12	たわみ角法(6)	中間荷重が作用する場合。講義+演習	(事前) 第6,7回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
13	たわみ角法(7)	節点移動がある場合の変位と変形、部材角間の関係。講義+演習	(事前) 第6-9回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
14	たわみ角法(8)	層方程式。講義+演習	(事前) 第9,12回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
15	たわみ角法(9)	層方程式、多層・多スパン骨組。講義+演習	(事前) 第13-14回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
16	たわみ角法(10)	節点移動がある場合の総復習。講義+演習	(事前) これまでの内容の総復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
17	中間テスト3	たわみ角法全般	(事前) 中間荷重の扱いや、層方程式の立て方を含め、たわみ角法全般をよく復習する。	(事後) 解答例を良く見直しておく。
18	モーメント分配法(1)	基本仮定、解法の原理。講義+演習	(事前) 第6,7回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
19	モーメント分配法(2)	節点の回転拘束と単位回転角を与える材端モーメント。講義+演習	(事前) 第18回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
20	モーメント分配法(3)	モーメントの分配と伝達。講義+演習	(事前) 第18,19回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
21	モーメント分配法(4)	複数節点のモーメント解放。講義+演習	(事前) これまでの総復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
22	中間テスト4	モーメント分配法	(事前) モーメント分配法全般をよく復習する。	(事後) 解答例を良く見直しておく。
23	変位法<剛性法>(1)	基本的考え方、トラス部材と曲げを受ける部材の剛性行列。講義+演習	(事前) 第2,6回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
24	変位法<剛性法>(2)	重ね合わせによる系剛性方程式の構築、境界条件と求解。講義+演習	(事前) 第23回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
25	変位法<剛性法>(3)	部材剛性方程式の座標変換。	(事前) 第18回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
26	応力法(1)	単純モデルによる応力法の考え方、変位法と応力法の対比、適合条件。講義+演習	(事前) 第1-4回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
27	応力法(2)	静定基本形、不静定力。	(事前) 第26回プリントの復習。	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答。
28	応力法(3)	不適合適合成分、適合条件式。	(事前) 第26,27回プリントの復習。	

		講義+演習	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答.																
	29	応力法(4)	一般手順. (事前) 第1-4回プリントの復習.																
	30	中間テスト5	変位法<剛性法>と応力法 (事前) モーメント分配法全般をよく復習する. (事後) 解答例を良く見直しておく.																
関連科目	常に構造力学Ⅰを復習しながら進むこと。構造力学の演習では、解析により部材の断面力(応力)を得たら必ず構造力学Ⅰで学んだ方法により断面力図と変形の略図を描くこと。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>建築構造力学図説・演習Ⅱ</td> <td>中村恒善</td> <td>丸善</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	建築構造力学図説・演習Ⅱ	中村恒善	丸善	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	建築構造力学図説・演習Ⅱ	中村恒善	丸善																
2																			
3																			
評価方法(基準)	5回の中間テストの成績(50%) および期末試験成績(50%)の総計で評価する。																		
学生へのメッセージ	必ずしも簡単な内容ではありませんが、授業に毎回出席し、講義にしっかりと耳を傾け、演習課題を納得がいくまで繰り返し反芻すれば、将来役立つ知識や能力を必ず身に着けることができます。																		
担当者の研究室等	8号館3階 西村教授室																		
備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む																		

科目名	構造力学Ⅲ	科目名(英文)	Structural Mechanics III
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西村 勝尚
ディプロマポリシー(DP)	H◎		

授業概要・目的	<p>【授業概要】建築物の耐震安全性は、構成部材の硬さおよび強さ（耐力）のバランスのとれた配置に左右される。部材や建物の耐力を支配するのは全塑性耐力と座屈耐力である。本講義では、部材の耐力および建物の耐力を算出するための基礎的考え方と方法について学ぶ。</p> <p>【目的】以下の項目について理解し、具体的な計算能力を身につける。</p> <p>(1) 梁や柱の弾塑性曲げモーメント-曲率関係と全塑性モーメント、(2) 塑性極限解析の上・下界の定理、(3) 簡単なトラスやラーメンの塑性崩壊荷重の計算法、(4) 中心圧縮柱の曲げ座屈、梁の横座屈などの簡単な骨組の座屈</p>
到達目標	構造設計や現場での仮設計画を行う場合、その構造物が最終的にどのようなふるまいをするかを知っておくことは極めて重要である。建築構造物の終局状態を求めるための重要項目である「塑性極限解析」と「座屈理論」について理論的基礎を理解し、設計上の問題点を習得する。
授業方法と留意点	教科書「建築鋼構造—その理論と設計—」と配布資料を用い、講義形式で授業を進める。適宜、演習問題を課す。
科目学習の効果(資格)	構造設計者、施工管理技術者を目指すものにとって必須の教科である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 構造材料の応力-歪関係	この授業内容の位置付け、概説、授業の進め方。 鋼材、コンクリートの力と変形関係。 講義と演習	(事前) 教科書第2部2.1.1を読む。 (事後) 演習課題の復習
2	トラスの塑性崩壊	単純なトラスの強さと変形。 講義と演習	(事前) 第1回配布資料を読む。 (事後) 配布資料、演習課題の復習
3	断面の全塑性モーメント(1)	長方形断面、T形断面。 講義と演習	(事前) 教科書第2部2.2.1を読む。 (事後) 配布資料、演習課題の復習
4	断面の全塑性モーメント(2)	H型断面、箱形断面。 講義と演習	(事前) 教科書第2部2.2.2を読む。 (事後) 配布資料、演習課題の復習
5	断面の全塑性モーメント(3)	軸力の影響。 講義と演習	(事前) 教科書第2部2.3.1~2.3.4を読む。 (事後) 配布資料、演習課題の復習
6	中間試験(1)	(範囲)トラスの塑性崩壊、断面の全塑性モーメント。 講義と演習	(事前) ここまでの範囲について、演習課題を含めて良く復習すること
7	梁の塑性崩壊(1)	静定梁の塑性崩壊；単純梁、片持梁。 講義と演習	(事前) 教科書第2部3.1.1、3.1.2を読む。 (事後) 配布資料、演習課題の復習
8	梁の塑性崩壊(2)	不静定梁の塑性崩壊；下界定理による方法。 講義と演習	(事前) 教科書第2部3.2、3.3を読む。 (事後) 配布資料、演習課題の復習
9	梁の塑性崩壊(3)	不静定梁の塑性崩壊；上界定理による方法。 講義と演習	(事前) 教科書第2部3.2、3.3を読む。 (事後) 配布資料、演習課題の復習
10	骨組の塑性崩壊(1)	1層1スパンの塑性崩壊。 講義と演習	(事前) 教科書第2部3.4.2、5.1~5.3を読む。 (事後) 配布資料、演習課題の復習
11	骨組の塑性崩壊(2)	2層1スパンの塑性崩壊。 講義と演習	(事前) 教科書第2部5.3を読む。 (事後) 配布資料、演習課題の復習
12	中間試験(2)	(範囲)梁の塑性崩壊、骨組の塑性崩壊。	ここまでの範囲について、演習課題を含めて良く復習すること。
13	部材の座屈(1)	座屈概説、オイラー座屈。 講義と演習	(事前) 教科書第3部2.1を読む。 (事後) 配布資料、演習課題の復習
14	部材の座屈(2)	境界条件の違い、座屈長さ、横座屈、局部座屈、骨組座屈。 講義と演習	(事前) 教科書第3部2.2、3.2~3.3、5.3を読む。 (事後) 配布資料、演習課題の復習
15	復習課題	授業範囲全般	これまでの授業範囲全般を通して、理解が不十分と思うところを、もう一度復習しておくこと。

関連科目 構造力学Ⅰa、Ⅰb、構造力学Ⅱの授業内容をよく理解していること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築鋼構造—その理論と設計—	井上一郎、吹田啓一郎	鹿島出版会
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 2回の中間試験成績(40%) および期末試験成績(60%)の総計で評価する。

学生へのメッセージ 必ずしも簡単な内容ではありませんが、授業に毎回出席し、講義にしっかりと耳を傾け、演習課題を納得がいくまで繰り返し反芻すれば、将来建築の構造に関連する職業において必要かつ役立つ知識や能力を必ず身に付けることができます。講義には必ず電卓(関数電卓)を持参のこと。

担当者の研究室等 8号館3階 西村教授室

備考 事前学習：0.5時間/回、事後学習：1.5時間/回

科目名	構造力学実践	科目名(英文)	Structural Mechanics for Design Practice
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	池内 淳子, 西村 勝尚, 柳沢 学
ディプロマポリシー(DP)	H◎		

授業概要・目的	建築物の構造的安全性を確保するための構造上の基礎的知識を復習し、実践力を養う。建築構造分野で用いる用語の定義や荷重・外力について二級建築士および一級建築士問題を用いて確かめる。また、静定梁の力のつり合い、断面力・応力、棒材の伸縮変形、曲げ変形について実践的な解法を学ぶ。さらに、建築骨組みに用いられる木材、セメント、鋼材等について、理解を深める。
到達目標	1) 構造分野で用いられる用語を理解する、2) 荷重・外力・力のつり合い・断面力・応力・変形に関する実践的解法を理解し、基礎的な演習問題を回答できる、3) 建築構造物の各種材料について理解する。
授業方法と留意点	講義形式による解説と演習を繰り返しながら進める。よって遅刻・欠席などないようにすること。欠席した場合のプリントの再配布は行わない。また、欠席した場合の授業内容については、自己責任において回復すること。頻繁に課される演習問題を次週までに必ず解答してくる。
科目学習の効果(資格)	一級建築士・二級建築士資格取得のために必須である。本講義については、単位修得のために取り組むのではなく、将来の一級建築士・二級建築士受験時をみすえて取り組むこと。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンス・構造力学で用いる用語	授業の目的と概要、評価基準と注意事項、構造力学で用いる用語	(事前) 構造力学Ⅰ・構造力学Ⅱで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
2	荷重・外力	建物に作用する荷重と外力	(事前) 構造力学・構造基礎で学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
3	力のつり合い (1)	梁の断面力計算と断面力図	(事前) 構造力学Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
4	力のつり合い (2)	ラーメン構造の断面力計算と断面力図	(事前) 構造力学Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
5	力のつり合い (3)	静定梁の断面力計算と断面力図まとめ	(事前) 構造力学Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
6	断面の性質	断面二次モーメントの算出	(事前) 構造力学Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
7	静定トラス	トラス構造物の実践的解法	(事前) 構造力学Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
8	断面に作用する応力 (1)	曲げモーメントが作用する場合の応力算定	(事前) 構造力学Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
9	断面に作用する応力 (2)	軸方向力と2方向の曲げをうける梁要素の応力	(事前) 構造力学Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
10	梁の変形 (1)	梁構造のたわみ・たわみ角	(事前) 構造力学Ⅱで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
11	梁の変形 (2)	ラーメン構造のたわみ・たわみ角	(事前) 構造力学Ⅱで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
12	梁の変形 (3)	ラーメン構造のたわみ・たわみ角	(事前) 構造力学Ⅱで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
13	木材	木材の性質と強度	(事前) 建築材料Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
14	セメント・コンクリート	セメントの性質と強度、コンクリートの性質	(事前) 建築材料Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
15	鋼材	鋼材の性質と強度	(事前) 建築材料Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する

関連科目 構造力学・構造基礎、構造力学Ⅰa、構造力学Ⅰb、建築材料Ⅰ他、建築構造関係の全科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「図説 構造力学入門」	豊田正敏/島村和夫	東洋書店
2	「建築構造力学Ⅰ 図説・演習」	中村恒善	丸善
3	「鉄筋コンクリート構造の基本と部材の設計」	永坂具也・柳沢学	彰国社

評価方法(基準) 3回の講義内テスト(20%×3回)と期末試験(40%)の成績を合計して評価する。

学生へのメッセージ 一級建築士・二級建築士資格取得のために構成した科目です。本講義については、単位修得のために取り組むのではなく、将来の一級建築士・二級建築士受験時をみすえて取り組んでください。単に数式や計算手法を学ぶだけではなく、建築骨組みの力の流れや変形の様子などを理解できるよう心がけること。

担当者の研究室等 8号館3階・・・池内教授室、西村教授室、柳沢教授室

備考 ・事前学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回0.5時間以上の時間をかけること
・事後学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1時間以上かけて問題を解きなす。特に授業で解答した問題は必ず解きなすこと。

科目名	材料デザイン	科目名(英文)	Building Texture and Design
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	伊熊 昌治, 竹原 義二
ディプロマポリシー(DP)	F◎		

授業概要・目的	<p>建築を構成する材料の選択は空間やコンセプトの表現として重要な要素である。その為に材料の種類と特徴を知り、適材適所に材料を選択し劣化を防ぎ快適で安全な居住環境を実現することを学ぶ必要がある。鉄、アルミといった金属・ガラス・木・コンクリートから建築を構成する様々な材料について紹介し、伝統的な材料から近年開発された新素材まで幅広い材料についての知識と使用にあたっての留意点、デザインの実現のための使用方法についての基礎知識を身につけるとともに、どんなデザイン意思が潜んでいるのかを探る。デザイン(意思)を表現し、実現する為に材料を選択する(デザインする)プロセスを学び実際の設計演習課題での作品のイメージの多様性の獲得や設計密度をあげることも目指す。</p>
到達目標	<p>現実の建造物の仕上げあるいは内装についての材料に関する知識を得ることで、町並みデザインや建築デザインへの関心を高めるとともに工業化製品のかかえる問題点や、材料の耐久性や耐火性、設計者の使用意図等についての理解を深める。材料のもつ強度、物性からディテールを含めた設計方法、建築写真に映る姿・材料の歴史性、意匠性文化価値等についての理解を深めることを目標とする。</p> <p>実際に材料を選択し、実際の設計演習等での計画内容にそったカラースキーム(材料を張合わせた仕上げパネル)を作成することを目指す。</p>
授業方法と留意点	<p>①材料の見え方(距離、肌理等) ②材料の使われ方(設計方法、ディテール、材料の歴史性、意匠的・文化的価値) ③実際に材料を選ぶ の3部構成とする。</p> <p>講義時にプリントあるいは資料を配布する。国内外の事例を中心とした紹介を行うが、ミニレポートとして各自で事例を収集調査することも必要となる。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>材料の経年変化に対する意識を高め、使用する材料に意識的になることで室内外の建築材料についての知識を得られるとともに実際に材料を選択することでリアリティを得ることができる。</p> <p>高効率エネルギーや省エネルギーについて配慮した建築デザインについて理解を深めることができる。一級建築士資格取得やインテリアコーディネータ取得にも役立つ。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 材料とデザイン	材料を使ってデザインをするのか。デザインを実現する為に材料を使うのか。工業化にともなう材料の開発と新素材を使用した事例を近代建築史のなかから学び材料(素材)をどのように使用・利用してきたのかの概略を学ぶ	自分をとり囲む環境の中で、どのような材料が使われているかに注意を向ける。 フォロクターージュにてその表面を映し出す。
	2	①材料の見え方 材料とテクスチャー	材料のテクスチャーと肌理 距離によるテクスチャーの変化 安全な表面仕上げ 呼吸する材料	距離によってテクスチャーが変化する事例を探す 環境に呼応する材料とはどんなものか。
	3	①材料の見え方 材料と時間 (時間のなかの建築)	発酵する材料と腐敗する材料 長寿命の為の材料 経年価値と新しさの価値、歴史的価値と保存価値	時間と共に熟成する材料、腐敗していく材料を探す。
	4	①材料の見え方 材料と透明性・表層 (表層デザイン)	透明性実現の為の材料(事例紹介) ガラスを中心とした透明性・透過材料 虚の透明性と実の透明性 ガラスを床に使う、壁に使う、天井に使う、屋根に使う	透明性を実現している事例をチェックする。 覆い隠すことで、実体がますます強調
	5	①材料の見え方 軽く見せる・重く見せる、暖かく見せる・冷たく見せる (材料デザインと構法)	屋根・庇を軽く見せる 床・壁を薄くする 天井を軽くする 床・壁・天井の区別をなくす	軽くみえる、重くみえる・薄くみえる・厚くみえる 事例を探す・ 各種材料のサンプルを集める。 建物の部位別に同じ素材が使われている(床、壁、天井、屋根等)事例とその違いを列挙する。
	6	竹原義二先生講義-1	建築作品の事例と分析 建築家の歴史 時代性 ドローイング	ノートに紹介建物スケッチをする 建築家の意図・コンセプト 隠された秩序等について調べる
	7	②材料の使われ方 システムと材料	オープンシステムとクローズドシステム モジュールとデザイン プレファブリケーションとデザイン	規格品を用いた材料デザインについて考える 便利なようで不便なシステムの事例を探す
	8	竹原義二先生講義-2	建築作品の事例と分析 建築家の歴史 時代性 ドローイング	ノートに紹介建物スケッチをする 建築家の意図・コンセプト 隠された秩序等について調べる
	9	②材料の使われ方;建物を構成する材料の特性 (材料と色)	現代建築は白い? 建築と色について 光と影	建築に色が有効に使われている事例を探す
	10	②材料の使われ方;建物を構成する材料の特性 (材料と特殊機能)	耐久性・防滑性 断熱性・遮音性・音を反射する材料・防火材料	実際の建築の熱貫流率を算出する。
	11	竹原義二先生講義-3	建物具体的事例の分析 ドローイング ディスカッション	建築全般について 建築を目指して。 建築への関わり方。
12	③材料を選ぶ 材料の歴史性、意匠的・文化的価値 材料とイメージ・デザインの	各種材料と構法について 各々の歴史性について イメージ・デザインを表現するための材料	国内外の事例でコンセプトを明確に表現している材料を使用している事例を探す。 国内外の事例について興味のある建築での材料を収集する。	

	表現 コンクリート、鉄骨、土壁、瓦等素材 木造、RC造、S造、コンクリートブロック造	材料とディテール 国内外の事例																	
13	③材料を選ぶ 材料の歴史性、意匠的・文化的価値 材料とコンセプト	コンセプトと使用材料との関係 今までと異なる場所に異なる材料を使う 国内外の事例紹介 素材から材料を考えだす。(ある素材を選択し、利用方法を考えてみる。)	国内外の事例でコンセプトを明確に表現している材料を使用している事例を探す。 国内外の事例について興味のある建築での材料を収集する。																
14	③材料を選ぶ 意思を実現するための材料デザイン	設計演習での自分の作品について自分のコンセプトを表現する材料を選択する。	実際の材料を収集する。 仕上げ材料表としてパネルにまとめる。																
15	③材料を選ぶ 意思を実現するための材料デザイン	設計演習での自分の作品について自分のコンセプトを表現する材料を選択しプレゼンテーションを行う。	実際の設計演習課題での作品について各種仕上げ表を作成する																
関連科目	建築環境工学やデザインと材料は密接な関係にある。 建築基準法でも防火等安全面から多様な材料の指定が記載されている。 国内外の事例から建築家のコンセプトや考えを具現化するための材料の選択についても興味を持つ事は需要である。さらに実際の建物を訪れて、計画、デザイン、環境等の知識を総合する訓練を日々行うことも薦める。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2回生での教科書、建築材料、菊池雅史・小山明男著 (オーム社) 以外の本については適宜紹介をする</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	2回生での教科書、建築材料、菊池雅史・小山明男著 (オーム社) 以外の本については適宜紹介をする			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	2回生での教科書、建築材料、菊池雅史・小山明男著 (オーム社) 以外の本については適宜紹介をする																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ベーシック建築材料</td> <td>野口貴文他著</td> <td>彰国社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>素材の系譜</td> <td>隈研吾監修/長井宏憲著</td> <td>グラフィック社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>メディアとしてのコンクリート</td> <td>エイドリアン・フォーティ著</td> <td>鹿島出版会</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ベーシック建築材料	野口貴文他著	彰国社	2	素材の系譜	隈研吾監修/長井宏憲著	グラフィック社	3	メディアとしてのコンクリート	エイドリアン・フォーティ著	鹿島出版会
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	ベーシック建築材料	野口貴文他著	彰国社																
2	素材の系譜	隈研吾監修/長井宏憲著	グラフィック社																
3	メディアとしてのコンクリート	エイドリアン・フォーティ著	鹿島出版会																
評価方法 (基準)	授業中でのミニレポート 50% 最終レポート 20% 最終レポートへの取り組み評価 30%																		
学生への メッセージ	建築材料の知識を身につけることで実際の設計演習課題への取り組みも具体性を帯び、プレゼンテーションに役立てることができる。 さらに材料から喚起されるデザインからイメージの枠を広げることができる。 新しさと同時に耐久性や耐摩耗性といった観点からも周囲の建築や都市を眺めることができ、視野を広げることができる。 さらにミニレポートや発表を経て自分の意見をまとめ、相手にきちんと伝える訓練ができる。 また講義時の三回程、特別授業を開催し多面的な内容や知識や話を聴講する機会を設ける。																		
担当者の 研究室等	8号館3階 建築学科共通準備室																		
備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む 伊熊連絡先：shoikuma@aol.com にて必要に応じて質問等を受け付ける。																		

科目名	地盤工学	科目名(英文)	Geotechnical Engineering
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	細野 久幸
ディプロマポリシー(DP)	H◎		

授業概要・目的	<p>建物を地盤の上に安全に建てる時、同じような建物であればどんな地盤でも同じように建てればよいということはありません。建てようとする地盤の特性を把握し、建物の力学的特徴を踏まえて、建物を地盤の上に建てる必要があります。地盤の特性を知るためには、土の基礎的な力学性状(土質力学)を理解することが大変重要です。土の構成、その構成によって変わる力学特性を学び、それをもとに、私たちの建物を支える建物基礎の設計と施工(基礎工学)について考えることができる「地盤工学」力をつけることを目的とします。</p> <p>授業は地盤の成り立ち、建物と地盤の相性を考え、考えるために必要な基礎的な土質力学、基本的な建物基礎(直接基礎、杭基礎)の建物を支持させるための基本的な考え方を学びます。ある地盤に建設する建物が問題となるのはどこか、考える演習を設計事例、現場事例を踏まえながら行なっていきます。</p>
到達目標	<p>基礎的な土質力学を理解し、敷地の状況から地盤調査すべき項目、建物の特性を踏まえての建物の基礎計画、建物基礎の設計、施工における留意点など、地盤建築基礎工学への応用方法へ展開するための基本的な考え方を取得することを目標とする。地盤と建物の関わりを捉えることのできる設計的視点(マクロ)と、土粒子+水+空気で構成される土の力学的・化学的挙動の細部を捉える細部観察視点(ミクロ)を合わせ持ち、考えられる問題は何か、対処としてどうすればよいかという視点をたくさん持って技術的に考える力をつけていくことを目指す。</p>
授業方法と留意点	<p>配布資料をもとにスライド(パワーポイント)を使用して授業を行う。また、スライドのみで理解ができていない部分については、随時、黒板上でも理解度に応じて解説を行う。復習して技術を身につけるために、授業後の理解度を確認する即日レポートの他、次回の授業に、前回の授業で学んだことを理解するための即日レポート作成を実施する。このレポート提出を出席とする。毎回配布するテキストは即日レポート作成と期末テストで使用するので保管しておくこと。授業テーマによっては、簡単な計算を必要とする場合があるので、電卓を携帯しておくこと。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>基礎的な土質力学の理解、地盤調査の方法と種類、建物基礎の計画、設計と施工について留意すべき点が理解できる基礎的な「地盤工学」力を身につける。一級建築士、構造設計者、現場技術者、技術士などで必要とされる「地盤工学」の基礎能力を取得する。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	地盤工学ガイダンス 概論	ガイダンス 土質工学と基礎工学の概論 地盤の成り立ちと、地盤上に建てることについての概論	当日配布するテキストで講義を行う。授業後半に、物を安定させるためにはどうすればよいかについて考えたり、疑問に思うことをあげてもらう。
2	地盤と建物の相性・地盤災害	建物と地盤のマクロな挙動(建物と土の力のやり取り) 静的・動的な建物と地盤の相互作用(沈下問題、地震被害) 過去の地盤災害	前回授業を復習するレポートと今回授業で学んだことについてレポート作成を行う。前回到講義、配布したテキストの復習をしておくこと。
3	土の分類と粘土・砂の基本特性	土の分類と基本量、試験方法、粘土と砂の違いは何か、その基本特性を知る	前回授業を復習するレポートと今回授業で学んだことについてレポート作成を行う。前回到講義、配布したテキストの復習をしておくこと。
4	土と水、地表荷重と地中応力	地下水と土、有効圧と中立圧、上載圧 災害事例を踏まえた土と水の関係	前回授業を復習するレポートと今回授業で学んだことについてレポート作成を行う。前回到講義、配布したテキストの復習をしておくこと。
5	地下水の水理学、土の透水性	地中での水頭差、土の透水係数 砂のボイリング、液状化現象と液状化算定	前回授業を復習するレポートと今回授業で学んだことについてレポート作成を行う。前回到講義、配布したテキストの復習をしておくこと。
6	土の圧縮性と圧密	土の圧縮性状、土内の水が排出される圧密理論、絞り出し破壊	前回授業を復習するレポートと今回授業で学んだことについてレポート作成を行う。前回到講義、配布したテキストの復習をしておくこと。
7	土のせん断強さ	土はどのようなときに壊れるのか。 Coulombの式と土のせん断破壊 Mohr・Coulombの破壊規準	前回授業を復習するレポートと今回授業で学んだことについてレポート作成を行う。前回到講義、配布したテキストの復習をしておくこと。
8	土圧	建物に作用する受働土圧、主働土圧、静止土圧 隣接する建物から受ける土圧	前回授業を復習するレポートと今回授業で学んだことについてレポート作成を行う。前回到講義、配布したテキストの復習をしておくこと。
9	建物の支え方 建物の特性と地盤の性質 基礎の種類	敷地に対する建物の支え方を考える 基礎の種類(地盤改良・異種基礎・パイル ド・ラフト含む) 基礎形式の選択	前回授業を復習するレポートと今回授業で学んだことについてレポート作成を行う。前回到講義、配布したテキストの復習をしておくこと。
10	地盤の調査と試験 基礎の計画	標準貫入試験と土質柱状図、 室内土質試験概要 孔内水平載荷試験 土の動的性質 表層地盤の増幅特性	前回授業を復習するレポートと今回授業で学んだことについてレポート作成を行う。前回到講義、配布したテキストの復習をしておくこと。
11	直接基礎の設計(1)鉛直	支持力の考え方(どのように土は上に載った建物を支持しているのか、メカニズムを理解する) 地盤の形状に応じた基礎検討	前回授業を復習するレポートと今回授業で学んだことについてレポート作成を行う。前回到講義、配布したテキストの復習をしておくこと。
12	直接基礎の設計(2)鉛直・水平	地盤の沈下と不同沈下 基礎の設計方法 地震時の水平抵抗	前回授業を復習するレポートと今回授業で学んだことについてレポート作成を行う。前回到講義、配布したテキストの復習をしておくこと。
13	杭基礎の設計(1)鉛直	杭の種類と工法概要 杭の鉛直支持力(先端支持力、摩擦力) メカニズムの理解 杭の設計(鉛直)	前回授業を復習するレポートと今回授業で学んだことについてレポート作成を行う。前回到講義、配布したテキストの復習をしておくこと。
14	杭基礎の設計(2)水平	杭の水平抵抗、引抜き抵抗 杭の設計(水平)	前回授業を復習するレポートと今回授業で学んだことについてレポート作成を行う。前回到講義、配

	15	側面土圧を受ける地下外壁・擁壁・山留め壁の設計 総復習	地盤の変位による影響（応答変位） 側面土圧を受ける地下外壁，擁壁，施工時に用いる山留め壁などの構造物の計画、設計	布したテキストの復習をしておくこと。 前回授業を復習するレポートと今回授業で学んだことについてレポート作成を行う。前回は講義，配布したテキストの復習をしておくこと。																
関連科目	構造力学，鋼構造，鉄筋コンクリート構造，建築施工，耐震工学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	即日レポート＋課題レポート：40% 期末試験：60%																			
学生への メッセージ	<p>建物とは、どのようにして建っているのだろう。 同じような建物でも地盤の違いによって、被害が生じたり、何も起こらなかったりするのなぜだろう。 身近な物に置き換えて動きを考えると、それは意外に簡単な力学的考察で説明することができることが多い。 実際の建物がどのようにして建っているか、設計、施工を行なう上でどんなことを考える必要があるのか。 まずは地盤工学の基礎を学び、そしてその基礎の応用の仕方について学んで、自分の技術として地盤工学を加えてみないだろうか。 決して難しくはない。土がどんなものかを知り、どのようにこの土の上に建物が建っているかを知れば、建築に対する可能性も広がってくる。 構造を目指す人だけでなく、企画・計画・デザイン・設備など建築全般を目指す人にも、是非、建築物を建てる土台（foundation）について、基本的な判断ができる力を身につけてほしい。 授業で分からなかったこと、普段、建物がなんで建つことができるのか疑問に思っていること、どんどんあげて尋ねてほしい。</p>																			
担当者の 研究室等	建築学科共通準備室																			
備考	<p>事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1時間以上かけて取り組み、授業でわからなかったところは授業後に、遠慮なく質問してほしい。 授業時間外で質問したいことがある場合は、建築学科共通準備室まで書面で提出するか、メール（hosono@leto.eonet.ne.jp）で連絡してもらいたい。</p>																			

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	妹尾 史郎・藤井 信忠
ディプロマポリシー (DP)	E◎		

授業概要・目的	コンピュータと情報通信ネットワークを利用するために必要な基礎的知識と技術を習得する。Windows システムをベースとして、オフィスアプリケーションの基本操作の習得と、電子メールやインターネットの利用技術、さらには数値データの収集・分析に必要な基礎技法を習得する。
到達目標	理工学に関連する情報処理の重要性を認識する。コンピュータの基本操作を習得し、理工学の学習・研究においてコンピュータを有効活用できるようにする。
授業方法と留意点	Word, Excel および PowerPoint を取り上げ、とくに数学的に考察する能力の向上を図ったデータ収集と分析に関する演習課題を提示し、演習を行う。また、コンピュータと情報通信ネットワークの基礎知識を習得するための資料を配付する。
科目学習の効果 (資格)	IT パスポート (国家資格) や Microsoft オフィスペシャリスト (民間資格) の試験に役に立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	利用システムの概説	・演習室の概要とシステム ・授業計画と受講留意事項の説明	情報処理室の利用手引きに目を通しておく。
2	Windows システム	・Windows の基本操作	ファイル操作と文字入力に慣れる。 (1 章全般)
3	電子文書の作成	・Word の基本操作, レイアウト ・ファイル入出力	Word の起動・終了, 文書ファイルの読込・保存方法を理解する。 (2.1~2.4 の演習課題)
4	電子文書の作成	・罫線と表作成 ・オブジェクト (図) の挿入	罫線の引き方, 表と図の作成方法を整理しておく。 (2.5~2.7 の演習課題)
5	表計算入門	・Excel の基本操作 ・セルの概念	Excel 起動・終了, 表計算ファイルの読込・保存方法を理解する。 (3.1~3.3 の演習課題)
6	表計算とグラフ	・グラフの作成 ・簡単なデータベース	セルの相対参照と絶対参照の違いを整理する。 (3.4~3.5 の演習課題)
7	表計算と関数	・数学関数 ・統計関数	利用する数学関数の使い方を理解する。 (3.6 の演習課題)
8	演習	・表計算のまとめ ・理工学系レポート作成の基本	レポート作成要領を理解する
9	電子メール	・電子メールの配信の仕組み ・課題のメール送信	添付ファイルの送信方法を理解する。 (4.1, 4.2 の練習)
10	ネット技術と情報検索	・情報検索の方法 ・HTML 入門	インターネットの仕組みを理解する。 (4.3 と 5.1 の練習)
11	演習	・情報検索と HTML レポートのまとめ方	レポートのまとめ方を整理する。 (演習課題配布)
12	プレゼンテーションソフト入門	・PowerPoint の基本操作	PowerPoint の起動・終了, ファイルの読込・保存を理解する。 (6 章全般)
13	プレゼンテーション資料の作成	・効果的なデータ提示 (ヒストグラム等) ・資料の作成方法	Word 文書の作成との違いを理解する。 (6 章全般)
14	テクニカル・プレゼンテーション 総合演習 (1)	・プレゼンテーション資料の作成演習 ・発表の仕方	総合演習課題
15	総合演習 (2)	・演習課題とレポート作成	総合演習課題

関連科目 -

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Office 2013 で学ぶコンピュータリテラシー	小野目如快	実教出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	毎回の演習や小テスト (30%) と、演習レポート (70%) で評価する。
学生へのメッセージ	学業を遂行していく上で必須となる情報処理の基本技術を身に着けることができます。毎回実施する演習課題を着実にこなしていくことが重要です。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回 1.5 時間以上かけて取り組む

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名(英文)	Information Literacy II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	妹尾 史郎・藤井 信忠
ディプロマポリシー(DP)	E◎		

授業概要・目的	情報技術の有効利用の中でも、科学技術分野においてとりわけ重要であるデータの処理と分析のための種々の数学的処理技法を理解する。表計算ソフトを用いて、その特有のデータ処理・分析の操作・手順を学ぶ。
到達目標	理工学分野で必要となる情報(数値データ)の処理方法と基本的分析方法を習得する。
授業方法と留意点	代表的かつ標準的な表計算ソフトであるExcelを対象とする。Excelの多種多様な機能のうち理工系の学生にとって必要なデータの集計・分析に有効利用できる機能に焦点を絞り、表計算を利用した数学的な考察能力の向上を促進するための演習を行う。
科目学習の効果(資格)	ITパスポート(国家資格)やMicrosoft オフィススペシャリスト(民間資格)の試験に役に立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	利用システムの説明 表計算の基本操作(1)	・演習室の概要とシステム ・授業計画と受講留意事項の説明 ・ソフトの起動・終了、データ入力	情報処理室の利用手引きを読む。 (第1~3回の課題)
2	表計算の基本操作(2) 効果的なグラフ表現	・表の整形、数式入力 ・式のコピーと貼り付け ・グラフの作成	表のレイアウト設定に関する演習課題の配布 (第4~6回の課題)
3	関数の利用	・数式の書き方 ・関数ウィザード	統計基本関数を用いた演習課題の配布 (第7回の課題)
4	データ集計とセルの参照	・セルの相対参照と絶対参照 ・データの並び替え	オートフィルタの演習 (第8回の課題)
5	ヒストグラム	・分析ツールの利用 ・論理関数によるヒストグラムの作成	ヒストグラム作成の演習 (第9回の課題)
6	散布図と回帰分析	・回帰直線とデータの推測	散布図の作成と回帰直線によるデータ分析の演習課題 (第10回の課題)
7	相関係数	・相関係数とは ・相関係数の求め方	相関係数を用いたデータ分析の演習課題 (第11回の課題)
8	統計基礎量(分布の代表値・広がり)	・分布の代表値(平均値/中央値/最頻値) ・分布の広がり(最大最小/分散/標準偏差)	データ集計とデータ分布の割合に関する演習課題 (第12回の課題)
9	正規分布	・正規分布とは/標準正規分布 ・分布データの存在確率	正規分布関数を用いたデータ分析の演習課題 (第13回の課題)
10	データの標準化(平均と標準偏差)	・平均が異なるデータの比較/標準偏差の異なるデータの比較 ・分布の異なるデータの比較/データの標準化	データの標準化と比較の演習課題 (第14回の課題)
11	分析ツールによる単回帰分析	・散布図による回帰分析 ・相関係数と決定係数 ・分析ツールを用いた単回帰分析	分析ツールを用いた単回帰分析の演習課題 (第15回の課題)
12	重回帰分析	・相関行列/重回帰分析の基本 ・判別分析	簡単な判別分析の演習課題 (第16回と第17回の課題)
13	重回帰分析の応用(数量化理論)	・数量化理論の基本 ・数量化理論による分析方法	簡単な数量化理論の演習 (第18回と第19回の課題)
14	乱数とモンテカルロ・シミュレーション	・乱数とは ・乱数の発生方法	乱数を用いたシミュレーションデータの作成
15	総合演習	・まとめ	データ集計・分析の総合的演習課題

関連科目	情報リテラシーⅠ
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	毎回の演習や小テスト(30%)と、演習レポート(70%)で評価する。
学生へのメッセージ	上位学年次の学習や研究で必要となるデータの処理と分析の方法を効率よく学ぶことができます。毎回実施する演習課題にじっくり取り組む姿勢が大事です。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	教科書については演習テキストを配付する。参考書については、必要に応じて関連書籍(アスキー出版、インプレス出版等)を各自用意するとよい。 事前学習:事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む

科目名	図学 I	科目名 (英文)	Descriptive Geometry I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	木多 彩子, 河野 学
ディプロマポリシー (DP)	E◎		

授業概要・目的	[授業概要・目的] 建築は、建築家がイメージした空間 (3 次元) が客観化・図形化され、その図面 (2 次元) に従って施工されて、現実の建築 (3 次元) として完成される。図学 I では 3 次元の立体をいかに 2 次元で表現するか、つまり、いかに図形化するか、そして図形化された形を、いかに空間に結びつけて読み解くかの方法を、点、直線、平面、立体の各正投影法によって学ぶ。
到達目標	[到達目標] 1) 直線の正投影の考え方と作図方法。2) 平面の正投影の考え方と作図方法。3) 立体の正投影の考え方と作図方法。4) 正投影の陰影。
授業方法と留意点	図学 I では、各授業において教科書を用いた講義と応用演習プリントにより、段階的に図形に対する理解を高め、具体的な図形操作能力と空間把握力を培う。
科目学習の効果 (資格)	図学 II や設計演習の基礎的知識を培う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	図学基礎	図学の概説と授業概要、線の等分、角の等分、楕円による作図作業基礎	復習予習課題 (1)
	2	点の正投影 1	投影と正投影、正投影図	復習予習課題 (2)
	3	点の正投影 2	点の正投影図と副投影図	復習予習課題 (3)
	4	直線の正投影 1	直線の正投影図と跡	復習予習課題 (4)
	5	直線の正投影 2	直線の正投影と実長、傾角	復習予習課題 (5)
	6	平面の正投影 1	平面の正投影図と傾角	復習予習課題 (6)
	7	平面の正投影 2	平面の交線	復習予習課題 (7)
	8	第 2 回から第 7 回の復習	第 2 回から第 7 回の内容を総括して、ここまでの流れを復習する	第 7 回までの授業の不明点を明確にする
	9	中間試験	試験範囲を狭め理解を深める	試験対策
	10	平面の正投影 3	平面の開角と実形	復習予習課題 (8)
	11	立体の正投影 1	正多面体の平面図と立面図	復習予習課題 (9)
	12	立体の正投影 2	立体の切断、断面図	復習予習課題 (10)
	13	陰影 1	直線・平面の陰影	復習予習課題 (11)
	14	陰影 2	立体の陰影	復習予習課題 (12)
15	第 10 回から第 14 回の復習	第 10 回から第 14 回の内容を総括して、ここまでの流れを復習する	第 14 回までの授業の不明点を明確にする	

関連科目	図学 II や設計演習のために修得しておくこと。
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築図学	佐藤 平	理工学社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	中間試験 (30%)、期末試験 (30%)、演習 (20%)、復習課題 (20%)
-----------	---

学生へのメッセージ	図学 I は必修科目であり、ぜひ 1 年次で単位を修得してほしいです。欠席せずに、まじめに演習に取り組んでいる学生で、単位が修得できない人はほばいません。予習よりも復習を大切に下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	8 号館 3 階 木多教授室
----------	----------------

備考	事前学習：事前・事後学習欄に示した内容について、毎回 0.5 時間以上をかけて調べておく。 事後学習：事前・事後学習欄に示した内容について、毎回 1 時間以上かけて問題を解きなます。
----	--

科目名	図学Ⅱ	科目名(英文)	Descriptive Geometry II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 健治・加嶋 章博
ディプロマポリシー(DP)	E◎		

授業概要・目的	図学Ⅱでは、投影を理解し、3次元の立体や空間を2次元の平面に描く図法を学習し、空間表現力ならびに空間把握力を強化する。主として軸測投影、透視投影、標高投影を学び、様々な形態や空間を適切に表現する力を培う。
到達目標	1) 軸測投影の作図方法の修得、2) 透視投影の作図方法の修得、3) 標高投影の作図方法の修得、4) 投影を用いたプレゼンテーションの理解
授業方法と留意点	各授業において配布プリントを用いた講義と演習により、軸測投影や透視投影を条件を変化させて段階的に学習する。
科目学習の効果(資格)	設計演習のための基礎的な表現手法の修得。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	軸測投影 1	軸測投影図の基礎	返却する演習プリントの復習または予習課題を行う
3	軸測投影 2	軸測投影図の応用 1	返却する演習プリントの復習または予習課題を行う
4	軸測投影 3	軸測投影図の応用 2	返却する演習プリントの復習または予習課題を行う
5	中間試験と標高投影	軸測投影の修得確認 標高投影	返却する演習プリントの復習または予習課題を行う
6	透視投影 1	直接法による透視図	返却する演習プリントの復習または予習課題を行う
7	透視投影 2	1 消点透視図法による透視図 1	返却する演習プリントの復習または予習課題を行う
8	透視投影 3	1 消点透視図法による透視図 2	返却する演習プリントの復習または予習課題を行う
9	透視投影 4	2 消点透視図法による透視図 1	返却する演習プリントの復習または予習課題を行う
10	透視投影 5	2 消点透視図法による透視図 2	返却する演習プリントの復習または予習課題を行う
11	透視投影 6	2 消点透視図法による透視図 3	返却する演習プリントの復習または予習課題を行う
12	中間試験と透視図	透視投影の修得確認 透視図を用いた表現	返却する演習プリントの復習または予習課題を行う
13	投影による表現 1	投影の応用 1 (分割)	返却する演習プリントの復習または予習課題を行う
14	投影による表現 2	投影の応用 2 (影)	返却する演習プリントの復習または予習課題を行う
15	投影による表現 3	投影の応用 3 (ドローイング)	返却する演習プリントの復習

関連科目 図学Ⅰ、設計演習科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 授業への積極的な関与及び毎回の演習(20%)、中間試験の合計(40%)、期末試験(40%)。遅刻、欠席は減点対象とします。

学生へのメッセージ 毎回の演習内容は、段階的な理解を目指して作成している為、欠席した場合は必ず自己学習をして追いついてください。学習する内容について実際どのように使うか意識して、演習に取り組んでください。また、必修科目ですので是非1年次で取得してください。

担当者の研究室等 8号館3階 小林講師室

備考 事前学習：各回の内容について、教科書を参照しながら、毎回0.5時間以上調べておく
事後学習：返却したプリントに書かれたコメントを参照しながら、毎回1時間以上かけて解きなます。
教科書は指定しませんが、設計演習1と同じテキストを適宜参照しますので、授業の際は持参してください。

科目名	西洋建築史	科目名(英文)	History of European Architecture
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	加嶋 章博, 池内 淳子, 小林 健治
ディプロマポリシー(DP)	F◎		

授業概要・目的	この授業では、現代建築のデザインと秩序の形成背景にある西洋の建築の変遷を説明する能力を培うことを目標とする。世界の近代建築の成立に大きく関わっているのがヨーロッパ建築であり、また、わが国でも明治以来「西洋化」を試みて来た延長線上にある日本の現代建築のルーツを理解するのに、西洋建築は外せない。「建築」の変遷、そして、現代建築の源泉を辿るという視点から西洋建築史を学習し、あわせて建築設計にも資する計画性や建築論についての最低限の知識と評価力を身に付ける。
到達目標	この科目の目的は、実は「史」の知識習得ではなく、「表現力」「建築の評価力」をつけることにある。現代は様式建築の時代ではないものの、西洋建築史は今なお建築の領域では世界共通の発想の源となっている知識体系といえる。建築に携わるものの基本知識としてそれを俯瞰できる目を培う。「建築」という言葉自体がギリシアに由来し、2000年以上にわたってこの概念のもとに建造物が営み続けられてきたのが「西洋」であることを多くの事例を通して理解する。建築の基礎学力として西洋建築史に対する「感性」を磨き、現代建築、日本建築との関係も捉えながら、今日の視点で西洋建築をみていく。
授業方法と留意点	スライドを多用し、視覚的理解に努める。講義は教科書に概ね対応して進めるので、受講前に必ず該当箇所を読んでくること。
科目学習の効果(資格)	世界各国の建築を理解し、それらの価値を大きく捉える眼を養うとともに、設計思想に役立てることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	現代人が見る西洋建築史	古代から19世紀までのヨーロッパ建築の大きな流れを把握する。また、時代様式(固有の建築的特徴)という見方の意味と限界を考える。	教科書 pp. 17-21.
2	現代と異なる古代建築のスケール	古代オリエント、古代エジプト建築から建築の記念性と象徴性を考える。	教科書 pp. 17-21.
3	建築とチューリップ畑 ～古代ギリシア建築の秩序～	神秘性、記念性、秩序性の高い空間を計画するうえで大切な視点を述べる。建築における秩序とは何かを古代ギリシア建築と都市計画から読み取る。	教科書 pp. 22-25.
4	今に伝わるローマ建築の構造(1)	古代ローマ建築の変遷と代表的建築について学び、古代ローマ建築がどのように使われていたのかを概観する。拡大していった建築のタイポロジーという見方を理解する。	教科書 pp. 26-30.
5	今に伝わるローマ建築の構造(2)	古代ローマ建築の変遷と代表的建築について学び、古代ローマ建築がどのように使われていたのかを概観する。拡大していった建築のタイポロジーという見方を理解する。	教科書 pp. 26-30.
6	十字架を大地に刻む建築	バシリカ式と集中堂式の教会堂とは何か。ローマ世界のキリスト教化とローマ帝国の東西分裂と建築様式の特徴を理解し、初期キリスト教建築とビザンチン建築の変遷と代表的建築について学ぶ。	教科書 pp. 32-35.
7	ロマネスク建築の構造	ロマネスク建築にヨーロッパ中世建築の一つの完成形を見る。構造、形式、表現の諸側面にわたって、知的に極めて洗練された象徴的な聖なる空間の構造とありようを考える。石と光の造形を見る。	教科書 pp. 36-39.
8	ゴシック建築の構造(1)	ゴシック建築にロマネスクとは全く異なる心性で出来たもう一つの聖なる空間の完成形を見る。極めて感覚的に構造化された民衆のための聖なる空間の構造とありようを考える。	教科書 pp. 40-44.
9	中世建築の特質	中世建築を通して建築を言語的に理解する。中間試験を含む。	授業前半を復習する。
10	ゴシック建築の構造(2)	ゴシック建築の建築的特徴と実際の空間を理解する。	教科書 pp. 40-44.
11	建築のルネサンス ～クラシックとは何か～	ルネサンス建築その1) ルネサンス期の建築における特徴について、現代的視点から解釈する。古典主義建築の創始を、ルネサンスの代表的建築家の考えと代表的作品の中に見る。	教科書 pp. 45-47.
12	マニエリスムの建築	ルネサンス建築その2) 様式と手法(マニエラ)による新しい造形原理。建築デザインにおける知的な操作を理解する。	教科書 pp. 48-51.
13	イタリア・バロック ～建築と真珠～	バロック建築その1) 建築が社会状況に反応し、他の芸術と手を組んで一つの政治的、宗教的プロパガンダとして形を変えたバロック建築のありようを理解する。	教科書 pp. 52-53.
14	フランス・バロック ～都市スケールの建築と演出～	17～18世紀のフランスの建築に、古典主義洗練の諸相を見る。国家の建築として、如何に古典主義建築が体系化、規範化されて行くかを、代表的建築家の作品を通して見て行く。	教科書 pp. 54-55.
15	西洋建築史の学習をどう設	西洋建築・近代建築・日本建築のつなが	教科書 pp. 58-66.

	計や建築の評価に活かすか	りを理解し、現代建築の可能性を考える。	
関連科目	設計演習、近代建築史、建築計画など、計画系科目の学習に資するよう、専門用語の使い方にも留意してください。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	カラー版 図説 建築の歴史：西洋・日本・近代	西田 雅嗣・矢ヶ崎 善太郎（編）
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	図説 西洋建築史	陣内 秀信ほか
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への積極的な関与やレポート等の提出物（30%）、中間試験または論述レポート（30%）、期末試験または論述レポート（40%）を総合的に判断する。		
学生への メッセージ	「史」がつく授業ですが、設計製図に結びつく視点から講義します。建築を志す者として様々な建築を丁寧に見て、その作意を感じ取ってください。歴史の暗記という意識は捨てて、現代的視点で捉えながら建築に対する興味関心はどこにあるのかを模索する材料にしてほしい。		
担当者の 研究室等	8号館3階 加嶋教授室		
備考	<p>【事前学習】 事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回30分をかけて内容を理解する。</p> <p>【事後学習】 事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1時間かけて、教科書以外の資料や実際の建築物に目を向ける。出来るだけ視覚的資料にあたること。</p>		

科目名	設計演習 I	科目名 (英文)	Exercises in Architectural Planning and Drawing I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	木多 彩子, 大津 若果, 加嶋 章博, 小林 健治, 杉山 圭一, 新森 雄大, 山根 健太郎
ディプロマポリシー (DP)	F◎		

授業概要・目的	【授業概要・目的】建築設計の学習は、図面の作成を通して行なう。最初に、建築設計図面がどのようなものかを学ぶため、建築の一般図と詳細図を模写し、各図面の意味内容や表記法などを理解する。つづいて、小規模建築の設計課題に取り組み、アイデアを如何に表現するのか、設計の方法や表現技法を学習する。さらに、実寸の制作を通じて、素材の特性と構造の関係を学ぶ。
到達目標	この演習では、①図面に関する知識や技能の修得、②設計の基本的な方法の習得、③表現技法の習得、を目標とする。
授業方法と留意点	第1課題は製図室で模写するので欠席すると提出期限内に完成できなくなる。第2課題・第3課題は時間外においても製図室と自宅と並行して作業をすすめ、担当教員の個別指導を受ける。また、全員に対し、課題ごとに様々な形で発表と講評の機会を設ける。
科目学習の効果 (資格)	建築設計はすべての専門科目とかわる大変重要な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	設計図の模写(第1回)	図面の意味と種類の説明、製図道具の説明 課題の説明、グループ分けと作業方法の説明・配置図の作成	教科書 pp.6-11, 56-57
2	設計図の模写(第2回)	平面図の作成、各グループでの指導	教科書 pp.12-25
3	設計図の模写(第3回)	立面図と断面図の作成、各グループでの指導	教科書 pp32-49
4	設計図の模写(第4回)	配置図、様々な図面表現、各グループでの指導、次課題の説明	教科書 pp52-67, 102-113
5	小規模な建築の設計(第1回)	デザインサーベイのグループ発表、エスキース・設計方法の説明	敷地観察レポートの作成と事例収集
6	小規模な建築の設計(第2回)	全体平面計画の仕上げ、平面・断面エスキース、各グループでの設計方法の指導	建築の各部位の計測と作図
7	小規模な建築の設計(第3回)	エスキース、ボリューム模型の検討、各グループでの個別指導 一次提出、講評会、作品講評の視点、模型撮影についての理解	スタディ模型の事例を集める
8	小規模な建築の設計(第4回)	スタディ模型、断面計画、外構計画、各グループでの個別指導 二次提出、選抜作品の講評会、評価の視点の理解、全体講評	断面計画の事例を集める
9	小規模な建築の設計(第5回)	図面清書及びレイアウト：配置図、平面図、断面図、各グループでの個別指導	立面計画の事例を集める
10	小規模な建築の設計(第6回)	一次提出、講評会、作品講評の視点、模型撮影についての理解	ポートフォリオの事例を集める
11	小規模な建築の設計(第7回)	二次提出、選抜作品の講評会、評価の視点の理解、全体講評、次課題の説明	模型写真の事例を集める
12	実作(原寸)の制作(第1回)	かたちの検討	身近にあるかたちの根拠を集める
13	実作(原寸)の制作(第2回)	素材と構造の関係	素材の特性を活かした構造の事例を集める
14	実作(原寸)の制作(第3回)	原寸と縮尺、制作図(割付図)	納まり、寸法を調べる。
15	実作(原寸)の制作(第4回)	講評会	他者の作品を批評し、自身の作品を再考する

関連科目	専門科目全般
------	--------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	建築設計製図 住吉の長屋・屋久島の家・東大阪の家に学ぶ	貴志雅樹監修	学芸出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会	丸善出版
2			
3			

評価方法 (基準)	計画条件に対する考え方・プレゼンテーションなどの評価 20%、提出図面の完成度と技法などの評価 80%で各課題ごとに評価を行い、総合 60%以上を合格とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	建築設計はすべての専門科目の学習が反映される重要な分野である。特に設計演習 I はその第一歩であるが、初めて製図を学ぶ学生にとっては厳しい科目と感じるかもしれない。しかし欠席せずにまじめに学習すれば、必ず建築設計の楽しさや空間計画の面白さが理解できると思います。また、提出日時は非常に大切なものなので厳守してください。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館3階
----------	-------

備考	【事前学習】事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回 1.5 時間以上の時間をかけて図面や参考作品の特徴の理解に努めること。 【事後学習】事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回 3 時間以上かけて設計課題やエスキースを再検討するとともに、類似例、とくに視覚的資料を探すこと。
----	---

科目名	設計演習Ⅱ a	科目名(英文)	Exercises in Architectural Planning and Drawing Iia
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大谷 由紀子, 今津 康夫, 加嶋 章博, 木多 彩子, 白須 寛規, 武田 憲人, 中尾 勝悦, 柳沢 学
ディプロマポリシー(DP)	F◎		

授業概要・目的	[授業概要・目的] 本演習では木造、鉄筋コンクリート造の基礎的知識と図面表記を習得する。同時に、演習課題を通じて設計の進め方、模型によるボリュームや断面検討などスタディ方法、課題ごとにプレゼンする方法を学ぶ。課題は環境問題など今日的テーマを盛り込み、建築と社会の関係性を学ぶ機会とする。
到達目標	[到達目標] (1) 木造の基本構成と図面表現法の習得 (2) 住宅設計の基礎知識、模型づくりの技法等の修得 (3) 設計条件の設定能力や設計方法の修得、鉄筋コンクリート造の躯体計画技能、断面図の表現法、模型作成や透視図などによる提案方法の習得
授業方法と留意点	少人数グループを一人の担当教員が指導し、課題ごとに担当者が替わっていく。住宅の設計、交流施設の設計では授業時間は担当教員から指導を受ける時間であり、各自の設計作業、特に草案づくりは授業時間外にも行う必要がある。
科目学習の効果(資格)	建築学科での授業内容を総合的に理解することに役立つとともに、将来の建築士試験のために極めて重要である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	住宅の設計(第1回)	・グループ別指導など	参考図面・事例収集・エスキス模型作成など
3	住宅の設計(第2回)	・中間発表、グループ別指導などグループ別指導など	事例収集・現地調査・エスキス・模型作成など
4	住宅の設計(第3回)	・グループ別指導など	エスキス・作図・模型作成など
5	住宅の設計(第4回)	・グループ別指導など ・図面チェック	エスキス・作図・模型作成など
6	軸組模型の制作(第1回)	・模型の説明、グループ別指導など	事例収集・作図・模型作成など
7	軸組模型の制作(第2回)	・グループ指導など	作図・模型作成など
8	成果発表、講評	・設計課題および軸組模型のプレゼン、講評	作図・模型作成など
9	交流会館の設計(第1回)	・作業の説明 グループ別指導など	事例収集・現地調査・エスキス・作図・模型作成など
10	交流会館の設計(第2回)	・グループ別指導など	事例収集・現地調査・エスキス・作図・模型作成など
11	交流会館の設計(第3回)	・第1回中間発表 グループ別指導など	事例収集・エスキス・模型作成など
12	交流会館の設計(第4回)	・グループ別指導など	エスキス・模型作成など
13	交流会館の設計(第5回)	・第2回中間発表 グループ別指導など	エスキス・作図・模型作成など
14	交流会館の設計(第6回)	・グループ別指導	作図・模型作成など
15	成果発表、講評総括	・プレゼンと講評 ・学習の振り返り	—————

関連科目 建築設計・計画基礎、建築計画各論、設計演習Ⅰ、および専門科目全般

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	初めての建築設計ステップ・バイ・ステップ	川北健雄ほか5名	彰国社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	コンパクト建築資料集成	日本建築学会	丸善
2			
3			

評価方法(基準)	計画条件に対する考え方・プレゼンテーションなどの評価20%、提出図面(平面図、立面図、断面図を含む)の完成度と技法などの評価80%で各課題ごとに評価を行い、総合60%以上を合格とする。
学生へのメッセージ	設計演習は建築学科での学習の総合化であり、多くの建築事例を見学や研究して、着実に構想力、提案力をつけてください。教員や仲間との意見交換も重要です。 図面表記が身につくよう、設計Ⅰでのテキスト、コンパクト建築資料集成、専門誌などの図面を参照して習得してください。 提出物の未完成、未提出は評価対象とならないため、期限を厳守して取り組んでください。
担当者の研究室等	8号館3階 木多教授室、大谷教授室
備考	事前・事後学習：設計演習ではほぼ毎回、現地調査、事例収集、エスキス、作図、模型制作などの課題を提示する。よって、事前・事後併せて4.5時間程度、課題に取り組むこと コンパクト建築資料集成、設計Ⅰでのテキストは毎回持参し、エスキスや作図にて参照すること 新建築など建築作品の掲載されている専門誌に目を通すこと

科目名	設計演習Ⅱb	科目名(英文)	Exercises in Architectural Planning and Drawing Iib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	加嶋 章博, 大谷 由紀子, 岸下 真理, 木多 彩子, 京 智健, 高橋 俊介, 竹原 義二, 堀 賢太
ディプロマポリシー(DP)	G◎		

授業概要・目的	<p>〔授業概要・目的〕 保育園の設計では、まず大人とこどものスケールの違いを踏まえた設計を考える。また、こどもの行動や多くのこどもたちが通過する保育の場を振り返り、理想とする建築計画を実践する。限定された時間内に条件を分析、設計し、それを的確に図面化することを学ぶ。美術館の設計では実際の美術館や展示空間を調査し、資料を収集することで計画条件を理解する。どのような展示空間がどのような効果をもたらすのか、建築の可能性を考え、都市にあるべき美術館を提案する。また、利用者の動線、職員や作品搬出入の動線など、表と裏の動線を検討する訓練とする。外観や景観のデザインについても検討し、建築の設計が建物と敷地、および周辺環境を考えることであることを考える。</p>
到達目標	<p>〔到達目標〕 (1) 平面計画の理解と設計技術、および正確な図面表記の習得 (2) 建物と周辺との関係についての設計技術の習得 (3) 保存も含めた外観デザイン技術の習得</p>
授業方法と留意点	<p>少人数グループでの個別指導による。授業時間内は担当教員から指導を受けることを優先し、各自のエスキスや製図作業は時間外にも行う必要がある。また敷地調査や課題に関連する建物の見学や資料(作品集や雑誌など)調査なども積極的にを行う。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>建築学科での授業内容を総合的に理解することに役立つとともに、将来の建築士試験のために極めて重要である。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	保育園の設計	課題説明・各グループでの指導方針説明など	敷地調査・事例調査・図面・模型作成
	2	保育園の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成
	3	保育園の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成
	4	保育園の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成
	5	保育園の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成
	6	保育園の設計の講評、および構造模型の説明	保育園のプレゼンテーション、講評および構造模型制作の指導	構造模型の作成
	7	保育園構造模型の講評、および美術館の課題説明	保育園構造模型のプレゼンテーション、講評、および美術館の課題説明など	敷地調査・事例調査
	8	美術館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成
	9	美術館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成
	10	美術館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成
	11	美術館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成
	12	美術館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成
	13	美術館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成
	14	美術館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成
	15	美術館のプレゼンテーション、講評、および総括	課題全体についての講評、および総合的な指導など	—————

関連科目 設計演習Ⅰ、設計演習Ⅱa、建築設計・計画基礎、建築計画各論が特に関連するが、専門科目全般が関連科目といえる。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初めての建築設計 ステップ・バイ・ステップ	川北健雄 他	彰国社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 計画条件に対する考え方・プレゼンテーションなどの評価20%、提出図面(平面図、立面図、断面図を含む)の完成度と技法などの評価80%で各課題ごとに評価を行い、総合60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ 本格的な設計課題です。学ぶ心を培ってください。そのうえで大切なことはまずは模倣することです。製図室での作業よりは、見学や資料の検索などがより一層重要になります。好きな建築、建築家を見付けることや参考となる作品をどんどん調べ、模倣することから出発し、次第に自分のオリジナリティを出せばよい。

担当者の研究室等 8号館3階 加嶋教授室・竹原教授室・大谷教授室

備考 事前事後学習: 事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回4.5時間以上かけて作業を行うこと

科目名	設計演習Ⅲ a	科目名 (英文)	Exercises in Architectural Planning and Drawing IIIa
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	竹原 義二, 井上 久実, 大谷 由紀子, 小林 健治, 竹内 正明, 長澤 浩二, 矢田 朝士
ディプロマポリシー (DP)	G◎		

授業概要・目的	これまでの設計演習の成果を基に複合的な設計課題に取組みます。第一課題は、都市的な環境における木質空間の設計、第二課題は、歴史的環境における集合住宅の設計です。いずれも、設定された敷地周辺の環境や時代背景などを読み解いた上で、その場所に相応しい建築の有り様を提案します。
到達目標	1) 課題条件に対する読解力の修得、2) 計画内容・アイデア等をわかりやすく美しくプレゼンテーションする技術の修得、3) 計画を成果物として完成させ、第三者に伝える技術の修得、4) 建築士試験 (実技) に関する基礎的な知識の理解。
授業方法と留意点	少人数グループでの個別指導による。演習は製図室でのエスキス、製図に留まらず、見学や調査なども積極的に行う。
科目学習の効果 (資格)	この科目は、建築士 2 次試験 (実技試験) と大変に関連が深い。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	木質空間の設計 (第 1 回)	・課題説明 ・グループ分けおよび作業方法の説明 ・グループ別個別指導	必要な検討事項を整理し、設計からプレゼンテーションまでのプロセスを認識する。 調査・図面・模型作成 木質空間の事例検討
2	木質空間の設計 (第 2 回)	・グループ別個別指導	調査・図面・模型作成 木質空間の事例検討
3	木質空間の設計 (第 3 回)	・グループ別個別指導	調査・図面・模型作成 木質空間の事例検討
4	木質空間の設計 (第 4 回)	・グループ別個別指導	調査・図面・模型作成 木質空間の事例検討
5	木質空間の設計 (第 5 回)	・グループ別個別指導 ・仕上げ作業	調査・図面・模型作成 木質空間の事例検討 表現方法・図面レイアウトの検討
6	木質空間の設計 (第 6 回)	・グループ別個別指導 ・仕上げ作業	調査・図面・模型作成 木質空間の事例検討 表現方法・図面レイアウトの検討
7	木質空間の設計 (第 7 回)	・課題作品の発表と講評	プレゼンテーションの方法を検討する。また他者の作品に対する批評を行う。
8	集合住宅の設計 (第 1 回)	・課題説明 ・作業方法の説明 ・グループ別個別指導	必要な検討事項を整理し、設計からプレゼンテーションまでのプロセスを認識する。 調査・図面・模型作成 集合住宅の事例検討
9	集合住宅の設計 (第 2 回)	・グループ別個別指導	調査・図面・模型作成 木質空間の事例検討
10	集合住宅の設計 (第 3 回)	・グループ別個別指導	調査・図面・模型作成 集合住宅の事例検討
11	集合住宅の設計 (第 4 回)	・グループ別個別指導	調査・図面・模型作成 集合住宅の事例検討
12	集合住宅の設計 (第 5 回)	・グループ別個別指導 ・仕上げ作業	調査・図面・模型作成 集合住宅の事例検討 表現方法・図面レイアウトの検討
13	集合住宅の設計 (第 6 回)	・グループ別個別指導 ・仕上げ作業	調査・図面・模型作成 集合住宅の事例検討 表現方法・図面レイアウトの検討
14	集合住宅の設計 (第 7 回)	・グループ別個別指導 ・仕上げ作業	調査・図面・模型作成 集合住宅の事例検討 表現方法・図面レイアウトの検討
15	集合住宅の設計 (第 8 回)	・課題作品の発表と講評	プレゼンテーションの方法を検討する。また他者の作品に対する批評を行う。

関連科目 設計演習Ⅰ、Ⅱ a、Ⅱ b、Ⅲ b、建築計画系科目が特に関連するが、専門科目全般が関連科目と言える。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会編	丸善株式会社
	2	初めての建築設計ステップ・バイ・ステップ	川北健雄、三上晴久、倉知徹、水島あかね、花田佳明著	彰国社
	3			

評価方法 (基準) 計画条件に対する考え方・プレゼンテーションなどの評価 20%、提出図面 (平面図、立面図、断面図を含む) の完成度と技法などの評価 80% で各課題ごとに評価を行い、総合 60% 以上を合格とする。

学生へのメッセージ 単体としての建築物のあり方のみならず、地域や社会との関係から、いかにより多くの人々に開かれた環境を創造できるかがポイントとなります。

担当者の研究室等 8 号館 3 階 竹原教授室・小林講師室

備考 事前事後学習: 事前事後学習欄に示した内容について、毎回 4.5 時間以上取り組むこと。外部講師による課題に関連したショートレクチャーなどを行う場合があります。

科目名	設計演習Ⅲ b	科目名 (英文)	Exercises in Architectural Planning and Drawing IIIB
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 健治, 魚谷 剛紀, 大谷 由紀子, 小野 龍人, 香川 貴範, 竹原 義二, 中西 ひろむ, 宮本 征一
ディプロマポリシー (DP)	G◎		

授業概要・目的	<p>【設計デザインスタジオ】 第一課題では、都市的な機能を有する複合的施設を設計し、環境工学的視点も含め、都市と建築のあり方について提案する。第二課題では、スタジオ課題とし、各々関心のある課題に取り組み、その解決策としての斬新なアイデアを発想する。いずれの課題でも、自身の提案を図面や模型で魅力的に表現する。</p> <p>【実験リサーチスタジオ】 第一課題・第二課題では、建築・都市空間に関するフィールドワークを行い、そこから課題や魅力を抽出した上で都市空間に対するオリジナルな視点での分析を行う。さらに分析結果を提案としてまとめ、相応しい形式でアウトプットする。いずれのスタジオでも、分析した内容を如何に的確にプレゼンテーションするかを学ぶ。</p>
到達目標	1) 大規模で複雑な内容の施設の総合的計画技術の修得、2) 課題抽出力の修得、3) 課題分析力と提案創出力の修得、4) デザイン発想力及び考察力の修得、5) 図面や模型、図表での表現力の修得、6) プレゼンテーション力の修得
授業方法と留意点	少人数グループを一人の担当教員が指導し、課題ごとに担当者が替わる。授業時間は担当教員から指導を受ける時間であり、各自の設計作業、特に草案づくりは授業時間外にも行う必要がある。課題の順番、内容は変更されることがある。
科目学習の効果 (資格)	建築学科での授業内容を総合的に理解することに役立つとともに、将来の建築士試験のために極めて重要である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	複合施設の設計/建築・都市系リサーチ A 1	・課題説明・グループわけおよび作業方法の説明、グループ別指導方針説明など	調査・図面・模型・図表作成
	2	複合施設の設計/建築・都市系リサーチ A 2	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型・図表作成
	3	複合施設の設計/建築・都市系リサーチ A 3	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型・図表作成
	4	複合施設の設計/建築・都市系リサーチ A 4	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型・図表作成
	5	複合施設の設計/建築・都市系リサーチ A 5	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型・図表作成
	6	複合施設の設計/建築・都市系リサーチ A 6	・グループ別個別指導など	表現手法・レイアウトの検討
	7	複合施設の設計/建築・都市系リサーチ A 7	・課題の発表と講評	プレゼンテーションの方法を検討する。また他者の作品に対する批評を行う。
	8	スタジオ課題/建築・都市系リサーチ B 1	・課題説明・グループわけおよび作業方法の説明、グループ別指導方針説明など	プレゼンテーションの方法を検討する。また他者の作品に対する批評を行う。
	9	スタジオ課題/建築・都市系リサーチ B 2	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型・図表作成
	10	スタジオ課題/建築・都市系リサーチ B 3	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型・図表作成
	11	スタジオ課題/建築・都市系リサーチ B 4	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型・図表作成
	12	スタジオ課題/建築・都市系リサーチ B 5	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型・図表作成
	13	スタジオ課題/建築・都市系リサーチ B 6	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型・図表作成
	14	スタジオ課題/建築・都市系リサーチ B 7	・グループ別個別指導など	表現手法・レイアウトの検討
	15	スタジオ課題/建築・都市系リサーチ B 8	・課題の発表と講評	プレゼンテーションの方法を検討する。また他者の作品に対する批評を行う。

関連科目 設計演習Ⅰ、Ⅱ a、Ⅱ b、Ⅲ a、建築計画系科目が特に関連するが、専門科目全般が関連科目と言える。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会編	丸善株式会社
	2			
	3			

評価方法 (基準) 計画条件に対する考え方・プレゼンテーションなどの評価 20%、提出図面 (平面図、立面図、断面図を含む) の完成度と技法などの評価 80% で各課題ごとに評価を行い、総合 60% 以上を合格とする。

学生へのメッセージ 最後の設計演習です。建築学科での学習の集大成のひとつとして、意匠・構造・設備に関して学んだことをフィードバックして、課題に取り組んでください。また教員や仲間とのコミュニケーションや意見交換も積極的に行ってください。

担当者の研究室等 8号館3階 竹原教授室・大谷教授室・宮本教授室・小林講師室

備考 事前事後学習：事前事後学習欄に示した内容について、毎回4.5時間以上取り組むこと。
【設計デザインスタジオ】【実験リサーチスタジオ】の2スタジオ制 (第一課題/第二課題入替制) です。

科目名	線形代数 I	科目名 (英文)	Linear Algebra I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺本 恵昭
ディプロマポリシー (DP)	D◎		

授業概要・目的	線形代数は、幾何ベクトルや連立 1 次方程式の取り扱い方を一般化してできた理論で、理工系学生に欠くことのできない数学的教養である。																																																																		
到達目標	1) 行列の計算ができる 2) ベクトルの内積・外積を理解する 3) 基本変形で連立 1 次方程式を解く 4) 基本変形で逆行列を求める。																																																																		
授業方法と留意点	前半 60 分を講義、後半 30 分を演習、を基本とするが、進行状況により変更することもある。(1) 演習は前半の講義内容から出題、終了時に回収し次回に返却する。(2) 期末試験の出題内容は授業中の演習問題レベルとする。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>行列の定義(1)</td> <td>・和、スカラー倍</td> <td>第 1 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>行列の定義(2)</td> <td>・積の定義・転置行列</td> <td>第 1 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>正方行列(1)</td> <td>・単位行列・正則行列の定義</td> <td>第 1 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>正方行列(2)</td> <td>・正則行列の性質</td> <td>第 1 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>2 次正方行列</td> <td>・逆行列の計算</td> <td>第 1 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>いろいろな行列</td> <td>・対称行列・交代行列・ベキ零行列</td> <td>第 1 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>連立 1 次方程式(1)</td> <td>・消去法</td> <td>第 2 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>連立 1 次方程式(2)</td> <td>・連立 1 次方程式の行列表示・基本変形・階数</td> <td>第 2 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連立 1 次方程式(3)</td> <td>・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方</td> <td>第 2 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連立 1 次方程式(4)</td> <td>・基本解・特殊解</td> <td>第 2 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>連立 1 次方程式(5)</td> <td>・同次連立 1 次方程式・正則行列となる条件</td> <td>第 2 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>空間のベクトル(1)</td> <td>・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍</td> <td>第 3 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>空間のベクトル(2)</td> <td>・内積・距離</td> <td>第 3 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>空間のベクトル(3)</td> <td>・外積・スカラー 3 重積</td> <td>第 3 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>空間のベクトル(4)</td> <td>・直線の方程式・平面の方程式</td> <td>第 3 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	行列の定義(1)	・和、スカラー倍	第 1 章の間、演習問題 レポート	2	行列の定義(2)	・積の定義・転置行列	第 1 章の間、演習問題 レポート	3	正方行列(1)	・単位行列・正則行列の定義	第 1 章の間、演習問題 レポート	4	正方行列(2)	・正則行列の性質	第 1 章の間、演習問題 レポート	5	2 次正方行列	・逆行列の計算	第 1 章の間、演習問題 レポート	6	いろいろな行列	・対称行列・交代行列・ベキ零行列	第 1 章の間、演習問題 レポート	7	連立 1 次方程式(1)	・消去法	第 2 章の間、演習問題 レポート	8	連立 1 次方程式(2)	・連立 1 次方程式の行列表示・基本変形・階数	第 2 章の間、演習問題 レポート	9	連立 1 次方程式(3)	・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方	第 2 章の間、演習問題 レポート	10	連立 1 次方程式(4)	・基本解・特殊解	第 2 章の間、演習問題 レポート	11	連立 1 次方程式(5)	・同次連立 1 次方程式・正則行列となる条件	第 2 章の間、演習問題 レポート	12	空間のベクトル(1)	・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍	第 3 章の間、演習問題 レポート	13	空間のベクトル(2)	・内積・距離	第 3 章の間、演習問題 レポート	14	空間のベクトル(3)	・外積・スカラー 3 重積	第 3 章の間、演習問題 レポート	15	空間のベクトル(4)	・直線の方程式・平面の方程式	第 3 章の間、演習問題 レポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	行列の定義(1)	・和、スカラー倍	第 1 章の間、演習問題 レポート																																																																
2	行列の定義(2)	・積の定義・転置行列	第 1 章の間、演習問題 レポート																																																																
3	正方行列(1)	・単位行列・正則行列の定義	第 1 章の間、演習問題 レポート																																																																
4	正方行列(2)	・正則行列の性質	第 1 章の間、演習問題 レポート																																																																
5	2 次正方行列	・逆行列の計算	第 1 章の間、演習問題 レポート																																																																
6	いろいろな行列	・対称行列・交代行列・ベキ零行列	第 1 章の間、演習問題 レポート																																																																
7	連立 1 次方程式(1)	・消去法	第 2 章の間、演習問題 レポート																																																																
8	連立 1 次方程式(2)	・連立 1 次方程式の行列表示・基本変形・階数	第 2 章の間、演習問題 レポート																																																																
9	連立 1 次方程式(3)	・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方	第 2 章の間、演習問題 レポート																																																																
10	連立 1 次方程式(4)	・基本解・特殊解	第 2 章の間、演習問題 レポート																																																																
11	連立 1 次方程式(5)	・同次連立 1 次方程式・正則行列となる条件	第 2 章の間、演習問題 レポート																																																																
12	空間のベクトル(1)	・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍	第 3 章の間、演習問題 レポート																																																																
13	空間のベクトル(2)	・内積・距離	第 3 章の間、演習問題 レポート																																																																
14	空間のベクトル(3)	・外積・スカラー 3 重積	第 3 章の間、演習問題 レポート																																																																
15	空間のベクトル(4)	・直線の方程式・平面の方程式	第 3 章の間、演習問題 レポート																																																																
関連科目	以下の科目の講義は線形代数 I の知識とスキルを前提にして授業が進められます： 工業数学 I, 工業数学 II, 統計学, 代数学, 幾何学 II, 解析学 上記科目を受講する予定の学生は線形代数 I を履修すること。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>線形代数の基礎講義</td> <td>島田伸一・廣島文生</td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	線形代数の基礎講義	島田伸一・廣島文生	共立出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	線形代数の基礎講義	島田伸一・廣島文生	共立出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	演習, 小テストで 30%、期末テスト 70% の割合で判定し評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	疑問に思ったことがあれば遠慮なく質問してください。いかなる質問も大歓迎です。大学の数学は簡単ではありませんが些細なことにこだわらずに最終目標をいつも頭において勉強してください。																																																																		
担当者の研究室等	3 号館 3 階 数学研究室																																																																		
備考	事前事後学習には毎回 1 時間以上かけること。																																																																		

科目名	線形代数 I	科目名 (英文)	Linear Algebra I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	ロ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	東 武大
ディプロマポリシー (DP)	D◎		

授業概要・目的	線形代数は、幾何ベクトルや連立 1 次方程式の取り扱い方を一般化してできた理論で、理工系学生に欠くことのできない数学的教養である。																																																																		
到達目標	(1) 行列の計算ができる。 (2) 基本変形で連立 1 次方程式を解くことができる。 (3) 基本変形で逆行列を求めることができる。 (4) ベクトルの内積・外積を理解する。 これらの知識は電磁気や回路を学ぶのに必要であり、複雑なシステムの解析や設計に役立つ。																																																																		
授業方法と留意点	比較的平易な内容に限定し容易に理解出来るものであるため、確実に自分のものとするよう心掛けて頂きたい。そのためには、第一に欠席をせず、毎回授業の前には復習をしておくこと、第二にどんなに些細でも不明なことは質問すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	本講義の内容は、諸々の数学及び専門科目の習得に引き継がれる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>行列の定義(1)</td> <td>・和、スカラー倍</td> <td>第 1 章の間、演習問題</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>行列の定義(2)</td> <td>・積の定義・転置行列</td> <td>第 1 章の間、演習問題</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>正方行列(1)</td> <td>・単位行列・正則行列の定義・性質</td> <td>第 1 章の間、演習問題</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>2 次正方行列</td> <td>・行列式・逆行列の計算</td> <td>第 1 章の間、演習問題</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>いろいろな行列</td> <td>・対称行列・交代行列・冪零行列</td> <td>第 1 章の間、演習問題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>線形写像</td> <td>・線形写像</td> <td>第 1 章の間、演習問題</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>中間試験及び解説</td> <td>第 1 回から第 6 回の講義に関する中間試験及びその解説講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>連立 1 次方程式 (1)</td> <td>・連立 1 次方程式の行列表示・基本変形・階数</td> <td>第 2 章の間、演習問題</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連立 1 次方程式 (2)</td> <td>・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方</td> <td>第 2 章の間、演習問題</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連立 1 次方程式 (3)</td> <td>・基本解・特殊解</td> <td>第 2 章の間、演習問題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>連立 1 次方程式 (4)</td> <td>・同次連立 1 次方程式・正則行列となる条件</td> <td>第 2 章の間、演習問題</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>空間のベクトル (1)</td> <td>・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍</td> <td>第 3 章の間、演習問題</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>空間のベクトル (2)</td> <td>・内積・距離</td> <td>第 3 章の間、演習問題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>空間のベクトル (3)</td> <td>・外積・スカラー 3 重積、平行 6 面体の体積</td> <td>第 3 章の間、演習問題</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>空間のベクトル (4)</td> <td>・直線の方程式・平面の方程式・一次独立性</td> <td>第 3 章の間、演習問題</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	行列の定義(1)	・和、スカラー倍	第 1 章の間、演習問題	2	行列の定義(2)	・積の定義・転置行列	第 1 章の間、演習問題	3	正方行列(1)	・単位行列・正則行列の定義・性質	第 1 章の間、演習問題	4	2 次正方行列	・行列式・逆行列の計算	第 1 章の間、演習問題	5	いろいろな行列	・対称行列・交代行列・冪零行列	第 1 章の間、演習問題	6	線形写像	・線形写像	第 1 章の間、演習問題	7	中間試験及び解説	第 1 回から第 6 回の講義に関する中間試験及びその解説講義		8	連立 1 次方程式 (1)	・連立 1 次方程式の行列表示・基本変形・階数	第 2 章の間、演習問題	9	連立 1 次方程式 (2)	・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方	第 2 章の間、演習問題	10	連立 1 次方程式 (3)	・基本解・特殊解	第 2 章の間、演習問題	11	連立 1 次方程式 (4)	・同次連立 1 次方程式・正則行列となる条件	第 2 章の間、演習問題	12	空間のベクトル (1)	・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍	第 3 章の間、演習問題	13	空間のベクトル (2)	・内積・距離	第 3 章の間、演習問題	14	空間のベクトル (3)	・外積・スカラー 3 重積、平行 6 面体の体積	第 3 章の間、演習問題	15	空間のベクトル (4)	・直線の方程式・平面の方程式・一次独立性	第 3 章の間、演習問題
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	行列の定義(1)	・和、スカラー倍	第 1 章の間、演習問題																																																																
2	行列の定義(2)	・積の定義・転置行列	第 1 章の間、演習問題																																																																
3	正方行列(1)	・単位行列・正則行列の定義・性質	第 1 章の間、演習問題																																																																
4	2 次正方行列	・行列式・逆行列の計算	第 1 章の間、演習問題																																																																
5	いろいろな行列	・対称行列・交代行列・冪零行列	第 1 章の間、演習問題																																																																
6	線形写像	・線形写像	第 1 章の間、演習問題																																																																
7	中間試験及び解説	第 1 回から第 6 回の講義に関する中間試験及びその解説講義																																																																	
8	連立 1 次方程式 (1)	・連立 1 次方程式の行列表示・基本変形・階数	第 2 章の間、演習問題																																																																
9	連立 1 次方程式 (2)	・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方	第 2 章の間、演習問題																																																																
10	連立 1 次方程式 (3)	・基本解・特殊解	第 2 章の間、演習問題																																																																
11	連立 1 次方程式 (4)	・同次連立 1 次方程式・正則行列となる条件	第 2 章の間、演習問題																																																																
12	空間のベクトル (1)	・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍	第 3 章の間、演習問題																																																																
13	空間のベクトル (2)	・内積・距離	第 3 章の間、演習問題																																																																
14	空間のベクトル (3)	・外積・スカラー 3 重積、平行 6 面体の体積	第 3 章の間、演習問題																																																																
15	空間のベクトル (4)	・直線の方程式・平面の方程式・一次独立性	第 3 章の間、演習問題																																																																
関連科目	以下の科目の講義は線形代数 I の知識とスキルを前提にして授業が進められます： 工業数学 I, 工業数学 II, 統計学, 代数学, 幾何学 II, 解析学, 統計学 上記科目を受講する予定の学生は線形代数 I を履修すること。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>線形代数の基礎講義</td> <td>島田伸一・廣島文生</td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	線形代数の基礎講義	島田伸一・廣島文生	共立出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	線形代数の基礎講義	島田伸一・廣島文生	共立出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	レポート課題で 30%、中間試験で 35%、期末試験で 35% で判定し評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	3 号館 3 階に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。																																																																		
担当者の研究室等	3 号館 3 階 数学研究室																																																																		
備考	事前事後学習は、毎回 1 時間以上かけること。																																																																		

科目名	線形代数Ⅱ	科目名(英文)	Linear Algebra II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安井 幸則
ディプロマポリシー(DP)	D◎		

授業概要・目的	行列式の計算ができ、行列の固有値と固有ベクトルが求められ、それらを行列の対角化へ応用できるようになることが本講義の目的である。
到達目標	(1) 行列式の計算ができる。 (2) 行列の固有値と固有ベクトルを求めることができる。 (3) 行列の3角化と対角化ができる。
授業方法と留意点	授業ではテーマに掲げた内容を出来るだけ平易に説明する。基本的には授業の前半の60分を講義に充て、後半の30分を演習の時間に充てるが、進行状況により変更することもある。 (1) 演習問題は授業の前半に講義した内容から出題する。(2) 期末試験の出題内容は授業中の演習問題レベルとする。

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
1	行列式(1)	・置換の定義・置換の積・置換の符号	第4章の間, 演習問題	レポート
2	行列式(2)	・行列式の定義・多重線形性・交代性	第4章の間, 演習問題	レポート
3	行列式(3)	・2次正方行列の行列式・3次正方行列の行列式	第4章の間, 演習問題	レポート
4	行列式(4)	・行列式の余因子展開	第4章の間, 演習問題	レポート
5	行列式(5)	・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件	第4章の間, 演習問題	レポート
6	行列式(6)	・余因子行列・逆行列	第4章の間, 演習問題	レポート
7	行列式(7)	・クラメールの公式	第4章の間, 演習問題	レポート
8	固有値と固有ベクトル(1)	・固有多項式・固有方程式 ・固有値, 固有ベクトルの計算(1)	第5章の間, 演習問題	レポート
9	固有値と固有ベクトル(2)	・固有値, 固有ベクトルの計算(2)	第5章の間, 演習問題	レポート
10	固有値と固有ベクトル(3)	・正方行列の3角化	第5章の間, 演習問題	レポート
11	固有値と固有ベクトル(4)	・フロベニウスの定理・ハミルトン・ケーリーの定理	第5章の間, 演習問題	レポート
12	固有値と固有ベクトル(5)	・正方行列の対角化	第6章の間, 演習問題	レポート
13	固有値と固有ベクトル(6)	・実対称行列の対角化・直交行列	第6章の間, 演習問題	レポート
14	固有値と固有ベクトル(7)	・2次形式への応用・2次形式の符号	第6章の間, 演習問題	レポート
15	固有値と固有ベクトル(8)	・2次曲線, 曲面の例	第6章の間, 演習問題	レポート

関連科目	以下の科目の講義は線形代数Ⅱの知識とスキルを前提にして授業が進められます: 工業数学Ⅰ, 工業数学Ⅱ, 統計学, 代数学, 幾何学Ⅱ, 解析学 上記科目を受講する予定の学生は線形代数Ⅱを履修すること。
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	線形代数の基礎講義	島田伸一、廣島文生	共立出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	演習・小テスト(40%)・期末テスト(60%)で評価する。
学生へのメッセージ	疑問に思ったことがあれば遠慮なく質問してください。いかなる質問も大歓迎です。大学の数学は簡単ではありませんが些細なことにこだわらずに最終目標をいつも頭において勉強してください。
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。

科目名	線形代数Ⅱ	科目名(英文)	Linear Algebra II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西脇 純一
ディプロマポリシー(DP)	D◎		

授業概要・目的	行列式の計算法と行列の固有値と固有ベクトルの求め方が本講義の目的である。																																																																		
到達目標	(1) 行列式の計算 (2) 固有値と固有ベクトル (3) 行列の3角化と対角化																																																																		
授業方法と留意点	授業ではテーマに掲げた内容を出発点として平易に説明する。基本的には授業の前半の60分を講義に充て、後半の30分を演習の時間に充てる。 (1) 演習問題は授業の前半に講義した内容から出題する。(2) 期末試験の出題内容は授業中の演習問題レベルとする。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>行列式(1)</td> <td>・置換の定義・置換の積・置換の符号</td> <td>第4章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>行列式(2)</td> <td>・行列式の定義・多重線形性・交代性</td> <td>第4章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>行列式(3)</td> <td>・2次正方行列の行列式・3次正方行列の行列式</td> <td>第4章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>行列式(4)</td> <td>・行列式の余因子展開</td> <td>第4章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>行列式(5)</td> <td>・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件</td> <td>第4章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>行列式(6)</td> <td>・余因子行列・逆行列</td> <td>第4章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>行列式(7)</td> <td>・クラメールの公式</td> <td>第4章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>固有値と固有ベクトル(1)</td> <td>・固有多項式・固有方程式 ・固有値, 固有ベクトルの計算(1)</td> <td>第5章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>固有値と固有ベクトル(2)</td> <td>・固有値, 固有ベクトルの計算(2)</td> <td>第5章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>固有値と固有ベクトル(3)</td> <td>・正方行列の3角化</td> <td>第5章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>固有値と固有ベクトル(4)</td> <td>・フロベニウスの定理・ハミルトン・ケーリーの定理</td> <td>第5章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>固有値と固有ベクトル(5)</td> <td>・正方行列の対角化</td> <td>第6章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>固有値と固有ベクトル(6)</td> <td>・実対称行列の対角化・直交行列</td> <td>第6章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>固有値と固有ベクトル(7)</td> <td>・2次形式への応用・2次形式の符号</td> <td>第6章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>固有値と固有ベクトル(8)</td> <td>・2次曲線, 曲面の例</td> <td>第6章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	行列式(1)	・置換の定義・置換の積・置換の符号	第4章の間, 演習問題 レポート	2	行列式(2)	・行列式の定義・多重線形性・交代性	第4章の間, 演習問題 レポート	3	行列式(3)	・2次正方行列の行列式・3次正方行列の行列式	第4章の間, 演習問題 レポート	4	行列式(4)	・行列式の余因子展開	第4章の間, 演習問題 レポート	5	行列式(5)	・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件	第4章の間, 演習問題 レポート	6	行列式(6)	・余因子行列・逆行列	第4章の間, 演習問題 レポート	7	行列式(7)	・クラメールの公式	第4章の間, 演習問題 レポート	8	固有値と固有ベクトル(1)	・固有多項式・固有方程式 ・固有値, 固有ベクトルの計算(1)	第5章の間, 演習問題 レポート	9	固有値と固有ベクトル(2)	・固有値, 固有ベクトルの計算(2)	第5章の間, 演習問題 レポート	10	固有値と固有ベクトル(3)	・正方行列の3角化	第5章の間, 演習問題 レポート	11	固有値と固有ベクトル(4)	・フロベニウスの定理・ハミルトン・ケーリーの定理	第5章の間, 演習問題 レポート	12	固有値と固有ベクトル(5)	・正方行列の対角化	第6章の間, 演習問題 レポート	13	固有値と固有ベクトル(6)	・実対称行列の対角化・直交行列	第6章の間, 演習問題 レポート	14	固有値と固有ベクトル(7)	・2次形式への応用・2次形式の符号	第6章の間, 演習問題 レポート	15	固有値と固有ベクトル(8)	・2次曲線, 曲面の例	第6章の間, 演習問題 レポート
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	行列式(1)	・置換の定義・置換の積・置換の符号	第4章の間, 演習問題 レポート																																																																
2	行列式(2)	・行列式の定義・多重線形性・交代性	第4章の間, 演習問題 レポート																																																																
3	行列式(3)	・2次正方行列の行列式・3次正方行列の行列式	第4章の間, 演習問題 レポート																																																																
4	行列式(4)	・行列式の余因子展開	第4章の間, 演習問題 レポート																																																																
5	行列式(5)	・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件	第4章の間, 演習問題 レポート																																																																
6	行列式(6)	・余因子行列・逆行列	第4章の間, 演習問題 レポート																																																																
7	行列式(7)	・クラメールの公式	第4章の間, 演習問題 レポート																																																																
8	固有値と固有ベクトル(1)	・固有多項式・固有方程式 ・固有値, 固有ベクトルの計算(1)	第5章の間, 演習問題 レポート																																																																
9	固有値と固有ベクトル(2)	・固有値, 固有ベクトルの計算(2)	第5章の間, 演習問題 レポート																																																																
10	固有値と固有ベクトル(3)	・正方行列の3角化	第5章の間, 演習問題 レポート																																																																
11	固有値と固有ベクトル(4)	・フロベニウスの定理・ハミルトン・ケーリーの定理	第5章の間, 演習問題 レポート																																																																
12	固有値と固有ベクトル(5)	・正方行列の対角化	第6章の間, 演習問題 レポート																																																																
13	固有値と固有ベクトル(6)	・実対称行列の対角化・直交行列	第6章の間, 演習問題 レポート																																																																
14	固有値と固有ベクトル(7)	・2次形式への応用・2次形式の符号	第6章の間, 演習問題 レポート																																																																
15	固有値と固有ベクトル(8)	・2次曲線, 曲面の例	第6章の間, 演習問題 レポート																																																																
関連科目	以下の科目の講義は線形代数Ⅱの知識とスキルを前提にして授業が進められます： 工業数学Ⅰ, 工業数学Ⅱ, 統計学, 代数学, 幾何学Ⅱ, 解析学 上記科目を受講する予定の学生は線形代数Ⅱを履修すること。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>線形代数の基礎講義</td> <td>島田伸一・廣島文生</td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	線形代数の基礎講義	島田伸一・廣島文生	共立出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	線形代数の基礎講義	島田伸一・廣島文生	共立出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	演習, 小テストで30%、期末テスト70%の割合で判定し評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	疑問に思ったことがあれば遠慮なく質問してください。いかなる質問も大歓迎です。大学の数学は簡単ではありませんが些細なことにこだわらずに最終目標をいつも頭において勉強してください。																																																																		
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室																																																																		
備考	事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。																																																																		

科目名	造形演習 I	科目名 (英文)	Exercises in Formative Art and Design I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山崎 秀昭・尾島 守・多田 益巳
ディプロマポリシー (DP)	G◎		

授業概要・目的	<p>建築を始めとする全ゆる造形に対し、美を求めるのは、誰しもが抱く基本的欲求の一つです。本演習では広くファインアート（純粋美術＝絵画、彫刻等）に根ざした立場から、美しい形（特に立体）を具体的に取り扱います。当面は西洋近代の造形理念を足場にして、個人の感性から生み出される形でのトレーニングが有効です。従って学生諸君はこの演習の中で、近代から現代に至る造形の世界を良く知る事、そして、各個人の中に潜んでいる感性を、鋭く目覚めさせる事が目標となります。良く知って、鋭く蘇らせながら形を作り続けるうちに、徐々に美しい形に対する判断力が身に付いて来るでしょう。</p> <p>又、建築家として必ず求められる素養の一つ、フリーハンドによって正確な形態、明・暗、質感を描く力を身に付ける為、時間の許す限り鉛筆ドローイングも行います。</p>
到達目標	感性を磨き、学問による理性との整合性を保ち、ものを造る事を喜べる学生を目指す。
授業方法と留意点	実践的な形の課題に取り組む演習が基本です。平行してスライド、配布資料等を用いた講義により、理論及び知識を伝えます。一連の内容と、マン・ツー・マンで行う各学生との対話を通じ、総合的に造形を学びます。用具、材料の忘れ物は時に致命的になるので注意する事。
科目学習の効果 (資格)	特別の具体的効果は示し難いが、次第に磨かれる感性と、表現力の向上が期待される。色彩の体系、調和に関しては、建築士試験の計画として出題される事が有る。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス。 20分ドローイング。 平面・色彩構成 I-1。	授業に対する基本的態度、スケジュールの説明。用具、教材についての解説。 「色彩と光」の講義。	材料、用具の手配。
2	平面・色彩構成 I-2。 20分ドローイング。	「色彩の体系」の講義。小スタディー課題。	事後：復習問題。
3	20分ドローイング。 立体構成 I-1。	面的材料（スチレンシート）による造形 I-1。 立体に関する講義と課題提示。 スタディー小課題。具体的演習及び指導。	事後：スケッチ及び復習レポート。
4	20分ドローイング。 立体構成 I-2。	面的材料（スチレンシート）による造形 I-2。 具体的演習及び指導。完成、記録撮影、講評。	事後：スケッチ及び復習レポート。
5	20分ドローイング。 立体構成 II-1（グループ制作前段階）。	面的材料（スチレンシート）による造形 II-1。 テーマを持った本課題の呈示。 スライド等を併用した、立体に関する講義。制作及び指導。	事後：スケッチ及び復習レポート。
6	20分ドローイング。 立体構成 II-2（グループ制作前段階）。	面的材料（スチレンシート）による造形 II-2。 本課題の制作及び指導、完成。 撮影、記録。	事後：スケッチ及び復習レポート。
7	20分ドローイング。 立体構成 II-3（グループ制作前段階）。	面的材料（スチレンシート）による造形 II-3。 グループ作品の選出（相互コンペ）。 制作計画、作業分担。	事後：スケッチ及び復習レポート。
8	立体構成 III-1（グループ制作）。	面的材料（スチレンボード）による造形 III-1。 グループ共同制作。	事後：作業レポート。
9	立体構成 III-2（グループ制作）。	面的材料（スチレンボード）による造形 III-2。 グループ共同制作。	事後：作業レポート。
10	立体構成 III-3（グループ制作）。	・面的材料（スチレンボード）による造形 III-3。 ・グループ共同制作。	事後：作業レポート。
11	立体構成 III-4（グループ制作）。	・面的材料（スチレンボード）による造形 III-4。 ・グループ共同制作。	事後：作業レポート。
12	立体構成 III-5（グループ制作）。	面的材料（スチレンボード）による造形 III-5 グループ共同制作。 展示会場設置。空間と展示物との関係を学ぶ。	事後：作業レポート。
13	展示会展示物撤去。 石膏デッサン。	人体デッサンに備え、基礎的、基本的描画法を学ぶ。	-----
14	人体デッサン 1。	対象を観察によって表現しようとする時、観察がどのように深められ、表現が厳密化して行くかを学ぶ為、裸婦をデッサンする。	-----
15	人体デッサン 2。	1に引き続き、習熟度、完成度を高める。講評、提出、記録。	-----

関連科目	設計演習。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特に指定しない。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「西洋美術全集」		集英社、小学館等
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各演習毎の課題(本課題約70%、補助課題約30%)提出作品全ての完成度、質によって評価し可否を判定する。なお、演習教科なので、100%の出席及び課題提出を前提とする。			
学生への メッセージ	下手だ、センスが無いと身を引くより、実際の課題制作、ヌードデッサン等我々は共に考え、感じ、工夫しながら常に感性に刺激を与え続けます。素直に受け留め、楽しく続けていくうちに、いつの間にか磨かれている自分に気付くはずです。			
担当者の 研究室等	8号館3階 「建築学科造形演習準備室」			
備考	教材等：メジャー、金属定規、カッターナイフ、接着剤等、約¥1,000程度。 事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む			

科目名	造形演習Ⅱ	科目名(英文)	Exercises in Formative Art and Design II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山崎 秀昭・尾島 守・多田 益巳
ディプロマポリシー(DP)	G◎		

授業概要・目的	造形演習Ⅰとは一体のものとして完結するように組まれています。Ⅰとは同じ路線上で、同じ目標に至るものですが、現実的な提案、発表(プレゼンテーション)の軸となる平面上での手作業による表現、レイアウト等にもじっくりと取り組む方針です。同時に立体での演習は、課題の提示から、発想、試行、修正、完成までの速度、密度の向上に挑戦してもらい、学生諸君の五感、第六感の、より鋭い覚醒と表現力の熟習を目指します。 また、広く美術に親しむ為、学外での美術展観覧を行います。
到達目標	作業に対する集中力(根気)を養い、平面及び3次元での空間感知力を高める。
授業方法と留意点	基本的には実践的な表現の課題に取り組む。平行してスライド、配布資料等を用いた講義により、理論及び知識を伝え、一連の内容と、マン・ツーマンで行う各学生との対話を通じ、総合的に造形、表現を学ぶ。用具、材料の忘れ物は時に致命的になるので注意する事。
科目学習の効果(資格)	感性の更なる覚醒とともに、形を創造する事に対する厳密な態度や忍耐力の向上が期待される。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	彩色演習1。	描写について、透明水彩絵の具の扱い方、「基本色」の調色。彩色の進め方の指導及び実践。	事後：着彩技法の復習(グレースケール)。
3	彩色演習2。	陰・影の彩色。「基本色」によるうす塗り、重ね塗りの指導及び実践。	指定段階までの着彩完了。
4	彩色演習3。	陰・影の彩色。「基本色」によるグレージング、グラデーション技法の指導及び実践。完了、中間提出。	事後：未完了者の作業。
5	彩色演習、プレゼンパースの簡易的着彩技法。	「設計演習」等のプレゼンパースの短時間着彩法。指導及び実践。	事後：練習問題。
6	立体構成Ⅰ-1	面的材料(スチレンシート)による造形。スタディー小課題の提示、制作及び指導。	事後：スケッチ及び復習レポート。
7	立体構成Ⅰ-2	面的材料(スチレンシート)による造形。スタディー小課題の制作及び指導。完成、講評。	事後：スケッチ及び復習レポート。
8	彩色演習4。	「近現代造形、表現概念の変遷史」スライド及び資料による講義。面的材料(ケント紙)による造形。テーマを持った本課題の提示、制作及び指導。	事後：スケッチ及び復習レポート。
9	彩色演習5。	面的材料(ケント紙)による造形。テーマを持った本課題の制作及び指導。完成、撮影及び講評。彩色演習提出物の添削指導返却。	事後：スケッチ及び復習レポート。
10	彩色演習6。	「固有色」彩色の指導、実践。	事後：指定段階までの彩色完了。
11	彩色演習7。	「固有色」彩色の指導、実践、完了。	事後：指定段階までの彩色完了。
12	彩色演習8。	「最暗部」彩色の指導、実践。	事後：指定段階までの彩色完了。
13	彩色演習9。	「最明部」彩色の指導、実践。完了、提出。	事後：未完了者の作業完了。
14	平面・色彩構成1。	小課題。課題に基づく「平面の分割と比例」スライド、資料による講義。	事後：小課題。
15	平面・色彩構成2。	「平面の分割と比例」スライド、資料による講義。造形演習Ⅱのまとめ。	—————

関連科目	設計演習。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特に指定しない。		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「西洋美術全集」		
2				
3				

評価方法(基準)	各演習毎の課題(本課題約70%、補助課題約30%)提出作品全ての完成度、質によって評価し可否を判定する。
----------	--

学生へのメッセージ	下手法、センスが無いと身を引くより、実際の課題制作、ノードデッサン、学外演習等我々は共に考え、感じ、工夫しながら常に感性に刺激を与え続けます。素直に受け留め、楽しく続けていくうちに、いつの間にか磨かれている自分に気付くはずで。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館3階「建築学科造形演習準備室」
----------	--------------------

備考	教材：水彩用具(筆、パレット、筆洗等)。透明水彩絵の具5～8色程度。¥1,500程度。 事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む
----	--

科目名	測量	科目名(英文)	Surveying
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	長岡 弘隆. 名草 一成
ディプロマポリシー(DP)	G◎		

授業概要・目的	測量(Surveying)は、地球表面の異なる点の相対的な位置関係を決定する技術であり、測量学は流域計画、都市計画、建築物・道路等の設計や施工に欠くことのできない基礎的学問である。本講義は測量に関する知識、技術、計算方法および実測方法の修得を目的としている。
到達目標	学生が、距離測量、角測量、水準測量を理解し基本事項を説明できること、主な測量器具の原理と構造を理解すること、測量値の情報処理と調整計算ができること、測定結果を効果的に図示および表現できること、最新の測量技術の知識を習得すること、を到達目標とする。
授業方法と留意点	1～11回は教室にて講義を中心に授業は進め、12～15回分については実際に測量器具を用いた演習を土曜日に終日かけて行う。また必要に応じてレポート提出を行い、基準に満たない場合は再提出を求めることがある。講義には関数電卓を持参すること。
科目学習の効果(資格)	さらに残された内容を自習することによって、測量士及び測量士補の国家試験の合格が期待される。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、測量の定義、基礎的概念	測量の歴史、分類、基準。測量の現場における具体的な事項、地球の形状、実測点の位置決定法、測定時に生じる誤差について	参考書にて予習を行い、授業での資料をもとに復習を行うこと(目安2時間)
2	距離の測量	直接距離測定法についての概要、並びに誤差の補正について	参考書にて予習を行い、授業での資料をもとに復習を行うこと(目安2時間)
3	各種測量方法とその結果の利用1	人工衛星、航空機、UAV、自動車等を用いた測量技術とその活用方法について	参考書にて予習を行い、授業での資料をもとに復習を行うこと(目安2時間)
4	各種測量方法とその結果の利用2	レーザ測量の展開事例、写真測量における位置決定の原理について	参考書にて予習を行い、授業での資料をもとに復習を行うこと(目安2時間)
5	基準点(骨組)測量における角測定1	トラバースの概要、種類、作業の進め方について	参考書にて予習を行い、授業での資料をもとに復習を行うこと(目安2時間)
6	基準点(骨組)測量における角測定2	測角機器の構造及び種類、原理、水平角の測定法について	参考書にて予習を行い、授業での資料をもとに復習を行うこと(目安2時間)
7	基準点(骨組)測量における角測定3	トラバース測量の精度、生ずる誤差の処理について。	参考書にて予習を行い、授業での資料をもとに復習を行うこと(目安2時間)
8	基準点(骨組)測量における角測定4	緯距・経距の計算、閉合誤差・閉合比について	参考書にて予習を行い、授業での資料をもとに復習を行うこと(目安2時間)
9	基準点(骨組)測量における角測定5	閉合誤差の調整、座標展開について	参考書にて予習を行い、授業での資料をもとに復習を行うこと(目安2時間)
10	直接水準測量の方法1	水準儀の種類、それら器機の構造について。	参考書にて予習を行い、授業での資料をもとに復習を行うこと(目安2時間)
11	直接水準測量の方法2	水準測量の方法、精度・誤差の補正について。	参考書にて予習を行い、授業での資料をもとに復習を行うこと(目安2時間)
12	測量演習1	踏査選点、造標。	参考書にて予習を行い、授業での資料をもとに復習を行うこと(目安2時間)
13	測量演習2	水平距離、土地の高低差の測定。	参考書にて予習を行い、授業での資料をもとに復習を行うこと(目安2時間)
14	測量演習3	水平交角、方位角の測定。	参考書にて予習を行い、授業での資料をもとに復習を行うこと(目安2時間)
15	測量演習4	座標展開、トラバース完成。	参考書にて予習を行い、授業での資料をもとに復習を行うこと(目安2時間)

関連科目	微積分 I
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂新版基礎測量学	長谷川昌弘、川端良和他	電気書院
2				
3				

評価方法(基準)	授業時の受講態度(20%)、測量演習における計算書・図面の内容(30%)、期末試験(50%)により評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	測量は、古来からある位置を把握するための基礎的な技術であると共に、最新の技術によりデジタルに空間情報を把握するための最先端の技術でもあります。幅広く、かつ奥深い、現代社会を支える測量技術の一端を学んでください。授業には必ず関数電卓を持参してください。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館3階 建築学科共通準備室
----------	-----------------

備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組むこと
----	---

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Thesis
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	宮本 征一, 池内 淳子, 大谷 由紀子, 加嶋 章博, 木多 彩子, 小林 健治, 竹原 義二, 西村 勝尚, 柳沢 学
ディプロマポリシー (DP)	CO, EO, GO		

授業概要・目的	建築学は、計画・環境・構造系等の分野からなし、専任教員の専攻も多岐にわたる。摂南大学理工学部建築学科で学んできた学習内容を活用し、おのおのが取り組む課題・テーマを基に研究を行う。																		
到達目標	各専門分野の基礎知識の習得と課題解決能力の向上、および成果を適切に発表する技術の獲得である。																		
授業方法と留意点	専任教員の指導の下、ゼミ方式および個別指導方式とし、中間発表会および卒業研究審査会を実施する。自分のテーマに対し積極的に取り組み、他人のテーマにも関心を持つことで、分析能力や考察能力を向上することが重要である。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【研究テーマ】 有感気流環境下の温熱環境評価に関する研究 接触部の温冷感が温熱的快適性に及ぼす影響に関する研究 不均一な温熱環境下における温熱的快適感の認知モデルに関する研究 サーマルマネキンによる熱収支の定量化に関する研究</p> <p>【研究内容】 被験者実験や実測などを行い、それぞれの温熱環境下における生理・心理反応を把握する。得られた生理・心理データを伝熱学・生理学・心理学などの幅広い知識を用いて分析し、温熱環境を評価して、快適な温熱環境を提案する。</p> <p>【研究方法】 伝熱学・生理学・心理学などの基礎知識を修得するためのゼミを行う。 既往の研究のレビューおよびデータ分析に必要な統計学を修得するためのゼミを行う。 物理・生理・心理データを収集するための実験または実測を行う。</p> <p>【事前事後学習課題】 ゼミの予習・復習を行い、ゼミ発表資料を作成すること。</p>																		
関連科目	建築環境工学Ⅰ、建築環境工学Ⅱ、建築環境工学Ⅲ、建築環境工学演習、建築設備学、地球環境論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	中間発表会および最終審査会による梗概・プレゼンテーション・成果物などの評価 60%と日頃の取組みなどの卒業研究活動のプロセス・提出物の評価 40%を基に総合的に判断する。60点を合格とする。																		
学生へのメッセージ	卒業研究の指導を通して、社会人力が向上できるように指導します。																		
担当者の研究室等	8号館3階																		
備考																			

科目名	耐震工学	科目名(英文)	Earthquake-Resistant Structures
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	足立 博之
ディプロマポリシー(DP)	H◎		

授業概要・目的	わが国では、阪神大震災(1995)、東日本大震災(2011)、熊本地震(2016)などの大地震が続けて発生し、また、近い将来に海溝型大地震も予想されており、人命や建築などのインフラの安全確保に社会的関心が集まっている。授業では、地震の概要、建物の地震時の動き、さらに、それらを理解して安全を確保するための耐震設計法を学習し、耐震工学の専門的知識を習得する。また、その中で、フーリエ解析や確率などについても触れ多面的な学力を育てる。
到達目標	最近の社会的テーマである「耐震安全性の確保」に応えられる構造設計者になるための基礎知識が習得できる。
授業方法と留意点	プリントと教科書を併用して授業を行う。時々、簡単な道具で振動(実験)を試したり、理解を深めるための学生相互の意見交換の機会を設ける。毎回出す宿題では、「テキスト例題のトレース(理解度を確認するのが目的)」や、応用的な「課題」を通して理解度を深めていく。重要な部分や理解度が不十分とみられる部分は授業にて補足説明する。
科目学習の効果(資格)	地震時の建物の挙動を理解することにより、地震に対する安全性の考え方や設計法を習得する。建築士の資格試験では「建築構造」の一部である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	地震・耐震工学の概要	地震の発生・伝搬や過去の地震、現在の耐震工学の概要	基礎数学の復習(三角関数・複素数・行列など)
2	1自由度系の振動	運動方程式の作成、減衰・非減衰自由振動	課題(演習問題)またはテキスト例題のトレース
3	1自由度系の振動	非減衰自由振動	課題(演習問題)またはテキスト例題のトレース
4	1自由度系の振動	減衰振動とエネルギー	課題(演習問題)またはテキスト例題のトレース
5	1自由度系の振動	種々の過渡応答 インパルス応答とデュアメル積分	課題(演習問題)またはテキスト例題のトレース
6	1自由度系の振動	応答スペクトルとその利用	課題(演習問題)またはテキスト例題のトレース
7	多自由度系の振動	振動方程式の作成とマトリックス表示と対称性	課題(演習問題)またはテキスト例題のトレース
8	多自由度系の振動	固有値と固有モード	課題(演習問題)またはテキスト例題のトレース
9	多自由度系の振動	固有モードの特徴 直交性・展開定理	課題(演習問題)またはテキスト例題のトレース
10	多自由度系の振動	広義質量・剛性・減衰など	課題(演習問題)またはテキスト例題のトレース
11	多自由度系の振動	モーダルアナリシスと数値計算法	課題(演習問題)またはテキスト例題のトレース
12	振動のまとめと展開	振動のまとめと、波形フーリエ解析、地盤振動の基礎の基礎	課題(演習問題)またはテキスト例題のトレース
13	耐震設計の基本と応用	現在の耐震設計法 現行基準と背景	課題(演習問題)またはテキスト例題のトレース
14	耐震設計の基本と応用	耐震設計法と動的検証法の考え方	課題(演習問題)またはテキスト例題のトレース
15	耐震設計の基本と応用	最近の技術(免震・制振)の考え方	課題(まとめ)

関連科目	構造力学、鋼構造、鉄筋コンクリート構造等の構造系科目および基礎数学
------	-----------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	最新 耐震構造解析 第3版	柴田 明德	森北出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	期末試験の結果(65%)の他に、宿題(35%)の課題やレポートによって、到達目標の習熟度を総合的に判断し可否を判定する。
----------	--

学生へのメッセージ	地震と、その時の建物の動きを、簡単な物理・数学を利用して工学的に理解する授業です。知識を身につけて、社会にでてからの設計実務や研究に役立てるとともに、さらに 制振・免震などの分野へと発展させる動機となることを願っています。同時に、地震に対して人命・財産を守るという社会的使命の達成にも役立てていただきたい。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	宿題と予習復習に毎回1時間以上かけて取り組むこと。 授業に関する質疑等は、原則、授業中または授業後に受け付ける。なお、文書で質疑などを提出すれば、次回授業時に回答する。
----	--

科目名	代数学	科目名(英文)	Algebra
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中津 了勇
ディプロマポリシー(DP)	D◎		

授業概要・目的	抽象代数系である「群」、「環」、「体」の知識は最近の電子社会の発展に伴い、その必要性が増している。抽象代数においては、単純な公理から驚くほどの豊富な理論が展開される。そのなかにあつて、「群」は最も基本的な代数的構造であり、自然現象のなかに現れる「対称性」を記述するのに重要な概念である。この講義では、代数的構造がどのように捉えられ、記述されるか、その方法を学ぶことを目的とする。
到達目標	「群」の定義を理解し、部分群、剰余類、正規部分群、商群、準同型定理について説明できる。
授業方法と留意点	授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める：線形代数Ⅰ、線形代数Ⅱ。 毎時間の講義の内容を復習し、自分で納得するまで手と頭を動かすことを習慣づけること。 授業時間の倍以上の自主学習が必要である。 やむを得ず欠席した場合のフォローアップは、各自が責任をもって行うこと。
科目学習の効果(資格)	代数的構造がどのように捉えられ、記述される方法がわかる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	集合	集合、集合の間の関係、論理記号など	演習問題 1
	2	同値関係と商集合	同値関係、同値類、類別、商集合	講義録、教科書の予習・演習問題 2
	3	写像	全射、単射、全単射、逆写像	講義録、教科書の予習・演習問題 3
	4	群の定義と例(1)	2項演算、群の定義、加法群、乘法群、群の例、群の乗積表	講義録、教科書の予習・演習問題 4(前半)
	5	群の定義と例(2)	群の例	講義録、教科書の予習・演習問題 4(後半)
	6	群と対称性への入門	2面体群、生成元、基本関係式	講義録、教科書の予習・演習問題 5
	7	部分群	部分群の定義と例	講義録、教科書の予習・演習問題 6(前半)
	8	部分群と剰余類	左剰余類、右剰余類、ラグランジュの定理、剰余の同値律	講義録、教科書の予習・演習問題 6(後半)
	9	要素の位数	群の要素の位数、巡回群	講義録、教科書の予習・演習問題 7
	10	正規部分群と剰余群(1)	正規部分群の定義と例	講義録、教科書の予習・演習問題 8
	11	正規部分群と剰余群(2)	剰余類、剰余群、例	講義録、教科書の予習・演習問題 8
	12	群の同型	群同型写像	講義録、教科書の予習・授業の課題
	13	群の準同型(1)	群準同型写像、群準同型写像の核	講義録、教科書の予習・授業の課題
	14	群の準同型(2)	群準同型写像の核の性質、群準同型の例	講義録、教科書の予習・授業の課題
	15	準同型定理	準同型定理とその応用	講義録、教科書の予習・授業の課題

関連科目	線形代数Ⅰ、線形代数Ⅱ、微積分Ⅰ、微積分Ⅱ
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	代数的構造	遠山 啓	ちくま学芸文庫
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	代数学の基礎	岩永 恭雄	日評数学選書
	2			
	3			

評価方法(基準)	期末試験 60%、小テストとレポート 40% で評価する。
学生へのメッセージ	こまめに考え、調べ、質問して、疑問点を溜めないように心がけること。中途半端な学習では何も身に付きません。「数学」教員を目指す学生は覚悟をして受講してほしい。
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	事前事後学習は、毎回2時間以上かけること。

科目名	地球環境論	科目名(英文)	Global Environment for Architecture
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	宮本 征一
ディプロマポリシー(DP)	F◎		

授業概要・目的	かつては地球の規模に対して人類の活動規模は小さく、人類の活動が地球環境やエネルギー・資源問題に及ぼす影響は考えられてこなかった。しかし、近年ではCO2の排出量や資源の浪費については国際的な問題となり、特に、建築業界の非効率性や資源の浪費が問われている。地球環境を考えた上での建築のあり方について、エネルギー・資源問題やライフサイクルという概念について講義を行う。
到達目標	今まで学んできた建築学(環境・計画・構造)の知識を再構築することによって、地球環境と建築との関係を修得する。
授業方法と留意点	教科書に沿った講義を主体とします。授業中にどの程度理解できているかを把握するための要約などを課します。
科目学習の効果(資格)	一級・二級建築士資格取得のために有用である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	地球環境と建築	授業の概要・持続可能な社会の構築について	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲にj記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
2	地球環境建築の基本的視点	地球環境建築の2つの視点について・LCAについての要約	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲にj記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
3	地球環境建築の基本的視点	バウビオロジーと地球環境・建築憲章について	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲にj記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
4	自然環境と地域・都市	自然(生態系・風土)と都市との融合について	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲にj記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
5	地球環境とエネルギー	気候風土に適した建築物と都市化によるヒートアイランド現象について	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲にj記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
6	地球環境とエネルギー	住宅省エネルギー基準についての講義・パッシブデザインとアクティブデザインについての要約	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲にj記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
7	地球環境と資源	建築物の寿命・SI 建築・資源の循環について	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲にj記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
8	安全と健康	建築空間の安全・健康について	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲にj記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
9	地球環境と建築環境工学との関係と中間試験	地球環境と建築環境工学との関係 中間試験	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲にj記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。中間試験で解答できなかったところを復習すること。
10	世代・文化の継承	良き建築文化の継承について	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲にj記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
11	建築・立地環境の評価	気候風土に適した建築計画の評価法について	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲にj記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
12	環境計画の評価	建築環境性能の事前評価・事後評価について	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲にj記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
13	社会の制度と建築専門家の役割など	建築のLCと環境マネジメントなどについて	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲にj記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
14	最近の研究紹介	地球環境に関する研究を紹介し、これから、どのようなことを明らかにしていかなければならないのかを紹介する	建築環境工学の視点からの地球環境に関すること のなかで興味があることを調べること。
15	最近の研究紹介	地球環境に関する研究を紹介し、これから、どのようなことを明らかにしていかなければならないのかを紹介する	建築環境工学の視点からの地球環境に関すること のなかで興味があることを調べること。

関連科目	建築環境工学・建築計画学・建築構造学
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地球環境建築のすすめ	日本建築学会	彰国社

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	レポート(20%)・中間試験(20%)・期末試験(60%)により総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	地球規模の視点から建築物の有り方を考えるための授業です。縦割りに学んできた建築に関する知識を再構築して、これからの建築について考えていきます。
-----------	---

担当者の研究室等	宮本教授室
----------	-------

備考	事前学習は、20分以上してください。事後学習は、70分以上してください。中間試験の内容は重要ですので、解けなかった問題は時間をかけて復習すること。
----	---

科目名	鉄筋コンクリート構造 I	科目名 (英文)	Reinforced Concrete Structures I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	柳沢 学, 山田 知輝
ディプロマポリシー (DP)	H◎		

授業概要・目的	[授業概要・目的] 鉄筋コンクリート構造は、コンクリートの圧縮強さと、コンクリートが引張り力に弱い欠点のところに、引張り力に強い鉄筋を挿入し、そして、鉄筋が防火性、防錆性に弱い欠点をコンクリートが防ぐという、互いの短所を補い長所を活かした複合構造です。このように全くの異質の材料を一体として設計するところに巧妙な設計法が用いられています。
到達目標	[到達目標]以下の項目の理解。 1)鉄筋コンクリート構造の基礎知識 2)構造形式の理解 3)許容応力度設計法の基礎知識 4)構造材料と許容応力度の基礎知識 5)梁の曲げ設計の基礎知識 6)柱の曲げ設計の基礎知識 7)梁および柱の実用設計ができるようになります。
授業方法と留意点	教科書を中心とした授業です。多くの授業回では反転授業 (Web 事前講義・Web 小テスト) とし授業を受けるに当たり事前の学習をしてください。教科書に出てくる例題や演習の他に用語をわかりやすく説明するポスターをグループで作成し、発表する演習もあります。能動的学習用に Web による全小テストも用意しています。事前の学習ではノートをとることを勧めます。事前・事後学習、授業中の積極的 (能動的) な参加を期待します。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士および二級建築士学科試験の「構造」部門に関係します。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	鉄筋によるコンクリートの補強 鉄筋とコンクリートの協働作用	鉄筋とコンクリートの付着力など	教科書 p.8~12
3	鉄筋に対するかぶり厚さ	かぶり厚さ、鉄筋間隔・あき	教科書 p.12~14
4	材料の力学的特性 曲げに対する抵抗	部材の受ける力と抵抗 コンクリート、鉄筋の材料特性、定数	教科書 p.16~24
5	曲げと軸力に対する抵抗	曲げひび割れモーメント 曲げ終局耐力	教科書 p.24~29
6	設計法と荷重・外力	許容応力度設計法、地震力	教科書 p.60~78
7	許容応力度設計法に基づく部材の設計 材料の選定と許容応力度	コンクリートと鉄筋の選定、許容応力度	教科書 p.80~86
8	中間試験および解説	第1回から第7回までの内容の確認	試験内容を再度復習すること
9	曲げモーメントに対する設計 軸方向力に対する抵抗	基本仮定、軸力のつり合い式、ヤング係数比、許容軸力の算定	教科書 p.86~89
10	曲げモーメントに対する抵抗	長方形断面梁の許容曲げモーメント	教科書 p.89~93
11	梁の設計 (1)	梁の実用設計 構造規定 設計法 (設計手順) 断面算定	教科書 p.93~99
12	梁の設計 (2)	梁の実用設計、演習	教科書 p.99~101
13	柱の設計 (1)	断面内の力のつり合い 中立軸位置 (断面内, 断面外) 断面算定 存在応力と許容応力度	教科書 p.109~113
14	柱の設計 (2)	柱の実用設計 構造規定 設計法 (設計手順) 演習	教科書 p.113~117
15	施工を含む全体のまとめ	鉄筋工事 型枠工事 コンクリート工事 全体のまとめ	今までの総復習をしておくこと

関連科目	鉄筋コンクリート構造Ⅱ, 構造実験 建築ゼミⅢ, 卒業研究 (構造系), 建築施工Ⅰ, Ⅱ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	鉄筋コンクリート構造の基本と部材の設計	永坂具也/柳沢 学	彰国社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	鉄筋コンクリート構造設計規準・同解説 2010	日本建築学会	日本建築学会
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Web による事前講義・Web 小テスト (25%) と、演習・レポートなど (25%)、中間および期末試験 (50%) の割合で評価します。60% 以上を合格とします。
-----------	---

学生へのメッセージ	現在、身の回りにある多くの建物が鉄筋コンクリート構造で建設されており、その構造を知ることは建築の意匠・計画にも重要です。構造系希望者はもとより、計画系を希望する学生も本授業を履修することを薦めます。積極的に授業に参加してください。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館3階 柳沢教授室
----------	-------------

備考	Web 事前講義、Web 小テスト、Web 全小テスト、教科書や事前学習ノート・演習の見直しなどには1回あたり1.5時間以上をかける必要があります。
----	--

科目名	鉄筋コンクリート構造Ⅱ	科目名(英文)	Reinforced Concrete Structures II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	柳沢 学, 加嶋 章博
ディプロマポリシー(DP)	H◎		

授業概要・目的	[授業概要・目的] 鉄筋コンクリート構造は、コンクリートの圧縮強さと、コンクリートが引張り力に弱い欠点のところに、引張り力に強い鉄筋を挿入し、そして、鉄筋が防火性、防錆性に弱い欠点をコンクリートが防ぐという、互いの短所を補い長所を活かした複合構造である。このように全くの異質の材料を一体として設計するところに巧妙な設計法が用いられている。
到達目標	[到達目標]以下の項目の理解。1)鉄筋コンクリート構造せん断設計の基礎知識 2)梁のせん断設計 3)柱のせん断設計 4)鉄筋コンクリート構造基礎の設計 5)床スラブの設計 6)耐震壁の設計 7)柱・梁接合部の設計 1)のもとに2)～7)ができる
授業方法と留意点	教科書を中心とした授業です。教科書に出てくる例題や演習をほぼ毎回行います(除中間テスト)。また、授業を受けるにあたり事前の学習が望まれます。板書をするので授業ではノートをとってもらい、これを重視して受講態度点を考慮する。
科目学習の効果(資格)	一級建築士および二級建築士学科試験の「構造」部門に関係する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義概要 せん断(1) せん断力に対する抵抗	受講注意事項, 評価方法, 耐震設計の履歴, 耐震設計法, 過去の地震被害, 破壊機構, せん断抵抗因子	シラバスを熟読してくること 教科書 p. 29~37
2	せん断(2) せん断力に対する抵抗	せん断補強筋の働き	教科書 p. 29~37
3	せん断(3) 部材のせん断ひび割れ耐力とせん断耐力	せん断ひび割れ耐力とせん断ひび割れ耐力算定式 せん断耐力とせん断耐力算定式	教科書 p. 37~42
4	せん断(4) せん断力に対する設計	梁のせん断設計(あばら筋の算定)	教科書 p. 101~108
5	せん断(5) せん断力に対する設計	柱のせん断設計(帯筋の算定)	教科書 p. 117~124
6	中間試験および解説	せん断設計の意義, 部材のせん断設計など	1~5回までをよく復習して中間試験に臨むこと
7	床スラブ(1)	床スラブに作用する荷重と応力, 変形	教科書 p. 124~129
8	床スラブ(2)	スラブの設計	教科書 p. 129~133
9	柱・梁接合部(1)	柱と梁の接合部のせん断抵抗	教科書 p. 42~45
10	柱・梁接合部(2)	許容せん断力, 短期設計用せん断力	教科書 p. 150~154
11	耐震壁(1)	耐震壁のせん断抵抗	教科書 p. 45~51
12	耐震壁(2)	耐震壁の設計	教科書 p. 154~163
13	基礎(1)	直接基礎の設計	教科書 p. 164~169
14	基礎(2)	杭基礎の設計	教科書 p. 170~175
15	構造設計 まとめ	構造体に要求されるもの 地震被害よりみた耐震対策 鉄筋の付着, 定着 など	今までの総復習をしておくこと

関連科目	鉄筋コンクリート構造Ⅰ 建築ゼミⅢ, 卒業研究(構造系) 建築施工Ⅰ, Ⅱ
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	鉄筋コンクリート構造の基本と部材の設計	永坂具也/柳沢 学	彰国社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説 2010	日本建築学会	日本建築学会
2			
3			

評価方法(基準)	事前学習確認小テスト(10%)、演習, レポート等(30%)、中間試験(30%)および期末試験(30%)の割合で評価し、到達目標の理解度を含め判定する。
----------	--

学生へのメッセージ	現在、身の回りにある多くの建物が鉄筋コンクリート構造で建設されており、その構造を知ることが建築の意匠・計画にも重要である。構造系希望者はもとより、計画系を希望する学生も本授業を履修することを薦める。 授業中は私語を慎み、授業に集中すること。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館3階 柳沢教授室
----------	-------------

備考	教科書の指定ページの熟読や当該演習の見直しなど、事前・事後学習には1回あたり1.5時間以上をかける必要がある。
----	---

科目名	統計学	科目名 (英文)	Statistics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中津 了勇
ディプロマポリシー (DP)	D◎		

授業概要・目的	統計学は現在の理工学において非常に重要かつ強力な道具になっている。 この講義では、統計の基本的な考え方を紹介し、皆さんの将来に役立てることを目的とする。																																																																		
到達目標	到達目標： 1. データ整理に関する基礎的な統計計算ができる。 2. 確率の基本的性質の理解。 3. 確率分布の平均，分散，標準偏差を求めることができる。 4. 2項分布やポアソン分布などの離散型の確率分布に関する計算ができる。 5. 正規分布などの連続型の確率分布に関する計算ができる。 6. 統計的推定についての理解と計算。 7. 統計的仮説検定についての理解と計算。																																																																		
授業方法と留意点	確率の基本的な諸概念から出発して、ランダムな現象を捉える確率分布モデルを学ぶ。 その上でデータから母集団分布の特性について推論を行う統計的推測の基本的な考え方と、統計的推定、検定を学ぶ。 授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める： 微積分 I, 微積分 II, 線形代数 I, 線形代数 II.																																																																		
科目学習の効果 (資格)	統計的推定、検定の考え方を理解して、その方法を実践できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>データの整理 1</td> <td>講義内容の説明，母集団と標本，標本平均，標本分散，ヒストグラム</td> <td>1章の問題</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>データの整理 2</td> <td>2変量データ，相関係数，散布図</td> <td>1章の問題</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>確率とその基本的な性質 1</td> <td>事象と確率</td> <td>演習問題 1</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>確率とその基本的な性質 2</td> <td>条件付確率と事象の独立性</td> <td>演習問題 1</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>離散的確率変数 1</td> <td>離散型確率変数と確率分布</td> <td>演習問題 2</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>離散的確率変数 2</td> <td>二項分布とその応用</td> <td>演習問題 2, 3</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>離散的確率変数 3</td> <td>ポアソン分布とその応用</td> <td>演習問題 3</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>連続型確率変数 1</td> <td>連続型確率変数，確率密度関数，確率分布</td> <td>演習問題 4</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連続型確率変数 2</td> <td>正規分布とその関連分布</td> <td>演習問題 4, 5</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連続型確率変数 3</td> <td>正規分布の性質</td> <td>演習問題 5</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>現象のモデル化</td> <td>母集団分布，母平均，母分散，母標準偏差</td> <td>2章の問題</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>統計的推定 1</td> <td>推定の考え方，点推定，区間推定</td> <td>演習問題 6</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>統計的推定 2</td> <td>母平均の区間推定，危険度，信頼区間</td> <td>演習問題 6</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>統計的仮説検定 1</td> <td>仮説検定の考え方，帰無仮説と対立仮説</td> <td>演習問題 7</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>統計的仮説検定 2</td> <td>母平均の仮説検定，両側検定，片側検定</td> <td>演習問題 7</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	データの整理 1	講義内容の説明，母集団と標本，標本平均，標本分散，ヒストグラム	1章の問題	2	データの整理 2	2変量データ，相関係数，散布図	1章の問題	3	確率とその基本的な性質 1	事象と確率	演習問題 1	4	確率とその基本的な性質 2	条件付確率と事象の独立性	演習問題 1	5	離散的確率変数 1	離散型確率変数と確率分布	演習問題 2	6	離散的確率変数 2	二項分布とその応用	演習問題 2, 3	7	離散的確率変数 3	ポアソン分布とその応用	演習問題 3	8	連続型確率変数 1	連続型確率変数，確率密度関数，確率分布	演習問題 4	9	連続型確率変数 2	正規分布とその関連分布	演習問題 4, 5	10	連続型確率変数 3	正規分布の性質	演習問題 5	11	現象のモデル化	母集団分布，母平均，母分散，母標準偏差	2章の問題	12	統計的推定 1	推定の考え方，点推定，区間推定	演習問題 6	13	統計的推定 2	母平均の区間推定，危険度，信頼区間	演習問題 6	14	統計的仮説検定 1	仮説検定の考え方，帰無仮説と対立仮説	演習問題 7	15	統計的仮説検定 2	母平均の仮説検定，両側検定，片側検定	演習問題 7
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	データの整理 1	講義内容の説明，母集団と標本，標本平均，標本分散，ヒストグラム	1章の問題																																																																
2	データの整理 2	2変量データ，相関係数，散布図	1章の問題																																																																
3	確率とその基本的な性質 1	事象と確率	演習問題 1																																																																
4	確率とその基本的な性質 2	条件付確率と事象の独立性	演習問題 1																																																																
5	離散的確率変数 1	離散型確率変数と確率分布	演習問題 2																																																																
6	離散的確率変数 2	二項分布とその応用	演習問題 2, 3																																																																
7	離散的確率変数 3	ポアソン分布とその応用	演習問題 3																																																																
8	連続型確率変数 1	連続型確率変数，確率密度関数，確率分布	演習問題 4																																																																
9	連続型確率変数 2	正規分布とその関連分布	演習問題 4, 5																																																																
10	連続型確率変数 3	正規分布の性質	演習問題 5																																																																
11	現象のモデル化	母集団分布，母平均，母分散，母標準偏差	2章の問題																																																																
12	統計的推定 1	推定の考え方，点推定，区間推定	演習問題 6																																																																
13	統計的推定 2	母平均の区間推定，危険度，信頼区間	演習問題 6																																																																
14	統計的仮説検定 1	仮説検定の考え方，帰無仮説と対立仮説	演習問題 7																																																																
15	統計的仮説検定 2	母平均の仮説検定，両側検定，片側検定	演習問題 7																																																																
関連科目	微積分 I, 微積分 II, 線形代数 I, 線形代数 II.																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基礎統計学</td> <td>坂田，高田，百武</td> <td>朝倉書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基礎統計学	坂田，高田，百武	朝倉書店	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	基礎統計学	坂田，高田，百武	朝倉書店																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>関連の本が沢山出版されている。図書館に所蔵されている他、数学研究室にも多数あり貸し出し可</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	関連の本が沢山出版されている。図書館に所蔵されている他、数学研究室にも多数あり貸し出し可			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	関連の本が沢山出版されている。図書館に所蔵されている他、数学研究室にも多数あり貸し出し可																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	小テストで40%、期末試験で60%を判定し評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	疑問に思ったことがあれば遠慮なく質問すること。いかなる質問も歓迎する。																																																																		
担当者の研究室等	3号館3階数学研究室																																																																		
備考	事前事後学習は毎回1時間以上かけること。																																																																		

科目名	都市・地域計画	科目名(英文)	Urban and Regional Planning
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	加嶋 章博・小林 健治
ディプロマポリシー(DP)	F◎		

授業概要・目的	都市計画、都市デザイン、地域計画、まちづくりという広い領域にまず何があり、どんな課題があるのかを理解する。都市とはどのように形成され、どのようにプランニングされてきたのか、計画理論を概観し、「都市の読み方」とは何かを考えていく。都市で起こっている様々な課題に目を向け、都市や地域の良好な環境形成を促すための制度や事業を理解し、これからの計画のあり方や新しい発想を提案するための手掛かりを考える。出来るだけ身近な都市計画や町づくりの事例に目を向ける。地域資源やシビックプライドといった近年着目されている「町の育て方」にも目を向け、都市づくりに自身がどう関われるかを考える力を育むことを目的とする。
到達目標	都市計画・まちづくりにおいて重要かつ基本的な概念、制度、歴史、事業、日本と世界の動向等を捉え、都市計画に関わる基礎的事項を把握し、実際の都市計画や都市の課題に当てはめて考える力を培う。都市環境や町並み、生活環境を改善していくうえで重要な基礎知識と視点を養い、都市に対する好奇心を広げることが到達目標とする。
授業方法と留意点	都市で起こっている様々な事象に着目しながら、重要概念やトピックスに関連する都市計画や都市デザインの実践事例の理解に努める。毎回、講義テーマに基づいたミニレポートや課題等に取り組む。
科目学習の効果(資格)	1級・2級建築士・宅地建物取引主任者など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	都市のモデル	・都市の発生と構造 ・モデルで都市の成り立ちを理解する	都市の構造に関する情報を収集する。 テキスト「現況と展望編 第1講」を理解する。
3	都市計画の歴史	様々な都市形成プロセスから、都市、都市計画への視点を育む	都市形成に関する情報を収集する。 テキスト「現況と展望編 第1講」を理解する。
4	都市と市街地	市街地形成における特性を把握する。	テキスト「現況と展望編 第2講」を理解する。
5	建築のコントロール	建築基準法と都市計画の関係を理解する。	テキスト「制度と技術編 第3講」を理解する。
6	地区の計画とデザイン	地区の歴史・文化を継承する地区ルールの存在を理解する。	テキスト「現況と展望編 第4講」を理解する。
7	都市の再生と交通システム	道路ネットワーク、歩行者ネットワーク、交通ネットワークから都市を考える。	テキスト「現況と展望編 第5講」を理解する。
8	都市と自然	都市計画の観点から生活環境に必要な自然との関係について歴史的な事例から理解する。	テキスト「現況と展望編 第6講」を理解する。
9	都市を再生する	都市を再生するための具体的な制度や動向から、都市の成り立ちを理解する。	テキスト「現況と展望編 第7講」を理解する。
10	都市と防災	復興都市計画の事例から、都市計画技術を理解する。	テキスト「現況と展望編 第8講」を理解する。
11	都市の景観まちづくり	景観まちづくりがどのように進んでいるか関連する制度や事例から理解する。	テキスト「現況と展望編 第9講」を理解する。
12	シビックプライドの観点を理解する(1)	シビックプライドとは何かを考える。関連する都市事例から、住民と町とのコミュニケーションの可能性を考え、持続可能性のあるまちづくりを考える。	シビックプライドという言葉の意味を理解する。 テキスト「現況と展望編 第11講」を理解する。
13	シビックプライドの観点を理解する(2)	地域資源とは何かを考える。シビックプライドの視点から寝屋川の都市空間を捉え、地域資源の新たな価値付けについて考える。	テキスト「現況と展望編 第11講」を理解する。
14	都市のプロモーション	都市のプロモーションという視点から、まちづくりの動向を把握する。	都市のプロモーションに関連する映像を鑑賞する。
15	参加・協働のまちづくり	身近な地域におけるまちづくりの事例から、住民参加の多様性を学ぶ。	自身が都市とどのように関われるかを考える。

関連科目 基礎科目、専門科目全般であるが、特に設計演習 IIIb や卒業設計・卒業論文、大学院研究の導入とする。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初めて学ぶ都市計画	囊庭 伸ほか	市ヶ谷出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	都市計画	川上光彦	森北出版
2				
3				

評価方法(基準) レポートならびに授業内中間試験または論述レポート(50%)、期末試験または論述レポート(定期試験またはレポート)(50%)を総合し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ 建築と都市計画の領域は切り離せません。みなさんは、都市の魅力を創造していく立場に将来立ちます。どのような分野に進もうとも都市への関心を高めてください。講義の中では、基礎的な事項の理解だけではなく、身近な都市や地域に着目し、現在の状況に見いだせる課題を抽出し、それらを取り巻く多様な要素を踏まえた計画のあり方を一緒に検討したいと思います。卒業研究のテーマを模索する材料にもしてください。

担当者の研究室等 8号館3階 加嶋教授室

備考 【事前学習】事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回0.5時間以上の時間をかけて内容を理解する。
【事後学習】事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1時間以上かけて、教科書以外の資料に目を通す。出来るだけ視覚的資料も探すこと。

科目名	日本建築史	科目名(英文)	Japanese Architectural History
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中川 等
ディプロマポリシー(DP)	F◎		

授業概要・目的	日本の建築の歴史について、有史以前から古代、中世、近世、近代にいたる形成と展開の過程を講述する。各時代の寺院、神社、住宅など代表的な建築を写真と図面により具体的に紹介し、その空間構成と構造技法、意匠材料の特徴と変遷について通史的に解説する。当時の社会的な背景と生活様式、生産技術にも言及し、幅広い視野で総合的に建築を捉えるようにつとめる。あわせて、都市や集落、町並など集住環境の歴史についても考察する。
到達目標	日本の建築と集住環境の歴史及びその背景に関する総合的な理解に基づいて、建築・都市計画に必要な、計画・意匠・歴史・環境に関する基礎的な考え方が説明でき、それらを活用できる。
授業方法と留意点	授業では、重要項目を板書して解説を行う。毎回、教科書の写真と図面に基づいて説明するので、必ず教科書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	建築や都市に関わる者の基本素養として、また一級・二級建築士の資格を取得するために、建築史の知識は必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	概説	時代区分と基本語彙	説明した基本語彙を習得する。
2	竪穴住居と高床住居	先史・原史時代の遺跡・遺物とその展開	興味をもった遺跡・遺物について写真集等で再確認する。
3	神社建築の諸相	神社建築の起源と諸形式の特徴	興味をもった神社建築について写真集等で再確認する。
4	仏教伝来と法隆寺	飛鳥・奈良時代の寺院建築とその展開	興味をもった寺院建築について写真集等で再確認する。
5	密教と浄土教の建築	平安時代の寺院建築とその展開	興味をもった寺院建築について写真集等で再確認する。
6	古代の都市と住宅	平城京・平安京の建設と宮殿・住宅	興味をもった遺跡・建築について写真集等で再確認する。
7	鎌倉仏教と新様式	伝統的な和様と大仏様・禅宗様の展開	興味をもった寺社建築について写真集等で再確認する。
8	座敷飾りと書院造	寝殿造から書院造が成立した過程	興味をもった住宅建築について写真集等で再確認する。
9	中世の庶民住宅	中世の都市・農村と庶民の住宅	興味をもった遺跡・絵画・建築について写真集等で再確認する。
10	近世の寺社・城郭と城下町	近世の寺社・霊廟・城郭建築と城下町	興味をもった建築・都市について写真集等で再確認する。
11	茶室と数寄屋	茶室と数寄屋の形成とその展開	興味をもった茶室・数寄屋建築について写真集等で再確認する。
12	近世民家の成立	近世民家の地域分布と成立背景	興味をもった民家建築について写真集等で再確認する。
13	近代の洋風・和風建築	近代化の進展と洋風・和風建築の展開	興味をもった洋風・和風建築について写真集等で再確認する。
14	歴史的建造物と都市の現在	文化財保護と景観・まちづくりの現況と課題	歴史的建造物と都市の現況と課題について各自で考察する。
15	まとめ	日本建築の特質	日本建築の特質について各自で考察する。

関連科目	西洋建築史、近代建築史
------	-------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本建築史図集(新訂第三版)	日本建築学会編	彰国社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験の結果により判断する(100%)。定期試験は自筆ノート参照可とするので、授業にしっかり出席して充実したノート作成を心がけること。
----------	--

学生へのメッセージ	日本建築史を理解するためには、歴史的な建築と環境に実際に接してその空間を体験することが大切である。京都、奈良、大阪など大学の周辺は史跡と文化財の宝庫であり、各所に伝統文化がいまも残っている。現地に足を運んで自ら感得することが望ましい。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む
----	---------------------------------------

科目名	微積分 I	科目名 (英文)	Calculus I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	ニ
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺本 恵昭
ディプロマポリシー (DP)	D◎		

授業概要・目的	整式、有理式、無理関数、3角、指数、対数関数などの基本的な関数について、微分の計算法、テイラー展開の求め方、不定積分の計算法を習得する。
到達目標	1) 基本的な関数の微分ができる。 2) 関数の挙動を求めグラフが描ける。 3) 基本的な関数の不定積分ができる。
授業方法と留意点	進捗の具合により講義と演習を適宜配分。左に挙げた内容を解説し、演習で理解を深める。専門学科で必要とされる微積分の素養、計算能力を身につけるために授業には必ず出席し、予習復習も励行すること。試験は中間、期末の計2回
科目学習の効果 (資格)	次の科目の講義は微積分 I の知識とスキルを前提にして授業が進められます： 微積分 II, 工業数学 I, 工業数学 II, 代数学, 幾何学 II, 解析学, 統計学。 上記科目を受講する予定の学生は微積分 I を履修すること。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	関数とそのグラフ (1)	・座標平面・点の表示・点の移動の表示	第1章の間, 問題 課題レポート
	2	関数とそのグラフ (2)	・関数に関する用語・簡単な関数のグラフ	第1章の間, 問題 課題レポート
	3	関数の極限	・実数の性質・極限の定義・極限の計算方法	第1章の間, 問題 課題レポート
	4	関数の連続性	・連続性の定義・連続関数の性質	第1章の間, 問題 課題レポート
	5	微分係数	・微分係数の定義・接線の方程式	第2章の間, 問題 課題レポート
	6	導関数	・導関数の定義・導関数の求め方・整式の導関数	第2章の間, 問題 課題レポート
	7	導関数の計算方法	・積, 商の導関数	第2章の間, 問題 課題レポート
	8	合成関数の微分高次導関数	・合成の方法・合成関数の微分の計算	第2章の間, 問題 課題レポート
	9	逆関数の微分	・逆関数の定義・逆関数の微分の計算	第2章の間, 問題 課題レポート
	10	指数関数	・指数法則・ネピアの数 e・指数関数の定義	第3章の間, 問題 課題レポート
	11	指数関数の微分	・ $x=0$ での微分係数・指数関数の微分	第3章の間, 問題 課題レポート
	12	対数関数	・自然対数の定義・対数の性質	第3章の間, 問題 課題レポート
	13	対数関数の微分	・ $x=1$ での微分係数・導関数の求め方・対数微分法	第3章の間, 問題 課題レポート
	14	3角関数	・弧度法・3角関数の定義・諸性質と公式	第4章の間, 問題 課題レポート
	15	3角関数・逆3角関数の微分	・ $\sin x$ の微分・3角関数の微分・逆3角関数の微分	第4章の間, 問題 課題レポート
	16	高次導関数 (1)	・高次導関数の定義・多項式の高次導関数	第5章の間, 問題 課題レポート
	17	高次導関数 (2)	・指数, 対数, 3角関数の高次導関数・ライプニッツの公式	第5章の間, 問題 課題レポート
	18	平均値の定理	・ロルの定理・平均値の定理	第6章の間, 問題 課題レポート
	19	関数の挙動 (1)	・関数の増減・極大, 極小	第6章の間, 問題 課題レポート
	20	関数の挙動 (2)	・グラフの凹凸・変曲点	第6章の間, 問題 課題レポート
	21	関数の展開 (1)	・テイラー展開・マクローリン展開	第6章の間, 問題 課題レポート
	22	関数の展開 (2)	・指数関数, 3角関数, 対数関数の展開・2項定理の一般化	第6章の間, 問題 課題レポート
	23	原始関数 (1)	微分の逆演算としての不定積分	第7章の間, 問題 課題レポート
	24	原始関数 (2)	・整式, 有理式的不定積分	第7章の間, 問題 課題レポート
	25	原始関数 (3)	・3角関数の不定積分	第7章の間, 問題 課題レポート
	26	原始関数 (4)	・指数関数, 対数関数の不定積分	第7章の間, 問題 課題レポート
	27	不定積分の計算法 (1)	・置換積分	第7章の間, 問題 課題レポート
	28	不定積分の計算法 (2)	・部分積分	第7章の間, 問題 課題レポート
	29	不定積分の計算法 (3)	・分数関数の不定積分・無理関数の不定積分	第7章の間, 問題 課題レポート
30	不定積分の計算法 (4)	・初等関数の不定積分のまとめ	第7章の間, 問題 課題レポート	

関連科目 微積分 II; 線形代数 I; II; 工業数学 I; 工業数学 II; 代数学; 幾何学 II; 解析学; 統計学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分基礎	寺本恵昭	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	関連の本が沢山出版されている。図書館に所蔵されている他、数学研究室にも多数あり貸し出し可。		
	2			
	3			

評価方法 (基準) 演習, 小テストで30%、中間 35%、期末 35%判定し評価する。

学生へのメッセージ	講義内容に関することはどんな事でも遠慮なく質問すること。いつでも親切に答えるようにしています。参考書を貸し出しますので相談に来て下さい。また、チューデントアワー(月-金の5限目)には3号館3階準備室に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	事前事後学習は毎回1時間以上かけること。

科目名	微積分 I	科目名 (英文)	Calculus I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中津 了勇
ディプロマポリシー (DP)	D◎		

授業概要・目的	整式、有理式、無理関数、3角、指数、対数関数などの基本的な関数について、微分の計算法、テイラー展開の求め方、不定積分の計算法を習得する。
到達目標	1) 基本的な関数の微分ができる。 2) 関数の挙動を求めグラフが描ける。 3) 基本的な関数の不定積分ができる。
授業方法と留意点	進捗の具合により講義と演習を適宜配分。左に挙げた内容を解説し、演習で理解を深める。専門学科で必要とされる微積分の素養、計算能力を身につけるために授業には必ず出席し、予習復習も励行すること。試験は中間、期末の計2回
科目学習の効果 (資格)	次の科目の講義は微積分 I の知識とスキルを前提にして授業が進められます： 微積分 II, 工業数学 I, 工業数学 II, 代数学, 幾何学 II, 解析学, 統計学。 上記科目を受講する予定の学生は微積分 I を履修すること。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	関数とそのグラフ (1)	・座標平面・点の表示・点の移動の表示	第1章の間, 問題 課題レポート
	2	関数とそのグラフ (2)	・関数に関する用語・簡単な関数のグラフ	第1章の間, 問題 課題レポート
	3	関数の極限	・実数の性質・極限の定義・極限の計算方法	第1章の間, 問題 課題レポート
	4	関数の連続性	・連続性の定義・連続関数の性質	第1章の間, 問題 課題レポート
	5	微分係数	・微分係数の定義・接線の方程式	第2章の間, 問題 課題レポート
	6	導関数	・導関数の定義・導関数の求め方・整式の導関数	第2章の間, 問題 課題レポート
	7	導関数の計算方法	・積, 商の導関数	第2章の間, 問題 課題レポート
	8	合成関数の微分高次導関数	・合成の方法・合成関数の微分の計算	第2章の間, 問題 課題レポート
	9	逆関数の微分	・逆関数の定義・逆関数の微分の計算	第2章の間, 問題 課題レポート
	10	指数関数	・指数法則・ネピアの数 e・指数関数の定義	第3章の間, 問題 課題レポート
	11	指数関数の微分	・ $x=0$ での微分係数・指数関数の微分	第3章の間, 問題 課題レポート
	12	対数関数	・自然対数の定義・対数の性質	第3章の間, 問題 課題レポート
	13	対数関数の微分	・ $x=1$ での微分係数・導関数の求め方・対数微分法	第3章の間, 問題 課題レポート
	14	3角関数	・弧度法・3角関数の定義・諸性質と公式	第4章の間, 問題 課題レポート
	15	3角関数・逆3角関数の微分	・ $\sin x$ の微分・3角関数の微分・逆3角関数の微分	第4章の間, 問題 課題レポート
	16	高次導関数 (1)	・高次導関数の定義・多項式の高次導関数	第5章の間, 問題 課題レポート
	17	高次導関数 (2)	・指数, 対数, 3角関数の高次導関数・ライプニッツの公式	第5章の間, 問題 課題レポート
	18	平均値の定理	・ロルの定理・平均値の定理	第6章の間, 問題 課題レポート
	19	関数の挙動 (1)	・関数の増減・極大, 極小	第6章の間, 問題 課題レポート
	20	関数の挙動 (2)	・グラフの凹凸・変曲点	第6章の間, 問題 課題レポート
	21	関数の展開 (1)	・テイラー展開・マクローリン展開	第6章の間, 問題 課題レポート
	22	関数の展開 (2)	・指数関数, 3角関数, 対数関数の展開・2項定理の一般化	第6章の間, 問題 課題レポート
	23	原始関数 (1)	微分の逆演算としての不定積分	第7章の間, 問題 課題レポート
	24	原始関数 (2)	・整式, 有理式的不定積分	第7章の間, 問題 課題レポート
	25	原始関数 (3)	・3角関数の不定積分	第7章の間, 問題 課題レポート
	26	原始関数 (4)	・指数関数, 対数関数の不定積分	第7章の間, 問題 課題レポート
	27	不定積分の計算法 (1)	・置換積分	第7章の間, 問題 課題レポート
	28	不定積分の計算法 (2)	・部分積分	第7章の間, 問題 課題レポート
	29	不定積分の計算法 (3)	・分数関数の不定積分・無理関数の不定積分	第7章の間, 問題 課題レポート
30	不定積分の計算法 (4)	・初等関数の不定積分のまとめ	第7章の間, 問題 課題レポート	

関連科目 微積分 II; 線形代数 I; II; 工業数学 I; 工業数学 II; 代数学; 幾何学 II; 解析学; 統計学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分基礎	寺本恵昭	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	関連の本が沢山出版されている。図書館に所蔵されている他、数学研究室にも多数あり貸し出し可。		
	2			
	3			

評価方法 (基準) 演習, 小テストで30%、中間 35%、期末 35%判定し評価する。

学生への メッセージ	講義内容に関することはどんな事でも遠慮なく質問すること。いつでも親切に答えるようにしています。参考書を貸し出しますので相談に来て下さい。また、チューデントアワー(月-金の5限目)には3号館3階準備室に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。
担当者の 研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。

科目名	微積分 I	科目名 (英文)	Calculus I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田畑 謙二
ディプロマポリシー (DP)	D◎		

授業概要・目的	整式、有理式、無理関数、3角、指数、対数関数などの基本的な関数について、微分の計算法、テイラー展開の求め方、不定積分の計算法を習得する。
到達目標	1) 基本的な関数の微分ができる 2) 関数の挙動を求めグラフが描ける 3) 基本的な関数の不定積分ができる。
授業方法と留意点	進捗の具合により講義と演習を適宜配分。左に挙げた内容を解説し、演習で理解を深める。専門学科で必要とされる微積分の素養、計算能力を身につけるために授業には必ず出席し、予習復習も励行すること。試験は中間、期末の計2回
科目学習の効果 (資格)	本講義の内容は後期の微積分 II を習得するのに引き継がれる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	関数とそのグラフ (1)	・座標平面・点の表示・点の移動の表示	第1章の間、問題 課題レポート
	2	関数とそのグラフ (2)	・関数に関する用語・簡単な関数のグラフ	第1章の間、問題 課題レポート
	3	関数の極限	・実数の性質・極限の定義・極限の計算方法	第1章の間、問題 課題レポート
	4	関数の連続性	・連続性の定義・連続関数の性質	第1章の間、問題 課題レポート
	5	微分係数	・微分係数の定義・接線の方程式	第2章の間、問題 課題レポート
	6	導関数	・導関数の定義・導関数の求め方・整式の導関数	第2章の間、問題 課題レポート
	7	導関数の計算方法	・積、商の導関数	第2章の間、問題 課題レポート
	8	合成関数の微分高次導関数	・合成の方法・合成関数の微分の計算	第2章の間、問題 課題レポート
	9	逆関数の微分	・逆関数の定義・逆関数の微分の計算	第2章の間、問題 課題レポート
	10	指数関数	・指数法則・ネピアの数 e・指数関数の定義	第3章の間、問題 課題レポート
	11	指数関数の微分	・ $x=0$ での微分係数・指数関数の微分	第3章の間、問題 課題レポート
	12	対数関数	・自然対数の定義・対数の性質	第3章の間、問題 課題レポート
	13	対数関数の微分	・ $x=1$ での微分係数・導関数の求め方・対数微分法	第3章の間、問題 課題レポート
	14	3角関数	・弧度法・3角関数の定義・諸性質と公式	第4章の間、問題 課題レポート
	15	3角関数・逆3角関数の微分	・ $\sin x$ の微分・3角関数の微分・逆3角関数の微分	第4章の間、問題 課題レポート
	16	高次導関数 (1)	・高次導関数の定義・多項式の高次導関数	第5章の間、問題 課題レポート
	17	高次導関数 (2)	・指数、対数、3角関数の高次導関数・ライプニッツの公式	第5章の間、問題 課題レポート
	18	平均値の定理	・ロルの定理・平均値の定理	第6章の間、問題 課題レポート
	19	関数の挙動 (1)	・関数の増減・極大、極小	第6章の間、問題 課題レポート
	20	関数の挙動 (2)	・グラフの凹凸・変曲点	第6章の間、問題 課題レポート
	21	関数の展開 (1)	・テイラー展開・マクローリン展開	第6章の間、問題 課題レポート
	22	関数の展開 (2)	・指数関数、3角関数、対数関数の展開・2項定理の一般化	第6章の間、問題 課題レポート
	23	原始関数 (1)	微分の逆演算としての不定積分	第7章の間、問題 課題レポート
	24	原始関数 (2)	・整式、有理式的不定積分	第7章の間、問題 課題レポート
	25	原始関数 (3)	・3角関数の不定積分	第7章の間、問題 課題レポート
	26	原始関数 (4)	・指数関数、対数関数の不定積分	第7章の間、問題 課題レポート
	27	不定積分の計算法 (1)	・置換積分	第7章の間、問題 課題レポート
	28	不定積分の計算法 (2)	・部分積分	第7章の間、問題 課題レポート
	29	不定積分の計算法 (3)	・分数関数の不定積分・無理関数の不定積分	第7章の間、問題 課題レポート
30	不定積分の計算法 (4)	・初等関数の不定積分のまとめ	第7章の間、問題 課題レポート	

関連科目	以下の科目の講義は微積分 I の知識とスキルを前提にして授業が進められます： 微積分 II, 工業数学 I, 工業数学 II, 代数学, 幾何学 II, 解析学, 統計学 上記科目を受講する予定の学生は微積分 I を履修すること。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分基礎	寺本恵昭	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	演習、小テストで30%、中間試験35%、期末試験35%で判定し評価する。
-----------	--------------------------------------

学生への メッセージ	講義内容に関することはどんな事でも遠慮なく質問すること。いつでも親切に答えるようにしています。参考書を貸し出しますので相談に来て下さい。また、チューデントアワー(月-金の5限目)には3号館3階準備室に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。
担当者の 研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。

科目名	微積分Ⅱ	科目名(英文)	Calculus II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田 伸一
ディプロマポリシー(DP)	D◎		

授業概要・目的	定積分の概念と計算法, 広義積分の概念と計算法及び収束の判定法, 2変数関数の偏微分の計算とそのグラフの把握極値問題の扱い方, 重積分の概念と計算法, 以上を説明する。
到達目標	基礎知識を身につけ, 課題に対して定量的な解を求めることができる基礎的能力を有する: 1) 基本的な関数の積分ができる 2) 偏微分の計算ができる 3) 2変数関数の挙動がわかる 4) 重積分の計算ができる 5) 極値, 体積, 重心, 慣性モーメントへの応用ができる。
授業方法と留意点	挙げた内容を具体的な計算例を中心にできるだけ平易に解説し, 理解の程度を演習により確かめる。受講者はその厳選された平易な内容を確実に自分のものとするよう心掛けて頂きたい。そのためには, 欠席をせず授業の前に30分でも良いから復習を重ねること。
科目学習の効果(資格)	2年生以降に学ぶ数学, 物理学関連科目の基礎となる。これらの科目を履修予定の者はこの科目を履修しておくことが望まれる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			問	課題レポート
1	定積分の定義	・面積と定積分・定積分の定義・定積分の性質	第8章の問	課題レポート
2	簡単な定積分	・定数関数, 1次, 2次関数の定積分・不定積分と定積分・基本的な関数の定積分	第8章の問	課題レポート
3	定積分の計算法(1)	・微積分の基本定理・不定積分と定積分	第8章の問	課題レポート
4	定積分の応用(2)	・置換積分	第8章の問	課題レポート
5	定積分の応用(3)	・部分積分	第8章の問	課題レポート
6	定積分の応用(4)	・指数関数, 3角関数の定積分	第8章の問	課題レポート
7	定積分の計算法(5)	・有理関数, 無理関数の定積分	第8章の問	課題レポート
8	定積分の応用(1)	・曲線が囲む面積の計算	第8章の問	課題レポート
9	定積分の応用(2)	・体積の計算	第8章の問	課題レポート
10	定積分の応用(3)	・回転体の体積	第8章の問	課題レポート
11	定積分の応用(4)	・広義積分	第8章の問	課題レポート
12	2変数の関数(1)	・2変数関数の例・xy平面内の領域と関数の定義域	第9章の問	課題レポート
13	2変数関数のグラフ(1)	・グラフとしての曲面・グラフ上の曲線	第9章の問	課題レポート
14	2変数の関数(2)	・2変数関数の極限・2変数関数の連続性	第9章の問	課題レポート
15	2変数関数のグラフ(2)	・グラフ上の曲線の接線・接平面の導入	第9章の問	課題レポート
16	偏微分	・偏微分の定義	第9章の問	課題レポート
17	偏微分の計算(1)	・偏導関数の定義・偏導関数の計算法	第9章の問	課題レポート
18	偏微分の計算(2)	・偏微分可能性・全微分可能性	第9章の問	課題レポート
19	合成関数の偏微分	・2変数関数の合成と偏微分の計算	第9章の問	課題レポート
20	高次偏導関数(1)	・2次偏導関数の定義・偏微分の順序交換	第9章の問	課題レポート
21	高次偏導関数(2)	・合成の高次偏微分・偏微分作用素の表示	第9章の問	課題レポート
22	高次偏導関数(3)	・2変数のテイラー展開・マクローリン展開	第9章の問	課題レポート
23	偏微分の応用(1)	・2変数関数の極値問題	第9章の問	課題レポート
24	偏微分の応用(2)	・陰関数定理・条件付き極値問題	第9章の問	課題レポート
25	重積分の定義(1)	・体積と重積分・長方形領域上での重積分	第10章の問	課題レポート
26	重積分の定義(2)	・長方形上での逐次積分	第10章の問	課題レポート
27	重積分の計算法(1)	・曲線で囲まれた領域上での重積分	第10章の問	課題レポート
28	重積分の計算法(2)	・逐次積分への帰着	第10章の問	課題レポート
29	重積分の計算法(3)	・重積分と立体の体積	第10章の問	課題レポート
30	重積分の計算法(4)	・広義重積分・ Γ 関数とベータ関数	第10章の問	課題レポート

関連科目 微積分Ⅰ、線形代数Ⅰ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分基礎	寺本恵昭	共立出版

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準) 演習, 小テスト, 宿題で20%, 中間試験25%, 期末試験55%で評価する。

学生へのメッセージ どんなに些細な事でも遠慮なく質問すること, 授業中でもいつでも親切に答えます。参考書を貸し出しますので相談に来て下さい。また, スチューデントアワー(月-金の5限目)には3号館3階準備室に数学教員がいますのでどんな質問でも良いから来て下さい。数学は特に積み重ねが肝心の科目です。諦めずに続けましょう。

担当者の研究室等 3号館3階 数学研究室

備考 事前事後学習は, 毎回1時間以上かけること。

科目名	微積分Ⅱ	科目名(英文)	Calculus II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 洋平
ディプロマポリシー(DP)	D◎		

授業概要・目的	定積分の概念と計算法, 広義積分の概念と計算法及び収束の判定法, 2変数関数の偏微分の計算とそのグラフの把握極値問題の扱い方, 重積分の概念と計算法, 以上を説明する。
到達目標	基礎知識を身につけ, 課題に対して定量的な解を求めることができる基礎的能力を有する: 1) 基本的な関数の積分ができる 2) 偏微分の計算ができる 3) 2変数関数の挙動がわかる 4) 重積分の計算ができる 5) 極値, 体積, 重心, 慣性モーメントへの応用ができる。
授業方法と留意点	挙げた内容を具体的な計算例を中心にできるだけ平易に解説し, 理解の程度を演習により確かめる。受講者はその厳選された平易な内容を確実に自分のものとするよう心掛けて頂きたい。そのためには, 欠席をせず授業の前に30分でも良いから復習を重ねること。
科目学習の効果(資格)	2年生以降に学ぶ数学, 物理学関連科目の基礎となる。これらの科目を履修予定の者はこの科目を履修しておくことが望まれる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
1	定積分の定義	・面積と定積分・定積分の定義・定積分の性質	第8章の間, 問題	課題レポート
2	簡単な定積分	・定数関数, 1次, 2次関数の定積分・不定積分と定積分・基本的な関数の定積分	第8章の間, 問題	課題レポート
3	定積分の計算法(1)	・微積分の基本定理・不定積分と定積分	第8章の間, 問題	課題レポート
4	定積分の応用(2)	・置換積分	第8章の間, 問題	課題レポート
5	定積分の応用(3)	・部分積分	第8章の間, 問題	課題レポート
6	定積分の応用(4)	・指数関数, 3角関数の定積分	第8章の間, 問題	課題レポート
7	定積分の計算法(5)	・有理関数, 無理関数の定積分	第8章の間, 問題	課題レポート
8	定積分の応用(1)	・曲線が囲む面積の計算	第8章の間, 問題	課題レポート
9	定積分の応用(2)	・体積の計算	第8章の間, 問題	課題レポート
10	定積分の応用(3)	・回転体の体積	第8章の間, 問題	課題レポート
11	定積分の応用(4)	・広義積分	第8章の間, 問題	課題レポート
12	2変数の関数(1)	・2変数関数の例・xy平面内の領域と関数の定義域	第9章の間, 問題	課題レポート
13	2変数関数のグラフ(1)	・グラフとしての曲面・グラフ上の曲線	第9章の間, 問題	課題レポート
14	2変数の関数(2)	・2変数関数の極限・2変数関数の連続性	第9章の間, 問題	課題レポート
15	2変数関数のグラフ(2)	・グラフ上の曲線の接線・接平面の導入	第9章の間, 問題	課題レポート
16	偏微分	・偏微分の定義	第9章の間, 問題	課題レポート
17	偏微分の計算(1)	・偏導関数の定義・偏導関数の計算法	第9章の間, 問題	課題レポート
18	偏微分の計算(2)	・偏微分可能性・全微分可能性	第9章の間, 問題	課題レポート
19	合成関数の偏微分	・2変数関数の合成と偏微分の計算	第9章の間, 問題	課題レポート
20	高次偏導関数(1)	・2次偏導関数の定義・偏微分の順序交換	第9章の間, 問題	課題レポート
21	高次偏導関数(2)	・合成の高次偏微分・偏微分作用素の表示	第9章の間, 問題	課題レポート
22	高次偏導関数(3)	・2変数のテイラー展開・マクローリン展開	第9章の間, 問題	課題レポート
23	偏微分の応用(1)	・2変数関数の極値問題	第9章の間, 問題	課題レポート
24	偏微分の応用(2)	・陰関数定理・条件付き極値問題	第9章の間, 問題	課題レポート
25	重積分の定義(1)	・体積と重積分・長方形領域上での重積分	第10章の間, 問題	課題レポート
26	重積分の定義(2)	・長方形上での逐次積分	第10章の間, 問題	課題レポート
27	重積分の計算法(1)	・曲線で囲まれた領域上での重積分	第10章の間, 問題	課題レポート
28	重積分の計算法(2)	・逐次積分への帰着	第10章の間, 問題	課題レポート
29	重積分の計算法(3)	・重積分と立体の体積	第10章の間, 問題	課題レポート
30	重積分の計算法(4)	・広義重積分・ Γ 関数とベータ関数	第10章の間, 問題	課題レポート

関連科目	微積分Ⅰ, 線形代数Ⅰ・Ⅱ
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分基礎	寺本恵昭	共立出版

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	演習, 小テスト, 宿題で30%, 中間試験35%, 期末試験35%で評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	どんなに些細な事でも遠慮なく質問すること, 授業中でもいつでも親切に答えます。参考書を貸し出しますので相談に来て下さい。また, スチューデントアワー(月-金の5限目)には3号館3階準備室に数学教員がいますのでどんな質問でも良いから来て下さい。数学は特に積み重ねが肝心の科目です。諦めずに続けましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室
----------	-------------

備考	事前事後学習は, 毎回1時間以上かけること。
----	------------------------

科目名	福祉すまい環境	科目名(英文)	Welfare Residential Environment Design
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大谷 由紀子
ディプロマポリシー(DP)	F◎		

授業概要・目的	人々が安全で、安心して暮らせる生活環境の計画に資する、基本的な考え方を学ぶ。超高齢化、多様化する現代社会において、福祉の観点からこれまでの建築・都市を見直すと同時に、ハード、ソフトの両方から近年の計画動向を学ぶ。
到達目標	多様な人々を配慮した住宅・地域の空間計画に関する基礎的知識、および、計画手法を理解できる。
授業方法と留意点	講義のほか、映像、写真による各種事例の提示、事例の見学、フィールドワークなどの体験型の授業も行う。体験型授業は学外で行う可能性もある。 課題を通じて一般的な理解にとどまらず、身近な日常生活空間から理解を促す。
科目学習の効果(資格)	1級・2級建築士、1級・2級福祉住環境コーディネーター、インテリアプランナーなど

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	社会の変化と生活空間	社会の変化や多様化、生活空間の変化を統計等を用いて学ぶ	予習または復習課題として、新聞や関連記事を読み知識を得る
2	住宅内の事故と安全	住宅内の事故の原因、種類を知り、安全な住まいを考える	予習または復習課題として、建築雑誌などで保育所の建築を勉強する
3	こどもの福祉と保育空間	こどもの育ちと生活空間の事例 保育所、学校の新しい事例を学ぶ	予習または復習課題として、建築雑誌などで保育所の建築を勉強する
4	さまざまな障害と生活空間	障害の種類、特徴を知り、建築・都市の現状を点検する	予習または復習課題として、建築雑誌などで障害者施設を勉強する
5	ユニバーサルな生活空間	多様化する学生や職員がいる大学施設を事例に、ユニバーサルな生活空間を考える	予習または復習課題として、新聞や関連記事を読み知識を得る
6	高齢期と生活空間 1	高齢者福祉の全体像をつかむ、高齢期の住宅問題を考える	予習または復習課題として、新聞や関連記事を読み知識を得る
7	高齢期と生活空間 2	高齢者向けサービスと生活空間のあり方を考える	予習または復習課題として、建築雑誌などで高齢者施設を勉強する
8	高齢期と生活空間 3	高齢者向け住宅、グループホーム、特別養護老人ホームの計画を学ぶ	予習または復習課題として、建築雑誌などで高齢者施設を勉強する
9	中間試験		これまでの内容の復習
10	高齢期と生活空間 4	生活の質的向上と近年の高齢者市施設の動向を学ぶ	予習または復習課題として、新聞や関連記事を読み知識を得る
11	共有する住まいの動向	地縁血縁のない他人と共有する暮らし方と生活空間の計画を考える	予習または復習課題として、建築雑誌などでシェアハウスなどを勉強する
12	災害と住まい	震災と被災者の住まいの問題を考える	予習または復習課題として、新聞や関連記事を読み知識を得る
13	地域包括ケアとまちづくり	地域包括ケアの考え方、およびケアを実現した地域の計画を考える	予習または復習課題として、新聞や関連記事を読み知識を得る
14	長寿社会のまちづくり	長寿社会、多世代共生社会に向けた近年のまちづくりを考える	予習または復習課題として、自治体の事例を調べる
15	総括	福祉の観点から、これからの建築・まちづくりの可能性をさぐる	—

関連科目	設計演習Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、建築計画基礎、建築計画各論、インテリア概論など
------	--------------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高齢社会に生きる	上野淳	鹿島出版社
2			
3			

評価方法(基準)	中間試験(40%)、期末試験(40%)、予習・復習課題(20%)の合計100点満点の60点以上を合格とする。
----------	--

学生へのメッセージ	みなさんの身近な生活空間が教材です。何気なく過ごしているいつもの空間も、問題意識をもって観察すると、これまで見えなかったさまざまな問題に気づきます。その気づきこそ、授業での学び、建築への興味を深めます。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館3階 大谷教授室
----------	-------------

備考	学外での見学やフィールドワークなどは先方との調整が必要となるため、日程や詳細は事前に授業で伝える。 事前学習 授業テーマに即して毎回0.5時間程度、新聞、雑誌、関連資料などに目を通しておく。 事後学習 授業の内容について毎回0.5時間以上、確認または課題を行う。
----	---

科目名	物理学 I	科目名 (英文)	Physics I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	長島 健
ディプロマポリシー (DP)	D◎		

授業概要・目的	物理学は力学とともに理工系大学教育において、極めて重要な基礎科目である。物理学 I では「熱力学」を軸として、「力学」と関連した物理学の基礎を総合的に学ぶ。熱力学は建築設備における熱の発生及び伝導の仕組み、そして空調設備の動作原理等を理解する上で不可欠である。授業ではさまざまな熱現象を基本原理、基本原則から丁寧に講義する。
到達目標	力学を基礎として熱の性質を基本原理から習得する。
授業方法と留意点	教科書とプリントを用いて授業を進める。また理解を深めるため、簡単な実験を行うこともある。毎回小テストを行なうが、小テストは友達と相談したり、教科書を参照してもよいので、最後まであきらめずに考えて解くこと。
科目学習の効果 (資格)	理工系専門科目において必要不可欠な工学の基礎であり、専門で出てくる物理量の意味や相互関係の理解に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	物理学とは	物理学の役割を身近な例をとって分かりやすく説明する。数式化の基礎となる物理量の表し方や単位について学ぶ。	—————
2	数学的準備: 時間に対する変化量と微分・積分	時々刻々と変化する量を時間の関数として理解するため、微分・積分の概念を導入する。	予習・小テスト復習 (0.5 時間以上)
3	時間変化と位置ベクトル, 速度ベクトル, 加速度ベクトル	時間とともに変化する位置ベクトルから、その動きの速度ベクトルが求まる。速度ベクトルという概念を習得する。さらに速度の時間変化を追うことで、加速度ベクトルの概念を習得する。	予習・小テスト復習 (0.5 時間以上)
4	運動の法則と運動方程式	力学の基礎となる運動の第 1～第 3 法則を学び、運動方程式のたて方およびその解き方について理解する。	予習・小テスト復習 (0.5 時間以上)
5	運動量と力積	時間と力との関係から、運動量という新たな量を理解する。	予習・小テスト復習 (0.5 時間以上)
6	仕事と運動エネルギー	空間と力との関係から、エネルギーという新たな量を理解する。	予習・小テスト復習 (0.5 時間以上)
7	気体法則	「熱力学」の紹介。ボイルの法則、シャルルの法則を学ぶ。	予習・小テスト復習 (0.5 時間以上)
8	理想気体の状態方程式	理想気体の概念を学び、理想気体の状態を記述する状態方程式を学ぶ。	予習・小テスト復習 (0.5 時間以上)
9	気体の分子運動論	圧力と温度の関係を気体の分子運動論から理解する。内部エネルギーの概念を習得する。	予習・小テスト復習 (0.5 時間以上)
10	温度と熱	温度と熱の概念を気体の分子運動論から理解する。	予習・小テスト復習 (0.5 時間以上)
11	熱力学第一法則	力学的な仕事と熱量の関係を学び、熱現象に関わるエネルギー保存則を理解する。	予習・小テスト復習 (0.5 時間以上)
12	様々な状態変化	等温変化, 定圧変化, 定積変化, 断熱変化を知る。	予習・小テスト復習 (0.5 時間以上)
13	カルノーサイクル	カルノーサイクルを学び、熱エネルギーからどのように機械的なエネルギーを取り出すのかを理解し、第 2 種永久機関の是非を問う。	予習・小テスト復習 (0.5 時間以上)
14	熱力学第二法則とエントロピー	熱現象の不可逆性を概観し、エントロピーという新たな量を知る。これより自然界の根底には、熱力学第二法則が存在していることを学ぶ。	予習・小テスト復習 (0.5 時間以上)
15	まとめ	—————	—————

関連科目	物理学 II、力学 I、力学 II、物理学実験
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理	潮秀樹, 上村洸	森北出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	期末試験と小テストにより行う。期末試験 70%、小テスト 30%
-----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	この授業内容は、中学や高校における「試験用の物理」とは全く異なる「専門につながる基礎」なので、苦手意識をもたずに授業にのぞんでください。
-----------	--

担当者の研究室等	8 号館 2 階 長島研究室 スチューデントアワー 火曜日 5 限目
----------	---------------------------------------

備考	
----	--

科目名	物理学Ⅱ	科目名(英文)	Physics II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	前田 純一郎
ディプロマポリシー(DP)	D◎		

授業概要・目的	物理学は自然現象や理工系学部の専門科目を理解する上で、極めて重要な基礎科目であり、現代の科学技術の基礎をなしている。本講義では身近な物理現象の紹介とその成り立ちについて基本的な法則から説明する。特に、力学、熱学、光学および電磁気学に関する物理学の基本的原理や法則の相互関係を概説し、物理現象を総合的にかつ定量的に取り扱う方法を学ぶ。
到達目標	建築・都市工学技術者として必要な専門知識の理解を深めるために、数学や物理学などの基礎的な考え方が説明でき、それらを活用できる。
授業方法と留意点	教科書と小テストを用いて授業をすすめる。ほぼ毎回小テストを行なうが、小テストは友達と相談したり、教科書を参照してもよいので、最後まであきらめずに考えて解くこと。
科目学習の効果(資格)	理工系専門科目において必要不可欠な工学の基礎であり、専門で出てくる物理量の意味や相互関係の理解に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	身の周りの現象と物理学	身近なところで活躍する物理学	———
	2	時間変化と速度、加速度	位置の時間変化から、速度や加速度が定義される	予習・小テスト復習 時間に関する微分法
	3	運動の法則	運動の三法則	予習・小テスト復習 運動方程式を導く
	4	つり合いの状態	運動方程式の解法を学んだのち、物体がつり合っている状態での運動方程式を理解する	予習・小テスト復習 運動方程式を解く
	5	力学的エネルギー	空間と力との関係から、エネルギーという新たな量を理解する	予習・小テスト復習 エネルギー保存則
	6	電荷と力	力学と電気の関係：クーロンの法則	予習・小テスト復習 万有引力以外の力
	7	電荷の運動(質点の力学)	ミリカンの実験・ブラウン管における電荷の運動	予習・小テスト復習 電場中での荷電粒子の運動
	8	電流と電圧(簡単な回路)	電圧、電流、抵抗及び消費電力について説明する	予習・小テスト復習 オームの法則
	9	電磁誘導(磁石と力)	磁石と力、モーターと発電機	予習・小テスト復習 電場と磁場の違い
	10	直流と交流	家庭用電源と電池の原理と役割、簡単な回路	予習・小テスト復習 直流電流と交流電流の用途
	11	電気エネルギーと熱エネルギー	電気エネルギーと熱エネルギーの関係	予習・小テスト復習 電気を熱に変換したときのエネルギー保存則
	12	光の性質：電磁波	折れ曲がる電磁波と光	予習・小テスト復習 重ね合わせの原理
	13	光の性質：粒子	光の粒子性とエネルギー	予習・小テスト復習 光電効果
	14	物理学とエネルギー	エネルギーの変換と効率化(力学、電磁気、熱、光の融合)	予習・小テスト復習 さまざまなエネルギー
	15	おわりに	講義のまとめ	———

関連科目	力学Ⅰ・Ⅱ, 物理学Ⅰ, 物理学実験
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理	潮 秀樹, 上村 洸	森北出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	期末試験(70%)と小テスト(30%)の割合で評価する。
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	数学や物理は単に「試験問題」と考えると難しく思われがちですが、自然現象や経験をもとに考えると難しくありません。この授業は、中学や高校における「試験用の物理」とは全く異なる「専門につながる基礎」なので、苦手意識をたずずに授業にのぞんでください。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館2階 物理準備室
----------	-------------

備考	教科書や授業当日の配布されるプリントを1時間以上かけて丁寧に読み直すこと。理解出来なかった点を洗い出し、可能な限り次の授業にて質問したうえで、さらなる知識を積み上げること。 質問・相談時間：火曜 13:40 ~ 14:10
----	--

科目名	物理学実験	科目名(英文)	Experiments in Physics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	神嶋 修, 大上 雅史, 三木 久巳
ディプロマポリシー(DP)	D◎		

授業概要・目的	この実験科目は、自然科学の基本である「物理学」を、実際の測定やデータ解析を通して理解し、さらに物理現象をより深く観察・認識する科目である。よって、いろいろな装置を活用して、一連の内容の基本的演習および計測方法を学ぶ。
到達目標	以下の項目の理解を目標とする。1) 国際単位系(SI), 2) 各テーマの物理的内容, 3) 物理計測機器の取り扱い法, 4) 物理測定方法, 5) 誤差の考え方と取り扱い方。
授業方法と留意点	2~3人で1つの班が編成されるが、各班は順番表に従って週に1回(2時限)の実験を行い、レポートを提出する。
科目学習の効果(資格)	この科目では、事実・現象・測定等の実体験をととして、すじ道を立てて考える科学的な思考法を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	物理学実験に向けて	「実験」に関するガイダンス、および有効数字、誤差についての講義を行う。技術者・研究者の行動規範、倫理を身につける。	—————
	2	サールの装置によるヤング率の測定	サールの装置を用いて、2本の針金(真ちゅう線・ピアノ線)のヤング率を求める。	事前報告書およびレポート課題
	3	熱の仕事当量Jの測定	電流の発熱作用により、熱量計の中の水の温度上昇から熱の仕事当量Jを求める。	事前報告書およびレポート課題
	4	電子の比電荷の測定	電子が磁場内で円運動する状態を観察し、電子の比電荷 e/m の値を求める。	事前報告書およびレポート課題
	5	分光実験	分光計を用いて、葉緑素の光吸収スペクトルを求める。	事前報告書およびレポート課題
	6	プランク定数の測定	光電効果の現象を通して、光量子の概念を理解し、プランク(Planck)定数 h の値を測定する。	事前報告書およびレポート課題
	7	ボルダの振り子による重力加速度の測定	ボルダの振り子を用いて、当実験室での重力加速度の値を求める。	事前報告書およびレポート課題
	8	直流回路と交流回路	簡単な直流回路と交流回路を通じて、その動作原理を理解し、未知の抵抗の抵抗値を求める。	事前報告書およびレポート課題
	9	低温の世界	低温では物質の性質が劇的に変化する。本実験では低温におけるさまざまな現象について体験を通して理解する。	事前報告書およびレポート課題
	10	光の回折の実験	レーザーと回折格子を用いて、回折格子の間隔と回折角との関係を調べ、回折格子の間隔の値を求める。	事前報告書およびレポート課題
	11	ねじれ振り子による剛性率の測定	ねじれ振り子の周期、金属製円環のサイズ、ピアノ線の直径等を測定し、これらの測定結果からピアノ線の剛性率を求める。	事前報告書およびレポート課題
	12	コールラウシュブリッジによる電解質溶液の抵抗測定	コールラウシュブリッジを用い、電気伝導率が既知の電解質溶液から容器定数を求め、未知の電解質溶液の電気伝導率を測定する。	事前報告書およびレポート課題
	13	電磁波の実験	電磁波に関する種々の基本的測定から、電磁波の周波数や偏向特性を調べる。	事前報告書およびレポート課題
	14	レンズの焦点距離の測定	凸レンズおよび凹レンズの焦点距離の測定法を学び、レンズの特性を理解する。	事前報告書およびレポート課題
	15	速度と加速度	ストロボ撮影により、自由落下現象を観察し、速度と加速度を理解し、重力加速度を求める。	事前報告書およびレポート課題

関連科目 基礎力学演習、力学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ、

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	物理学実験	基礎理工学機構	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理	潮秀樹、上村洗	森北出版
	2	第3版 物理学基礎	原 康夫	学術図書出版
	3			

評価方法(基準)
 1) 実験は講義と異なり、全て出席を前提とする。
 2) レポートの提出がない場合、実験をしていないものとみなすので必ず提出すること。
 3) レポート(60%)、実験態度(40%)の割合で評価する。

学生へのメッセージ
 1) 実験は自然科学の基本です。この物理学実験でおおいに物理学を実体験して下さい。
 2) 質問がある場合、担当の先生に遠慮なく質問してください。

	3) 授業時間外の場合は、担当の先生の研究室へ訪ねてみて下さい。
担当者の 研究室等	8号館2階 光物性研究室
備考	<p>毎回レポート提出が課せられている。 自らが行う実験の事前学習として、 1時間以上をかけて教科書を読み、1) 実験の目的、2) 理論的背景、3) 実験手順 を提出レポートにまとめたうえで授業に参加すること。</p>

科目名	保存再生論	科目名(英文)	Building Renovation
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	所 千夏
ディプロマポリシー(DP)	H◎		

授業概要・目的	【授業概要・目的】 建築を社会的資産(ストック)にとらえ、資産の価値を上げる手法と技術を学び、建築の保存再生の実務に対する的確な判断を可能とする知識を身に付ける。
到達目標	建築の保存再生に対する知識を深め、保存再生の重要性を実感するとともに、社会のニーズに適切に対応できる技術を体得し、実際の建築保存再生現場など、実践の場で活用できるための知識を身につける。
授業方法と留意点	講義全体について、講義前半では、建築の保存再生の全般的な知識を深め、後半には実例について学び、自ら演習を行うことで、前半で学んだ知識を活かす。 講義は再生技術に関する知識が、実践の場でどう生かされているか、できる限り具体的な事例を交えながら学べることを目標とする。 授業は基本的には講義を中心とするが、必要に応じて授業の中で簡単な演習や小テストを加えたり、質疑応答や意見交換も適宜行ったり、学生が参加できる方法を織り交ぜながら進める。
科目学習の効果(資格)	建築実務についたときに、現存する建物の価値を知り、保存再生にふさわしい建築かどうかを的確に判断し、企画・計画・施工・運営の流れと各段階の技術を把握した上で、魅力的な保存再生計画を提案するための基礎知識を体得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	保存再生概論 建築再生の歴史	・建築を保存再生するとはどういうことか ・建築の保存再生と社会環境の変化の再生の担い手	・建築の保存再生について興味を持った事例について知識を深める。(約1時間)
3	建築再生のプロセス	・建築の価値向上を計画するプロセスを学ぶ。 ・企画～設計～施工～運用の4つの各段階において、建築再生プロジェクトの進行と各段階での課題を知る	・プロジェクトの具体的な進め方を、具体的事例に照らし合わせて検証してみる。(約1時間)
4	建築再生の技術1 構造	・建築を保存再生する場合の基本となる骨組み(構造)の安全性を確保するための技術を学ぶ。	・構造の安全性を確保することと、建築用途を両立するために乗り越えるべき課題を具体的事例をもとにシミュレーションしてみる。(約1時間)
5	建築再生の技術2 外装	・建築の内部空間の必要な性能を守る外装材の基礎知識・技術と、まちに対する外観デザインにも配慮した材料選択を行うための知識を体得する。	・校内はじめ身近なところでの外装材を確認し、授業の内容と照らし合わせて外装選択の理由を考える。(約1時間)
6	建築再生の技術3 設備	・建築に必要な設備には何があるか、また必要な設備をどのように選択するかを知り、設備の経年劣化と更新についても考慮した上で設備計画に役立つ知識を学ぶ	・校内はじめ身近なところに設置されている設備を確認し、授業の内容と照らし合わせて設備更新に対する工夫をさがす。(約1時間)
7	建築再生の技術4 内装	・建築保存再生後の用途を担保するために、内装計画をどのように行うかを理解し、その計画に役立つ基礎知識を身に付ける。	・校内はじめ身近なところに設置されている内装材を確認し、例えば用途変更を行うためにはどのような改修計画が適切か考える。(約1時間)
8	中間テスト	・前半の講義の理解度を確認し、後半の授業に役立てる。○×式または穴埋め問題および小論文	・出題内容を確認し、保存再生にかんする重点的項目について復習する。(約1時間)
9	建築再生の実例1	・中間テストの返却と解説 ・建築再生の実例について(概要編)	・中間テストの結果を復習し、間違えた内容については関連知識も含めて確認する。(約1時間)
10	建築再生の実例2	・建築再生の実例 総合的視点での再生実例 建築単体性能向上再生実例	・各実例の内容を、多面的に理解し、書籍やWebを利用して知識を深める。(約1時間)
11	建築再生の実例3	・建築再生の実例 民家の再生実例 地域の価値向上に関わる再生実例	同上
12	建築再生 計画演習	・コンバージョン計画演習 ・再生計画条件をもとに、計画内容をまとめ、提案としてまとめる。	・授業内で計画案をまとめ、次週までに提案内容をわかりやすくとりまとめ、発表の準備を行う。(約4時間程度)
13	演習課題 提出・発表	・コンバージョン計画演習発表および意見交換	・自分以外の提案内容、発表の中で自分と異なるアイデアについて理解し、自分の発表と比較してさらに計画内容を深める。(約1時間以上)
14	建築保存再生まとめ	・計画演習返却および講評 ・建築を長く活用するための留意すべきポイントについて	・今までの講義内容を復習し、理解できていないところについて知り、あらためて身に付ける。(約1時間以上)
15	総括	・建築保存再生に対する姿勢 ・期末試験に向けて ・講義を通して考えたことについて(小論文)	・前回までの講義で、最終授業の前に理解できていないこと・疑問点をまとめる。(約30分以上) ・期末試験に向け、疑問点は払拭しておくこと。

関連科目	建築材料Ⅰ・Ⅱ その他構造関連科目 横断的に関連する科目：建築法規、材料デザイン、インテリア概論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	建築再生学 (考え方・進め方・実践例)	松村秀一 (編著)	市ヶ谷出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公共建築改修工事標準仕様書 (建築工事編)	国土交通省大臣官房官庁営繕部 監修	(財) 建築保全センター
	2	建築生産 (改訂版)	古阪秀三 (編著)	理工図書
	3			
評価方法 (基準)	1 期末試験 50% 2 中間テスト 20% 3 計画演習 20% 4 授業内でのミニテストや演習 10%			
学生への メッセージ	・新築と異なる、建築保存再生の魅力に触れ、建築実務の中で適切に活かすことができるよう、楽しみながら学び、知識や技術を体得してほしい。			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	質疑などは7号館2階非常勤講師室にて受付。毎回授業終了後、適宜受付とする。			

科目名	ユニバーサルデザイン	科目名 (英文)	Universal Design
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大谷 由紀子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	人々が安全で、安心して暮らせる生活環境の計画に資する、基本的な考え方を学ぶ。超高齢化、多様化する現代社会において、福祉の観点からこれまでの建築・都市を見直すと同時に、ハード、ソフトの両方から近年の計画動向を学ぶ。
到達目標	多様な人々を配慮した住宅・地域の空間計画に関する基礎的知識、および、計画手法を理解できる。
授業方法と留意点	講義のほか、映像、写真による各種事例の提示、事例の見学、フィールドワークなどの体験型の授業も行う。体験型授業は学外で行う可能性もある。 課題を通じて一般的な理解にとどまらず、身近な日常生活空間から理解を促す。
科目学習の効果 (資格)	1級・2級建築士、1級・2級福祉住環境コーディネーター、インテリアプランナーなど

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	社会の変化と生活空間	社会の変化や多様化、生活空間の変化を統計等を用いて学ぶ	予習または復習課題として、新聞や関連記事を読み知識を得る
2	住宅内の事故と安全	住宅内の事故の原因、種類を知り、安全な住まいを考える	予習または復習課題として、建築雑誌などで保育所の建築を勉強する
3	こどもの福祉と保育空間	こどもの育ちと生活空間の事例 保育所、学校の新しい事例を学ぶ	予習または復習課題として、建築雑誌などで保育所の建築を勉強する
4	さまざまな障害と生活空間	障害の種類、特徴を知り、建築・都市の現状を点検する	予習または復習課題として、建築雑誌などで障害者施設を勉強する
5	ユニバーサルな生活空間	多様化する学生や職員がいる大学施設を事例に、ユニバーサルな生活空間を考える	予習または復習課題として、新聞や関連記事を読み知識を得る
6	高齢期と生活空間 1	高齢者福祉の全体像をつかむ、高齢期の住宅問題を考える	予習または復習課題として、新聞や関連記事を読み知識を得る
7	高齢期と生活空間 2	高齢者向けサービスと生活空間のあり方を考える	予習または復習課題として、建築雑誌などで高齢者施設を勉強する
8	高齢期と生活空間 3	高齢者向け住宅、グループホーム、特別養護老人ホームの計画を学ぶ	予習または復習課題として、建築雑誌などで高齢者施設を勉強する
9	中間試験		これまでの内容の復習
10	高齢期と生活空間 4	生活の質的向上と近年の高齢者市施設の動向を学ぶ	予習または復習課題として、新聞や関連記事を読み知識を得る
11	共有する住まいの動向	地縁血縁のない他人と共有する暮らし方と生活空間の計画を考える	予習または復習課題として、建築雑誌などでシェアハウスなどを勉強する
12	災害と住まい	震災と被災者の住まいの問題を考える	予習または復習課題として、新聞や関連記事を読み知識を得る
13	地域包括ケアとまちづくり	地域包括ケアの考え方、およびケアを実現した地域の計画を考える	予習または復習課題として、新聞や関連記事を読み知識を得る
14	長寿社会のまちづくり	長寿社会、多世代共生社会に向けた近年のまちづくりを考える	予習または復習課題として、自治体の事例を調べる
15	総括	福祉の観点から、これからの建築・まちづくりの可能性をさぐる	—

関連科目	設計演習Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、建築計画基礎、建築計画各論、インテリア概論など
------	--------------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高齢社会に生きる	上野淳	鹿島出版社
2			
3			

評価方法 (基準)	中間試験 (40%)、期末試験 (40%)、予習・復習課題 (20%) の合計 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	みなさんの身近な生活空間が教材です。何気なく過ごしているいつもの空間も、問題意識をもって観察すると、これまで見えなかったさまざまな問題に気づきます。その気づきこそ、授業での学び、建築への興味を深めます。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館3階 大谷教授室
----------	-------------

備考	学外での見学やフィールドワークなどは先方との調整が必要となるため、日程や詳細は事前に授業で伝える。 事前学習 授業テーマに即して毎回 0.5 時間程度、新聞、雑誌、関連資料などに目を通しておく。 事後学習 授業の内容について毎回 0.5 時間以上、確認または課題を行う。
----	---

科目名	力学 I	科目名 (英文)	Mechanics I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松尾 純子
ディプロマポリシー (DP)	D◎		

授業概要・目的	物理学は現在の科学技術において基礎となる学問である。この物理学の基礎分野の大きな柱の一つである力学は、理工学部のものづくりを基本とする専門科目を理解するための必要不可欠なものとなる。力学 I では物体の形や大きさを考慮しない質点の運動について講義を行う。
到達目標	到達目標は、物体に加わる力 (ちから) からニュートンの運動方程式を記述し、物体の位置や速度、加速度に関する運動が求められることが出来ること。さらに、エネルギーの概念が説明出来ること。
授業方法と留意点	講義は主として教科書に沿って行い、授業後にはプリントを配布する。プリントは教科書と授業を参照すれば理解できるので最後まであきらめずに考えて解くこと。
科目学習の効果 (資格)	今後の専門科目で出てくる物理量の意味や色々な物理量の相互関係の理解に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	力学とは	自然科学とは何だろうかを身近な例をとって分かりやすく説明する。力学に必要な物理量や単位と次元についての説明を行う。	課題プリント 1 課題プリントの復習 (0.5h 以上)
2	ベクトルの基礎	ベクトルの和・合成、そして分解について説明を行う。	課題プリント 2 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
3	ベクトルの座標表示とスカラー積	ベクトルを表示するために直交座標を導入する。そしてベクトルのスカラー積についての説明を行う。	課題プリント 3 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
4	微分とベクトルに対する微分	力学に必要な数学的な微分を説明し、それをベクトルに拡張する。そして位置ベクトルの時間微分についての説明を行う。	課題プリント 4 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
5	位置ベクトルの微分と速度ベクトル	平均の速度と瞬間の速度との違いを示し、位置ベクトルの微分と速度の関係を説明する。また、速さと速度の違いについて説明を行う。	課題プリント 5 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
6	加速度と運動の法則	速度ベクトルの微分が瞬間の加速度であることを理解するために、速度の時間的変化についての説明を行う。	課題プリント 6 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
7	重力	運動の三つの法則についての説明を行い、ニュートンの万有引力の法則について説明する。	課題プリント 7 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
8	運動方程式	自由落下や放物線運動を基礎としてニュートンの第二法則である運動方程式の作り方を説明する。	課題プリント 8 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
9	垂直抗力と摩擦	垂直抗力と摩擦について説明し、釣り合っている状態での運動方程式を理解する。	課題プリント 9 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
10	ばねからの力と単振動	ばねによる単振動、さらに円運動と単振り子について説明を行う。	課題プリント 10 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
11	運動量と力積	運動量を定義し、衝撃力による物体の運動を理解するために、物体の運動量変化と力積についての説明を行う。また、運動量の保存則を説明する。	課題プリント 11 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
12	仕事とエネルギー	空間と力の内積から仕事 (エネルギー) を定義し、仕事は移動経路に依存することを示す。	課題プリント 12 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
13	運動エネルギーと位置エネルギー	運動エネルギーと位置エネルギーについて説明を行う。さらにポテンシャルエネルギー (位置エネルギー) について説明を行う。	課題プリント 13 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
14	エネルギー保存則	運動エネルギーと位置エネルギーの和が保存することを説明する。	課題プリント 14 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
15	まとめ	講義のまとめ	事後の授業内容の復習 (1h 以上)

関連科目 微積分 I、線形代数 I、力学 II、物理学実験

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理	潮 秀樹、上村 洸	森北出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 評価は期末試験と小テストにて行う。

(基準)	定期試験70%、小テスト30%
学生へのメッセージ	力学Iの考え方や物事の捉え方は、これから学ぶ専門科目で役に立ちますので、できるだけ授業に集中してください。また、力学Iでは微分・積分の知識も必要となりますが、授業で力学Iに必要な微分・積分について簡単に講義しますので、数学の苦手な方も不安にならずに履修してください。
担当者の研究室等	8号館2階 物理準備室
備考	講義のノート等を読み直し、分からないところがあれば、そのままにしないで必ず次の講義で質問をすること。 質問・相談時間：金曜 14:50 ? 15:20

科目名	力学 I	科目名 (英文)	Mechanics I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島津 浩哲
ディプロマポリシー (DP)	D◎		

授業概要・目的	物理学は現代の科学技術において基礎となる学問です。この物理学の基礎分野の大きな柱の一つである力学は、理工学部の専門科目を理解するために必要不可欠なものです。力学 I では物体の形や大きさを考慮しない質点の運動について学習します。
到達目標	運動を記述するニュートンの運動方程式と運動量保存則、エネルギー保存則を理解します。
授業方法と留意点	まず、毎回の授業テーマについて解説をし、その後プリントによる演習をおこなうことで、理解を確認します。毎回、小テストをおこないます。
科目学習の効果 (資格)	専門科目で学習するさまざまな物理量の意味や相互関係の理解に役立ちます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	ベクトルの基礎	ベクトルの和・差、そして分解・合成について説明を行う。	事前の授業内容に関する教科書の通読、および、事後の課題プリントの復習(1 時間)
3	ベクトルの座標表示と内積	直交座標におけるベクトルの表現と、ベクトルの内積についての説明を行う。	事前の授業内容に関する教科書の通読、および、事後の課題プリントの復習(1 時間)
4	速度と加速度	平均の速度、加速度、相対速度について説明する。	事前の授業内容に関する教科書の通読、および、事後の課題プリントの復習(1 時間)
5	微分・積分と速度、加速度	微分、積分を導入し、平均の速度と瞬間の速度との違いを示し、微分・積分と速度、加速度との関係を説明する。	事前の授業内容に関する教科書の通読、および、事後の課題プリントの復習(1 時間)
6	微分・積分と速度ベクトル、加速度ベクトル	位置ベクトルの微分・積分と速度、加速度との関係を説明する。	事前の授業内容に関する教科書の通読、および、事後の課題プリントの復習(1 時間)
7	力と運動の法則	運動の三つの法則、万有引力の法則、いろいろな力について説明し、運動方程式を導入する。	事前の授業内容に関する教科書の通読、および、事後の課題プリントの復習(1 時間)
8	運動方程式	力の分解と、運動方程式の作り方、解き方を説明する。	事前の授業内容に関する教科書の通読、および、事後の課題プリントの復習(1 時間)
9	垂直抗力と摩擦	垂直抗力や摩擦などさまざまな力を運動方程式にあてはめ、解き方について説明する。	事前の授業内容に関する教科書の通読、および、事後の課題プリントの復習(1 時間)
10	円運動と単振動	等速円運動、角速度、周期、向心力、単振動、振動数について説明する。	事前の授業内容に関する教科書の通読、および、事後の課題プリントの復習(1 時間)
11	運動量と力積	運動量を定義し、物体の運動量の変化と力積についての説明を行う。また、運動量の保存則を説明する。	事前の授業内容に関する教科書の通読、および、事後の課題プリントの復習(1 時間)
12	仕事とエネルギー	仕事とエネルギーを定義し、その意味するところを説明する。	事前の授業内容に関する教科書の通読、および、事後の課題プリントの復習(1 時間)
13	運動エネルギーと位置エネルギー	運動エネルギーと位置エネルギーについて説明を行い、力学的現象においてそれらの和が保存することを説明する。	事前の授業内容に関する教科書の通読、および、事後の課題プリントの復習(1 時間)
14	運動量保存の法則とエネルギー保存の法則	衝突や分裂現象を題材に、運動量の保存則とエネルギーの保存則について説明する。	事前の授業内容に関する教科書の通読、および、事後の課題プリントの復習(1 時間)
15	まとめ	全体のまとめをおこなう。	事後の授業内容の復習(1 時間)

関連科目 微積分 I・II、線形代数 I・II、力学 II、物理学実験

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準) 期末試験 70%、小テスト 30%。
小テストを採点后返却するので、復習をしてください。

学生へのメッセージ 力学 I の考え方や物事の捉え方は、これから学ぶ専門科目で役に立ちますので、授業に集中して学習してください。また、微分・積分の知識が必要となりますが、力学 I に必要な微分・積分についても講義しますので、数学の苦手な方も不安にならずに履修してください。授業で配布するプリント、ノート、教科書等を復習し、理解できなかったところがあれば、そのままにしないで必ず次の授業で遠慮なく質問をしてください。みなさんに役立つ知識と同時に、物理学の考え方やおもしろさも伝えます。

担当者の研究室等 8号館 2階 物理準備室

備考 質問・相談時間：金曜 14:50~16:20

科目名	力学Ⅱ	科目名(英文)	Mechanics II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松尾 純子
ディプロマポリシー(DP)	D◎		

授業概要・目的	現代の科学技術の基礎には物理学があり、さらにその基礎には力学がある。力学は工学の基盤となる科目であり、理工学部専門科目を理解する上で必要不可欠である。「力学Ⅰ」では形や大きさをもたない質点の運動を取り扱いましたが、この「力学Ⅱ」は剛体という形ある物体についての運動について学ぶ。ここでは剛体の運動を理解するために、力のモーメント(回転力もしくはトルクと呼ぶ)そして角運動量という新しい概念を習得する。
到達目標	「力学Ⅰ」の科目では、物体を小さな点で表し、その形や大きさは取り扱わなかった。実際、物体とは棒状の形もあれば、星形もあり様々な形状を持っているのは言うまでも無い。小さな点と形をもった物体との大きな違いは、その物体の回転を無視するか、取り扱うかの違いである。「力学Ⅱ」では、主に回転の力学を学習する。 到達目標は、角速度や慣性モーメントという回転に関する量の概念が説明できること。
授業方法と留意点	教科書と小テストを用いて授業をすすめる。ほぼ毎回小テストを行なうが、小テストは友達と相談したり、教科書を参照してもよいので、最後まであきらめずに考えて解くこと。
科目学習の効果(資格)	理工学の基礎として、専門に出てくる物理量の意味や色々な物理量の相互関係の理解に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	力学Ⅰの復習	質点の力学について復習する。	—————
2	力のモーメントの基礎	てこの原理について学ぶ	予習・復習課題1 力のモーメントの理解
3	力のモーメントのつりあい	シーソー、天秤のつりあいについて学ぶ	予習・復習課題2 剛体が回転しないための条件を求める
4	力のモーメントと並進・回転運動	並進、回転運動の静止条件から物体のつりあいについて考える	予習・復習課題3 剛体が動かないための条件を求める
5	重心とモーメント	重心の意味を理解し、様々な図形の重心の位置を求める	予習・復習課題4 様々な図形での重心点を求める
6	数学的準備(1)	回転運動を表現する上で重要なラジアン表記、角速度、角加速度について学ぶ	予習・復習課題5 ラジアン表記と角度の時間変化
7	数学的準備(2)	回転運動を表現する上で重要な外積について学ぶ	予習・復習課題6 ベクトルの外積演算
8	角運動量	角運動量保存則について学ぶ	予習・復習課題7 角運動量保存則を導く
9	慣性モーメントの基礎	慣性モーメントについて定性的に理解をし、慣性モーメントと角運動量の関係について学ぶ	予習・復習課題8 剛体の運動方程式を解く
10	棒の慣性モーメント	棒状の慣性モーメントについて説明する	予習・復習課題9 慣性モーメントを計算する1
11	板の慣性モーメント	板状の慣性モーメントについて説明する	予習・復習課題10 慣性モーメントを計算する2
12	円盤の慣性モーメント	円盤状の慣性モーメントについて説明する	予習・復習課題11 慣性モーメントを計算する3
13	平行軸の定理、直行軸の定理	慣性モーメントの便利な計算方法について説明する	予習・復習課題12 慣性モーメントを計算する4
14	剛体の平面運動	剛体の一般的な運動について考える	予習・復習課題13 円柱体の転がりの問題を解く
15	剛体の力学のまとめ	剛体の運動についてのまとめ	—————

関連科目 微積分Ⅰ, 線形代数Ⅰ, 力学Ⅰ, 物理学実験

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい基礎物理	潮秀樹, 上村洗	森北出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	期末試験(70%)と小テスト(30%)の割合で評価する。
学生へのメッセージ	数学や物理は単に「試験問題」と考えると難しく思われがちですが、自然現象や経験をもとに考えると難しくありません。この授業は、中学や高校における「試験用の物理」とは全く異なる「専門につながる基礎」なので、苦手意識をもたずに授業にのぞんでください。
担当者の研究室等	8号館2階 物理準備室
備考	教科書や授業当日の配布されるプリントを1時間以上かけて丁寧に読み直すこと。理解出来なかった点を洗い出し、可能な限り次の授業にて質問したうえで、さらなる知識を積み上げること。 質問・相談時間: 金曜 14:50 ~ 15:20

科目名	力学Ⅱ	科目名(英文)	Mechanics II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	前田 純一郎
ディプロマポリシー(DP)	D◎		

授業概要・目的	現代の科学技術の基礎には物理学があり、さらにその基礎には力学がある。力学は工学の基盤となる科目であり、理工学部専門科目を理解する上で必要不可欠である。「力学Ⅰ」では形や大きさをもたない質点の運動を取り扱いましたが、「力学Ⅱ」は剛体という形ある物体についての運動について学ぶ。ここでは剛体の運動を理解するために、力のモーメント(回転力もしくはトルクと呼ぶ)そして角運動量という新しい概念を習得する。
到達目標	「力学Ⅰ」の科目では、物体を小さな点で表し、その形や大きさは取り扱わなかった。実際、物体とは棒状の形もあれば、星形もあり様々な形状を持っているのは言うまでも無い。小さな点と形をもった物体との大きな違いは、その物体の回転を無視するか、取り扱うかの違いである。「力学Ⅱ」では、主に回転の力学を学習する。 到達目標は、角速度や慣性モーメントという回転に関する量の概念が説明できること。
授業方法と留意点	教科書と小テストを用いて授業をすすめる。ほぼ毎回小テストを行なうが、小テストは友達と相談したり、教科書を参照してもよいので、最後まであきらめずに考えて解くこと。
科目学習の効果(資格)	理工学の基礎として、専門に出てくる物理量の意味や色々な物理量の相互関係の理解に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	力学Ⅰの復習	質点の力学について復習する。	—————
2	力のモーメントの基礎	てこの原理について学ぶ	予習・復習課題1 力のモーメントの理解
3	力のモーメントのつりあい	シーソー、天秤のつりあいについて学ぶ	予習・復習課題2 剛体が回転しないための条件を求める
4	力のモーメントと並進・回転運動	並進、回転運動の静止条件から物体のつりあいについて考える	予習・復習課題3 剛体が動かないための条件を求める
5	重心とモーメント	重心の意味を理解し、様々な図形の重心の位置を求める	予習・復習課題4 様々な図形での重心点を求める
6	数学的準備(1)	回転運動を表現する上で重要なラジアン表記、角速度、角加速度について学ぶ	予習・復習課題5 ラジアン表記と角度の時間変化
7	数学的準備(2)	回転運動を表現する上で重要な外積について学ぶ	予習・復習課題6 ベクトルの外積演算
8	角運動量	角運動量保存則について学ぶ	予習・復習課題7 角運動量保存則を導く
9	慣性モーメントの基礎	慣性モーメントについて定性的に理解をし、慣性モーメントと角運動量の関係について学ぶ	予習・復習課題8 剛体の運動方程式を解く
10	棒の慣性モーメント	棒状の慣性モーメントについて説明する	予習・復習課題9 慣性モーメントを計算する1
11	板の慣性モーメント	板状の慣性モーメントについて説明する	予習・復習課題10 慣性モーメントを計算する2
12	円盤の慣性モーメント	円盤状の慣性モーメントについて説明する	予習・復習課題11 慣性モーメントを計算する3
13	平行軸の定理、直行軸の定理	慣性モーメントの便利な計算方法について説明する	予習・復習課題12 慣性モーメントを計算する4
14	剛体の平面運動	剛体の一般的な運動について考える	予習・復習課題13 円柱体の転がりの問題を解く
15	剛体の力学のまとめ	剛体の運動についてのまとめ	—————

関連科目 微積分Ⅰ, 線形代数Ⅰ, 力学Ⅰ, 物理学実験

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい基礎物理	潮秀樹, 上村洗	森北出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	期末試験(70%)と小テスト(30%)の割合で評価する。
学生へのメッセージ	力学Ⅰでは主に質点の運動を取り扱いましたが、力学Ⅱは実際の形ある物体についての運動を記述します。力学Ⅱの剛体の力学は日常の様々なところで使用されています。この授業を通して、どのようなところで剛体の力学が使用されているのか考えてみましょう。また、力学Ⅰの復習も含めて授業を行いますので、力学Ⅰを履修していない人も不安にならずに履修してください。
担当者の研究室等	8号館2階 物理準備室
備考	教科書や授業当日の配布されるプリントを1時間以上かけて丁寧に読み直すこと。理解出来なかった点を洗い出し、可能な限り次の授業にて質問したうえで、さらなる知識を積み上げること。 質問・相談時間: 火曜 13:40 ~ 14:10

科目名	理工学基礎実験	科目名 (英文)	Basic Experiments in Science and Engineering
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	池内 淳子・石田 英・伊藤 譲・大上 雅史・北本 裕之・東谷 篤志・三木 久巳・柳沢 学
ディプロマポリシー (DP)	D◎		

授業概要・目的	身近な物理現象に接しながら、理工学に必要な基礎的計測技術を身に付けるとともに、専門分野を越えた理工学全体の基礎的な考え方を身に付ける。																		
到達目標	(1)長さ、重さ、電圧・電流、圧力・温度、pHなどの基礎的な計測技術を身に付ける。 (2)工学、物理学の基礎的な考え方を実験により身に付ける。 (3)ものつくりの基本である「見る、聴く、触れる、嗅ぐ、味わう」の五感を働かせることと、よく考えて予想・考察する力を身に付ける。 (4)自らの役割に主体的に取り組む、他のメンバーと協力・話し合い・働きかけて、目的を実行する能力を身に付ける。 (5)準備学習する習慣を身に付ける。																		
授業方法と留意点	実験は4グループに別れて行う。グループ内では4～6名のチームで協力して実験を行う。時間内に実験からレポート作成まで行う。なお、17種類の実験テーマ中、15テーマをグループごとに実施する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1回目：ガイダンス、歩測 2～15回目：下記テーマの実験、レポート作成（毎回予習レポートを課す） 実験テーマ： (1)歩測 自分の歩幅を知り、道の距離を測定する。誰が正確に測れるか？ (2)体積と重量 身の回りのさまざまなものの単位体積重量を求める。いろいろな物体の形をはかりスケッチする。 (3)浮力 浮力のメカニズムを理解する。 (4)平面図形の重心（図心） 重心を実測と計算により求める。モーメントとはなにか？ (5)力の合成 力の合成に関する法則を実証するための実験方法を考え、実験を計画する。実験装置を作り、実験を実施し、測定データをもとに法則を検証する。 (6)フックの法則 ばねに力が作用するときの変形量をはかる。フックの法則を理解する。 (7)重力加速度 重力加速度を計測する。計測精度を評価する。 (8)水平投射運動 斜面から球が水平投射されたときの球の位置などを測定する。力学的エネルギー保存則と水平投射による運動を説明する。 (9)圧力と温度 圧力と温度をはかる。圧力の作用と空気の状態変化を理解する。 (10)仕事と熱エネルギー 人の馬力をはかる。仕事と熱エネルギーを体感する。 (11)電流と電圧 簡単な電気回路を作り、テスターの使い方を知る。オームの法則、直流と交流について調べる。 (12)電池の仕組み 金属のイオン化傾向を調べ、化学電池（乾電池）の基礎を学ぶ。次世代電池の仕組みを理解する。 (13)電流と磁場 磁石を使って電気をつくり、つくった電気で磁場中の導線を動かす。逆の現象として、磁場の力で動きを止める磁気ブレーキを体験する。 (14)光の強さと成分 いろいろな光の強さと色の成分を測定する。 (15)空気の対流 空気の対流を作り、対流内の温度差を計測することで仕組みを理解する。 (16)pHとEC 身近な環境をはかってみる。環境をはかる方法の原理を理解する。 (17)ピオトープの観察 ピオトープの環境を調べ、生物を観察する。																		
関連科目	構造力学・構造基礎はじめ、建築構造系科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>理工学基礎実験</td> <td>摂南大学理工学部</td> <td>摂南大学</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	理工学基礎実験	摂南大学理工学部	摂南大学	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	理工学基礎実験	摂南大学理工学部	摂南大学																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	実験への積極性 (50%)、毎回のレポート (50%) の総合点で評価する。																		
学生へのメッセージ	建築を学ぶには、物理現象に興味を抱き理解しようとするのが大切です。「理工学基礎実験」を通じて工学や物理学の基礎的な考え方を知り、理解を深めるために役立ててください。																		
担当者の研究室等	8号館3階 池内教授室 8号館3階 柳沢教授室																		
備考	事前学習として、教科書を読み用紙に要約する課題を課している。毎回1時間以上をかけ、教科書をよく読み、丁寧な字できちんとした文章を書き、課題を提出すること。																		

科目名	緑地計画	科目名(英文)	Landscape Design
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	吉永 規夫
ディプロマポリシー(DP)	F◎		

授業概要・目的	緑地計画(造園・ランドスケープ・自然等)に関する基礎的事項を理解させるとともに、緑や自然、まちづくりへの感受性を磨く手がかりを論じる。具体的なみどりのまちづくりや建築物事例を関西を中心に紹介する。
到達目標	人の生活環境や地域の自然環境に関心を持ち必要な基礎知識を身につけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	資料に基づいた具体的な造園・ランドスケープ事例を中心とした講義を行う。講義以外に、見学や調査等も行う。身近な緑や自然に関心を深めてもらうため、毎回、講義テーマに基づいたミニレポート・課題を課す。
科目学習の効果(資格)	1・2級造園施工管理技師(国土交通省)、環境再生医(自然環境復元協会)等の資格取得の参考となります。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	都市の自然観察	住居地やキャンパスなど身近な自然を観察し、季節感や自然の多様性を感じる力を養う。	季節を感じる事象の写真を持参。
3	植物と植栽	一般の植物の分類、形態、生態等。造園植栽の種類等。	自宅等に植えたい植物とその理由を報告。
4	里山・里地の保全	森林・林業の現状と課題、茅葺民家の保全、農山村・里山の保全活動、ビオトープ(生物生息空間)等。	身近な自然樹林の現状調査を報告。
5	ランドスケープの歴史	近代ランドスケープの歴史とランドスケープアーキテクト等。	ランドスケープの歴史を調査し報告。
6	わが国の庭園の歴史	日本庭園、庭園材料、近代造園等。	好きな日本庭園とその理由を報告。
7	西欧の庭園の歴史	フランス整形形式庭園、イギリス風景式庭園等。	好きな洋風庭園とその理由を報告。
8	都市公園	都市公園の種類(国営・総合・地区・近隣・街区・都市緑地等)、公園配置計画、緑の基本計画、都市公園法等。	好きな都市公園とその理由を報告。
9	自然公園	自然公園の種類(国立・国定・県立)、自然環境保全法、自然公園法等。	あなたが体験した国立公園での行動事例報告。
10	公共空間とみどり	公共空間に計画されたランドスケープ事例の紹介。	公共空間に計画されたランドスケープ事例を報告。
11	居住空間とみどり	居住空間に計画されたランドスケープ事例の紹介。	居住空間に計画されたランドスケープ事例を報告。
12	みどりのまちづくり	国内外のみどりのまちづくり事例の紹介。	身近なみどりのまちづくりの事例を報告。
13	ケーススタディ(1)	寝屋川市の緑地計画や都市公園等。	寝屋川市の緑地、都市公園の事例を報告。
14	ケーススタディ(2)	大阪市の緑地計画や都市公園等。	大阪市の緑地、都市公園の事例を報告。
15	緑地計画の課題と展望	緑地計画の現状と課題と先駆的活動等。	みどりと建築の課題について考え報告。

関連科目	都市・地域計画等、特に卒業研究・設計の導入とする。
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	期末試験(7割)、レポート課題(3割)の合計100点満点の60点以上を合格とする。
----------	---

学生へのメッセージ	講義のなかでは、造園・ランドスケープの基礎的理解とともに、身近なみどりや地域の自然へ関心を深めるためにグループ討議・発表を行い、建築や街の中のみどりの役割について一緒に考えていきたいと思います。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む
----	---------------------------------------

教 養 科 目

科目名	インターンシップ I	科目名 (英文)	Internship I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	A◎		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感を直接肌で感じることである。事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。
到達目標	インターンシップへ意欲的に自信を持って参加できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	グループワークやプレゼンテーションなどを行う参加型の授業である。インターンシップの現場につながる講義 (演習を含む) であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果 (資格)	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える	インターンシップとは何かについて考えること。
2	企業組織・ビジネスの理解	・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める	ビジネスとは何かを考えること。
3	実習参加企業について	・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	インターン受入企業等の組織のリストに目を通しておくこと。
4	効果的なプレゼンテーションとは	・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る	プレゼンテーションができるように準備すること。
5	課題のプレゼンテーション①	・第4回目の課題をプレゼンテーションする	第4回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること。
6	社会人のマナー①	・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ	マナーがなぜ大切なのかを考えること。
7	社会人のマナー②	・文書でのコミュニケーション	授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること。
8	社会人のマナー③	・口頭でのコミュニケーション	マナーの大切さを再度考えること。
9	履歴書を記入する	・インターンシップ用の履歴書を記入する	履歴書を書く準備をしておくこと。
10	グループワーク①	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	グループ内の自分の役割を考えること。
11	グループワーク②	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	グループの最大の力を出すために、自分に何ができるかを考え、プレゼンテーションの準備をして下さい。
12	事前訪問について	・事前訪問のマナーと準備について	インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること。
13	課題のプレゼンテーション②	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をすること。
14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をすること。
15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること。

関連科目 この科目を履修する学生は、「インターンシップ II (企業等の組織での就業体験)」を履修することが望まれる。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 発表 (40%)、レポート等の提出物 (30%)、授業態度。(投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークへの参加姿勢など) (30%) を総合的に評価する

学生へのメッセージ インターシップの流れは以下のとおりである。
※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始 (予定)
インターン先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。

担当者の研究室等 7号館3階 キャリア教育推進室 (水野)

備考 教科書・・・必要に応じてレジュメを配布
参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示
インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。
予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。

科目名	インターンシップⅡ	科目名(英文)	Internship II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性を広げること、職業観の涵養に努めることを目標とする。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。
科目学習の効果(資格)	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	直前学修① 6月16日(土) 3限目(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認	社会人を意識したスーツ着用のこと。身だしなみを自分なりに整えてくること。
	2	直前学修② 6月16日(土) 4限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	マナーについて考えること。
	3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	実習中は毎日日誌をつけること。
	4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	実習中は毎日日誌をつけること。
	5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	実習中は毎日日誌をつけること。
	6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	事前に立てた目標を意識して参加すること。
	7	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 (担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	事前学修の通りに報告書を作成する。提出前に必ず推敲を行うこと。 提出期限を厳守すること。
	8	事後学修① 9月22日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	個人発表用のレジメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること。
	9	事後学修② 9月22日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	個人発表用のレジメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること。
	10	事後学修③ 9月29日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。
	11	事後学修④ 9月29日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。
	12	事後学修⑤ 10月13日(土) 3限目(予定)	・インターンシップを振り返る (実習記録簿の提出)	実習記録簿を見直してくること。
	13	事後学修⑥ 10月13日(土) 4限目(予定)	・インターンシップを振り返る	実習記録簿を見直してくること。
	14	事後学修⑦ 10月20日(土) (予定)	・全体報告会 ・学生代表者の発表	学生代表者はパワーポイントで10分で報告ができるように準備すること。
15	事後学修⑧ 10月20日(土) (予定)	・全体報告会 ・受け入れ企業管理者の講演とまとめ (予定)	全員スーツ着用	

関連科目	インターンシップⅠ
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	企業による報告書(20%)、体験報告書など提出物(40%)、発表を含む授業態度(投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など)(40%)を総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	1. 「インターンシップⅠ」を必ず履修すること。 2. 「インターンシップⅠ」の履修には、ガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。 履修希望者が多い場合は、選考することもある。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室(水野)
----------	---------------------

備考	教科書・・・必要に応じてレジメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。
----	---

	なお、振り返りの課題（体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など）は3時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際はスーツを着用してくることを。
--	--

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アレン ニール
ディプロマポリシー (DP)	C◎		

授業概要・目的	This course is designed to help students discuss cultural issues in Japanese society with increased fluency.			
到達目標	Teacher supplied worksheets will be used to better understand and talk about studies related to People & Society, Health & Fitness, Science & Technology, Art & Culture, etc. Reading, writing and speaking activities will be covered.			
授業方法と留意点	講義、演習、ロールプレイなど。 ノートを取るのので、筆記用具を持参してください。			
科目学習の効果 (資格)	TOEIC			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Getting to know each other	Text & Self Introduction Activities	be prepared to talk about yourself and personal preferences
	2	Worksheets	Team work	Checking worksheet
	3	Worksheets	Team work	Checking worksheet
	4	Worksheets	Team work	Checking worksheet
	5	Worksheets	Team work	Checking worksheet
	6	Worksheets	Team work	Checking worksheet
	7	Worksheets	Team work	Checking worksheet
	8	Worksheets	Team work	Checking worksheet
	9	Worksheets	Team work	Checking worksheet
	10	Worksheets	Team work	Checking worksheet
	11	Worksheets	Team work	Checking worksheet
	12	Worksheets	Team work	Checking worksheet
	13	Worksheets	Team work	Checking worksheet
	14	Worksheets	Team work	Checking worksheet
		15	Final Test	Final Test
関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Hot Topics Japan 1	Stephanie Alexander	ISBN 978-1-61352-519-7
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Class Attendance and Participation 80% Final Test 20%			
学生へのメッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考	Worksheets will be relied on for class work as well as written homework.			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	C◎		

授業概要・目的	基礎英会話の習得を目標とする。テキストは日常的に使っている英文を扱っており、しっかり学習すれば、リスニング、スピーキングの力も確実に向上する。会話の習得を目的とする授業であるから、学生が中心になり、学生によって進められていくべきであることは言うまでもない。
到達目標	日常的な基礎英会話が、ある程度流暢にできるようになる。
授業方法と留意点	学生主導の授業である。ペアワークなど、躊躇することなく積極的に参加すること。
科目学習の効果 (資格)	英語を使つてのコミュニケーション能力が付き、今後遭遇すると思われるさまざまなシチュエーションで役に立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	現在進行中の事柄の会話	～しているところです。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 7
3	人物を描写する会話	～のようにみえる、～のようです。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 7
4	人物を描写する会話	～のようにみえる、～のようです。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 7 test
5	近い計画、招待の会話	進行形で計画、招待の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 8
6	近い計画、招待の会話	進行形で計画、招待の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 8
7	U7～9の見直し、復習	教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 9
8	休暇の会話	過去形の疑問文、肯定文で休暇の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 9
9	休暇の会話	過去形の疑問文、肯定文で休暇の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 8 and 9 Test
10	これまでの人生の会話	これまでの出来事の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 10
11	これまでの人生の会話	これまでの出来事の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 10
12	夢を語る会話	～したい。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 11
13	夢を語る会話	～したい。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 11
14	復習	教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 10 and 11 Test
15	テーマは自由に選択、ペアでロールプレイを行う。	授業でペアを組み会話を実演	Class Wrap-up

関連科目	他の英語のクラスすべて
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English In Common 1		Pearson

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	出席は必ずすること。3週間ごとにスピーキングクイズを行う。授業前の準備 (単語・文法の使い方) も、評価に反映する。やる気があるかどうかをみていきます。 評価割合は「授業前準備 20%、授業態度 30%、スピーキングクイズやテスト 50%」とします。
-----------	--

学生へのメッセージ	私は、このクラスの生徒のすべてが、真剣に英語でのコミュニケーションスキルを向上することを願っています。私は、学生のクラスでの最善の努力を見てみたい。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館 2階 (非常勤講師室)
----------	-----------------

備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

科目名	海外語学研修	科目名 (英文)	Overseas Language Training
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー(DP)	C◎		

授業概要・目的	この研修は、語学力(英語力)の向上と研修地の歴史・文化およびそこで生活する人々に触れ、国際的な知識と理解を深め、広範囲な国の人々と協力し合える国際感覚を身につけることを目的とする。研修先での授業は、月曜日から金曜日に実施し、語学力別に分けたクラス内で行われる。宿泊・費用等、詳細は、募集ガイダンスで周知する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研修先の歴史や文化を前もって調査することで、現地での研修を深められるようになる。 ・一緒に研修に行く他の学生と交流し、協力して研修を成功させる。 			
授業方法と留意点	<p>(以下は8月出発の場合。春出発の場合の日程は、ガイダンスで確認してください。)</p> <p>4月 募集ガイダンス(日時等の詳細はポータルおよび掲示で連絡する)、事前学習としては事前のガイダンス出席が義務付けられている。また、事後には成果報告およびレポート提出を要請されている。</p> <p>5月 申込書の提出</p> <p>5月下旬 派遣学生の決定および履修申請</p> <p>6月～8月 事前ガイダンスを実施(全3回)</p> <p>8月上旬 結団式</p> <p><研修スケジュール> [2週間コース] 8月中旬～8月下旬(予定)</p> <p>[3週間コース] 8月中旬～9月上旬(予定)</p> <p>9月下旬～10月上旬(予定) 成果報告会</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>これまでに学んだ英語の知識を、実際に使うための練習を多角的に行う。</p> <p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外渡航に関する基本的なガイダンス ・英語多読・英会話など、学内の教材や設備でできる英語学習(ガイダンス時に説明) ・インターネット上でもたくさんの学習サイトがあるので、渡航前に自分の中の英語の出力スピードや反応を活性化させておく。 <p>海外研修中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業はもちろん、授業外でも、講師やスタッフ、ホストファミリーなどに自分から英語で話してコミュニケーションをすすめる。 <p>事後学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同時期に開催される他の研修参加者と共に、成果報告会でのプレゼンテーションを行う。 ・レポート。 			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価方法(基準)	事前学習・成果報告会のプレゼン・レポート(30%) 研修先での成績(70%)			
学生へのメッセージ	ちがう学年、学部の学生と、切磋琢磨しながら成長できます。 海外研修は、自分の中のリーダーシップの芽生えが実感できるチャンスです。			
担当者の研究室等	国際交流センター			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・参加学生は事前ガイダンスに必ず出席すること。欠席の場合は、事前に国際交流センターへ連絡をしてください。 ・事前に参加申込みをし、参加許可を得た者に限り履修できる。通常の履修申請とは方法が異なるので注意。 ・各学部の期末試験等のスケジュールを確認の上、履修を検討すること。学部・学年によっては、今学期・年度は受講できない場合もあります。 			

科目名	海外ビジネスインターンシップ	科目名 (英文)	Overseas Business Internship
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	佐井 英子・西之坊 穂
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>本学では、将来グローバル、あるいは地域で活躍する力を身につけた知的職業人の育成を目指している。そのためには、他者と自分の違いを理解し、相手を尊重するという姿勢が必要である。このような態度は国内においても修得可能であるが、日本とは異なる文化、経済事情、生活習慣、価値観なども海外においてインターンシップを体験することにより、相手を正しく理解し、尊重する姿勢、柔軟な発想力の必要性を実感し修得できる。この海外インターンシップでは、ダイバーシティ社会の中で、自分の考えを相手に伝え、また相手の考えを理解できるコミュニケーション能力と自己の責任で自ら考え行動する自律心を育成する。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と相手国 (インドネシア・バリ島) の歴史、文化、経済等の違いを正しく理解する。 ・異なる文化、価値観等を尊重する姿勢を修得する。 ・他国を理解することにより、日本についての理解を深め、日本が抱えている問題について深く考察する。 ・将来、グローバルに活躍するために、自分に欠けているものは何か、大学生活で何を学ぶべきか、体得する。 																		
授業方法と留意点	<p>研修先として美術館 (ホテル、レストラン併設)、PPLH (NPO)、ウダヤナ大学、コーヒー農園、ウブド高校、マングロープセンター等を予定しています。</p> <p>研修先により研修内容は異なり、求められる資質、英語能力が異なります。事前学習において各研修先について説明しますが、受講生自身も調査し、研修先を選択します。有意義なインターンシップにするためには、学生の希望と相手先の要望とのマッチングが非常に重要になります。そのため学生の希望は配慮しますが、学生が最初に希望した研修先に配属されるとは限りません。事前に充分個人面談を行い、話し合いの上決定します。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前学習 10日 を予定。現地での各自の研修内容の事前準備 (プレゼン等) が完了するまで行う。 ガイダンス、研修先の研修内容の解説、受け入れ先とのマッチング、バリ島の歴史、習慣、経済状況などを各自調べ発表する。</p> <p>現地実習 10日 (移動日含む)</p> <p>1日目 移動 2日目 環境学習 マングロープセンター、PPLHにて実習 3日目 各研修先へ移動、ガイダンス 4日目～8日目 各研修先にて各々インターンシップ研修実施 9日目 現地視察 10日目 移動日</p> <p>研修内容は、研修先により環境問題に対する取り組み、日本語授業のSA、課外活動のサポート、農業経営・フェアトレードの取り組みなど異なります。各自、毎日研修内容の報告書を作成する。</p> <p>事後学習 3日 (資料の作成が間に合わない場合は、追加する) 報告書の作成、指導、報告会に向けたプレゼンテーション資料の作成、指導、全体報告会</p>																		
関連科目	外国語関連科目、世界の歴史、日本の歴史等																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	実習前の事前学習 (10%)、海外現地研修 60% (実習記録 20%、実習態度 50% (研修先からの評価を勘案し、引率教員が評価する)、実習報告書 (20%)、全体報告会のプレゼン 10%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館8階 佐井研究室 11号館8階 西の坊研究室																		
備考	共同担当者 西の坊 准教授																		

科目名	科学英語	科目名(英文)	Scientific English
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	平尾 秀実
ディプロマポリシー(DP)	C◎		

教養科目

授業概要・目的	多彩なトピックの英文を読み、科学に関する基礎知識を平易な英語を通して習得することを目的とする。本講座は主として読解力の向上を目指す。最終的にはリーディング・ライティング・リスニング・スピーキングの4技能を高めることを目標とする。			
到達目標	科学に関する英語の語彙力をつけ、科学英語に対して興味を持ち、工業英検4・3級合格を目標とする。			
授業方法と留意点	1回の授業で、教科書の1Unitを学習する。教科書については、本文の和訳だけでなく、文法事項の復習、語彙の習得にも重点を置く。必要に応じてプリント等(教員から配布)も使用する。毎回の授業時間内(終了前)に質問時間をとるので、積極的に活用してほしい。授業の前後には、必ず予習、復習することが必要である。 大体5課ごとに理解度を確認するために小テストを行う。授業の冒頭で、TOEIC対策として単語テストも行う。授業にはできるだけ辞書を持参すること。英和・和英辞書必携			
科目学習の効果(資格)	科学英語の基礎知識を習得することに加え、所謂、英語の4技能を高めることを目指すので、結果としてTOEICのスコアアップにもつながる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業の進め方、予習・復習の内容、成績の基準、受講にあたっての心構えなどについて説明する。	教科書の使い方を読んでおく
	2	Unit 1: 数を読む	単語小テスト及び教科書演習	教科書: Unit 1 単語小テスト: No. 0001-0200
	3	Unit 2: 自然数	単語小テスト及び教科書演習	教科書: Unit 2 単語小テスト: No. 0201-0300
	4	Unit 3: いろいろな数	単語小テスト及び教科書演習	教科書: Unit 3 単語小テスト: No. 0301-0400
	5	Unit 4: ピタゴラスの定理	単語小テスト及び教科書演習	教科書: Unit 4 単語小テスト: No. 0401-0500
	6	Unit 5: 微分積分	単語小テスト及び教科書演習	教科書: Unit 5 単語小テスト: No. 0501-0600
	7	Unit 6: ベクトル	単語小テスト及び教科書演習	教科書: Unit 1-5 単語小テスト: No. 0601-0700
	8	Unit 7: 力学 課題テスト	単語小テスト及び教科書演習	Unit 1-5 テスト勉強 単語小テスト: No. 0701-0800
	9	Unit 8: 地球温暖化	単語小テスト及び教科書演習	単語小テスト: No. 0801-0900
	10	Unit 9: 元素と原子	単語小テスト及び教科書演習	教科書: Unit 6 単語小テスト: No. 0900-1000
	11	Unit 10: 電気と磁気	単語小テスト及び教科書演習	教科書: Unit 7 単語小テスト: No. 1001-1100
	12	Unit 11: ビッグバン	単語小テスト及び教科書演習	教科書: Unit 8 単語小テスト: No. 1101-1200
	13	Unit 12: 星の形成	単語小テスト及び教科書演習	教科書: Unit 9 単語小テスト: No. 1201-1300
	14	Unit 13: 惑星の形成	単語小テスト及び教科書演習	教科書: Unit 10 単語小テスト: No. 1301-1400
	15	Unit 14: 地球近傍小天体	単語小テスト及び教科書演習	教科書: 単語小テスト: No. 1401-1500
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Basic English for Engineers and Scientists	上原慎吾	金星堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	e-learning 学習の進捗度20%、定期試験40%、小テスト10%、レポート10%、課題テスト20%(工業英検を受験して合格したら特別に評価に加えます)			
学生へのメッセージ	図書館やPC等を利用し日頃から英語に親しんでください。			
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室) 水曜日の2と3限目の休み時間、金曜日の1と2限目の間の休み時間			
備考	事前・事後、毎回、1時間以上予習・復習すること 課題テストで間違った所は復習は復習して覚えること 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	科学技術教養C1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy C1
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	片桐 信・石田 裕子・伊藤 謙・熊谷 樹一郎・熊野 知司・瀬良 昌憲・田中 賢太郎・寺本 俊太郎・福島 徹・八木 俊策
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

授業概要・目的	授業の目的は、受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原則を知ってもらうことである。第1回目の授業では、身の回りの土木技術の例を取り上げ、それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する。第2・3回目は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する。第4～7回は「土木」の由来となる基本的な材料、第8～11回は設計方法、第12～15回は計画と環境問題について講義する。
到達目標	土木技術全般の基礎知識を有し、土木技術と社会や経済活動、生活との関りを理解できる。
授業方法と留意点	・基本的にパワーポイントを用いた講義形式。授業中はメモを取らせ授業終了時もしくは終了後に提出する。 ・歴史と人物と基本原則をセットとして取り扱う。第4回以降は材料や設計の基本原則を扱う。基本的に古くからの基礎的な技術と現在の技術をセットで取り扱う。 ・講義だけではイメージを伝えることが困難な場合には、サンプルや簡単な実験を併用する。
科目学習の効果(資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	私たちの日常生活と土木技術	私たちの身の回りの土木技術：・鉄道・道路網、上下水道、エネルギー施設、防災施設、憩い、・私たちの生活にどう関わっているのか？・技術を支える人々(建設会社、設計コンサルタント、公務員、メーカー・・・)	配布資料講義部分の予習と復習
2	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか①	国土建設の歴史 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
3	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか②	国土建設を行った人々 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
4	都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった-	最も古い材料、土と人類、土と木 締めて使う、事例1(古くからの技術)、事例2(近代以降の技術)	配布資料講義部分の予習と復習
5	都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明-	セメントの発見・発明 耐久性、品質管理	配布資料講義部分の予習と復習
6	都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える-	産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造	配布資料講義部分の予習と復習
7	都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料-	新材料、リサイクル材料 産業廃棄物の利用	配布資料講義部分の予習と復習
8	国土を測る技術	広い国土をどうやって測るのか、歩測からGPSまで、原理、応用	配布資料講義部分の予習と復習
9	都市の造り方① -橋を設計する-	橋はなぜ必要か？橋はどうやって重力に抵抗しているのか、構造力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
10	都市の造り方② -川を設計する-	治水は国を治める。水と波の力を計算する。川、ダムと港の設計へ、水理学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
11	都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する-	都市を支える地盤の役割、地下空間、地盤力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
12	安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する-	都市地域計画 (計画学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
13	安全で安心な都市へ② -命の水を守る-	衛生工学 (上下水道学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
14	安全で安心な都市へ③ -持続可能な都市を-	地球規模環境問題、循環型社会 (環境工学)	配布資料講義部分の予習と復習
15	安全で安心な都市へ④ -都市の生命線-	ライフラインと防災	配布資料講義部分の予習と復習

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料：科学技術教養 C1	都市環境工学科全教員	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		

評価方法(基準) 受講メモ50%、レポート50%の総合点で評価する。※レポートは、授業のまとめとして毎回提出すること。期末試験は行わない。

学生へのメッセージ 豊かな自然に恵まれた日本は世界でも最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです。

担当者の研究室等 講義担当者居室 1号館3階および4階

備考 事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。

科目名	科学技術教養C2	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy C2
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	片桐 信・石田 裕子・伊藤 謙・熊谷 樹一郎・熊野 知司・瀬良 昌憲・田中 賢太郎・寺本 俊太郎・福島 徹・八木 俊策
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

授業概要・目的	概要：いくつかのプロジェクトを例に、建設事業の流れに沿って、社会的な位置づけ、市民生活との関わりを解説する。第1回目の授業では、事業主体別にプロジェクトの流れを説明する。第2～3回目は、高速道路建設を例に地形の調査・土質の調査、環境の調査を解説する。第4～7回は高速道路を構成する橋、トンネル、道路の設計と施工の考え方を解説する。第8～15回は、安全で潤いのある社会を築く観点からダム・堰、堤防、浸水対策、ライフライン、公園・まちづくり、地震防災など身近なテーマを概説する。
到達目標	土木構造物の計画から施工管理までの流れの概要を理解し土木構造物と社会や経済活動、生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	授業はパワーポイントを用いた講義形式とする。私たちの生活を支える社会基盤がどのようにして計画され、設計・施工されているかを事業の流れに沿って解説する。代表的な構造物や身近なテーマを取り上げ、安全で安心な社会を築くため、何が重要かを理解できるように講義を進める。
科目学習の効果(資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているかなどの知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる

回数	授業テーマ	内容・方法 等		事前・事後学習課題
1	社会基盤をつくる建設事業の流れ	国家プロジェクト、地域プロジェクト、民間主導プロジェクトなど事業主体別の建設の流れ、計画(意思決定)～調査～設計～施工の概要		配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
2	高速道路建設の計画・調査・設計	国土開発や都市計画・地域計画との関連、一般道路や鉄道との関連、需要予測、予算、資本回収の考え方		配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
3	建設に必要な調査①(地形の調査・土質の調査)	測量計測技術(地形測量・平板測量・水準測量・写真測量・GPS 測量)、地盤の調査		配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
4	建設に必要な調査②(環境の調査)	生態系・環境への影響、負荷の軽減策、排ガス規制と大気汚染など環境アセスメント		配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
5	橋の設計と施工	コンクリート橋と鋼橋、橋の形式と適用支間長、景観設計、施工法		配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
6	トンネル、半地下開削工法	山岳トンネル・都市地下トンネルの設計と施工、地山の強度と工法、半地下開削工法		配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
7	道路の設計と施工	盛土形式と高架形式、道路の構造、道路舗装		配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
8	ダム・堰の計画と施工	洪水への備え(治水、防災)、発電・灌漑・上水などの多目的ダム、ダムの構造と種類		配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
9	堰・堤防の計画と設計・施工	洪水・土砂災害への備え(治山・治水、防災)、計画雨量、遊水池、親水施設		配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
10	都市型洪水への備え	透水性舗装、都市大型地下貯槽、屋上緑化、排水と下水道設計、地下道・地下鉄の浸水対策		配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
11	市民の日常生活を支えるライフライン	上下水道、水質管理、水質浄化、下水処理、電気、通信設備		配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
12	市民の生活に潤いを与える公園・まちづくり	まちづくりとは、実現するものは、人とのかかわり、技術とのかかわり		配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
13	市民の生活環境を守る	地球環境と生態系、人口増加と都市化・食糧生産、自然エネルギーの問題点、火力発電所と大気汚染・温暖化、原子力発電と放射能問題、温排水問題		配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
14	震災から市民を守る	地震の種類と特性、地震に備える構造とは?制震構造と免震構造、ライフラインの耐震、避難体制、緊急地震速報		配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
15	津波や台風・高潮から市民を守る	港湾施設・防波堤、津波、避難施設、避難誘導		配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料：科学技術教養 C2	都市環境工学科全教員	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		

評価方法(基準)	受講メモ50%、レポート・小論文50%の総合点で評価する。※レポート・小論文は、授業のまとめとして毎回あるいは2～3回に一回程度実施する予定。期末試験は行わない。
----------	---

学生へのメッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているか知り理解を深めていただければ幸いです。
-----------	--

担当者の研究室等	講義担当者居室 1号館3階および4階
----------	--------------------

備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。
----	--

科目名	科学技術教養E1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy E1
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	片田 喜章, 井上 雅彦, 奥野 竜平, 工藤 隆則, 鹿間 信介, 高瀬 冬人, 田口 俊弘, 橋橋 祥一, 西 惠理, 堀内 利一, 山田 逸成
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の簡単な基礎理論を紹介しながら、身の回りにおける電気製品を題材として電気電子工学から通信情報分野までの多岐にわたる応用技術を学習させることを目的とする。
到達目標	電気を作る電池の話や電気を力に変えるモータ、半導体や太陽電池の構造、携帯電話やパソコン、インターネットのしくみまで、電気を使った最新技術がどのようなしくみで暮らしの中で活用されているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業はスライドを用いて行い、授業中にメモを取らせて授業後に回収する。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。
科目学習の効果(資格)	計測装置・電気設備など電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている。 これらの原理や特性を知ること、その性能をフルに引き出すことができる。 また、身近な電気製品のしくみを知ること、より有効活用することができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史と電気回路の基礎	電磁気学の歴史、電気回路の基礎、抵抗と電気エネルギーの利用、消費電力、交流と直流	電気に関するニュースに注意する。1時間
2	電池の構造と応用技術	交流と直流、電池の種類と電圧発生原理、1次電池と2次電池	テキストを復習する。1時間
3	モータのしくみと応用	磁石と力、電磁石、直流モータと交流モータ	テキストを復習する。1時間
4	半導体のお話	半導体とは何か、p形とn形、大規模集積回路、LED照明とは	テキストを復習する。1時間
5	太陽電池の構造と家庭での利用	半導体で光エネルギーを電気に変換する。売電のしくみ。	テキストを復習する。1時間
6	様々な電子回路	電子回路の歴史、真空管と半導体・集積回路、代表的なアナログ電子回路	テキストを復習する。1時間
7	電波応用技術の変遷	電波と光、マクスウェル理論とヘルツの実験 変調方式、ラジオとテレビ	テキストを復習する。1時間
8	モールス通信から携帯電話へ	モールス通信からベルの電話へ、電話機と交換機のしくみ、アナログからデジタルへ、携帯電話とネットワークのしくみ	テキストを復習する。1時間
9	アナログからデジタルへ	アナログとデジタル、2進数とは、論理回路入門	テキストを復習する。1時間
10	パソコン・スマートフォンの内部構造	構成要素と機能、ハードウェアの構成、ソフトウェアの役割、パソコン・スマートフォンの進化	テキストを復習する。1時間
11	マイコンで制御される家電製品	電気制御の重要性、温度制御、圧力制御 電子レンジやIHのしくみ	テキストを復習する。1時間
12	音響機器のしくみ	マイクとスピーカ、録音技術の歴史 CDのしくみ、アナログ録音とデジタル録音、人工音の合成	テキストを復習する。1時間
13	画像表示のしくみ	画像表示の歴史と原理、各種表示デバイスのしくみ、 立体映像表示の原理と実例	テキストを復習する。1時間
14	インターネットのつながり	インターネットのしくみ、ルータとハブ 無線LAN、ネットワークセキュリティ	テキストを復習する。1時間
15	医療分野への貢献	ガルバノの実験、義手の制御 電気工学の医療への応用	テキストを復習する。1時間

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストを配付する		
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	受講メモ50%、小テスト50%の総合点で評価する。
----------	---------------------------

学生へのメッセージ	身の回りの電気製品は日々進化しています。これらを便利な道具としてブラックボックス的に使うのではなく、そのしくみを知って使うことでさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館4階・5階の電気電子工学教員室
----------	--------------------

備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。
----	---

科目名	科学技術教養E2	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy E2
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	片田 喜章, 井上 雅彦, 奥野 竜平, 工藤 隆則, 高瀬 冬人, 田口 俊弘, 檜橋 祥一, 西 恵理, 堀内 利一, 山田 逸成
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の歴史と簡単な基礎理論を説明した後、電気を発生する発電のしくみとその方法を手始めに、現代社会において応用されている電気電子工学、通信情報工学の最新科学技術について講述する。
到達目標	電車のしくみや放送技術、携帯電話やレーザー光線の原理、最新のナノテクノロジーやロボット工学、また宇宙規模の電気の話などもあり、最終的には電気を使った科学技術がどのようなしくみで我々の暮らしに関わっているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業はスライドを用いて行い、授業中にメモを取らせて授業後に回収する。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。
科目学習の効果(資格)	現代社会を支えている電気エネルギーとその応用について総合的に学ぶことにより、電気への理解を深め、これにより原子力発電も含めた電力供給系と節電に対する正しい考え方を身につけることができる。 また、携帯電話やスマートフォンでどこでも通信ができる社会のしくみ等も知ることができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史	琥珀はエレクトロン、磁石の利用、クーロンの法則、アンペールの法則、ファラデーの電磁誘導、マクスウェル理論と電磁波の予言	電気に関するニュースに注意する。1時間
2	発電の原理と発電所	電気エネルギーを発生させるしくみ、発電機、水力、火力 交流発生か直流か、50Hzと60Hz	テキストを復習する。1時間
3	原子力発電	核エネルギーの発生、原子力発電のしくみ、事故と防災対策、放射線の性質と測定	テキストを復習する。1時間
4	再生可能エネルギー	太陽光発電、風力発電 地熱発電、海洋エネルギー、宇宙発電、エネルギー効率	テキストを復習する。1時間
5	送電・配電	電気を安定に送る、交流送電か直流送電、周波数変換 送電電圧と家庭電圧への変換、スマートグリッド	テキストを復習する。1時間
6	モータのしくみと電車	磁石と電流による力の発生、モータのしくみ 電車、リニア新幹線、電気ブレーキと電力回生	テキストを復習する。1時間
7	電波と放送	電波の利用と電波法、ラジオ放送、テレビ放送、衛星放送、放送の進化	テキストを復習する。1時間
8	携帯電話のしくみ	固定電話から携帯電話へ、セルラーシステム、携帯電話のつながるしくみ、音声通信からデータ通信へ、携帯電話の進化	テキストを復習する。1時間
9	私たちの生活をささえる電気照明	エジソンによる電灯の発明、蛍光灯のしくみ、青色LEDの発明、LED照明	テキストを復習する。1時間
10	レーザーの発明	物質からの光放射、線スペクトルと誘導放射 メーザーからレーザーへ、レーザーの特徴	テキストを復習する。1時間
11	光デバイス	さまざまな光デバイスの原理と応用など	テキストを復習する。1時間
12	進化するナノテクノロジー	半導体の動作原理、半導体集積回路の構造、集積回路技術の歴史と現状、スマートフォンからウェアラブル計算機へ、今後の発展	テキストを復習する。1時間
13	プログラマブル高速計算機の発達	チューリング機械、手回し計算機と計算尺、最初の電算機ENIAC 弾道ミサイルの計算、金融計算から天気予報まで	テキストを復習する。1時間
14	ロボット工学	ロボット工学の過去・現在・未来を解説	テキストを復習する。1時間
15	電気と宇宙	第4の状態ープラズマ、発電の原理と応用、雷の発生原理、太陽プラズマと黒点の関係、オーロラの発光メカニズム	テキストを復習する。1時間

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストを配付する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	受講メモ 50%、小テスト 50%の総合点で評価する。		
学生への メッセージ	我々の暮らしに電気は不可欠です。しかも原子力発電の問題が出てきて、エネルギー問題への関心は節電対策も含め高まっていると思います。しかし、単純に噂などを鵜呑みにするのではなく、電気の発生から伝達までのしくみを詳しく知れば、風評に惑わされることなく、対策を考えることができます。常に様々な電気関連のニュースに注意を払いながら受講して下さい。		
担当者の 研究室等	1号館 4階・5階電気電子工学科教員室		
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。		

科目名	科学技術教養M1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy M1
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀江 昌朗, 岸本 直子, 久保 司郎, 諏訪 晴彦, 橋本 正治, 原 宣宏
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問の体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	機械技術およびものづくり技術全般の基礎知識を身につけ、機械工学と社会・生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	・各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を2回もしくは3回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ(ノート)を提出するため、講義の内容をよく聞き、ノートにしていねいにまとめていくことが大事。
科目学習の効果(資格)	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	機械工学とは?	・機械工学の発展の歴史を概観する。 ・「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。	配布資料に目を通しておくこと。
2	道具を作る(1) - ヒトと道具	・道具の歴史: ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ ・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具	配布資料に目を通しておくこと。
3	道具を作る(2) - 作り方	・鋳造、塑性加工、粉末冶金、材料加工、生産加工 ・刀鍛冶、セラミックス、溶接・切断	配布資料に目を通しておくこと。
4	モノの材料を知る(1) - 金属材料	・金属材料はなぜ素材たり得るか? ・鉄鋼の製造方法	配布資料に目を通しておくこと。
5	モノの材料を知る(2) - セラミックス・ポリマー	・セラミックス・ポリマーの構造(金属と何が異なるか?) ・高強度・機能性材料の話	配布資料に目を通しておくこと。
6	モノの材料を知る(3) - 新素材	・新素材と高度産業化社会 ・形状記憶、超伝導、ナノ材料	配布資料に目を通しておくこと。
7	ものづくり(1) - 母なる機械	・機械部品を作る機械(工作機械の歴史) ・機械時計、工具と運動、機械部品	配布資料に目を通しておくこと。
8	ものづくり(2) - 精密に加工する	・精度を追求する(コンピュータと工作機械) ・精密加工、マシニングセル、ナノ加工	配布資料に目を通しておくこと。
9	ものづくり(3) - 工場(ファクトリー)	・世界が学ぶ・日本が誇る製造システム ・無人化工場、デジタル屋台、トヨタ生産方式	配布資料に目を通しておくこと。
10	大きな力を得る(1) - 車輪	・作業を補助する機械の歴史 ・車輪、滑車、てこ、歯車	配布資料に目を通しておくこと。
11	大きな力を得る(2) - 建設運搬機械	・巨大な力を得るためのアクチュエータ ・油圧・水圧・空気圧機器、電動機	配布資料に目を通しておくこと。
12	大きな力を得る(3) - パワーアシスト	・アクチュエータの知能化とパワーアシスト ・パワードスーツ、電動アシスト自転車、人工筋肉	配布資料に目を通しておくこと。
13	ミクロの機械(1) - 精密機械	・小さくなることで変わる使い方 ・時計、携帯電話、計算機、テレビカメラ、情報機器	配布資料に目を通しておくこと。
14	ミクロの機械(2) - 小さく作る	・小さくすることで変わる物理の法則、加工法・アクチュエータ ・微細加工、ナノテク、半導体製造、カーボンナノチューブ、微細気泡	配布資料に目を通しておくこと。
15	ミクロの機械(3) - 小さくて広大な世界	・半導体製造技術を用いた微細構造を持つ機械 ・カプセル内視鏡、鞭毛モーター	配布資料に目を通しておくこと。

関連科目	産業技術史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養M1		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	毎回、講義メモとレポートを提出する。 講義全体にわたるメモ(50%)、講義内容に対する理解と考察に関するレポート(50%)で評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	機械工学が関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか?日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか?近未来にどのような乗り物が実現されているのか?等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	担当教員の居室 [1号館の3階・4階・5階]
----------	------------------------

備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度とする。
----	--

科目名	科学技術教養M2	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy M2
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	諏訪 晴彦, 石田 秀士, 一色 美博, 植田 芳昭, 川野 常夫, 安田 正志, 山崎 達志
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	人の活動に貢献し生活を豊かにする機械技術を理解するとともに、機械システムと社会や経済活動、生活・生命との関わりを理解する。
授業方法と留意点	・各テーマごとに、歴史、基本原理、最先端の話題を2回もしくは3回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ(ノート)を提出するため、講義の内容をよく聞き、ノートにしていねいにまとめていくことが大事。
科自学習の効果(資格)	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	機械工学とは?	・機械工学の発展の歴史を概観する。 ・「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。	配付資料に目を通しておくこと(60分)
	2	活動の源(1) - 動力・エネルギーの世界	・身近なエネルギー利用と動力の歴史 ・人力、蓄力、水力、風力、蒸気力	配付資料に目を通しておくこと(60分)
	3	活動の源(2) - 発電	・エネルギー利用と発電 ・水力、風力、火力、地熱、原子力発電	配付資料に目を通しておくこと(60分)
	4	乗り物(1) - エンジン	・熱工学とエンジンシステム ・種々のエンジン(ガソリン等)、電気モータ	配付資料に目を通しておくこと(60分)
	5	乗り物(2) - 輸送する	・交通と物流 ・自動車交通、船舶、鉄道	配付資料に目を通しておくこと(60分)
	6	空間を移動する(1) - 空を飛ぶ	・空を飛ぶことのできる機械の機能、種類、歴史と原理 ・飛行機、ヘリコプター、飛行船、揚力	配付資料に目を通しておくこと(60分)
	7	空間を移動する(2) - 高速移動	・深海に潜ることのできる機械の機能、種類、歴史と原理 ・しんかい6500、深海探査、水圧、チタン合金、生命維持システム	配付資料に目を通しておくこと(60分)
	8	空間を移動する(3) - 宇宙へ飛び立つ	・宇宙空間に飛んでいける機械の機能、種類、歴史と原理 ・ロケット、スペースシャトル、宇宙ステーション、高真空、ロケットエンジン	配付資料に目を通しておくこと(60分)
	9	物を測る	・測り方を共通にすることで広がる世界 ・度量衡と政治の関係、原器、ものさし、機械的測定	配付資料に目を通しておくこと(60分)
	10	センサで測る	・センサの発達と誤差との戦い ・センサ、センシング技術、計測と誤差	配付資料に目を通しておくこと(60分)
	11	制御する	・制御の成り立ちと発展、自動制御とは? ・调速機、結果を見て制御する(フィードバック)	配付資料に目を通しておくこと(60分)
	12	操る・抑える	・サーボ機構とプロセス制御 ・ロボットアーム、ロケット、原子力発電、鉄鋼プラント	配付資料に目を通しておくこと(60分)
	13	生命・生体に倣う機械(1) バイオエンジニアリング	・バイオエンジニアリング、生体工学の世界 ・生体の模倣と設計、鳥と飛行機、ハコフグと低燃費自動車、サソリと多足ロボット	配付資料に目を通しておくこと(60分)
	14	生命・生体に倣う機械(2) - 医療と健康	・人間を援ける医用工学、人間を癒す福祉工学の世界 ・人工臓器、福祉機器、健康機器、スポーツ機器	配付資料に目を通しておくこと(60分)
	15	生命・生体に倣う機械(3) - ヒューマノイド	・人間を測る、診る、まねる世界 ・生体計測、生体力学、医用診断装置、ヒューマノイドロボット	配付資料に目を通しておくこと(60分)

関連科目	産業技術史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	毎回、講義メモとレポートを提出する。 講義全体にわたるメモ (50%), 講義内容に対する理解と考察を問うレポート (50%) で評価する。
学生への メッセージ	機械工学に関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか? 日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか? 近未来にどのような乗り物が実現されているか? 等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1号館の3階・4階・5階]
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。

科目名	科学技術教養R1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy R1
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大橋 巧, 稲地 秀介, 岩田 三千子, 川上 比奈子, 榎愛, 坂本 淳二, 竹村 明久
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

授業概要・目的	古来より人間は、自然の力をかりてこの地球上に暮らしてきたが、祖先が自然と共生するために凝らしたさまざまな工夫は、それぞれの場所での気候風土、地形、材料を活用したものであり、そこには多くの知恵と技術の歴史を見ることができる。このような背景にもとづく、住環境の成り立ちについて、さまざまな事例を紹介しながら講義する。また、それらを踏まえて、具体的な空間やもののデザインに応用するための工夫や実践につながる技術、手法を学ぶ。
到達目標	住環境の成り立ち、空間やもののデザインの実践的な技法を理解し、建築都市インテリアなどの空間を対象とする住環境デザイン全般の基礎を理解できる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題を毎回提出させる。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果(資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	エコ技術と住宅デザイン-近代の住宅事例	新しい素材、技術、理論の進展に伴い、エコ技術を駆使した近代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
3	エコ技術と住宅デザイン-現代の住宅事例	自然の力をかりるといった古来の知恵を、最新の科学によって融合させた現代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
4	環境配慮型デザインプロセス	環境配慮型建築・設備設計のデザインプロセスと、住宅のパッシブ・アクティブ技術を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
5	住環境における換気	換気の考え方の歴史や法などの基準のはなしを基に、住宅における換気的重要性について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
6	健康で快適な生活とにおい対策	心身ともに健康に過ごすための、住宅内でのにおい問題やにおい対策の考え方について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
7	生活の中における香りの活用	屋内外の香りや人と人の関わりのはなしから、香りの人への心理生理的影響や香りの積極的な利用方法について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
8	いのちを守るあかりとサイン	大規模災害時に避難・誘導を助けるあかりやサインの存在を知り、その有用性とデザイン上の注意点を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
9	安全・快適な照明環境	照明環境のユニバーサルデザイン手法について、基礎的な知識と、最近の調査、デザイン事例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
10	暮らしの中のさまざまな寸法	身近なモノの寸法がどの様に決められているかを知り、住まいや暮らしをより豊かにするデザインの視点を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
11	地域と景観	地域に居住・生活する人間と景観との関係を、日本の伝統的コミュニティ、景観保護の事例を通して学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
12	野生動物との共存のデザイン	近年獣害が増加する獣害問題及び野生動物と人間が共存するための方策を、具体的事例を通して学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
13	CGと空間デザイン	インテリアや住宅デザインで用いられるCGのしくみと基本知識、その有用性について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
14	かたちとデザイン	身の周りにある家具や住宅などのかたちをコンピュータを用いて表現する方法を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
15	アニメーションと空間デザイン	アニメーションを用いて空間を表現した事例紹介から、そのしくみと効果について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養(R1) 住環境デザイン学科 教科書	摂南大学理工学部住環境デザイン学科	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	講義メモ・課題・小テストなど100%で評価する。 期末試験は行わない。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	12号館 6・7階 各教員研究室
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、 毎回1時間程度と考えてください。

科目名	科学技術教養R2	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy R2
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大橋 巧, 稲地 秀介, 岩田 三千子, 坂本 淳二, 白鳥 武, 久富 敏明, 平田 陽子
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

授業概要・目的	日本の伝統的な住宅は、気候風土、地形、材料などに影響を受けて地方色が豊かであり、歴史的、文化的な相違からも地域性が認められる。現代の住まいや暮らしはそれらの影響を受けて、さまざまな技術の発達、社会の変化とともに、かつての住まいや暮らしの形は変容しつつある。このような身近な住まい、まち、暮らしについての知識を得て、今後の持続可能な社会を創造するための手法を学ぶ。
到達目標	到達目標：建築都市インテリアなどの空間における歴史的文化的背景による地域性を理解し、持続可能な社会を創造するためのまちづくりや住宅建築など、住環境の未来に向けたデザイン手法の基礎を理解できる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題を毎回提出させる。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果(資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日本の住まいの地域性	気候風土や歴史、文化などを背景に、地方色豊かな伝統的の日本住宅について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
3	住環境とパッシブデザイン	住環境におけるパッシブデザインの変遷を建築家の作品を通して学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
4	住環境と考現学	私たちの身の回りにおける住環境を観察・記録することから新しい環境デザインをつくりだす方法を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
5	大規模災害時の避難生活環境	阪神淡路大震災・東日本大震災など大規模災害時の避難生活状況と支援活動を知ることから未来への備えを学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
6	様々な人に配慮した住宅・施設設備	ユニバーサルデザインの観点からの住宅設備や施設設備について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
7	高齢者のための生活空間	高齢者の外出行動、生活環境の広がり、求められる支援の仕組みについて事例を通して学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
8	高齢者の生活環境の広がり と支援	高齢者の心身機能の特性を踏まえて、高齢者をめぐる住宅行政や、様々な高齢者居住について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
9	学びと遊びの環境デザイン	発達段階にある子どもたちが多くの時間を過ごす学校の新しいデザイン事例を知り、人と空間との密接な関係を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
10	地球共生建築のすすめ	地球共生建築および構造、コンポーネントデザインについて学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
11	バイオメタリックデザイン	自然界における形態と構造とその応用デザインについて学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
12	次世代の住環境を考える	私たちの住環境はどのように進化すべきか、地球共生から宇宙共生についてを考える。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
13	省エネルギーとパッシブデザイン	住宅、オフィスビル等の先進のパッシブデザイン技術を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
14	省エネルギーとアクティブデザイン	住宅、オフィスビル等の先進のアクティブデザイン技術を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
15	居住地域を把握する —社会指標にみる地域の実態	我々が居住する地域について、社会指標とよばれる各種のデータを用いて表現する手法を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養(R2) 住環境デザイン学科 教科書	理工学部住環境デザイン学科	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	講義メモ・課題・小テストなどを100%で評価する。 期末試験は行わない。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	12号館 6・7階 各教員研究室
----------	------------------

備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 事前・事後学習にかかる学習時間は、授業外の課題や小テストの学習時間も含めて、毎回1時間程度とすること。
----	---

科目名	科学技術教養 T1	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy T1
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	長島 健, 東 武大, 小林 俊公, 友枝 恭子, 東谷 篤志
ディプロマポリシー (DP)	A◎		

授業概要・目的	「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。数や形状を正確に記述するためのさまざまな手法を概観し、それが最新技術にどのように用いられているかを知る。
到達目標	科学の歴史的な流れを、基礎的事項を踏まえながら説明できる。 科学という学問の背景にある考え方について、各自が意見を持つことができる。
授業方法と留意点	初回に配布するテキスト及び毎回の配布プリントを用いる。各回の最後には講義メモを提出すること。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	人類にとっての数(1)	太古の昔、物を数えるための道具として「自然数」は生まれた。やがて「自然数」から「分数」へと数の世界は広がっていったが、どのような経緯を経たのか？人類の歴史と共に探る。	課題・レポート
	2	人類にとっての数(2)	「小数」、「無理数」、「ゼロの数」、「負の数」と数の世界は更に広がっていった。これらの歴史を当時の文化や考え方を交えながら紹介する。	課題・レポート
	3	人類にとっての数(3)	更に「実数」から「虚数」、「複素数」へと広がった数の世界。ガウス平面、オイラーの公式など「複素数」に関する先人たちの功績。また「複素数」の登場によって発展した科学について紹介する。	課題・レポート
	4	三角形から始める幾何学	ピタゴラスの定理や三角形の合同と相似、三角比について振り返ることから始め、それらを用いて、私達の身の回りのものを測ってみる。	課題・レポート
	5	平行線の公理	高校までの幾何では扱われていない平行線の公理について、その内容と意義を紹介し、平面とは異なる世界はどのようなものか、想像してみる。	課題・レポート
	6	身近にある曲面	平行線の公理を検討することにより現れてきた、平面とは異なる曲面は結構身近にある。そのような曲面を通して、曲がっている世界を体験してもらう。	課題・レポート
	7	波の数理 (音と光の基礎)	身近な「波」を表現するために、「振幅」、「波長」、「位相」という新たな概念を導入し、波の現象について紹介する。さらに、波の性質をもつ音波と光についても概観する。	課題・レポート
	8	波としての光	光は粒子の性質と波の性質をあわせ持つ。しかし、この認識は科学者達の長年の研究と論争を経て得られたものである。本講では光が波であることの根拠を示す。そして写真やホログラフィーなどの、波の性質を利用した光の記録方法について述べる。	課題・レポート
	9	電磁波	光は波である。弦を伝わる波は、弦の振れが大きいところと小さいところが繰り返り現れて波になっている。光が波ならば、いったい何の振動なのだろうか。マックスウェルは理論的に電磁波という波の存在を予言し、さらに光が電磁波の一種であることをつきとめた。本講では電磁波、そして光の正体について述べる。	課題・レポート
	10	レーザー光	光を発するもの (光源) には様々なものがある。太陽は最も明るい光源である。人口の光源としては、電球、蛍光灯がある。近年では省エネルギーな発光ダイオード (LED) が急速に普及している。本講では人が創り出した「最も高機能な光」を発生するレーザーについて、発振の原理及び応用について述べる。	課題・レポート
	11	X線の発見から利用	X線の発見から発生の原理、さらにX線の利用について概観する。医療機器としてよく知られているレントゲンやX線CTがなぜ体内を見透かすことができるのかなどについても説明する。また、X線の欠点と安全性についても簡単に紹介する。	課題・レポート

	12	放射光と未来の光	科学技術の発展によりシンクロトロン放射光という次世代の光を生み出した。放射光の発生原理と科学等への利用を紹介する。さらに、近年の利用されてきている次世代の放射光である自由電子レーザーの特性についても簡単に紹介する。	課題・レポート																
	13	コペルニクス以前の天動説	惑星の運動の法則を考えるうえで、コペルニクス以前の天動説について概観する。	課題・レポート																
	14	コペルニクスの地動説	天動説から地動説へ、惑星運行の法則、実験で物理法則を実証する近代自然科学の萌芽を考える。	課題・レポート																
	15	ガリレオの天文学	望遠鏡を発明した技術が自然観察である天体観測を精密化し宇宙を理解したい知的好奇心が科学革命を導く過程を考える。	課題・レポート																
関連科目	数学・物理の全科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>科学技術教養 T1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	科学技術教養 T1			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	科学技術教養 T1																			
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	講義メモ 50%、レポート 50%の総合点で評価する。																			
学生への メッセージ	科学は現代社会で不可欠な学問の一つです。周囲を見渡せば、皆さんの生活が科学抜きには成立しないことがわかるでしょう。科学は近代になって急速に発展しましたが、古くから人々が自然現象や数に興味を持って考察を進めたことが基礎になっています。本講義で科学の歴史や重大な発見・発明の概要を学び、科学という学問をどう考えるか、さらに、これから科学や人間の活動はどう進んでいくべきか、各自で意見を持てるようになりましょう。																			
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1号館2階, 3号館3階, 8号館2階]																			
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。																			

科目名	科学技術教養T2	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy T2
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田 伸一, 神嶋 修, 寺本 恵昭, 中津 了勇, 安井 幸則
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

教養科目

授業概要・目的	「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。			
到達目標	時間や位置とともに変化する量をどのように表すのか、そして、その変化の割合がいったい何を意味し、現代科学につながっていくのかを、歴史的背景も込めて、知る。			
授業方法と留意点	座学・説明中心の講義となるので、遅刻・私語は厳禁である。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	微積分学が成立するまでの話	ニュートンとライブニッツという2つ異なる個性が微積分学の成立にどう影響したか、その歴史を概観する。	課題・レポート
	2	文字式から単位のない実数の世界へ	微積分の厳密化の過程で、記号法・単位の問題から実数概念をどう獲得していったか振り返る。	課題・レポート
	3	ヒルベルトのテーゼ:無矛盾ならば存在する	微積分学が挑んだ無限を無矛盾・選択公理をキーワードにして述べる。	課題・レポート
	4	現代科学は力(ちから)Fから始まった	ニュートンの運動の法則 $F=ma$ は、なんだか良くわからない力Fを使って、なんだか良くわからない質量mを定めた。どちらもわかっていないのに、大丈夫なのだろうか。	課題・レポート
	5	万有引力の法則の美しいスケール不変性は偶然か	ニュートンが発見した「万有引力の法則」は、巨大なサイズをもった惑星の運動から導き出されたにもかかわらず、人工衛星や、飛行機、果ては雨粒にまで適用できることが分かった。これは、自然科学において貴重な「スケール不変性」をもつといい、人類の科学の発展にとって、計り知れないほど幸運であった。	課題・レポート
	6	破壊力、衝撃力はどちらも同じ意味か	物体がもつ「運動の勢い」を考えると、2つの新しい概念が生まれた。一つを運動量といい、他方をエネルギーという。どちらの量が「運動の勢い」を正しく表している尺度なのか人々は50年間議論した。その結論はどうだったのか。	課題・レポート
	7	蒸気機関と熱力学の誕生(1)	18世紀イギリス産業革命と熱機関。蒸気機関の改良・熱効率・熱素説。	課題・レポート
	8	蒸気機関と熱力学の誕生(2)	カルノー登場。カルノーサイクルとそれを用いる思考実験。カルノーの定理の発見。	課題・レポート
	9	蒸気機関と熱力学の誕生(3)	カルノーからケルビン、そしてクラウジウスに至る道。エネルギー保存則(熱力学第一法則)v.s.不可逆性。熱力学第二法則とその表現。熱力学的エントロピー。	課題・レポート
	10	角の3等分について(1)	歴史的背景、方程式と結びつける、ユークリッド作図、作図できる数・できない数	課題・レポート
	11	角の3等分について(2)	60度は3等分できない、体の考え方	課題・レポート
	12	角の3等分について(3)	体の拡大と作図できる数、定理の証明	課題・レポート
	13	ニュートンからアインシュタインへ	慣性系、ガリレイ変換、マイケルソン・モーレーの実験等々アインシュタイン登場前に何が謎だったのかを説明する。	課題・レポート
	14	特殊相対論---原理はたったの2つだけ	2つの基本的な原理を出発点にして、従来の時間や空間に対する考え方がどのように変更されたのか、高校レベルの数学を使って解説する。	課題・レポート
	15	一般相対論---重力の謎	ニュートンの万有引力の法則はアインシュタインの相対論ではどのように記述されるのか?	課題・レポート
関連科目	数学・物理の全科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 T2		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義メモ 50%, レポート 50%で評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等				
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は毎回 1 時間以上かけること。			

科目名	科学技術教養V1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy V1
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西村 仁、井尻 貴之、居場 嘉教、尾山 廣、川崎 勝己、中嶋 義隆、船越 英資、宮崎 裕明
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

授業概要・目的	新聞やテレビが病気・くすりについてのニュースを取り上げることは珍しくないが、その内容を理解することは容易ではない。本講義では、病気・くすりの発見や原因解明の歴史、生命現象との関係などを個人レベルから遺伝子レベルにわたって幅広く平易に概説する。この講義の到達目標は、病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになることである。また、病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学の意義を理解できるようになることを目指す。
到達目標	(1) 病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになる。 (2) 病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学の意義を理解できるようになる。
授業方法と留意点	一話完結型のオムニバス形式で講義を行い、配付する資料とパワーポイントを用いて解説する。講義ごとに講義メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果(資格)	生命科学に関するニュースがより身近になり、明確に理解できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	病気と遺伝子	我々が持つDNAは日常生活で頻繁に「傷(変異)」を受けている。しかしながら、ヒトの体内には傷を発見して治療する安全システムが備わっており、「がん」を未然に防いでいる。本講義では、がんの発症に密接に関わる「遺伝子の傷」と体を守る安全システムの仕組みについて概説する。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)
3	なぜ肥満は問題なのか?	肥満そのものは病気とは言えない。しかし、糖尿病、高脂血症、高血圧、脳血管障害など様々な「生活習慣病」と呼ばれる疾患のリスクファクターになることが知られている。なぜ肥満が様々な疾患の原因になってしまうのか、そのメカニズムと予防・治療法について解説する。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)
4	免疫が引き起こす病気のしくみ	外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と、がん、ウイルス感染(インフルエンザ、HIV、肝炎)、アレルギー疾患などとの関連について紹介する。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)
5	がんの発生とその予防法	死因別死亡率のトップはがんであり、約3人に1人ががんで亡くなっている。自分の意思で調節可能なはずの危険因子である喫煙が、がんの原因の30%を占めており、単因子要因としては最大である。本講義では、がんの発生機序やその予防法について説明する。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)
6	ミトコンドリアと病気	太古の昔にヒトの細胞に侵入した細菌が由来のミトコンドリアであるが、我々の生と死はそのミトコンドリアに支配されている。本講義では、ミトコンドリアの特徴、役割およびミトコンドリアに関連した病気について概説する。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)
7	くすりと遺伝子工学	ある生物から分離した遺伝子を別の細胞または生物体に導入して、遺伝子産物(タンパク質)を生産したり、新しい形質を作り出すなど、遺伝子を人工的に操作する技術、遺伝子工学について紹介する。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)
8	くすりと組換え生物	生物が持つ遺伝情報に改変を施した「遺伝子組換え生物」は、再生医療やヒト疾患の治療法を開発するための重要なツールとして利用されていることに加え、バイオ医薬品の開発などにも役立っている。本講義では、遺伝子組換え生物やクローン生物の作製に関する技術と応用について概説する。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)
9	くすりとバイオインフォマティクス	遺伝子やタンパク質の配列情報を例にバイオインフォマティクスの概要について説明し、病気と遺伝子、ゲノム創薬への応用について述べる。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)
10	くすりとタンパク質のかたち	タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつであるX線結晶構造解析の概要から、インフルエンザ治療薬を例に医薬品開発への応用について述べる。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)

	11	くすりとゲノム	ゲノムとは、創薬とは、遺伝子診断などを解説し、生命倫理、歴史的な背景や将来の課題と発展方向をさぐる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）																
	12	薬物乱用と依存性薬物	社会のルールからはずれた方法や目的で、薬物を使うことを薬物乱用という。薬物依存という、その人の性格や人格の問題と思われがちであるが、脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある。本講義では、薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）																
	13	遺伝子治療の最前線	遺伝子により治療はできるか、遺伝性疾患、科学・技術の概要、基本的な原理、を解説。生命倫理や関連した話題のトピックについても触れる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）																
	14	認知症～その原因と治療法	我が国は超高齢化社会へと進行し続けおり、2025 年には高齢者の 5 人に 1 人が認知症患者になると推定されている。そのため、認知症の発症率の低下や進行抑制のための有効な手立てが見つかれば、社会的な負担が著しく増加すると懸念されている。認知症の原因や治療薬の開発など最新の知見を踏まえて解説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）																
	15	iPS 細胞研究の最前線	京都大学の山中伸弥教授によって作り出された iPS 細胞の基礎・臨床研究は今や国家プロジェクトであり、新聞やテレビでもたびたび登場する。本講義で iPS 細胞の発見から現在までの研究状況を概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）																
関連科目	科学技術教養 V2																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	80%以上の出席を前提とした上で、講義メモ 50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題 50%の総合点で評価する。なお、30 分未満の遅刻は欠席 0.5 日、30 分以上の遅刻は欠席 1 日とする。																			
学生への メッセージ	病気やくすりはみなさんの身近な問題で、関心も大きいと思います。本講義では病気やくすりについて、生命科学の観点から具体例を挙げて分かりやすく解説します。																			
担当者の 研究室等	1 号館 9 階 川崎, 尾山, 西村, 中嶋, 宮崎, 船越, 井尻, 居場研究室																			
備考	事前事後学習に要する総時間の目安は 15 時間																			

科目名	科学技術教養V2	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy V2
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	青笹 治・井尻 貴之・木村 朋紀・長田 武・西矢 芳昭・松尾 康光・丸山 如江・村田 幸作・吉岡 泰秀
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

授業概要・目的	本講義では、微生物の単離・殺菌技術や化粧品の開発、繊維加工に利用されている遺伝子組換え技術など、我々の暮らしを豊かにするバイオテクノロジーから、環境リスクの評価、ヒトの健康を守る知識や技術まで、生命科学の分野における最新の研究事例を取り上げ、幅広く解説する。
到達目標	醗酵・腐敗の歴史、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について説明できる。
授業方法と留意点	講義内容について資料を配付し、パワーポイントを用いて解説する。講義ごとに受講メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果(資格)	遺伝子組換え技術などのバイオテクノロジーと、我々の暮らしや健康との関わりが理解できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	機能性食品などの新しい食品の形態	食品の一次機能(栄養素)、二次機能(味、触感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について解説し、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を講述する。	配布資料を復習する。
2	化粧品とバイオテクノロジー	バイオテクノロジーを化粧品開発に応用した事例を紹介し、実際の商品をとり上げてバイオテクノロジーのメリットを解説する。	配布資料を復習する。
3	繊維とバイオテクノロジー	繊維に反応する酵素を紹介し、これらを用いた繊維加工の応用例および今後の可能性について解説する。	配布資料を復習する。
4	遺伝子組換え植物とその将来	代表的な遺伝子組換え植物の創生方法について簡単に紹介し、世界における遺伝子組換え植物の実際、遺伝子組換え作物の環境への影響、また、日本における組換え作物の安全審査について説明する。さらに、遺伝子組換え賛成派と反対派の主な意見についても触れる。	配布資料を復習する。
5	バイオレメディエーションの可能性	過去、日本であった重金属汚染について簡単に復習し、特に水銀に焦点を合わせて水銀浄化法を説明する。物理化学的浄化法と微生物を用いた生物学的浄化法を対比しながら、適宜遺伝子組換え技術について補足を加え概説し、植物を用いた生物学的浄化法についても説明する。	配布資料を復習する。
6	最先端のバイオエネルギー技術	21世紀に入り、エネルギー枯渇問題、環境負荷低減の要請から、生物の持つエネルギーを新しい代替エネルギーとして利用する試みが急速に発展している。本講義では、バイオエネルギーの概要から最先端のバイオエネルギー技術まで、現在のエネルギーとの比較や生態系・環境との共生の立場から解説する。	配布資料を復習する。
7	新規エネルギーの創生と生物・環境に及ぼす影響	近年、エネルギーの枯渇化問題や生物とこれを取りまく環境との共生の問題を解決する新規エネルギーの創生が強く望まれている。本講義では、これまで使用されてきたエネルギーから最先端のエネルギーまでの特徴を、生物と環境へ及ぼす影響といった観点から解説する。	配布資料を復習する。
8	食品の健康障害リスクと対策	微生物、アレルギー性物質、残留農薬などの食品に存在するヒトの健康障害リスクについて具体的な事例を取り上げ、解説する。	配布資料を復習する。
9	動く分子とバイオテクノロジー	ATP合成酵素や細菌のべん毛モーターなどの動く分子を紹介し、生物がもつ運動機能を生体分子モーターなどへ応用するバイオテクノロジーについて解説する。	配布資料を復習する。
10	モデル生物を用いたバイオテクノロジー	近年の生命科学ではヒトの遺伝子機能や生体機能、遺伝性疾患のメカニズムの解析の方法として様々なモデル生物が盛んに用いられている。それらの応用例を実際の写真等を示しながら、実際の研究例や今後期待される展望を紹介する。	配布資料を復習する。
11	微生物酵素を用いる物質生産システム～バイオテクノロジーを支える酵素利用技術～	酵素は優れた機能を有するタンパク質性の触媒であるが、産業で利用されている酵素の殆どは、加水分解酵素、転移酵素、異性化酵素などであり、反応に補酵素やエネルギーを要する酵素の利用に	配布資料を復習する。

			遅れが見られる。かかる酵素の産業への応用を可能にする酵素利用技術(固定化酵素など)と酵素改変技術(分子進化学、逆進化学、タンパク質工学など)の現状と将来について概観する。																	
	12	遺伝子工学からゲノム工学へ～バイオテクノロジーを支える微生物の形質転換法～	微生物の遺伝子交換法として、形質導入、接合、及び形質転換の3つが知られている。ここでは、真核微生物であり、遺伝子発現などの分子機構において高等動物と共通性が高い出芽酵母における形質転換法の発展の経緯、方法、及びDNA取り込み機構を概観する。近年、進展の著しい巨大ゲノムDNAを扱う合成生物学やゲノム工学も展望する。	配布資料を復習する。																
	13	植物を用いた有用タンパク質生産	植物は、安全性、低コスト、分離精製の容易さなどの点から外来タンパク質の生産系として優れている。本講義では、植物を宿主とした生理活性タンパク質・ペプチドや抗体、ワクチン、医療用タンパク質などの生産について解説する。	配布資料を復習する。																
	14	環境リスクの評価方法	環境汚染物質や食品添加物などの合成化学物質などのヒトに対する安全性評価すなわちリスクアセスメントの考え方を講述し、水道水質基準や環境基準の策定に関する基本的な考え方を述べる。	配布資料を復習する。																
	15	地球規模の環境破壊と人体への影響	主にオゾン層の破壊、地球の温暖化および酸性雨に関して発生原因、発生機構、人への影響およびその防止対策に関して述べる。	配布資料を復習する。																
関連科目	科学技術教養V 1																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	80%以上の出席を前提とした上で、講義メモ 50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題 50%の総合点で評価する。30分未満の遅刻は欠席0.5日、30分以上の遅刻は欠席1日とする。																			
学生へのメッセージ	遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能的食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について、具体的な事例を取り上げ、分かりやすく解説します。																			
担当者の研究室等	1号館8階 環境分析学研究室(青笹)																			
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部の出席および遅刻・欠席と、原則、同じ扱いです。詳細は、一回目の講義で配布する資料に従います。事後学習に要する総時間の目安は15時間																			

科目名	企業経営	科目名(英文)	Corporate Management / Business Management
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

教養科目

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶのは、「戦略」です。企業経営の視点から「ものづくり」にフォーカスし、その「ビジネス戦略」について様々な視点から学ぶ、「ビジネススクール形式」の授業です。 ・主な学習テーマは、以下のとおりです。 <ol style="list-style-type: none"> ①理工学部の学生にとって、なぜビジネス戦略を学ぶことが必要なのか？ ②企業を立ち上げ、経営し、そして成功するためのビジネス戦略とは、何か？ ③「ものづくり」を行う製造業は、日頃どんな課題を抱え、どのように解決しているのか？ ④「ものづくり」を行う製造業にとって、市場のニーズをどう掴むのか？ ⑤「ものづくり」を行う製造業は、卸・小売・サービス業とはどんな違いがあるのか？ ⑥厳しい国際競争の中で、「ものづくり」をビジネス戦略や企業の持続的成長にどう活かせば良いのか？
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、この授業の到達目標です。 ・「ものづくり」とビジネス戦略の関連性について分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。 ・また、その到達目標をクリアできているか確認するため、毎回の授業において、ケースメソッドによる個人作業、グループワーク、プレゼン、質疑応答等を実施し、その到達度合いを一人一人判定します。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。 <ol style="list-style-type: none"> ① 基本的な「ものづくり」の企業事例について、実際のビジネス現場で起きるケースメソッド（仮想企業による事例研究）を準備し、学生同士でディスカッションを行う「ビジネス・スクール形式」の授業です。 ② 毎回の授業においてグループ討議、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく、学びます。 ③ グループメンバー、役割分担は定期的に変更し、自分の考えを主張するとともに、他人の考え方との違いを体感します。 ・なお、授業ではスマホ等を使ったキーワード検索等があります。スマホ等は必ず持参下さい。

科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業診断士等の資格取得に向けた基礎知識の習得に効果があります。
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス ～この授業で何を学ぶのか？～	本科目の目的とテーマ、授業の進め方・ルール、成績評価基準等について説明します。	<ul style="list-style-type: none"> <予習> テキストを熟読し、分からない専門用語等は事前に調べておくように。 <復習> 授業の最後に必ず「本日のポイント」を説明します。その内容について、しっかりと復習して下さい。
2	ケースメソッドⅠ：シャッターガード誕生物語	防災機器技術開発ベンチャー企業Y社～①起業家精神とSWOT分析～	<ul style="list-style-type: none"> <予習> 教科書 p3-21 <復習> 起業家「精神」だけでは決してビジネスに成功しない点を、しっかりと復習して下さい。
3	同上②	防災機器技術開発ベンチャー企業Y社～②個人市場と法人市場比較～	<ul style="list-style-type: none"> <予習> 教科書 p3-42 <復習> BtoCとBtoBの戦略の違いを、しっかりと復習して下さい。
4	同上③	防災機器技術開発ベンチャー企業Y社～③製品流通チャネルと流通価格戦略～	<ul style="list-style-type: none"> <予習> 教科書 p3-42 <復習> 流通プロセスにおける価格設定のポイントについて、しっかりと復習して下さい。
5	同上④	防災機器技術開発ベンチャー企業Y社～④損益分岐点と目標売上高～	<ul style="list-style-type: none"> <予習> 教科書 p3-42 <復習> 持続的成長のために利益を出すことの重要性について、しっかりと復習して下さい。
6	ケースメソッドⅡ：ものづくりをマネジメントする	企業事例研究：和菓子メーカーS社～①生産方法、生産形態～	<ul style="list-style-type: none"> <予習> 教科書 p43-62 <復習> 生産の進捗を遅らせる原因分析と、それが取引先にどれだけ迷惑をかけるのか、しっかりと復習して下さい。
7	同上②	企業事例研究：和菓子メーカーS社～②生産工程の揺らぎと進捗管理～	<ul style="list-style-type: none"> <予習> 教科書 p43-62 <復習> 生産の進捗を遅らせる「揺らぎ」を解決するために何が 필요한のか、しっかりと復習して下さい。
8	同上②	企業事例研究：和菓子メーカーS社～③不良品発生とその解決策～	<ul style="list-style-type: none"> <予習> 教科書 p43-62 <復習> 1個の不良品を発生させることが、生産工程全体にどんな影響を及ぼすのか、しっかりと復習して下さい。
9	同上③	企業事例研究：和菓子メーカーS社～④工程間のムダの排除～	<ul style="list-style-type: none"> <予習> 教科書 p43-62 <復習> 製造業にとって、市場で生き残るための「ものづくり」とは何か、しっかりと復習して下さい。
10	同上④	企業事例研究：和菓子メーカーS社～⑤ロット生産と1個流し～	<ul style="list-style-type: none"> <予習> 教科書 p43-62

				<p><復習> 両方の生産形態の違い、その使い分けの戦略について、しっかりと復習して下さい。</p>																
	11	ケースメソッドⅢ： アジアの中で生き残れ！	企業事例研究：プリント基板メーカーY社～①企業の海外進出理由～	<p><予習> 教科書 p63-78 <復習> 業種や進出先によって、理由が異なる点について、しっかりと復習して下さい。</p>																
	12	同上②	企業事例研究：プリント基板メーカーY社～②国内回帰とマザー工場～	<p><予習> 教科書 p63-78 <復習> せっかく海外進出したのに、なぜ戻って来るのかについて、しっかりと復習して下さい。</p>																
	13	同上③	企業事例研究：プリント基板メーカーY社～③ライン生産とセル生産～	<p><予習> 教科書 p63-78 <復習> 2つの生産方法のメリット・デメリット、国際立地戦略における使い分け等について、しっかりと復習して下さい。</p>																
	14	同上④	企業事例研究：プリント基板メーカーY社～④ライン生産のボトルネック～	<p><予習> 教科書 p63-78 <復習> ライン生産のしくみについて、実例と試算による検証について、しっかりと復習して下さい。</p>																
	15	同上⑤	企業事例研究：プリント基板メーカーY社～⑤アジア諸国との競争戦略～	<p><予習> 教科書 p63-78 <復習> アジアとの競争の中で、生産の3要素をどのように戦略化すべきか、しっかりと復習して下さい。</p>																
関連科目	CSR経営論、産業社会と知的財産など																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>アクティブラーニング（ケースメソッド）授業テキスト ものづくりと企業ビジネス</td> <td>大田住吉、佐々木公之</td> <td>デザインエッグ社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	アクティブラーニング（ケースメソッド）授業テキスト ものづくりと企業ビジネス	大田住吉、佐々木公之	デザインエッグ社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	アクティブラーニング（ケースメソッド）授業テキスト ものづくりと企業ビジネス	大田住吉、佐々木公之	デザインエッグ社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イラスト図解 工場のしくみ</td> <td>松林光男、渡部弘</td> <td>日本実業出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>工場コストダウン事典</td> <td>五十嵐瞭</td> <td>日刊工業新聞社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>現場のムダどり事典</td> <td>山田日登志</td> <td>日刊工業新聞社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	イラスト図解 工場のしくみ	松林光男、渡部弘	日本実業出版社	2	工場コストダウン事典	五十嵐瞭	日刊工業新聞社	3	現場のムダどり事典	山田日登志	日刊工業新聞社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	イラスト図解 工場のしくみ	松林光男、渡部弘	日本実業出版社																	
2	工場コストダウン事典	五十嵐瞭	日刊工業新聞社																	
3	現場のムダどり事典	山田日登志	日刊工業新聞社																	
評価方法 (基準)	<p>①グループワークへの貢献度（参加意欲、役割分担、個人別作業、発言内容など）(35%) ②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力（15%） ③プレゼン力および質疑応答対応力（15%） ④毎回の授業における理解度チェック小テスト（30%） ⑤定期試験（論述式）（5%） による総合評価。 ただし、①～④は、毎回の授業の都度採点し、集計します。</p>																			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・35年間の民間企業・公的機関等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！ ・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。 																			
担当者の 研究室等	11号館7階 大田住吉研究室																			
備考	理解度チェック小テストの結果については、授業の中で適宜フィードバックします。 事前事後学習は概ね90分程度を目安に行ってください。																			

科目名	技術英語	科目名(英文)	Engineering English
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	平尾 秀実
ディプロマポリシー(DP)	C◎		

教養科目

授業概要・目的	このクラスの目的は、技術者として、研究者として必要となる基本的な英語力を養成することである。具体的には、基本的な科学技術系英語の語彙・表現を増やし、書き表したり、また自らも発音することができるようになることを目標とする。
到達目標	科学技術に関する英語の語彙力をつけ、技術英語に対して興味を持ち、工業英検4・3級合格を目標とする。
授業方法と留意点	基本的な英語で書かれた科学系、工学関連のテキストを使用し、語彙強化し知識を実際に運用する訓練を行う。
科目学習の効果(資格)	工業英検3級・4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	化学に関する語句(1)	リーディング ライティング	テキスト、Lesson 1 の問題を解いておくこと。復習一その日の問題の単語を書けるようにすること。
2	化学に関する語句(2)	リーディング ライティング	テキスト、Lesson 2 の問題を解いておくこと。復習一その日の問題の単語を書けるようにすること。 単語小テスト: No. 0001-0200
3	物理学に関する語句(1)	リーディング ライティング	テキスト、Lesson 3 の問題を解いておくこと。復習一その日の問題の単語を書けるようにすること。 単語小テスト: 201-0300
4	物理学に関する語句(2)	リーディング ライティング	テキスト、Lesson 4 の問題を解いておくこと。復習一その日の問題の単語を書けるようにすること。 単語小テスト: No. 0301-0400
5	天文学に関する語句	リーディング ライティング	テキスト、Lesson 5 の問題を解いておくこと。復習一その日の問題の単語を書けるようにすること。 単語小テスト: No. 0401-0500
6	地球科学に関する語句	リーディング ライティング	テキスト、Lesson 6 の問題を解いておくこと。復習一その日の問題の単語を書けるようにすること。 単語小テスト: No. 0501-0600
7	環境・資源に関する語句	リーディング ライティング	テキスト、Lesson 7 の問題を解いておくこと。復習一その日の問題の単語を書けるようにすること。 単語小テスト: No.0601-0700
8	生物に関する語句(1) 課題テスト	リーディング ライティング	テキスト、Lesson 8 の問題を解いておくこと。復習一その日の問題の単語を書けるようにすること。 単語小テスト: No. 0701-0800
9	生物に関する語句(2)	リーディング ライティング	テキスト、Lesson 9 の問題を解いておくこと。復習一その日の問題の単語を書けるようにすること。 単語小テスト: No.0801-0900
10	生物に関する語句(3)	リーディング ライティング	テキスト、Lesson 10 の問題を解いておくこと。復習一その日の問題の単語を書けるようにすること。 単語小テスト: No. 0901-1000
11	人体・医学に関する語句(1)	リーディング ライティング	テキスト、Lesson 11 の問題を解いておくこと。復習一その日の問題の単語を書けるようにすること。 単語小テスト: No. 1001-1100
12	人体・医学に関する語句(2)	リーディング ライティング	テキスト、Lesson 12 の問題を解いておくこと。復習一その日の問題の単語を書けるようにすること。 単語小テスト: No. 1101-1200
13	科学・技術に関する語句(1)	リーディング ライティング	テキスト、Lesson 13 の問題を解いておくこと。復習一その日の問題の単語を書けるようにすること。 単語小テスト: No. 1201-1300
14	科学技術・産業に関する語句(2)	リーディング ライティング	テキスト、Lesson 14 の問題を解いておくこと。復習一その日の問題の単語を書けるようにすること。 単語小テスト: : No. 1301-1400
15	建築・土木に関する語句	リーディング ライティング	復習一その日の問題の単語を書けるようにすること。 定期試験の準備。単語小テスト: No. 1401-1500

関連科目	その他の英語科目全て
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Science and Technology Vocabulary	佐藤誠司	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	Koji NISHIYA	SEIBIDO
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	4級工業英検問題集		日本工業英語協会
	2	3級工業英検問題集		日本工業英語協会
	3			

評価方法 (基準)	e-learning 学習の進捗度 20%、 期末試験 40%、 レポート 10%、 課題テスト 20%、小テスト 10% (工業英検を受験し、3級・4級に合格すると特別に評価に加えます)
学生への メッセージ	音楽や、映画など、自分が興味のあるものを原語で楽しむことが語学力の向上につながります。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 課題(レポート)には1回あたり5時間以上かけて仕上げること。 自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計20時間はかけること。 英単語は e-learning を含めて、毎日、平均1時間は学習すること。 課題テストで間違った所は復習して覚えること 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	梅田 尋道
ディプロマポリシー (DP)	C◎		

授業概要・目的	英語は今日世界共通語としての地位を築きつつあります。ですから今後好むと好まざるにかかわらず、英語は私たちの生活にますます関わってきます。こうした時代の流れに対応するためにも、もう一度英語全体の根底にある文法・語法を徹底し、それを実践にいかし、読解力を身に付けることを目標にします。
到達目標	基礎英文法を徹底的に理解し、国際的コミュニケーションのための基本的な意思疎通ができる能力を有する。
授業方法と留意点	毎回、クラスのほぼ全員に答えてもらうので、予習を欠かさないこと。
科目学習の効果 (資格)	全員が TOEIC Bridge 120 点を取るのに必要な読解力、語彙力をつける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	講義の進め方、評価方法などを説明。	教科書・英和辞典を持参すること。
	2	Unit 1 The Perfect Person	Reading Strategy	学習範囲のパスページの音読 The 1500 Core Vocabulary 001-0038
	3	Unit 1 The Perfect Person	Listening/Speaking	学習範囲のパスページの音読 The 1500 Core Vocabulary 0039-0076
	4	Unit 2 World Wide Bookstores	Reading Strategy	学習範囲のパスページの音読 The 1500 Core Vocabulary 0077-0114
	5	Unit 2 World Wide Bookstores	Listening/Speaking	学習範囲のパスページの音読 The 1500 Core Vocabulary 0115-0152
	6	Unit 3 Lose Those Pounds	Reading Strategy	学習範囲のパスページの音読 The 1500 Core Vocabulary 0153-0190
	7	Unit 3 Lose Those Pounds	Listening/Speaking	学習範囲のパスページの音読 The 1500 Core Vocabulary 0191-0228
	8	Review 1 中間テスト	Units1-3のまとめと中間試験	中間テストの準備
	9	Unit 4 Living Well on Credit	Reading Strategy	学習範囲のパスページの音読 The 1500 Core Vocabulary 0229-00266
	10	Unit 4 Living Well on Credit	Listening/Speaking	学習範囲のパスページの音読 The 1500 Core Vocabulary 0267-0304
	11	Unit 5 The Breakup	Reading Strategy	学習範囲のパスページの音読 The 1500 Core Vocabulary 0305-0342
	12	Unit 5 The Breakup	Listening/Speaking	学習範囲のパスページの音読 The 1500 Core Vocabulary 0343-0400
	13	Unit 6 The Road to Mexico	Reading Strategy	学習範囲のパスページの音読共通テストに向けて学習
	14	Unit 6 The Road to Mexico	Listening/Speaking	学習範囲のパスページの音読
15	Review 2	Units 4-6のまとめ	定期試験の学習	

関連科目	基礎英語 IIa
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	New Connection Book 2	T. Kadoyama 他	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 共通試験 30% (TOEIC 20%、統一英語単語テスト 10%)、e-learning を 10%、課題提出・授業参加 (授業への積極性など) を 20%、中間試験と定期試験の合計点を 40%の割合とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	"Failure is instructive. The person who really thinks learns quite as much from his failures as from his successes." — John Dewey 「失敗は一種の教育である。思考とは何であるかを知っている人間は、成功からも失敗からも多くを学ぶ。」 ジョン・デューイ
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	矢富 弘
ディプロマポリシー (DP)	C◎		

授業概要・目的	英語は今日世界共通語としての地位を築きつつあります。ですから今後好むと好まざるにかかわらず、英語は私たちの生活にますます関わってきます。こうした時代の流れに対応するためにも、もう一度英語全体の根底にある文法・語法を徹底し、それを実践にいかし、読解力を身に付けることを目標にします。
到達目標	基礎英文法を徹底的に理解し、国際的コミュニケーションのための基本的な意思疎通ができる能力を有する。
授業方法と留意点	毎回、クラスのほぼ全員に答えてもらうので、予習を欠かさないこと。
科目学習の効果 (資格)	全員が TOEIC 300 点を取るのに必要な読解力、語彙力をつける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法などを説明。	教科書・英和辞典を持参すること。
2	Unit 1 Our Aging Society	英語四技能のトレーニング 単語テスト	学習範囲のページの音読 The 1500 Core Vocabulary 001-0040
3	Unit 1 Our Aging Society Unit 2 Holiday Memories	英語四技能のトレーニング 単語テスト	学習範囲のページの音読 The 1500 Core Vocabulary 0041-0080
4	Unit 2 Holiday Memories	英語四技能のトレーニング 単語テスト	学習範囲のページの音読 The 1500 Core Vocabulary 0081-0120
5	Unit 3 Sport	英語四技能のトレーニング 単語テスト	学習範囲のページの音読 The 1500 Core Vocabulary 0121-0160
6	Unit 3 Sport Unit 1-3 復習	英語四技能のトレーニング 単語テスト	学習範囲のページの音読 The 1500 Core Vocabulary 0161-0200
7	Unit 4 Foreign Workers	英語四技能のトレーニング 単語テスト	学習範囲のページの音読 The 1500 Core Vocabulary 0201-0240
8	Unit 4 Foreign Workers Unit 5 Lifestyles	英語四技能のトレーニング 単語テスト	中間テストの準備
9	Unit 5 Lifestyles	英語四技能のトレーニング	学習範囲のページの音読 The 1500 Core Vocabulary 0241-00280
10	Unit 6 Sizes	英語四技能のトレーニング 単語テスト	学習範囲のページの音読 The 1500 Core Vocabulary 0281-0320
11	Unit 6 Sizes Unit 4-6 復習	英語四技能のトレーニング 単語テスト	学習範囲のページの音読 The 1500 Core Vocabulary 0321-0360
12	Unit 7 Bathrooms	英語四技能のトレーニング 単語テスト	学習範囲のページの音読 The 1500 Core Vocabulary 0361-0400
13	Unit 7 Bathrooms Unit 8 Weather and Global Warming	英語四技能のトレーニング 単語テスト	学習範囲のページの音読共通テストに向けて学習
14	Unit 8 Weather and Global Warming	英語四技能のトレーニング	学習範囲のページの音読
15	前期の復習、定期試験対策	英語四技能のトレーニング	定期試験の学習

関連科目	基礎英語 IIa
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Indicator 2	Terry O'Brien, 他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 共通試験 30% (TOEIC 20%、統一英語単語テスト 10%)、e-learning を 10%、課題提出・授業参加 (授業への積極性など) を 20%、中間試験と定期試験の合計点を 40%の割合とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	“Every man takes the limits of his own fields of vision for the limits of the world.” - Arthur Schopenhauer, Psychological Observation. 「誰もが自分の視野の限界を世界の視野の限界だと思っている。」 アルトゥル・ショーペンハウアー 『心理学的観察』 外国語学習はコミュニケーションの手段を得ることに留まらず、あなたの「視野」を拡げ違う世界を見せてくれるでしょう。一緒に楽しみながら学びましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小川 一美
ディプロマポリシー (DP)	C◎		

授業概要・目的	TOEIC 受験のための基礎的な文法力の養成。
到達目標	中学英語の復習ならびに高校英語の基礎を養成。 英語 II a の科目と併せて、本科目終了後には TOEIC440 点前後の実力を身につける。
授業方法と留意点	・習得しておくべき基礎的な文法事項を解説し、繰り返しの練習問題や共同学習に取り組むことによって理解を深める。 ・共通テキスト『The Core Vocabulary for the TOEIC Test』により語彙力の強化を図る。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC のスコアの向上。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、評価の仕方、予習の仕方など	Unit 1 の予習 単語学習 (単語番号 1-30)
	2	Unit 1 be 動詞	Unit 1 be 動詞 be 動詞の活用と意味 否定文と疑問文 There is 構文	Unit 1 の復習 Unit 2 の予習 単語学習 (単語番号 31-60)
	3	Unit 2 一般動詞 (現在)	Unit 2 一般動詞 (現在) 現在形の否定文 現在形の疑問文	Unit 2 の復習 Unit 3 の予習 単語学習 (単語番号 61-90)
	4	Unit 3 一般動詞 (過去)	Unit 3 一般動詞 (過去) 過去形の否定文 過去形の疑問文	Unit 3 の復習 Unit 4 の予習 単語学習 (単語番号 91-120)
	5	Unit 4 進行形	Unit 4 進行形 現在進行形と過去進行形の否定文 現在進行形と過去進行形の疑問文	Unit 4 の復習 Unit 5 の予習 単語学習 (単語番号 121-150)
	6	Unit 5 未来形	Unit 5 未来形 未来形の文 未来形の疑問文 be going to	Unit 5 の復習 Unit 6 の予習 単語学習 (単語番号 151-180)
	7	Unit 6 助動詞	Unit 6 助動詞 can must may	中間試験の準備 単語学習 (単語番号 181-210)
	8	中間試験と解説	中間試験および解答と解説	Unit 7 の予習 単語学習 (単語番号 211-240)
	9	Unit 7 名詞・冠詞	Unit 7 名詞・冠詞 可算名詞 不可算名詞 冠詞	Unit 7 の復習 Unit 8 の予習 単語学習 (単語番号 241-270)
	10	Unit 8 代名詞	Unit 8 代名詞 人称代名詞と指示代名詞 所有代名詞、再帰代名詞、疑問代名詞 不定代名詞	Unit 8 の復習 Unit 9 の予習 単語学習 (単語番号 271-300)
	11	Unit 9 前置詞	Unit 9 前置詞 時を表す前置詞 場所・移動方向を表す前置詞 その他の前置詞	Unit 9 の復習 Unit 10 の予習 単語学習 (単語番号 301-330)
	12	Unit 10 形容詞・副詞	Unit 10 形容詞・副詞 形容詞の用法 数量を表す形容詞 副詞の用法	Unit 10 の復習 Unit 11 の予習 単語学習 (単語番号 331-360)
	13	Unit 11 比較	Unit 11 比較 原級を用いた文 比較級を用いた文 最上級を用いた文	Unit 11 復習 Unit 12 予習 単語学習 (単語番号 361-400)
	14	Unit 12 命令文・感嘆文	Unit 12 命令文・感嘆文 命令文 What で始まる感嘆文 How で始まる感嘆文	Unit 12 復習 単語学習 (単語番号 1-400)
	15	総括	今期のまとめ 期末試験のための復習	期末試験の準備 単語学習 (単語番号 1-200)

関連科目	他の英語に関連する科目
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	2	English Primer<Revised Version>		南雲堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	総合英語 Forest	石黒昭博	桐原書店
	2			
	3			

評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト 30% (TOEIC20% + 統一英語単語テスト 10%) ・リンガポルタ 10% ・平常点 15%(小テスト・授業態度・宿題) ・中間試験 25% ・期末試験 20%
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回辞書を持参すること。 ・毎回『The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test』の単語テストがあるため、必ず準備すること。 ・私語など授業を妨害するような行為や許可なく途中退席する場合は欠席とみなす。
担当者の 研究室等	
備考	<p>自主学習の目安時間は、少なくとも 60 分は必要である。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</p>

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	C◎		

授業概要・目的	本科目では、高校まで学んだ英語の語彙と文法を定着させ、語彙力と平易で短い文章の読解力を高めていきます。楽しく学べるように多様なアクティビティを含む教科書を用いて、授業で解説する語彙や文法をすぐに使ってみて定着させます。自主学習としては、単語集や e-learning 教材「リングポルタ」を用いて語彙を学習します。
到達目標	高校まで学んだ基礎英文法を身に付け、理解を徹底する。 単語集 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の単語 0001-0400 (pp. 2-66) を身に付ける。 平易で短い文章を読むことができるようになる。
授業方法と留意点	毎回、前回指定の単語集の単語や前回の Unit で学んだ単語について小テストを行う。 授業では、読解を中心に語彙や文法を解説し、語彙や文法を定着させるための聴解・会話・作文活動を行う。
科目学習の効果 (資格)	英語関連の資格 (TOEIC など) のスコア上昇など。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	英語による自己紹介、授業の進め方や評価方法の説明	e-learning 教材「リングポルタ」による自主学習を始めること。単語集の単語 0001-0030 を学習すること。
2	Who was Pablo Picasso?	小テストを終えてから、読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な聴解・会話・作文活動を行う。	e-learning 教材「リングポルタ」による自主学習を進めること。単語集の単語 0031-0060 を学習すること。今回の Unit のリーディング文章を読んでみておくこと。
3	The boy wonder	小テストを終えてから、Unit のまとめ及び復習をし、語彙や文法を定着させるための単純な聴解・会話・作文活動を行う。	e-learning 教材「リングポルタ」による自主学習を進めること。単語集の単語 0061-0090 を学習すること。
4	The young artist	小テストを終えてから、読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な聴解・会話・作文活動を行う。	e-learning 教材「リングポルタ」による自主学習を進めること。単語集の単語 0091-0120 を学習すること。今回の Unit のリーディング文章を読んでみておくこと。
5	Quiz and workshop (1)	小テストを終えてから、英語によるワークショップを行う。	e-learning 教材「リングポルタ」による自主学習を進めること。単語集の単語 0121-0150 を学習すること。
6	Life in Paris	小テストを終えてから、読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な聴解・会話・作文活動を行う。	e-learning 教材「リングポルタ」による自主学習を進めること。単語集の単語 0151-0180 を学習すること。今回の Unit のリーディング文章を読んでみておくこと。
7	Pablo's shocking Paintings	小テストを終えてから、Unit のまとめ及び復習をし、語彙や文法を定着させるための単純な聴解・会話・作文活動を行う。	e-learning 教材「リングポルタ」による自主学習を進めること。単語集の単語 0181-0210 を学習すること。
8	Something new	小テストを終えてから、読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な聴解・会話・作文活動を行う。	e-learning 教材「リングポルタ」による自主学習を進めること。単語集の単語 0211-0240 を学習すること。今回の Unit のリーディング文章を読んでみておくこと。
9	Quiz and workshop (2)	小テストを終えてから、英語によるワークショップを行う。	e-learning 教材「リングポルタ」による自主学習を進めること。単語集の単語 0241-0270 を学習すること。
10	Falling in love again and again	小テストを終えてから、読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な聴解・会話・作文活動を行う。	e-learning 教材「リングポルタ」による自主学習を進めること。単語集の単語 0271-0300 を学習すること。今回の Unit のリーディング文章を読んでみておくこと。
11	War and peace	小テストを終えてから、Unit のまとめ及び復習をし、語彙や文法を定着させるための単純な聴解・会話・作文活動を行う。	e-learning 教材「リングポルタ」による自主学習を進めること。単語集の単語 0301-0330 を学習すること。
12	Pots and Pans	小テストを終えてから、読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な聴解・会話・作文活動を行う。	e-learning 教材「リングポルタ」による自主学習を進めること。単語集の単語 0331-0360 を学習すること。今回の Unit のリーディング文章を読んでみておくこと。
13	Quiz and workshop (3)	小テストを終えてから、英語によるワークショップを行う。	e-learning 教材「リングポルタ」による自主学習を進めること。単語集の単語 0361-0390 を学習すること。
14	Busy to the end	小テストを終えてから、読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な聴解・会話・作文活動を行う。	e-learning 教材「リングポルタ」による自主学習を進めること。単語集の単語 0391-0400 を学習し、復習を始めること。今回の Unit のリーディング文章を読んでみておくこと。
15	Review	小テストを終えてから、Unit のまとめ及び復習をし、語彙や文法を定着させるための単純な聴解・会話・作文活動を行う。	e-learning 教材「リングポルタ」による自主学習及び単語集の語彙の復習を進めること。

関連科目	基礎英語 IIa			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Who was Pablo Picasso?	True Kelley	Grosset & Dunlap

			ISBN:9780448449876
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志 成美堂
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	(必要に応じて指示します)	
	2		
	3		
評価方法 (基準)	<p>原則として出席率 80%以上の学生以外は単位を認めない。</p> <p>共通試験 TOEIC Bridge 20%</p> <p>共通試験統一英語単語テスト 10%</p> <p>e-learning 学習の進捗度 10%</p> <p>担当教員の評価 60% (小テスト・宿題 30%、授業態度 30%)</p> <p>※「授業態度」とは担当教員の質問に対する回答、授業への集中度、しっかりノートを取っているかどうかなどのことである。</p>		
学生への メッセージ	<p>言語は知識としてしまっておくものではなく、使って役立てるものです。語彙はあなたの力となります。e-learning と 4 択のテストで判断スピードを鍛えたら、あとは英語と日本語を使って、「おもしろい世界」にアクセスしましょう。</p>		
担当者の 研究室等	7号館 4階 齋藤研究室		
備考	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。宿題や小テストのフィードバックは提出・実施の翌週に行う。授業時間外での質問などはメールあるいは非常勤講師室（時間は応相談）における相談で対応する。</p>		

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	江崎 早苗
ディプロマポリシー (DP)	C◎		

教養科目

授業概要・目的	英文の理解に必要な英文法の基礎を習得し、簡単な読解能力・語彙力を身につけることを目的とする。
到達目標	基礎英文法の徹底理解を到達目標とする。 学部共通の学習・教育到達目標との対応：[VI]
授業方法と留意点	授業は‘Active Participation in Class’ (授業への前向きな参加) が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書 (できれば、紙の英和辞典) は必ず持ってくることを。
科目学習の効果 (資格)	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、文法・読解力の基礎は必ず身につきます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	シラバスの説明 Unit 1 の導入 英語の文	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など 統一英単語テスト準備学習 (0001 - 0025)	UNIT 1 の予習 英単語復習、予習
2	Unit 1 英語の文	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0026 - 0050)	UNIT 1 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
3	Unit 2 名詞・代名詞・冠詞	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0051 - 0075)	UNIT 2 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
4	Unit 2 名詞・代名詞・冠詞	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0076 - 0100)	UNIT 2 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
5	Unit 3 動詞	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0101 - 0125)	UNIT 3 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
6	Unit 3 動詞	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0126 - 0150)	UNIT 3 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
7	Unit 4 5文型	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0151 - 0175)	UNIT 4 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
8	Unit 4 5文型	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0176 - 0200)	UNIT 4 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
9	Unit 5 助動詞	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0201 - 0225)	UNIT 5 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
10	Unit 5 助動詞	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0226 - 0250)	UNIT 5 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
11	Unit 6 時制	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0251 - 0275)	UNIT 6 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
12	Unit 6 時制	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0276 - 0300)	UNIT 6 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
13	Unit 7 完了形	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0301 - 0325)	UNIT 7 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
14	Unit 7 完了形	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0326 - 0350)	UNIT 7 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
15	Unit 1 ~ Unit 7 英語の文 ~ 完了形	既習範囲の総復習 英単語テスト準備学習 (0351 - 0400) 定期試験 (前期末) の準備	定期試験 (前期末) の準備 英単語復習

関連科目 他: 英語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Starting Gate	山田久美 他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC		成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英和辞典・和英辞典		

評価方法 (基準)
 定期試験 40%
 TOEIC Bridge 20%
 統一英語単語テスト 10%
 e-learning 10%
 Quiz (小テスト) 10%
 授業態度 (発表など) 10%
 原則、出席率 80% 以上の学生を成績評価の対象とする。

学生へのメッセージ
 There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) にあるように英語学習に王道 (easy way) などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and (or but) steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。諦めずに頑張ってください。

担当者の研究室等
 7号館 2階 非常勤講師室

備考
 1. 事前・事後学習に、毎回1時間以上かけること。
 2. 英単語はe-learningを含めて、毎日、平均1時間は学習すること。
 3. 期末試験の準備には、合計20時間以上かけること。
 4. 上記の学習に、「只管筆写」用紙を活用すること (用紙は非常勤講師室にある)。
 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	井原 駿
ディプロマポリシー (DP)	C◎		

授業概要・目的	この授業では、様々な映画に登場する食べ物をテーマにした英文を読みながら、リーディング能力を身に付ける。 また、基本的な文法の定着を図り、英作文の力や語彙力も高めていく。 グループワークを取り入れ、様々な知識や意見を出し、刺激し合いながら英語能力を高める。
到達目標	正確にリーディングができるようになり、大学レベルのアカデミックなリーディングスキルの基礎を築く。 基本的な文法を定着させ、使いこなせるようになる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、予習としてリーディングの下読み、単語調べを行うこと。 ・「統一英語単語テスト」に備えて、『The Core Vocabulary for the TOEIC Test』より、単語テストを毎回実施する。 ・グループワークを実施する。積極的なグループへの貢献を評価する。 ・辞書か電子辞書を必ず持参すること（携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない）。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。 ①私語など授業を妨害するような行為や許可のない途中退席、テキスト忘れは、欠席とみなす。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。
科目学習の効果 (資格)	リーディングスキルの向上。 基本的な文法の定着。 語彙力の向上。 英検、TOEIC テストのスコアアップ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価の仕方、予習の仕方など	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習
2	Unit 1 College Sports スポーツでストレス解消	文法問題 (present tense)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ
3	Unit 2 Hip Hop Music ヒップホップ音楽で元気づけ	文法問題 (past tense)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ
4	Unit 3 Travel 心身の回復とエキゾチックな風景を満喫	文法問題 (progressive forms)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ
5	Unit 4 Video Games テレビゲームで現実からの脱出と達成感	文法問題 (perfect tense)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ
6	Unit 5 Recycling リサイクルで環境保全のお手伝い	文法問題 (articles / pronouns)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ
7	Unit 6 Fast Food 安い、早い、便利なファーストフードだが？	文法問題 (nouns: countable, uncountable)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ
8	Unit 7 Extreme Weather 異常気象に備えて緊急バッグの用意を！	文法問題 (adjectives / adverbs)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ
9	Unit 8 Medical Tourism 海外での医療サービスにはリスクも！	文法問題 (comparisons)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ
10	Unit 9 Advertising 購買に大きなインパクトのある広告	文法問題 (prepositions / conjunctions)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ
11	Unit 10 Business Travel 企業にも個人にも利点のある出張	文法問題 (to-infinitives / gerunds)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ
12	Unit 11 E-commerce オンラインショッピングは便利	文法問題 (auxiliary verbs)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ
13	Unit 12 Coffee Shop 『白鯨』に登場する一等航海士が店名に	文法問題 (passive voice)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ
14	Unit 13 Robots 進化するロボット技術の利点と不安	文法問題 (causative verbs)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ
15	Unit 14 SNS ウェブ上で交流できるサービスが続々登場 総括	文法問題 (relatives)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ

関連科目	他の英語に関連する科目
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	2	English Indicator 3 <Intermediate> 英語総合インディケーター <中級>	Joshua Cohen, 三原 京, 中村 善雄, 木村 博是 著	南雲堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	辞書		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト 30% (TOEIC20% + 統一英語単語テスト 10%) ・リンガポルタ 10% ・平常点 30%(小テスト(数回実施予定)・授業態度・宿題) ・期末試験 30% <p>注意：原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。平常点とは、小テストや宿題、授業態度（投げかける質問に対する呼応、積極性、集中度など）を総合的に評価するものであり、出席点ではない。</p>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・「統一英語単語テスト」に備え、『The Core Vocabulary for the TOEIC Test』の指定範囲を自己学習すること。 ・e-learning 教材「リンガポルタ」を利用すること。進捗状況を成績に含む。 ・外国の映画や文化に興味を持つと、自然と英語の学習が楽しくなります。積極的に外国へ目を向けましょう。 ・英語ができるようになると、必ず自分の世界が広がります。多少の失敗で落ち込まず、前向きにトライしましょう。 ・英検や TOEIC を自主的に受けてみましょう。 			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師控室 email: iharashun0@gmail.com			
備考	授業に関係のない行為は厳しく減点、もしくは欠席扱いとする。授業中は勉強に集中すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 自主学习は、試験の準備も含めて合計約 20 時間とする。			

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高橋 佑宜
ディプロマポリシー (DP)	C◎		

授業概要・目的	英語運用能力の土台となる基礎英文法を重点的に学びます。教科書や必要に応じた配布プリントを使用し、学習した文法事項を実際のシチュエーションで使用することを意識しながら、特に基礎英文法の復習と定着、語彙力の獲得、英作文の習得を目指します。
到達目標	基礎英語力を身に着ける。工業英検 4 級, 3 級
授業方法と留意点	適時小テストを実施します。
科目学習の効果 (資格)	英語資格試験に備えた基本的語彙の習得。(工業英検 4 級) 基礎英文法の理解と習得。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業の進め方、評価方法などについて説明を行います。	
	2	Chapter 1 5つの基本文系	Chapter 1 の文法事項について学びます。	単語集 0401-430
	3	Chapter 1 5つの基本文系	Chapter 1 の練習問題と読解を行います。	単語集 0431-460
	4	Chapter 2 動詞	Chapter 2 の文法事項について学びます。	単語集 0461-490
	5	Chapter 2 動詞	Chapter 2 の練習問題と読解を行います。	単語集 0491-520
	6	Chapter 3 進行形・未来系・助動詞	Chapter 3 の文法事項について学びます。	単語集 0521-550
	7	Chapter 3 進行形・未来系・助動詞	Chapter 3 の練習問題と読解を行います。	単語集 0551-580
	8	Chapter 4 名刺・冠詞・代名詞	Chapter 4 の文法事項について学びます。	単語集 0581-610
	9	Chapter 4 名刺・冠詞・代名詞	Chapter 4 の練習問題と読解を行います。	単語集 611-640
	10	Chapter 5 前置詞・接続詞 (I)	Chapter 5 の文法事項について学びます。	単語集 0641-670
	11	Chapter 5 前置詞・接続詞 (I)	Chapter 5 の練習問題と読解を行います。	単語集 0671-700
	12	Chapter 6 命令文・感嘆文	Chapter 6 の文法事項について学びます。	単語集 0701-0730
	13	Chapter 6 命令文・感嘆文	Chapter 6 の練習問題と読解を行います。	単語集 0731-0760
	14	Chapter 7 命令文・感嘆文	Chapter 7 の文法事項について学びます。	単語集 0761-0790
	15	Chapter 7 命令文・感嘆文	Chapter 7 の練習問題と読解を行います。	単語集 0791-808

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Slow & Steady	佐藤哲三 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
	3	プリント配布		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	TOEIC ブリッジ 20% 統一英単語テスト 10% 期末試験 30% e-learning 学習の進捗度 10% 小テスト 10% 授業態度 20%
	授業に積極的に参加しているかを評価します。 欠席は3回までを評価基準とします。遅刻は3回で欠席1回とみなします。居眠り、私語、携帯電話の使用などは教室に来ていても欠席扱いとする場合があります。

学生へのメッセージ	英語に限らず語学の習得にはたゆまぬ努力と反復が必要です。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。 授業計画は、実施状況に応じて変更する場合があります。
----	--

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー (DP)	C◎		

教養科目

授業概要・目的	英文の理解に必要な英文法の基礎を習得し、簡単な読解を中心に、語彙力、英作文、現代英語等を学ぶ。			
到達目標	英語の基礎読解力を身に付けることを到達目標とする。 学部共通の学習・教育到達目標との対応：[VI]			
授業方法と留意点	授業は‘Active Participation in Class’ (授業への前向きな参加) が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書 (できれば、紙の英和辞典) は必ず持ってくること。			
科目学習の効果 (資格)	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英語の基礎力は必ず身につきます。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	シラバスの説明 Unit 1 の導入 恐竜	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など 統一英単語テスト準備学習 (0401 - 0425)	UNIT 1 の予習 英単語復習、予習
	2	Unit 1 恐竜	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0426 - 0450)	UNIT 1 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	3	Unit 2 エンパイアステートビル	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0451 - 0475)	UNIT 2 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	4	Unit 2 エンパイアステートビル	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0476 - 0500)	UNIT 2 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	5	Unit 3 ツールドフランス	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0501 - 0525)	UNIT 3 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	6	Unit 3 ツールドフランス	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0526 - 0550)	UNIT 3 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	7	Unit 4 アルキメデス	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0551 - 0575)	UNIT 4 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	8	Unit 4 アルキメデス	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0576 - 0600)	UNIT 4 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	9	Unit 5 ワシントン桜祭り	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0601 - 0625)	UNIT 5 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	10	Unit 5 ワシントン桜祭り	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0626 - 0650)	UNIT 5 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	11	Unit 6 四谷怪談	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0651 - 0675)	UNIT 6 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	12	Unit 6 四谷怪談	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0676 - 0700)	UNIT 6 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	13	Unit 7 ロータス・エスプリ	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0701 - 0725)	UNIT 7 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	14	Unit 7 ロータス・エスプリ	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0726 - 0750)	UNIT 7 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	15	Unit 1 ~ Unit 7 恐竜 ~ ロータス・エスプリ	既習範囲の総復習 英単語テスト準備学習 (0751 - 0808) 定期試験 (前期末) の準備	定期試験 (前期末) の準備 英単語復習
関連科目	他の英語関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Starting Gate	山田久美 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC		成美堂
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英和辞典・和英辞典		
評価方法 (基準)	定期試験 40% TOEIC Bridge 20% 統一英単語テスト 10% e-learning 10% Quiz (小テスト) 10% 授業態度 (発表など) 10% 原則、出席率 80% 以上の学生を成績評価の対象とする。			
学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) にあるように英語学習に王道 (easy way) などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさないと、英語の力は絶対に伸びません。Slow and (or but) steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。諦めずに頑張ってください。			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	1. 事前・事後学習に、毎回1時間以上かけること。 2. 英単語は e-learning を含めて、毎日、平均1時間は学習すること。 3. 期末試験の準備には、合計20時間以上かけること。 4. 上記の学習に、「只管筆写」用紙を活用すること (用紙は非常勤講師室にある)。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	東野 厚子
ディプロマポリシー (DP)	C◎		

授業概要・目的	基礎的な語彙や文法の確認に重点を置きながら、オフィスを舞台にしたストーリー仕立ての英文を読み、今まで触れる機会がなかったビジネス英語の基礎も学ぶ。授業では英語力アップのために「音読」、さらにパートナーとロールプレイ、英文内容理解、リスニング問題、英作文等を行う。英語読解力の基礎構築を目指す。
到達目標	高校レベルの読解を中心に、英語の基礎読解力を身につける。
授業方法と留意点	授業では、冒頭に小テストを行う。テキストに従い、重要単語、文法事項を確認し、練習問題をした後、英文読解を中心に内容理解問題をする。テキストの内容については受講者の理解を確認しながら、解説を加える形で進めるので、各自で授業までに学習予定の内容について予習をする必要がある。授業には辞書を持参すること（電子辞書も可）。なお、出席が授業数の80%に満たない受講者は、原則として成績評価の対象としない。
科目学習の効果（資格）	基礎読解力の習得

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Lesson1 Pleased to meet you. 〈 be 動詞 〉 出迎える／人を紹介する	語彙と文法の確認、読解と演習問題	テキスト予習、復習 単語：401-440
3	Lesson 2 Do you remember me? 〈 一般動詞 (現在) 〉 仕事を尋ねる／説明する	語彙と文法の確認、読解と演習問題	テキスト予習、復習 単語：441-480
4	Lesson 2 Do you remember me? 〈 一般動詞 (現在) 〉 仕事を尋ねる／説明する	語彙と文法の確認、読解と演習問題	テキスト予習、復習 単語：481-520
5	Lesson 3 I spoke to Ms. Hayashi yesterday. 〈 一般動詞 (過去) 〉 謝罪する／意向を尋ねる	語彙と文法の確認、読解と演習問題	テキスト予習、復習 単語：521-560
6	Lesson 3 I spoke to Ms. Hayashi yesterday. 〈 一般動詞 (過去) 〉 謝罪する／意向を尋ねる	語彙と文法の確認、読解と演習問題	テキスト予習、復習 単語：561-600
7	Lesson 4 When does the meeting start? 〈 疑問詞 〉 場所や時間を尋ねる	語彙と文法の確認、読解と演習問題	テキスト予習、復習 単語：601-640
8	Lesson 4 When does the meeting start? 〈 疑問詞 〉 場所や時間を尋ねる	語彙と文法の確認、読解と演習問題	テキスト予習、復習 単語：641-680
9	Lesson 5 Can you meet me at the airport? 〈 助動詞 1 〉 依頼する 1	語彙と文法の確認、読解と演習問題	テキスト予習、復習 単語：681-720
10	Lesson 5 Can you meet me at the airport? 〈 助動詞 1 〉 依頼する 1	語彙と文法の確認、読解と演習問題	テキスト予習、復習 単語：721-760
11	Lesson 6 Feel free to ask me anytime. 〈 文の種類 〉 〈 命令文 〉 使い方を説明する	語彙と文法の確認、読解と演習問題	テキスト予習、復習 単語：761-808
12	Lesson 6 Feel free to ask me anytime. 〈 文の種類 〉 〈 命令文 〉 使い方を説明する	語彙と文法の確認、読解と演習問題	テキスト予習、復習 単語総復習
13	Lesson 7 I' m thinking about quitting my job. 〈 進行形 〉 相談する／励ます	語彙と文法の確認、読解と演習問題	テキスト予習、単語総復習
14	Lesson 7 I' m thinking about quitting my job. 〈 進行形 〉 相談する／励ます	語彙と文法の確認、読解と演習問題	テキスト予習、単語総復習
15	まとめ	これまでの学習内容のまとめと確認	学習内容の総復習

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Let's Read Aloud & Learn English!	角山照彦, Simon Capper	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西垣恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	共通試験 (TOEIC ブリッジ 20%、統一英単語テスト 10%) 30% 定期試験 40% e-learning 10%、小テスト 10% 授業態度 (学習姿勢、活動参加など) 10%			
学生への メッセージ	この授業では、難しい内容を扱うのではなく、基本的な力を確実に身につけることを目指します。英語が苦手な受講者も積極的に学習を進め、少しずつでも知識や出来ることを増やしていきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考	学習ペースを固め、定期的に事前事後学習と単語の学習を続けられるよう努力しましょう。 自主学習として、講義の前後には合計2時間程度、予習、復習、単語学習の時間をとるように心がけてください。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	平尾 秀実
ディプロマポリシー (DP)	C◎		

授業概要・目的 やさしい物理学の教科書で英語運用能力の土台となる基礎英文法を重点的に学びます。教科書または配布プリントを使用し、学習した文法事項を実際のシチュエーションで使用することを意識しながら、特に初級レベルの聴解力、読解力、コミュニケーション力の習得を目指します。

到達目標 基礎読解力を身に着ける。 工業英検 4 級, 3 級

授業方法と留意点 毎回の授業で、単語テストを実施します。小テスト、グループの発表を行います。復習課題を指示しますので、必ず辞書を丁寧に調べて取り組んだ上で授業に出席してください。

科目学習の効果 (資格) 英語資格試験に備えた基本的語彙の習得。(工業英検 4 級)
基礎英文法の理解と習得。
初級レベルの聴解力、読解力、コミュニケーション力の伸長

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業方法 (小テスト実施、予習・復習課題等) の説明 単語の勉強方法	中学・高校で学習した英文法の復習
2	工業英検 4 級レベルに慣れる	授業テーマの語彙を含んだ英文リーディング と文法エクササイズ等	単語集 単語番号 0401-430
3	工業英検 4 級レベルに慣れる	授業テーマの語彙を含んだ英文リーディング 文法エクササイズ等	単語集 単語番号 0431-460
4	工業英検 4 級レベルに慣れる	授業テーマの語彙を含んだ英文リーディング 文法エクササイズ等	単語集 単語番号 0461-490
5	工業英検 3 級レベルに慣れる	授業テーマの語彙を含んだ英文リーディング 文法エクササイズ等	単語集 単語番号 0491-520
6	工業英検 3 級レベルに慣れる	授業テーマの語彙を含んだ英文 Reading と文法エクササイズ等	単語集 単語番号 0521-550
7	古典物理学と現代物理学の英語	授業テーマの語彙を含んだ英文リスニング とリーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 単語番号 0551-580
8	古典物理学と現代物理学の英語	授業テーマの語彙を含んだ英文リスニング とリーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 単語番号 0581-610 発表のプリント提出
9	光 (反射・屈折・スペクトル・光ファイバー) の英語	授業テーマの語彙を含んだ英文リスニング とリーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 単語番号 611-640
10	光 (反射・屈折・スペクトル・光ファイバー) の英語	授業テーマの語彙を含んだ英文リスニング とリーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 単語番号 0641-670
11	課題テスト	前半内容の総復習とテスト解説	教科書 単語集 単語番号 0671-700
12	音 (音波・波長・振幅・オシロスコープ・超音波) の英語	授業テーマの語彙を含んだ英文リスニング とリーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 0701-0730
13	音 (音波・波長・振幅・オシロスコープ・超音波) の英語	授業テーマの語彙を含んだ英文リスニング とリーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 0731-0760
14	力 (力の 3 要素・振り子・力のつり合い・作用・反作用) の英語	授業テーマの語彙を含んだ英文リスニング とリーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 0761-0790
15	力 (力の 3 要素・振り子・力のつり合い・作用・反作用) の英語	授業テーマの語彙を含んだ英文リスニング とリーディング 文法エクササイズ	教科書 単語集 0791-808

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Basic English for Physics	井村誠	CENGAGE Learning
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂	
3	プリント配布			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) TOEIC ブリッジ 20%
統一英単語テスト 10%
期末試験 30%
e-learning 学習の進捗度 10%
小テスト 10%、課題テスト 10%、レポート 10%

	<p>授業に積極的に参加しているかを評価します。 欠席は3回までを評価基準とします。遅刻は三回で欠席一回。居眠り、私語、携帯電話の使用などは教室に来ていても欠席扱いとします。</p>
学生へのメッセージ	<p>新たに覚えた英単語・文法事項を実際のシチュエーションで使用するを意識しながら勉強してください。たとえば、2～3文の短い文章でもよいので、毎日英語で日記を書いてみたり、自分の興味のある事を英語で読んだり、聴いたりする習慣をつけて下さい。楽しみながら学習しましょう。授業には、毎回必ず辞書持参のこと。</p>
担当者の研究室等	<p>7号館2階（非常勤講師室）</p>
備考	<p>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 英単語は毎日、平均1時間は学習すること。課題テストで間違った所を復習して覚えること 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</p>

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English Ila
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	梅田 尋道
ディプロマポリシー (DP)	C◎		

授業概要・目的	英語は今日世界共通語としての地位を築きつつあります。ですから今後好むと好まざるにかかわらず、英語は私たちの生活にますます関わってきます。こうした時代の流れに対応するためにも、もう一度英語全体の根底にある文法・語法を徹底し、それを実践にいかし、読解力を身に付けることを目標にします。
到達目標	基礎英文法を徹底的に理解し、国際的コミュニケーションのための基本的な意思疎通ができる能力を有する。
授業方法と留意点	毎回、クラスのほぼ全員に答えてもらうので、予習を欠かさないこと。 後期から履修する学生は遅くとも第2週目に間に合うように教科書を入手してください。
科目学習の効果 (資格)	全員がTOEIC Bridge 130点を取るのに必要な読解力、語彙力をつける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の進め方、評価方法などを説明。	教科書・辞書を持参すること。
2	Unit 7 Who's to Blame?	Reading Strategy	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 0809-0833
3	Unit 7 Who's to Blame?	Listening/Speaking	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 0834-0874
4	Unit 8 Looking at Art	Reading Strategy	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 0875-0916
5	Unit 8 Looking at Art	Listening/Speaking	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 0917-0958
6	Unit 9 What to Watch?	Reading Strategy	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 0959-0999
7	Unit 9 What to Watch?	Listening/Speaking	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 1000-1037
8	Review 3 中間試験	Units 7-9のまとめと中間試験	中間試験の学習
9	Unit 10 Two Tickets to the Concert	Reading Strategy	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 1038-1079
10	Unit 10 Two Tickets to the Concert	Listening/Speaking	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 1080-1121
11	Unit 11 A Big Decision	Reading Strategy	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 1122-1176
12	Unit 11 A Big Decision	Listening/Speaking	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 1177-1200
13	Unit 12 Making the Right Choice	Reading Strategy	学習範囲のパスセージの音読 共通試験に向けて学習
14	Unit 12 Making the Right Choice	Listening/Speaking	学習範囲のパスセージの音読
15	Review 4	Units 10-12のまとめ	定期試験の学習

関連科目	基礎英語Ⅰa
------	--------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	New Connection Book 2	T. Kadoyama 他	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 共通試験(統一英語単語テスト)を20%、e-learningを20%、課題提出・授業参加(授業への積極性など)を20%、中間試験と定期試験の合計点を40%の割合とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	"Failure is instructive. The person who really thinks learns quite as much from his failures as from his successes." - John Dewey 「失敗は一種の教育である。思考とは何であるかを知っている人間は、成功からも失敗からも多くを学ぶ。」 ジョン・デューイ
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English Ila
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	矢富 弘
ディプロマポリシー (DP)	C◎		

教養科目

授業概要・目的	英語は今日世界共通語としての地位を築きつつあります。ですから今後好むと好まざるにかかわらず、英語は私たちの生活にますます関わってきます。こうした時代の流れに対応するためにも、もう一度英語全体の根底にある文法・語法を徹底し、それを実践にいかし、読解力を身に付けることを目標にします。
到達目標	基礎英文法を徹底的に理解し、国際的コミュニケーションのための基本的な意思疎通ができる能力を有する。
授業方法と留意点	毎回、クラスのほぼ全員に答えてもらうので、予習を欠かさないこと。 後期から履修する学生は遅くとも第2週目に間に合うように教科書を入手してください。
科目学習の効果 (資格)	全員がTOEIC300点を取るのに必要な読解力、語彙力をつける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法などを説明。	教科書・辞書を持参すること。
2	Unit 9 Recycling	英語の四技能の訓練 単語テスト	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 0809-0840
3	Unit 9 Recycling Unit 10 Commuting	英語の四技能の訓練 単語テスト	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 0841-0880
4	Unit 10 Commuting	英語の四技能の訓練 単語テスト	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 0881-0920
5	Unit 11 Crumbling Britain	英語の四技能の訓練 単語テスト	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 0921-0960
6	Unit 11 Crumbling Britain Unit 9-11 復習	英語の四技能の訓練 単語テスト	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 0961-1000
7	Unit 12 Advertising	英語の四技能の訓練 単語テスト	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 1001-1040
8	Unit 12 Advertising Unit 13 Technology and Us	英語の四技能の訓練 単語テスト	中間試験の学習
9	Unit 13 Technology and Us	英語の四技能の訓練	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 1041-1080
10	Unit 14 Cars: Transport or Status	英語の四技能の訓練 単語テスト	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 1081-1120
11	Unit 14 Cars: Transport or Status Unit 15 Our Education	英語の四技能の訓練 単語テスト	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 1121-1160
12	Unit 15 Our Education	英語の四技能の訓練 単語テスト	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 1161-1200
13	時事英語	生の英語に触れる (プリントを配布)	学習範囲のパスセージの音読 共通試験に向けて学習
14	時事英語	生の英語に触れる (プリントを配布)	学習範囲のパスセージの音読
15	後期の復習、定期試験対策	これまでの復習 単語の再確認	定期試験の学習

関連科目	基礎英語Ⅰa
------	--------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Indicator 2	Terry O'Brien 他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 共通試験 (統一英語単語テスト) を 20%、e-learning を 20%、課題提出・授業参加 (授業への積極性など) を 20%、中間試験と定期試験の合計点を 40%の割合とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	“Every man takes the limits of his own fields of vision for the limits of the world.” - Arthur Schopenhauer, Psychological Observation. 「誰もが自分の視野の限界を世界の視野の限界だと思っている。」 アルトゥル・ショーペンハウアー 『心理学的観察』 外国語学習はコミュニケーションの手段を得ることに留まらず、あなたの「視野」を広げ違う世界を見せてくれるでしょう。一緒に楽しみながら学びましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English Iia
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小川 一美
ディプロマポリシー (DP)	C◎		

授業概要・目的	TOEIC 受験のための基礎的な文法力の養成。
到達目標	中学英語の復習ならびに高校英語の基礎を養成。 英語 I a と併せて本科目終了後には、TOEIC450 点前後の実力を身につける。
授業方法と留意点	・習得しておくべき基礎的な文法事項を解説し、繰り返しの練習問題や共同学習に取り組むことにより理解を深める。 ・共通テキスト『The Core Vocabulary for the TOEIC Test』により語彙力の強化を図る。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC のスコアの向上。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Unit 13 接続詞 (1)	Unit 13 接続詞 (1) 等位接続詞 and, but, or, for 時を表す接続詞 理由・条件を表す接続詞	Unit 13 の復習 単語学習 (単語番号 809-830)
2	Unit 14 不定詞 (1) ・ 動名詞 (1)	Unit 14 不定詞 (1) ・ 動名詞 (1) 不定詞の名詞的用法 不定詞の形容詞的用法と副詞的用法 動詞の目的語になる動名詞	Unit 14 の復習 Unit 15 の予習 単語学習 (単語番号 831-860)
3	Unit 15 受動態	Unit 15 受動態 能動態と受動態 受動態の否定文と疑問文 注意すべき受動	Unit 15 の復習 Unit 16 の予習 単語学習 (単語番号 861-890)
4	Unit 16 完了形	Unit 16 完了形 現在完了 過去完了	Unit 16 の復習 Unit 17 の予習 単語学習 (単語番号 891-910)
5	Unit 17 接続詞 (2)	Unit 17 接続詞 (2) 接続詞 that の用法 時制の一致 so that の構文	Unit 17 の復習 Unit 18 の予習 単語学習 (単語番号 911-940)
6	Unit 18 5 つの基本文型	Unit 18 5 つの基本文型 1. 第 1 文型と第 2 文型 2. 第 3 文型と第 4 文型 3. 第 5 文型	Unit 18 の復習 Unit 19 の予習 単語学習 (単語番号 941-970)
7	Unit 19 各種疑問文	Unit 19 各種疑問文 付加疑問文 (be 動詞・助動詞) 付加疑問文 (一般動詞) 間接疑問文	中間試験準備 単語学習 (単語番号 971-1000)
8	中間試験と解説	中間試験および解答と解説	Unit 20 の予習 単語学習 (単語番号 1001-1030)
9	Unit 20 不定詞 (2)	Unit 20 不定詞 (2) 動詞 (ask, tell など) +人+to ~ の 構文 疑問詞 (how, what など) +to 動詞の 原形 too~to などの構文	Unit 20 の復習 Unit 21 の予習 単語学習 (単語番号 1031-1060)
10	Unit 21 I t の特別用法	Unit 21 I t の特別用法 天候・距離・明暗などを表す i t 時刻・月日・季節などを表す i t 形式主語の i t	Unit 21 の復習 Unit 22 の予習 単語学習 (単語番号 1061-1090)
11	Unit 22 分詞・動名詞 (2)	Unit 22 分詞・動名詞 (2) 現在分詞の用法 過去分詞の用法 主語・補語・前置詞の目的語になる動名 詞	Unit 22 の復習 Unit 23 の予習 単語学習 (単語番号 1091-1120)
12	Unit 23 関係代名詞	Unit 23 関係代名詞 主格の関係代名詞 所有格の関係代名詞 目的格の関係代名詞	Unit 23 の復習 Unit 24 の予習 単語学習 (単語番号 1121-1150)
13	Unit 24 仮定法	Unit 24 仮定法 仮定法過去 仮定法過去完了 その他の仮定法	Unit 24 の復習 単語学習 (単語番号 1151-1180)
14	総括	今期の総括 Unit 13 から Unit 24 までの復習	今期の復習 単語学習 (単語番号 1181-1200)
15	期末試験の準備	期末試験のための学習 Unit 20 から Unit 24 の復習	期末試験の準備

関連科目	英語 I a
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
2	English Primer<Revised Version>		南雲堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	総合英語 Forest	石黒昭博	桐原書店
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト 20% (統一英語単語テスト) ・リンガポルタ 20% ・平常点 15% (小テスト・授業態度・宿題) ・中間試験 25% ・期末試験 20% 			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回辞書を持参すること。 ・毎回『The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test』の単語テストがあるため、必ず準備すること。 ・私語など授業を妨害するような行為や許可なく途中退席する場合は欠席とみなす。 			
担当者の 研究室等				
備考	<p>自主学習の目安時間は、少なくとも 60 分は必要である。 また、その時間には、各講義の時間に受ける単語テストの準備時間は含まれていない。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</p>			

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)	C◎		

授業概要・目的	基礎英文法（不定詞、受動態、関係代名詞など）の徹底、ごく簡単な読解、語彙力を身に付ける。自主学習としては、単語集や e-learning 教材「リンガボルト」を用いて語彙を学習します。
到達目標	基礎英文法の徹底理解。 単語集 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の単語 0809-1200 (pp. 136-206) を身に付ける。
授業方法と留意点	毎回、前回指定の単語集の単語や前回の Unit で学んだ単語について小テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	英語関連の資格 (TOEIC など) のスコア上昇など。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション Pre-Unit 品詞と語順	自己紹介、授業の進め方や評価方法の説明、Chapter 1 を一緒に進める。	単語集の単語 0809-0840、学んだ内容を復習する。 (小テストに出題)
2	Unit 1 -- Unit 4 be 動詞、一般動詞、可算不可算名詞、代名詞	小テスト 講義のポイントの説明 各ユニットの Write On を解く 次回テストの説明	単語集の単語 0841-0870、学んだ内容を復習する。 (小テストに出題)
3	Unit 5 一般動詞の過去形	小テスト 1 週間のできごと (スピーキング) 講義のポイントの説明 問題を解く 次回テストの説明	単語集の単語 0871-0900 学んだ内容を復習する。(小テストに出題)
4	Unit 6 進行形	小テスト 1 週間のできごと (スピーキング) 講義のポイントの説明 問題を解く 次回テストの説明	単語集の単語 0901-0930、学んだ内容を復習する。 (小テストに出題)
5	Unit 7 時と場所を表す前置詞	小テスト 1 週間のできごと (スピーキング) 講義のポイントの説明 問題を解く 次回テストの説明	単語集の単語 0931-0960、学んだ内容を復習する。 (小テストに出題)
6	Unit 8 未来形	小テスト 1 週間のできごと (スピーキング) 講義のポイントの説明 問題を解く 次回テストの説明	単語集の単語 0961-0990、学んだ内容を復習する。 (小テストに出題)
7	Unit 9 現在完了形	小テスト 1 週間のできごと (スピーキング) 講義のポイントの説明 問題を解く 次回テストの説明	単語集の単語 0991-1020、学んだ内容を復習する。 (小テストに出題)
8	Unit 10 比較級、最上級	小テスト 1 週間のできごと (スピーキング) 講義のポイントの説明 問題を解く 次回テストの説明	単語集の単語 1021-1050、学んだ内容を復習する。 (小テストに出題)
9	Unit 11 接続詞	小テスト 1 週間のできごと (スピーキング) 講義のポイントの説明 問題を解く 次回テストの説明	単語集の単語 1051-1080、学んだ内容を復習する。 (小テストに出題)
10	Unit 12 動名詞、不定詞	小テスト 1 週間のできごと (スピーキング) 講義のポイントの説明 問題を解く 次回テストの説明	単語集の単語 1081-1110、学んだ内容を復習する。 (小テストに出題)
11	Unit 13 疑問詞	小テスト 1 週間のできごと (スピーキング) 講義のポイントの説明 問題を解く 次回テストの説明	単語集の単語 1111-1140、学んだ内容を復習する。 (小テストに出題)
12	Unit 14 助動詞	小テスト 1 週間のできごと (スピーキング) 講義のポイントの説明 問題を解く 次回テストの説明	単語集の単語 1141-1170、学んだ内容を復習する。 (小テストに出題)
13	Unit 15 受動態	小テスト 1 週間のできごと (スピーキング) 講義のポイントの説明 問題を解く 次回テストの説明	単語集の単語 1171-1200、学んだ内容を復習する。 (小テストに出題)
14	関係代名詞 (プリント教材)	小テスト 1 週間のできごと (スピーキング) 講義のポイントの説明	学んだ内容を復習する。(小テストに出題)

			問題を解く 次回テストの説明	
	15	関係代名詞 (プリント教材)	小テスト 1週間のできごと (スピーキング) 講義のポイントの説明 問題を解く	
関連科目	基礎英語 Ia			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から学べる大学英文法総合演習	Robert Hickling、臼倉美里	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>原則として出席率 80%以上の学生以外は単位を認めない。 共通試験統一英語単語テスト 20% e-learning 学習の進捗度 20% 担当教員の評価 60% (小テスト・宿題 30%、授業態度 30%) ※「授業態度」とは担当教員の質問に対する回答、授業への集中度、しっかりノートを取っているかどうかなどのことである。</p>			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。宿題や小テストのフィードバックは提出・実施の翌週に行う。授業時間外での質問などはメールあるいは非常勤講師室 (時間は応相談) における相談で対応する。			

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English Iia
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	江崎 早苗
ディプロマポリシー (DP)	C◎		

授業概要・目的	英文の理解に必要な英文法の基礎を習得し、簡単な読解能力・語彙力を身につけることを目的とする。
到達目標	基礎英文法の徹底理解を到達目標とする。 学部共通の学習・教育到達目標との対応：[VI]
授業方法と留意点	授業は‘Active Participation in Class’ (授業への前向きな参加) が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書 (できれば、紙の英和辞典) は必ず持ってくることを。
科目学習の効果 (資格)	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、文法・読解力の基礎は必ず身につきます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	シラバスの説明 UNIT 8 の導入 不定詞	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など 統一英単語テスト準備学習 (0801-0825)	UNIT 8 の予習 英単語復習・予習
	2	UNIT 8 不定詞	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0826-0850)	UNIT 8 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	3	UNIT 9 動名詞	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0851-0875)	UNIT 9 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	4	UNIT 9 動名詞	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0876-0900)	UNIT 9 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	5	UNIT 10 分詞	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0901-0925)	UNIT 10 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	6	UNIT 10 分詞	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0926-0950)	UNIT 10 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	7	UNIT 11 受動態	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0951-0975)	UNIT 11 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	8	UNIT 11 受動態	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (0976-1000)	UNIT 11 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	9	UNIT 12 形容詞・副詞・比較	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (1001-1025)	UNIT 12 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	10	UNIT 12 形容詞・副詞・比較	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (1026-1050)	UNIT 12 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	11	UNIT 13 関係詞	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (1051-1075)	UNIT 13 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	12	UNIT 13 関係詞	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (1076-1100)	UNIT 13 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	13	UNIT 14 仮定法	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (1101-1125)	UNIT 14 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	14	UNIT 15 文構造のまとめ	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習 (1126-1150)	UNIT 15 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
15	UNIT 8 ~ UNIT 15 不定詞 ~ 文構造のまとめ	既習範囲の総復習 英単語テスト準備学習 (1151-1200) 定期試験 (後期末) の準備	定期試験 (後期末) の準備 英単語復習	

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Starting Gate	山田久美 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC		成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英和辞典・和英辞典		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 30% 統一英語単語テスト 20% e-learning 20% Quiz (小テスト) 10% 課題レポート (只管筆写、英語多読) 10% 授業態度 (発表など) 10% 原則、出席率80%以上の学生を成績評価の対象とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) にあるように英語学習に王道 (easy way) などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and (or but) steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。諦めずに頑張ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	1. 事前・事後学習に、毎回1時間以上かけること。 2. 英単語はe-learningを含めて、毎日、平均1時間は学習すること。 3. 期末試験の準備には、合計20時間以上かけること。 4. 上記の学習に、「只管筆写」用紙を活用すること (用紙は非常勤講師室にある)。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	---

科目名	基礎英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Basic English IIb
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井原 駿
ディプロマポリシー (DP)	C◎		

教養科目

授業概要・目的	この授業では、様々な映画に登場する食べ物をテーマにした英文を読みながら、リーディング能力を身に付ける。 また、基本的な文法の定着を図り、英文文の力や語彙力も高めていく。 グループワークを取り入れ、様々な知識や意見を出し、刺激し合いながら英語能力を高める。
到達目標	正確にリーディングができるようになり、大学レベルのアカデミックなリーディングスキルの基礎を築く。 基本的な文法を定着させ、使いこなせるようになる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、予習としてリーディングの下読み、単語調べを行うこと。 ・「統一英語単語テスト」に備えて、『The Core Vocabulary for the TOEIC Test』より、単語テストを毎回実施する。 ・グループワークを実施する。積極的なグループへの貢献を評価する。 ・辞書か電子辞書を必ず持参すること（携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない）。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。 ①私語など授業を妨害するような行為や許可のない途中退席、テキスト忘れは、欠席とみなす。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。
科目学習の効果 (資格)	リーディングスキルの向上。 基本的な文法の定着。 語彙力の向上。 英検、TOEIC テストのスコアアップ。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、評価の仕方、予習の仕方など	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習
2	Unit 1 College Sports スポーツでストレス解消	文法問題 (present tense)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ	
3	Unit 2 Hip Hop Music ヒップホップ音楽で元気づけ	文法問題 (past tense)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ	
4	Unit 3 Travel 心身の回復とエキゾチックな風景を満喫	文法問題 (progressive forms)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ	
5	Unit 4 Video Games テレビゲームで現実からの脱出と達成感	文法問題 (perfect tense)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ	
6	Unit 5 Recycling リサイクルで環境保全のお手伝い	文法問題 (articles / pronouns)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ	
7	Unit 6 Fast Food 安い、早い、便利なファーストフードだが？	文法問題 (nouns: countable, uncountable)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ	
8	Unit 7 Extreme Weather 異常気象に備えて緊急バッグの用意を！	文法問題 (adjectives / adverbs)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ	
9	Unit 8 Medical Tourism 海外での医療サービスにはリスクも！	文法問題 (comparisons)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ	
10	Unit 9 Advertising 購買に大きなインパクトのある広告	文法問題 (prepositions / conjunctions)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ	
11	Unit 10 Business Travel 企業にも個人にも利点のある出張	文法問題 (to-infinitives / gerunds)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ	
12	Unit 11 E-commerce オンラインショッピングは便利	文法問題 (auxiliary verbs)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ	
13	Unit 12 Coffee Shop 『白鯨』に登場する一等航海士が店名に	文法問題 (passive voice)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ	
14	Unit 13 Robots 進化するロボット技術の利点と不安	文法問題 (causative verbs)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ	
15	Unit 14 SNS ウェブ上で交流できるサービスが続々登場 総括	文法問題 (relatives)、資料の読解問題を解く	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：本文の音読、文法のノートまとめ	

関連科目	他の英語に関連する科目
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	2	English Indicator 3 <Intermediate> 英語総合インディケーター <中級>	Joshua Cohen, 三原 京, 中村 善雄, 木村 博是 著	南雲堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
-----	----	-----	-----	------

	1	辞書		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト 30% (TOEIC20% + 統一英語単語テスト 10%) ・リングポルタ 10% ・平常点 30%(小テスト(数回実施予定)・授業態度・宿題) ・期末試験 30% <p>注意：原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。平常点とは、小テストや宿題、授業態度（投げかける質問に対する呼応、積極性、集中度など）を総合的に評価するものであり、出席点ではない。</p>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・「統一英語単語テスト」に備え、『The Core Vocabulary for the TOEIC Test』の指定範囲を自己学習すること。 ・e-learning 教材「リングポルタ」を利用すること。進捗状況を成績に含む。 ・外国の映画や文化に興味を持つと、自然と英語の学習が楽しくなります。積極的に外国へ目を向けましょう。 ・英語ができるようになると、必ず自分の世界が広がります。多少の失敗で落ち込まず、前向きにトライしましょう。 ・英検や TOEIC を自主的に受けてみましょう。 			
担当者の 研究室等	7号館 2階非常勤講師控室 email: iharashun0@gmail.com			
備考	授業に関係のない行為は厳しく減点、もしくは欠席扱いとする。授業中は勉強に集中すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 自主学習は、試験の準備も含めて合計約 20 時間とする。			

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIb
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高橋 佑宜
ディプロマポリシー (DP)	C◎		

教養科目

授業概要・目的	英語運用能力の土台となる基礎英文法を重点的に学びます。教科書や必要に応じた配布プリントを使用し、学習した文法事項を実際のシチュエーションで使用することを意識しながら、特に基礎英文法の復習と定着、語彙力の獲得、英作文の習得を目指します。
到達目標	基礎英語力を身につける。工業英検 4 級, 3 級
授業方法と留意点	適時小テストを実施します。
科目学習の効果 (資格)	英語資格試験に備えた基本的語彙の習得。(工業英検 4 級) 基礎英文法の理解と習得。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Chapter 8 不定詞	Chapter 8 の文法事項について学びます。	単語集 1201-1220
3	Chapter 8 不定詞	Chapter 8 の練習問題と読解を行います。	単語集 1221-1240
4	Chapter 9 動名詞と分詞	Chapter 9 の文法事項について学びます。	単語集 1241-1260
5	Chapter 9 動名詞と分詞	Chapter 9 の練習問題と読解を行います。	単語集 1261-1280
6	Chapter 10 各種疑問文・It の特別用法	Chapter 10 の文法事項について学びます。	単語集 1281-1300
7	Chapter 10 各種疑問文・It の特別用法	Chapter 10 の練習問題と読解を行います。	単語集 1301-1320
8	Chapter 11 受動態	Chapter 11 の文法事項について学びます。	単語集 1321-1340
9	Chapter 11 受動態	Chapter 11 の練習問題と読解を行います。	単語集 1341-1360
10	Chapter 12 完了形	Chapter 12 の文法事項について学びます。	単語集 1361-1380
11	Chapter 12 完了形	Chapter 12 の練習問題と読解を行います。	単語集 1381-1400
12	Chapter 13 接続詞 (II)	Chapter 13 の文法事項について学びます。	単語集 1401-1420
13	Chapter 13 接続詞 (II)	Chapter 13 の練習問題と読解を行います。	単語集 1421-1440
14	Chapter 14 仮定法	Chapter 14 の文法事項について学びます。	単語集 1441-1460
15	Chapter 14 仮定法	Chapter 14 の練習問題と読解を行います。	単語集 1461-1500

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Slow & Steady	佐藤哲三 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
	3	プリント配布		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	TOEIC ブリッジ 20% 統一英単語テスト 10% 期末試験 30% e-learning 学習の進捗度 10% 小テスト 10% 授業態度 20% 授業に積極的に参加しているかを評価します。 欠席は 3 回までを評価基準とします。遅刻は 3 回で欠席 1 回とみなします。居眠り、私語、携帯電話の使用などは教室に来ていても欠席扱いとする場合があります。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
----------	-------------------

備考	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。 授業計画は、実施状況に応じて変更する場合があります。
----	--

科目名	基礎英語Ⅱ b	科目名(英文)	Basic English IIb
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー(DP)	C◎		

授業概要・目的	英文の理解に必要な英文法の基礎を習得し、簡単な読解を中心に、語彙力、英作文、現代英語等を学ぶ。
到達目標	英語の基礎読解力を身に付けることを到達目標とする。 学部共通の学習・教育到達目標との対応：[VI]
授業方法と留意点	授業は‘Active Participation in Class’（授業への前向きな参加）が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書（できれば、紙の英和辞典）は必ず持ってくること。
科目学習の効果（資格）	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英語の基礎力は必ず身につきます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	シラバスの説明 UNIT 8の導入 海藻類	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など 統一英単語テスト準備学習(1201-1220)	UNIT 8の予習 英単語復習・予習
2	UNIT 8 海藻類	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習(1221-1240)	UNIT 8 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
3	UNIT 9 ペンギン	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習(1241-1260)	UNIT 9 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
4	UNIT 9 ペンギン	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習(1261-1280)	UNIT 9 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
5	UNIT 10 ナノテクノロジー	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習(1281-1300)	UNIT 10 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
6	UNIT 10 ナノテクノロジー	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習(1301-1320)	UNIT 10 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
7	UNIT 11 スリランカの象	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習(1321-1340)	UNIT 11 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
8	UNIT 11 スリランカの象	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習(1341-1360)	UNIT 11 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
9	UNIT 12 深海生物	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習(1361-1380)	UNIT 12 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
10	UNIT 12 深海生物	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習(1381-1400)	UNIT 12 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
11	UNIT 13 モアイ像	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習(1401-1420)	UNIT 13 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
12	UNIT 13 モアイ像	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習(1421-1440)	UNIT 13 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
13	UNIT 14 エイブルフル	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習(1441-1460)	UNIT 14 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
14	UNIT 15 冥王星	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習(1461-1480)	UNIT 15 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
15	UNIT 8 ~ UNIT 15 海藻類 ~ 冥王星	既習範囲の総復習 英単語テスト準備学習(1481-1500) 定期試験（後期末）の準備	定期試験（後期末）の準備 英単語復習

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Starting Gate	山田久美 他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC		成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英和辞典・和英辞典		
2				
3				

評価方法（基準）	定期試験 30% 統一英語単語テスト 20% e-learning 20% Quiz（小テスト） 10% 課題レポート（只管筆写、英語多読） 10% 授業態度（発表など） 10% 原則、出席率80%以上の学生を成績評価の対象とする。
----------	--

学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) にあるように英語学習に王道 (easy way) などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and (or but) steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。諦めずに頑張ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	1. 事前・事後学習に、毎回1時間以上かけること。 2. 英単語はe-learningを含めて、毎日、平均1時間は学習すること。 3. 期末試験の準備には、合計20時間以上かけること。 4. 上記の学習に、「只管筆写」用紙を活用すること（用紙は非常勤講師室にある）。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

科目名	基礎英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Basic English IIb
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	東野 厚子
ディプロマポリシー (DP)	C◎		

授業概要・目的	基礎的な語彙や文法の確認に重点を置きながら、英語の読解力の発展を目指す。今後の発展的な学習に向けて、語彙、文法に関する知識の習熟を図りながら、読解に加えてリスニング力、簡単な英作文の力も身につけることを視野に入れる。
到達目標	高校レベルの読解を中心に、英語の基礎読解力を身につける。前期開講の基礎英語Ⅱbに対し、より発展的なレベルの読解力構築を目指す。
授業方法と留意点	授業では、冒頭に小テストを行ったうえで、テキストの語彙、文法事項の確認を行う。その後、英文読解、リスニング等の活動を進める。テキストの内容については受講者の理解を確認しながら解説を加える形で進めるので、各自で授業までに学習予定の内容について予習を行っておくこと。授業には辞書を持参すること（電子辞書も可）。なお、出席が授業数の80%に満たない受講者は、原則として成績評価の対象としない。
科目学習の効果（資格）	基礎読解力の発展

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Lesson 8 I' ll give her your message. 〈 未来形 〉 聞き返す/確認する 1	授業の内容、方法、評価等について説明	テキスト全体に目を通しておくこと
	2	Lesson 8 I' ll give her your message. 〈 未来形 〉 聞き返す/確認する 1	語彙と文法の確認、読解と作文の演習	テキスト予習、復習 単語：1201-1220
	3	Lesson 9 I haven' t received the latest figures. 〈 現在完了形 〉 指示する/確認する 2	語彙と文法の確認、読解と作文の演習	テキスト予習、復習 単語：1217-1257
	4	Lesson 9 I haven' t received the latest figures. 〈 現在完了形 〉 指示する/確認する 2	語彙と文法の確認、読解と作文の演習	テキスト予習、復習 単語：1258-1297
	5	Lesson 10 The cafeteria is closed today. 〈 受動態 〉 場所を説明する/感謝する	語彙と文法の確認、読解と作文の演習	テキスト予習、復習 単語：1298-1338
	6	Lesson 10 The cafeteria is closed today. 〈 受動態 〉 場所を説明する/感謝する	語彙と文法の確認、読解と作文の演習	テキスト予習、復習 単語：1339-1378
	7	Lesson 11 We expect higher sales in China. 〈 比較 〉 比較する/詳細を尋ねる	語彙と文法の確認、読解と作文の演習	テキスト予習、復習 単語：1379-1419
	8	Lesson 11 We expect higher sales in China. 〈 比較 〉 比較する/詳細を尋ねる	語彙と文法の確認、読解と作文の演習	テキスト予習、復習 単語：1420-1440
	9	Lesson 12 I' d like to check in. 〈 助動詞 2 〉 依頼する 2 /希望を述べる	語彙と文法の確認、読解と作文の演習	テキスト予習、復習 単語：1441-1460
	10	Lesson 12 I' d like to check in. 〈 助動詞 2 〉 依頼する 2 /希望を述べる	語彙と文法の確認、読解と作文の演習	テキスト予習、復習 単語：1461-1480
	11	Lesson 13 How about going to the theater? 〈 動名詞 〉 人を誘う/頻度を尋ねる	語彙と文法の確認、読解と作文の演習	テキスト予習、復習 単語：1481-1500
	12	Lesson 13 How about going to the theater? 〈 動名詞 〉 人を誘う/頻度を尋ねる	語彙と文法の確認、読解と作文の演習	テキスト予習、復習 単語総復習
	13	Lesson 14 I like to travel a lot. 〈 to 不定詞 〉 経験・予定を尋ねる	語彙と文法の確認、読解と作文の演習	テキスト予習、復習 単語総復習
	14	Lesson 15 What are your plans for the future? 〈 接続詞 〉 計画・理由を尋ねる	語彙と文法の確認、読解と作文の演習	テキスト予習、復習 単語総復習
	15	まとめ Unit 8-15 全体の復習	これまでの学習内容のまとめと確認	学習内容の総復習
関連科目				
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Let's Read Aloud & Learn English !	角山照彦、Simon Capper	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西垣英一郎	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	統一英単語テスト 20% 期末試験 40% e-learning 20% 小テスト 10% 授業態度 (学習姿勢、活動参加など) 10%			
学生への メッセージ	この授業では、難しい内容を扱うのではなく、基本的な力を確実に身につけることを目指します。英語が苦手な受講者も積極的に学習を進め、少しずつでも知識やできることを増やしていきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考	学習ペースを固め、定期的に事前事後学習と単語の学習を続けられるよう努力しましょう。 自主学习として、講義の前後には合計2時間程度、予習、復習、単語学習の時間をとるように心がけてください。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	基礎英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Basic English IIb
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	平尾 秀実
ディプロマポリシー (DP)	C◎		

教養科目

授業概要・目的	やさしい物理学の教科書で基礎的英語運用能力の土台となる基礎英文法を重点的に学びます。教科書または配布プリントを使用し、学習した文法事項を実際のシチュエーションで使用することを意識しながら、特に初級レベルの聴解力、読解力、コミュニケーション力の習得を目指します。			
到達目標	英語基礎読解力、工業英検4級・3級レベル			
授業方法と留意点	毎回の授業で、単語テストを実施します。小テスト、グループ発表を行います。復習課題を指示しますので、必ず辞書を丁寧に調べて取り組んだ上で授業に出席してください。辞書を持ってくること。			
科目学習の効果 (資格)	英語資格試験に備えた基本的語彙の習得。 基礎英文法の理解と習得。 初級レベルの聴解力、読解力、コミュニケーション力の伸長。 工業英検受験合格、TOEIC得点アップ			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	I工業英検4級レベルの問題に慣れる	授業テーマの語彙を含んだ英文 Reading と文法問題	前期に学習した英文法の復習
	2	工業英検4級レベルの問題に慣れる	授業テーマの語彙を含んだリーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 単語番号 1201-1225
	3	工業英検4級レベルの問題に慣れる	授業テーマの語彙を含んだ英とリーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 単語番号 1226-1250
	4	工業英検3級レベルの問題に慣れる	授業テーマの語彙を含んだ英文リーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 単語番号 1251-1275
	5	工業英検3級レベルの問題に慣れる	授業テーマの語彙を含んだ英文リーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 単語番号 1276-1300
	6	運動(等速直線運動、等加速運動、自由落下、放物運動)の英語	授業テーマの語彙を含んだ英文 Reading 文法エクササイズ等	教科書 単語集 単語番号 1301-1325
	7	運動(等加速運動、等加速運動、自由落下放物運動)の英語	授業テーマの語彙を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 単語番号 1326-1350
	8	電気(静電気、雷、自由電子、電気回路)の英語	授業テーマの語彙を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	発表のプリントの提出 単語集 単語番号 1351-1375
	9	電気(静電気、雷、自由電子、電気回路)の英語	授業テーマの語彙を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 単語番号 1376-1400
	10	電磁気(磁石、電磁場、モーター)の英語	授業テーマの語彙を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 単語番号 1401-1425
	11	電磁気(磁石、電磁場、モーター)の英語	授業テーマの語彙を含んだ英文リスニングと Reading 文法エクササイズ等	発表の準備 単語集 単語番号 1426-1450
	12	仕事とエネルギーの英語	授業テーマの語彙を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 単語番号 1451-1475
	13	仕事とエネルギーの英語	授業テーマの語彙を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 単語番号 1476-1500
	14	熱力学の英語	授業テーマの語彙を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 単語番号 0601-0800
	15	熱力学の英語	授業テーマの語彙を含んだ英文リスニングと Reading 文法エクササイズ等	期末試験の準備
関連科目	特になし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Basic English for Physics	井村誠	CENGAGE Learning
	2	The 1500 core vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
	3	プリント配布		
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	統一英単語テスト 20% 期末試験 30%、e-learning 学習の進捗度 20%、小テスト10%、課題テスト 10%、レポート10%			

	<p>授業に積極的に参加しているか、ディスカッションに積極的に参加しているかを評価します。 欠席は三回までを評価基準とします。遅刻は三回で欠席一回。居眠り、私語、携帯電話の使用などは教室に来ていても欠席扱いとします。</p>
学生へのメッセージ	<p>新しく覚えた英単語・文法事項を実際のシチュエーションで使用するを意識しながら勉強してください。たとえば、2～3文の短い文章でもよいので、毎日英語で日記を書いてみたり、自分の興味のある事を英語で読んだり、聴いたりする習慣をつけて下さい。楽しみながら学習を続けましょう。</p>
担当者の研究室等	<p>7号館2階（非常勤講師室）</p>
備考	<p>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 英単語は毎日、平均1時間は学習すること。 課題テストで間違った所は復習して覚えること 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</p>

科目名	北河内を知る	科目名(英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荻田 喜代一・伊藤 謙・尾山 廣・鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B◎, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の歴史・文化・産業・ライフライン、地方自治体の現状と課題、「北河内」に係る各分野で活躍している団体や機関の人びとの活動状況などをテーマに、外部講師の講演とグループディスカッションを中心に、この地域に住む人々の暮らしや特徴、現在の問題と今後の課題を知ることにより、摂南大生として、この地域とどのようにかかわるかを考える。この授業は、「地域をつくる」「地域を考える」「地域をまなぶ」の3つのテーマからなり、地域貢献活動の動機づけを目的とする。
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、街づくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。この認識を踏まえて、地域における摂南大学の役割を考え、積極的に地域にかかわる態度を示すとともに、活気ある地域の創生に向けたアイデアを立案し、行動できる。
授業方法と留意点	北河内地域の各分野で活躍されている方々を学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「講演の聴講」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。情報収集ツールとしてスマートフォン、タブレット、ノートパソコン等を持参すること
科目学習の効果(資格)	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	北河内地域に関する事前学習 9月29日(土)	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
3	北河内地域に関する講演 9月29日(土)	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
4	グループワーク・プレゼンテーション 9月29日(土)	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
5	北河内地域に関する事前学習 10月20日(土)	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
6	北河内地域に関する講演 10月20日(土)	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
7	グループワーク・プレゼンテーション 10月20日(土)	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
8	北河内地域に関する事前学習 11月17日(土)	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
9	北河内地域に関する講演 11月17日(土)	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
10	グループワーク・プレゼンテーション 11月17日(土)	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
11	北河内地域に関する事前学習 12月1日(土)	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
12	北河内地域に関する講演 12月1日(土)	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
13	グループワーク・プレゼンテーション 12月1日(土)	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
14	全体のまとめと振り返りのためのグループワーク 12月15日(土)	北河内地域の活性化や課題の解決のための具体的なアクションプランを策定する	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
15	プレゼンテーション 12月15日(土)	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。

関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	個人レポートの評価(40%)、グループごとの講演聴講および討議の態度のルーブリック評価(30%)、グループワークの成果物(30%)。欠席・遅刻の場合には当該項目の評価は「0」とする。
----------	---

学生へのメッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか?
-----------	----------------------

担当者の研究室等	荻田喜代一(薬学部・副学長室)、鶴坂貴恵(経営学部・経営情報学科)、尾山廣(理工学部・生命科学科)、伊藤謙(理工学部・都市環境工学科)、喜多大三
----------	--

備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。
----	--

科目名	キャリアデザイン I (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		

授業概要・目的	<p>1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。</p> <p>2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。</p> <p>3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する</p> <p>4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [II]</p>
到達目標	<p>1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。</p> <p>2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。</p> <p>3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。</p>
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークなどを織り交ぜて進行するので積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果(資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける 	・大学で学ぶ意味について考えること。
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話を聴く 	・建学の精神を理解しておくこと大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること。
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	・設定された個人ワークに取り組むこと。
5	グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの目的を理解する ・グループで工程管理を考える 	・チームの中で「自分はどんな役割を果たしたいか」を考えること。
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	・社会で求められる人材について考えること。
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	・配付資料を熟読すること。
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	・配布資料を熟読すること。
9	自分づくりへ①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク 	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと。
10	自分づくりへ②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定 	・自らの大学生活における目標を考えること。
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	・今までの学生生活を振り返ること。
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 	・他者に紹介したい本を選んでおくこと。
13	ビブリオバトル②	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ代表による発表 	・発表の準備をすること。
14	グループ課題のプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとのプレゼンテーション 	・プレゼンテーションの準備をすること。
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのプランニング ・講義④の個人ワークの共有 ・講義の振り返り 	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること。

関連科目	キャリアデザインII、インターンシップI、インターンシップII
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であることを認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)
備考	1. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 2. 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。

科目名	キャリアデザインⅠ (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中川 浩一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		

授業概要・目的	<p>1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。</p> <p>2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。</p> <p>3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。</p> <p>4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。</p>
到達目標	<p>1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。</p> <p>2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。</p> <p>3) 調べ・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。</p>
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	さあ始めよう! 大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける 	大学で学ぶ意味について考えること。
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話を聴く 	<ul style="list-style-type: none"> ・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること。 ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること。
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	・設定された個人ワークに取り組むこと
5	グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク (インタビュープロジェクト) の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える 	チームの中で「自分はどんな役割を果たしたいか」を考えること。
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	社会で求められる人材について考えること。
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること。
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	配布資料を熟読すること。
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク 	自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと。
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定 	大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること。
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	社会人基礎力を実践する方法を考えること。
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	他者に紹介したい本を選んでおくこと。
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること。
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をすること。
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのプランニング ・講義の振り返り 	夏休み以降の大学生活の目標を考えること。

関連科目	キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室 (水野)
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。

科目名	キャリアデザイン I (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		

授業概要・目的	<p>1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。</p> <p>2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。</p> <p>3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。</p> <p>4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。</p>
到達目標	<p>1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。</p> <p>2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。</p> <p>3) 調べ・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。</p>
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。「大学生活を充実させる」きっかけになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か? 何故必要なのか? ・公と私について考える 	自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること。
2	さあ始めよう! 大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける 	大学で学ぶ意味について考えること。
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話を聴く 	<ul style="list-style-type: none"> ・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること。 ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること。
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	・設定された個人ワークに取り組むこと
5	グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク (インタビュープロジェクト) の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える 	チームの中で「自分はどんな役割を果たしたいか」を考えること。
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	社会で求められる人材について考えること。
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること。
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	配布資料を熟読すること。
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク 	自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと。
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定 	大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること。
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	社会人基礎力を実践する方法を考えること。
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	他者に紹介したい本を選んでおくこと。
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること。
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をすること。
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのプランニング ・講義の振り返り 	夏休み以降の大学生活の目標を考えること。

関連科目: キャリアデザイン II、インターンシップ I、インターンシップ II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室 (水野)
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。

科目名	キャリアデザイン I (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中川 浩一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		

授業概要・目的	<p>1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。</p> <p>2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。</p> <p>3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。</p> <p>4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。</p>
到達目標	<p>1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。</p> <p>2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。</p> <p>3) 調べ・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。</p>
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果(資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か?何故必要なのか? ・公と私について考える 	自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること。
2	さあ始めよう!大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける 	大学で学ぶ意味について考えること。
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話を聴く 	<ul style="list-style-type: none"> ・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること。 ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること。
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	・設定された個人ワークに取り組むこと
5	グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク(インタビュープロジェクト)の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える 	チームの中で「自分はどんな役割を果たしたいか」を考えること。
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	社会で求められる人材について考えること。
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること。
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	配布資料を熟読すること。
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク 	自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと。
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定 	大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること。
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	社会人基礎力を実践する方法を考えること。
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	他者に紹介したい本を選んでおくこと。
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること。
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をすること。
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのプランニング ・講義の振り返り 	夏休み以降の大学生活の目標を考えること。

関連科目: キャリアデザインII、インターンシップI、インターンシップII

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室 (水野)
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。

科目名	キャリアデザイン I (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		

授業概要・目的	<p>1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。</p> <p>2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。</p> <p>3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。</p> <p>4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。</p>
到達目標	<p>1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。</p> <p>2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。</p> <p>3) 調べ・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。</p>
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果(資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	さあ始めよう!大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける 	大学で学ぶ意味について考えること。
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話を聴く 	<ul style="list-style-type: none"> ・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること。 ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること。
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	・設定された個人ワークに取り組むこと
5	グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク(インタビュープロジェクト)の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える 	チームの中で「自分はどんな役割を果たしたいか」を考えること。
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	社会で求められる人材について考えること。
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること。
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	配布資料を熟読すること。
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク 	自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと。
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定 	大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること。
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	社会人基礎力を実践する方法を考えること。
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	他者に紹介したい本を選んでおくこと。
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること。
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をすること。
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのプランニング ・講義の振り返り 	夏休み以降の大学生活の目標を考えること。

関連科目: キャリアデザインII、インターンシップI、インターンシップII

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室 (水野)
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。

科目名	キャリアデザインⅡ (ADVANCE)	科目名 (英文)	Career Planning II (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		

授業概要・目的	現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考える。
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことを等と考えられるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	大学生生活1年目で経験したことを思い出しておくこと。
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	配付したレジュメを熟読しておくこと。
3	社会を知る②	・課題「働く人取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	グループで討議する準備をすること。
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方を事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	キャリアデザインⅡのテキスト P59～P79 を熟読すること。 グループ課題に取り組むこと
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	キャリアデザインⅡのテキスト P59～P79 を熟読すること。
6	社会を知る⑤	・グループプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をしておくこと。
7	社会を知る⑥	・グループプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をしておくこと。
8	就活体験①	特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	キャリアデザインⅡのテキスト P33～P41 を熟読すること。
9	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	キャリアデザインⅡのテキストの P42～P42 を熟読すること。
10	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	講義を踏まえ、これからの大学生生活において何に取り組むのかを考えること。
11	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	講義の内容を日常生活で実践すること。
12	社会を知る⑦	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	キャリアデザインⅡのテキスト P45～P55 を熟読すること。
13	自分を高める③	講義⑩⑪の実践報告プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をしておくこと。
14	社会を知る⑧	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	講義で配布するレジュメを熟読すること。
15	授業のおさらい	講義のおさらいと期末レポートの振り返り	課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと。

関連科目 経済キャリア入門、キャリアプラン、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。
担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室 (水野)
備考	

科目名	キャリアデザインⅡ (ADVANCE)	科目名 (英文)	Career Planning II (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		

授業概要・目的	現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考える。
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことを等と考えられるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	大学生生活1年目で経験したことを思い出しておくこと。
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	配付したレジュメを熟読しておくこと。
3	社会を知る②	・課題「働く人取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	グループで討議する準備をすること。
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方を事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	キャリアデザインⅡのテキスト P59～P79 を熟読すること。 グループ課題に取り組むこと
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	キャリアデザインⅡのテキスト P59～P79 を熟読すること。
6	社会を知る⑤	・グループプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をしておくこと。
7	社会を知る⑥	・グループプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をしておくこと。
8	就活体験①	特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	キャリアデザインⅡのテキスト P33～P41 を熟読すること。
9	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	キャリアデザインⅡのテキストの P42～P42 を熟読すること。
10	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	講義を踏まえ、これからの大学生生活において何に取り組むのかを考えること。
11	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	講義の内容を日常生活で実践すること。
12	社会を知る⑦	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	キャリアデザインⅡのテキスト P45～P55 を熟読すること。
13	自分を高める③	講義⑩⑪の実践報告プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をしておくこと。
14	社会を知る⑦	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	講義で配布するレジュメを熟読すること。
15	授業のおさらい	講義のおさらいと期末レポートの振り返り	課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと。

関連科目	経済キャリア入門、キャリアプラン、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室 (水野)
----------	----------------------

備考	
----	--

科目名	近代文学から学ぶ	科目名 (英文)	Modern Literature
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		

授業概要・目的	この講義では、明治以降現代までの新聞小説を、朝日新聞を中心に読んでいきます。作品の面白さとともに、時代順に読むことで、近現代史の中で新聞小説が持つ役割も考えましょう。
到達目標	社会性、時事性など新聞小説の特色を理解すること。文学の枠内だけでなく、複数の視点で大きく作品を捉えるようになることが目標です。
授業方法と留意点	配布資料による講義形式。不定期に復習テストを行います。 また、授業で紹介した新聞小説を最低1冊読み、定期試験で感想文を書く。
科目学習の効果 (資格)	日本近代文学の教養を身につけることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 新聞小説とは何か	本講義に臨むための基本姿勢と注意点について説明 新聞小説の始まりと歴史	特になし
2	明治時代の新聞小説 1	黎明期 (明治30年まで) の新聞小説 尾崎紅葉『金色夜叉』を中心に	配布資料と作品を読む
3	明治時代の新聞小説 2	明治31年以降の新聞小説 夏目漱石『虞美人草』を中心に	配布資料と作品を読む
4	明治時代の新聞小説 3	夏目漱石『坑夫』	配布資料と作品を読む
5	大正時代の新聞小説 1	中勘助『銀の匙』 芥川龍之介『地獄変』	配布資料と作品を読む
6	大正時代の新聞小説 2	菊池寛『真珠夫人』 谷崎潤一郎『痴人の愛』	配布資料で作品を読む
7	大正時代の新聞小説 3	江戸川乱歩『一寸法師』を中心に	配布資料と作品を読む
8	昭和初期の新聞小説	川端康成『浅草紅団』	配布資料と作品を読む
9	戦前・戦中の新聞小説	戦前・戦中の新聞小説の特色 火野葦平『花と兵隊』を中心に	配布資料と作品を読む
10	戦後の新聞小説 1	戦後の新聞小説の特色 石坂洋次郎『青い山脈』 太宰治『グッド・バイ』	配布資料と作品を読む
11	戦後の新聞小説 2	三島由紀夫『つばね製』	配布資料と作品を読む
12	現代の新聞小説 1	松本清張『砂の器』	配布資料と作品を読む
13	現代の新聞小説 2	有吉佐和子『複合汚染』	配布資料と作品を読む
14	現代の新聞小説 3	宮部みゆき『理由』	配布資料と作品を読む
15	現代の新聞小説 4 本講義のまとめ	東野圭吾『手紙』 奥田英朗『沈黙の町で』 講義で取り上げた新聞小説を振り返り、 時代との関わりを考えます	配布資料と作品を読む

関連科目	日本語読解
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	不定期の復習テスト、および授業態度 (授業への集中度・質問への回答など) 10% 定期試験 (感想文を含む) 90%
学生へのメッセージ	新聞小説というジャンルを意識し、社会と文学との関わりを考えてみよう。文学が時代を反映していることや社会に与える影響を、新聞小説を通して理解することが重要である。また、授業で興味を持った作品を積極的に読み、読書の楽しさを知ってもらいたい。
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	予習復習は、新聞小説としての特徴を考えながら、配布資料を約1時間程度通読する。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	グローバルな視点から多文化共生を考える	科目名 (英文)	Realizing the Importance of Cultural Diversity -from the Glo
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	糟谷 英之
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>摂南大学が加盟する国連アカデミックインパクトの原則 10「異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く」を実施するため、移民・難民・マイノリティーの問題など人権問題を考えることによってグローバルな人材を育成することを目的とします。</p> <p>現在では海外で活動する場合に限らず、地方自治体などを含め地域社会で活動する際にも国際的な人権感覚を身につけることが重要であると考えます。</p> <p>こうした目的を達成するため 授業では、次の二つの課題を実行します。</p> <p>①国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) と連携し、学校パートナーズとして映画祭や講演会の企画運営をします。</p> <p>②タイでの海外研修を行います。</p> <p>*2018年度については、①は、10月、②は、2019年2月に実施予定。</p>																
到達目標	<p>学校パートナーズとして UNHCR 難民映画祭の企画運営への参加、およびタイでの海外研修を通じて、移民・難民・マイノリティーの問題を自分自身の問題として捉え直し、グローバルな人材として必要な人権感覚を身につけます。</p> <p>さらに企画運営能力や問題解決能力およびコミュニケーション能力の開発を目指します。</p>																
授業方法と留意点	<p>集中講義の形式をとります。</p> <p>通常の講義とは異なり毎週授業があるわけではありません。しかし UNHCR 難民映画祭・学校パートナーズ企画および海外研修のため事前及び事後に不定期に集まります。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>先の目的を実現するため本講義では次の二つの課題を実行します。</p> <p>①まず国連アカデミックインパクト加盟大学の取り組みの一環として、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) と連携して映画祭や講演会の企画運営を目指します。これによって受講生の国際的人権意識を高めるとともに企画運営能力、コミュニケーション能力などを開発します。情宣活動を通じて大学構成員全体の国際的人権意識をも高めることにもなるでしょう。</p> <p>①の実施に当たり、</p> <p>(1) 寝屋川市国際交流協会などと連携して宣伝活動を行い、一般市民へのアピールを行います。</p> <p>(2) 大学祭中の開催を計画し、大学の学生・教職員にもせっきょくてきにかかわってもらいます。</p> <p>(3) 開催後、実施報告書やアンケート結果などをもとに検証を行い次年度の参考にする。</p> <p>②次にタイでの海外研修を通じ、移民、難民・マイノリティー問題をあらためて考えます。現地での語学研修、さらに現地の国際的機関や NGO などの人々へのインタビューなどを通じ多文化共生とは何かを体感したいと思います。現地での体験が①で身につけた知識、企画運営能力、問題解決能力およびコミュニケーション能力を真に生きたものにするでしょう。</p> <p>②の海外研修実施に当たり、</p> <p>(1) 事前の打ち合わせにおいて、現地の情報収集と危機管理の講習を行います。</p> <p>(2) 研修の目標を各人が設定するため事前のアンケートを採ります。</p> <p>(3) 現地では、研修ノートを取り、それを基に最終レポートを作成してもらいます。</p> <p>最終的には、提出されたレポートを基礎にして報告会を持ちたいと思います。</p>																
関連科目	国際人権法、法律英語、グローバル社会論、国際ボランティア論など																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	二つの課題①②の事前打ち合わせへ積極的参加 (20%)、①②の研修参加態度 (60%) および検証報告 (20%) の内容を総合的に評価します。																
学生へのメッセージ	<p>いま私たちが住む世界は今までにない大きな変化を経験しています。これからは外国人を含めさまざまな人々と共に生きていく時代です。こうした社会で生きていくために我々一人ひとりにとって何が必要であるかを講義を通じて是非感じ取ってください。</p> <p>海外研修を通じて異文化を体験してください。それだけでも君たちにとって大きな意味があると思います。</p>																
担当者の研究室等	<p>11号館 10階 糟谷研究室</p> <p>E-mail: kasutani@law.setsunan.ac.jp</p>																
備考	<p>*海外研修期間は、2019年2月中旬を予定しています (都合により若干変更する場合があります)。</p> <p>*また法学部学生は、前期科目の「法律英語」を予定していますできれば受講してください。</p> <p>*UNHCR 難民映画祭や海外研修の具体的な内容については、ガイダンスで紹介いたします。</p> <p>*海外研修への参加費は基本的には自己負担となりますので注意してください。</p>																

科目名	健康論	科目名(英文)	Theory of Health
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀 美幸
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

授業概要・目的	現代社会において、生活の質(QOL)を高めるためには、健康であることがまず重要になる。健康であるためには自分の身体を理解し、より良い生活習慣を身に付けるための知識が必要となる。本授業では、身体のしくみを理解し、健康増進のための知識とそれを実践するための基礎知識を修得することを目的とする。
到達目標	健康の概念を理解することができる。 身体のしくみについて、解剖学的、生理学的、心理学的基礎知識を修得することができる。 より良い生活習慣を身に付けるための、栄養学的理解を身に付けることができる。 健康維持・増進のための運動処方理解し実践することができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。 参考資料は適宜配布する。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	社会と健康	・現代日本における健康問題と国の施策について知ることができる。	・授業ノートで復習すること。
3	生活習慣病と3大疾病	・メタボリックシンドローム、生活習慣病、3大疾病について正しく理解ができる。	・授業ノートで復習すること。
4	こころの健康	・ストレスの生理的・心理的メカニズムを理解することができる。	・授業ノートで復習すること。
5	身体のしくみ	・筋・骨格について理解ができる。 ・体組成について知ることができる。	・授業ノートで復習すること。
6	身体のしくみ	・脳・内臓・神経の働きについて理解ができる。	・授業ノートで復習すること。
7	身体のしくみ	・ホルモンバランス、睡眠、アレルギーについて理解ができる。	・授業ノートで復習すること。
8	食事と栄養	・5大栄養素と食事の選び方について理解、実践ができる。 ・カロリーバランスについて知ることができる。	・授業ノートで復習すること。
9	食事と現代社会	・食品添加物、サプリメントについて知ることができる。 ・食物アレルギーとアナフラキシーショックの対応について学ぶことができる。	・授業ノートで復習すること。
10	嗜好品と薬物	・喫煙、飲酒、カフェインの功罪について理解ができる。 ・薬物について学ぶことができる。	・授業ノートで復習すること。
11	健康と運動	・全身持久力を高めるための運動処方と実践の方法を理解できる。	・授業ノートで復習すること。
12	健康と運動	・筋持久力と筋力向上のための運動処方と実践の方法を理解できる。	・授業ノートで復習すること。
13	健康と運動	・レクリエーションスポーツや生涯スポーツについての理解を深めることができる。	・授業ノートで復習すること。
14	緊急時の応急手当て	・外傷やスポーツ傷害、熱中症などの初期対応ができる。	・授業ノートで復習すること。
15	まとめ	・授業の内容に関して総括する。	・授業ノートで復習すること。

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ実習
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	期末試験(50%)、小テスト(30%)、課題・提出物(20%)により評価を行う。 100点中60点で合格とする。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	総合体育館1階 体育館事務室
----------	----------------

備考	
----	--

科目名	現代韓国事情	科目名(英文)	Contemporary Korean Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな隣国である韓国。そのような韓国に関して、大きな歴史的流れを検討し、近現代の韓国社会における変化を長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	この講義を通じて、韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国近現代史を概観できるようになる。 ・「解放」前後における朝鮮半島の政治状況について理解する。 ・「民主化」前後における韓国の政治状況について理解する。
授業方法と留意点	韓国近現代史の基礎を踏まえた上で、関連する映画作品を鑑賞し、それらの解説なども交えながら講義を進める。
科目学習の効果(資格)	韓国近現代史および現代韓国社会に関する基礎的な理解

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	近現代韓国の基礎知識(1)	韓国近現代史概説: 1945年以前と以後	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
3	近現代韓国の基礎知識(2)	韓国近現代史概説: 軍事政権の時代と民主化後の時代	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
4	映画作品に見る「韓国現代史」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
5	映画作品に見る「韓国現代史」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
6	近現代韓国社会への理解(1)	解放・建国に始まる韓国現代史概説	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
7	近現代韓国社会への理解(2)	解放・建国に始まる韓国現代史概説	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
8	映画作品に見る「韓国現代史における政治と人々」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
9	映画作品に見る「韓国現代史における政治と人々」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
10	近現代韓国社会への理解(3)	民主化と、民主化以後の現代韓国	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
11	近現代韓国社会への理解(4)	民主化と、民主化以後の現代韓国	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
12	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
13	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
14	現代韓国に向き合う(1)	韓国現代史と現代韓国社会	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
15	現代韓国に向き合う(2)	韓国現代史と現代韓国社会	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)

関連科目	
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	韓国現代史	木村幹	中公新書
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	提出レポートに基づく評価を行なう。(100%) 詳細については授業内で指示する。			
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室			
備考	授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。			

科目名	現代と地理学	科目名(英文)	Geography in Modern Age
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	笠原 俊則
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

教養科目

授業概要・目的	『環境』ということばはいろいろの分野でよく使われているが、地理学では最も重要な術語の一つである。そして近年人間活動にともなうこの環境に著しい変化が生じている。本講義では、最近の地理的環境問題の例をいくつか取り上げて説明し、受講生諸君が現代社会について考える一助にてもらいたいと考えている。
到達目標	最終的には、受講者全員が現代の環境問題について興味を持ち、理解し、考え方を確立してくれることを期待している。これら3点をクリアできれば、この科目を受講した事が諸君の今後の人生に大いに役立つであろう。
授業方法と留意点	講義形式で行う。テキストに掲載されている図表だけでは不足するような場合、講義中に適宜プリントを配布する。
科目学習の効果(資格)	人間活動が、我々を取り巻く環境にいかなる影響を与えているかを、身近に感じ取ることができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地理学とは?	・地理学の歴史 ・地理学の定義	指定テキストに目を通しておいて下さい。
2	地理学と環境	人類による環境への働きかけの歴史(過去から現在まで)	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
3	生活の舞台としての地形－その1－	・台地・河岸段丘の発達と土地利用	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
4	生活の舞台としての地形－その2－	・扇状地の地形と土地利用 ・氾濫原における生活と土地利用	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
5	ため池の多面的機能	ため池の持つ多面的な機能とその活用	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
6	ダム建設とそれともなう環境の変化	・ダム堆砂およびそれともなう環境の変化	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
7	離島における地下ダムの建設	宮古島における地下ダムの建設	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
8	都市化ともなう水文環境の変化	・都市化ともなう流出および水質の変化 ・都市化地域における水害と下水道整備	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
9	都市気候について	・都市気候とは? ・都市気候の具体例	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
10	広域中心都市仙台の発展	・広域中心都市とは ・仙台の発展状況 ・仙台における東日本大震災の影響	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
11	すみわけられた都市社会空間	・エスニックマイノリティ社会 ・インナーシティ問題	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
12	ニュータウンの高齢化	・日本におけるニュータウンの成立 ・千里ニュータウンの高齢化	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
13	日本の産業立地	工業地域構造の形成と変貌	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
14	都市商業の盛衰と多様化	・都市商業の発展と社会環境の変化 ・都市中心部の空洞化と都市商業の変化	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
15	伝統工業の現状と課題	京都を例として	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。

関連科目 「環境関連科目」等

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人間活動と環境変化	吉越昭久編	古今書院
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験を実施する。さらに前期中頃に小テストも実施する。評価の割合は、定期試験60%、小テスト20%、授業参加点20%である。授業参加点については、時々実施する授業に関わる用語の事前調べ、授業参加チェックシートの記入などによって授業参加状況をチェックして判断する。したがって、単なる出席点は付けないので、真剣に授業に取り組んで欲しい。
学生へのメッセージ	地理学には地図が付きものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、内容がより理解しやすくなるであろう。最近の高校教育では地理が選択になっているため、履修していない人もいると思われるが、もし高校時代に使用した地図帳があれば、講義中に持参して欲しい。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	授業前の用語の下調べが課された場合、可能な限り文献や辞典類を読み、1時間以上の時間を掛けた丁寧な報告を作成してくれることを期待している。なお、レポートを提出する際には出典も必ず明記すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	現代ビジネス論	科目名 (英文)	Modern Business
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧 美喜男
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的
 本講義では組織行動論の中心テーマであるリーダーシップや日本企業の直面するマネジメントの国際化時代における人的資源管理を学習する。本講義の特色は将来のビジネスリーダーを目指す皆さんが考える基盤や目標の提供を目指す。両分野の基礎知識の学習に加えて、豊富な事例を紹介する。企業の倒産や再建事例におけるリーダーの行動、皆さんが属する若者の行動や意識の特徴、日本の経営の特色や日本が生み出したビジネスリーダー事例を学習する。私たち日本人の心の奥底に存する企業観・倫理観や労働観について再検討し、グローバル化・価値観の多様化が進展する中、将来のわが国ビジネスの在り方について、皆さんと一緒に考える。

到達目標
 本講義では、以下の3つの目標を設定する。
 ①組織を管理するマネージャーに求められる資質やスキルを理解する。
 ②日本の経営の特色および、マネジメントの国際化時代におけるその進化の方向性を理解する。
 ③組織で働くとは何かを考え、自分が目指すリーダーとは何かを理解する。

授業方法と留意点
 可能な限り双方向 (interactive) の講義を目指す。単に教科書を読んで内容を理解するというだけでなく、レクチャーを通じて身につけた基礎的な知識に基づきながら、現実世界の経営上の諸問題についての対応策を皆さんが考え、答えを追求する。わからない点や難しい点については補足的に説明しながら、必要に応じて応用的なディスカッションを実施する。

科目学習の効果 (資格)
 資格等の取得はありませんが、本講義終了時には以下が身に付きます。今後のビジネス社会の方向性を理解し、ビジネスリーダーとは何か、自身はどのようなビジネスリーダーを目指すかを考える基盤を取得出来ます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	現在のビジネス環境及びリーダーの重要性	オペレーションの国際化とマネジメントの国際化の違いを説明しリーダーの役割を述べる。ビジネスマンの職場職場の現実の雰囲気を知る。働くとは何かをを考える。	日本企業の戦後の海外展開の歴史や現状を調べてみよう。
2	マネージャーとマネジメント	人材を管理するとは何かを学ぶ。	マネージャーはどんな仕事をしているのか、またなぜマネジメントを学ぶ必要があるか考えてみる。
3	個人行動の原点	人はどのようなときに最もよく働くのかを考える。個人行動の起点を知る。	組織行動論の目的は何かを考えてみる。
4	リーダーシップと信頼	各種リーダー論を紹介する。	自身のリーダー体験および今までに出会った素晴らしいリーダーの特徴を考えてみる。
5	変革型リーダーがなぜ求められるか	マネジメントの国際化時代の変革型リーダーの重要性を各種事例をもとに説明する。(1~5回までのレポート提出)	なぜリーダーシップに信頼が強調されるのか自己の体験に照らして考えてみる。
6	国際人的資源管理とは何か	各国人材・マネジメント方式の差異。各国企業文化を知る。	海外展開をする企業は、本国の或いは出身国の労務管理制度のどちらを採用しようとしているのか考えてみる。
7	日本企業国際化の軌跡	オペレーションの国際化・マネジメント国際化時代の日本企業の対応。多国籍従業員の意識。	トヨタ自動車・GMとの合弁企業 NUMMI がなぜ設立されたのか調べてみよう。最近、日本本社で外国人が多数採用されているがその理由を考えてみよう。
8	コミュニケーションと情報	高コンテクスト文化・社内言語とコミュニケーション外国人社員は何で苦労するのかを考える。	日本人は自己主張をしないとされています。あなたが発揮する日本人らしさとは何でしょうか？
9	自身を考える	日米中韓4か国の若者調査の紹介・12人の有識者による若者の実像。人材育成モデルの紹介。人材育成モデルの提案。	あなたは偉くなり社会に貢献したいですか？自身の能力をどう評価していますか？
10	日本人の特性と日本的経営の本質	歴史や地勢の観点から日本人独特の経営が生み出されたことを学ぶ。(6~10回までのレポート提出)	有史以来他民族の侵略を受けてこなかった国が世界に一つだけあります。その特異性を考えましょう。
11	自分はどうなるか 事例1. 二宮尊徳	日本の経営の原点・心も金も豊かにする実学を学ぶ。	以下3回にわたり偉大なビジネスの先人の話をします。3人に関する本はたくさん出版されているので図書館やインターネットで調べてみよう。
12	事例2 本田技研創業者藤沢武夫の紹介	本田の実質的な経営者の追求したマネジメントの実態に迫る。	11回参照
13	事例3 パナソニック創業者 松下幸之助	経営の神様が追求し実践した指導者の条件。	11回参照
14	君たちはどのようなリーダーを目指すか	自由討議 10人ぐらいのチームに分け、討議・各グループの発表。	事例紹介のうちどの点がすごいと思ったか事前に考えておく。
15	まとめ	全14回の講義の中で浮かび上がったことを総括する。	

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際人的資源管理	関口倫紀ほか	中央経済社
2	マネジメント入門	スティーブンP. ロビンス	ダイヤモンド社

	3	世界が称賛する日本の経営	伊勢雅臣	育鵬社
評価方法 (基準)	第5回時のレポート(20%)、第10回時のレポート(20%)、定期試験(60%)			
学生への メッセージ	自身を知り自身の特性を生かしマネジメントの国際化時代のリーダーとして活躍する。そのモデルである企業やリーダーに巡り合えると思います。紹介するリーダー事例より、自身がどのようなリーダーになりたいか自分に置き換えて考えてください。			
担当者の 研究室等	教務課(11号館1階)			
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 「質問等は出講時に教務課にて対応する」			

科目名	国際理解概論	科目名 (英文)	International Cooperation
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー (DP)	A◎		

授業概要・目的	グローバル経済の過去、現在、将来を学ぶことにより日本と海外諸国の関係を理解する。
到達目標	国際関係を理解することで日本の産業がどのような位置にあるかを把握すること
授業方法と留意点	教科書に沿って講義を行う。その中でトピックに応じた映像を紹介し、議論する。
科目学習の効果 (資格)	日本は単独で存在しているのではなく世界との関連の中で存在していることを理解し、世界全体に視野が広がる効果を持つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	国際経済の基礎 1	国際相互依存の重要性 資本主義と共産主義の比較 市場経済の基本的メカニズム	講義の復習
3	国際経済の基礎 2	株式の仕組みと株式市場 外国為替と通貨の仕組み 海外貿易と国際収支	講義の復習
4	国際経済の基礎 3	輸出入にかかる税金 国際分業 金利の基本と各国の金融政策	講義の復習
5	冷戦終結まで 1	世界の基軸通貨の変遷 世界大恐慌とブロック化経済 大恐慌から第二次世界大戦への道のり	講義の復習
6	冷戦終結まで 2	ブレトンウッズ体制の成立 ニクソンショックと固定相場制の終焉 オイルショック	講義の復習
7	冷戦終結まで 3	双子の赤字とプラザ合意 東アジア経済と日本のバブル ユーロ通貨統合	講義の復習
8	冷戦終結以降の国際経済 1	冷戦の終結とマネー経済の浸透 通貨危機が発生する理由 国際経済における冷戦終結の影響	講義の復習
9	冷戦終結以降の国際経済 2	多国籍企業と世界的な企業再編 国際会計基準と自己資本規制 失われた 10 年と構造改革	講義の復習
10	冷戦終結以降の国際経済 3	韓国経済危機と奇跡の復活 EU、ユーロが生まれるまで 同時不況から脱出した世界経済	講義の復習
11	国際的な経済協調 1	経済協調が必要な理由 GATT と WTO 統一通貨ユーロの現状と今後	講義の復習
12	国際的な経済協調 2	FTA のメリット・デメリット 発展途上国への援助 武器貿易をめぐる歴史	講義の復習
13	これからの国際経済 1	持続可能な社会 経済格差を映す世界の食料事情 知的所有権の経済問題	講義の復習
14	これからの国際経済 2	ドルとユーロ、円の今後の関係	講義の復習
15	まとめ	これまでの講義の復習	講義の復習

関連科目	国際経済の新動向 貿易論
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図解国際経済のしくみ	清野一治監修	PHP 文庫
2				
3				

評価方法 (基準)	定期試験の点数で評価する (100%)。
-----------	----------------------

学生へのメッセージ	疑問があれば、講義の最中でも積極的に質問をしてください。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	1号館7階 田中研究室
----------	-------------

備考	
----	--

科目名	古典文学から学ぶ	科目名 (英文)	Classic Literature
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		

授業概要・目的	この講義では『百人一首』を読んでいます。まず、文学作品としての位置づけを行っただけで、和歌の鑑賞を通して、我々現代人が忘れてしまった自然と共生する力や方法、また今も昔も変わらない心情などを学びましょう。古典作品は、現代と断絶した遠い過去の遺物ではありません。自ら作品に近づき親しむことにより、現代の文学作品と同様に多くの知見や感動を得ることができます。																																																																		
到達目標	和歌の断片的な知識ではなく、時代背景を含め作品としての総合的な理解が目標です。																																																																		
授業方法と留意点	講義形式です。理解度を確認する復習テストを不定期に行います。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	大学生として必要最低限の「古典文学」の知識を身につけることができます。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の目的、方法の説明</td> <td>『百人一首』を読む</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>作品としての『百人一首』1</td> <td>『百人一首』の成立と謎</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>作品としての『百人一首』2</td> <td>江戸時代を中心にした、『百人一首』の後世の受容</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>作品としての『百人一首』3</td> <td>『百人一首』の構成と和歌を読むための基礎知識</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>四季歌を読む 春1</td> <td>春の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>四季歌を読む 春2</td> <td>桜の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>四季歌を読む 夏</td> <td>夏の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>四季歌を読む 秋1</td> <td>秋の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>四季歌を読む 秋2</td> <td>秋の月の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>四季歌を読む 冬</td> <td>冬の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>恋歌</td> <td>恋の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>雑歌1</td> <td>友情をテーマにした歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>雑歌2</td> <td>旅の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>雑歌3</td> <td>人生をテーマにした歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>授業の総括</td> <td>『百人一首』の意義と他の文学作品との関わり</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の目的、方法の説明	『百人一首』を読む	2	作品としての『百人一首』1	『百人一首』の成立と謎	配布プリントを読む	3	作品としての『百人一首』2	江戸時代を中心にした、『百人一首』の後世の受容	配布プリントを読む	4	作品としての『百人一首』3	『百人一首』の構成と和歌を読むための基礎知識	配布プリントを読む	5	四季歌を読む 春1	春の歌を読みます	配布プリントを読む	6	四季歌を読む 春2	桜の歌を読みます	配布プリントを読む	7	四季歌を読む 夏	夏の歌を読みます	配布プリントを読む	8	四季歌を読む 秋1	秋の歌を読みます	配布プリントを読む	9	四季歌を読む 秋2	秋の月の歌を読みます	配布プリントを読む	10	四季歌を読む 冬	冬の歌を読みます	配布プリントを読む	11	恋歌	恋の歌を読みます	配布プリントを読む	12	雑歌1	友情をテーマにした歌を読みます	配布プリントを読む	13	雑歌2	旅の歌を読みます	配布プリントを読む	14	雑歌3	人生をテーマにした歌を読みます	配布プリントを読む	15	授業の総括	『百人一首』の意義と他の文学作品との関わり	配布プリントを読む
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の目的、方法の説明	『百人一首』を読む																																																																
2	作品としての『百人一首』1	『百人一首』の成立と謎	配布プリントを読む																																																																
3	作品としての『百人一首』2	江戸時代を中心にした、『百人一首』の後世の受容	配布プリントを読む																																																																
4	作品としての『百人一首』3	『百人一首』の構成と和歌を読むための基礎知識	配布プリントを読む																																																																
5	四季歌を読む 春1	春の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
6	四季歌を読む 春2	桜の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
7	四季歌を読む 夏	夏の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
8	四季歌を読む 秋1	秋の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
9	四季歌を読む 秋2	秋の月の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
10	四季歌を読む 冬	冬の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
11	恋歌	恋の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
12	雑歌1	友情をテーマにした歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
13	雑歌2	旅の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
14	雑歌3	人生をテーマにした歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
15	授業の総括	『百人一首』の意義と他の文学作品との関わり	配布プリントを読む																																																																
関連科目	日本語読解																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>百人一首</td> <td>島津忠夫</td> <td>角川ソフィア文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>百人一首 王朝和歌から中世和歌へ</td> <td>井上宗雄</td> <td>笠間書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	百人一首	島津忠夫	角川ソフィア文庫	2	百人一首 王朝和歌から中世和歌へ	井上宗雄	笠間書院	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	百人一首	島津忠夫	角川ソフィア文庫																																																																
2	百人一首 王朝和歌から中世和歌へ	井上宗雄	笠間書院																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業態度 (質問への回答) や復習テストなど 20%、定期試験 80%																																																																		
学生へのメッセージ	和歌が持つ美しいリズムを味わい、千年前の歌人たちからのメッセージを受け取りましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	予習復習は配布資料、参考書について約1時間程度の通読をこれに当てること。「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																																																																		

科目名	コミュニケーション I	科目名 (英文)	Communication I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	櫻井 清華
ディプロマポリシー (DP)	A◎		

授業概要・目的	(概要と目的) 私たちは日本語を母語としているため、読み・書き・会話にさして苦勞はないと考えがちである。だが実際は、自己の意思や思考を話し言葉 (音声言語) によって正確に他者に伝達し、かつ明快な文章 (書記言語) で過不足なく表現することは必ずしも容易ではない。そのためには一定の技術と知識が必要であり、それらを実践練習の中で琢磨していく必要がある。この授業を履修することで、大学生活・社会生活において不可欠な言語能力を一段高いレベルにおいて習得し、それに伴う思考力の獲得と向上をめざす。
到達目標	大学生に求められる基本的な日本語能力の取得を目指す。特に、大学生として不足のない文章を書けるようになること、就職活動に必要な日本語表現、自己表現方法をマスターし、ひいては社会人に相応しい日本語使用ができるようになることを目指す。これについては文語・口語ともに射程に含まれる。
授業方法と留意点	積極的な参加を求めます。
科目学習の効果 (資格)	文章の読解・文章の作成・対話 (コミュニケーション) といった日本語能力の向上。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	コミュニケーションとは何かをまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	2	敬語をまなぶ①	敬語の基礎をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	3	敬語をまなぶ②	敬語の基礎をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	4	敬語をまなぶ③	敬語の基礎をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	5	敬語をまなぶ④	敬語の基礎をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	6	敬語をまなぶ⑤	敬語の基礎をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	7	日本語表現をまなぶ①	漢字の習得度の確認をする	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	8	日本語表現をまなぶ②	漢字の習得度の確認をする	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	9	日本語表現をまなぶ③	同音異義語をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	10	日本語表現をまなぶ④	同音異義語をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	11	文章を書く①	自己紹介文を書く	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	12	文章を書く②	自己紹介文を書く	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	13	文章を書く③	自己紹介文を書く	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	14	文章を書く④	テーマに沿って書く	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	15	文章を書く⑤	テーマに沿って書く	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末試験 90%、授業態度 10%の割合で評価する。参加態度の悪さから講義中に退席を求めた学生については期末試験を評価しない。授業態度とは、①質問への投げかけに対する応答の姿勢、②授業への集中度、③授業内における演習の達成度を指し、出席点をさすものではない。
-----------	---

学生へのメッセージ	日本語の読み書きに関心をもって下さい。積極的な参加を期待しています。
-----------	------------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	コミュニケーションⅡ	科目名(英文)	Communication II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	櫻井 清華
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

教養科目

授業概要・目的	本講義では、音声言語(話し言葉)のみならず、文字言語(書き言葉)によるコミュニケーションも射程に入れ、「コミュニケーションⅠ」で修得した言語技術をさらに深めさせることを目指す。挨拶・紹介・説明(研究発表を含む)・報告(調査報告を含む)・依頼・勧誘・質疑応答・議論・話し合い・見舞い・詫び・感謝・賞賛といった目的別の言語行動を想定し、より実践的な言語運用能力を修得することを目標とする。																																																																		
到達目標	目的に応じた日本語表現の技法を学ぶことで、日本語の誤用をなくす。日本語を支える文化背景を学ぶことで、現在無意識に使用している流行語、若者言葉、オノマトペの意義を知り、大学生として不足のない文章を書けるようになることを初歩的目標とする。さらに就職活動に必要な基礎的の社会人敬語、自己表現方法を獲得し、ひいては社会人にふさわしい日本語使用ができることを最終的に目指す。これについては、文語・口語ともに射程に含まれる。																																																																		
授業方法と留意点	積極的な参加を求めます。																																																																		
科目学習の効果(資格)	文章の読解・作成・対話(コミュニケーション)といった、日本語能力の向上。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>講義の概要</td> <td>コミュニケーションとはどのような現象かを考えてください。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く①</td> <td>自己表現・挨拶を学ぶ。</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く②</td> <td>来客・電話の応対・メールのマナーを学ぶ。</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く③</td> <td>文書におけるビジネス用語を学ぶ。</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く④</td> <td>内と外の敬語を学ぶ①</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑤</td> <td>内と外の敬語を学ぶ②</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑥</td> <td>謝罪・御礼表現を学ぶ。</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑦</td> <td>携帯のマナーとクレーム対応を学ぶ。</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑧</td> <td>冗長表現を学ぶ①</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑨</td> <td>冗長表現を学ぶ②</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑩</td> <td>ひと・ものの呼称を学ぶ。</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑪</td> <td>対応のマナーを学ぶ①</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑫</td> <td>対応のマナーを学ぶ②</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑬</td> <td>配慮ある日常表現を学ぶ。</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>後期総括</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	講義の概要	コミュニケーションとはどのような現象かを考えてください。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	2	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く①	自己表現・挨拶を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	3	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く②	来客・電話の応対・メールのマナーを学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	4	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く③	文書におけるビジネス用語を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	5	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く④	内と外の敬語を学ぶ①	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	6	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑤	内と外の敬語を学ぶ②	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	7	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑥	謝罪・御礼表現を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	8	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑦	携帯のマナーとクレーム対応を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	9	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑧	冗長表現を学ぶ①	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	10	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑨	冗長表現を学ぶ②	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	11	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑩	ひと・ものの呼称を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	12	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑪	対応のマナーを学ぶ①	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	13	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑫	対応のマナーを学ぶ②	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	14	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑬	配慮ある日常表現を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	15	まとめ	後期総括	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	講義の概要	コミュニケーションとはどのような現象かを考えてください。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
2	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く①	自己表現・挨拶を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
3	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く②	来客・電話の応対・メールのマナーを学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
4	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く③	文書におけるビジネス用語を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
5	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く④	内と外の敬語を学ぶ①	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
6	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑤	内と外の敬語を学ぶ②	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
7	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑥	謝罪・御礼表現を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
8	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑦	携帯のマナーとクレーム対応を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
9	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑧	冗長表現を学ぶ①	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
10	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑨	冗長表現を学ぶ②	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
11	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑩	ひと・ものの呼称を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
12	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑪	対応のマナーを学ぶ①	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
13	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑫	対応のマナーを学ぶ②	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
14	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑬	配慮ある日常表現を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
15	まとめ	後期総括	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
関連科目	国語学、言語学、日本語学、社会学、コミュニケーション論、コミュニケーションⅠなど																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業態度10%、定期試験90%。 授業態度には①質問の投げかけに対する応答姿勢、②授業への集中度、③ノート書写の姿勢、などを指します。 出席回数は点数に含まれません。																																																																		
学生へのメッセージ	意欲的な参加を求めます。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																																																																		

科目名	Conflict の表象ー20 世紀マンガ・アニメの文化誌ー	科目名 (英文)	How are "conflicts" culturally represented in 20th century Japanese manga and animation
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊, 赤澤 春彦, 有馬 善一, 上田 達, 小山 裕樹, 住吉 誠
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II◎, R 科 : A◎, A 科 : A◎, M 科 : A1◎, E 科 : B△, C 科 : II◎, L 科 : DP2◎, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP8△, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎, N 科 : DP1◎N : DP1◎		

授業概要・目的	conflict とは con (共に) flict (衝突する) こと。対立や争い、矛盾、葛藤を意味する。戦後の日本は「平和」が続いてきたように語られるが、直接戦争に関わらなかつただけで、そこには様々な矛盾や軋轢が内包されてきた。これらの conflict を描き出してきた媒体の一つが、20 世紀日本のマンガ・アニメである。それゆえに日本のマンガ・アニメは現代社会の普遍的なテーマを扱うものとして、一部のファンだけではなく、世界中の人々に影響を与え続けてきたのである。この講義では、特に影響が大きく、メディアミックスとして展開した数本の作品を取り上げ、多様な視点から分析を試みたい。
到達目標	マンガやアニメを娯楽的に享受するだけではなく、そこに現代の価値観・世界観を読み取るための論点を見出し、考えることができる。

授業方法と留意点	6名の教員が担当する。 毎回作品を決め、1名の教員がテーマを設定し、論じる。受講生はコメントペーパーを提出する。 それぞれの作品について、受講生は講義の内容も踏まえて考察し、レポートを提出する。 受講生は必ず前週に指定された事前学習に取り組んでくること。 ※授業以外の学習時間の目安は、約 60 時間。
----------	---

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	20 世紀日本のマンガ・アニメ	代表的な作品を取り上げ、マンガ・アニメの果たしてきた役割を考える (担当: 橋本)	-----
	2	機動戦士ガンダム 1	ガンダム作品における家族や子育ての描かれ方について考える (担当: 小山)	劇場版『機動戦士ガンダム』をみる
	3	機動戦士ガンダム 2	ガンダム作品における女性の描かれ方について考える (担当: 住吉)	劇場版『機動戦士ガンダム II 哀・戦士編』をみる
	4	機動戦士ガンダム 3	ガンダム作品におけるシャア・アズナブルの位置づけについて考える (担当: 赤澤)	劇場版『機動戦士ガンダム III めぐりあい宇宙編』をみる
	5	機動戦士ガンダム 4	モビルスーツ (モビルアーマー) について受講生とともに議論する (担当: 赤澤・小山・住吉)	モビルスーツに関するレポートをまとめる
	6	風の谷のナウシカ 1	テーマの概説、アニメ版、漫画版の概要と違いについて (担当: 有馬)	アニメ『風の谷のナウシカ』を見る
	7	風の谷のナウシカ 2	「風の谷」から「中心」と「周辺」について考える (担当: 上田)	コミック『風の谷のナウシカ』1・2・3 巻を読む (徳間書店、全 7 巻)
	8	風の谷のナウシカ 3	「皇弟」と「蟲使い」から「おぞましいもの」の描かれ方について考える (担当: 橋本)	コミック『風の谷のナウシカ』4・5 巻を読む (徳間書店、全 7 巻)
	9	風の谷のナウシカ 4	「巨神兵」の謎と多義性について考える (担当: 有馬)	コミック『風の谷のナウシカ』6・7 巻を読む (徳間書店、全 7 巻)
	10	ジョジョの奇妙な冒険 1	ジョジョの奇妙な表現力 (担当: 赤澤)	コミック『ジョジョの奇妙な冒険』を数巻読む 主要登場人物について確認する
	11	ジョジョの奇妙な冒険 2	ジョジョの奇妙な想像力 (担当: 上田)	コミック『ジョジョの奇妙な冒険』を数巻読む 主要登場人物やスタンドについて確認する
	12	ジョジョの奇妙な冒険 3	ジョジョの奇妙な人間力 (担当: 小山)	コミック『ジョジョの奇妙な冒険』を数巻読む 主要登場人物について確認する
	13	攻殻機動隊 1	「コピー」と「多様性」について考える (担当: 住吉)	押井守『GHOST IN THE SHELL』を見る
	14	攻殻機動隊 2	「脳が支配されること」の描かれ方について考える (担当: 橋本)	士郎正宗『攻殻機動隊』1 巻を読む 「人形使い事件」について確認する
	15	攻殻機動隊 3	「タチコマ」に見られる AI の「個性」、さらに、AI と人間との関係性について考える (担当: 有馬)	『攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX The Laughing Man』を見る

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	各作品のレポート 60% (15%×4)、授業への参加度 (毎回のコメントペーパー) 40%
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 4 階 (赤澤・有馬・小山・住吉・橋本) 7 号館 5 階 (上田)
----------	--

備考	
----	--

科目名	産業技術史	科目名(英文)	History of Industrial Technology
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	照元 弘行
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

教養科目

授業概要・目的	様々な産業で用いられる技術を「産業技術」という。この「産業技術」は、どのような経路をたどりながら、何を原動力として発展してきたかという問題について考える。本講義では、様々な「産業技術」の変遷を体系的に捉え、地球規模での産業技術の役割について考え、これまでに築かれてきた技術を学習・理解することで、今後、独創的な技術を生み出していく手がかりを提供する。
到達目標	幅広い教養と地球的視野をもった技術者になるための基礎を身につけることである。具体的には、それぞれの産業技術の歴史を学習・理解することで、技術者として幅広い教養を、また、情報社会の世界情勢や地球環境問題を学ぶことで、物事を地球的視点から多面的に捉える能力と素養を身につけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業形式は、視聴覚教材を用いた「プレゼンテーション授業」である。講義中心の授業となるが、産業技術をできるだけわかりやすく理解してもらうために、視聴覚教材および資料集の図表を用いて解説する。
科目学習の効果(資格)	現在の産業技術社会は、膨大な情報と知識の専門化が進んでおり、この産業技術の世界を系統的に学ぶ機会は、一般教養科目を学ぶ以外の時期には少なくなる傾向にあり、他分野の知識の吸収には、自分自身で常に努力していく必要がある。それゆえ、できるだけ早い時期に産業技術の源を学んでおくことは、多くの分野に興味をもつための一助になると考えている。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	製鉄・鉄鋼産業の技術史①	金属材料について学ぶ。伝統の日本製鉄法「たたら」について学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。課題レポート提出②
3	製鉄・鉄鋼産業の技術史②	製鉄・鉄鋼産業の技術発展史とその公害・環境対策について学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。課題レポート提出③
4	製鉄・鉄鋼産業の技術史③	製鉄所のシンボルである高炉について学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。課題レポート提出④
5	製鉄・鉄鋼産業の技術史④	国産技術で育てた画期的な次世代の鉄「超鉄鋼」について学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。課題レポート提出⑤
6	自動車産業の歴史①	国産自動車トヨタ AA 型の開発を事例にして、日本の自動車産業を学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。課題レポート提出⑥
7	自動車産業の歴史②	自動車産業の生産技術およびエンジン、ブレーキ、タイヤなどの基本技術を学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。課題レポート提出⑦
8	自動車産業の歴史③	自動車産業の公害・環境問題について学ぶ。ここでは、低公害エンジン「CVCC」を事例にして学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。課題レポート提出⑧
9	自動車産業の歴史④	自動車産業の公害・環境問題について学ぶ。ここでは、「ハイブリッドカー」、「電気自動車」を事例にして学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。課題レポート提出⑨
10	自動車産業の歴史⑤	自動車産業の公害・環境問題について学ぶ。ここでは、燃料電池の技術と「究極のエコカー」である燃料電池自動車について学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。課題レポート提出⑩
11	鉄道産業の歴史①	国と地方の問題から「新幹線問題」について学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。課題レポート提出⑪
12	鉄道産業の歴史②	高速鉄道「新幹線」の開発の歴史とその主要技術について学ぶ。新幹線を作る様々な技術(町工場がもつアナログ的な技術)を学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。課題レポート提出⑫
13	鉄道産業の歴史③	未来の高速鉄道「リニアモーターカー」について学ぶ。また、これからの鉄道の公害・環境対策技術、安全対策技術について学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。課題レポート提出⑬
14	公害・環境対策の技術史	産業競争力強化の重要な柱の1つである「ISO14001」の認証取得の事例を解説する。	資料集を事前に読んでおくこと。課題レポート提出⑭
15	世界の産業技術	産業技術の未来への取り組みについて、子どもたちへの活動を通して考える。	資料集を事前に読んでおくこと。課題レポート提出⑮

関連科目 産業技術史は、多面的で複合的な科目であることから、大学において、できるだけ数多くの科目を習得すれば、必ず役立つと思います。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	各授業毎の課題レポート(45点配分)と定期試験(55点配分)で総合的(合計100点)に評価する。なお、合格基準は、レポートおよび定期試験がそれぞれ100点満点換算の60点以上、総合評価で100点満点換算の60点以上を合格とする。原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。
学生への メッセージ	1時間目の授業ではありませんが、遅刻せずに毎回出席することが望ましい。 各授業毎の課題レポートは、期限内に提出してください。 授業中は私語を慎み、集中して授業に臨み、話を聞き、話の内容を理解し、話した内容を理解したうえで授業の内容を整理し、文章にまとめる力をつけてください。
担当者の 研究室等	第1回目の講義時にお知らせします。
備考	講義のキーワードとして、「特許」、「公害・環境問題」、「アナログ的な技術・デジタル的な技術」などを示しておく。 事前事後学習時間は、毎講義当たり、レポート作成、予習、復習の学習時間として2時間程度である。

科目名	産業社会と知的財産	科目名(英文)	Industrial Society and Intellectual Property
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	関堂 幸輔
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

教養科目

授業概要・目的	<p>知的財産は、2002年の小泉首相(当時)による「知財立国宣言」以来、わが国の政策上の戦略的資源の一つとしても位置づけられており、ますますその重要性が増しつつあります。本講義では、知的財産法(知的所有権法)の概要を俯瞰することでなぜ知的財産が法的に保護されるべきなのかを理解し、その一方で、最新の事例等の問題を紹介しつつ、高度情報化社会に伴う情報の積極的な共有化と、いわば情報を囲い込む知的財産権との相克という観点から、将来の知的財産法制の在り方についても検討していくことを目標とします。</p> <p>なお本講義は法学部以外のカリキュラムであり、受講者には法学初心者が多いため含まれていることが予想されますので、この点にも配慮した内容とします。</p>
到達目標	「授業概要・目的」に掲げた知的財産権ないし知的財産法に特有な意義・性質を理解し、それらが将来どのように運用されるべきであるか、自ら考察できるようにすることを到達目標とします。受講生に最低限求められるのは、単に法律や制度を「覚える」ことではなく、法律の「解釈・運用」を「考察・検討」し、時に「疑う」ものだと気づくことです。
授業方法と留意点	板書中心の講義形式とし、適宜配付資料や視覚的資料を用います。なお、本来なら産業から文化まで広範囲に渡る知的財産法の全般を半年のみの科目で修めることはおよそ無理な話なのですが、本講義のカリキュラムはそれを強めていますので、やむを得ず本講義では特許法と著作権法のみを中心に授業を行います。
科目学習の効果(資格)	最先端かつ重要な特別法分野に接することで、より応用的な法学の力や考え方が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	詳細なガイダンス	授業の内容、方法その他について詳細に説明します。	—
	2	情報の意義・性質と知的財産	いわば「情報を囲い込み独占する」という知的財産の制度が、情報本来の性質にどう関わってくるのか、法制度の趣旨と併せて検討します。	事後：情報の独占の是非等について考察する
	3	知的財産のいろいろ	特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権などの対象として身近な例を取り上げ、それぞれ概要を理解します。	事後：各知的財産権の異同の理解に努める
	4	技術的アイデアの保護	特許権の対象である「発明」について理解します。	事後：発明の意義等を具体例に準えて捉える
	5	特許出願と特許権取得の手続	特許権を取得するための出願・審査・登録といった手続の流れを把握します。	事後：産業財産権取得の手続等(フローチャート)の理解に努める
	6	特許権の性質・内容	特許権の存続期間と権利の及ぶ(逆に及ばない)範囲について学びます。「消尽論」「均等論」といった法学上の重要論点もここで取り上げます。	事後：独占権としての特許権の性質等を考察する(特にライセンスについて)
	7	表示・標識の保護	識別性ないし周知性のある表示・標識を保護する制度としての商標法および不正競争防止法について簡単に説明します。	事後：識別標識と信頼の保護の意義等を事例を見つけながら理解する
	8	創作的表現の保護	著作権の対象である「著作物」、そしてそれを伝達する「実演」等について理解します。	事後：表現保護としての著作物の意義・性質に留意して(著作物と似て非なるものとの異同)理解する
	9	著作権の内容(1)	著作権や著作隣接権の具体的内容を把握します。	事後：著作者の権利(著作者人格権および著作財産権)について整理しておく
	10	著作権の内容(2)	同上。	事後：著作隣接権等(実演家、レコード製作者、放送事業者および有線放送事業者の各権利)について整理しておく
	11	著作権の制限(1)	著作権等の存続期間(時間的制限)および「私的使用目的複製」「引用」など、著作権が制限される場合を理解し、そのような制度の趣旨や在り方について検討します。	事後：権利制限規定の意義と変遷について、特に私的使用目的複製を中心に整理しておく
	12	著作権の制限(2)	同上。	事後：権利制限規定について、特に公共目的の権利制限について整理しておく
	13	最新の事例・問題(1)	知的財産法に関する最新の事例や問題点を取り上げ、検討します。	事後：当該回で取り上げた事例の内容の復習
	14	最新の事例・問題(2)	同上。	事後：当該回で取り上げた事例の内容の復習
	15	試験、その他	試験により成績評価をします。試験についての詳細は授業にて説明します。	—

関連科目 民法(特に財産法)、経済法、行政法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業内において適宜指示します。		
	2			
	3			

評価方法 最終回に行う試験100%で評価します。

(基準)	
学生へのメッセージ	こうした最先端の分野に関わる法律には、いわゆる「正解」がありません。現在妥当だとされる考え方が5年後、10年後に変わっている可能性さえあるのです。そうしたことを踏まえて、積極的に自分の頭で考えようとする姿勢が何よりも肝要です。
担当者の研究室等	11号館6階 法学部
備考	上記「学生へのメッセージ」の内容とも関連しますが、社会のさまざまな事象と密接に関連するこのような社会科学においては、周囲のあらゆることが学びのきっかけであり、またそれが絶ゆることはなく、すなわちいつでもどこでも予習・復習することが肝要です。便宜上各回ごとに課題を設定してはいますが、受講生においてはそれに固執することなく臨むことを期待します。こうした観点から、課題の具体的な内容および必要な時間等については、各回の授業内にて指示または助言をします。(各回で扱う抽象的項目は上記の「授業計画」に従いますが、具体的事項はその都度社会の状況に応じて最新の内容を盛り込むつもりです。事前に詳細を定めることは困難で、仮にそうしてしまうと学問の意義やダイナミズムが減殺されかねません。) 事前・事後学習にかかる学習時間は毎回1時間程度と考えてください。

科目名	実践英語上級	科目名(英文)	Practical English for the Advanced
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中野 阿佐子
ディプロマポリシー(DP)	C◎		

教養科目

授業概要・目的	図表や統計データを含む文章にあたり、正確な情報を読み取るリーディング力を身につける。 またリスニング力及びライティング力を含む総合的な英語運用能力の向上を目指す。
到達目標	長文のスムーズな読解と自然な翻訳
授業方法と留意点	テキストに沿って長文読解を中心に展開する。 ペアワーク、グループワークを含む活動を行い、英語表現の定着を図る。 原則4回以上の欠席者には単位を認めないものとする。
科目学習の効果(資格)	英文読解能力と文法知識に基づくリーディング力の向上 TOEIC等の実力試験への対策

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ガイダンス(授業の内容、進め方、評価基準について)	テキストの準備
2	Unit 1 Crime	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習	予習・復習 小テストの準備 単語学習 1-150
3	Unit 2 Mobile phones	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習	予習・復習 小テストの準備 単語学習 151-300
4	Unit 3 Smoking	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習	予習・復習 小テストの準備 単語学習 301-450
5	Unit 4 Junk food	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習	予習・復習 小テストの準備 単語学習 450-600
6	Unit 5 Celebrity marriage	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習	予習・復習 小テストの準備 単語学習 601-750
7	Unit 6 Sport	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習	予習・復習 中間テストの準備 単語学習 751-900
8	Unit 7 Driving	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習	予習・復習 小テストの準備 単語学習 900-1000
9	Unit 8 Bullying	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習	予習・復習 小テストの準備 単語学習 1001-1100
10	Unit 9 Japan's LGBTs	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習	予習・復習 小テストの準備 単語学習 1101-1200
11	Unit 10 Sexism and gender roles	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習	予習・復習 小テストの準備 単語学習 1201-1300
12	Unit 11 Sleeping	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習	予習・復習 小テストの準備 単語学習 1301-1400
13	Unit 12 Japan's population crisis	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習	予習・復習 小テストの準備 単語学習 1401-1500
14	Unit 13 Parasite singles	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習	予習・復習 小テストの準備
15	Unit 14 J-pop	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習	予習・復習 期末テストの準備

関連科目	他の英語科目全般
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Provoke a Response! 身近なデータを英語でひも解く~思考力養成のための英語~	Stuart Gale & 福原俊平	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	総合英語 Forest 7th Edition	石黒 昭博 (監修)	桐原書店
	2			
	3			

評価方法(基準)	e-learning 学習の進捗状況 20%、 期末試験、小テスト、授業態度、宿題など 80%の割合で評価する。
----------	---

	なお、授業態度とは、授業中の質問に対する回答状況、授業への集中度を指す。
学生へのメッセージ	外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりと行ってください。また、e ラーニング教材を有効に活用してください。間違えることを恐れず、積極的に授業に参加してくれることを期待しています。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	事前事後学習には、毎回一時間以上かけて下さい。 自習学習には、期末試験の準備を含めて、合計20時間以上はかけて下さい。 英単語はe-learningを含めて、毎日、平均一時間以上は学習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	実践英語初級	科目名(英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高橋 章夫
ディプロマポリシー(DP)	C◎		

授業概要・目的	2冊の教科書(TOEIC 対策のテキスト、単語集)を用い、TOEIC の各問題の傾向と対策を理解し、高得点を取るのに必要な勉強方法を理解し、それを実践するとともに語彙力を伸ばすことで、TOEIC でのスコアアップにつながる総合的な英語力を向上させる。
到達目標	TOEIC 300 点以上のスコアを取るために必要な英語力を身に着けることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業の最初に単語テストを行います。その後、TOEIC 対策のテキストの解答と解説を中心に演習形式で進めていきます。単語テストに関しては、E-Learning (リンガポルタ) を活用し、必ず予習をしてきてください。また、単語テストには前回の授業内容の復習問題も加えますので、しっかり復習してください。
科目学習の効果(資格)	TOEICブリッジ、およびTOEICテストのスコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	TOEIC テストの説明、模擬テストの実施	模擬テストの復習
2	Unit 1 : Eating Out	単語テスト 1 TOEIC 形式の問題に取り組む 文法: 動詞 (1)	単語学習範囲: 401-440 教科書の予習、復習
3	Unit 2 : Travel	単語テスト 2 TOEIC 形式の問題に取り組む 文法: 動詞 (2)	単語学習範囲: 441-480 教科書の予習、復習
4	Unit 3 : Amusement	単語テスト 3 TOEIC 形式の問題に取り組む 文法: 動詞 (3)	単語学習範囲: 481-520 教科書の予習、復習
5	Unit 4 : Meetings	単語テスト 4 TOEIC 形式の問題に取り組む 文法: 代名詞	単語学習範囲: 521-560 教科書の予習、復習
6	Unit 5 : Personnel	単語テスト 5 TOEIC 形式の問題に取り組む 文法: 不定詞と動名詞 (1)	単語学習範囲: 561-600 教科書の予習、復習
7	Unit 6 : Shopping	単語テスト 6 TOEIC 形式の問題に取り組む 文法: 不定詞と動名詞 (2)	単語学習範囲: 601-640 教科書の予習、復習
8	Unit 7 : Advertisement	単語テスト 7 TOEIC 形式の問題に取り組む 文法: 名詞・冠詞・数量詞(1)	単語学習範囲: 641-680 教科書の予習、復習
9	Unit 8 : Daily Life	単語テスト 8 TOEIC 形式の問題に取り組む 文法: 名詞・冠詞・数量詞(2)	単語学習範囲: 681-720 教科書の予習、復習
10	Unit 9 : Office Work	単語テスト 9 TOEIC 形式の問題に取り組む 文法: 仮定法	単語学習範囲: 721-760 教科書の予習、復習
11	Unit 10 : Business	単語テスト 10 TOEIC 形式の問題に取り組む 文法: 分詞	単語学習範囲: 761-808 教科書の予習、復習
12	Unit 11 : Traffic	単語テスト 6 TOEIC 形式の問題に取り組む 文法: 関係詞	教科書の予習、復習
13	Unit 12 : Finance and Banking	TOEIC 形式の問題に取り組む 文法: 接続詞	教科書の予習、復習
14	Unit 13 : Media	TOEIC 形式の問題に取り組む 文法: 前置詞	教科書の予習、復習
15	Unit 14 : Health and Welfare	TOEIC 形式の問題に取り組む	教科書の予習、復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	一歩上を目指す TOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 1 ?Basic?	北尾泰幸	朝日出版
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	原則として、出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 共通試験 30%(TOEIC20%、単語試験 10%)、e-learning 学習の進捗度 10%、小テスト 25%、授業中に取り組む課題 5%、定期テスト 30%の割合で、総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	TOEIC のスコアは必ずしも英語力がそのまま反映されたものではありませんが、e-learning の活用、学内 TOEIC テストの受験、そしてこの授業を通し、TOEIC のスコアが上がる喜びを感じ、それをさらなる英語学習の励みとすることを願っています。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	事前事後学習には、e-learning での単語学習を含めて毎回1時間以上かけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	---

科目名	実践英語初級	科目名(英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー(DP)	C◎		

授業概要・目的	<p>本授業では、TOEICの受験対策に特化し、スコアアップを目指す。 発音の特徴や聞き間違いやすい単語の確認、各文法事項の定着、語彙力のアップ、複数の資料を参照して問題を解く方法など、様々な角度からアプローチをする。 また、効率的に問題を解けるようになることも本授業の目的である。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・前期末の TOEIC スコアアップを目指す。目標は TOEIC350 点 とする。 ・各 part の総合的なスコアアップ。 ・効率的に問題が解けるようになる。 ・語彙力、文法力の定着。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テキストの単語集から毎回単語テストを行う。 ・毎回 TOEIC の問題に取り組み、随時解説を加える。 ・辞書、電子辞書を持参すること（携帯やスマートフォンでの代用は認めない）。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。 ①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。 ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。（原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。） ①から③が続く場合、単位を認めない。

科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等
-------------	-----------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方、評価方法などを説明。 ・pre-test 	
2	Unit 1: オフィスで: 自動詞と他動詞	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・語彙問題 ・リスニング・セクション 写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題 ・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 読解問題 	事前学習課題：単語学習（401-440） 事後学習課題： リスニングを再度聞く 文法事項のまとめ
3	Unit 2: 買い物: 形容詞・副詞・前置詞	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・語彙問題 ・リスニング・セクション 写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題 ・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 読解問題 	事前学習課題：単語学習（441-480） 事後学習課題： リスニングを再度聞く 文法事項のまとめ
4	Unit 3: 食事: 名詞と冠詞	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・語彙問題 ・リスニング・セクション 写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題 ・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 読解問題 	事前学習課題：単語学習（481-520） 事後学習課題： リスニングを再度聞く 文法事項のまとめ
5	Unit 4: 観光: 進行形	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・語彙問題 ・リスニング・セクション 写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題 ・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 読解問題 	事前学習課題：単語学習（521-560） 事後学習課題： リスニングを再度聞く 文法事項のまとめ
6	Unit 5: 宣伝・広告: 完了形	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・語彙問題 ・リスニング・セクション 写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題 ・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 読解問題 	事前学習課題：単語学習（561-600） 事後学習課題： リスニングを再度聞く 文法事項のまとめ
7	Unit 6: 数字: 不定詞	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・語彙問題 ・リスニング・セクション 写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題 ・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 読解問題 	事前学習課題：単語学習（601-640） 事後学習課題： リスニングを再度聞く 文法事項のまとめ
8	中間テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・語彙問題 ・リスニング・セクション 	事前学習課題：単語学習（641-680） 事後学習課題： リスニングを再度聞く

			写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題 ・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 短文穴埋め問題 長文穴埋め問題 読解問題	文法事項のまとめ
9	Unit 7: 日常生活: 動名詞		・単語テスト ・語彙問題 ・リスニング・セクション 写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題 ・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 短文穴埋め問題 長文穴埋め問題 読解問題	事前学習課題: 単語学習 (681-720) 事後学習課題: リスニングを再度聞く 文法事項のまとめ
10	Unit 8: エンターテインメント: 関係代名詞と関係副詞		・単語テスト ・語彙問題 ・リスニング・セクション 写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題 ・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 短文穴埋め問題 長文穴埋め問題 読解問題	事前学習課題: 単語学習 (721-760) 事後学習課題: リスニングを再度聞く 文法事項のまとめ
11	Unit 9: 交通: 複文		・単語テスト ・語彙問題 ・リスニング・セクション 写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題 ・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 短文穴埋め問題 長文穴埋め問題 読解問題	事前学習課題: 単語学習 (761-800) 事後学習課題: リスニングを再度聞く 文法事項のまとめ
12	Unit 10: 職業: 受動態		・単語テスト ・語彙問題 ・リスニング・セクション 写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題 ・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 短文穴埋め問題 長文穴埋め問題 読解問題	事前学習課題: 単語学習 (801-808+指定範囲) 事後学習課題: リスニングを再度聞く 文法事項のまとめ
13	Unit 11: いろいろな国の英語 1: 分詞		・単語テスト ・語彙問題 ・リスニング・セクション 写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題 ・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 短文穴埋め問題 長文穴埋め問題 読解問題	事前学習課題: 単語学習 (範囲は指定) 事後学習課題: リスニングを再度聞く 文法事項のまとめ
14	Unit 12: いろいろな国の英語 2: 比較表現		・単語テスト ・語彙問題 ・リスニング・セクション 写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題 ・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 短文穴埋め問題 長文穴埋め問題 読解問題	事前学習課題: 単語学習 (範囲は指定) 事後学習課題: リスニングを再度聞く 文法事項のまとめ
15	まとめテスト		・単語テスト ・語彙問題 ・リスニング・セクション 写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題 ・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 短文穴埋め問題 長文穴埋め問題 読解問題	事前学習課題: 単語学習 (範囲は指定) 事後学習課題: 期末試験に向けて準備

関連科目	他の英語関連科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC TEST Trainer Target 350, Revised Edition	Masami Tanabe, Kumiko Yumoto,	センゲージラーニング

			Geoffrey Tozer, George W. Pifer	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>共通試験=30% (TOEIC20%、単語試験 10%) e-learning 学習=10% 中間テスト+まとめテスト=20% 単語テスト+平常点=20% 定期試験=20%</p> <p>・注意：原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。平常点とは、課題に取り組む姿勢や授業態度（投げかける質問に対する呼応、積極性、集中度など）を総合的に評価するものであり、出席点ではない。</p>			
学生への メッセージ	<p>繰り返し問題を解き、間違えた箇所をしっかりと復習することを通じて、TOEIC のスコアは上がっていきます。 少しでも多く点数を取れるよう、頑張りましょう。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	<p>授業に関係のない行為は厳しく減点、もしくは欠席扱いとする。授業中は勉強に集中しましょう。 事前事後学習には毎回1時間以上かけること。 特に中間テストとまとめテスト、期末テストの前には3時間以上、復習には2時間以上かけること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>			

科目名	実践英語初級	科目名 (英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷脇 康子
ディプロマポリシー (DP)	C◎		

教養科目

授業概要・目的	TOEIC/TOEICブリッジの各問題の傾向と対策を理解し、高得点を取るのに必要な勉強方法を理解し、それを実践するとともに語彙力を伸ばすことで、TOEIC/TOEICブリッジでのスコアアップにつながる総合的な英語力を向上させる。
到達目標	TOEIC 300点以上 (TOEICブリッジ 120点以上) のスコアを取るために必要な英語力を身に付けることを到達目標とする。
授業方法と留意点	毎回、最初に単語テストを行います。その後、プリント教材の解答と解説を中心に演習形式で進めていきます。単語テストに関しては、E-Learning (リンガポルタ) を活用し、必ず予習をしてきてください。また、単語テストには前回の授業内容の復習問題も加えますので、しっかり復習してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEICブリッジ、およびTOEICテストのスコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業概要の説明、腕試しテスト	なし
2	平叙文と疑問文	単語テスト1 聞き取り演習 発表と解説	単語学習範囲：401-435 教科書の予習、復習
3	一般疑問文	単語テスト2 聞き取り演習 発表と解説	単語学習範囲：436-470 教科書の予習、復習
4	特殊疑問文	単語テスト3 聞き取り演習 発表と解説	単語学習範囲：471-500 教科書の予習、復習
5	付加疑問文	単語テスト4 聞き取り演習 発表と解説	単語学習範囲：501-535 教科書の予習、復習
6	感嘆文・命令文	単語テスト5 聞き取り演習 発表と解説	単語学習範囲：536-570 教科書の予習、復習
7	間接疑問文	単語テスト6 聞き取り演習 発表と解説	単語学習範囲：571-600 教科書の予習、復習
8	まとめ1	単語テスト7 1回目～7回目授業の復習、中間テスト	単語学習範囲：601-640 教科書の予習、復習
9	現在形	単語テスト8 中間テスト返却と解説 聞き取り演習 発表と解説	単語学習範囲：641-680 教科書の予習、復習
10	過去形	単語テスト9 聞き取り演習 発表と解説	単語学習範囲：681-719 教科書の予習、復習
11	未来表現	単語テスト10 聞き取り演習 発表と解説	単語学習範囲：720-760 教科書の予習、復習
12	助動詞	単語テスト11 聞き取り演習 発表と解説	単語学習範囲：761-808 教科書の予習、復習
13	進行相	聞き取り演習 発表と解説	教科書の予習、復習
14	完了相	聞き取り演習 発表と解説	教科書の予習、復習
15	まとめ2	9回目～14回目授業の復習	教科書の予習、復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		プリント教材	
2		The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	原則として、出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 共通試験 30% (TOEICブリッジ 20%、単語試験 10%)、e-learning 学習の進捗度 10%、中間テスト 25%、定期試験 25%、授業中に取り組む小テスト 10% の割合で、総合的に評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	授業はテンポよくリズムカルに進行します。集中力を切らさず一生懸命ついてきてください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	事前事後学習には、e-learningでの単語学習を含めて毎回1時間以上かけること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	実践英語初級	科目名 (英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	東野 厚子
ディプロマポリシー (DP)	C◎		

授業概要・目的	TOEIC (Bridge)スコアアップを目指す。そのために語彙力を高め、文法事項を理解して英語の基礎力をつける。TOEIC形式のテキストを使用し、必須単語を定着させ、テストに頻出するフレーズ、表現を学び本番形式の問題に取り組む。授業では、なるべく全員を指名する。
到達目標	TOEIC300点以上の実力をつける。 国外の文献や資料から幅広い知識を獲得し、建築・都市工学技術者として英語を用いてコミュニケーションができる。
授業方法と留意点	毎回、最初に単語テストを行う。その後、TOEIC対策のテキストを使用し、演習形式で進めていく。各Unit毎に単語の確認、文法理解のテストを行うので、復習が必要である。
科目学習の効果 (資格)	TOEICのスコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Chapter 2 Part 5 : 品詞の選択 Part 7 : 図表	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題 確認テスト	単語学習範囲 : 0419-0456 授業内容の復習、予習 確認テスト
3	Chapter 3 Part 5 : 接続詞 Part 6	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題 確認テスト	単語学習範囲 : 0457-0494 授業内容の復習、予習 確認テスト
4	Chapter 4 Part 5 : 時制 Part 7 : 広告宣伝文	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題 確認テスト	単語学習範囲 : 0495-0523 授業内容の復習、予習 確認テスト
5	Chapter 5 Part 5 : 関係詞 Part 6	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題 確認テスト	単語学習範囲 : 0524-0563 授業内容の復習、予習 確認テスト
6	Chapter 6 Part 5: 語彙の問題 Part 7 お知らせ文	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題 確認テスト	単語学習範囲 : 0564-0602 授業内容の復習、予習 確認テスト
7	Chapter 7 Part 5: 前置詞 Part 6	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題 確認テスト	単語学習範囲 : 0603-0641 授業内容の復習、予習 確認テスト
8	Chapter 8 Part 8: 人称代名詞 Part 7 テキストメッセージ	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題 確認テスト	単語学習範囲 : 0642-0680 授業内容の復習、予習
9	Chapter 9 Part 5: 態 Part 7 手紙文	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題 確認テスト	単語学習範囲 : 0681-0713 授業内容の復習、予習
10	Chapter 10 Part 5 : 数量に関する語 Part 7 告知文	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題 確認テスト	単語学習範囲 : 0714-0753 授業内容の復習、予習
11	Chapter 11 Part 5: 形容詞の比較 Part 7 新聞記事など	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題 確認テスト	単語学習範囲 : 0754-0808 授業内容の復習、予習
12	Chapter 12 Part 5: 総合演習① Part 6, 7 様々な文書①	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題 確認テスト	単語学習 (指定された箇所) 授業内容の復習、予習
13	Chapter 13 Part 5: 総合演習② Part 6, 7 様々な文書②	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題 確認テスト	単語学習 (指定された箇所) 授業内容の復習、予習
14	Chapter 14 Part 7: ダブルパッセージ Part 7 トリプルパッセージ	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題 確認テスト	単語学習 (指定された箇所) 授業内容の復習、予習
15	まとめ	全体のまとめ 文法事項の確認等	単語学習 (指定された箇所) 授業内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	THE READING SECTION GROUNDWORK FOR THE TOEIC	Donna T. Fujimoto 他	三修社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂	

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	共通試験 30% (TOEIC20%、統一英語単語テスト10%)、e-learning10%、定期試験 40%、小テスト 10%、平常点 (授業中の質問に対する回答状況、授業への積極性、集中度など) 10% の割合で、総合的に評価する。			
学生への メッセージ	毎日の積み重ねが大切です。あきらめず、最後まで頑張りましょう。 評価には 4/5 以上の出席が必要です。遅刻は 3 回で欠席扱いとします。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)			
備考	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	実践英語初級	科目名(英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田村 康子
ディプロマポリシー(DP)	C◎		

授業概要・目的	この授業では、TOEIC300-400点レベルの基礎的な英語力を養うことを目標に、テキストに沿って練習問題をこなしていく。TOEIC関連の基本的な語彙や表現を覚え、E-mail、ビジネス文書などを取り上げた簡単な読解問題に親しんでもらう。また、各ユニットで説明されている英語表現を習得する。テキストに沿って聞き取りを行い、リスニング力も養成する。練習問題をたくさんこなしてTOEICの点数アップを狙う。
到達目標	受講者が、TOEICの出題形式に慣れ、授業のみならず、自主的にTOEICの受験勉強をすすめ、最終的には50~100点程度スコアを上げることが目標である。
授業方法と留意点	毎週、単語の副読本から単語テストを行う。また、テキストに沿って、TOEICのリスニング、リーディング対策を行っていく。
科目学習の効果(資格)	語彙力の強化及びTOEICのスコアアップ。リスニング、リーディング力の向上。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Unit 1: 旅行①	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.1-6 練習問題を行うこと。 単語帳
2	Unit 2: オフィス①	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.7-12 練習問題を行うこと。 単語テスト#401-420ƥ-440
3	Unit 3: レストラン	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.13-18 練習問題を行うこと。 単語テスト#441-460Ǎ-480
4	Unit 4: 季節・天気	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.19-24 練習問題を行うこと。 単語テスト#481-500ǵ-520
5	Unit 5: 健康	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.25-30 練習問題を行うこと。 単語テスト#521-540ȝ-560
6	いろいろな英語の発音に慣れよう①	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.31-32 練習問題を行うこと。 単語テスト#561-580Ʌ-600
7	Unit 6: 旅行②	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.33-38 練習問題を行うこと。 単語テスト#601-620ɭ-640
8	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語テスト#641-660ʕ-680
9	Unit 7: 休暇	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.39-44 練習問題を行うこと。 単語テスト#681-700ʽ-720
10	Unit 8: オフィス②	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.45-50 練習問題を行うこと。 単語テスト#721-740˥-760
11	Unit 9: ショッピング	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.51-56 練習問題を行うこと。 単語テスト#761-780̍-800 #801-808(各自学習)
12	Unit 10: 就職活動	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.57-62 練習問題を行うこと。 単語テスト#419-456ǉ-494ǯ-523 #401-418(各自学習)
13	いろいろな英語の発音に慣れよう②	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.63-64 練習問題を行うこと。 単語テスト#524-563ȴ-602
14	Unit 11: 娯楽	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.65-70 練習問題を行うこと。 単語テスト#603-641ʂ-680
15	Unit 12: 旅行③	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.71-76 練習問題を行うこと。 単語テスト#681-713ˊ-753˲-793 #794-808(各自学習)

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The TOEIC Listening & Reading Test CIRCUIT (Updated Edition)	鶴岡公幸、Matthew Wilson	松柏社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	TOEIC Bridge 20% 統一英語単語テスト 10% e-learning 学習の進捗度 10% 期末試験(20%)、臨時テスト(20%)、クラス内単語テスト(10%)、授業態度(投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性など)(10%)
学生への メッセージ	毎回の授業に必ず出席し、授業内容を復習すること。 単語力を増強するため e-learning に積極的に取り組むこと。 さらに、TOEIC を受験することを勧める。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回授業開始時に、単語テストを行います。 単語帳#401-808 事前事後学習には、毎回一時間以上かけて下さい。 自習学習には、期末試験の準備を含めて、合計 20 時間以上はかけて下さい。 英単語は e-learning を含めて、毎日、平均一時間以上は学習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	実践英語中級	科目名 (英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 未奈
ディプロマポリシー (DP)	C◎		

授業概要・目的	理工系分野を取り巻く社会状況は、インターネットの普及、経済のグローバル化が進む中で大きく変化しており、研究や企業活動において、英語で情報を得て発信する機会が急増しています。この授業では、基礎的な英語学習と理工系の学習内容を組み合わせたテキストを使用し、文法、読解、語彙など広く総合的な英語力の底上げを目指します。そして、社会に出た際に専門的な英語が必要とされた場合にも対応できる語学力を身につけることを目標とします。
到達目標	英語によるコミュニケーションに役立つ実用的な英語表現を習得する。 理工学系の専門分野に関する内容に対応できる英語力を身につける。
授業方法と留意点	読解・音読演習を中心に授業を進めます。英文和訳は毎回の授業中に、担当する受講者をランダムに指名します。受講者はいつ発表の機会が来てもいいように、予習を十分におこなった上で授業にのぞんでください。 小テスト対策として、毎週決まった分量の単語・語句を覚え、テストで達成度を確認することにより、全般的な英語力のアップにもつながります。真剣に取り組みしましょう。 授業では英和辞書（電子辞書可／高校英語以上に対応できるレベルのもの）も使用するので、教科書と併せて毎回必ず持参すること。教科書と辞書は1回目の授業から使用する予定です。教科書の販売期間中に早めに購入してください。
科目学習の効果 (資格)	英語で書かれた科学・理工系分野の文書を正確に理解できる英語力の修得 TOEICや英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Atoms and radiation (原子と放射能)	英文読解・語彙・発音の練習	教科書の予習・復習； 単語小テスト(2)の準備： 範囲 0871-940
3	Forces and movement (力と運動)	英文読解・語彙・発音の練習	教科書の予習・復習； 単語小テスト(3)の準備： 範囲 0941-1010
4	Algebra (代数)	英文読解・語彙・発音の練習	教科書の予習・復習； 単語小テスト(4)の準備： 範囲 1011-1080
5	Solids, liquids and gases (固体、液体、気体)	英文読解・語彙・発音の練習	教科書の予習・復習； 単語小テスト(5)の準備： 範囲 1081-1150
6	Electricity (電気)	英文読解・語彙・発音の練習	教科書の予習・復習； 単語小テスト(6)の準備： 範囲 1151-1220
7	Geometry (幾何)	英文読解・語彙・発音の練習	教科書の予習・復習； 単語小テスト(7)の準備： 範囲 1221-1290
8	Chemistry in everyday life (日常の化学)	英文読解・語彙・発音の練習	教科書の予習・復習； 単語小テスト(8)の準備： 範囲 1291-1360
9	Energy (エネルギー)	英文読解・語彙・発音の練習	教科書の予習・復習； 単語小テスト(9)の準備： 範囲 1361-1430
10	Statistics and probability (統計と確率)	英文読解・語彙・発音の練習	教科書の予習・復習； 単語小テスト(10)の準備： 範囲 1431-1500
11	Acids, alkalis and esters (酸、アルカリ、エステル)	英文読解・語彙・発音の練習	教科書の予習・復習； 単語小テスト(11)の準備： 範囲 0801-1150
12	Waves (波動)	英文読解・語彙・発音の練習	教科書の予習・復習； 単語小テスト(12)の準備： 範囲 1151-1500
13	Differentiation and integration (微分と積分)	英文読解・語彙・発音の練習	教科書の予習・復習
14	長文演習：Nihonium (ニホニウム) / Artificial photosynthesis (人工光合成)	英文読解・語彙・発音の練習	教科書の予習・復習
15	長文演習：The Nobel Prize (ノーベル賞) / Olympic medals (オリンピックメダル)	英文読解・語彙・発音の練習	授業内容の復習、定期試験対策

関連科目	実践英語入門
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	CLIL Basic Science & Math	小島さつき、Chad L. Godfrey、土田敦子、佐藤元樹	三修社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語集	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・共通試験 (統一英語単語テスト) … 20% ・e-learning 学習…20% ・授業態度 (投げかける質問に対する発言、演習の解答・予習内容の発表など) … 20% ・小テスト (全12回実施) … 10% ・定期試験… 30%
-----------	--

	以上を総合評価します。
学生へのメッセージ	外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりとこなしてください。また、授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。e-learning（リンガポルタ）を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室（授業曜日のみ）
備考	原則として、出席率 80%以上（12 回以上出席）の受講者のみを成績評価の対象とします。4 回以上（正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）授業を欠席した場合、単位が取得できる見込みはありません。 テキスト（教科書）を忘れた場合、また、携帯電話の使用、私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当該の授業における評価点をゼロとして扱います。 その他の詳細は、第 1 回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず出席してください。

科目名	実践英語中級	科目名(英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー(DP)	C◎		

授業概要・目的	英語力向上にはこれまでの中学高校レベルの復習も欠かすことはできません。特に、資格(TOEIC, 英検など)取得には読み書き、英文法のみならず、リスニングにも重点を置く必要があります。毎回の授業で取り組みます。聴解力がつくのを実感できますが、前向きに学習することが大前提です。資格取得に向けて前向きに受験してください。また授業担当者がアメリカで経験したことを写真で紹介することもあります。
到達目標	基礎的なリスニング力、語彙力、文法知識を習得し、TOEIC 400点を目標とする。英語資格試験に積極的に挑戦すること。
授業方法と留意点	読解、文法問題集、ディクテーションなどを多用し、語彙の習得、文法力向上、聴解力向上を図る。中高で英語に苦手意識を持った学生も初心に帰り、学習して欲しい。
科目学習の効果(資格)	TOEICの得点向上が期待できるので積極的に受験して欲しい。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEICの説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 809-879
2	機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 880-950
3	空港で放送される文章を通して接続詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 951-1020
4	ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 1021-1090
5	レストランで使われる文章を通して形容詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 1091-1160
6	買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 1161-1230
7	野球についての文章を通して比較級の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 1231-1300
8	中間試験	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 1301-1370
9	ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 1371-1440
10	旅行案内についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 1441-1500
11	問題解決についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記
12	体調不良についての文章を通して分詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記
13	電話の会話についての文章を通して動名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語暗記の復習
14	別れの手紙の文章を通してセンスグループの学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語暗記の復習
15	9-14回の復習とまとめ	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	期末試験の準備

関連科目	他の全ての英語科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Forerunner to Power - Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
2				
3				

評価方法(基準)	担当教員の評価60%、統一英語単語テスト20%、e-learning 20%で全体の評価を行う。居眠り、携帯電話の使用はペナルティあり。
----------	--

学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時にi-Pod等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 英単語はe-learning学習など、意味、発音、綴りを確認し、毎日1時間は学習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	---

科目名	実践英語中級	科目名(英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー(DP)	C◎		

授業概要・目的	TOEIC 400点の実力をめし、文法、読解、語彙など広く英語力の底上げを行う。			
到達目標	TOEIC400点以上の実力 (TOEIC Bridge 140点)			
授業方法と留意点	授業の進め方は毎回指名により学生諸君に発表してもらうのでそのつもりで授業に望んでもらいたい。予習として、必ず本文に目を通し、わからない単語や表現をチェックしておくことが大切である。練習問題には各自必ず答えを出しておくこと。			
科目学習の効果(資格)	理工系英語の基本を固め、専門英語と TOEIC Test の得点アップにつなげる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業内容の詳しい解説	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 単語小テスト NO.0809-0880
	2	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 単語小テスト NO.0881-0950
	3	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 単語小テスト NO.0951-1020
	4	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 単語小テスト NO.1021-1090
	5	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 単語小テスト NO.1091-1160
	6	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 単語小テスト NO.1161-1230
	7	Review	前半の復習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 単語小テスト NO.1231-1300
	8	前半臨時試験	前半臨時試験	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 単語小テスト NO.1301-1370
	9	前半試験返却及び解説	前半試験返却及び解説	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 単語小テスト NO.1371-1440
	10	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 単語小テスト NO.1441-1500
	11	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	12	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	13	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	14	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	15	Review	後半復習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
関連科目	TOEIC、英検ほか、英語関連の資格一般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	New Steps to Success in the TOIC Test Grammar & Reading 450	David E. Bramley/中井弘一	松柏社
	2	「The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	NISHIYA Koji	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	共通試験 20% (単語試験 20%) 定期試験 40% 小テスト 10% 授業態度 (発表など) 10%、e-learning20% の割合で総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	図書館やPC等を利用し日頃から英語に親しんでください。			
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	実践英語中級	科目名(英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー(DP)	C◎		

授業概要・目的	今までに学んできた基本文法知識を確認し、皆さんが受ける TOEICブリッジ受験に必要な解法テクニック、特に普段の努力を積みめば必ず伸びる文法力及び読解力の更なる向上を目標とする。又、授業に平行してテスト受験に欠かせない語彙力向上も目指す。また、授業計画は進度によって変わる場合がある。
到達目標	千里の山も一歩から…「文法ルール及び語彙、毎日少しずつ繰り返し覚えよう！」文法問題が解けるようになるには、1つでも多くの文法ルールを覚え、問題文にどの文法文法ルールが使われているか見抜くのが早道であり、毎日少しずつの努力が大きな結果につながる。単語と同じく、根気よく繰り返し覚え、1つでも多くの問題が解けるように頑張ろう。
授業方法と留意点	毎週、授業時に単語帳から単語テストを行う予定。今まで習ってきた語彙や文法知識を駆使し、一つでも多くの問題が解けることを望む。予習として次に進む分の練習問題を解いて授業に臨もう。特に4択問題は今まで習った文法ルール及び語彙を駆使し、「この選択肢はこう間違っているから違う」と分かる様になればしめたもの。授業で出てきた新しい単語や学んだ内容をくり返して覚えるのが上達への早道です！
科目学習の効果(資格)	TOEICブリッジ受験に必要な基本的事項の復習及び知識の養成。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	次回の第一回単語テスト範囲、809-850番を勉強する事。
2	Unit 1 Eating Out 文法：動詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.1-5、次回の第二回単語テスト範囲、851-900番を勉強する事。
3	Unit 1 Eating Out 文法：動詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.6-8、次回の第三回単語テスト範囲、901-950番を勉強する事。
4	Unit 2 Travel 文法：動詞の時制(1)	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.9-13、次回の第四回単語テスト範囲、951-1000番を勉強する事。
5	Unit 2 Travel 文法：動詞の時制(1)	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.14-16、次回の第五回単語テスト範囲、1001-1050番を勉強する事。
6	Unit 3 Amusement 文法：動詞の時制(2)	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.17-21、次回の第六回単語テスト範囲、1051-1100番を926-950番を勉強する事。
7	Unit 3 Amusement 文法：動詞の時制(2)	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.22-24、次回の第七回単語テスト範囲、1101-1150番を勉強する事。
8	Unit 4 Meetings 文法：代名詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.25-29、次回の第八回単語テスト範囲、1151-1200番を976-1000番を勉強する事。
9	Unit 4 Meetings 文法：代名詞	リーディング問題演習	教科書 p.30-32、次回の第九回単語テスト範囲、1201-1250番を(詳細は後日指示する)を勉強する事。
10	Unit 5 Personnel 文法：不定詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.33-37、次回の第十回単語テスト範囲、1251-1300番を(詳細は後日指示する)を勉強する事。
11	Unit 5 Personnel 文法：不定詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.38-40、次回の第十一回単語テスト範囲、1301-1350番を(詳細は後日指示する)を勉強する事。
12	Unit 6 Shopping 文法：動名詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.41-45、次回の第十二回単語テスト範囲、1351-1400番を(詳細は後日指示する)を勉強する事。
13	Unit 6 Shopping 文法：動名詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.46-48、次回の第十三回単語テスト範囲、1401-1450番を(詳細は後日指示する)を勉強する事。
14	Unit 7 Advertisement Media 文法：冠詞、名詞(1)	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.49-53、次回の第十四回単語テスト範囲、1451-1500番を勉強する事。
15	Unit 7 Advertisement Media 文法：冠詞、名詞(1)	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.54-56

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Step-uo Skills for the TOEIC Test いま始めよう TOEIC テスト	北尾泰幸、林姿穂、西田晴美、ブライアンコバート編著	朝日出版社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (単語集)	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	定期試験(40%)、提出物(10%)、単語小テスト(5%)、平常点(授業態度など5%)の合計60%にe-learning学習進捗度(20%)、統一英語単語テスト(20%)を足して総合評価します。TOEICブリッジ及び統一単語テストを受験しなかった人は評価に大きく影響します。また、日頃の授業態度も重視します。
----------	--

学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	事前、事後学習には毎回1時間以上取り組み、課題に1回当たり1時間程度かけて仕上げること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

科目名	実践英語中級	科目名(英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー(DP)	C◎		

授業概要・目的	今までに学んできた基本文法知識を再確認し、やさしい科学系リーディングのテキストを用いて文法、読解、語彙など広く英語力の底上げを行う。また授業に平行して将来受験するであろう TOEIC に欠かせない語彙力向上も目指す。
到達目標	英語力の向上 TOEIC などの資格試験のスコアアップ
授業方法と留意点	授業開始時に単語帳から単語テストを行います。(10回)リーディングパートは各自予習してくる。授業中何度も当たりますので、積極的な授業態度を望みます。
科目学習の効果(資格)	語力の養成

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業方法、評価方法についての説明 単語テスト：809-850	次回の第2回単語テスト範囲を勉強する事。
2	UNIT 1 Hydroponics in Japan	単語テスト：851-915 単語、読解、文法	教科書の復習、次回の第3回単語テスト範囲を勉強する事。
3	UNIT 2 Waste Recycling	単語テスト：916-980 単語、読解、文法	教科書の復習、次回の第4回単語テスト範囲を勉強する事。
4	UNIT 3 El Niño	単語テスト：981-1045 単語、読解、文法	教科書の復習、次回の第5回単語テスト範囲を勉強する事。
5	UNIT 4 Potassium	単語テスト：1046-1110 単語、読解、文法	教科書の復習、次回の第6回単語テスト範囲を勉強する事。
6	UNIT 5 Autumn Colors	単語テスト：1111-1175 単語、読解、文法	教科書の復習、次回の第7回単語テスト範囲を勉強する事。
7	UNIT 6 AIDS: The Greatest Plague	単語テスト：1176-1240 単語、読解、文法	教科書の復習、次回の第8回単語テスト範囲を勉強する事。
8	UNIT 7 Honeybees	単語テスト：1241-1305 単語、読解、文法	教科書の復習、次回の第9回単語テスト範囲を勉強する事。
9	UNIT 8 The Moon's Influence on the Earth	単語テスト：1306-1370 単語、読解、文法	教科書の復習、次回の第10回単語テスト範囲を勉強する事。
10	UNIT 9 Hyonosis	単語テスト：1371-1435 単語、読解、文法	教科書を復習する事。
11	UNIT 10 Sleep	単語テスト：1435-1500 単語、読解、文法	教科書を復習する事。
12	UNIT 11 Threats to the Environment	単語、読解、文法	教科書を復習する事。
13	UNIT 12 Dinosaur Disappearance	単語、読解、文法	教科書を復習する事。
14	UNIT 13 artists and Sickness	単語、読解、文法	教科書を復習する事。
15	Unit 14 Hiccups	試験に向けた復習	後期範囲一通り

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	VOA Science Briefs	鈴木寛次	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験(50%)、単語小テスト(10%)の合計60%にe-learning学習進捗度(20%)、統一英語単語テスト20%)を足して総合評価します。統一単語テストを受験しなかった人は評価に大きく影響するので、各自責任を持って受験して下さい。
----------	--

学生へのメッセージ	私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体で英語力を向上させましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	事前、事後学習には毎回1時間以上取り組み、課題に1回当たり1時間程度かけて仕上げる。『質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する』
----	--

科目名	実践英語中級	科目名(英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー(DP)	C◎		

授業概要・目的	TOEIC 400点の実力を目指し、文法、読解、語彙など広く英語力の底上げを行う。
到達目標	TOEIC400点以上の実力 (TOEIC Bridge 140点)
授業方法と留意点	授業の進め方は毎回指名により学生諸君に発表してもらいますのでそのつもりで授業に望んでもらいたい。予習として、必ず本文に目を通し、わからない単語や表現をチェックしておくことが大切である。練習問題には各自必ず答えを出しておくこと。
科目学習の効果(資格)	理工系英語の基本を固め、専門英語と TOEIC Test の得点アップにつなげる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業内容の詳しい解説	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 単語小テスト NO.0809-0880
	2	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 単語小テスト NO.0881-0950
	3	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 単語小テスト NO.0951-1020
	4	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 単語小テスト NO.1021-1090
	5	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 単語小テスト NO.1091-1160
	6	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 単語小テスト NO.1161-1230
	7	Review	前半の復習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 単語小テスト NO.1231-1300
	8	前半のまとめ	前半のまとめも文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 単語小テスト NO.1301-1370
	9	前半試験返却及び解説	前半試験返却及び解説	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 単語小テスト NO.1371-1440
	10	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 単語小テスト NO.1441-1500
	11	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	12	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	13	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	14	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	15	Review	後半復習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること

関連科目	TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	New Steps to Success in the TOEIC Test Grammar & Reading 450	David E. Bramley / 中井弘一	松柏社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	NISHIYA Koji	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	共通試験 20% (単語試験 20%) 定期試験 40% (場合によっては中間試験を実施する場合がある (実施する場合、中間・期末試験各 20%) 小テスト 10% 授業態度 (発表など) 10%、e-learning 20% の割合で総合的に評価する。原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。
----------	--

学生へのメッセージ	図書館やPC等を利用し日頃から英語に親しんでください。
-----------	-----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	---

科目名	実践英語中級	科目名(英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー(DP)	C◎		

教養科目

授業概要・目的	英語の読み・書き・話し・聴く四技能をバランスよく伸ばし、TOEICなどの英語資格試験のスコアアップに繋がるような実践力を身に付けることを目標とします。
到達目標	・TOEIC500点以上の取得 ・統一英語単語テストでの高得点
授業方法と留意点	・リングホルタのe-learning課題はスケジュールに沿って、授業外で自習してください。
科目学習の効果(資格)	TOEICテスト、TOEIC Bridgeテスト、TOEFLテスト、英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション ユニット1 語彙	授業の内容、方法、評価基準、課題について説明	TOEIC単語809-879 ユニット1予習
	2	ユニット2 語彙	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 単語テスト1	TOEIC単語880-948 ユニット1復習 ユニット2予習
	3	ユニット4 語彙	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 単語テスト2	TOEIC単語949-1017 ユニット2復習 ユニット4予習
	4	ユニット6 語彙	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 単語テスト3	テキスト内の単語 ユニット4復習 ユニット6予習
	5	チェックテスト第一回 採点 講評/解説	テスト・採点・質問受付・解説	TOEIC単語1018-1086 復習、テスト対策 ユニット7予習
	6	ユニット7 語彙	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 単語テスト4	TOEIC単語1087-1155 Unit 3 ユニット7復習 ユニット9予習
	7	ユニット9 語彙	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 単語テスト5	TOEIC単語1156-1224 ユニット9復習 ユニット10予習
	8	ユニット10 語彙	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 単語テスト6	TOEIC単語1225-1293 ユニット10復習 ユニット11予習
	9	ユニット11 語彙	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 単語テスト7	テキスト内の単語 ユニット11復習 テスト対策
	10	チェックテスト第二回 採点 講評/解説	テスト・採点・質問受付・解説	TOEIC単語1294-1362 ユニット12予習
	11	ユニット12 語彙	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 単語テスト8	TOEIC単語1363-1431 ユニット12復習 ユニット15予習
	12	ユニット15 語彙	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 単語テスト9	TOEIC単語1432-1500 ユニット15復習 ユニット16予習
	13	ユニット16 語彙	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 単語テスト10	テキスト内の単語 ユニット16復習 ユニット17予習
	14	ユニット17 語彙	語彙演習、内容読解、文法問題、音読	テキスト内の単語 ユニット17復習 テスト対策
	15	チェックテスト第三回 採点 講評/解説	テスト・採点・質問受付・解説	期末テストの準備 復習

関連科目	実践英語入門、実践英語初級
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The Heart of Britain	John H Randle 他	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	単語テスト3点x9回 27% 積極参加点 8% 期末試験 25% 統一英語単語テスト 20% e-learning(リングホルタ) 20% 原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。
----------	--

学生への メッセージ	英語力をつけるには、インプット量とアウトプット量を増やすことが重要です。この授業を通して彩り豊かな英語にたくさん触れてください。
担当者の 研究室等	7号館2F 非常勤講師室 木曜日（午前中）
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。



科目名	実践英語入門	科目名 (英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤 未奈
ディプロマポリシー (DP)	C◎		

教養科目

授業概要・目的	近年、企業のグローバル化が進む中、TOEIC Test (国際コミュニケーション英語能力テスト) の注目度は増しつつあります。この授業では、高校までに学習した英語を基礎として、TOEIC Test で評価される英語力を向上させることを目標とします。授業と日々の学習を通して、総合的な英語の「聞き取り力/語彙力/文法力/読解力」をレベルアップし、資格試験に対応できる英語力を養成することを目指します。
到達目標	英語によるコミュニケーションに役立つ実用的な英語表現を習得する。 TOEICや英検などの英語資格試験に対応できる英語力を身につける。
授業方法と留意点	教科書を使用し、演習形式で行います。問題を解き、随時指名して解答を発表してもらいます。小テストは TOEIC Test の対策も兼ねています。毎週決まった分量の単語・語句を覚え、テストで達成度を確認することにより、全般的な英語力のアップにもつながります。真剣に取り組みましょう。 授業では英和辞書(電子辞書可/高校英語以上に対応できるレベルのもの)も使用するので、教科書と併せて毎回必ず持参すること。教科書と辞書は1回目の授業から使用する予定です。教科書販売期間中に早めに購入してください。 次回の授業で取り扱う問題演習の予習、および授業内容の復習には、1週間につき90分程度をかけること。単語の小テストの対策は毎回必ず20分以上おこなうようにしてください。
科目学習の効果(資格)	日常生活や仕事の場面における、英語を使ったコミュニケーション能力の向上 TOEICや英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	受講にあたってのオリエンテーション	受講に関する諸連絡(授業の進め方、各種テストについての説明など) TOEIC 模擬ミニテスト (Before Test) 実施	教科書の予習; 単語小テスト(1)の準備: 範囲 0001-0040
2	リスニング演習(オフィスで使う表現)	Before テスト、解答、語彙・発音・解き方の確認、After テスト	教科書の予習・復習; 単語小テスト(2)の準備: 範囲 0041-0080
3	リーディング演習(告知やフライヤーを読む)	Before テスト、解答、文法・語彙・解き方の確認、After テスト	教科書の予習・復習; 単語小テスト(3)の準備: 範囲 0081-0120
4	リスニング演習(買い物、注文)	Before テスト、解答、語彙・発音・解き方の確認、After テスト	教科書の予習・復習; 単語小テスト(4)の準備: 範囲 0121-0160
5	リーディング演習(ビジネスレター、雑誌記事)	Before テスト、解答、文法・語彙・解き方の確認、After テスト	教科書の予習・復習; 単語小テスト(5)の準備: 範囲 0161-0200
6	リスニング演習(ミーティング、イベントの告知)	Before テスト、解答、語彙・発音・解き方の確認、After テスト	教科書の予習・復習; 単語小テスト(6)の準備: 範囲 0201-0240
7	リーディング演習(電子メール、報告書)	Before テスト、解答、文法・語彙・解き方の確認、After テスト	教科書の予習・復習; 単語小テスト(7)の準備: 範囲 0241-0280
8	リスニング演習(授賞式、音声自動案内)	Before テスト、解答、語彙・発音・解き方の確認、After テスト	教科書の予習・復習; 単語小テスト(8)の準備: 範囲 0281-0320
9	リーディング演習(機器の説明書、ニュースレター)	Before テスト、解答、文法・語彙・解き方の確認、After テスト	教科書の予習・復習; 単語小テスト(9)の準備: 範囲 0321-0360
10	リスニング演習(電話での応対、天気予報)	Before テスト、解答、語彙・発音・解き方の確認、After テスト	教科書の予習・復習; 単語小テスト(10)の準備: 範囲 0361-400
11	リーディング演習(ツアー案内、招待状)	Before テスト、解答、文法・語彙・解き方の確認、After テスト	教科書の予習・復習; 単語小テスト(11)の準備: 範囲 0001-0200 (復習)
12	リスニング演習(会社でのプレゼンテーション)	Before テスト、解答、語彙・発音・解き方の確認、After テスト	教科書の予習・復習; 単語小テスト(12)の準備: 範囲 0201-0400 (復習)
13	リーディング演習(求人広告、応募書類)	Before テスト、解答、文法・語彙・解き方の確認、After テスト	教科書の予習・復習
14	リスニング演習(機器の技術的な問題への対応)	Before テスト、解答、語彙・発音・解き方の確認、After テスト	教科書の予習・復習
15	リーディング演習(スピーチと質疑応答)	Before テスト、解答、文法・語彙・解き方の確認、After テスト TOEIC 模擬ミニテスト (After Test) 実施	授業内容の復習、定期試験対策

関連科目	実践英語中級
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	BEFORE-AFTER PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST <Revised Edition>	Jonathan Lynch、山本厚子、渡辺香名子	センゲージラーニング
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語集	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> 共通試験… 30% (TOEIC Test 20%、統一英語単語テスト 10%) e-learning 学習…10% 授業態度(投げかける質問に対する発言、演習の解答・予習内容の発表など) … 20% 小テスト(全12回実施) … 10% 定期試験… 30% 以上を総合評価します。
学生への	外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりおこなってください。また、授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知

メッセージ	<p>識習得に励んで下さい。e-learning（リンガボルト）を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。</p> <p>間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。</p>
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室（授業曜日のみ）
備考	<p>原則として、出席率 80%以上（12 回以上出席）の受講者のみを成績評価の対象とします。4 回以上（正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）授業を欠席した場合、単位が取得できる見込みはありません。</p> <p>テキスト（教科書）を忘れた場合、また、携帯電話の使用、私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当該の授業における評価点をゼロとして扱います。</p> <p>その他の詳細は、第 1 回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず出席してください。</p>

科目名	実践英語入門	科目名(英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー(DP)	C◎		

教養科目

授業概要・目的	英語力向上にはこれまでの中学高校レベルの復習も欠かすことはできません。特に、資格(TOEIC、英検など)取得には読み書き、英文法のみならず、リスニングにも重点を置く必要があるため、毎回の授業で取り組みます。聴解力がつくと実感できますが、前向きに学習することが大前提です。資格取得に向けて前向きに受験してください。また授業担当者がアメリカで経験したことを写真で紹介することもあります。
到達目標	基礎的なリスニング力、語彙力、文法知識を習得し、TOEIC 300点を目標にする。英語資格試験に積極的に挑戦すること。
授業方法と留意点	読解、文法問題、ディクテーションなどを多用し、語彙の習得、文法力向上、聴解力向上を図る。中高で英語に苦手意識を持った学生も初心に戻り、学習して欲しい。
科目学習の効果(資格)	TOEICの得点向上が期待できるので積極的に受験して欲しい。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEICの説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1-40
2	自己紹介についての文章を通して名詞の学習(固有名詞、複数形など)	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記41-80
3	家族、ペットについての文章を通して動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記81-120
4	趣味についての文章を通して主語+動詞への学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記121-160
5	大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記161-200
6	食物についての文章を通して疑問詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記201-240
7	コンサートについての文章を通してHow+形容詞、副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記241-280
8	中間試験	試験後、答え合わせを行い弱点を復習	教科書の予習復習、英単語の暗記281-320
9	道案内についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記321-360
10	日本文化についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記361-400
11	ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記の復習
12	観光案内についての文章を通して時制の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記の復習
13	ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記の復習
14	E-mailについての文章を通して数字の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記の復習
15	9-14回の復習とまとめ	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	期末試験の準備

関連科目	その他英語科目全般
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Forerunner to Power - Up English ISBN-13: 978-4523176244	JACET リスニング研究会	南雲堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
2				
3				

評価方法(基準)	担当教員の評価60%、統一英語単語テスト10%、e-learning10%、TOEIC20%で全体の評価を行う。居眠り、携帯の使用にはペナルティあり。
----------	---

学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時にi-Pod等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	単語試験は「The Core Vocabulary for the TOEIC Test」から出題される範囲を受験すること。単語番号1-400までの範囲で期末に試験が行われます。事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。英単語はe-learning学習など、意味、発音、綴りを確認し、毎日1時間は学習すること。「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

科目名	実践英語入門	科目名(英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー(DP)	C◎		

授業概要・目的	TOEICブリッジの試験対策講座として、前期末のTOEICブリッジでのスコアアップを目指す。
到達目標	TOEICブリッジでのスコアアップ
授業方法と留意点	授業の進め方は毎回指名により学生諸君に発表してもらっているのでそのつもりで授業に望んでもらいたい。予習として、必ず本文に目を通し、わからない単語や表現をチェックしておくことが大切である。練習問題には各自必ず答えを出しておくこと。
科目学習の効果(資格)	TOEIC Testの得点アップにつなげる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業内容の詳しい解説	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 単語小テスト No. 0401-0440
	2	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 単語小テスト No. 0441-0480
	3	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 単語小テスト No. 0481-0520
	4	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 単語小テスト No. 0521-0560
	5	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 単語小テスト No. 0561-0600
	6	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 単語小テスト No. 0601-0640
	7	Review	前半の復習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	8	臨時試験	前半の試験	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	9	臨時試験評価	臨時試験の解説及び評	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	10	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト No. 0641-0680 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	11	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト No. 0681-0720 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	12	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト No. 0721-0760 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	13	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト No. 0761-0808 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	14	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	教科書 P. 55-60 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	15	Review	後半の復習	Unit 16- 20 質問準備 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること

関連科目	TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	New Steps to Success in the TOEIC Test 350	David E. Bramly et al.	松柏社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	共通試験 30% (TOEICブリッジ 20% 単語試験 10%) 定期試験 40%、小テスト 10%、授業態度(発表など) 10%、e-learning 10%の割合で総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	図書館やPC等を利用し日頃から英語に親しんでください。
-----------	-----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	実践英語入門	科目名(英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー(DP)	C◎		

教養科目

授業概要・目的	今までに学んできた基本文法知識を確認し、皆さんが受ける TOEICブリッジ受験に必要な解法テクニック、特に普段の努力を積みめば必ず伸びる文法力及び読解力の更なる向上を目標とする。又、授業に平行してテスト受験に欠かせない語彙力向上も目指す。また、授業計画は進度によって変わる場合がある。
到達目標	「千里の山も一歩から…文法ルール及び語彙、毎日少しずつ繰り返し覚えよう！」文法問題が解けるようになるには、1つでも多くの文法ルールを覚え、問題文にどの文法文法ルールが使われているか見抜くのが早道であり、毎日少しずつの努力が大きな結果につながる。単語と同じく、根気よく繰り返し覚え、1つでも多くの問題が解けるように頑張ろう。
授業方法と留意点	毎週、授業時に単語帳から単語テストを行う予定。今まで習ってきた語彙や文法知識を駆使し、一つでも多くの問題が解けることを望む。予習として次に進む分の練習問題を解いて授業に臨もう。特に4択問題は今まで習った知識を駆使し、「この選択肢はこう間違っているから違う」と分かる様になればしめたもの。授業で出てきた新しい単語や学んだ内容をくり返して覚えるのが上達への早道です！
科目学習の効果(資格)	TOEICブリッジ受験に必要な基本的事項の復習及び知識の養成。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	次回の第一回単語テスト範囲、1~25番を勉強する事。
2	Unit 1 The Weather 天気 現在時制、過去時制	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 6-9、次回の第二回単語テスト範囲、26~50番を勉強する事。
3	Unit 2 Meetings and Messages ミーティング/メッセージ 冠詞/代名詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 10-13、次回の第三回単語テスト範囲、51~75番を勉強する事。
4	Unit 3 Health 健康 進行形	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 14-17、次回の第四回単語テスト範囲、76~100番を勉強する事。
5	Unit 4 Advertising & Sales 広告/セール 名詞/数詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 18-21、次回の第五回単語テスト範囲、101~125番を勉強する事。
6	Unit 5 Investment & Official Supplies 投資/オフィスの備品 形容詞/副詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 22-25、次回の第六回単語テスト範囲、126~150番を勉強する事。
7	Unit 6 Telephone Messages 電話メッセージ 接続詞/前置詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 26-29、次回の第七回単語テスト範囲、151~175番を勉強する事。
8	Unit 7 Jobs & Promotions 仕事/昇進 助動詞/使役・知覚動詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 30-33、次回の第八回単語テスト範囲、176~200番を勉強する事。
9	Unit 8 Flights & Traveling フライト/旅行 未来時制	文法、語彙の問題演習、答え合わせ	教科書 p. 34-37、次回の第九回単語テスト範囲、201~225番を(追って指示します)を勉強する事。
10	Unit 9 Housing 住居 比較	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 38-41、次回の第十回単語テスト範囲 226~250番を(追って指示します)を勉強する事。
11	Unit 10 New Products & Electrical Appliances 新製品/電化製品	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 42-45、次回の第十一回単語テスト範囲 251~275番を(追って指示します)を勉強する事。
12	Unit 11 Media メディア 完了時制	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 46-49、次回の第十二回単語テスト範囲 276~300番を(追って指示します)を勉強する事。
13	Unit 12 Ordering & Shipping 注文/発送	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 50-53、次回の第十三回単語テスト範囲 301~350番を(追って指示します)を勉強する事。
14	Unit 13 Customer Services 顧客サービス	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 54-57、次回の第十四回単語テスト範囲 351~400番を(追って指示します)を勉強する事。
15	総合復習	試験に向けた復習	教科書など前期範囲一通り

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC Bridge Lounge	TOEIC Bridge で学ぶ役立つ英語	Terry O'Brien、三原京、秀野作次郎、木村博是
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (単語集)	西谷恒志	成美堂
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	定期試験(40%)、提出物(10%)、単語小テスト(5%)、平常点(授業態度など5%)の合計60%にe-learning学習進捗度(10%)、共通試験(30%:TOEICブリッジ20%、統一英語単語テスト10%)を足して総合評価します。TOEICブリッジ及び統一単語テストを受験しなかった人は評価に大きく影響します。また、日頃の授業態度も重視します。
----------	---

学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	事前、事後学習には毎回1時間以上取り組み、課題に1回当たり1時間程度かけて仕上げること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

科目名	実践英語入門	科目名 (英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー (DP)	C◎		

授業概要・目的	今までに学んできた基本文法知識を再確認し、理工系の英語学習に特化したテキストを用いて文法、読解、語彙など広く英語力の底上げを行う。また授業に平行して将来受験するであろう TOEIC に欠かせない語彙力向上も目指す。
到達目標	英語力の底上げを行い、前期末に行われる TOEIC Bridge のスコアをのぼす。
授業方法と留意点	授業開始時に単語帳から単語テストを行います。(10 回) リーディングパートは各自予習してくる。授業中何度も当たりますので、積極的な授業態度を望みます。各章ごとに明確な学習目標があるので、理解度確認テストをその都度行います。
科目学習の効果 (資格)	英語力の養成

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	UNIT 1 Edible Food Wrap	単語テスト：41-80 単語、読解、文法	教科書の復習、次回の第3回単語テスト範囲を勉強する事。
3	UNIT 2 Home Sweet Mrs!	単語テスト：81-120 単語、読解、文法	教科書の復習、次回の第4回単語テスト範囲を勉強する事。
4	UNIT 3 Plants that Eat Meat	単語テスト：121-160 単語、読解、文法	教科書の復習、次回の第5回単語テスト範囲を勉強する事。
5	UNIT 4 Happy Pi Day!	単語テスト：161-200 単語、読解、文法	教科書の復習、次回の第6回単語テスト範囲を勉強する事。
6	UNIT 5 Amusement Park Physics	単語テスト：201-240 単語、読解、文法	教科書の復習、次回の第7回単語テスト範囲を勉強する事。
7	UNIT 6 Do Typhoons Affect Coral?	単語テスト：241-280 単語、読解、文法	次回の第8回単語テスト範囲を勉強する事。 中間テストに向けて復習すること。
8	中間テスト Unit 1-6	単語テスト：281-320	教科書の復習、次回の第9回単語テスト範囲を勉強する事。
9	UNIT 7 We Need Your Face!	単語テスト：321-360 単語、読解、文法	教科書の復習、次回の第10回単語テスト範囲を勉強する事。
10	UNIT 8 How Did Lucy Die?	単語テスト：361-400 単語、読解、文法	教科書を復習する事。
11	UNIT 9 It's Not Likes and Dislikes about Food!	単語テスト： 単語、読解、文法	教科書を復習する事。
12	UNIT 10 Universal Design for Whom?	単語、読解、文法	教科書を復習する事。
13	UNIT 11 Robo Challenge!	単語、読解、文法	教科書を復習する事。
14	UNIT 12 iPS Cells Make Our Dreams Come True	単語、読解、文法	教科書を復習する事。
15	Unit 13 Why Is the Sky Blue?	単語、読解、文法	教科書を復習する事。

関連科目	なし
------	----

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	定期試験(50%)、単語小テスト(10%)の合計60%に TOEIC Bridge(20%)、e-learning 学習進捗度(10%)、統一英語単語テスト(10%) を足して総合評価します。統一テストを受験しなかった人は評価に大きく影響するので、各自責任を持って受験して下さい。
-----------	--

学生へのメッセージ	私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体で英語力を向上させましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	事前、事後学習には毎回1時間以上取り組み、課題に1回当たり1時間程度かけて仕上げる。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	---

科目名	実践の思想	科目名(英文)	Ideas for Practice
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柿本 佳美
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

教養科目

授業概要・目的
 この授業では、私たちの社会の価値観や規範の基礎となっている日本の思想を手がかりに、先人たちが培ってきたものづくりの根底にある考え方を知り、専門家としての技術者のありかたを考えます。
 科学技術は、文化、価値観、ひとびとの関係、社会のあり方に大きく影響します。技術の発展は、どの人にも人間らしい生活を可能にする社会の実現に大いに貢献しましたが、急速な工業化に伴う深刻な環境汚染も引き起こしました。現在、人間の活動による地球温暖化を食い止める国際的な合意は、自然と調和した技術を生み出す原動力となりつつあります。専門知識を持ち大規模プロジェクトの実行に関わる技術者は、技術が社会に与える影響が大きくなればなるほど、自らが携わる技術の影響について考慮する必要があります。
 古来から近世に至る日本社会では、自然との調和を目指す考え方が主流でした。古代から近世にかけての土木技術や日本建築は、気候や自然環境と対立せずそれを生かすようにして発展した例と言えるでしょう。そうすると、日本の自然観を知ること、環境に配慮した今後の科学技術のあり方を考えるうえで、一つのヒントになりそうです。
 ここでは、私たちの社会のなかで技術と技術者のあり方を支えてきた思想について、学んでいきましょう。

到達目標
 日本社会における自然観・技術観を理解し、共生社会を目指す持続可能な技術のあり方を考えることができる。

授業方法と留意点
 講義形式で進めますが、人数によってはディスカッションも取り入れます。

科目学習の効果(資格)
 科学技術をめぐる歴史をたどることで、人間の知的営みとしての技術のあり方について考えることができる。
 日本社会における技術観・自然観を学び、これらを技術全体の歴史のなかに置くことで、日本が生み出した技術の特徴を知ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			予習	復習
1	はじめに：科学技術と私たち	授業説明と導入。地球温暖化と持続可能な社会とは。	予習	できれば「技術士倫理綱領の解説」および「土木学会倫理綱領」を読んでおく。
2	世界史のなかの科学技術	中国およびイスラム圏の科学技術との交流が生み出した近代科学技術の誕生	予習	高校地理を復習し、世界の河川・海洋および気候を確認する。
3	日本史のなかの技術と思想：古代から近代へ	技術という視点から見た日本の歴史	予習	近代までの日本の歴史を見ておく。
4	日本史のなかの技術と思想：建築と共生の思想	日本建築に見る自然との共生	予習	西岡常一『木に学べ』（小学館文庫）を読んでおく。
5	日本における公害の歴史と科学技術	4大公害訴訟、汚染者負担の原則、環境アセスメント	予習	4大公害訴訟について調べる。
6	日本の宗教と自然観：神道	神道の自然観と共同体形成に果たした役割を学ぶ。	予習	テキストにある祝詞『六月晦日大祓』『大殿祭』を読んでおく。
7	日本の宗教と自然観：仏教	仏教の歴史と自然観を学ぶ。	予習	テキストにある『一遍上人語録』・『歎異抄』『教行信証』を読んでおく。
8	日本の組織倫理を支える思想：『論語』から朱子学へ	日本社会への儒学の影響を知る。	予習	『論語』を読んでおく。
9	日本の組織倫理を支える思想：武士道と町衆の思想	江戸期の多様な思想を知る。	予習	戦国時代から江戸時代の歴史を復習しておく。
10	日本の思想：福沢諭吉と文明開化	荻生徂徠と福沢諭吉の思想	予習	青空文庫にある福沢諭吉『学問のすゝめ』（ http://www.aozora.gr.jp/cards/000296/files/47061_29420.html ）を読んでおく。
11	日本の環境思想：南方熊楠と田中正造	日本社会における共生の思想	予習	青空文庫にある南方熊楠『神社合祀に関する意見』（ http://www.aozora.gr.jp/cards/000093/card525.html ）と、テキストにある南方熊楠『トーマと命名』を読んでおく。
12	日本の自然観：和辻哲郎『風土』	自然環境と文化との関係	予習	高校地理の気候について復習しておく。日本建築の特徴を調べる。
13	生活文化と思想：茶道と禅	岡倉天心『茶の本』を読み、茶道と禅が生活文化にもたらした影響を知る。	予習	テキストにある岡倉天心『茶の本』の抜粋を読んでおく。
14	日本の美意識と民芸：九鬼周造と柳宗悦	自然と調和した美のものづくり	予習	青空文庫にある九鬼周造『いきの構造』（ http://www.aozora.gr.jp/cards/000065/files/393_1765.html ）を読んでおく。
15	まとめ：持続可能な社会と科学技術	市民としての技術者のあり方	予習	日本技術士会「技術者倫理綱領」および日本土木学会「倫理綱領」を読むこと。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	思想のアンソロジー	吉本隆明	ちくま学芸文庫
2	技術士倫理綱領の解説	公益社団法人 日本技術士会	http://www.engineer.or.jp/c_topics/000/attached/attach_25_3.pdf
3	土木学会倫理綱領	公益社団法人 日本土木学会	http://www.jsce.or.jp/rules/rinnri.shtml

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	工学の歴史	三輪修三	ちくま学芸文庫

	2	ものづくりの科学史	橋本毅彦	講談社学術文庫
	3	日本思想全史	清水正之	ちくま新書
評価方法 (基準)	<p>定期試験 60%、提出物 20%、受講態度 20%の割合で総合的に評価する。 受講態度については、グループディスカッションへの参加度および毎回提出するミニレポートで評価する。 なお、原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 授業中に一時退出した場合、受講態度の評価の対象とせず、欠席として扱う。</p>			
学生への メッセージ	<p>日本社会における技術の位置づけと技術に携わる人々のあり方にも触れていきますので、技術に携わる者としての考えを深めるように。 遅刻、途中退出はしないこと。私語、スマートフォン・携帯電話の使用等、授業態度が悪い場合、受講態度に関する点をゼロとし、退室を命じることがあります。</p>			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	<p>予習・復習にそれぞれ1時間を当てること。また、指定された文献には必ず目を通し、自主学習には20時間以上かけること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。</p>			

科目名	実践の思想	科目名(英文)	Ideas for Practice
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山口 尚
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

授業概要・目的	<p>働くことは人生の時間の大半を占める、と言っても決して過言ではない。本講義のテーマは「仕事と人生」であり、日本人の人生観の源流を振り返ることを通じて、専門技術者を志す学生が身につけておくべき職業倫理を学ぶ。具体的には、近年注目されている「武士道」と「商人道」の違いなどを考察することを通じて、そもそもの「道(どう・みち)」なる発想の根幹を掴み、それを自らの実人生に応用できることを目指す。本講義で学ぶことによって、中江藤樹や柳宗悦などの人生観・職業観を知ることができるのと同時に、社会へ出て働くことに向けた心構えが鍛えられるだろう。</p> <p>職業あるいは仕事を、たんに生きるための手段としてではなく、人生の最も大事な部分を形作る本質的な要素として理解できるような視点——このような視点を鍛え上げることを講義全体の目標とする。</p>																																																																		
到達目標	<p>以下の項目の理解を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 武士道と職業倫理 2. 商人道と職業倫理 3. 〈ものづくり〉における倫理 4. 職業と人生の本質的な関係 																																																																		
授業方法と留意点	<p>ノート講義形式。講義内容の理解を問うコメントカードや小テストなどによって授業態度を評価する。 授業の予習・復習はそれぞれ1時間程度行うこと。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>日本の伝統的な職業観と思想に触れることから、現代の技術者が身につけるべきことは何か、見習うべきことは何かという問いに対して自主的に取り組めるようになる。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>講義の説明</td> <td>事後学習 講義ノートの復習および配布資料の読解(1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>科学と技術の基礎(1)</td> <td>自然科学の源流</td> <td>事後学習 講義ノートの復習(1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>科学と技術の基礎(2)</td> <td>近代と産業技術</td> <td>事後学習 講義ノートの復習(1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>江戸時代の思想(1)</td> <td>武士道と商人道</td> <td>事後学習 講義ノートの復習(1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>江戸時代の思想(2)</td> <td>中江藤樹の思想</td> <td>事後学習 講義ノートの復習(1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>江戸時代の思想(3)</td> <td>熊沢蕃山の思想</td> <td>事後学習 講義ノートの復習(1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>江戸時代の思想(4)</td> <td>安藤昌益の思想</td> <td>予習 安藤昌益について調べる(1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>江戸時代の思想(5)</td> <td>石田梅岩の思想</td> <td>予習 石田梅岩について調べる(1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>江戸時代の思想(6)</td> <td>貝原益軒の思想</td> <td>予習 貝原益軒について調べる(1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>職業と人生</td> <td>人生における職業の位置づけ</td> <td>事後学習 講義ノートの復習(1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>柳宗悦の思想</td> <td>民藝と手仕事、匠の技と品物の性質</td> <td>予習 柳宗悦について調べる(1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>仏教と職業倫理</td> <td>浄土思想と人生観</td> <td>予習 浄土仏教について調べる(1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>岡倉天心の思想</td> <td>茶道にみる日本人の自然観</td> <td>予習 岡倉天心について調べる(1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>科学技術がもたらす社会的倫理的問題</td> <td>職業・生きがい・アパシーについて</td> <td>事後学習 講義ノートの復習(1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>講義のふりかえり</td> <td>事後学習 講義ノートの復習(1時間以上)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	講義の説明	事後学習 講義ノートの復習および配布資料の読解(1時間以上)	2	科学と技術の基礎(1)	自然科学の源流	事後学習 講義ノートの復習(1時間以上)	3	科学と技術の基礎(2)	近代と産業技術	事後学習 講義ノートの復習(1時間以上)	4	江戸時代の思想(1)	武士道と商人道	事後学習 講義ノートの復習(1時間以上)	5	江戸時代の思想(2)	中江藤樹の思想	事後学習 講義ノートの復習(1時間以上)	6	江戸時代の思想(3)	熊沢蕃山の思想	事後学習 講義ノートの復習(1時間以上)	7	江戸時代の思想(4)	安藤昌益の思想	予習 安藤昌益について調べる(1時間以上)	8	江戸時代の思想(5)	石田梅岩の思想	予習 石田梅岩について調べる(1時間以上)	9	江戸時代の思想(6)	貝原益軒の思想	予習 貝原益軒について調べる(1時間以上)	10	職業と人生	人生における職業の位置づけ	事後学習 講義ノートの復習(1時間以上)	11	柳宗悦の思想	民藝と手仕事、匠の技と品物の性質	予習 柳宗悦について調べる(1時間以上)	12	仏教と職業倫理	浄土思想と人生観	予習 浄土仏教について調べる(1時間以上)	13	岡倉天心の思想	茶道にみる日本人の自然観	予習 岡倉天心について調べる(1時間以上)	14	科学技術がもたらす社会的倫理的問題	職業・生きがい・アパシーについて	事後学習 講義ノートの復習(1時間以上)	15	まとめ	講義のふりかえり	事後学習 講義ノートの復習(1時間以上)
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	講義の説明	事後学習 講義ノートの復習および配布資料の読解(1時間以上)																																																																
2	科学と技術の基礎(1)	自然科学の源流	事後学習 講義ノートの復習(1時間以上)																																																																
3	科学と技術の基礎(2)	近代と産業技術	事後学習 講義ノートの復習(1時間以上)																																																																
4	江戸時代の思想(1)	武士道と商人道	事後学習 講義ノートの復習(1時間以上)																																																																
5	江戸時代の思想(2)	中江藤樹の思想	事後学習 講義ノートの復習(1時間以上)																																																																
6	江戸時代の思想(3)	熊沢蕃山の思想	事後学習 講義ノートの復習(1時間以上)																																																																
7	江戸時代の思想(4)	安藤昌益の思想	予習 安藤昌益について調べる(1時間以上)																																																																
8	江戸時代の思想(5)	石田梅岩の思想	予習 石田梅岩について調べる(1時間以上)																																																																
9	江戸時代の思想(6)	貝原益軒の思想	予習 貝原益軒について調べる(1時間以上)																																																																
10	職業と人生	人生における職業の位置づけ	事後学習 講義ノートの復習(1時間以上)																																																																
11	柳宗悦の思想	民藝と手仕事、匠の技と品物の性質	予習 柳宗悦について調べる(1時間以上)																																																																
12	仏教と職業倫理	浄土思想と人生観	予習 浄土仏教について調べる(1時間以上)																																																																
13	岡倉天心の思想	茶道にみる日本人の自然観	予習 岡倉天心について調べる(1時間以上)																																																																
14	科学技術がもたらす社会的倫理的問題	職業・生きがい・アパシーについて	事後学習 講義ノートの復習(1時間以上)																																																																
15	まとめ	講義のふりかえり	事後学習 講義ノートの復習(1時間以上)																																																																
関連科目	哲学から学ぶ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。評価の仕方は次のとおり。</p> <p>定期試験 60%、授業態度 40%の割合で採点する。なお、授業態度とは、講義内容の理解を問うために配布するコメントカードへの記述内容と小テストへの解答内容を指す。</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>日本の伝統的な「ものの見方」と「立ち居振る舞い方」に触れ、現代社会を主体的に生きていくためのヒントを発見してください。私語、携帯電話の使用等で講義を妨害する行為を行った者は、授業態度評価をゼロとする。大学生にふさわしい態度で講義に臨むことを求めます。また、漫然と講義を受けるだけでなく、シラバスを参照し授業の予習・復習を行ないましょう(それぞれ1時間程度)。</p>																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室																																																																		
備考	<p>予習(事前学習)・事後学習には、毎回十分に時間をかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</p>																																																																		

科目名	社会の仕組み	科目名 (英文)	Structure of Society
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金 政芸
ディプロマポリシー (DP)	A◎		

授業概要・目的	本講義の目標は、私たちの生きる社会の仕組みを理解することである。社会の仕組みを知ることで、自分の行動や自分の経験するさまざまな出来事の原因が何を理解することができる。本講義では、まず社会の仕組みを理解するための学問である社会学の概要と、家族、地域、国家、国際社会の構造とそれぞれの社会のかかえる諸問題について紹介する。
到達目標	社会学の基礎を身につけ、家族、地域、国家など様々な社会集団の特徴を理解する。
授業方法と留意点	基本的には講義形式の授業がおこなわれる。講義では、理解を深めるために具体的な研究を紹介していく。
科目学習の効果 (資格)	日々の個人的な経験を、社会の構造やその変化から把握する能力を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	講義を始めるにあたって	オリエンテーション	授業の流れについて理解する。
	2	社会学とは何か I	社会学の定義と歴史について。	レジュメを読んで復習する。
	3	社会学とは何か II	社会学の古典的研究の紹介。	レジュメを読んで復習する。
	4	他者と自己	他者との関係のなかで形成される自己意識について。	レジュメを読んで復習する。
	5	集団と個人	単なる個人の集合体を越えた存在としての社会集団の特徴について。	レジュメを読んで復習する。
	6	家族の社会学 I	近代的家族の出現とその変容について。	レジュメを読んで復習する。
	7	家族の社会学 II	現代の家族のかかえるさまざまな問題について。	レジュメを読んで復習する。
	8	地域の社会学 I	現代都市の特徴について。	レジュメを読んで復習する。
	9	地域の社会学 II	現代の都市のかかえるさまざまな問題について。	レジュメを読んで復習する。
	10	ネーションとエスニシティ I	ネーションの概念整理と、その実在にかかわる諸議論について。	レジュメを読んで復習する。
	11	ネーションとエスニシティ II	移民とエスニック・マイノリティ、ナショナルリズムについて。	レジュメを読んで復習する。
	12	グローバリゼーション	グローバリゼーションとは何か。	レジュメを読んで復習する。
	13	階層と格差 I	階級と階層、そこに存在する格差という問題について。	レジュメを読んで復習する。
	14	階層と格差 II	格差はどのように再生産されるのか。	レジュメを読んで復習する。
	15	講義を終えるにあたって	総括	レジュメを読んで復習する。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業態度 (学習意欲や授業参加度などを総合的に評価する) 20%、期末試験 80% 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。
学生へのメッセージ	馴染みのない理論や概念がたくさん出てきますが、講義に集中すれば十分に理解できると思います。紹介された理論を身近な経験に適用していけばより理解が深まるでしょう。
担当者の研究室等	
備考	自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計 15 時間はかけること

科目名	社会の仕組み	科目名(英文)	Structure of Society
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷口 裕久
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

授業概要・目的	<p>この「社会の仕組み」の授業では、「社会学」や「文化人類学」を学問的基礎と位置づけ、それらの多種多様な枠組みや論題の中から、身近なトピックを選び出し、課題として検討する。上述の学問は「社会科学」の一部を成すが、主専攻が理系学問分野である受講生のために、受講生の専攻に傾斜させた「理系的な視点」から社会の仕組みを講じる。理工学部の受講生にもわかりやすい授業を行いたい。</p> <p>授業の具体的な内容は授業テーマや全体の計画を参照いただきたいが、社会や文化における諸事象を各回のトピックとして取り上げ、講義をすすめてゆく。授業は1回から3回程度で完結するオムニバス形式で行う。これらの諸課題の学習(受講とその後の復習など)を通じて、諸項目の社会的かつ文化的な意味づけを理解させながら、社会全体へとつながる豊かな視点も養成できればと考えている。</p>			
到達目標	<p>この科目の履修によって、授業テーマに挙げた課題に関して、社会学や文化人類学的認識として、適宜、客観的な説明が行えるようになる。このことは大学生としての教養の養成のみならず、社会人としての素養を身につけることがらに直結している。小テストと定期試験により評価を行い、到達度を点数化して表す。</p>			
授業方法と留意点	<p>講義形式の座学が中心である。授業内容に即した映像を副次的に教材として利用することがある。積極的にノートをとることが肝要。授業中の私語と携帯電話の使用は厳禁である。自筆ノートが毎回2ページほどずつ蓄積されるが、例年、そのノートを持ち込んで定期試験を行っている。</p>			
科目学習の効果(資格)	<p>工学諸分野と協同すべき社会や文化の諸課題をめぐり、枠組みや考え方に則して問題を理解し、その解決方法を具体的に検討することができる。</p>			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション/授業の進め方/個人と社会	座学としての受講の仕方・授業の進め方、ならびに社会の中の個人や、社会の定義について検討し、認識を深める。	(事前・事後学習課題の総論的な課題については備考欄を参照のこと)「個人」や「社会」について説明できること。
	2	社会を考える	人間を社会内的存在として検討し、その考え方の応用に触れる。	受講生自身が社会の一員であることを自身が説明できること。
	3	文化と社会	文化や社会の概念について検討する。	文化や社会の概念について説明できること。
	4	人種と民族	人種と民族の概念について検討する。	人種と民族の概念について説明できること。
	5	個人の社会化と集団+小テスト1	社会の中の個人とその集団化について検討する。	社会化や集団について一定の認識を持つこと。
	6	家族の特質とその形態	家族の概念やその特質について検討する。	多様な家族の概念について一定の説明ができること。
	7	家族の機能	家族の機能について検討する。	家族の機能的意味について、一定の説明をすることができること。
	8	都市化と地域社会	都市化と地域社会の具体例について検討する。	都市化の概念や地域社会のありさまについて、具体的に説明ができること。
	9	社会問題をめぐる構造(1)	社会問題や社会運動の事例について検討する。	社会問題に関する認識を深め、それをめぐる事象について、説明ができること。
	10	社会問題をめぐる構造(2)+小テスト2	逸脱やアノミー、政策や国家をめぐって、具体的に検討する。	社会学的逸脱論やアノミーの状況などについて、一定の説明ができること。
	11	病者・障がい者とは誰か(1)	病者をめぐる社会問題について検討する。	病者・障がい者と健常者との間の積極的な関与について意見を提示することができること。
	12	病者・障がい者とは誰か(2)	障がい者をめぐる社会問題について検討する。	病者・障がい者と健常者との間の積極的な関与について意見を提示することができること。
	13	社会変動と組織	社会変動や組織論について検討する。	社会変動や社会学的組織論に関して、意見や一定の回答を提示できること。
	14	社会意識と生活の変化	社会意識と日常生活のありさまについて社会学的に検討する。	社会意識の発生と生活上の変化に関して、意見や一定の回答を呈示できること。
	15	社会変動と科学技術	社会変動のありさまと科学技術の発達とその展開について検討する。	科学(技術)の発達について意見を提示でき、それによる発明品について一定の解釈ができること。
関連科目	なし。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	使用しない。		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業中に適宜、告知する。		
	2			
	3			
評価方法(基準)	<p>定期試験 62%、授業態度(質問や授業への呼応を用紙で問う)28%、小テスト 10%の割合で総合的に点数化し、評価する。原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。</p>			
学生へのメッセージ	<p>受講生は授業の内容の中に自分の将来に役に立つ知識を積極的に探そうと努力すること。パワーポイントのスライドを授業時に使用するため、積極的にノートをとることが肝要。繰り返すが、授業時間中のスマホなどの利用は厳禁する。電源をオフにしてから入室すること。</p>			
担当者の研究室等	11号館6階、経営学部事務室			
備考	<p>授業時間内でのノート・テイキングと蓄積された受講生個人のノートを重視するが、それ以外に事後学習の学習時間について記しておく。</p>			

- | | |
|--|--|
| | <ol style="list-style-type: none">1) 事前事後学習には、毎回最低 30 分以上かけ、ウェブサイトの情報ではなく、できるだけ既出文献(授業中に告知した参考書を含む)を渉猟すること。2) 期末試験の準備を含め自主学習には、最低でも合計 7 時間はかけること。3) 授業で示す英単語は術語であるため、英語の事前事後学習時間に補足として数分でも時間をかけ、意味内容を把握しておくこと。 |
|--|--|

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)として、筆記試験を通過できる実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲について、基本の解き方の習得と、応用問題への対応力の獲得を目指します。就職活動本番に向けて、比較的時間をかけての対策を考えている学生に受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。本授業では筆記試験対策として実践レベルの問題をメインに取り組みます。できる限り個別指導も行いますが、個々のレベルに応じて自主的に予習・復習をしてください。後期に開講される「就職実践」と基本的には同じ内容です。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・方程式	講座の目的、意義の確認・方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
2	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	金銭問題①	損益算の基礎・料金の割引	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題②	損益算の応用・代金の精算	文章題による代金の精算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による分数問題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算①・復習①	速度算の基礎・復習①	1~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	速度算②・中テスト①	速度算の応用・中テスト①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	場合の数・確率	場合の数・確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	集合	集合	文章題による集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	論理①	推論①	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理②・復習②	推論②・復習②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・7~12回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5時間)
13	論理③・中テスト②	推論③・中テスト②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準)	推論小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)として、筆記試験を通過できる実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲について、基本の解き方の習得と、応用問題への対応力の獲得を目指します。就職活動本番に向けて、比較的時間をかけての対策を考えている学生に受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。本授業では筆記試験対策として実践レベルの問題をメインに取り組みます。できる限り個別指導も行いますが、個々のレベルに応じて自主的に予習・復習をしてください。後期に開講される「就職実践」と基本的には同じ内容です。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・方程式	講座の目的、意義の確認・方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
2	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	金銭問題①	損益算の基礎・料金の割引	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題②	損益算の応用・代金の精算	文章題による代金の精算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による分数問題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算①・復習①	速度算の基礎・復習①	1~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	速度算②・中テスト①	速度算の応用・中テスト①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	場合の数・確率	場合の数・確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	集合	集合	文章題による集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	論理①	推論①	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理②・復習②	推論②・復習②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・7~12回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5時間)
13	論理③・中テスト②	推論③・中テスト②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準)	推論小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宣
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎		

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)として、筆記試験を通過できる実をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲について、基本の解き方の習得と、応用問題への対応力の獲得を目指します。就職活動本番に向けて、比較的時間をかけての対策を考えている学生に受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。本授業では筆記試験対策として実践レベルの問題をメインに取り組みます。できる限り個別指導も行いますが、個々のレベルに応じて自主的に予習・復習をしてください。後期に開講される「就職実践」と基本的には同じ内容です。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・方程式	講座の目的、意義の確認・方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
2	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	金銭問題①	損益算の基礎・料金の割引	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題②	損益算の応用・代金の精算	文章題による代金の精算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による分数問題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算①・復習①	速度算の基礎・復習①	1~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	速度算②・中テスト①	速度算の応用・中テスト①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	場合の数・確率	場合の数・確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	集合	集合	文章題による集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	論理①	推論①	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理②・復習②	推論②・復習②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・7~12回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5時間)
13	論理③・中テスト②	推論③・中テスト②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	推論小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	生涯スポーツ実習	科目名(英文)	Lifetime Sports
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	河瀬 泰治, 近藤 潤, 藤林 真美, 政岡 悟, 横山 喬之, 渡部 将之
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

授業概要・目的	スポーツ科学実習で修得した基礎知識をベースにより応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。																																																																		
到達目標	①健康・体力の維持増進 ②技能を向上させることができる ③スポーツのルールやマナーを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、ニュースポーツなど） ※これら種目の他に、集中授業としてゴルフ実習を開講するが、通年授業の生涯スポーツ実習との重複履修はできない。 なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。																																																																		
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ガイダンス</td><td>ガイダンス（履修上の注意事項の説明） コース種目分け</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>2</td><td>各コース別実技</td><td>種目の概要説明、基礎技術練習</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>3</td><td>各コース別実技</td><td>ルールの解説、基礎技術練習</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>4</td><td>各コース別実技</td><td>基礎技術練習</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>5</td><td>各コース別実技</td><td>基礎技術練習</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>6</td><td>各コース別実技</td><td>攻防技術練習</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>7</td><td>各コース別実技</td><td>攻防技術練習</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>8</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム（ブルーピンク・成績記録）</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>9</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム（ブルーピンク・成績記録）</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>10</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム（ブルーピンク・成績記録）</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>11</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム（ブルーピンク・成績記録）</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>12</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム（ブルーピンク・成績記録）</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>13</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム（ブルーピンク・成績記録）</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>14</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム（ブルーピンク・成績記録）</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>15</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム（ブルーピンク・成績記録）</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス（履修上の注意事項の説明） コース種目分け	授業内容のまとめ	2	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	3	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ	4	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	ゲーム（ブルーピンク・成績記録）	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	ゲーム（ブルーピンク・成績記録）	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム（ブルーピンク・成績記録）	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム（ブルーピンク・成績記録）	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム（ブルーピンク・成績記録）	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム（ブルーピンク・成績記録）	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム（ブルーピンク・成績記録）	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム（ブルーピンク・成績記録）	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス（履修上の注意事項の説明） コース種目分け	授業内容のまとめ																																																																
2	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
3	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
4	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	ゲーム（ブルーピンク・成績記録）	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	ゲーム（ブルーピンク・成績記録）	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム（ブルーピンク・成績記録）	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム（ブルーピンク・成績記録）	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム（ブルーピンク・成績記録）	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム（ブルーピンク・成績記録）	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム（ブルーピンク・成績記録）	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム（ブルーピンク・成績記録）	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、活動点とは、授業（競技）への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。																																																																		
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室に来ること。																																																																		
担当者の研究室等	体育館1F 体育館事務室																																																																		
備考	【準備物】 トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）																																																																		

科目名	生涯スポーツ実習	科目名(英文)	Lifetime Sports
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	河瀬 泰治、近藤 潤、藤林 真美、政岡 悟
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

授業概要・目的	スポーツ科学実習で修得した基礎知識をベースにより応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。																																																																		
到達目標	①健康・体力の維持増進 ②技能を向上させることができる ③スポーツのルールやマナーを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う(雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある)。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目(バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど) ・屋外種目(サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、ニュースポーツなど) ※これら種目の他に、集中授業としてゴルフ実習を開講するが、通年授業の生涯スポーツ実習との重複履修はできない。 なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。																																																																		
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>ガイダンス(履修上の注意事項の説明) コース種目分け</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>各コース別実技</td> <td>種目の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>各コース別実技</td> <td>ルールの解説、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各コース別実技</td> <td>攻防技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各コース別実技</td> <td>攻防技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(ブルーピンク・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(ブルーピンク・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(ブルーピンク・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(ブルーピンク・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(ブルーピンク・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(ブルーピンク・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(ブルーピンク・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(ブルーピンク・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意事項の説明) コース種目分け	授業内容のまとめ	2	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	3	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ	4	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意事項の説明) コース種目分け	授業内容のまとめ																																																																
2	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
3	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
4	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ論の理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、活動点とは、授業(競技)への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。																																																																		
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室に来ること。																																																																		
担当者の研究室等	体育館1F 体育館事務室																																																																		
備考	【準備物】 トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)																																																																		

科目名	生涯スポーツ実習	科目名(英文)	Lifetime Sports
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	近藤 潤
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

授業概要・目的	<p>ゴルフというスポーツを通して生涯スポーツへの参加意識向上と自信を深めることを目的とする。 短期間の練習で最後に実際にコースに出てラウンドするという、ハードスケジュールではあるが、コースでラウンドする経験は、テレビなどで見るだけのゴルフとは違う楽しさや、難しさを体験できる。 また、社会人になってもコミュニケーションツールとしてゴルフをするための基礎となる。 ゴルフを通じて、打つ技術だけではなく、人と人のコミュニケーションや社会人としてのルール・マナーを身につける。</p>																																																																		
到達目標	<p>①健康、体力の保持増進ができる ②運動技能を向上させることができる ③ルール、ラウンドマナーを理解することができる ④学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>事前ガイダンス(90分)と集中授業4日間(午前、午後、最終日は午後のみ)合わせて5日間で行う。 5日間すべて受講できること。 事前の申し込みが受け付けられることが必要。 申込用紙は履修ガイダンス時に配布。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>ゴルフを実践する最低限の打球技術、ルール、マナーを習得できる。 ゴルフを通じて人と人のコミュニケーションを図ることができる。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>事前ガイダンス</td> <td>目的、内容、準備について ゴルフの概要</td> <td>ゴルフの概要を確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ゴルフの基礎知識</td> <td>ゴルフのルール、マナーについて</td> <td>ルールの再確認</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ゴルフの基礎技術(1)</td> <td>グリップ、スウィング</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ゴルフの基礎技術(2)</td> <td>打球練習場での練習 アイアン</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ゴルフの基礎技術(3)</td> <td>アプローチ、パター練習</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ゴルフの応用技術(1)</td> <td>打球練習場での練習 ドライバー</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ゴルフの応用技術(2)</td> <td>ミニラウンド</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ゴルフの実践</td> <td>ラウンド(9H)</td> <td>イメージトレーニング</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	事前ガイダンス	目的、内容、準備について ゴルフの概要	ゴルフの概要を確認	2	ゴルフの基礎知識	ゴルフのルール、マナーについて	ルールの再確認	3	ゴルフの基礎技術(1)	グリップ、スウィング	技術の反復練習	4	ゴルフの基礎技術(2)	打球練習場での練習 アイアン	技術の反復練習	5	ゴルフの基礎技術(3)	アプローチ、パター練習	技術の反復練習	6	ゴルフの応用技術(1)	打球練習場での練習 ドライバー	技術の反復練習	7	ゴルフの応用技術(2)	ミニラウンド	技術の反復練習	8	ゴルフの実践	ラウンド(9H)	イメージトレーニング	9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前ガイダンス	目的、内容、準備について ゴルフの概要	ゴルフの概要を確認																																																																
2	ゴルフの基礎知識	ゴルフのルール、マナーについて	ルールの再確認																																																																
3	ゴルフの基礎技術(1)	グリップ、スウィング	技術の反復練習																																																																
4	ゴルフの基礎技術(2)	打球練習場での練習 アイアン	技術の反復練習																																																																
5	ゴルフの基礎技術(3)	アプローチ、パター練習	技術の反復練習																																																																
6	ゴルフの応用技術(1)	打球練習場での練習 ドライバー	技術の反復練習																																																																
7	ゴルフの応用技術(2)	ミニラウンド	技術の反復練習																																																																
8	ゴルフの実践	ラウンド(9H)	イメージトレーニング																																																																
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ,Ⅱ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	態度点50%、技能点25%および実習ノート25%を総合評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	履修までの質問は、総合体育館のスポーツ振興センター事務室に来てください。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館1F 近藤研究室																																																																		
備考	ラウンド時の服装は襟付きポロシャツ、スラックス(半ズボンの場合はハイソックス着用)、運動靴(スパイク類は禁止) ゴルフクラブは大学が用意しますが、ラウンド用ボール、ゴルフ用手袋は各自で用意してください。 雨天でも行いますので着替えなどは多めに準備すること、体育館内で実習を行うこともあるので体育館シューズも準備すること。																																																																		

科目名	心理と社会	科目名(英文)	Psychology and Society
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

教養科目

授業概要・目的	心理学は、心と行動の科学であるといわれる。人間の心と行動との関係について、知覚、認知、教育、社会など多側面から考えていく。「心理と社会」では、特に現代社会や社会情勢と人の行動との関わりについて解説していく。
到達目標	1)社会が個人に与える影響を理解する。2)個人が社会に与える影響を理解する。3)社会の中のコミュニケーションについて理解を深める。
授業方法と留意点	パワーポイントによるプレゼンテーション形式で講義を行う。第1回授業で授業ルールなどについて説明するので必ず参加すること。原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。授業内でグループ・ワークや討論を行う。授業はアクティブ・ラーニングを取り入れているので、課題に対しては積極的に取り組むこと。
科目学習の効果(資格)	近年の経済不況や就職難などの社会変化が個人と集団の心理や行動にどのような影響を及ぼすのかを理解し、それにどのように対応すべきかなどの能力を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・社会の中の心理とは?	授業内容、授業方法について説明します。 社会と心理との関係	授業内容の復習
	2	社会と心理学	社会心理学の歴史と課題	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
	3	社会的認知と集団心理	原因帰属	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
	4	自己の社会化と動機づけ	自己知覚理論	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
	5	社会的態度と態度変容	説得と態度変化	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
	6	対人行動の明暗	攻撃と援助行動	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
	7	社会の中の対人関係	印象形成、関係維持、関係崩壊	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
	8	対人関係と健康	ストレッサーとコーピング	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
	9	対人関係と幸福	ソーシャル・サポート	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
	10	社会的影響	同調と服従	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
	11	集団の影響	社会的促進と社会的手抜き	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
	12	集団過程	集団における意思決定	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
	13	集合と群衆	群衆行動の生起メカニズム	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
	14	流言と流行	噂の心理、流行の心理	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
	15	社会情勢と人間の心理/まとめと小テスト	社会問題の中で人間の心理/期末テストの実施	———

関連科目 「人間力と心理」と関連する。「人間力と心理」を受講した後に本授業を受けることが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ミニマムエッセンス社会心理学	和田実	北大路書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コミュニケーション心理学	深田博己	北大路書房
	2			
	3			

評価方法(基準) 毎回の授業内の課題(上限20%)、期末テスト(80%)の割合で、総合的に判断する。原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。

学生へのメッセージ 人は社会の中で生きています。人は集団に流されたり、社会に踊らされたりします。そのようなときにどのような心理が働いているのかを解説していく。アクティブ・ラーニングを取り入れているので、積極的かつ主体的に活動すること。

担当者の研究室等 11号館7階 牧野(幸)准教授室

備考 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。他人の迷惑となる行為(遅刻、授業中の私語、居眠り、内職、スマホ・携帯電話の使用など)をすべて禁止します。ルールを承知して受講してください。授業内の課題については、授業中に解説してフィードバックを行う。

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	河瀬 泰治, 西村 和恵
ディプロマポリシー (DP)	A◎		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。																																																																		
到達目標	①健康・体力の維持増進 ②技能を向上させることができる ③スポーツのルールやマナーを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)</td> <td>ルールの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>体力測定①</td> <td>屋外種目</td> <td>測定記録評価</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>体力測定②</td> <td>体育館種目</td> <td>測定記録評価</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各コース別実技</td> <td>種目の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各コース別実技</td> <td>ルールの解説、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各コース別実技</td> <td>攻防技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各コース別実技</td> <td>攻防技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解	2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価	3	体力測定②	体育館種目	測定記録評価	4	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解																																																																
2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価																																																																
3	体力測定②	体育館種目	測定記録評価																																																																
4	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性・集中度を示す。																																																																		
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室へ来ること。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館1F 体育館事務室																																																																		
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ (コースに適したもの)																																																																		

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名(英文)	Practicum in Sports Science II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	河瀬 泰治、西村 和恵
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。																																																																		
到達目標	①健康・体力の維持増進 ②技能を向上させることができる ③スポーツのルールやマナーを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目(バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど) ・屋外種目(サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど) ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)</td> <td>ルールの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>各コース別実技</td> <td>種目の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>各コース別実技</td> <td>ルールの解説、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各コース別実技</td> <td>攻防技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各コース別実技</td> <td>攻防技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解	2	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	3	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ	4	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解																																																																
2	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
3	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
4	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性・集中度を示す。																																																																		
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室へ来ること。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室																																																																		
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)																																																																		

科目名	青少年育成ファシリテーター養成講座	科目名 (英文)	Facilitator Training Program
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	教養特別講義「青少年育成ファシリテーター養成講座」は、サービスマニエールの授業であり、青少年育成活動のファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立ったという現実的な体験を得ることを目的としている。																
到達目標	到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果す体験を同時に得るものである。																
授業方法と留意点	大学の授業後や、授業の無い日を利用して学外活動する。週に1度、90分の活動が基本となっているが、夏休み・冬休みなど長期の休み期間中に集中して活動することも可能。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>活動場所は、寝屋川市内の小学校、寝屋川市教育委員会関連団体、共学センター、交野市役所、門真市役所、すさみ町役場、寝屋川青年会議所等の主催・共催事業。第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。</p> <p>-----</p> <p>事前教育①～⑨回分： ①活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて ②守秘義務：活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ ③安全管理スキル：活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ ④救命救護スキル：命の大切さ、命を助ける方法、AEDの使用法を学ぶ ⑤安全対策スキル：安全。衛生管理、危険予知、責任について学ぶ ⑥コミュニケーションスキルA：対象者理解、人のかかわり方を学ぶ ⑦コミュニケーションスキルB：報告、連絡、相談（ホウ・レン・ソウ）の重要性を学ぶ ⑧コミュニケーションスキルC：アイスブレイキング手法を学ぶ ⑨コミュニケーションスキルD：指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方</p> <p>活動（90分×20回分）： 受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践</p> <p>事後教育（90分）： 青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり</p> <p>-----</p> <p>履修上の注意： 学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前に授業担当者から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。</p> <p>事前・事後学習課題： 学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各1時間程度行う。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調書、以上の4点を総合的に判断して評価する。																
学生へのメッセージ	青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																
担当者の研究室等	7号館5階（浅野研究室）																
備考	第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>< 過疎地域における地域資源活用プロジェクト (グリーンプロジェクト) ></p> <p>和歌山県すさみ町にある「古民家」や「豊かな自然」を資源としてとらえ、「田舎暮らし体験のための古民家再生」、イベントとして光害の無いすさみ町での「星空観望会イベントの開催」、カヌー川下りが行われている古座川での利用を考慮した「間伐材を利用したカヤック製作・試乗イベントの開催」、などをテーマとする。</p> <p>「古民家再生」では、間伐材を使ったログパネルなどを利用し、いわゆる住宅リニューアルのピフォーアフターを体験する。</p> <p>具体的なイベントは、地域の連携団体(すさみ町役場地域未来課)と協働して実現することになる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 3. ものづくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。 																		
授業方法と留意点	<p>年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み中に1回)</p> <p>それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3年計画の3年目のプロジェクトです。はじめに大きな目標からはずれないような目的を設定します。(受講生が提案して目的を定めることから始めます)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマの情報共有(昨年度までの成果の説明)と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定 2. 現地調査とテーマの修正と具体的な開発設備・機器の決定 3. 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 4. 大型装置・設備については現地で加工組み立て 5. 現地で加工、施工、組み立て開始 6. 装置・設備の完成 7. 試作装置・設備による実験評価 8. 実験結果の考察と改良 9. 改良した装置について評価実験・考察 10. 現地で再実験 11. 実験結果の考察と改良 12. 最終実地評価と報告 <p>事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>通常(週1回の)活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。</p> <p>学生へのメッセージ</p>																		
学生へのメッセージ	<p>「古民家再生」では建物のピフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものづくりを通じた地域活性とも言える活動です。</p>																		
担当者の研究室等	<p>8号館1階テクノセンター、1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。</p>																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>概要: 本プロジェクトは、PBLプロジェクトの初年度の2010年から開講し、8年間続けてきた。この間、寝屋川市内での環境学習支援や、寝屋川市内をはじめとする淀川水系の各地で様々な団体と連携し親水活動、環境保全活動や流域住民への環境・防災に関する啓発活動を行ってきた。</p> <p>2018年度も引き続き、寝屋川市立池の里市民交流センターでの子どもたちへの環境学習支援に、学生が企画・実施担当として関わることで、市民ボランティアと子どもをつなぐ架け橋となることを目指す。また、淀川や芥川を中心に水辺整備活動を行い、淀川水系の流域連携活動を行う。</p> <p>目的: 池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どものための環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での天然アユ復活や巨椋池ピオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法: 池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点: 学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ: 寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 2. 巨椋池ピオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 <p>方法: 授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト(6月)、近畿水環境交流会(8月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題: 内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科) 科学技術教養C1・C2																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%)</p> <p>水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)</p>																
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみならずの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査: 地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画: 具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中で実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点(廃校になった小学校の校舎)を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキープポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也. 針尾 大嗣. 牧野 幸志. 山本 圭三
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>地域の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬けの続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河南町)などである。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レクチャー ・グループ学習 ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p>【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。</p> <p>【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。</p>																
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室、牧野准教授室、山本准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵, 尾山 廣
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>和歌山県由良町の地域ブランドを創造するため、由良町の周知や由良町の特質の創出を行う。それにより、由良町の交流人口を増やし、地域経済活性化の一助とする。</p> <p>今年度は由良町の観光PRキャラクター「ゆらの助」を活用した取り組みを行う。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>①由良町の地域資源を発見する。 ②パンフレットの作成。 ③企画立案の手法を習得する。 ④企画したものをカタチにする。 ⑤自ら考え行動できる力をつける。 ⑥チームで活動できる力をつける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>講義とフィールドワーク 由良町へ向向き現地調査や成果発表を行います。 企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います</p> <p>2. 由良町の現状を学ぶ 昨年度の成果 由良町の抱える問題について学びます。</p> <p>3. マーケティングの基礎 マーケティングの基礎を学びます。</p> <p>4. 商品開発についての調査</p> <p>5. 商品開発のアイデア出し</p> <p>6. 商品化にむけたとりくみ(商品決定、委託メーカーの決定、デザイン、価格決定、販売方法、販売促進など)</p> <p>7. 商品完成後の取組(販売促進活動)</p> <p>8. ふりかえり</p> <p>この間に中間報告会、最終報告会が入ります。</p>																		
関連科目	各学部マーケティング関連科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マーケティング</td> <td>恩蔵直人</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地域マネジメント戦略</td> <td>池田潔ほか</td> <td>同友館</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社	2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社																
2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館																
3																			
評価方法(基準)	プロジェクトへの参加度 70% 提出物 30%																		
学生へのメッセージ	和歌山由良町は過疎地域です。日本にはこのようなまちが沢山存在しています。授業で学んだことを、このような地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。																		
担当者の研究室等	11号館7階 鶴坂研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	尾山 廣, 川上 比奈子, 松尾 康光
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	最も身近な自然現象を創り出す“星”にまつわる科学を、現在稼働していない交野市のプラネタリウムを学生自ら操作し、星の動きや星座、神話などを交えて、交野市の児童・生徒に向けた自然科学(宇宙や生命の誕生)の楽しさを伝える学習投映プログラムを製作する。2018年度は、交野市教育委員会から依頼された交野市の児童・生徒を対象に投映を試行し、そのアンケート結果などを踏まえて、内容をブラッシュアップし、体験学習型プレゼンテーション・シナリオと簡易機器操作マニュアルを完成する。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 天体の基礎的な知識を身につける。 プラネタリウムの基礎知識を修得する。 星のまち交野の特徴を説明できる。 様々な問題について理論的・分析的な関心をもてる。 小学生に星の神秘を伝えることができる。																
授業方法と留意点	松尾研究室、川上研究室、尾山研究室のゼミ生と同時に活動する。主な活動期間は2018年5月～2019年1月であり、月1回の全体ミーティングと年間7回程度を交野市で活動する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの概要と基本方針の説明 プラネタリウム投影機のメンテナンスと理科教材用のシナリオ案を策定 プレゼンテーションに必要なフィルムやスライドの作成 交野市在住の児童や生徒を対象に投映会を試行 アンケート結果に基づいた内容のブラッシュアップ(連携団体との協議を含む) 体験学習型プレゼンテーション・シナリオのブラッシュアップ プラネタリウムの簡易操作マニュアルの完成 上記の項目を2018年5月～2019年1月に実施する(機器の状況により変更がある)。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	①天体・星の知識(プレゼンテーションを含む)やプラネタリウムの操作方法を理解できている。②空間(半球形空間)を利用した効果的なプレゼンテーションを考えている。③小中学生や外部の方々との接し方(態度)ができている。 以上の3点について、ノートやグループ評価表などで総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	理科教育プログラムの開発(ソフト)と機器操作マニュアルの作成を目的とするため、教職希望の学生など、星が好き、子供たちに教えることが好きな学生を中心に募集しています。																
担当者の研究室等	理工学部生命科学科(松尾先生、尾山)は1号館8階または9階、住環境デザイン学科(川上先生)は12号館7階に教室がある。																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教.木村 朋紀.鶴坂 貴恵.船越 英資
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p><摂大ブランド商品の企画・開発プロジェクト> 様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。昨年度は摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、いくつかの商品を企画した(本格芋焼酎仕込みのみかん酒、焦げがごびりつきにくいBBQ網など)。本プロジェクトでは、(開発プロジェクト)と(企画プロジェクト)に分け、すでに企画した商品について具体的な商品化を目指すとともに、作年度と同様に新規の商品企画も行う。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>4人の教員が担当し、1グループ5人(合計20人)までの少人数で活動を行う。 そのため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>実施手順は以下のとおりである。 <開発プロジェクト> 1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。 2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。 3. 商品を委託製造する。 4. 広報活動を行う。 <企画プロジェクト> 1. 情報分析および情報収集を行う。 2. 商品案を企画し、ビジネスプランを作成する。 3. 寝屋川市のビジネスコンテストに応募する 4. 次年度プロジェクトに向け、連携企業を探す。</p> <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	<p>居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)、鶴坂教授室(11号館7階)</p>																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	一色 美博, 栗田 寿基, 釣本 聖司
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチの鉄道模型を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。 また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なる価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。																
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。 履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本年度はレール間隔3.5インチ、5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 1. プロジェクトの開始に先立って、社会人基礎力、目標管理、工程管理、プロジェクト管理について、メンバーで調査・討議する。 2. 教員の指導の下に目標と計画を作成する。 3. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設等を製作する。 4. 計画からの遅れには対策を講じる。 5. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 6. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 7. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マネジメント基本と原則</td> <td>P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら</td> <td>岩崎夏海</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社	2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社														
2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社														
3																	
評価方法(基準)	汎用的能力(40%)、主体性・柔軟性・課題発見解決(30%)、貢献度(30%)について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。																
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。																
担当者の研究室等	1号館3階 一色教授室 8号館1階 テクノセンター																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	このPBLのプロジェクト名は、「交野おりひめ大学との連携プロジェクト ～地域貢献、そしてビジネス戦略～」です。 このPBLのキーワードは、「地域活性化」、「ビジネス戦略」、「裏方」の3つです。主なプロジェクト概要は、以下のとおり。 ①交野市の市民大学である「交野おりひめ大学」と連携し、本学学生が様々な活動を通じて地域住民の方々と交流し、地域貢献を行うとともに、通常の大学授業では学習できない様なビジネス戦略（新商品開発、マーケティング、生産加工、ビジネスプラン作成など）について体験・学習します。 ②なお、この事業は交野おりひめ大学のほか、交野市役所、商工会議所、交野市工業会、関係企業、各種市民団体、地域マスコミなど、交野市関連の様々な関係機関と連携しています。																
到達目標	①PBL前とPBL後を比較し、本学学生が実社会でビジネスを行うための様々な要因・ノウハウ等について体験的かつ実践的に学修し、理解することが、このPBLの到達目標です。 ②地域の異世代の方々と交流し、実のあるプロジェクト成果を狙います。 ③交野おりひめ大学にとって、本学のPBL履修学生の参加により、どのような効果があったのか総括し、市民大学としてのさらなる質の向上を目指します。																
授業方法と留意点	①「交野おりひめ大学」には、現在7つの学科があり、交野市内の住民など約300名が参加しています。2017年度は、本学のPBL履修学生32名(全て現3回生)が5～6名ずつ6つの学科に分かれて所属し、それぞれの活動を展開してきました。 ②2018年度は、新2年生を加え、活動内容をさらに充実させるとともに、先輩から後輩への円滑な引継ぎを行い、本PBLが地域と持続的な関係を構築できるよう努めます。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	①2018年4月～9月中旬 <3回生> ・基本的には、2017年度の活動を継続しますが、所属学科の配属替え、リーダー・役割分担の交替等を行うなど、新体制で活動に取り組みます。 <2回生> ①課外活動前の事前学習として、ケースメソッド形式(少人数、グループ討議、プレゼン等)によるビジネス戦略に関する実践的学修を重ねる。これにより、学内授業と学外活動の相乗効果を狙います。 ②前期または夏休み期間中に、学生全員を一度現地へ連れて行き、交野おりひめ大学関係者、関係団体、事業者等との顔合わせを行います。 ②9月中旬～2019年3月 <3回生、2回生> ①学年合同のチーム編成により、交野おりひめ大学の各学科の活動に参加します。 ②交野市内の関係各団体と連携し、様々なビジネス戦略(新商品開発、マーケティング、生産加工、ビジネスプラン作成など)について体験・学習するとともに、その活動内容について情報発信を行います。 ③活動成果は、PBL全体授業における各学科単位のプレゼン報告・質疑応答等を通じ、全員で精査することでPDCAサイクルを回し、次のアクションへつなげます。 ④活動中でのOJTを通じ、3回生から2回生へ円滑な引継ぎを行い、次年度以降の活動に活かします。 ⑤総じて、イベント参加等の単なる『遠足』『ママごと遊び』に終始しない。楽しさも追求しつつ、実践的なビジネス体験学修を重ね、到達目標を達成します。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>とくにありません。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	とくにありません。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	とくにありません。																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>とくにありません。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	とくにありません。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	とくにありません。																
2																	
3																	
評価方法(基準)	①PBL活動への参加意欲および貢献度(70%)、学内・学外発表会等への貢献度(30%) ②なお、本PBLは、交野おりひめ大学のほか、関係各団体等と連携したプロジェクトであり、多くの関係先の監視の下で活動を行うこととなります。したがって、学修成果は学内外の報告会(中間報告等を含む)、関連学会等においてプレゼン発表を行うことで、第三者の評価を受けるかたちとなります。																
学生へのメッセージ	①このPBLは、正直言って「しんどい」。炎天下での草むしり、農作業や雑用・裏方業務(準備・後片付けなど)もあり、土日のうち、年間数日はつぶれます。しかも、バイトとは異なり、報酬等は一切ありません。 ②それでも、2017年度は4つの学部から32名が履修しており、全員楽しく、ガッツ溢れる活動を展開しています。その理由とは何か? そこに興味がある人、大歓迎です。諸君のチャレンジをお待ちしています!																
担当者の研究室等	11号館7階 大田住吉研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	栢木 紀哉. 鶴坂 貴恵. 林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	寝屋川市成美小学校区域協働協議会青少年部会と連携して、成美小学校在籍児童に将来の社会生活に向けてのお金との付き合い方を学んでもらうために、経済のしくみや街の経済の動き等について、体験的な学習を軸にした学習プログラムを作成・実施する。 社会的活動への貢献を通しての社会の中での役割の自覚、地域経済、子どもを取り巻く教育環境の調査・分析に基づいた課題の明確化・抽出化、子どもを相手にした教育行為の省察等を通して、自らも成長を実感することをねらいとする。																
到達目標	本プロジェクトは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 また、次の事項を具体的な達成目標として設定する。 ①地域の社会的活動への参加を通じて自らの社会的役割を自覚できるようになる。 ②経営と教職の学生がコラボすることにより相互に学び合いをすることができる。 ③経営学部生は経営学的な研究方法により各団体機関が実現しようとしている企てを把握し、その評価をする経験を積む。 ④教職履修学生はメンター的な関りによって子どもたちに寄り添う経験、作成した教材を教授場面で臨機応変に修正する経験を積むとともに、学習場面での発問、説明、指示、助言など、子どもたちの思考や行動への具体的な働きかけの経験を積む。																
授業方法と留意点	寝屋川市成美小学校区域協働協議会と共に、プログラムの準備・実施・総括の全過程を、協力協働しながら進める。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	4月～6月 プログラムコンテンツの作成 体験実習先の選定、小学生向けの学習プログラムの検討、地域の調査等 学習指導要領・教科書の関連内容の調査、ワークショップの準備等 7月～8月 ①小学生・摂大生の初セッション（アイスブレイキング、グループワーク） ②フィールドワークⅠ（例えば、日銀大阪支店、造幣局本局大阪工場） ③フィールドワークⅡ（例えば、地元運動団体、地元商店街） ④フィールドワークⅢ（例えば、寝屋川市役所、北大阪商工会議所等） ⑤学習会（例えば、家族でもともに学ぶ機会を設ける） 9月～10月 ①体験活動の振り返り ②摂大祭りでの発表・展示（中間報公開を兼ねる） ※小学生・保護者・協働協議会員を招待 1月 最終報告会																
関連科目	摂南大学PBLプロジェクトⅠ・Ⅱ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	企画書(15%)、活動報告書(15%)、取り組み姿勢(50%)、ループリック(20%)を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	PBL活動は、社会に出てからも大いに役に立ちます。活動を通して常に考えることを意識し、多くの経験を身につけてください。自主的な参加と積極的な提案を期待します。																
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I																	
学部	学部共通	学科	地域志向系																	
配当年次	2年	クラス																		
単位数	2	履修区分	選択科目																	
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝. 水野 武																	
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎																			
授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																			
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なる価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																			
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する <ol style="list-style-type: none"> 1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 2. マーケティング手法の学習(座学による) 3. 連携先との面談 4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 6. 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 8. まとめと最終報告会 																			
関連科目																				
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																			
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																			
担当者の研究室等	11号館10階 石井研究室 7号館3階 水野研究室																			
備考																				

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 紙芝居ボランティアを通じた社会貢献</p> <p>【概要】 前年までに作成した紙芝居の読み聞かせ活動(例:寝屋川市の自転車安全条例を小学生に伝える紙芝居の読み聞かせなど)、および近隣行政の要望に応じて、紙芝居の新規制作と上演活動を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 役割意識や自己効力感を育むために、仲間と協働しながら社会に貢献する喜びを体験する。 読み聞かせ活動及びそのトレーニングを通して「伝える力」を涵養する。 																
授業方法と留意点	<p>学生が中心となって活動する紙芝居制作・読み聞かせボランティアのプロジェクトです。 全員が「自分が主役」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 寝屋川市役所や警察署のご担当者、及び近隣行政・図書館等のご担当者様と学生が直接連絡をとり、相談して活動内容や日時を決定する。 毎週一回のミーティングと報告書で情報共有を図り、必要に応じて適宜集合して練習、作業などを行う。 活動内容は、大学ホームページなどで学外にも公表するとともに、中間報告会、最終報告会などでも発表する。 <p>【内容】</p> <p>年間を通じて、市と連携して読み聞かせ活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 寝屋川市自転車安全条例普及のための紙芝居 寝屋川市安全協会の活動に同行し、近隣の小学校で自転車事故の減少のために前年度作成の紙芝居の読み聞かせ活動をする。 和歌山県由良町・及び近隣行政の民話を語り継ぐための紙芝居 対象となるご担当者の方と相談して活動内容を決定する。既存のイベントへの参加、学生自らイベントの企画提案、幼少学校での上演などが考えられる。さらに、その地域の民話をもとに紙芝居を作成する。 その他 適宜、要請に応じて紙芝居を作成したり、読み聞かせ活動を実施することがある。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>全体で行う活動やミーティングの参加態度(40%)、自分の役割に対する貢献(40%)、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表(20%)</p>																
学生へのメッセージ	<p>昨年は寝屋川市の小学校での読み聞かせ・和歌山県由良町の民話を題材に紙芝居の新規制作を行いました。紙芝居の読み聞かせにあたっては、練習・実演を行うなど、活動は大変ボリュームがありました。答えの無い・形の見えない価値を創り出すことは大変に難しいことですが、そのぶん達成感や団結力がつよくなると思います。プロジェクトを通して、社会と関わり、仲間と試行錯誤する難しさ、楽しさを体験してください。</p>																
担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室 水野 武																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト</p> <p>概要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p>																
到達目標	<p>次の四点を本講義において学ぶべき到達目標とします。 また受講生には、下記の学びを通じ、「中山間地域における生活支援のあり方」についての自分なりの考えを作り上げることを期待します。</p> <p>①中山間地域に暮らす人びとの生活を知ること、地域生活やその課題の多様性を学ぶこと ②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について学ぶこと ③中山間地域における生活支援体制の構築にさまざまな主体がかかわっていることを理解すること ④学生自身が「地域の見守り、支え合い」の担い手となりうることを自覚すること</p>																
授業方法と留意点	<p>文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。 具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>講義の流れは下記の通りです（進捗状況によって変更となる場合があります）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キックオフミーティング（参加者の顔合わせ、プログラムの概要説明） 2. 学内研修①（中山間地域における生活支援体制の構築について関する講義（担当教員による）、意見交換） 3. 学内研修②（紀美野町の地理、伝統、文化、その他についての発表、共有） 4. 学内研修③（同上） 5. 紀美野町での現地調査①（地域視察、ヒアリング、地域活動への参加、住民との交流等） <p>※1泊2日（民泊）での活動を予定しています</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 学内研修④（第1回現地調査での学びについて各自発表、共有） 7. 学内研修⑤（具体的な生活支援体制構築の手法についての検討） 8. 学内研修⑥（同上） 9. 紀美野町での現地調査②（学生による提案内容の報告会、生活支援体制構築に向けた取り組みの実践） <p>※1泊2日（民泊）での活動を予定しています</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 学内研修⑦（中間報告会準備） 11. 中間報告会 <p>※他のプロジェクトと合同で実施します</p> <ol style="list-style-type: none"> 12. 学内研修⑧（最終報告会準備） 13. 学内研修⑨（最終報告会準備） 14. 学内研修⑩（最終報告会準備） 15. 最終報告会 <p>※他のプロジェクトと合同で実施します</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	学内研修および現地調査への主体的な参加および中間/最終報告会に対する貢献度により評価します。																
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？																
担当者の研究室等備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」マーケティングプロジェクト</p> <p>【概要】 枚方市に所在する社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の認知度向上に関する企画を立案・実施する。ホームゲームにおける観戦来場者の経験価値を測定し、来場者は何に価値を見出しているのかを明らかにした上で広報戦略を立案する。また枚方市内における認知率を測定し、認知度向上に向けた施策を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>その上で、特に「トライ&エラーを実践する行動力」、「対人関係構築力の向上」、「工程管理、組織の価値連鎖を学ぶ」ことを目標とする。</p>																
授業方法と留意点	<p>「FC TIAMO 枚方」と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】 ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う。そのことにより、近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加を目指す。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームゲームでのアンケート調査の実施と考察 連携先へのヒアリングを通じて課題を抽出 クラブのプロモーション案の展開を作成・評価・検証（連携先の許可により実施） 近隣市におけるクラブの認知率測定と認知度の向上のための施策を提案 活動全体の評価 <p>【年間計画（予定）】</p> <p>4月 プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 4月 マーケティング手法の学習（座学による） ～5月 5月 枚方市内におけるクラブの認知度の測定 6月 連携先との面談 7月 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 8月 ホームゲーム来場者の経験価値測定調査 広報誌制作準備（ポスター、観戦ガイド、PV等の制作） ホームゲーム観戦促進活動、ホームゲーム戦運営補助、枚方市内における広報活動の実施 9月 PBL中間報告会、来場者へのアンケートの実施 ～12月 ホームゲーム会場内でのイベントの企画・実施 12月 まとめと最終報告会</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	<p>全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的に判断し評価する。</p>																
学生へのメッセージ	<p>プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み、「FC TIAMO 枚方」を盛り立てていきましょう。</p>																
担当者の研究室等	<p>吉田佐治子（7号館3階） 水野武（7号館3階）</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤林 真美・小川 宣子
ディプロマポリシー(DP)	V科：II◎, R科：A◎, A科：A◎, M科：A1○, E科：B○, C科：II◎, L科：DP2◎, DP5△, DP6△, D科：DP1◎, S科：DP1◎, P科：DP8△, J科：DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科：DP1◎, DP7◎, N科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	北河内および和歌山にお住いの高齢者が、スポーツを通して明るく元気な生活を送ってもらえるような提案を行い、高齢者と活動を共にするプロジェクトです。 高齢者は若者との交流により心身が活性化し、健康を維持・増進できます。皆さんの運動の得手不得手は全く問いません。「おじいちゃん・おばあちゃんが大好き、高齢者福祉に役立ちたい」と思っている学生の履修を期待します。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 プロジェクトとしての達成目標 1. チームのなかでの役割を認識し、主体的に行動できるようになる。 2. 計画を立て、段取りが組める。 3. 超高齢社会の現状を理解し、高齢者の健康増進について提案ができる。 プロセス 1. 学生や学外者とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 2. チームで仕事をするときの方法を学ぶ。																
授業方法と留意点	他者（プロジェクトメンバーや連携先）のことを慮りながら、能動的に参加してください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>■4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・高齢社会および高齢者の身体について学ぶ <p>■5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ決め ・活動内容の検討 ・寝屋川市高齢介護室および枚方市地域包括センターへ提言、内容検討 <p>■6月～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北河内にて活動開始 ・由良町へ提言、内容検討 <p>■10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会 ・由良町にて活動 <p>■1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終報告会 <p>■2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえり ・総括 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	現場の視察と活動を繰り返し行いながら、皆さんのアイディアを形にしてゆく授業です。主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。																
担当者の研究室等	総合体育館1階 藤林研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>< 過疎地域における地域資源活用プロジェクト (グリーンプロジェクト) ></p> <p>和歌山県すさみ町にある「古民家」や「豊かな自然」を資源としてとらえ、「田舎暮らし体験のための古民家再生」、イベントとして光害の無いすさみ町での「星空観望会イベントの開催」、カヌー川下りが行われている古座川での利用を考慮した「間伐材を利用したカヤック製作・試乗イベントの開催」、などをテーマとする。</p> <p>「古民家再生」では、間伐材を使ったログパネルなどを利用し、いわゆる住宅リニューアルのピフォーアフターを体験する。</p> <p>具体的なイベントは、地域の連携団体(すさみ町役場地域未来課)と協働して実現することになる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 3. ものづくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。 																		
授業方法と留意点	<p>年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み中に1回)</p> <p>それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3年計画の3年目のプロジェクトです。はじめに大きな目標からはずれないような目的を設定します。(受講生が提案して目的を定めることから始めます)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマの情報共有(昨年度までの成果の説明)と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定 2. 現地調査とテーマの修正と具体的な開発設備・機器の決定 3. 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 4. 大型装置・設備については現地で加工組み立て 5. 現地で加工、施工、組み立て開始 6. 装置・設備の完成 7. 試作装置・設備による実験評価 8. 実験結果の考察と改良 9. 改良した装置について評価実験・考察 10. 現地で再実験 11. 実験結果の考察と改良 12. 最終実地評価と報告 <p>事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>通常(週1回の)活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。</p> <p>学生へのメッセージ</p>																		
学生へのメッセージ	<p>「古民家再生」では建物のピフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものづくりを通じた地域活性とも言える活動です。</p>																		
担当者の研究室等	<p>8号館1階テクノセンター、1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。</p>																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>概要: 本プロジェクトは、PBLプロジェクトの初年度の2010年から開講し、8年間続けてきた。この間、寝屋川市内での環境学習支援や、寝屋川市内をはじめとする淀川水系の各地で様々な団体と連携し親水活動、環境保全活動や流域住民への環境・防災に関する啓発活動を行ってきた。</p> <p>2018年度も引き続き、寝屋川市立池の里市民交流センターでの子どもたちへの環境学習支援に、学生が企画・実施担当として関わることで、市民ボランティアと子どもをつなぐ架け橋となることを目指す。また、淀川や芥川を中心に水辺整備活動を行い、淀川水系の流域連携活動を行う。</p> <p>目的: 池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どものための環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での天然アユ復活や巨椋池ピオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法: 池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点: 学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ: 寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 2. 巨椋池ピオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 <p>方法: 授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト(6月)、近畿水環境交流会(8月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題: 内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科) 科学技術教養C1・C2																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%)</p> <p>水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)</p>																
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみならずの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査: 地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画: 具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中で実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点(廃校になった小学校の校舎)を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキープポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也. 針尾 大嗣. 牧野 幸志. 山本 圭三
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>地域の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー（学部講師を含む）、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬けの続編や販売展開（寝屋川市、京都市ほか）、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント（枚方市）、大学共同のイルミネーションイベント（茨木市）、スポーツ教室運営（門真市）、地域のITスキル測定と教育（摂津市）、歴史資産の展覧会企画（河南町）などである。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レクチャー ・グループ学習 ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p>【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。</p> <p>【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。</p>																
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室、牧野准教授室、山本准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵, 尾山 廣
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>和歌山県由良町の地域ブランドを創造するため、由良町の周知や由良町の特質の創出を行う。それにより、由良町の交流人口を増やし、地域経済活性化の一助とする。</p> <p>今年度は由良町の観光PRキャラクター「ゆらの助」を活用した取り組みを行う。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>①由良町の地域資源を発見する。 ②パンフレットの作成。 ③企画立案の手法を習得する。 ④企画したものをカタチにする。 ⑤自ら考え行動できる力をつける。 ⑥チームで活動できる力をつける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>講義とフィールドワーク 由良町へ出向き現地調査や成果発表を行います。 企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います</p> <p>2. 由良町の現状を学ぶ 昨年度の成果 由良町の抱える問題について学びます。</p> <p>3. マーケティングの基礎 マーケティングの基礎を学びます。</p> <p>4. 商品開発についての調査</p> <p>5. 商品開発のアイデア出し</p> <p>6. 商品化にむけたとりくみ(商品決定、委託メーカーの決定、デザイン、価格決定、販売方法、販売促進など)</p> <p>7. 商品完成後の取組(販売促進活動)</p> <p>8. ふりかえり</p> <p>この間に中間報告会、最終報告会が入ります。</p>																		
関連科目	各学部マーケティング関連科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マーケティング</td> <td>恩蔵直人</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地域マネジメント戦略</td> <td>池田潔ほか</td> <td>同友館</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社	2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社																
2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館																
3																			
評価方法(基準)	プロジェクトへの参加度 70% 提出物 30%																		
学生へのメッセージ	和歌山県由良町は過疎地域です。日本にはこのようなまちが沢山存在しています。授業で学んだことを、このような地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。																		
担当者の研究室等	11号館7階 鶴坂研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	尾山 廣, 川上 比奈子, 松尾 康光
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	最も身近な自然現象を創り出す“星”にまつわる科学を、現在稼働していない交野市のプラネタリウムを学生自ら操作し、星の動きや星座、神話などを交えて、交野市の児童・生徒に向けた自然科学(宇宙や生命の誕生)の楽しさを伝える学習投映プログラムを製作する。2018年度は、交野市教育委員会から依頼された交野市の児童・生徒を対象に投映を試行し、そのアンケート結果などを踏まえて、内容をブラッシュアップし、体験学習型プレゼンテーション・シナリオと簡易機器操作マニュアルを完成する。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 天体の基礎的な知識を身につける。 プラネタリウムの基礎知識を修得する。 星のまち交野の特徴を説明できる。 様々な問題について理論的・分析的な関心をもてる。 小学生に星の神秘を伝えることができる。																
授業方法と留意点	松尾研究室、川上研究室、尾山研究室のゼミ生と同時に活動する。主な活動期間は2018年5月～2019年1月であり、月1回の全体ミーティングと年間7回程度を交野市で活動する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの概要と基本方針の説明 プラネタリウム投影機のメンテナンスと理科教材用のシナリオ案を策定 プレゼンテーションに必要なフィルムやスライドの作成 交野市在住の児童や生徒を対象に投映会を試行 アンケート結果に基づいた内容のブラッシュアップ(連携団体との協議を含む) 体験学習型プレゼンテーション・シナリオのブラッシュアップ プラネタリウムの簡易操作マニュアルの完成 上記の項目を2018年5月～2019年1月に実施する(機器の状況により変更がある)。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	①天体・星の知識(プレゼンテーションを含む)やプラネタリウムの操作方法を理解できている。②空間(半球形空間)を利用した効果的なプレゼンテーションを考えている。③小中学生や外部の方々との接し方(態度)ができている。 以上の3点について、ノートやグループ評価表などで総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	理科教育プログラムの開発(ソフト)と機器操作マニュアルの作成を目的とするため、教職希望の学生など、星が好き、子供たちに教えることが好きな学生を中心に募集しています。																
担当者の研究室等	理工学部生命科学科(松尾先生、尾山)は1号館8階または9階、住環境デザイン学科(川上先生)は12号館7階に教室がある。																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教.木村 朋紀.鶴坂 貴恵.船越 英資
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		

授業概要・目的	<p><摂大ブランド商品の企画・開発プロジェクト> 様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。昨年度は摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、いくつかの商品を企画した(本格芋焼酎仕込みのみかん酒、焦げがごびりつきにくいBBQ網など)。本プロジェクトでは、(開発プロジェクト)と(企画プロジェクト)に分け、すでに企画した商品について具体的な商品化を目指すとともに、作年度と同様に新規の商品企画も行う。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>4人の教員が担当し、1グループ5人(合計20人)までの少人数で活動を行う。 そのため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>実施手順は以下のとおりである。 <開発プロジェクト> 1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。 2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。 3. 商品を委託製造する。 4. 広報活動を行う。 <企画プロジェクト> 1. 情報分析および情報収集を行う。 2. 商品案を企画し、ビジネスプランを作成する。 3. 寝屋川市のビジネスコンテストに応募する 4. 次年度プロジェクトに向け、連携企業を探す。</p> <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	<p>居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)、鶴坂教授室(11号館7階)</p>																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	一色 美博, 栗田 寿基, 釣本 聖司
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチの鉄道模型を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。 また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。																
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。 履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本年度はレール間隔3.5インチ、5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 1. プロジェクトの開始に先立って、社会人基礎力、目標管理、工程管理、プロジェクト管理について、メンバーで調査・討議する。 2. 教員の指導の下に目標と計画を作成する。 3. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設等を製作する。 4. 計画からの遅れには対策を講じる。 5. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 6. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 7. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マネジメント基本と原則</td> <td>P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら</td> <td>岩崎夏海</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社	2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社														
2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社														
3																	
評価方法(基準)	汎用的能力(40%)、主体性・柔軟性・課題発見解決(30%)、貢献度(30%)について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。																
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。																
担当者の研究室等	1号館3階 一色教授室 8号館1階 テクノセンター																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	このPBLのプロジェクト名は、「交野おりひめ大学との連携プロジェクト ～地域貢献、そしてビジネス戦略～」です。 このPBLのキーワードは、「地域活性化」、「ビジネス戦略」、「裏方」の3つです。主なプロジェクト概要は、以下のとおり。 ①交野市の市民大学である「交野おりひめ大学」と連携し、本学学生が様々な活動を通じて地域住民の方々と交流し、地域貢献を行うとともに、通常の大学授業では学習できない様なビジネス戦略（新商品開発、マーケティング、生産加工、ビジネスプラン作成など）について体験・学習します。 ②なお、この事業は交野おりひめ大学のほか、交野市役所、商工会議所、交野市工業会、関係企業、各種市民団体、地域マスコミなど、交野市関連の様々な関係機関と連携しています。																
到達目標	①PBL前とPBL後を比較し、本学学生が実社会でビジネスを行うための様々な要因・ノウハウ等について体験的かつ実践的に学修し、理解することが、このPBLの到達目標です。 ②地域の異世代の方々と交流し、実のあるプロジェクト成果を狙います。 ③交野おりひめ大学にとって、本学のPBL履修学生の参加により、どのような効果があったのか総括し、市民大学としてのさらなる質の向上を目指します。																
授業方法と留意点	①「交野おりひめ大学」には、現在7つの学科があり、交野市内の住民など約300名が参加しています。2017年度は、本学のPBL履修学生32名(全て現3回生)が5～6名ずつ6つの学科に分かれて所属し、それぞれの活動を展開してきました。 ②2018年度は、新2年生を加え、活動内容をさらに充実させるとともに、先輩から後輩への円滑な引継ぎを行い、本PBLが地域と持続的な関係を構築できるよう努めます。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	①2018年4月～9月中旬 <3回生> ・基本的には、2017年度の活動を継続しますが、所属学科の配属替え、リーダー・役割分担の交替等を行うなど、新体制で活動に取り組みます。 <2回生> ①課外活動前の事前学習として、ケースメソッド形式(少人数、グループ討議、プレゼン等)によるビジネス戦略に関する実践的学修を重ねる。これにより、学内授業と学外活動の相乗効果を狙います。 ②前期または夏休み期間中に、学生全員を一度現地へ連れて行き、交野おりひめ大学関係者、関係団体、事業者等との顔合わせを行います。 ②9月中旬～2019年3月 <3回生、2回生> ①学年合同のチーム編成により、交野おりひめ大学の各学科の活動に参加します。 ②交野市内の関係各団体と連携し、様々なビジネス戦略(新商品開発、マーケティング、生産加工、ビジネスプラン作成など)について体験・学習するとともに、その活動内容について情報発信を行います。 ③活動成果は、PBL全体授業における各学科単位のプレゼン報告・質疑応答等を通じ、全員で精査することでPDCAサイクルを回し、次のアクションへつなげます。 ④活動中でのOJTを通じ、3回生から2回生へ円滑な引継ぎを行い、次年度以降の活動に活かします。 ⑤総じて、イベント参加等の単なる『遠足』『ママごと遊び』に終始しない。楽しさも追求しつつ、実践的なビジネス体験学修を重ね、到達目標を達成します。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>とくにありません。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	とくにありません。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	とくにありません。																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>とくにありません。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	とくにありません。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	とくにありません。																
2																	
3																	
評価方法(基準)	①PBL活動への参加意欲および貢献度(70%)、学内・学外発表会等への貢献度(30%) ②なお、本PBLは、交野おりひめ大学のほか、関係各団体等と連携したプロジェクトであり、多くの関係先の監視の下で活動を行うこととなります。したがって、学修成果は学内外の報告会(中間報告等を含む)、関連学会等においてプレゼン発表を行うことで、第三者の評価を受けるかたちとなります。																
学生へのメッセージ	①このPBLは、正直言って「しんどい」。炎天下での草むしり、農作業や雑用・裏方業務(準備・後片付けなど)もあり、土日のうち、年間数日はつぶれます。しかも、バイトとは異なり、報酬等は一切ありません。 ②それでも、2017年度は4つの学部から32名が履修しており、全員楽しく、ガッツ溢れる活動を展開しています。その理由とは何か? そこに興味がある人、大歓迎です。諸君のチャレンジをお待ちしています!																
担当者の研究室等	11号館7階 大田住吉研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	栢木 紀哉, 鶴坂 貴恵, 林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	寝屋川市成美小学校区域協働協議会青少年部会と連携して、成美小学校在籍児童に将来の社会生活に向けてのお金との付き合い方を学んでもらうために、経済のしくみや街の経済の動き等について、体験的な学習を軸にした学習プログラムを作成・実施する。社会的活動への貢献を通しての社会の中での役割の自覚、地域経済、子どもを取り巻く教育環境の調査・分析に基づいた課題の明確化・抽出化、子どもを相手にした教育行為の省察等を通して、自らも成長を実感することをねらいとする。																
到達目標	本プロジェクトは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 また、次の事項を具体的な達成目標として設定する。 ①地域の社会的活動への参加を通じて自らの社会的役割を自覚できるようになる。 ②経営と教職の学生がコラボすることにより相互に学び合いをすることができる。 ③経営学部生は経営学的方法により各団体機関が実現しようとしている企てを把握し、その評価をする経験を積む。 ④教職履修学生はメンター的な関わりによって子どもたちに寄り添う経験、作成した教材を教授場面で臨機応変に修正する経験を積むとともに、学習場面での発問、説明、指示、助言など、子どもたちの思考や行動への具体的な働きかけの経験を積む。																
授業方法と留意点	寝屋川市成美小学校区域協働協議会と共に、プログラムの準備・実施・総括の全過程を、協力協働しながら進める。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	4月～6月 プログラムコンテンツの作成 体験実習先の選定、小学生向けの学習プログラムの検討、地域の調査等 学習指導要領・教科書の関連内容の調査、ワークショップの準備等 7月～8月 ①小学生・摂大生の初セッション（アイスブレイキング、グループワーク） ②フィールドワークⅠ（例えば、日銀大阪支店、造幣局本局大阪工場） ③フィールドワークⅡ（例えば、地元運動団体、地元商店街） ④フィールドワークⅢ（例えば、寝屋川市役所、北大阪商工会議所等） ⑤学習会（例えば、家族でもともに学ぶ機会を設ける） 9月～10月 ①体験活動の振り返り ②摂大祭りでの発表・展示（中間報公開を兼ねる） ※小学生・保護者・協働協議会員を招待 1月 最終報告会																
関連科目	摂南大学PBLプロジェクトⅠ・Ⅱ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	企画書(15%)、活動報告書(15%)、取り組み姿勢(50%)、ループリック(20%)を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	PBL活動は、社会に出てからも大いに役に立ちます。活動を通して常に考えることを意識し、多くの経験を身につけてください。自主的な参加と積極的な提案を期待します。																
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝.水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なる価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する <ol style="list-style-type: none"> 1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 2. マーケティング手法の学習(座学による) 3. 連携先との面談 4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 6. 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 8. まとめと最終報告会 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																
担当者の研究室等	11号館10階 石井研究室 7号館3階 水野研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 紙芝居ボランティアを通じた社会貢献</p> <p>【概要】 前年までに作成した紙芝居の読み聞かせ活動(例:寝屋川市の自転車安全条例を小学生に伝える紙芝居の読み聞かせなど)、および近隣行政の要望に応じて、紙芝居の新規制作と上演活動を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 役割意識や自己効力感を育むために、仲間と協働しながら社会に貢献する喜びを体験する。 読み聞かせ活動及びそのトレーニングを通して「伝える力」を涵養する。 																
授業方法と留意点	<p>学生が中心となって活動する紙芝居制作・読み聞かせボランティアのプロジェクトです。 全員が「自分が主役」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 寝屋川市役所や警察署のご担当者、及び近隣行政・図書館等のご担当者様と学生が直接連絡をとり、相談して活動内容や日時を決定する。 毎週一回のミーティングと報告書で情報共有を図り、必要に応じて適宜集合して練習、作業などを行う。 活動内容は、大学ホームページなどで学外にも公表するとともに、中間報告会、最終報告会などでも発表する。 <p>【内容】</p> <p>年間を通じて、市と連携して読み聞かせ活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 寝屋川市自転車安全条例普及のための紙芝居 寝屋川市安全協会の活動に同行し、近隣の小学校で自転車事故の減少のために前年度作成の紙芝居の読み聞かせ活動をする。 和歌山県由良町・及び近隣行政の民話を語り継ぐための紙芝居 対象となるご担当者の方と相談して活動内容を決定する。既存のイベントへの参加、学生自らイベントの企画提案、幼少学校での上演などが考えられる。さらに、その地域の民話をもとに紙芝居を作成する。 その他 適宜、要請に応じて紙芝居を作成したり、読み聞かせ活動を実施することがある。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>全体で行う活動やミーティングの参加態度(40%)、自分の役割に対する貢献(40%)、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表(20%)</p>																
学生へのメッセージ	<p>昨年は寝屋川市の小学校での読み聞かせ・和歌山県由良町の民話を題材に紙芝居の新規制作を行いました。紙芝居の読み聞かせにあたっては、練習・実演を行うなど、活動は大変ボリュームがありました。答えの無い・形の見えない価値を創り出すことは大変に難しいことですが、そのぶん達成感や団結力がつよくなると思います。プロジェクトを通して、社会と関わり、仲間と試行錯誤する難しさ、楽しさを体験してください。</p>																
担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室 水野 武																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト</p> <p>概要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p>																
到達目標	<p>次の四点を本講義において学ぶべき到達目標とします。 また受講生には、下記の学びを通じ、「中山間地域における生活支援のあり方」についての自分なりの考えを作り上げることを期待します。</p> <p>①中山間地域に暮らす人びとの生活を知ること、地域生活やその課題の多様性を学ぶこと ②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について学ぶこと ③中山間地域における生活支援体制の構築にさまざまな主体がかかわっていることを理解すること ④学生自身が「地域の見守り、支え合い」の担い手となりうることを自覚すること</p>																
授業方法と留意点	<p>文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。 具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>講義の流れは下記の通りです（進捗状況によって変更となる場合があります）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キックオフミーティング（参加者の顔合わせ、プログラムの概要説明） 2. 学内研修①（中山間地域における生活支援体制の構築について関する講義（担当教員による）、意見交換） 3. 学内研修②（紀美野町の地理、伝統、文化、その他についての発表、共有） 4. 学内研修③（同上） 5. 紀美野町での現地調査①（地域視察、ヒアリング、地域活動への参加、住民との交流等） <p>※1泊2日（民泊）での活動を予定しています</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 学内研修④（第1回現地調査での学びについて各自発表、共有） 7. 学内研修⑤（具体的な生活支援体制構築の手法についての検討） 8. 学内研修⑥（同上） 9. 紀美野町での現地調査②（学生による提案内容の報告会、生活支援体制構築に向けた取り組みの実践） <p>※1泊2日（民泊）での活動を予定しています</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 学内研修⑦（中間報告会準備） 11. 中間報告会 <p>※他のプロジェクトと合同で実施します</p> <ol style="list-style-type: none"> 12. 学内研修⑧（最終報告会準備） 13. 学内研修⑨（最終報告会準備） 14. 学内研修⑩（最終報告会準備） 15. 最終報告会 <p>※他のプロジェクトと合同で実施します</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	学内研修および現地調査への主体的な参加および中間/最終報告会に対する貢献度により評価します。																
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？																
担当者の研究室等備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」マーケティングプロジェクト</p> <p>【概要】 枚方市に所在する社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の認知度向上に関する企画を立案・実施する。ホームゲームにおける観戦来場者の経験価値を測定し、来場者は何に価値を見出しているのかを明らかにした上で広報戦略を立案する。また枚方市内における認知率を測定し、認知度向上に向けた施策を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>その上で、特に「トライ&エラーを実践する行動力」、「対人関係構築力の向上」、「工程管理、組織の価値連鎖を学ぶ」ことを目標とする。</p>																
授業方法と留意点	<p>「FC TIAMO 枚方」と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】 ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う。そのことにより、近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加を目指す。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームゲームでのアンケート調査の実施と考察 連携先へのヒアリングを通じて課題を抽出 クラブのプロモーション案の展開を作成・評価・検証（連携先の許可により実施） 近隣市内におけるクラブの認知率測定と認知度の向上のための施策を提案 活動全体の評価 <p>【年間計画（予定）】</p> <p>4月 プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 4月 マーケティング手法の学習（座学による） ～5月 5月 枚方市内におけるクラブの認知度の測定 6月 連携先との面談 7月 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 8月 ホームゲーム来場者の経験価値測定調査 広報誌制作準備（ポスター、観戦ガイド、PV等の制作） ホームゲーム観戦促進活動、ホームゲーム戦運営補助、枚方市内における広報活動の実施 9月 PBL中間報告会、来場者へのアンケートの実施 ～12月 ホームゲーム会場内でのイベントの企画・実施 12月 まとめと最終報告会</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的に判断し評価する。																
学生へのメッセージ	プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み、「FC TIAMO 枚方」を盛り立てていきましょう。																
担当者の研究室等	吉田佐治子（7号館3階） 水野武（7号館3階）																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤林 真美・小川 宣子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	北河内および和歌山にお住いの高齢者が、スポーツを通して明るく元気な生活を送ってもらえるような提案を行い、高齢者と活動を共にするプロジェクトです。 高齢者は若者との交流により心身が活性化し、健康を維持・増進できます。皆さんの運動の得手不得手は全く問いません。「おじいちゃん・おばあちゃんが大好き、高齢者福祉に役立ちたい」と思っている学生の履修を期待します。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 プロジェクトとしての達成目標 1. チームのなかでの役割を認識し、主体的に行動できるようになる。 2. 計画を立て、段取りが組める。 3. 超高齢社会の現状を理解し、高齢者の健康増進について提案ができる。 プロセス 1. 学生や学外者とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 2. チームで仕事をするときの方法を学ぶ。																
授業方法と留意点	他者(プロジェクトメンバーや連携先)のことを慮りながら、能動的に参加してください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>■4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・高齢社会および高齢者の身体について学ぶ <p>■5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ決め ・活動内容の検討 ・寝屋川市高齢介護室および枚方市地域包括センターへ提言、内容検討 <p>■6月～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北河内にて活動開始 ・由良町へ提言、内容検討 <p>■10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会 ・由良町にて活動 <p>■1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終報告会 <p>■2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえり ・総括 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	現場の視察と活動を繰り返し行いながら、皆さんのアイディアを形にしてゆく授業です。主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。																
担当者の研究室等	総合体育館1階 藤林研究室																
備考																	

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	復習
	7	話し方1	話題の変え方	復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	復習
	9	話し方3	話の広げ方	復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	専門日本語 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (50%)、提出物 (50%)
-----------	---------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。
到達目標	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができる。ビジネス場面で使用する日本語表現を理解し、使用することができる。異文化ビジネスコミュニケーションについて理解できる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料及びタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって日本での就職活動及び就職に必要な知識やスキルを身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語のレベルチェック	授業の説明	復習・課題
	2	ビジネス日本語 1 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	復習・課題
	3	ビジネス日本語 2 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	復習・課題
	4	ビジネス日本語 3 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	復習・課題
	5	ビジネス日本語 4 読む	速読、精読 内容理解	復習・課題
	6	ビジネス日本語 5 読む	速読、精読 内容理解	復習・課題
	7	ビジネス日本語 6 書く	ビジネス文書の書き方	復習・課題
	8	ビジネス日本語 7 書く	Eメールの書き方	復習・課題
	9	ビジネス日本語 8	履歴書の書き方	復習・課題
	10	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーション	復習・課題
	11	日本の会社 1	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	復習・課題
	12	日本の会社 2	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	復習・課題
	13	日本の会社 3	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	復習・課題
	14	日本の会社と仕事	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	復習
	15	総復習・確認テスト	総復習	復習

関連科目	専門日本語 F I
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業の参加度 (10%)、課題 (30%)、テスト (60%) により総合的に判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	授業では積極的に発言することが求められます。(事前・事後学習 1 時間)
-----------	--------------------------------------

担当者の研究室等	7号館4階 (門脇研究室)
----------	---------------

備考	授業進度及び参加学生のニーズによって授業内容が多少変更することがあります。
----	---------------------------------------

科目名	専門日本語R	科目名(英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果(資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	復習
	7	話し方1	話題の変え方	復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	復習
	9	話し方3	話の広げ方	復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	専門日本語FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(50%)、提出物(50%)
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	--

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名(英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきている。ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ない。グローバル社会において必要とされるビジネス実務とは何かを学ぶとともに、変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立することを目的とする。
到達目標	1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身に付ける必要性を学ぶ。 2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化(多様性)を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 また、毎回の座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題についてのプレゼンテーションを行う。
科目学習の効果(資格)	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。	・事前学修：自己紹介の原案を考える。 ・事後学修：プレゼンテーション資料を熟読する。
2	ビジネスの定義	・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。	・事前学修：テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめる。 ・事後学修：企業の事例を調べる。
3	組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー	・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。	・事前学修：NPOについて調べる。 ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成する。
4	ビジネス環境をとらえる①ー 経済のグローバル化と高度情報化ー	・グローバル化の明暗について考察する。	・事前学修：グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集める。 ・事後学修：日本のグローバル化に関する小レポートを作成する。
5	ビジネス環境をとらえる②ー 地球環境問題と少子高齢社会ー	・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。	・事前学修：ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめる。 ・事後学修：地球市民として考えたことをまとめる。
6	ビジネス現場をとらえるー オフィスからワークプレイスへー	・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。	・事前学修：将来の働き方をイメージし、まとめる。 ・事後学修：グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成する。
7	ビジネス実務能力	・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。	・事前学修：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめる。 ・事後学修：自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめる。
8	ビジネス実務の基本①ー 仕事の進め方ー	・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。	・事前学修：問題プリント①を解く。 ・事後学修：問題プリント②を解く。
9	ビジネス実務の基本②ー ビジネスと諸活動ー	・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。	・事前学修：CSRについて調べ、まとめる。 ・事後学修：一企業のCSRを選び、レポートを作成する。
10	ビジネス実務の基本③ー ビジネスと経営資源ー	・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。	・事前学修：男女共同参画社会に関して調べ、まとめる。 ・事後学修：、ワークライフバランスに関してレポートを作成する。
11	ビジネス実務の基本④ー ビジネスとPDCAサイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンス(経理財務)ー	・PDCAサイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。	・事前学修：業界内の2社CMを比較し、その特徴をまとめる。 ・事後学修：CMの必要性の有無に関してレポートを作成する。
12	自己実現とキャリアプランニングー セルフマネジメントと自己啓発ー	・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。	・事前学修：自己振り返りシートを作成する。 ・事後学修：再度自己振り返りシートを作成し、職業を通して自己意識をまとめる。
13	ビジネスプラン①ー 起業への意識ー	・日常生活での不便な点、改善すべき点を挙げ、提案をするためのグループワークを行う。 ・CM比較をイノベーションの観点から行う(とくにCSRに関するもの)。	・事前学修：各自がテーマを見つける。 ・事後学修：グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
14	ビジネスプラン②	・CM比較プレゼンテーションを準備する。 ・実際に企画を考える。	・事前学修：グループのビジネスプランを発展させる。 ・事後学修：グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
15	ビジネスプラン・プレゼンテーション	・作成したビジネスプランに基づいて発表する。	・事前学修：プレゼンテーション準備を行う。 ・事後学修：最終レポートを作成する。

関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	20歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリング	阪急コミュニケーションズ
	2	イノベーションと企業家精神	P.F. ドラッカー	ダイヤモンド社
	3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> グループワーク (30%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (40%) を総合的に評価する。 毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンが繰り返される予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。 			
学生への メッセージ	<p>私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。</p>			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	大学教養入門	科目名(英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	荻田 喜代一・石井 三恵・伊藤 謙・大塚 正人・寺内 睦博・藤林 真美・水野 武・柳沢 学
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:II◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,N科:DP1◎N:DP1◎		

授業概要・目的	この科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身に付けるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身に付けるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身に付けることを目指します。
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身に付けている。 (2)ABDによる読書法を身に付けている。 (3)チームワーク能力を身に付け、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)国連アカデミックインパクトについて討議することができる。 (5)読書の意義を理解して読書習慣を身に付けている。 (6)コミュニケーション能力を身に付け、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 学修法を中心として、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果(資格)	大学生に必要な教養の基礎知識が身につく。ABD法等の協働学習の方法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	アイスブレイク 事前アンケート 科目の特徴、どのような力が見につくのか グループワーク「教養とは何か?」	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	2	教養入門:「大人の教養」 第7章 日本と日本人	教科書の紹介, 概要 チーム作り, 授業の約束事 ABDによる学習の進め方の説明 ABD法に挑戦「第7章 日本と日本人」	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	3	教養入門: 第1章 宗教	解説 協働学習, 対話 理解度確認クイズ, 振り返り	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	4	教養入門: 第2章 宇宙	解説 協働学習, 対話 理解度確認クイズ, 振り返り	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	5	教養入門: 第3章 人類の旅路	解説 協働学習, 対話 理解度確認クイズ, 振り返り	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	6	教養入門: 第6章 歴史	解説 協働学習, 対話 理解度確認クイズ, 振り返り 中間発表テーマの決定	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	7	教養入門: 中間成果発表1	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	振り返りレポート1
	8	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」 第1章 アドラーとはどんな人であったのか	教科書の紹介, はじめに 解説 協働学習, 対話 理解度確認クイズ, 振り返り	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	9	自分を知る教養: 第2章 アドラー心理学の育児と教養	解説 協働学習, 対話 理解度確認クイズ, 振り返り	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	10	自分を知る教養: 第3章 横の関係と健康なパーソナリティ	解説 協働学習, 対話 理解度確認クイズ, 振り返り	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	11	自分を知る教養: 第5章 人生の意味を求めて	解説 協働学習, 対話 理解度確認クイズ, 振り返り 中間発表テーマの決定	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	12	自分を知る教養: 中間成果発表2	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	振り返りレポート2
	13	世界を知る教養: 国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 協働学習 (チームの提案) 理解度確認クイズ, 振り返り	振り返り学習: チーム学習の振り返り
	14	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsの概要 協働学習 (チームの提案) 理解度確認クイズ, 振り返り	振り返り学習: チーム学習の振り返り
	15	大学教養入門	グループワーク「教養とは何か?」 事後アンケート	振り返りレポート3
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書				

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>おとなの教養</td> <td>池上彰</td> <td>NHK 出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アドラー心理学入門</td> <td>岸見一郎</td> <td>KK ベストセラーズ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版	2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版														
2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢 (チーム : 30%) ・ポスター/発表 (チーム : 30%) ・振り返りレポート 3回 (個人 : 30%) ・理解度確認クイズ (個人 : 10%) <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p>																
学生への メッセージ	<p>この科目は全国に先駆けて実施する摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。</p>																
担当者の 研究室等	<p>荻田喜代一 (薬学部・枚方キャンパス 1号館 6F、副学長室)、伊藤謙 (1号館 3F)、柳沢学 (8号館 3F) 大塚正人 (薬学部 1号館 5F)、藤林真美 (総合体育館 1F), 久保貞也 (11号館 7F)、寺内睦博 (11号館 10F)、石井三恵 (7号館 5F)、水野武 (7号館 3F)、喜多大三 (7号館 8F)、上野山裕士 (7号館 3F)</p>																
備考	<p>この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを期待しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。</p>																

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名(英文)	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れている。「境界線」も一つの視野では理解できない。さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ(多様性)を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティマネジメントをジェンダー視点で俯瞰することが目的である。
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果(資格)	・ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて	・事前学修: ダイバーシティに関して、調べる。 ・事後学修: 身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成する。
2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修: 私たちの周りにある伝統や習慣について考える。 ・事後学修: 「ウチとソト」に関するレポートを作成をする。
3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学+男性学=人間学 ・時代を生きた女性たち6名に関して調査	・事前学修: フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べる。 ・事後学修: 活躍した女性たちに関してグループで文献調査し、まとめる。
4	日本の近代化	・明治の落とし物 ・グループで時代を生きた女性たちに関するプレゼンテーション	・事前学修: 明治・大正・昭和の歴史年表を作成する。 ・事後学修: 明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成する。
5	国際統計比較	・ジェンダーギャップ ・ジェンダーエンパワーメント指数	・事前学修: 国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考える。 ・事後学修: 国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成する。
6	性役割の形成①	・発達段階における「刷り込み」 ・DV/デートDV	・事前学修: 性役割を理解し、幼年期から振り返る。 ・事後学修: 自らの「刷り込み」体験に関するレポートを作成する。
7	性役割の形成②	・結婚と母性信仰 ・妊娠と出生前診断 ・優生保護法と母体保護法 ・「親になること」と「親であること」の相違	・事前学修: 共同作業である結婚の意味を見直すと同時に、親役割に関して考える。 ・事後学修: 自らの結婚観に関するレポートを作成する。
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成 ・格差と二極分化	・事前学修: 日本と世界を比較しながら、女性労働について考える。 ・事後学修: M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成する。
9	男女共同参画社会とワークライフバランス	・ジェンダーマネジメント ・働き方改革	・事前学修: ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べる。 ・事後学修: ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成する。
10	中間プレゼンテーション	・各自決めたテーマに関して調査考察した結果を発表する	・事前学修: 調査考察し、発表準備をする。 ・事後学修: 議論した結果などを加筆し、最終プレゼンに向けて練習する。
11	アサーティブネス理論①	・世界中でアサーティブネスが用いられる理由 ・政策提言へ向けての中間レポート提出	・事前学修: アサーティブネスについて調べる。 ・事後学修: アサーティブに話す練習をする。
12	アサーティブネス理論②	・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる	・事前学修: アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考える。 ・事後学修: アサーティブネス理論を使うことによる自身の変化についてレポートを作成する。
13	ダイバーシティマネジメント①	・企業比較から政策提言へ	・事前学修: 企業が必ず取り入れているダイバーシティマネジメントについて、事例研究する。 ・事後学修: 興味のある企業のダイバーシティマネジメントに関してダイバーシティの視点からの政策提言に関するレポートを作成する。
14	ダイバーシティマネジメント②	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修: 事例研究した内容をプレゼンテーションできるように練習する。 ・事後学修: 事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるように練習する。
15	まとめ	・最終レポート提出 ・まとめ	・事前学修: ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめる。 ・事後学修: ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめる。

関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社
	2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房
	3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書
評価方法 (基準)	ロールプレイ (20%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	地域貢献実践演習	科目名 (英文)	Practical Training for Social Innovation
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵, 石井 三恵, 上野山 裕士, 藤林 真美, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	この授業は、ソーシャルイノベーション副専攻課程における総仕上げ科目です。 これまで、講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証にいたるまでを、学生が主体的に取り組みます。 その過程のなかで、理論と実践を結び付け方を体験を通じて学び、新たな成長につなげていくことが目的です。																
到達目標	①これまで学んだ理論を実践に結び付けて、考察し行動することができる。 ②課題発見から解決までのPDCAサイクルを回すことができる。 ③チームで活動することができる。 ④チーム内で役割行動ができる。 ⑤地域の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。																
授業方法と留意点	・学生が主体的に地域の課題を解決するため、フィールドに赴き活動を行います。 ・中間発表会、最終報告会での発表（チーム単位）、個人別レポートの作成が課せられます。 ・チームで活動を行うため、コミュニケーションを密にし、役割行動ができることが求められます。 ・社会に出れば、必ず求められる「報告、連絡、相談」を実践し、チームで情報共有しながら連携先との相互理解を図り、課題解決のための、計画策定から実施、振り返りまで、途中で投げ出すことなく取り組むことが求められます。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	この授業は学生がチームごとに主体的にフィールドワークを行っていきますが、月に1度程度、共有を図り、進捗状況の確認を行います。 チームで活動したときには、必ず日誌を作成し、担当教員、連携先、チームメンバーに共有をしてください。 また、課題や問題が発生した時には、必ず担当教員に相談をしてください。 月に1度程度のミーティングは、木曜日6時間目に設定しています。 第1回 4月19日 オリエンテーション① プロジェクト内容や進め方の説明 第2回 4月26日 オリエンテーション② マナー研修 第3回 5月24日 集合日① 第4回 6月21日 集合日② 第5回 7月19日 集合日③ 夏期休業期間：各グループで調査研究活動を進める。 第6回 9月20日 集合日④ 第7回 9月27日 集合日⑤ 中間発表 第8回 10月25日 集合日⑥ 第9回 11月8日 集合日⑦ 第10回 11月22日 集合日⑧ 第11回 12月6日 集合日⑨ 第12回 12月13日 集合日⑩ 第13回 12月26日 最終報告会 第14回 同 まとめ																
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程関連科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	活動の取組（自己評価、相互評価、連携先からの評価等）50%、発表会での発表（中間、最終）20%、レポート30%																
学生へのメッセージ	PBLより、さらに踏み込んだ活動を行い、応用力や実践力をつけましょう！																
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	地域と私	科目名(英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鶴坂 貴恵、石井 三恵、稲地 秀介、上野山 裕士、久保貞也、田中 結華、藤林 真美
ディプロマポリシー(DP)	V科：II◎, R科：A◎, A科：A◎, M科：A1◎, E科：B◎, C科：II◎, L科：DP2◎, D科：DP1◎, S科：DP1◎, P科：DP8△, J科：DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科：DP1◎, DP7◎, N科：DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	「地域」に焦点を当てて学ぶ意義を理解し、地域ではどのような課題が存在しているかを学ぶために、テーマごとに学習をします。その後、体験学習では過疎地域である由良町を対象として、由良町の現状と課題を知った上で、現地に赴いて、グループ単位で調査の上、解決策を考え発表します。 この授業は、講義のテーマによって担当教員が変わるオムニバス授業です。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域の課題を理解する。 ・地域の課題について解決策を提案できる。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループの中で自分の役割を理解しながら活動できる。 			
授業方法と留意点	グループで議論等をした上で、グループごとに発表するといったグループワークが中心の授業です。 第2回目、3回目は外部講師による体験型の研修となります。 第11回目は和歌山県由良町での体験学習となります。 グループワークで学習を進めていきますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 4月14日(土)	到達目標や授業方法、成績評価方法等について説明します。 地域のことを学ぶ意義を解説します。 (鶴坂)	【事前学習】 シラバスをみて、内容を確認する。 地域のことを学ぶことについて自分なりに考える。 【事後学習】 地域という視点で新聞等のニュースを探し、読み、自分なりの意見を考える。
	2	自己の探求 4月21日(土)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師・鶴坂)	体験型セミナーでの気づきをまとめる。
	3	自己の探求 4月22日(日)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師・鶴坂)	体験型セミナーでの気づきを今後、どのように活かすかを考える。
	4	今、地域で何が起きているか 5月19日(土)1限	人口減少時代の都市・地域の問題や課題について解説し、地域貢献活動の重要性について考えます。 (鶴坂)	【事前学習】 キーワード「消滅都市」について調べる。 【事後学習】インターネットで地方都市では具体的にどのような問題が発生しているのか、その問題をどうやって解決しようとしているのかを調べる。
	5	地域経済・経営 ー地域の観光・ブランディングー 5月19日(土)2限	観光資源を活用した地域経済の活性化と地域のブランディングについて学習し、都市部と過疎地域での取組の違いを議論します。 (鶴坂・久保)	【事前学習】 地域資源を活用した観光によるまちおこしの事例を調べる。 【事後学習】 自分の地元と和歌山の観光の目玉を考える。
	6	地域環境・防災 ー空き家の現状と課題ー 5月19日(土)3限	大都市周辺市街地と地方農山村部とは空き家を取り巻く状況は異なります。地域特性ごとに異なる空き家の現状と課題を学習し、寝屋川市や和歌山県下の市町村などを対象とした空き家対策などについて議論します。 (稲地)	【事前学習】 授業前に国内の空き家問題を概観するために、国土交通省や自治体などが行っている調査結果、対策、制度など情報をインターネットなどで収集・整理しておくこと 【事後学習】 授業後は議論した内容を整理しておくこと
	7	地域政策・文化 ー地域とスポーツー 6月2日(土)1限	地域とスポーツとの関連；「トップスポーツ(プロ野球やプロサッカー、ラグビーのトップリーグ、都道府県対抗駅伝など)との循環による郷土愛的な地域性」および「地域スポーツクラブにおける住民のスポーツ参加」について理解・議論します。 (藤林)	【事前学習】 事前に提示するキーワードについて予習しておくこと 【事後学習】 授業ノート等で復習すること
	8	地域医療 ー地域で健康な生活を送るには？ー 6月2日(土)2限	地域で健康な生活を支える上で住民が活用できる、組織、サービス、専門職について理解し、地域で健康な生活を送るための課題を多様な視点から話し合います。 (田中・上野山)	【事前学習】事前に提示するキーワードについて各自調べておくこと。 【事後学習】 授業で発表された内容について整理し、地域医療に関する知識をまとめておくこと。
	9	事前学習① 由良町関係者の講演 6月2日(土)3限	和歌山県由良町役場の方に来学いただき、由良町の現状や課題をお聞かせします。(鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 和歌山県由良町の概要を調べる。 【事後学習】 和歌山県由良町の課題をまとめる。
10	事前学習② グループワーク 6月16日(土)1、2限	由良町を対象として、地域経済・経営、地域政策・文化、地域環境・防災、地域医療のどの切り口で課題発見や解決策に取組むかをグループで検討します。また、グループ内での分担を決めます。(鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 グループでどの領域の問題を取り扱うか決めておく。 【事後学習】 由良町でのフィールドワークの準備を行う。	

	11	体験学習 (和歌山県由良町) 6月30日(土) 終日	由良町に出かけ、フィールドワーク(調査)を行います。(鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 現地で調べることについて予備調査しておく。 【事後学習】 現地で得られた情報をまとめておく。																
	12	プレゼンテーション講座 7月7日(土) 1限	プレゼンテーションについての解説、パワーポイントによる資料作成方法の解説をします。 (石井、鶴坂)	【事前学習】 現地で得た情報をまとめておく。 【事後学習】 スライドをつくってみる。																
	13	事後学習① グループワーク 7月7日(土) 2限	現地で得た情報の整理をもちより、発表できる形にしていきます。 (鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 グループで情報を共有化しておく。 【事後学習】 発表できるよう準備をする。																
	14	事後学習② 成果発表会 7月21日(土) 1、2限	作成したスライドを使い、成果発表を行います。 (鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 発表の練習を行う。 【事後学習】 他のグループの取組内容の整理をする。発表したときのコメントや質問を自分たちのグループの発表内容に反映させ、レポート作成に役立たせる。																
	15	事後学習③ ふりかえり 7月21日(土) 3限	「地域と私」全体の総括、ふりかえりを行います。(鶴坂)	【事前学習】 これまでのプリントや副専攻課程ガイドブック等を整理する。 【事後学習】 副専攻課程ガイドブックの完成、レポート作成。																
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	グループワークの成果物 40% グループの成果発表 20% (ルーブリック評価) 最終レポート 40% 60%で合格とする。																			
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。																			
担当者の 研究室等	鶴坂研究室 11号館7階																			
備考																				

科目名	地域連携教育活動 I	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 小山 裕樹, 林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>本科目はサービスマーケティングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。</p>																		
到達目標	<p>実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。</p>																		
授業方法と留意点	<p>原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受け入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動 I」を初めて履修する学生を対象とする。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前指導 1 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 事前指導 2 マナー講座・小中学校の教育現場について 事前指導 3 「守秘義務」の意味とその内容について</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する 活動 1~25 受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項 事前指導に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	<p>教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。</p>																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数(出席数)票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。</p>																		
担当者の研究室等	<p>7号館3階(朝日研究室)、7号館4階(小山研究室)、7号館3階(林研究室)、7号館3階(吉田研究室)</p>																		
備考	<p>事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。</p>																		

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名(英文)	Community-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 小山 裕樹, 林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>本科目はサービスマニエールの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。</p>																		
到達目標	<p>実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。</p>																		
授業方法と留意点	<p>原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受け入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を履修した学生のみとする。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前指導1 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 事前指導2 マナー講座・小中学校の教育現場について 事前指導3 「守秘義務」の意味とその内容について</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する 活動1～25 受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項 事前指導に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	<p>教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。</p>																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数(出席数)票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。</p>																		
担当者の研究室等	<p>7号館3階(朝日研究室)、7号館4階(小山研究室)、7号館3階(林研究室)、7号館3階(吉田研究室)</p>																		
備考	<p>事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。</p>																		

科目名	チームビルディング	科目名(英文)	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。2回生以降に摂南大学PBLプロジェクトを履修する際にも役立つ。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応: 工学部[A], 理工学部 [II]</p>
到達目標	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。

授業方法と留意点	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。
----------	--

科目学習の効果(資格)	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。
-------------	------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	チームビルディングとは何か	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介ワーク ・チームビルディングの理論を学ぶ ・チームビルディングのための技能を知る 	チームにどのように貢献できるかを考える。
3	チームビルディング体験	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパータワーワーク(予定) ・チームの10カ条などに取り組み、チームビルディングを体験する 	チームでの取り組みを振り返る。
4	チームにおけるリーダーとフォロワーの役割	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ ・メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける 	配布資料を熟読する。
5	学習するためのチームづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ 	配布資料を精読する。
6	話し合う技術	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム話し合う際の技術を学ぶ 	配布資料を熟読する事
7	ビジネス記事を活用したディスカッション	記事を活用して情報の読み取りと活用、自分ならどうするかを考える	チームでのディスカッションを振り返る。
8	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ①	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークに取り組み、情報の読み取りと活用、提案することを学ぶ 	チームにどのように貢献できるかを考える。
9	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ②	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでニッポンの課題の解決策を考える 	チームにどのように貢献できるかを考える。
10	チームでプロジェクトを企画する	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の中間おさらい ・チームでプロジェクトを企画する 	チームにどのように貢献できるかを考える。
11	摂南大学PBLプロジェクトの紹介①	本学で開講されている摂南大学PBLプロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
12	摂南大学PBLプロジェクトの紹介②	本学で開講されている摂南大学PBLプロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
13	工程管理を意識したチームビルディング	ビジネスゲームを題材にリソースとコスト、工程管理を意識したワークに取り組む	工程管理に関して調べる。
14	プロジェクトのプレゼンテーション	第10回目の課題の報告プレゼンテーション	プレゼンテーションの際に留意することを考える。
15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	提出物などの出し忘れがないか確認する。

関連科目	<ul style="list-style-type: none"> ・「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目 ・キャリアデザインI・II、摂南大学PBLプロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	チームでの提出物20%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート30%、最終レポート50%で総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室(水野研究室)
----------	------------------------

備考	・参考とする書籍、文献は適宜提示する。
----	---------------------

科目名	哲学から学ぶ	科目名(英文)	Philosophy
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柿本 佳美
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

授業概要・目的	<p>この授業では、生活のなかに溶け込んでいる価値観・社会制度のルーツとなる古典思想を通じて、ものごとを多角的に捉える視点を学びます。科学技術は、ソクラテスやプラトン、アリストテレスといった古代ギリシャの哲学者たちが生きた時代から、飛躍的に進歩しました。科学技術は便利さと快適さを求めてひたが生み出したものなので、社会のなかで共有される価値観、特に自然観や真理観、社会全体にとっての「善」といった視点と無縁ではありません。例えば、建築をはじめとする建造物は、自然との向き合い方、そこで暮らすひとの望ましい暮らし、美意識、社会のあり方など、自然観や社会観を反映しています。</p> <p>古代ギリシャの人々は、人間が作り出すことができない自然のなかのさまざまな変化を観察し、これに驚くとともに、すべてのものに共通する原理は何かと考えました。その後、直接民主制が発達したアテナイでは、哲学は、ひとの「よき生」とは何かを問う知的営みとなります。これは、人間にとって幸福に生きることはどのようなことなのか、という問いでもあります。</p> <p>ここでは、私たちの生活に身近な問題と重ね合わせ、私たちに与えられた「よき生」とは何か、考えていきましょう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 哲学の歴史と学説を知り、事象について多様な見方が成立することを知る。 ・ 哲学の思考形式を理解し、論理的に思考できる。 ・ 毎回のミニレポート課題を通じて、短時間で自分の考えをまとめることができる。
授業方法と留意点	講義形式で進めますが、人数によってはディスカッションも取り入れます。
科目学習の効果(資格)	哲学史を学ぶことで哲学の思考形式に慣れ、思考の多様性を知り、物事について多角的に把握する視点を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに:古代ギリシャの思想から考える自然の姿	授業説明と導入。建築と思想の関係について考える。	予習 古代ギリシャの歴史を調べておく。
2	哲学のはじまり:タレスとデモクリトス	古代ギリシャの自然観と社会のあり方について知る。	予習 「原子論」の歴史について調べる。
3	単に「生きる」ことと「よく生きる」ことの間には:『ソクラテスの弁明』	『ソクラテスの弁明』から「よく生きる」ことについて考える。	予習 「アイロニー」について調べる。
4	自然には目的があるか?:アリストテレス『自然学』	プラトンのイデア論と対比しながら、なぜアリストテレスの自然科学が1000年以上支配的だったのか、考える。	予習 アレクサンドロス大王について調べる。
5	宇宙という全体のなかの個人という認識がもたらすもの:ストア主義とエピクロス主義	ストア主義・エピクロス主義の自然観を理解し、自然の秩序のなかにある人間の自由とは何か、考える。	予習 古代ローマの歴史を復習しておく。
6	宗教のなかの自然:ユダヤ教、キリスト教、イスラム教	宗教のなかで培われた人間観と自然観を理解する。	予習 イエルサレムにあるユダヤ教・キリスト教・イスラム教の聖地を調べる。
7	現在でしか生きられない人間にとっての未来とは:アウグスティヌス『告白』	アウグスティヌスの時間論から、現在の人間の期待としての未来という視点を理解する。	予習 プラトンのイデア論を復習しておく。
8	近代自然科学の方法と哲学:デカルト	数学者デカルトが見出した自然科学の方法とデカルトが目指した真理探求から、自然科学のあり方を考える。	予習 「科学革命」という言葉を調べておく。
9	原子がつくる予定調和:ライプニッツ『モノドロジー』	ライプニッツのモノドロジーから社会を考える。	予習 17世紀のオランダとドイツについて調べておく。
10	経験だけが人間の知識をつくる:ロックとヒューム	人間の知をめぐる経験論と大陸合理論の違いを理解する。	予習 イングランドとスコットランドの違いについて調べておく。
11	人間の疎外とは何か:マルクス	産業社会の成立過程において人間が自然から遠ざけられる過程を理解する。	予習 産業革命について調べておく。
12	人はなぜ戦争をするのか?:カント	カントの定言命法と永遠平和の定義について理解する。	予習 18世紀のヨーロッパの政情について調べておく。
13	超人という思想:ニーチェ	ニーチェによるニヒリズムと「生への意志」を理解する。	予習 ユーゲント・シュティール様式の建築について調べておく。
14	思考の停止が危険な理由とは:丸山真男とアレント	自律的に考えることが必要なのはなぜか、考える。	予習 20世紀初めから第二次世界大戦までの歴史について調べておく。
15	まとめ:科学技術と共生	ひとの「善き生」を目指す科学技術のあり方を考える。	予習 技術者の説明責任について考えておくこと。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	反哲学入門	木田元	新潮文庫

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	定期試験60%、提出物20%、ミニレポート(毎回提出)・受講態度20%の割合で総合的に評価する。授業中に一時退出した場合、ミニレポートの提出を認めないことがあります。
----------	---

学生へのメッセージ	抽象的で難解だと考えられがちな哲学ですが、人間の知の営みである以上、私たちの日常生活にも何らかの接点があります。できるだけ具体的な事例を通じて説明しますので、考えることをあきらめないこと。遅刻、途中退出はしないこと。私語、携帯電話の使用等、授業態度が悪い場合、ミニレポート・受講態度に関する点をゼロとし、退室を命じることがあります。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室
----------	--------

備考	予習・復習にはそれぞれ1時間を当てること。指定された文献は必ず読むこと。自主学習には20時間以上かけるように。質問等は授業後に教室または非常勤講師室にて対応します。
----	--

科目名	哲学から学ぶ	科目名(英文)	Philosophy
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

授業概要・目的	古代ギリシア時代の哲学者アリストテレスが万学の祖と呼ばれるように、ほんらい哲学とはあらゆる学問の根源にあるものです。この授業では、こうした哲学の深みに触れ、いまある私たち生活、文化を見つめ直すとともに、社会における人文知の意義を学修します。
到達目標	この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。 (1) 社会の課題、問題を自ら発見できる (2) 世の中で当たり前だとされていることを疑って批判的に考えられる (3) ものごと、対象を複数の視点から眺め、考察できる
授業方法と留意点	この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リフレクションシートを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法、基準についても確認します。	シラバスをしっかりと読んでから授業に出席しましょう。また授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておきましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習しましょう。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査しましょう。
2	哲学的に考える	ものごとを哲学的に考えるとどのようなことなのでしょうか。世の中にはいろいろな意見があるでしょうが、そうした意見のひとつとして、今回は「常識にとらわれないこと」について考えます。そもそも常識とは何なのか、そしてそれにとらわれないというのはどういうことなのか、社会のなかにある具体的な事例をもとに学修します。	「タレス」「始源(アルケー)」について図書館の参考資料(『岩波 哲学・思想事典』や平凡社の『哲学事典』など)で調べてから授業に出席しましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習しましょう。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査しましょう。
3	哲学のはじまり	世界で最初の哲学者はタレスであると言われています。哲学のはじまりは、世界を説明するのに神話ではなく自然の観察によって得られた知見を用いたことにあるとされています。 今回の授業では、ものごとをしっかりと観察することの大切さを学修します。	「タレス」「始源(アルケー)」について図書館の参考資料(『岩波 哲学・思想事典』や平凡社の『哲学事典』など)で調べてから授業に出席しましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習しましょう。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査しましょう。
4	悪法も法なのか?	プラトンの対話編『ソクラテスの弁明』と『クリトン』を手がかりに「悪法も法なのか」という問題について考えます。	プラトン『ソクラテスの弁明』、『クリトン』を読んでから授業に出席しましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習しましょう。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査しましょう。
5	徳は教えることができるのか?	徳は教えることができるのでしょうか。そして不正は教育によって防ぐことができるのでしょうか。今回の授業では、プラトンの対話編『メノン』を手がかりに「徳は教えることができるのか?」という問題について考えます。	プラトン『メノン』を読んでから授業に出席しましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習しましょう。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査しましょう。
6	正義とは何か?	私たちの社会ではさまざまな〈正義感〉がぶつかりあっています。ある者が正義と呼ぶものを別の者が不正義と呼び、対立することがしばしばあります。いったい正義とは何なのでしょう。今回の授業では、アリストテレスの『ニコマコス倫理学』、ジョン・ロールズの『正義論』を手がかりに、正義の基本的な概念について学修します。	「正義」について図書館の参考資料(『岩波 哲学・思想事典』や平凡社の『哲学事典』など)で調べてから授業に出席しましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習しましょう。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査しましょう。
7	中庸の徳について	主要な徳のひとつにかぞえられる勇氣は、その気質が強すぎると向こう見ずや無鉄砲となり、徳ではなくなってしまいます。逆にその気質が弱すぎると、今度は臆病となり、やはりこれも徳ではなくなってしまいます。勇氣という徳は、向こう見ずと臆病とのあいだ、すなわち中庸にこそあり、その他の徳も同様に、過剰なものと不足しているものとの中庸にあるというのがアリストテレスの徳についての考え方です。	「中庸の徳」について図書館の参考資料(『岩波 哲学・思想事典』や平凡社の『哲学事典』など)で調べてから授業に出席すること。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習しましょう。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査しましょう。

			このことは私たちの生活のなかからも実感できるかもしれません。今回の授業では、アリストテレス『ニコマコス倫理学』を手がかりに、中庸の徳について学修します。	
8	中間のふり返り		これまでの授業をふり返り、各回のテーマがどのようにつながっていたのかを再確認します。これまでの授業でよく分からなかったことなどについて質問する時間も設けます。	授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査しましょう。
9	生の短さについて		セネカ『生の短さについて』を手がかりに生の短さについて考えます。	セネカ『生の短さについて』を読んでから授業に出席しましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査しましょう。
10	老年について		日本は世界でもっとも高齢化率が高い超高齢社会になっています。今回の授業では、キケロー『老年について』を手がかりに老年について考えます。	キケロー『老年について』を読んでから授業に出席しましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査しましょう。
11	古典に触れる		世に古典と言われるものは、長い歴史を経て現在まで受け継がれたものであり、散逸せずに残っているという意味で一定の価値があると言えるでしょう。今回の授業では、パスカルの『パンセ』をはじめとして、古典とされる作品の一節一節に目を通しながら、その深みに触れます。この作業を通じて人文知のあり方をあらためて考えます。	パスカル『パンセ』に目を通し、好きな一節を書き留めておきましょう（授業の中で紹介してもらいます）。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査しましょう。
12	ブッダの思想		今回の授業では東洋の思想に目を向けます。ソクラテスとブッダはちょうど同じ頃に生きていたとされています。ブッダの思想はどのようなものなのか、古代ギリシア時代の哲学者の思想と比較しながら学修します。	ブッダの思想について調べておきましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査しましょう。
13	科学と哲学		科学（と翻訳されるものになっている英語の science）ということばが作られたのは、19世紀になってからのことでした。それまで現在で言うところの科学者は、自然哲学者などと呼ばれていました。私たちは、科学的なものこそ信用でき非科学的なものは信用できないといったような評価を下すことがしばしばありますが、このとき私たちは「科学的」あるいは「非科学的」ということでどのようなことを考えているのでしょうか。 今回の授業では「科学とは何か」「科学的であるとはどういうことなのか」について学修します。そのなかで文系・理系、あるいは人文科学・社会科学・自然科学といった学問分野の分類がどのような意味をもっているのかを考えます。	科学と哲学の関わりについて調べておきましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査しましょう。
14	現代社会の諸問題		これまで学修してきたことを手がかりに、現代社会の諸問題について考察します。その上で、私たちがいま古人の教えから何を学ぶことができるのか考えます。	新聞を読んで広く社会問題となっていることを調べておきましょう。また、そうした問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査しましょう。
15	まとめ、全体のふり返り		これまでの授業をふり返りながら、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。また、成績評価の方法・基準についても再確認します。これまでの授業でよく分からなかったことなどを質問する時間も設けます。	これまでの授業をふり返り、不明な点などを書き出しておくこと。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査しましょう。

関連科目	実践の思想			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内課題(リフレクションシート)15%、授業に関連する課題調査10%、中間レポート30%、講義ノート提出15%、期末試験30%で評価する。ただし、出席率が80%未満の場合には原則として成績評価の対象としない。			
学生への メッセージ	決して堅苦しい雰囲気の授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。世界では日々いろいろなことが起こっています。世界に関心をもち目を向けることが哲学を始める第一歩です。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。			
担当者の 研究室等	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。 7号館2階 非常勤講師室 メールアドレス: xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)			
備考	授業に関する質問・相談は、授業の前後に非常勤講師室で対応します。 各授業につき、(1) 授業内で指示された資料の予習・復習で60分、(2) 講義ノートの整理で60分、(3) 新聞、インターネット等で授業に関連しそうなテーマの調査に60分、(4) 中間レポートの準備等で60分の自主学習をすること。			

科目名	日本語会話F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。																																																																		
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td> <td>授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>トピック 1-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>トピック 1-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>トピック 2-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>トピック 2-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>トピック 3-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>トピック 3-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>トピック 4-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>トピック 4-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>トピック 5-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>トピック 5-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>発表資料の作り方</td> <td>発表資料の作り方について学ぶ</td> <td>発表テーマを決めておく</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>発表準備 1</td> <td>発表資料の作成</td> <td>発表資料の作成 (残り)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>発表準備 2</td> <td>発表資料の修正</td> <td>発表練習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>口頭発表</td> <td>発表 質疑応答 振り返り</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	復習	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	復習	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	復習	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	復習	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	復習	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	復習	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	復習																																																																
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習																																																																
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	復習																																																																
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習																																																																
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	復習																																																																
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習																																																																
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	復習																																																																
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習																																																																
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	復習																																																																
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習																																																																
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	復習																																																																
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく																																																																
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)																																																																
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習																																																																
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。																																																																		
担当者の研究室等	国際交流センター (3号館4階)																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語会話F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー (DP)	V科：III〇, IV〇, R科：A〇, A科：C〇, M科：B2〇, E科：F〇, C科：III〇, VI〇, L科：DP1〇, DP7△, DP8△, D科：DP1〇, S科：DP1〇, P科：DP2△, DP4△, J科：DP1〇, W科：DP1〇, DP7〇, N科：DP1〇, DP8△N：DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	日本・国際社会におけるさまざまな問題や話題について日本語で議論する能力を伸ばす。																																																																		
到達目標	社会的な話題について論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまな問題・話題に関するニュース等を見て、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>トピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>トピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>トピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>トピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>トピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>トピック⑥</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>トピック⑦</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>学生持ち寄りのトピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>学生持ち寄りのトピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>学生持ち寄りのトピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>学生持ち寄りのトピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>学生持ち寄りのトピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>学生持ち寄りのトピック⑥</td><td>議論</td><td>自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集</td></tr> <tr><td>14</td><td>発表準備</td><td>自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する</td><td>発表練習</td></tr> <tr><td>15</td><td>発表</td><td>口頭発表 質疑応答 振り返り</td><td>復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	トピック①	議論	復習	2	トピック②	議論	復習	3	トピック③	議論	復習	4	トピック④	議論	復習	5	トピック⑤	議論	復習	6	トピック⑥	議論	復習	7	トピック⑦	議論	復習	8	学生持ち寄りのトピック①	議論	復習	9	学生持ち寄りのトピック②	議論	復習	10	学生持ち寄りのトピック③	議論	復習	11	学生持ち寄りのトピック④	議論	復習	12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	復習	13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集	14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する	発表練習	15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	トピック①	議論	復習																																																																
2	トピック②	議論	復習																																																																
3	トピック③	議論	復習																																																																
4	トピック④	議論	復習																																																																
5	トピック⑤	議論	復習																																																																
6	トピック⑥	議論	復習																																																																
7	トピック⑦	議論	復習																																																																
8	学生持ち寄りのトピック①	議論	復習																																																																
9	学生持ち寄りのトピック②	議論	復習																																																																
10	学生持ち寄りのトピック③	議論	復習																																																																
11	学生持ち寄りのトピック④	議論	復習																																																																
12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	復習																																																																
13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集																																																																
14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する	発表練習																																																																
15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。																																																																		
担当者の研究室等	国際交流センター (3号館4階)																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語会話R	科目名(英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	日本・国際社会におけるさまざまな問題や話題について日本語で議論する能力を伸ばす。																																																																		
到達目標	社会的な話題について論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまな問題・話題に関するニュース等を見て、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>トピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>トピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>トピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>トピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>トピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>トピック⑥</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>トピック⑦</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>学生持ち寄りのトピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>学生持ち寄りのトピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>学生持ち寄りのトピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>学生持ち寄りのトピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>学生持ち寄りのトピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>学生持ち寄りのトピック⑥</td><td>議論</td><td>自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集</td></tr> <tr><td>14</td><td>発表準備</td><td>自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する</td><td>発表練習</td></tr> <tr><td>15</td><td>発表</td><td>口頭発表 質疑応答 振り返り</td><td>復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	トピック①	議論	復習	2	トピック②	議論	復習	3	トピック③	議論	復習	4	トピック④	議論	復習	5	トピック⑤	議論	復習	6	トピック⑥	議論	復習	7	トピック⑦	議論	復習	8	学生持ち寄りのトピック①	議論	復習	9	学生持ち寄りのトピック②	議論	復習	10	学生持ち寄りのトピック③	議論	復習	11	学生持ち寄りのトピック④	議論	復習	12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	復習	13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集	14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する	発表練習	15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	トピック①	議論	復習																																																																
2	トピック②	議論	復習																																																																
3	トピック③	議論	復習																																																																
4	トピック④	議論	復習																																																																
5	トピック⑤	議論	復習																																																																
6	トピック⑥	議論	復習																																																																
7	トピック⑦	議論	復習																																																																
8	学生持ち寄りのトピック①	議論	復習																																																																
9	学生持ち寄りのトピック②	議論	復習																																																																
10	学生持ち寄りのトピック③	議論	復習																																																																
11	学生持ち寄りのトピック④	議論	復習																																																																
12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	復習																																																																
13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集																																																																
14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する	発表練習																																																																
15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。																																																																		
担当者の研究室等	国際交流センター(3号館4階)																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本国憲法	科目名(英文)	The Japanese Constitutional Law
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大仲 淳介
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

教養科目

授業概要・目的	概要：日本国憲法の基本的な内容を理解できるように、授業テーマと関連する憲法上の問題をとりあげ、これと関わりのある基本事項、判例、学説を解説・検討します。目的：身近に生じる憲法上の問題を通して憲法の基本的な考え方を理解してもらうこと。
到達目標	憲法の基本的な知識を修得し、身近に生じる憲法上の問題を憲法の視点から考えるようになることを目指します。
授業方法と留意点	教科書と配布プリントを用いて講義形式で行います。小テストは授業中に、適宜、行います。なお小テストを実施した回に欠席した者のための再試験は行いませんので注意して下さい。
科目学習の効果(資格)	各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	憲法とは1	憲法の意味、憲法の最高法規性、違憲審査制などについて説明します。	事前に教科書11頁から20頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
2	憲法とは2	日本国憲法の基本原理、民主主義の原理、平和主義の原理(第9条)について説明します。	事前に教科書19頁、217から229頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
3	基本的人権の保障1	人権の歴史、人権の分類、人権の限界、人権の享有主体について説明します。	事前に教科書21頁から30頁を読んで下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
4	基本的人権の保障2	外国人にも日本国憲法が保障する人権の享有が認められか、認めえるとしてその人権は何かなどについて説明します。	事前に教科書31頁から40頁を読んで下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
5	幸福追求権と法の下での平等	幸福追求権の性格と範囲、新しい人権、「法の下での平等」の意味、平等違反の違憲審査基準について説明します。	事前に教科書49頁から70頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
6	信教の自由と政教分離の原則	信教の自由の内容と限界、国家と宗教の分離の限界などについて説明します。	事前に教科書71頁から82頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
7	表現の自由	表現の自由の保障の範囲と限界、表現の自由の優越的地位と二重の基準の理論について説明します。	事前に教科書83頁から94頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
8	検閲と事前抑制	表現活動を規制する方法、検閲とは何か、裁判所による表現行為の事前抑制は許されるかなどについて説明します。	事前に教科書95頁から104頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
9	経済的自由権	職業選択の自由とその規制をなどについて説明します。	事前に教科書105頁から114頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
10	社会権	生存権を中心に社会権について説明します。	事前に教科書115頁から134頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
11	刑罰と刑事手続	犯罪と刑罰、憲法と罪刑法定主義などについて説明します。	事前に教科書135頁から144頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
12	国会	国会の地位、国会の組織と活動、国会の権能などについて説明します。	事前に161頁から172頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
13	内閣	議院内閣制、内閣の組織と権能などについて説明します。	事前に教科書173頁から184頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
14	裁判所	司法権の定義、司法権の範囲、司法権の独立などについて説明します。	事前に教科書185頁から206頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
15	地方自治	地方自治の本旨、条例制定権、住民投票について説明します。	事前に教科書207頁から216頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。

関連科目	法学入門
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての憲法学(第3版)	中村睦男・岩本一郎・大島佳代子・木下和朗・齊藤正彰・佐々木雅寿・寺島壽一	三省堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	定期試験(60%)、小テスト(40%)の割合で評価します。小テストは、適宜、行います。
----------	---

学生へのメッセージ	授業で生じた疑問は必ず質問して下さい。
-----------	---------------------

担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
----------	--------------------------

備考	授業の事前事後には1時間以上の学習を必要とします。
----	---------------------------

科目名	日本語総合 F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP7〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する (N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す (1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す (2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む (1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む (2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む (1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む (2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む (1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む (2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む (1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む (2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む (1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む (2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む (1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む (2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む (1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む (2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む (1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む (2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む (1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む (2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1</td> <td>福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ</td> <td>スリーエーネットワーク</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1</td> <td>佐々木仁子・松本紀子</td> <td>ask</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター</td> <td>菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾</td> <td>Jリサーチ出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク	2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask	3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク																																																																
2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask																																																																
3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																																
評価方法 (基準)	<p>定期試験を実施 (試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室 (7号館2階)																																																																		
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室 (7号館2階) またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p> <p>事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>																																																																		

科目名	日本語総合FⅡ	科目名(英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP7〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																		
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2～3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2～3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2～3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2～3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2～3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2～3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2～3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2～3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2～3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2～3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2～3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2～3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2～3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2～3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む(1)	2～3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む(2)	2～3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む(1)	2～3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む(2)	2～3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2～3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む(1)	2～3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む(2)	2～3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1</td> <td>福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ</td> <td>スリーエーネットワーク</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1</td> <td>佐々木仁子・松本紀子</td> <td>ask</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター</td> <td>菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾</td> <td>Jリサーチ出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク	2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask	3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク																																																																
2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask																																																																
3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																																
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																		
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室(7号館2階)またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p> <p>事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>																																																																		

科目名	日本語総合R	科目名(英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																		
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1</td> <td>福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ</td> <td>スリーエーネットワーク</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1</td> <td>佐々木仁子・松本紀子</td> <td>ask</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター</td> <td>菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾</td> <td>Jリサーチ出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク	2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask	3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク																																																																
2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask																																																																
3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																																
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																		
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室(7号館2階)またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p> <p>事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>																																																																		

科目名	日本語読解	科目名(英文)	Japanese Reading
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	櫻井 清華
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

教養科目

授業概要・目的	<p>文章を読むことは好きだろうか。大学で何を学ぶにせよ、「論文などの難解な文章を理解する」「長い文章から重要な事項をピックアップする」力は大学生活に必須である。</p> <p>また、人の心の動きが表現された文学作品を読解することは、他者の気持ちを類推するトレーニングにもなり、今後の社会生活にも役立つことだろう。</p> <p>文章を読むことによって、語彙力や表現力も磨かれ、自分の考えを伝える力も向上する。</p> <p>この授業では、日本語の文法の基本を学ぶ。また、様々なジャンルの文章を読むことによって、語彙力や表現力の向上を目指す。最終的には、評論文や論文などの論理的な文章を正しく読解し、要約できるようにする。さらに、読解力を養成することで思考力を獲得し、自己の考えを文章化することにつなげることを目標とする。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本語の文法の基本を学び、新聞記事や論説文について正確な読解を行う 論文など論理的な文章を読解する能力を身につける さまざまなジャンルの文章にふれ、語彙や表現を学ぶ 			
授業方法と留意点	<p>授業では、まず文法や語彙について的小テストを行う。</p> <p>その後、受講者が各自でやや長い文章を読み、問題に解答する。</p> <p>その後、教員による解説を行う。新しい教材に入る前にプリントを配布するので、必ず熟読しておくこと。</p> <p>受講者の理解度を確認するため、課題を作成させることもある。また、適宜復習小テストを行うので、復習を怠らないこと。</p>			
科目学習の効果(資格)	大学の授業・社会人になってから必要な読解能力			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス/難読漢字を読む(1)	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明する。 難読漢字を学ぶことで、語彙力を高める。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する
	2	文法を学ぶ/難読漢字を読む(2)	読解の基礎となる文法を学ぶ。 難読漢字を学ぶことで、語彙力を高める。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
	3	文の構造について学ぶ/語彙を豊かにする(1)	文の構造に注目し、文中に述べられている複数の事柄の関係を読解する。 ことわざや故事成語を学ぶことで、語彙力を高める。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
	4	要点をおさえて文章を読む/語彙を豊かにする(2)	やや長い文章を要点を押さえて読解する。 類義語や対義語について正確に理解する。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
	5	新聞を読む/語彙を豊かにする(3)	文や文章の組み立てに注目しながら、新聞記事や社説を正しく読解し、内容について考える。 カタカナ語を学ぶことで、語彙力を高める。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
	6	接続詞・指示語/漢字・語彙小テスト	接続詞や指示語に注意しながら、文章を整理する練習を行う。 漢字や語彙について小テストを行う。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
	7	文と文の関係、論理展開	本文を構成する文と文の関係や、論理展開に注意しながら、文中の空欄補充を行う。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
	8	内容把握(1)基礎	人文科学分野の文章を読み、内容を把握する。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
	9	内容把握(2)発展	人文科学分野の長い文章を読み、内容を把握する。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
	10	要旨把握(1)	人文科学分野の文章を読み、要旨を把握する。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
	11	要旨把握(2)	自然科学分野の文章を読み、要旨を把握する。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
	12	長文読解についての復習テスト/資料読解(1)	接続詞、指示語、論理展開、内容把握、要旨把握、について的小テストを行う。 資料読解に必要な表現を学ぶ。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
	13	資料読解(2)	実数や割合に関する数表を読み解く。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
	14	資料読解(3)	実数や割合に関する数表を読み解く。	配布するプリントを次回までに読んでおく。確認テストに備えて授業内容を復習する。
	15	本講義のまとめ・確認テスト	本講義のまとめ、および第一回から第十四回までの理解度を確認するテストを行う。	本講義で学んだことを今後活かすため、各自復習する。
関連科目	文章表現法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	到達度テスト 50% 小テスト 40% 授業への取り組み（課題提出等により評価する/出席することは当然のことなので出席点は評価しないが、欠席点は減点対象となる） 10%			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・能動的な態度で授業に臨むこと。 ・授業の初めに出席確認もかねて毎回小テストを行う。遅刻しないこと。 ・私語は厳禁とする。 ・さまざまなジャンルの本を読み、他者の考え方をすることで思考力が身につく。幅広い関心を持って、日頃から読書に親しむようにしましょう。 			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考	授業では、まず受講者が各自で文章を読み、その後、教員による解説を行う。新しい教材に入る前にプリントを配布するので、必ず熟読してくること。事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する			

科目名	日本語読解	科目名(英文)	Japanese Reading
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松尾 佳津子
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

教養科目

授業概要・目的	<p>日々、何を読んでいますか？ また、日々、何を書いていますか？ 何を学ぶにせよ、また学生であれ社会人であれ、「文章を読む」ということを避けて通るわけにはいきません。仲間内でだけ通じる会話や話し言葉でなく、書き言葉を通じてしか手に入らないものがあります。それをぜひ身につけてほしいと願っています。さまざまなジャンルの文章を素材として語句や表現を学び、自分なりの感想を持ちそれを発信する、というトレーニングを積んでみましょう。</p> <p>語句の知識を増やして定着させること、表現に着目した読解トレーニングを積むこと、読解した内容に対して自分なりの考えを表現できること。この三つの力を磨くことを目標とします。</p>			
到達目標	<p>【目標1】語句・ことわざ・四字熟語・敬語などの知識を身に付けること。 【目標2】さまざまな文章に触れ、執筆者の気持ちを想像しながら読み解くこと。 【目標3】文章を読んで感じたことを文章化する経験値を積み、他者に伝わる論理的な文章を書く力を養うこと。</p>			
授業方法と留意点	<p>◇毎回、語句チェックを通じて語彙力を磨きます(授業前半)。また毎回、素材となる文章を配布し、プリント形式で読解授業を進めます(授業後半)。最後にその日の授業を振り返って文章にまとめることを必須とします。 ◇授業中に随時課題を提示しますので、それらに取り組むことで積極的な取り組みをあなたに要求します。友人の回答の引き写しなど、課題に取り組む態度に不備のある場合は、出席と認めません。 ◇毎回提出する小レポートから、随時取り上げて公開添削し、表現の弱点をみがいていきます。</p>			
科目学習の効果(資格)	<p>「日本語文章能力検定」などの公的資格もありますが、自分のことばに自覚的である感性を養うことが何よりの学習効果です。文章を味読し、自分の考えを文章化し、他者に発信するトレーニングは、積極的に取り組むことで、日々のレポート作成や、就職活動のための種々の文章作成の下地作りにもなるでしょう。</p>			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	エッセイ(1)	叙情的、軽妙洒落など、さまざまなタイプの作品に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
	2	エッセイ(2)	叙情的、軽妙洒落など、さまざまなタイプの作品に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
	3	エッセイ(3)	叙情的、軽妙洒落など、さまざまなタイプの作品に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
	4	文語的な文章(1)	やや古めかしい言い回しに触れて独特の雰囲気を楽しむ。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
	5	文語的な文章(2)	やや古めかしい言い回しに触れて独特の雰囲気を楽しむ。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
	6	文語的な文章(3)	やや古めかしい言い回しに触れて独特の雰囲気を楽しむ。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
	7	近代の小説(1)	有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
	8	近代の小説(2)	有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
	9	近代の小説(3)	有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
	10	実用的な文章(1)	手紙文やビジネス文書を「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
	11	実用的な文章(2)	手紙文やビジネス文書を「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
	12	実用的な文章(3)	手紙文やビジネス文書を「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
	13	韻文(1)	身近な歌の「歌詞」を作品として「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
	14	韻文(2)	身近な歌の「歌詞」を作品として「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
	15	韻文(3)	身近な歌の「歌詞」を作品として「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
関連科目	<p>こういった方面に興味のある人は、他に「文学から学ぶ」や「日本語表現」などを学ぶことで、より理解を深めることができるでしょう。</p>			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価方法(基準)	<p>◇講義中に作成する小レポートが出席確認を兼ねます。近年散見する代筆提出については、代筆者・被代筆者共、成績処理時に大幅減点します。 ◇最終成績は、定期試験の結果7割と、小レポートの回答状況3割とを合わせて判断します。 ◇スマホいじり・私語・飲食・頻繁な離席・他授業の課題作成・居眠りなど、受講態度の著しく悪い学生には退室を指示して当日の出席は無効とし、さらに状況に応じてマイナス評価を下します。また、回収した小レポートの回答状況が著しく悪い場合も、当日の出席は無効とします。 ◇原則として、出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とします。</p>			
学生へのメッセージ	<p>「本を読むのはキライ」という気持ちを捨てて講義に臨んで下さい。私があなたに求めているのは「今までの知識の積み重ね」ではなく、「自分のことばに自覚的になること、自分のことばで考えること」です。正解のない世界で「自分の答え」を手探りしてみましょう。</p>			
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	<p>◇事後学習として、授業後少なくとも半時間は、学習した事項を書いて覚えたり、曖昧な箇所は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。 ◇毎週水曜は3限からの授業なので、お昼休みは非常勤講師室に在室しています。</p>			

科目名	日本語読解F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP8〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・ 語彙力をつける。 ・ 一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・ 語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	復習
	14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解F II
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>
----	--

科目名	日本語読解FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP8〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果(資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	統計と数字①	読解、内容理解	復習
	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	4	背理法①	読解、内容理解	復習
	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	復習
	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	8	ついでに何をする?①	読解、内容理解	復習
	9	ついでに何をする?②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	10	ウイルス発見!①	読解、内容理解	復習
	11	ウイルス発見!②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	復習
	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解FⅠ
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語読解R	科目名(英文)	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果(資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	復習
	14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>
----	--

科目名	日本語表現	科目名(英文)	Japanese Representation
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田 行雄
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

授業概要・目的	大学生生活で必要となるレポートや論文を書く際の文章表現やルールを学ぶ。 メールやエントリーシートの書き方、敬語表現など、社会人のたしなみとして知っておきたい日本語に関する知識を身につける。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる論理的な文章(特にレポート・論文)の書き方を習得する。 敬語表現や常用漢字などを身につける。
授業方法と留意点	配布プリントにより授業を進める。 授業テーマに応じたミニレポートや課題を作成し提出する。ミニレポートや課題は、添削して返却する。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活で必要となる「書く」「話す」力が身につく。 文章表現に関する知識が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業についての説明	—————
	2	文章の書き方①	話し言葉と書き言葉の違いを認識する	前回の復習
	3	文章の書き方②	文の構造について確認する	前回の復習
	4	事実文と意見文	事実を述べる文章と意見を述べる文章の違いを学ぶ	前回の復習
	5	文章の構成①	段落分けについて学ぶ	前回の復習
	6	文章の構成②	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの授業の復習
	7	敬語表現	敬語表現の基本を確認する	前回の復習
	8	資料の要約	文章を要約する方法を学ぶ	前回の復習
	9	資料の引用	資料を引用する際のルールを学ぶ	前回の復習
	10	資料の読解と説明	グラフ・図表を分析し、説明する方法を学ぶ	前回の復習
	11	レポート・論文の構成①	レポートや論文などの文章構成を学ぶ	前回の復習
	12	レポート・論文の構成②	資料を引用し、意見を述べる文章を書く	これまでの授業の復習
	13	エントリーシート等の書き方	就職活動関連に必要な文章を書く	前回の復習
	14	メールの書き方	メールの作法を学ぶ	前回の復習
	15	総括	復習と確認	前回の復習

関連科目	日本語表現 I
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題レポート 60%、授業での提出物(毎回提出) 40%の割合で総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	私たちが普段使っている「日本語」と、あらためて向き合ってみましょう。
-----------	------------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	日本語表現作文 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP8〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
	5	段落②	実践練習	復習 作文課題
	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
	13	要約②	実践練習	復習 作文課題
	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語表現作文 F II
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (50%)、提出物 (50%)
-----------	---------------------------

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</p> <p>(3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>
----	---

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP8〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。
授業方法と留意点	授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。
科目学習の効果(資格)	レポートが書けるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習
	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習
	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習
	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集める
	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習
	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習
	7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	復習
	8	序論②	序論を書く	復習
	9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	復習
	10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	復習
	11	本論③	本論を書く	復習
	12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	復習
	13	結論②	結論を書く	復習
	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習
	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習

関連科目	日本語表現作文FⅠ
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、レポート(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう!
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</p> <p>(3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>
----	--

科目名	日本語表現作文R	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果(資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
	5	段落②	実践練習	復習 作文課題
	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
	13	要約②	実践練習	復習 作文課題
	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語表現作文FII
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(50%)、提出物(50%)
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</p> <p>(3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>
----	---

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP8〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を開いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	文法項目の解説と練習	復習
	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	復習
	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	復習
	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	復習
	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	復習
	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	復習
	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	復習
	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	復習
	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	復習
	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	復習
	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	復習
	13	「割り勘」は当然？①	文法項目の解説と練習	復習
	14	「割り勘」は当然？②	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語文法FⅡ	科目名(英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP8〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を開いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果(資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	復習
	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	復習
	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	復習
	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法FⅠ、日本語読解FⅡ
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	--

科目名	日本語文法R	科目名(英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を開いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果(資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	復習
	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	復習
	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	復習
	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法FI、日本語読解FII
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	梅野 将之
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP7〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	年中行事やしきたりなど日常生活に見られる日本の伝統文化から、日本人の価値観や考え方について、体験もまじえながら考察します。
到達目標	日本の年中行事やしきたりについて理解を深めます。 考察したことや体験を通して学んだことを日本語で表現する力を身に着けます。 日本文化・社会と自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できる力を身に着けます。
授業方法と留意点	授業担当者が用意した自作のスライドやプリントに沿って、テーマについて学び、講義後に理解度の確認小テストを受けます。その後、クラス全体でフィードバックを行います。体験で学んだことは、レポートを作成しほかの受講生たちと意見交換を行います。
科目学習の効果 (資格)	異文化理解を深めます。 異文化に対する柔軟な見方、態度を養います。 日本語の表現能力 (技術) を高めることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	造幣局のさくらの通り抜けを体験しよう
2	花見	講義、小テスト	「茶道」に関するアンケート
3	茶道①	講義、小テスト	DVD (茶道) を視聴
4	茶道②	茶道体験	体験レポート
5	茶道③	体験レポート (茶道) の要約と意見交換 日本語での口頭発表の練習	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における子どもの祝い事に関する行事について
6	冠婚葬祭① —成人式、子どもの祝い事—	口頭発表 講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における結婚式 (婚礼) について
7	冠婚葬祭② —結婚式編—	口頭発表 講義 招待状の返信を書く練習 ロールプレイ 袱紗と祝儀の包み方、渡し方	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における葬式、法事について
8	冠婚葬祭③ —葬式編—	口頭発表、 講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における贈答文化について
9	日本の贈答文化 —中元/歳暮—	口頭発表、 講義、小テスト	「社寺」に関するアンケート
10	日本の贈答文化 —風呂敷に学ぶ—	「折る・包む・結ぶ」の体験、小テスト	体験レポート
11	神社と寺	講義、小テスト 神社参拝	体験レポート
12	七夕	講義、小テスト 七夕飾りを作ろう	レポート テーマ: 出身国、地域における信仰、祈願について
13	盆踊りに向けて① —盆と盆踊り—	講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ①: 出身国、地域における伝統服飾文化 (民族衣装) について テーマ②: 出身国、地域における伝統舞踊について
14	盆踊りに向けて② —着物—	口頭発表 講義、小テスト	「盆踊り」に関するアンケート
15	盆踊り体験をしよう	摂大国際盆踊り講習会 (浴衣、盆踊り体験)	体験レポート

関連科目	日本語文字・語彙、日本語アカデミックライティング
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学で学ぶための日本語ライティング	藤尾 喜代子, 佐々木 瑞枝, 細井 和代	The Japan Times
	2	知っておきたい日本の年中行事辞典	福田 アジオ, 山崎 祐子 常光徹, 福原 敏男, 菊池 健策	吉川弘文館
	3	Hiragana Times		ヤック企画

評価方法 (基準)	発表 (20%)、レポート (30%)、授業への参加度 (20%)、小テスト (30%)
学生へのメッセージ	実際に体験を楽しみながら日本の文化・社会について学びましょう! また、伝統行事から日本人の価値観や考え方には、どんな秘密があるのか発見してみましょう。
担当者の研究室等	国際交流センター教員控室 (3号館4階)
備考	事前事後学習時間の目安は計60時間。

科目名	日本事情 F II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP7〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします。
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてのディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化についての理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	映画1：テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「愛と死」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2：テーマ「愛と死」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2：テーマ「愛と死」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4：「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4：「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			

評価方法 (基準)	各課題 (10%) 及び授業への参加度 (10%)、レポート (80%) により総合的に評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は約2時間ずつ。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	梅野 将之
ディプロマポリシー (DP)	V科: III O, IV O, R科: A O, A科: C O, M科: B2 O, E科: B O, C科: III O, VI O, L科: DP1 Δ, DP2 O, D科: DP1 O, S科: DP1 O, P科: DP2 Δ, DP4 Δ, J科: DP1 O, W科: DP1 O, N科: DP1 O, DP8 Δ N: DP1 O, DP8 Δ		

授業概要・目的	年中行事やしきたりなど日常生活に見られる日本の伝統文化から、日本人の価値観や考え方について、体験もまじえながら考察します。
到達目標	日本の年中行事やしきたりについて理解を深めます。 考察したことや体験を通して学んだことを日本語で表現する力を身に着けます。 日本文化・社会と自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できる力を身に着けます。
授業方法と留意点	授業担当者が用意した自作のスライドやプリントに沿って、テーマについて学び、講義後に理解度の確認小テストを受けます。その後、クラス全体でフィードバックを行います。体験で学んだことは、レポートを作成しほかの受講生たちと意見交換を行います。
科目学習の効果 (資格)	異文化理解を深めます。 異文化に対する柔軟な見方、態度を養います。 日本語の表現能力 (技術) を高めることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	造幣局のさくらの通り抜けを体験しよう
2	花見	講義、小テスト	「茶道」に関するアンケート
3	茶道①	講義、小テスト	DVD (茶道) を視聴
4	茶道②	茶道体験	体験レポート
5	茶道③	体験レポート (茶道) の要約と意見交換 日本語での口頭発表の練習	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における子どもの祝い事に関する行事について
6	冠婚葬祭① —成人式、子どもの祝い事—	口頭発表 講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における結婚式 (婚礼) について
7	冠婚葬祭② —結婚式編—	口頭発表 講義 招待状の返信を書く練習 ロールプレイ 袱紗と祝儀の包み方、渡し方	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における葬式、法事について
8	冠婚葬祭③ —葬式編—	口頭発表、 講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における贈答文化について
9	日本の贈答文化 —中元/歳暮—	口頭発表、 講義、小テスト	「社寺」に関するアンケート
10	日本の贈答文化 —風呂敷に学ぶ—	「折る・包む・結ぶ」の体験、小テスト	体験レポート
11	神社と寺	講義、小テスト 神社参拝	体験レポート
12	七夕	講義、小テスト 七夕飾りを作ろう	レポート テーマ: 出身国、地域における信仰、祈願について
13	盆踊りに向けて① —盆と盆踊り—	講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ①: 出身国、地域における伝統服飾文化 (民族衣装) について テーマ②: 出身国、地域における伝統舞踊について
14	盆踊りに向けて② —着物—	口頭発表 講義、小テスト	「盆踊り」に関するアンケート
15	盆踊り体験をしよう	摂大国際盆踊り講習会 (浴衣、盆踊り体験)	体験レポート

関連科目 日本語文字・語彙、日本語アカデミックライティング

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学で学ぶための日本語ライティング	藤尾 喜代子, 佐々木 瑞枝, 細井 和代	The Japan Times
	2	知っておきたい日本の年中行事辞典	福田 アジオ, 山崎 祐子 常光徹, 福原 敏男, 菊池 健策	吉川弘文館
	3	Hiragana Times		ヤック企画

評価方法 (基準)	発表 (20%)、レポート (30%)、授業への参加度 (20%)、小テスト (30%)
学生へのメッセージ	実際に体験を楽しみながら日本の文化・社会について学びましょう! また、伝統行事から日本人の価値観や考え方には、どんな秘密があるのか発見してみましょう。
担当者の研究室等	国際交流センター教員控室 (3号館4階)
備考	事前事後学習時間の目安は計60時間。

科目名	日本事情 R II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします。
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴: 内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてのディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化についての理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	映画1: テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1: テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1: テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2: テーマ「愛と死」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2: テーマ「愛と死」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2: テーマ「愛と死」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3: テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3: 「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3: テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4: 「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4: 「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4: 「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			

評価方法 (基準)	各課題 (10%) 及び授業への参加度 (10%)、レポート (80%) により総合的に評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう! 事前・事後学習は約2時間ずつ。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	日本の政治	科目名(英文)	Japanese Politics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

授業概要・目的	人間が集団で生活している限り、法や条例、公共事業の影響を避けて生きることはできません。それらを決定するのが政治であり、皆さんは政治に参加することによって自分自身の生活をより善いものに作りかえることができます。しかし逆に、政治参加しないことによってより悪いものになってしまう可能性も否定できません。 この授業では、有権者である学生の皆さんに日本の政治についての基本的な知識を与えることを目的としています。また皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治的な時事問題についても紹介し、解説します。
到達目標	学生の皆さんが日本の政治についての基本的な知識を獲得できるとともに、政治に積極的に参加しようという感情を育み、自分自身でいかなる政策、政党、候補者がよいか考えて意思決定できるようになります。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、予習シートを配布して皆さんに基本的な政治用語について下調べをしてもらったり、リアクションペーパーを配布して簡単な政治的意見や質問を書いてもらったりする場合があります。
科目学習の効果(資格)	公務員試験や就職活動において、政治や政治学の内容が一般常識として問われる場合があります。また現在でも一人の有権者として政治に参加するさいに、判断材料として政治的な情報について知っておく必要があります。そうした事柄に対応し、身の回りで起こっている政治・社会の出来事に造詣の深い人物になるべく、基本的な政治的知識を獲得することができます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～現代日本の政治課題	イントロダクションとして、講義の内容と近年の日本の政治の動向について授業します。	予習・復習：政治・政治参加の必要性を理解し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める。
2	大日本帝国憲法と戦前日本の政治システム	大日本帝国憲法の条文を見ながら、日本が軍部の台頭を避けなかった原因を探ります。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
3	日本国憲法の成立過程	改憲するための国民投票が実施される可能性もあるため、映像資料を見ながら、日本の政治の根幹である日本国憲法の成立過程について考えます。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
4	デモクラシーとは何か?	デモクラシーの条件とは何かについて、中学・高校で教わってきた事柄より詳細に授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
5	マスメディアと世論	マスメディアの役割と機能について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
6	日本の選挙制度のしくみと政党	日本の選挙制度における中選挙区制から小選挙区比例代表並立制への転換とそのさまざまな特徴について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
7	日本の内閣のしくみと行政改革、官僚制	内閣の諸機関のしくみや今世紀の行政改革について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
8	日本の政治体制①～55年体制の成立と自民党の派閥政治の特徴	55年体制の特徴と55年体制期の自民党の支配体制について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
9	日本の政治体制②～政治改革と55年体制の崩壊	90年前後に政治改革が叫ばれた原因やその結果について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
10	国際政治の基本的な考え方～アイディアリズムとリアリズム	国際政治を考える上で必要不可欠な二つの観点について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
11	日本外交の変遷①～冷戦期の日本外交	冷戦期の日本外交の姿勢を、新日米安保条約や沖縄問題を参照しながら授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
12	日本外交の変遷②～冷戦終結以降の日本外交	冷戦終結後の日本外交の姿勢を、湾岸戦争やPKO協力法、イラク戦争を中心に授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
13	日本外交の変遷③～安倍内閣における日本外交の転換	安倍内閣の集団的自衛権の行使容認の閣議決定について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
14	地方自治～地方自治体の政治のしくみと地方分権改革	地方自治体の基本的なしくみと今世紀の地方分権改革について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	予習・復習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく。

関連科目	中学・高校の現代社会、政治・経済、日本史、世界史など。大学の憲法、国際政治など。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	18歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで—	仲正昌樹編	法律文化社
	2	政治学	川出良枝・谷口将紀編	東京大学出版会
	3	18歳からの政治入門	日本経済新聞政治部	日本経済新聞出版社
評価方法 (基準)	定期試験 60%、リアクションペーパーと予習・復習テスト 40% 正当な理由がなく出席が規定回数に満たない学生は、単位を取得できないことがあります（10回以上は出席すること。出欠管理システム以外の出席は認めません）。			
学生への メッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、日本の政治についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。			
担当者の 研究室等	11号館 10階 和田講師室			
備考				

科目名	人間力と心理	科目名(英文)	Human Capability and Psychology
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	毛 新華
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

授業概要・目的	心理学は、人間の社会行動に関する原理の追求を目的とする科学である。本講義では、心理学全般について、身近なエピソードが手がかりに様々な角度からの理論説明や実験などの紹介を行い、心理学が基礎から応用に至るまで幅広く展開し、日常生活ともリンクしていることを講義する。
到達目標	(1) 心理学の専門的基礎知識について説明できる。 (2) 心理学の実証研究について詳細に学ぶことによって、論理的な思考方法や分析手法が身につく。 (3) 心理学の基本的な考え方や知識について学ぶことによって、自分自身や周囲の人々の心の働きや行動について「考える」力が身につく。
授業方法と留意点	・講義方式で適宜資料を配布する。講義中には、視聴覚教材やデモンストレーションなども取り入れる。 ・心理学的知見を実際に体感するため、心理実験や調査も行う予定にしているため、積極的に参加すること。 ・受講にあたって、教室では、座席指定制を導入する予定をし、配付資料に授業内容に関する重要キーワードの記入も必要となる。
科目学習の効果(資格)	講義を通して自己理解・他者理解を深め、自分と社会との関わりを考えるきっかけを得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業概要、目的、内容、授業の進め方、授業のルール、評価基準について説明します。	身の回りで起きているさまざまなことについて心理学的に考える習慣をつけましょう。
2	未知から既知へ:他者を知る(1)	印象形成と対人認知について解説します。	予習:教科書1章1~2のエピソード部分を読んでおく 復習:エピソードの内容と理論のつながりを確認する
3	未知から既知へ:他者を知る(2)	ベビーフェイス効果、特性推論について解説します。	予習:教科書1章3~4のエピソード部分を読んでおく 復習:エピソードの内容と理論のつながりを確認する
4	未知から既知へ:他者を知る(3)	ステレオタイプ、二重過程モデル、解釈レベル理論、身体化された認知について解説します。	予習:教科書1章5~8のエピソード部分を読んでおく 復習:エピソードの内容と理論のつながりを確認する
5	未知から既知へ:他者を知る(4)	対人魅力、錯誤帰属、対人魅力研究法について解説します。	予習:教科書1章9~10、第2章22のエピソード部分を読んでおく 復習:エピソードの内容と理論のつながりを確認する
6	未知から既知へ:他者を知る(5)	バランス理論、認知的不協和理論について解説します。	予習:教科書1章11~12のエピソード部分を読んでおく 復習:エピソードの内容と理論のつながりを確認する
7	親しくなる:親密さを高めるコミュニケーション(1)	自己開示、ノンバーバルコミュニケーション、シンクロニーについて解説します。	予習:教科書2章13~15のエピソード部分を読んでおく 復習:エピソードの内容と理論のつながりを確認する
8	親しくなる:親密さを高めるコミュニケーション(2)	パーソナルスペース、親密さ平衡理論について解説します。	予習:教科書2章16~17のエピソード部分を読んでおく 復習:エピソードの内容と理論のつながりを確認する
9	親しくなる:親密さを高めるコミュニケーション(3)	会話の公理、社会的スキルについて解説します。	予習:教科書2章18~19のエピソード部分を読んでおく 復習:エピソードの内容と理論のつながりを確認する
10	親しくなる:親密さを高めるコミュニケーション(4)	依頼と応諾、説得的コミュニケーションについて解説します。	予習:教科書2章20~21のエピソード部分を読んでおく 復習:エピソードの内容と理論のつながりを確認する
11	深い関係になる:親密な関係の維持と発展(1)	好意と愛情、恋愛の諸理論について解説します。	予習:教科書3章23~24のエピソード部分を読んでおく 復習:エピソードの内容と理論のつながりを確認する
12	深い関係になる:親密な関係の維持と発展(2)	成人の愛着理論、親密化過程について解説します。	予習:教科書3章25~26のエピソード部分を読んでおく 復習:エピソードの内容と理論のつながりを確認する
13	深い関係になる:親密な関係の維持と発展(3)	相互依存、平衡理論、排他性、コミットメントについて解説します。	予習:教科書3章27~30のエピソード部分を読んでおく 復習:エピソードの内容と理論のつながりを確認する
14	深い関係になる:親密な関係の維持と発展(4)	共同関係と交換関係、自己拡張理論、進化的視点について解説します。	予習:教科書3章31~33のエピソード部分を読んでおく 復習:エピソードの内容と理論のつながりを確認する
15	まとめ	授業全体のまとめ	授業後、教科書およびこれまで配布したプリントに基づき、すべての内容を復習してください。

関連科目	「心理と社会」も併せて履修することが望ましい。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	エピソードでわかる社会心理学	谷口淳一など	北樹出版

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 小レポート、学期末試験の結果を総合し、到達目標の理解度によって可否を判定する。 【定期試験 60%、レポート 20%、小テスト 20%】			
学生への メッセージ	心理学は、みなさんが想像しているよりもはるかに幅広い領域を扱っており、人間の社会生活の全てを研究対象としていると言っても過言ではありません。講義を通じ、自分を取り巻く社会と結びつけて考えることによって理解を深めて下さい。			
担当者の 研究室等	11号館 6階 経営学部事務室			
備考	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけるようにしてください。 そして、小レポートは事前の準備時間を含めて、5 時間以上かけて仕上げるようにしてください。 自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計 20 時間かけるようにしてください。			

科目名	脳の情報処理	科目名(英文)	Computing in Brain
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	人間の知的活動の中核である脳における諸機能の理解を通して、認識、思考、判断、注意などの人間の諸活動に関わる基礎知識を獲得し、専門分野に活かす。
到達目標	脳における情報処理の基礎事項の理解とそれらを自身の生活に活かすこと。
授業方法と留意点	講義内でのミニッツペーパー、復習のための課題レポートの提出を必要とする。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	脳について学習する上で知っておくべき用語や概念を説明する	課題レポートを仕上げる
2	脳の構造	大脳は頭部にある様々な器官と連携してはたしている。それぞれの器官の構造と役割を概説する	課題レポートを仕上げる
3	学習: シナプスと可塑性	脳による認識・記憶・学習の基本となる神経細胞のシナプスにおける信号伝達の変化(可塑性)について概説する	課題レポートを仕上げる
4	視覚	感覚情報の大部分を占める視覚の情報処理について概説する	課題レポートを仕上げる
5	錯視・錯覚	認識戦略におけるわれわれの積極的な推測による副作用である錯視や錯覚から、人間の認識手法を知る	課題レポートを仕上げる
6	男女の脳	生理学的な脳の男女の差から男女の心理行動の違いについて考える	課題レポートを仕上げる
7	注意と選択	認識をはじめとする脳の情報処理は、意識の注がれるところに集中的に作用する。その現象を説明する	課題レポートを仕上げる
8	聴覚と言語	コミュニケーションや情緒の表現に使用される音楽や音声の取扱いの違いや意味の取扱いが、いかになされるかを概説する	課題レポートを仕上げる
9	感覚の連合	複数の感覚からひとつの概念が形成されることを情報の流れを通じて説明する	課題レポートを仕上げる
10	運動	大脳のさまざまな部位での情報処理と小脳および周辺器官の連携による、運動の生成および運動の学習について概説する	課題レポートを仕上げる
11	思考と推論	高度に発達した人間の特徴のひとつである思考と推論について概説する	課題レポートを仕上げる
12	構造と認知	ゲシュタルト心理等の構造の知覚および認知について概説する	課題レポートを仕上げる
13	記憶	大脳と辺縁系による記憶の定着と再現のしくみについて概説する	課題レポートを仕上げる
14	人間関係	人間の社会性における自他の区別や共通性、自我や感情について脳の機能を中心に考える	課題レポートを仕上げる
15	総括	まとめ	期末試験に向けて復習する

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	MIND HACKS	Tom Stafford, Matt Webb	オライリー・ジャパン
	2			
	3			

評価方法(基準)	ミニッツペーパー等の活動を含めた授業態度 20%、課題レポート 40%、試験 40% を総合して判断する。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等備考	11号館10階 寺内研究室
------------	---------------

科目名	犯罪被害者の支援と法的救済	科目名(英文)	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。 ・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデートDVの被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害(マルチ商法)、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。 ・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。 ・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。 ・犯罪被害者を論ずる前に、講義の数回を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。 ・法的知識は、時代を生き抜く上での一種の「転ばぬ先の杖」(教養)でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「被害者」概念について説明できるようになる。 ・犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できるようになる。 ・犯罪被害者の支援制度について理解する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答も随時行いたい。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・方が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。 ・公務員や法律事務所などへの就職に役立ちうる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方と文献紹介 ・「加害者」の法的責任 ・「加害者」と「犯罪者」 ・「被害者」の意義 ・「犯罪被害者」の意義 	事前: 「犯罪被害者」について調べてみよう 事後: 重要事項をまとめる
2	「犯罪者」をめぐる諸問題	<ul style="list-style-type: none"> ・「犯罪者」の刑事責任 ・刑罰の正当化根拠 ・厳罰化をめぐる諸問題 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
3	犯罪被害の告訴・告発と証拠収集 犯罪捜査への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・告訴と告発の方法 ・証拠保全 ・犯罪被害者に対するメディアスクラム ・報道による被害(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ネット) ・被害者連絡制度 ・被害者側からの問い合わせ ・被害者からの事情聴取 ・警察と検察によるカウンセリング体制 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
4	加害者との示談	<ul style="list-style-type: none"> ・示談の意義 ・示談が与える影響 ・示談慰謝料の算定 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
5	加害者の不起訴と検察審査会	<ul style="list-style-type: none"> ・検察審査会 ・検察審査員 ・審査申立手続 ・検察審査会と被害者 ・起訴議決制度 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
6	刑事公判と被害者	<ul style="list-style-type: none"> ・被害者による裁判傍聴 ・被害者による記録の閲覧と謄写 ・被害者の意見陳述 ・被害者等特定事項の非公開 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
7	犯罪被害者参加制度	<ul style="list-style-type: none"> ・対象犯罪 ・被害者に認められる行為 ・参加の申出と参加時期 ・公判前整理手続への参加 ・被害者の証人尋問 ・被告人質問と意見陳述 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
8	遺族による法廷への遺影の持ち込みをめぐる諸問題	<ul style="list-style-type: none"> ・遺影の持ち込みと公正なる刑事裁判 	事前: 前回までの復習 事後: 重要事項をまとめる
9	損害賠償命令制度	<ul style="list-style-type: none"> ・制度の趣旨 ・対象犯罪 ・遺族による申立 ・請求対象とその範囲 ・管轄裁判所と申立期間 	事前: 「犯罪被害者への経済支援」を調べよう 事後: 重要事項をまとめる
10	被害者通知制度 犯罪被害者等給付金制度	<ul style="list-style-type: none"> ・加害者の施設内処遇と社会内処遇 ・加害者の仮釈放 ・犯罪被害者への経済支援制度 ・受給資格 ・支給要件と支給額 ・不服申立 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる

	11	その他の経済的支援制度	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪被害者救護基金 ・交通事故犯罪 ・犯罪による精神被害 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	12	少年事件における被害者保護	<ul style="list-style-type: none"> ・少年法と犯罪被害者救済 ・少年事件における記録閲覧 ・少年審判の傍聴 ・少年事件での意見陳述 ・少年とその親に対する損害賠償 ・少年法と犯罪被害者救済 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	13	DV被害 高齢者に対する虐待	<ul style="list-style-type: none"> ・DVとは何か ・配偶者による犯罪 ・DV被害者の保護と支援 ・保護命令 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	14	ストーカー被害	<ul style="list-style-type: none"> ・いわゆる「ストーカー規制法」の概要 ・ストーカーへの行政処分 ・ストーカー犯罪の類型 ・ストーカーへの対応策 ・高齢者虐待の原因論 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	15	重要事項のまとめと確認テスト	重要事項のまとめ	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
関連科目	各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4訂版 ビクティム・サポート (VS) マニュアル</td> <td>第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会</td> <td>東京法令出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	4訂版 ビクティム・サポート (VS) マニュアル	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	4訂版 ビクティム・サポート (VS) マニュアル	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>開講時に指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	開講時に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	開講時に指示する。																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	・試験の成績による。																			
学生への メッセージ	・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。																			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室																			
備考	事前学習として、内容に記載した事項につき、毎回1,5時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、講義内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の復習に取り組むこと。																			

科目名	ビジネスマナー	科目名(英文)	Business Manners
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果(資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションーあいさつの重要性(理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修: ビジネスマナーとは何かを考える。 ・事後学修: ビジネスマナーの意義とは何か、400字でまとめる。
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の8つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修: 仕事の基本の8つの意識について調べる。 ・事後学修: 仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。
3	目標設定とPDCAサイクル	・目標設定(MBO) ・PDCAとは ・チームと個人の役割	・事前学修: PDCAについて調べる。 ・事後学修: あなたの日常生活におけるMBOとPDCAを考え、まとめる(400字以上)。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT方式-	・事前学修: あなたの1週間予定表を作成する。 ・事後学修: あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPOをもとに-	・事前学修: 敬語プリント①をする。 ・事後学修: ケーススタディプリントをする。
6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2Hから6W3Hへ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修: 電話応対プリントをする。 ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。
7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修: 来客対応プリント①をする。 ・事後学修: 来客対応プリント②をする。
8	ハウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べる ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社外文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修: ビジネス文書①をする。 ・事後学修: ビジネス文書②をする。
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修: ビジネス文書③をする。 ・事後学修: ビジネス文書④をする。
11	ビジネス通信の基本	・通信手段(電子メール、ファックス等)の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修: 郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修: メール文書を作成する。
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護(Pマーク) ・コンプライアンス	・事前学修: コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成する(400字以上)。
13	設営の基本	・YTT方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修: 同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修: 設営事例をまとめる。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修: 慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修: ビジネス文書(社外社内)、郵便の知識、慶弔のマナーのポイントをまとめる。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修: ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修: 全体をまとめる。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ロールプレイ等のワーク (20%)、複数回のレポート (40%)、期末試験 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室(石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	プレゼンテーション論	科目名(英文)	Presentation
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	現代社会における企業等のビジネス組織で用いられているプレゼンテーションに関する知識や技法についての基礎的理論を体系的に学習する。また、基本的コミュニケーションの在り方からスピーチの構成と実践に取り組み、次いでプレゼンテーションでの実践へと段階的に学習し、体得することを目的とする。
到達目標	1) 自己紹介等、自分のことや興味・関心の高いものを堂々と述べるようになる。 2) 相手を尊重したコミュニケーションの必要性を理解できるようになる。 3) 自分の伝えたいことを明確にし、それを伝えるための初歩的スキルを身に付けることができる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。個人のプレゼンテーションを繰り返すので、学んだことを実践に移す努力が必要である。そのためにプレゼンしている姿をカメラ等で撮影し、それを基に自分自身で改善していくことが望まれる。
科目学習の効果(資格)	コミュニケーションに対する理解が深まり、自主性を養うことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・プレゼンテーションの定義と語源	・事前学修: プレゼンテーションの意味を考える。 ・事後学修: 初歩的プレゼンテーションについてレポートを作成する。
2	自己紹介プレゼンテーション①	・漢字一文字で自分を表現する。	・事前学修: 漢字一文字表現を練習する。 ・事後学修: 漢字一文字表現を練習し、自己紹介プレゼンの構造を考える。
3	プレゼンテーションとコミュニケーション	・プレゼンはコミュニケーションの一部であること、それ以前にプレゼンターとしての人間の要素を高めることの必要性を学ぶ。	・事前学修: 漢字一文字表現を練習し、自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。 ・事後学修: コミュニケーション思考についてレポートを作成する。
4	プレゼンテーションの基本	・基本的スキルの提示、ならびにそれを高める努力の在り方を学ぶ。	・事前学修: プレゼンテーションの基本は何かを考える。 ・事後学修: 自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。
5	自己紹介プレゼンテーション②	・1分、3分という時間を使い切るプレゼンテーションを練習する。	・事前学修: 初歩的プレゼンテーションレポートを振り返る。 ・事後学修: 自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。
6	プレゼンテーションの評価	・プレゼンテーションは評価されるものであることを理解し、その観点をアイデア会議で抽出する。	・事前学修: 自己紹介プレゼンを修正する。 ・事後学修: 評価の意味を考え、自己紹介プレゼンを評価する。
7	プレゼンテーションの構成	・プレゼンテーションの論理的組み立て方と校正方法を学ぶ。	・事前学修: 評価から修正した自己紹介プレゼンを練習する。 ・事後学修: 自己紹介プレゼンをさらに評価し、修正したものを練習する。
8	評価表作成①	・グループワークの中で、アイデア会議で抽出したことを基に、評価表を作成する。	・事前学修: 修正した自己紹介プレゼンをさらに練習する。 ・事後学修: グループ活動としての評価表作成を行う。
9	評価表作成②	・グループ活動で作成した評価表を基に、グループ内で自己紹介のプレゼンテーションを実際に評価し、調整し、完成する。	・事前学修: 評価表作成を行う。 ・事後学修: グループ内で評価表に基づいた評価を行い、完成させる。
10	評価表作成③	・各グループで作成した評価表を発表し、本年度のプレゼン評価表を全体で完成する。 ・「良かった点・改善点」であるフィードバックの意味を理解する。	・事前学修: 評価表を完成させる。 ・事後学修: フィードバックの必要性に関してレポートを作成する。
11	紹介プレゼンテーション①	・紹介したいモノを選択し、各自で紹介プレゼンテーションの作成をする。	・事前学修: 紹介プレゼンを練習する。 ・事後学修: 紹介プレゼンを練習する。
12	紹介プレゼンテーション②	・紹介プレゼンテーションを評価表を基に完成させる。	・事前学修: 紹介プレゼンを練習する。 ・事後学修: 作成した評価表が機能するか、紹介プレゼンで確かめる。
13	紹介プレゼンテーション③	・グループ内発表、全体発表を繰り返し、評価表に記入する。 ・個人プレゼンのテーマを決め、実際に練習する。	・事前学修: 紹介プレゼンを完成させる。 ・事後学修: 個人プレゼンを完成させる。
14	フィードフォワード	・「良かった点・改善すべき点」のフィードバックを受け、フィードフォワードとする意味を理解する。	・事前学修: 個人プレゼンを完成させる。 ・事後学修: 個人プレゼンに関して改善レポートを作成する。
15	まとめ	・まとめワーク。 ・個人プレゼン発表。	

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プレゼンテーション ZEN	ガー・レイノルズ	阪急コミュニケーションズ
	2	TED トーク 世界最高のプレゼン術	ジェレミー・ドノバン	新潮社
	3			
評価方法 (基準)	プレゼンテーション (50%)、レポート (50%) で評価し、総点の 60% で合格とする。			
学生への メッセージ	人前で話すこと、意見を述べるのが得意な人は決して多くはありません。しかしながら、社会人ともなればコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が問われます。不得意だという意識を変え、自分なりに取り組む方法を覚え、練習を重ねていくことによって、以前とは異なった自分自身を発見できるでしょう。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。			

科目名	プロポーザル・デザイン	科目名(英文)	Design and Proposal
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北村 浩
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	サービスデザインの構築による新事業をいかに創造するか、そのプロセスの概観を学習する。新商品・サービスの企画段階では、提供者（企業）、利用者（消費者）の発信する情報をいかに融合させて価値を示すのかが課題である。本授業は、Webサービスの普及において、企業・消費者等の叡智を融合する『デザイン思考（Design Thinking）』の手法により、多様な視点で共創型の提案をどのように進めるのかを学ぶ。デザイン思考は、学部・専攻の枠を超えた汎用的な課題解決プロセスを提供し、多くの産官学で実践されている米国発の方法論で、新サービスの発想の有形化を行う手段として、新市場の開拓を狙う関係者から注目を集めている。
到達目標	1. サービス思考 どのようなサービスを提案し、いかにつくるのかを思考する。 2. 共創（コラボレーション） 異分野や立場の異なる人達と思考ベクトルを融合させ、新しい価値の創出を狙う。 3. サービス提案 共創のアウトプット（結果）を整理し、アウトカム（成果）としてまとめて、プレゼン等で発信する。 プロポーザル・デザインにかかわる、①e-Sales 商材開拓、②e-Promotion SNS 利活用広報、③e-Marketing 事業推進 の課題を指定する。（これらの事業に係る企業やNPO 法人からのゲスト講演の受講機会あり。）
授業方法と留意点	授業は、講義、テーマごとに、課題の個人発表、グループワーク・発表（4～5名/グループ）から構成される。毎回、グループワーク・発表（プレゼンテーション）を中心に授業運営を進める。また、ランダムに指名し各自の意見を求めた際には、積極的・建設的な発言等で授業への参画に励むよう努めること。適宜、最新の業界トピック、適用されているテクノロジーを学習する。 デザイン思考は、新サービスの発想を形にするコミュニケーション支援手法で、異なる価値観を有する人との間で、共創活動をととして成果を導き出す狙いがある。異分野交流を期待する人に向けた領域である。
科目学習の効果（資格）	・新聞やWeb が提供する Web デザイン関連テーマの記事の骨格を理解することができる。 ・同僚・先輩学生と意見交換を図るための基礎知識や素養を身につけることができる。 ・異分野の者の間のグループワークによる交流・親交の機会に接する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	サービスデザインの科学	・サービスデザイン ・Web サービスと人間系サービス ・人間中心のデザイン（Human-Centered Design） ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
3	ケーススタディ 1	・サービスにおける人間系要素 ・メンタルマトリックス ・Web サービスの特質 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
4	サービスの市場	・『市場（Market）』とは何か ・プロポーザルフレームワーク ・提案の視点 ・提案を取り巻くステークホルダー ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
5	『デザイン思考（Design Thinking）』の概観	・『デザイン思考』の視点 ・デザイン思考とシステム思考 ・デザイン思考の位置づけ ・個人発表（プレゼンテーション）	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
6	ケーススタディ 2	・ユーザーエクスペリエンスデザイン（User Experience Design） ・カスタマーエクスペリエンスデザイン（Customer Experience Design） ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
7	『デザイン思考（Design Thinking）』の手順	・デザイン思考の標準ステップ ・発見（Discover）/定義（Define）/発想（Ideate）/実証（Prototype） ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
8	『デザイン思考（Design Thinking）』の視点	・サービス提供者（企業）と利用者（消費者）の関係性マネジメント ・RAD（Rapid Application Development） ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
9	ケーススタディ 3	・プロトタイプング ・ステークホルダー 顧客、取引先、CMO（chief marketing officer）、利益団体（Interest Group） ・個人発表（プレゼンテーション）	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
10	『デザイン思考（Design Thinking）』と提案（Proposal）活動	・提案（Proposal）活動の骨子 ・ワークショップ適用事例 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
11	ケーススタディ 4	・B2C とデザイン思考 ・B2B とデザイン思考 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
12	ケーススタディ 5	・思考の発散と収束 ・演繹法と帰納法	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ

			・グループワーク・発表	
	13	ケーススタディ 6	・B2B2C デザイン思考 ・ゲスト講演聴講	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
	14	ケーススタディ 7	・オープンデザイン ・ビジネス実践事例 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
	15	まとめ	・総合課題 ・総括	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	デザイン思考の教科書	ファン・パイエン, アネミック/ ダールハウゼン, ヤープ/ザイル ストラ, イェル/ファンデル・ス コール, ロース	日経 BP 社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	デザイン思考が世界を変える	ティム・ブラウン	早川書房
	2	IBMの思考とデザイン	山崎 和彦	丸善出版
	3	オープンデザイン ―参加と共創から生まれる「つくりかたの未来」	ヴァン・アベル, バス/エバース, ルーカス/クラーセン, ロエル/ トロクスラー, ビーター	オライリージャパン
評価方法 (基準)	平常点 (25%)、個人レポートの提出 (15%)、定期試験 (60%) による総合評価を行う。平常点は、個人およびグループでの課題・ディスカッション、指名時の発言、小テスト (毎回、不定期)、授業への参画程度・態度で評価する。私語、携帯機器の利用、遅刻等の進行を妨げる者、授業に無関係な行動を行う者については退室指示等で厳しく対処し、かつ成績評価に反映するので、くれぐれも注意すること。			
学生への メッセージ	新サービスの発想を形にする手段として、市場から注目を集めているデザイン思考は、多様な視点で共創型の提案を進め、新サービスの発想を形にするコミュニケーション支援の方法論です。異なる価値観を有する人達との間で、グループワークをととして成果を導き出すアプローチに慣れ親しんでください。			
担当者の 研究室等	11 号館 7 階 (北村教授室)			
備考	全座席指定での着席をお願いします。初回の授業ガイダンスでは、クラス運営法、学習法、成績評価基準の説明、課題・発表 (プレゼンテーション) 要領、授業用ツール (Portal、SNS) 利用を説明するので、必ず出席すること。また、授業の出席回数要件を満たさない者、成績評価にかかわる活動での不正行為者は、初回授業で示す評価基準に従った評価を行う。			

科目名	法学入門	科目名(英文)	Jurisprudence
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大仲 淳介
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

教養科目

授業概要・目的	授業概要：私たちの日常生活は多くの法律と関わります。この講義では、法学の基礎から始め、身近な具体的事例をとりあげ、民法、商法、刑事法、民事訴訟法などの基礎を解説します。目的：日常生活から生じる法律問題を通して、法律学の基礎的な知識を修得してもらうこと。
到達目標	日常生活において必要、有益な法律の知識を得て、身近な法律問題を法的な立場から考えるようになることを目指します。
授業方法と留意点	教科書と配布プリントを用いて講義形式で行います。なお小テストは授業中に、適宜、行います。また小テストを行った回の授業を欠席した者のための再試験は行いませんので注意して下さい。
科目学習の効果(資格)	各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	法学の基礎 1	法とは何か。法の種類、法の優劣関係について説明します。	事前に教科書 239 頁から 243 頁と 246 頁から 247 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
2	法学の基礎 2	法律の条文の構造、法律の解釈について説明します。	事前に教科書 244 頁から 245 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。	
3	日常生活と契約 1	民法の特徴、契約の成立について説明します。	事前に教科書 1 頁から 8 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。	
4	日常生活と契約 2	意思表示と契約の主体について説明します。	事前に教科書 8 頁から 18 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。	
5	日常生活と契約 3	契約自由原則、契約の種類について説明します。	事前に教科書 18 頁から 24 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。	
6	日常生活と契約 4	不動産取引と民法について説明します。	教科書 24 頁から 30 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。	
7	日常生活とアクシデント	交通事故、欠陥商品による被害、医療事故について説明します。	事前に教科書 42 頁から 60 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。	
8	家族関係 1	結婚、離婚と民法について説明します。	事前に教科書 106 頁から 131 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。	
9	家族関係 2	親子、扶養と民法について説明します。	事前に教科書 131 頁から 147 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いてください。	
10	家族関係 3	相続と民法について説明します。	事前に教科書 147 頁から 155 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。	
11	企業と法 1	商法・会社法を手がかりに企業とはどのようなものかについて説明します。	事前に教科書 156 頁から 168 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。	
12	企業と法 2	企業の所有と経営の分離と株式会社について説明します。	事前に教科書 169 頁から 204 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。	
13	紛争の解決 1	日常生活で生じる紛争と裁判制度について説明します。	事前に教科書 205 頁から 216 頁、248 頁から 249 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。	
14	紛争の解決 2	裁判のしくみ、裁判以外の紛争の解決(和解、調停、仲裁)について説明します。	事前に教科書 216 頁から 238 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。	
15	まとめ	授業全体のまとめ	第 1 回から第 14 回までの配布プリントの問題を確認して下さい。	

関連科目	日本国憲法
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法の世界 (第 7 版)	池田真朗・犬伏由子・野川忍・大塚英明・長谷部由紀子	有斐閣アルマ
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	定期試験(60%)と小テスト(40%)の割合で評価します。小テストは、適宜、授業中に行います。
----------	---

学生へのメッセージ	授業中に生じた疑問は必ず質問して下さい。
-----------	----------------------

担当者の研究室等	11 号館 5 階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
----------	-----------------------------

備考	授業の事前事後には 1 時間以上の学習を必要とします。
----	-----------------------------

科目名	マーケティング	科目名 (英文)	Marketing
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 祥司
ディプロマポリシー (DP)	A◎		

授業概要・目的	いかなる組織においても、マネジメントを効果的に行い、目標を達成するにはマーケティング発想が不可欠である。本授業では、最新の事例を交えながらマーケティングの基礎知識を身につけることを目的とする。 各々がマーケティング論的な視点で物事をとらえる事ができるようになることを到達目標とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> マーケティングの基礎的な知識を習得する。 マーケティング論的な視点で物事をとらえる事ができるようになる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> グループワークを取り入れながら授業を行う。 課題の考察・検討・発表では、積極的に参加してもらいたい。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> マーケティングの基礎知識を学習し、現実の問題として捉えることで、マーケティングをより身近に理解できるようになる。 マーケティング的発想ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	マーケティングの4PとSTP	マーケティングを考えたときの基本となる4PとSTPについて学ぶ。	備考欄参照
3	プロダクト	製品の本質的なサービスと補助的なサービスについて学ぶ。	備考欄参照
4	プレイス	メーカーから最終ユーザーに製品が渡るまでの経路について理解する。	備考欄参照
5	プロモーション	企業の情報や製品の情報を消費者に伝える活動について把握する。	備考欄参照
6	プライス	価格に関する意思決定について学ぶ。	備考欄参照 *事後学習については、これまでの復習を行い中間レポートに備えるため3時間以上はかけること。
7	セグメンテーション 中間レポート提出	セグメンテーションとは何か、セグメンテーションの「軸」について理解する。	備考欄参照
8	ターゲティング	セグメンテーションに基づいたターゲットの決め方について学ぶ。	備考欄参照
9	ポジショニング	競合他社との差別化について理解を深める。	備考欄参照
10	製品ライフサイクル	製品ライフサイクルの段階別の特徴について知る。	備考欄参照
11	市場地位別のマーケティング戦略	競争他社との力関係に応じたマーケティング・ミックスについて考察する。	備考欄参照
12	業界の構造分析	5つの競争要因それぞれの特徴について学ぶ。	備考欄参照
13	全社戦略	プロダクト・ポートフォリオ・マネジメントの考え方について理解する。	備考欄参照
14	事業とドメインの定義	事業定義・ドメイン定義の重要性について知る。	備考欄参照
15	まとめ	マーケティングに関する重要な考え方やキーワードについて理解を深める。	教科書の内容の復習と半年間の復習をする。期末試験の準備も含めて、合計5時間以上はかけること。

関連科目 経営学、マーケティング戦略論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	わかりやすいマーケティング戦略	沼上幹	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 平常点 (ミニッツペーパー、中間レポート、発表等) 40%
期末テスト 60%

学生へのメッセージ 企業活動を意識しながらモノやサービスを購入することで、よりマーケティングが身近なものになると思います。

担当者の研究室等 田中祥司研究室

備考
事前学習：教科書の該当箇所の内容を把握し、わからない用語などをピックアップしておく。
所要時間：1.5時間
事後学習：配布したプリントを教科書で確認し、授業内容を復習する。事前にわからなかった用語などが理解できているか確認をする。中間レポート、期末試験に備える。
所要時間：1時間

科目名	マーケティングと歴史	科目名(英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式を基本とします。
科目学習の効果(資格)	マーケティングの発想で社会を見る眼が養えます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
6	マーケティングのSTPAアプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
10	越後屋の仕入機構(1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
11	越後屋の仕入機構(2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大規模呉服商の流通革新と進化—三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷—	武居 奈緒子	千倉書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動	武居 奈緒子	晃洋書房	
3				

評価方法(基準)	期末テストの成績 70%、授業内課題 30%
学生へのメッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。
担当者の研究室等備考	11号館8階 武居教授室

科目名	マクロ経済学入門	科目名(英文)	Introduction to Macroeconomics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥西 達也
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

授業概要・目的	この授業は、受講生が経済学のごく初歩的な知識を身につけ、新聞などの経済記事のある程度理解できるようになることを目指す。経済とは何か、経済学とはどのような学問かを考えることを導入部に、新聞やネット上の経済記事で目にする基本的な経済用語、経済の大まかなしくみ(メカニズム)について、できるだけ平明に説明していく。																																																																		
到達目標	経済の大まかなしくみがある程度理解できるようになる。 現代経済の流れや経済問題がある程度理解できるようになる。 新聞やネット上の経済記事の内容がある程度理解できるようになる																																																																		
授業方法と留意点	テキストは使用せず授業プリント・資料を用いて講義をする。授業内容の理解度を測るためチェックシート(小テスト)を実施する。 場合によっては授業の最後に短文の感想を書いてもらい、それを読んで次の授業のやり方を工夫することもある。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業にかかわるガイダンス(授業の進め方・成績評価)。経済に関する受講生へのアンケート。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>経済と経済学</td> <td>誰のための経済か。様々な経済学(マクロ経済学とミクロ経済学など)：対象の違い、視座の違い。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>市場の種類としくみⅠ 生産物市場①</td> <td>需要・供給・価格調整。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>市場の種類としくみⅡ 生産物市場②</td> <td>需要・供給・数量調整。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>市場の種類としくみⅢ 労働市場①</td> <td>労働需要と労働供給。賃金の決定と失業の発生：自然失業率と景気変動。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>市場の種類としくみⅣ 労働市場②</td> <td>労働市場の規制と緩和：労働法制とさまざまな雇用形態。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>市場のしくみと種類Ⅴ 資本市場</td> <td>資金調達と株式市場。株値の決定。株式会社のしくみ。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>市場の種類としくみⅥ 貨幣市場</td> <td>貨幣の需要・供給と利子率。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>GDPと経済成長率</td> <td>ストックとフロー、付加価値、三面等価、経済成長率。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>為替変動</td> <td>外国為替とは。通貨安・通貨高が経済生活へ及ぼす影響。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>国際分業と貿易</td> <td>自由貿易のメリット・デメリット。保護貿易の功罪。国際収支の考え方。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>インフレとデフレ</td> <td>どのような現象か。なぜ起こるのか。その対策は：ケインジアンの考え方、マネタリストの考え方。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>中央銀行と金融緩和</td> <td>価格政策と数量政策。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>政府の役割</td> <td>有効需要政策と乗数効果。 租税政策と所得再分配。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>世界経済と日本 まとめと復習</td> <td>経済のグローバル化とリージョナル化。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業にかかわるガイダンス(授業の進め方・成績評価)。経済に関する受講生へのアンケート。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	2	経済と経済学	誰のための経済か。様々な経済学(マクロ経済学とミクロ経済学など)：対象の違い、視座の違い。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	3	市場の種類としくみⅠ 生産物市場①	需要・供給・価格調整。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	4	市場の種類としくみⅡ 生産物市場②	需要・供給・数量調整。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	5	市場の種類としくみⅢ 労働市場①	労働需要と労働供給。賃金の決定と失業の発生：自然失業率と景気変動。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	6	市場の種類としくみⅣ 労働市場②	労働市場の規制と緩和：労働法制とさまざまな雇用形態。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	7	市場のしくみと種類Ⅴ 資本市場	資金調達と株式市場。株値の決定。株式会社のしくみ。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	8	市場の種類としくみⅥ 貨幣市場	貨幣の需要・供給と利子率。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	9	GDPと経済成長率	ストックとフロー、付加価値、三面等価、経済成長率。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	10	為替変動	外国為替とは。通貨安・通貨高が経済生活へ及ぼす影響。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	11	国際分業と貿易	自由貿易のメリット・デメリット。保護貿易の功罪。国際収支の考え方。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	12	インフレとデフレ	どのような現象か。なぜ起こるのか。その対策は：ケインジアンの考え方、マネタリストの考え方。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	13	中央銀行と金融緩和	価格政策と数量政策。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	14	政府の役割	有効需要政策と乗数効果。 租税政策と所得再分配。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	15	世界経済と日本 まとめと復習	経済のグローバル化とリージョナル化。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業にかかわるガイダンス(授業の進め方・成績評価)。経済に関する受講生へのアンケート。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
2	経済と経済学	誰のための経済か。様々な経済学(マクロ経済学とミクロ経済学など)：対象の違い、視座の違い。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
3	市場の種類としくみⅠ 生産物市場①	需要・供給・価格調整。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
4	市場の種類としくみⅡ 生産物市場②	需要・供給・数量調整。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
5	市場の種類としくみⅢ 労働市場①	労働需要と労働供給。賃金の決定と失業の発生：自然失業率と景気変動。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
6	市場の種類としくみⅣ 労働市場②	労働市場の規制と緩和：労働法制とさまざまな雇用形態。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
7	市場のしくみと種類Ⅴ 資本市場	資金調達と株式市場。株値の決定。株式会社のしくみ。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
8	市場の種類としくみⅥ 貨幣市場	貨幣の需要・供給と利子率。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
9	GDPと経済成長率	ストックとフロー、付加価値、三面等価、経済成長率。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
10	為替変動	外国為替とは。通貨安・通貨高が経済生活へ及ぼす影響。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
11	国際分業と貿易	自由貿易のメリット・デメリット。保護貿易の功罪。国際収支の考え方。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
12	インフレとデフレ	どのような現象か。なぜ起こるのか。その対策は：ケインジアンの考え方、マネタリストの考え方。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
13	中央銀行と金融緩和	価格政策と数量政策。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
14	政府の役割	有効需要政策と乗数効果。 租税政策と所得再分配。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
15	世界経済と日本 まとめと復習	経済のグローバル化とリージョナル化。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
関連科目	なし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>経済学入門(マクロ編)</td> <td>ティモシー・テイラー</td> <td>かんき出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>日本経済の常識</td> <td>中原隆幸</td> <td>ナカニシヤ出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	経済学入門(マクロ編)	ティモシー・テイラー	かんき出版	2	日本経済の常識	中原隆幸	ナカニシヤ出版	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	経済学入門(マクロ編)	ティモシー・テイラー	かんき出版																																																																
2	日本経済の常識	中原隆幸	ナカニシヤ出版																																																																
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験(筆記試験)70%、チェックシート(小テスト)30%。無断欠席が4回以上ある場合は原則として成績評価をしない。																																																																		
学生へのメッセージ	日々、経済記事に注意を向け、関心あるトピックについて(自分なりに)掘り下げて調べる習慣をつけてほしい。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)																																																																		
備考																																																																			

科目名	マクロ経済学入門	科目名(英文)	Introduction to Macroeconomics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	内田 勝巳
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

授業概要・目的	本授業は、経済学の知識がない学生が、マクロ経済学の基礎理論を身につけることを目的とする。入社試験・公務員試験・資格試験にも役立つように、講義中、演習問題を提示する。
到達目標	株式市場、外国為替、国民所得、デフレ・インフレ、生産物市場等、主要な経済用語を理解し、新聞の経済記事を読めるようになることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業は、基本的に、前回の課題の解説(復習)、授業テーマの解説、授業内容に対応する課題の提示の順序で進めていく。事前学習として授業テーマに該当する箇所を読んでおくこと。
科目学習の効果(資格)	マクロ経済学の基礎概念を学び、新聞記事の経済基礎用語を理解できるようになる。入社試験・公務員試験・資格試験に役立つ知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	マクロ経済学とはどのような学問かについて解説する。	教科書の事前学習(p.12-p.23) 授業後、課題の提出
2	GDPの定義	付加価値、三面等価の原則、名目値と実質値(GDPデフレーター)について解説する。	教科書の事前学習P.26-p.46 授業後、課題の提出
3	財市場(I)	ケインズの消費と投資の決定理論について解説する。	教科書の事前学習(p.48-p.62) 授業後、課題の提出
4	財市場(II)	政府支出と輸出入について解説する。	教科書の事前学習(p.62-p.73) 授業後、課題の提出
5	財市場(III)	国民所得の決定と乗数理論について解説する。	教科書の事前学習(p.76-p.92) 授業後、課題の提出
6	財市場(IV)	新しい消費と投資の理論について解説する。	教科書の事前学習(p.218-p.233) 授業後、課題の提出
7	貨幣市場(I)	貨幣の役割、株式市場における株価について解説する。	教科書の事前学習(p.94-p.109) 授業後、課題の提出
8	貨幣市場(II)	流動性選好理論(利子率の決定)と中央銀行の役割について解説する。	教科書の事前学習(p.109-p.116) 授業後、課題の提出
9	所得と利子率の同時決定(I)	IS-LM分析と経済政策の有効性について解説する。	教科書の事前学習(p.118-p.140) 授業後、課題の提出
10	所得と利子率の同時決定(II)	外国為替レートとマンデル・フレミング・モデルについて解説する。	教科書の事前学習(p.140-p.156) 授業後、課題の提出
11	所得と物価水準の決定(I)	所得と物価水準の決定について解説する。	教科書の事前学習(p.158-p.179) 授業後、課題の提出
12	所得と物価水準の決定(II)	財政金融政策の効果について解説する。	教科書の事前学習(p.179-p.188) 授業後、課題の提出
13	インフレとデフレ(I)	フィリップス曲線について解説する。	教科書の事前学習(p.190-p.206) 授業後、課題の提出
14	インフレとデフレ(II)	物価の変動を考慮した分析とデフレ・インフレの発生要因を解説する。	教科書の事前学習(p.206-p.216)授業後、課題の提出
15	経済成長	経済成長理論について解説する。	授業後、課題の提出

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マクロ経済学経幽門済学入門(第2版)	中谷巖	日経文庫
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マクロ経済学入門第3版	二神孝一	日本評論社
2	マクロ経済学の核心	飯田泰之	光文社新書	
3				

評価方法(基準)	授業後の課題の提出30%、定期試験70%の割合で総合的に評価する。
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	理工学部の学生にとって、マクロ経済学で使用するグラフの読み方は決して難しいものではないと思います。本授業を通じて、一般教養としてのマクロ経済学の基礎知識を習得しましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 内田勝巳教授室(経済学部)
----------	---------------------

備考	事前学習・事後学習各1時間程度
----	-----------------

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名 (英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部 [A], 理工学部 [II]
到達目標	自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようにする。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよいと考える。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果 (資格)	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守れるようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか?	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか?	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
3	犯罪はなぜ起こるのか? どうやって減らすのか?	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか? どのように防犯対策を進めているのか?	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
5	街頭犯罪—ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
7	性犯罪—街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
9	ストーカー、DV (配偶者からの暴力)	ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
10	詐欺—高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、事例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
11	サイバー犯罪—子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)

	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
	15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験70%、講義毎回の確認ペーパー30%で総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できることからよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえと思う。																			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼研究室																			
備考	講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトを通じて行う。																			

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名(英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥野 竜平
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	これから就職活動を始める学生(大学3年)を対象に、社会人として必要とされる規律やマナー、製造業など企業で働く上での基礎知識、課題を発見して解決する方法などを習得することを目的とする。履修後には、社会人・企業人としての役割および責任、仕事への情熱、創造的態度、自己の能力向上意欲が喚起されることを期待する。
到達目標	(1)社会人としてのマナーを身につける。(2)仕事の基本に関する知識を修得する。(3)企業における品質問題を体験する。(4)原価管理の基礎知識を修得する。(5)PDCAサイクルによる課題解決を体験する。
授業方法と留意点	パナソニック(株)より講師を招き、社会人・企業人としての基礎である知識と心がまえについて、パナソニック(株)の新入社員研修の方式に従い、講義に加えて具体事例演習を通じて体得させる。摂大教員も教室に常駐し、授業の補助と成績評価を分担する。授業は挨拶に始まり、挨拶で終わるので遅刻は厳禁です。なお、1~8回目までは120分授業とする。
科目学習の効果(資格)	社会が学生に何を求めているのかを体得し、職業意識を高め、自発的に能力向上を行えるようになる。就職後ただちに、社会人・企業人としての適切な行動が取れるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	企業・製造業・仕事の基本とは② 4月19日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
3	企業・製造業・仕事の基本とは③ 4月26日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
4	企業・製造業・仕事の基本とは④ 5月10日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
5	企業・製造業・仕事の基本とは⑤ 5月17日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
6	企業・製造業・仕事の基本とは⑥ 5月24日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
7	品質教育① 5月31日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する	----
8	品質教育② 6月7日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する	品質教育①~②の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
9	原価・コスト教育① 6月14日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	----
10	原価・コスト教育② 6月21日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	----
11	原価・コスト教育③ 6月28日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	原価・コスト教育①~③の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
12	課題解決教育① 7月5日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	----
13	課題解決教育② 7月12日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	課題解決教育①~②の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
14	プレゼンテーションの方法 7月19日(木)	プレゼンテーションの基礎知識を習得する	これまでの講義を総括して、全体討議・質疑応答でのプレゼン資料作成を行うこと
15	全体討議・質疑応答 7月26日(木)	14回の講義を総括しての討議・質疑応答を実施する	最終報告として受講レポートを提出する。

関連科目 『ものづくりインターンシップ実践』を履修する学生は、必ずこの科目を履修すること。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 課題レポート(6回)と受講レポート50%、授業姿勢(積極性)20%、全体討議(プレゼンテーション)10%、期末試験20%にて総合評価を行

(基準)	う。
学生へのメッセージ	日本を代表する企業であるパナソニック（株）と共同で実施する研修を受講して、社会と企業は学生に何を求めているのかを知り、職業人としての基礎知識を身につけ、社会人になるための意識転換をしましょう。この科目を履修する学生は、この科目と「ものづくりインターンシップ実践」を同時に受講することが前提です。
担当者の研究室等	1号館4階 奥野教授室
備考	毎回の講義内容を振り返りのための学習毎回1時間程度。 レポート各回3時間程度、プレゼン準備と期末試験のための学習20時間程度。全体討議におけるプレゼンテーション資料作成のため、2回 実習前指導を実施する（7/12(木)、7/19(木)6限目）。 パナソニック講師：佐藤哲志、山下秀行、斎藤遵、町田秀人

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名 (英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	諏訪 晴彦, 木多 彩子, 楢橋 祥一
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	本科目は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」で、実際に海外に渡航し、海外で実習を受けるために必要な英語力やマナー、現地の予備知識 (社会・文化等)、協同作業能力などを身につけるための講義である。日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となっている。本科目では、将来グローバルに活躍できる人材の育成を視野に入れ、海外事情や企業のグローバル化の実態、持続可能な開発の在り方を学ぶほか、英語によるコミュニケーション力や海外での企業や大学の人たちと交流・研究する際の社会人としてのマナーなどについて養成する。?
到達目標	(1) 海外事情が理解できる。(2) 海外渡航の手順や手続きが理解できる。(3) グローバル企業の現状が理解できる。(4) 海外インターンシップ先の事情が理解できる。(5) 英語による基本的なコミュニケーションができる。(6) 社会人としてのマナーが身につく。
授業方法と留意点	講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。本講義は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」の準備のための講義とする。夏期の実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。講義室内ではできるだけ、日本語を使わないようにする。
科目学習の効果 (資格)	英語による基本的なコミュニケーション力が身につく。TOEIC や英検などを受験する契機となる。また、社会人としてのマナーが身につく。?海外における実体験ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス, 海外渡航手続き概要, 英語コミュニケーション1	パスポート, チケット予約 (航空機, ホテル), 保険, 海外渡航準備, 英語による自己紹介	今回の課題レポート作成 次回の英語による自己紹介の準備
2	海外事情, 日系企業のグローバル化, 英語コミュニケーション2	英語による自己紹介発表, 海外の文化, 経済, グローバル化事情	今回の課題レポート作成 研修先の英字新聞の調査
3	研修先 事前調査, 英語コミュニケーション3	英字新聞記事の調査, 文化, 歴史, 経済事情, 企業・大学	今回の課題レポート作成 格差社会の調査
4	格差社会の問題	これからのグローバル人材として必要な素養を考える, ビデオ鑑賞など	今回の課題レポート作成 格差社会の問題についてレポート提出 英語による日本の紹介準備
5	社会人基礎力, 英語コミュニケーション4	社会人として必要な基礎力, 英語による日本の紹介発表	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
6	英語コミュニケーション5	海外渡航, 海外生活, 大学紹介, 専門科目の紹介	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
7	英語コミュニケーション6	研修先企業, 大学の調査, 英語による発表, 英語によるワークショップなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
8	英語コミュニケーション7	海外研修を想定したグループ実習1, テクノセンター見学, ヒヤリングなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
9	英語コミュニケーション8	海外研修を想定したグループ実習2, テクニカルニュースのリスニングなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
10	英語コミュニケーション9	海外研修を想定したグループ実習3, テクニカルニュースの発表など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
11	英語コミュニケーション10	海外研修を想定したグループ実習4, 英語フレーズ集の作成など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
12	英語コミュニケーション11	海外研修を想定したグループ実習5, 英語フレーズ集の作成など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
13	マナー実習	挨拶, 礼儀, 服装, ミーティング, 質疑, 懇親会, 感謝, 気配り, 機転	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
14	海外渡航, 海外生活	渡航準備, 入出国, 習慣, 食生活, 健康管理	今回の課題レポート作成 成果発表の準備
15	英語による成果発表	まとめ	成果発表の反省

関連科目: ものづくり海外インターンシップ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準): 課題レポート60%, 取組み姿勢20%, 成果発表20%として評価を行う。

学生へのメッセージ: これまでに「ものづくり海外インターンシップ」を受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。

担当者の研究室等: 1号館4階 諏訪教授室

備考: 【事前事後学習】レポート作成, 復習の学習時間: 20時間程度
【共同担当者】 諏訪教授 (M科), 石田准教授 (C科), 川野教授 (M科), 理工学部インターンシップ委員会委員

科目名	ものづくりインターンシップ実践	科目名 (英文)	Internship for Manufacturing Practice
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	奥野 竜平
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	『ものづくりインターンシップ基礎』の実践コースである。『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容をパナソニックのモノづくり現場で具体実習・実践することにより、更なる理解を進め、習得して自らの強みとすることを目的とする。																		
到達目標	(1)生産革新・改善を体験する。(2)製造業の成り立ち・仕組みを体験する。(3)チームワーク・QCD問題を体験する。(4)パナソニックの工場を見学する。(5)研修成果を発表する。																		
授業方法と留意点	『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容を体験するため、パナソニック (株) 人材開発カンパニーで、計7日間の宿泊実習を行なう。また、事前指導として『ものづくりインターンシップ基礎』のまとめを行い、事後指導として実習で得られた成果の定着をはかるためにプレゼンテーションによる報告を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>直前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目 ものづくりインターンシップ基礎のまとめ、ものづくりインターンシップ実践の準備 7/19 (木) 6限目 ・2回目 ものづくりインターンシップ基礎全体討議プレゼンテーション指導 7/26 (木) 6限目 <p>宿泊実習 (パナソニック人材開発カンパニー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1~3日目 【授業テーマ】 生産革新演習 【内容・方法等】 1個流しセル生産のロールプレイを通じて、生産革新実践・方法等を体得する。(グループ演習) 【事前・事後学習課題】 演習終了後、レポートを提出のこと <ul style="list-style-type: none"> ・4~5日目 【授業テーマ】 モノづくりコミュニケーション演習 【内容・方法等】 四角錐製作を通じて、製造業の成り立ち・しくみを習得 (設計~生産) し、目標達成のためのチームワーク・QCD問題意識の重要性を体得する。(グループ演習) 【事前・事後学習】 演習終了後、レポートを提出のこと <ul style="list-style-type: none"> ・6日目 【授業テーマ】 工場見学 【内容・方法等】 パナソニックのモノづくりを工場見学を通じて体得する。(2工場) 【事前・事後学習課題】 見学終了後、レポートを提出のこと <ul style="list-style-type: none"> ・7日目 【授業テーマ】 研修成果報告会 【内容・方法等】 研修成果報告会の実施。(グループ単位) 【事前・事後学習課題】 グループ単位でプレゼン資料をまとめておくこと <p>実習中指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月1日 (土) 1~4限目 プレゼンテーション指導 <p>実習後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目 体験報告書の添削指導 ・2回目 研修成果報告会 (2回目) に向けたプレゼンテーション指導 ・3回目 研修成果報告会 (2回目) に向けたプレゼンテーション指導 ・4回目 研修成果報告会 (2回目) ・5回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑 ・6回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評 																		
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	実習成果 40%、研修成果報告会 (2回) 20%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、実習・授業態度 20%とした総合評価を行なう。																		
学生へのメッセージ	この科目は「ものづくりインターンシップ基礎」を同時に受講することが前提です。																		
担当者の	奥野教授室 (1号館4階)																		

研究室等	
備考	<p>期間：2018年8月27日（月）～8月31日（金）、9月3日（月）～9月4日（火） パナソニック（株）人材開発カンパニーでの宿泊研修です。9月1日（土）には摂南大学でプレゼン資料を作成します。その間、パナソニック㈱社員の、朝礼、ランニングにも参加します。ジーンズ、スリッパは禁止。ランニングできる履物、着替えが必要です。学生負担金・食費等は別途徴収します。</p> <p>【事前事後学習】 レポート作成，プレゼン準備としての学習時間：20時間程度。</p> <p>【担当者】 パナソニック講師：佐藤哲志、高岡清、熊本義久、西尾幹夫</p>



科目名	ものづくり海外インターンシップ	科目名 (英文)	International Internship for Manufacturing
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	諏訪 晴彦・木多 彩子・楢橋 祥一
ディプロマポリシー(DP)	V科：II◎, R科：A◎, A科：A◎, M科：A1○, E科：B△, C科：II◎, L科：DP2◎, D科：DP1◎, S科：DP1◎, P科：DP8△, J科：DP1◎, W科：DP1◎, N科：DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となる。本科目は、「ものづくり海外インターンシップ」と呼び、世界展開をしている「ものづくり企業」の海外工場において具体的に実習体験をすることにより、グローバル企業の現状を理解するとともに、自らの視野と経験を広げることを目的とする。研修先はとりわけ東南アジアとする。?研修先によっては、海外の大学でワークショップ体験も含める。																		
到達目標	(1)グローバル企業の現状が理解できる。(2)英語による基本的なコミュニケーションができる。(3)海外でのものづくりの工程を体験できる。(4)チームワークを体験できる。(5)国際的視野を広げられる。(6)研修成果が発表できる。																		
授業方法と留意点	東南アジアは、フィリピン1箇所とタイ1箇所を予定している。受講者はいずれかの企業において、本学の夏休み中に往復を含めて約10日間(予定)の現場実習を行う。実習後にレポート作成および海外実習の成果報告会を行う。講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。なお、本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎(海外班)」の受講を必須とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>直前指導 ものづくり海外インターンシップ基礎の全体報告会に向けたプレゼンテーションの指導、海外実習の準備など</p> <p>海外実習 ・1～2日目 【授業テーマ】移動、オリエンテーション 【内容・方法等】研修先の概要、オリエンテーション、語学(英語)研修など 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・3日目 【授業テーマ】企画・設計部門実習/ワークショップ 【内容・方法等】ものづくり工程の上流である企画・設計部門。 【事前・事後学習】実習終了後、レポート、アイディアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・4～5日目 【授業テーマ】製造工場見学 【内容・方法等】関連工場、施設、建築、デザイン作品の見学、現地従業員、大学生との交流会に参加する。交流会では、英語によるコミュニケーションを行う。 【事前・事後学習課題】交流会終了後、レポート、アイディアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・6～8日目 【授業テーマ】製造系実習 【内容・方法等】製造系の加工、組立、検査・品質管理など。(グループ演習) 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・9～10日目 【授業テーマ】研修成果報告会、移動 【内容・方法等】グループ単位でPPTでプレゼン、または部分模型やその他手法を用いてプレゼンしてもよい。 【事前・事後学習課題】実習終了後、最終レポート、または各グループで研究成果ポスター、または梗概作成を提出のこと</p> <p>実習後指導 ・1回目 最終レポート(体験報告書)の添削指導 ・2回目 成果報告会に向けたプレゼンテーション指導 ・3回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑 ・4回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評</p>																		
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	海外現地研修 60% (実習記録簿 20%, 実習・授業態度 20%, 実習成果プレゼン 20%), 実習前後の学習 5%, 実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、成果報告会 (2回) 15%として評価を行う。																		
学生へのメッセージ	これまでに受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎(海外班)」の受講を必須とする。																		
担当者の研究室等	1号館4階 諏訪教授室, 川野教授室, 1号館3階 石田准教授室																		
備考	【注意事項】研修予定期間: 2017年8月中旬(研修先の都合により変更する場合があります。) 航空運賃、宿泊費、保険代などは自己負担となります。 【事前事後学習】レポート作成、復習の学習時間: 20時間程度 【共同担当者】石田准教授, 川野教授, 理工学部インターンシップ委員会委員																		

科目名	役立つ金融知力	科目名(英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陸川 富盛
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>諸君は大学生になるまでは、「これまでに既に起きたこと」を学んできました。「既に起きたこと」はもう変わることはありませんから必ず正解があり、それらを覚えておけば済みました。つまり、ただか「正解を覚えてもらって要領良く覚える」ということをやってきただけに過ぎません。</p> <p>しかし、諸君がこれから歩を進めていく実社会は「明日を創っていく社会」ですから、最初から決まり切った正解なんかどこにもありません。自分で自分の答えを創り出して行くしかないのです。そこで最も必要となるのは、他人の話や文章を正確に理解し、自分の考えを的確に表現する能力です。</p> <p>実社会で諸君が自ら成長し自分の人生を築き上げていくことは、企業がより良い企業となることを目指して経営していくことと同じです。つまり、諸君のこれからの人生は「自分株式会社を経営していくこと」に他なりません。それには、自ら考えて決断し行動する「賢い経済主体」となる、という大きな方向転換が必要なのです。具体的には、市場経済や契約社会の仕組みを実感覚として理解し、様々なリスクや不確実性に果敢に立ち向かっていく力を身に着ける、ということです。</p> <p>経済や法律などの学問的知識に加え、金融や投資などファイナンスに関する実践的な知識を得てそれらを日常的に活用していくことは、単に目先のお金の問題に役立つだけでなく、より良い人生や社会の実現に欠かせないのです。</p> <p>本講義の目的は、諸君が人生のさまざまな局面で的確に決断し行動できるよう、ファイナンスの知識や考え方に根差した実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けることです。</p>
到達目標	<p>主としてファイナンスの観点から、実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着ける。</p> <p>この講義は、諸君が将来直面する経済生活やキャリアライフで、諸君自身が「賢い経済主体」として適宜的確に行動できるようになることを目指します。</p> <p>諸君としては、講義に漫然と出席して教科書を開いているだけでは目標に到達することなどあり得ず、当然ながら単位も取得できません。毎回きちんと意識を集中して受講し、「自分で考えて講義内容を理解し行動する」という自分自身の努力を積み重ねる事が必要です。</p> <p>本講義は15回全体を通して次の三つのステップで構成し、各回とも教科書を使用した講義形式で進めます。</p> <p>① まずは経済主体としての視点で、社会の仕組みの全体観を把握し、様々な課題や対処法を認識します。 ② 次に、ファイナンスの基礎知識を、大学で学ぶ様々な専門知識と関連付けながら、実践的に学んでいきます。 ③ 更に、それらを統合し活用する能力をインテリジェンスとして身に着け、社会生活に応用する方法を学びます。</p> <p>本講義では毎回必ず教科書をベースに講義を進めるため、レジュメ等の資料を配布することは一切ありません。受講者は指定された教科書を必ず持参してください。</p> <p>但し、講義の内容は教科書通りではなく、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎません。このため、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。</p>
授業方法と留意点	<p>本講義では毎回必ず教科書をベースに講義を進めるため、レジュメ等の資料を配布することは一切ありません。受講者は指定された教科書を必ず持参してください。</p> <p>但し、講義の内容は教科書通りではなく、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎません。このため、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>経済・社会生活やキャリアライフに必要な意思決定を適宜適切に行えるよう、ファイナンスの知識を活用する実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けます。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	「経済主体としての立ち位置」	テキスト<P15~14, 4~13> ・私たちのくらしと経済 ・戦後の社会発展 ・パラダイムシフト ・変革の必要性
2	経済・金融の基礎知識 ①	「国際経済と国家財政」	テキスト<P44~49, 38~44> ・国際経済 ・国家の財政
3	経済・金融の基礎知識 ②	「市場経済と金融の役割」	テキスト<P16~18, 25~29, 18~25> ・お金の役割 ・市場経済のしくみと意義 ・金融の役割と銀行
4	法律の基礎知識	「契約の基本」	テキスト<P154~157, 159~166> ・契約社会 I ・ローン・クレジット ・契約社会 II
5	リスクと向き合う ①	「日常生活のリスク」	テキスト<P79~87, 166~168, 157~159, 168> ・リスクマネジメント ・契約社会 III
6	リスクと向き合う ②	「リタイアメント」	テキスト<P88~97> ・年金制度 ・老後生活資金
7	投資の基礎知識	「投資とは何か」	テキスト<P98~104> ・投資とは ・投資意思決定プロセス
8	経済活動と金融市場	「景気・株価」	テキスト<P30~31, 56~57, 32~36, 54~55, 37, 50~53> 景気 景気と株価
9	金融商品の基礎知識 ①	「代表的な金融商品(株式等)」	テキスト<P123~135> ・株式 ・投資信託 ・外貨建て商品 ・保険商品

				・デリバティブ テキスト<P117～123> ・預貯金 ・信託 ・債券
	10	金融商品の基礎知識 ②	「代表的な金融商品（債券他）」	テキスト<P105～117> ・直接金融と間接金融 ・金融商品の性格
	11	金融商品の基礎知識 ③	「金融市場と金融商品の性格」	テキスト<P136～153> ・分散投資 ・時間分散 ・長期投資
	12	投資のリスク管理	「投資のリスクマネジメント」	テキスト<P58～67> ・ライフプランニング
	13	ライフプランニング ①	「ライフプランニング表」	テキスト<P68～78> ・キャッシュフロー表の見直し ・ライフイベントごとの課題
	14	人生の三大資金	「住宅、教育、リタイアメント資金」	全体レビュー
	15	最終まとめ	「講義のまとめ」	講義で得た金融インテリジェンスのレビューを行い、実戦力を確認します。
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎		金融知力普及協会
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価方法 (基準)	<p>下記のとおり、本講義と課題に対する取り組み姿勢や理解度等を総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験 : 20% (経済やファイナンスに関する知識の正確性を評価します。試験範囲は講義全体です。) ・レポート : 50% (自分で考えて調査し問題解決する能力、即ち、全講義を受講して得た知見を評価します。) ・平常点 : 30% (全員の受講状況と態度、質疑応答、課題・討議などを評価します。出席点ではありません。) <p>講義にただ出席して教科書を開いているだけでは、目標に到達することはあり得ませんから、当然ながら単位も取得できません。毎回きちんと意識を集中して受講し、「自分で考えて講義内容を理解し行動する」という自分自身の努力を積み重ねる必要があります。</p> <p>講義の中で提示した課題については、当日の講義中または次回の講義で検討と解説を行ないますので、知識の確認に適宜役立ててください。</p> <p>成績評価の一つとなる上記課題レポートは表計算ソフト「エクセル」で出題するので、提出期限（定期試験当日を予定）までにこの課題レポートの出題に答えて必要事項を調査・入力し、内容を精査すること。 (講義では「エクセル」の使い方は教えませんが、フォーマットを提示するので表入力と確認が必要です。)</p> <p>レポート課題は大学内の情報システムを通じて掲示・連絡しますので、学内情報システムの利用や連絡設定は各自で事前に必ず行っておいてください。</p>			
学生への メッセージ	<p>本講義は「受講者の誰もが覚えられるように一つ一つ教えていく」のではなく、初回「イントロダクション」でも説明する通り、全15回を通して受講することによって、情報収集能力、考える力、判断力などの実力が付くように構成してあります。このため本講義を聴講すると、諸君は実戦と同じく、広範で大量の情報が一方的に流れてくることを経験することになります。</p> <p>しかし、諸君は既に大学生なのだから、「自分に分かる程度のことを自分に分かるように教えてもらえるのが当然だ」などという子供じみた甘えは捨て去ること。</p> <p>その上で、「講義されている内容を自分自身で考えて理解しよう」という確固たる意志を持ち、私語を慎み毎回静粛に受講すること。そうすればこれまでと異なる観点に立つことができ、本講義本来の効果を各自が最大限に得ることができます。</p> <p>本講義ではレジュメ等の資料を配布することは一切ありませんが、スマホやタブレット等からのネット検索やサイトの利用を適宜指示することがあります。</p> <p>受講者は指定された教科書を必ず購入してください。但し、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎず、講義内容も教科書通りではありませんので、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。</p> <p>その他、課題の提示方法等についても詳しくは講義の中で説明しますので、講義は毎回注意深く受講し、指示に従って下さい。こうした日常の情報収集能力が、各自の実力や成績評価にも大きく影響します。</p> <p>本講義で得た知識は、自分が学んでいる様々な専門知識と組み合わせることで、より高い効果を得ることができます。安直にありきたりの答えを求めるのではなく、自分で考える習慣を身につけてください。</p> <p>なお、居眠り、内職、途中離席、私語など、真摯に受講せず講義の妨げとなる学生には、講義を中断して注意を促し退席を命じる場合があります。学生の本分を弁えない不適切な行動は本講義の主旨を理解していない証左であり、成績評価にはマイナスとして反映します。</p>			
担当者の 研究室等	11号館1階（教務課）			
備考	<p>「事前・事後学習課題」について 予習（シラバス記載の教科書該当ページを事前に読む）：30分程度 復習（講義の内容を振り返り、自分の言葉で整理する）：30分程度</p> <p>質問等は、講義前又は後の時間帯に、教室等での対面による自由な質疑応答で受け付けます。 興味のあることや疑問を感じたことなど、自分で抱え込まないで気軽に相談してください。</p> <p>この講義は、SMBC日興証券グループによる「寄附講座」です。</p>			

科目名	ライフサイエンスの基礎	科目名(英文)	Introduction to Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西矢 芳昭. 青笹 治. 井尻 貴之. 居場 嘉教. 尾山 廣. 川崎 勝己. 木村 朋紀. 中嶋 義隆. 長田 武. 西村 仁. 船越 英資. 丸山 如江. 宮崎 裕明. 村田 幸作. 吉岡 泰秀
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	ライフサイエンスの基礎知識は、医療、環境、食品分野などへの生物機能の応用、すなわちバイオテクノロジーと密接に係る。ライフサイエンスおよびバイオテクノロジーの知識を深めることで、最新の科学情報を理解できると共に、社会人として相応しい教養が身に付く。ライフサイエンスの各分野を深く学ぶためにも役立つ基礎的知識を、各専門分野に精通した教員により概説する。
到達目標	教養としてのライフサイエンスの基礎的知識の理解
授業方法と留意点	配布資料に沿って、板書およびプロジェクターによる講義を行う。
科目学習の効果(資格)	生命科学の学習に必要な基礎的事項を理解することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	概要説明 特殊環境微生物学(西矢)	授業の進め方を説明する。 特殊環境の微生物に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
2	食品微生物学(村田)	微生物と生命・食糧・環境について解説する。	講義後に小論文を課す。
3	細胞生命生理学(宮崎)	生物がいかんして環境に適応する仕組み(ホメオスタシス)を獲得し、進化してきたのかについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
4	分子生物学(川崎)	分子生物学について説明する。 個体ゲノム制御機構に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
5	環境分析学(青笹)	食品因子の機能性と生活習慣病などの健康との係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
6	生命環境科学(長田)	ライフサイエンスにおける植物について解説する。	講義後に小論文を課す。
7	細胞機能学(船越)	生物の構成単位である細胞の構造、種類や機能について解説する。	課題レポート、または確認小テストを課す。
8	環境毒性学(木村)	環境化学物質による健康リスクへのライフサイエンスの係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
9	構造生物学(中嶋)	生体分子がもつ分子構造を機能の関係性について解説する。	課題レポートを課す。
10	タンパク質科学(丸山)	タンパク質の生合成、分類、機能、解析方法などについて概説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
11	分子細胞制御学(西村)	多くの生命現象は「現在(いま)」を生きたためだが、生殖は「未来」を作る現象であり、具体的に生殖とは何かを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
12	生体触媒科学(井尻)	生殖細胞におけるエネルギー代謝について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
13	病態薬理学(居場)	薬理学の基本について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
14	発生遺伝学(吉岡)	形態形成を中心にモデル生物を用いた応用研究についても解説する。	講義中にレポートを課す。
15	生体分子機能学(尾山)	さまざまな機能性タンパク質について解説する。	確認小テストを課す。

関連科目	生物学概論、生化学Ⅰ、生物無機化学、生物統計学
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義中の積極性、各回のレポートや知識確認テスト、小論文などで総合評価する。
学生へのメッセージ	不明な点があれば、各回の担当教員に遠慮無く質問して下さい。
担当者の研究室等備考	1号館 8階および9階 (理工学部生命科学科全専任教員)

科目名	歴史に学ぶ	科目名(英文)	History
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	織田 康孝
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

授業概要・目的	<p>現在、世界は非常に複雑な情勢となっており、日々新たな出来事が起こっている。連日、テレビや新聞等でそれらを見聞きすることが多いと思うが、私たちは本当にそれらを理解できているだろうか。また、理解はしているがある一方からの考えで理解しているのではないだろうか。過去があるからこそ今があるというように、現代起こっている出来事には必ず原因、つまり歴史がある。</p> <p>そこで、本講義では、現代に起こっている出来事を理解するため、また、それらを様々な角度からみる目を養うために近代日本の歴史、とりわけ、近代日本が行った戦争を事例としてその軌跡を辿っていく。そのうえで、近年の地域間紛争や民族紛争、国際紛争について、その要因と国際社会に与える影響について考える。受講生がそれぞれ解決の糸口を多角的に検討できるようになることを本講義の目的とする。</p>
到達目標	<p>本講義を通じて、近代日本が辿った歴史の基礎知識を身につけることはもちろんのこと、様々な視点から物事を考える能力を養うことが可能となる。加えて、これら歴史上の事象と、現代の国際社会において紛争、飢餓、経済、人種、宗教を起因として発生する様々な問題の背景にある諸条件とを比較検討することによって、現代社会が持つ問題の特質について考察する。</p>
授業方法と留意点	<p>基本的に毎回の講義でプリントを配布し、それを利用して講義を行います。教科書等は必要なく、講義内で参考書を適宜紹介していきます。また、毎回の講義内で小レポート(200字程度)を提出してもらいます(小レポートは講義終了前の10分間でいきます)。さらに、一方的な講義ではなく、講義内で発言をしてもらうこともあります。</p> <p>なお、事前学習の際は、参考書に挙げている『詳説日本史:日本史B』および『詳説世界史:世界史B』にて学修してください。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>歴史を論理的に考えることで、現在起こっている事象をも論理的に理解できるようになり、かつ、毎回の授業時における200字程度の小レポートを提出することにより学習したことおよび自らの思考をアウトプット出来る能力を養うことができよう。また、講義で学ぶ多様な立場や価値観、視角を理解することで、現代社会に発生している民族間対立や宗教間対立について、知見に基づき客観的に分析することができるようになる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	歴史とは何かを考える。授業の方針・全体計画・評価方法について説明する。	みなさんにとって歴史とは何かを考えてください。
2	近代日本の誕生	王政復古や戊辰戦争を通じて近代日本の誕生を考える。	予習として、王政復古や戊辰戦争に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
3	近代日本と軍事	徴兵制などを通じて日本が軍事大国となる原点を辿る。	予習として、徴兵制に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
4	日本と清国	「朝鮮」をめぐる日本と清国の関係をみていく。	予習として、日清戦争以前の日本と清国との関係に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
5	日清戦争	山県有朋の「主権線」・「利益線」などを通じて日清戦争がなぜ起こったのか、また、下関条約による領土拡大を考える。さらに、日清戦争の裏で行われていた魚釣諸島領有問題についてもみていく。	予習として、日清戦争に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
6	日露戦争	三国干渉や日英同盟を通じて日露戦争を考える。また、ポーツマス条約をみることで現在に繋がるロシアとの領土問題について考える。さらに、本戦争と竹島の関係についてもみていく。	予習として、日露戦争に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
7	第一次世界大戦①	民族自決、ワシントン体制を軸に第一次世界大戦が世界に与えた衝撃を考える。	予習として、第一次世界大戦勃発経緯に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
8	第一次世界大戦②	帝国国防方針および総力戦体制論をキーワードに第一次世界大戦が日本に与えた衝撃を考える。	予習として、帝国国防方針と総力戦体制論に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
9	満洲事変	満洲事変とはなにか、また、同事変の目的はいかなるものであったのか。	予習として、満洲事変に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
10	日本の植民地統治	傀儡をキーワードに日本の植民地政策の特質を捉える。	予習として、満洲国や汪兆銘政権に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
11	日中戦争からアジア・太平洋戦争開戦	日中戦争解決の糸口はどこにあるのか?当時の為政者は何を考えていたのかをみていく。	予習として、日中戦争勃発経緯やアジア・太平洋戦争勃発経緯に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
12	「大東亜共栄圏」構想の形成と展開	「大東亜共栄圏」構想の起源を辿り、同構想がいかに展開したのか、また、日本の各占領地にいかに波及したのかを考える。	予習として、「大東亜共栄圏」に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
13	大東亜会議	大東亜会議とはなにか、また、なにを目的に開催されたのかを考える。	予習として、大東亜会議・重光葵に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
14	帝国日本の解体	帝国日本は単に戦争に負けたから解体したのか。東南アジア占領や「独立」問題などを絡めて帝国日本の解体を考える。また、帝国日本解体後の問題となる日本領土についても考えていく。	予習として、東条英機内閣・小磯国昭内閣・鈴木貫太郎内閣に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
15	現代日本を取り巻く諸問題	東北アジアの領土問題(竹島=独島、尖閣=釣魚諸島問題、北方四島)など現代日本を取り巻く諸問題に関して考える。	予習として、東北アジアの領土問題について教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。

関連科目	
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	詳説日本史：日本史 B	笹山晴生ほか	山川出版社
	2	詳説世界史：世界史 B	木村靖二ほか	山川出版社
	3			
評価方法 (基準)	試験 70%、小レポート (200 字程度) 30%			
学生への メッセージ	<p>授業タイトルにもあるように「歴史に学ぶ」ことは非常に大切なことです。周知の通り、過去があるから今があります！現代で起きている事象には必ず歴史があり、それらを理解するためには歴史をみる必要があります。</p> <p>高校生までの暗記科目としての歴史ではなく、歴史をさまざまな角度からみること、考えることで今私たちが生きている現代をみる目も変わってくるはずです。</p> <p>大学生生活、バイトも遊びも大切ですが、少し「考える」時間も作りましょう！</p>			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)			
備考	予習・復習にあてる総時間の目安は 30 時間程度とします。なお、授業での質問等がある場合は、授業後に 7 号館 2 階の非常勤講師室に来ていただくか、メールにてご連絡ください。			

科目名	歴史に学ぶ	科目名(英文)	History
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	村上 司樹
ディプロマポリシー(DP)	A◎		

授業概要・目的
理工学部のみなさんが学んでいる技術や知識は、その多くが近代の西洋（欧米つまりヨーロッパ・アメリカ）で確立したものです。しかしそれらは近代になって急にできあがったものではなく、古代・中世からつづく人間の営みのなかで誕生しました。つまり歴史の産物なのです。だからより深い理解のためには歴史を、つまり人間社会の経験の積み重ねを学ぶべきなのです。なお歴史は暗記科目ではありません。現在のあらゆる偏見から自由になり、未来を考えるためのよりどころとなる知的営みです。先が見通せない状況だからこそ、後ろをふり返るのです。ヨーロッパの過去という二重の意味での異文化を通して、それを具体的に実践しましょう。

到達目標
社会とその時間のなかでの変化という視点を身につけることで、各専門での学びをより豊かなものとする。また学んだことを結論・理由・具体例に分けて、簡潔に説明できるようにする。

授業方法と留意点
暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各単元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下3点のことをしてほしい。まず復習として、授業プリントを最低2回は読み返すこと。次に予習として、次回分の資料には、あらかじめ目を通して置くこと。最後に話を聞く（文を読む）ときは手を動かす（線を引く、印をつける、メモをとる）こと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。

科目学習の効果(資格)
人間社会の時間的変化（つまり歴史）という視点から、それぞれの学問的な専門知識をさらに深める。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	歴史を学ぶにあたって(1)	授業のルール、すべては表裏一体、現代中心主義から脱け出す	必ず出席するよう予定を調整する。
2	歴史を学ぶにあたって(2)	成績評価の基準、具体的に書く必要と方法、単純な善悪二元論は捨てよう	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
3	歴史を学ぶにあたって(3)	論理的に書く必要と方法、学ぶことの意義、「進んだ西洋」は思い込み	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
4	機械でたどる西洋史(1)	水車とともに始まった、アジアからヨーロッパへ	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
5	機械でたどる西洋史(2)	発明だけで歴史は変わらない、人間は「社会」を成す生き物だから	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
6	機械でたどる西洋史(3)	民主的な政治と学芸が発達した古代、発明は起こっても普及につながらない社会	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
7	機械でたどる西洋史(4)	神への信仰と領主の支配が機械の普及につながる	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
8	機械でたどる西洋史(5)	機械の普及が城と騎士の時代を終わらせた	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
9	建築でたどる西洋史(1)	「西洋建築＝石造建築」とは限らない	同上の課題に加えて小レポート。
10	建築でたどる西洋史(2)	石造建築が栄えた古代、ただし社会という視点から見つめなおすと…	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
11	建築でたどる西洋史(3)	古代社会の終わりとともに石造りの建築も消える	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
12	建築でたどる西洋史(4)	初期の城は木と土でできていた、教会と都市が石の建築をよみがえらせる	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
13	建築でたどる西洋史(5)	ヨーロッパ都市の中心は大聖堂、建築家の誕生	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
14	自然学でたどる西洋史(1)	「宗教VS科学」という思い込み	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
15	自然学でたどる西洋史(2)	化学と錬金術、占星術と天文学	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。

関連科目 特になし

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法(基準)
ポイントは以下3点。第1に暗記は必要ない。テストも論述1題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第2に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対ない。例えば、出席点はない。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト(40点)、②レポート(30点)、③レスポンスペーパー(30点)。

学生へのメッセージ
歴史が教えてくれるのは、「すべては表裏一体」ということです。この授業も例外ではありません。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠かせないだけでなく、大学卒業後の長い人生でも、あらゆる場面で必要とされる力です。テスト終了と同時に忘れてしまうような、「暗記科目としての歴史」を教えるつもりはありません。この授業で学ぶのは「具体的・論理的に考える歴史」であり、みなさんには、それを通して「単位以上のもの」を得てほしいと思います。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 第1に事前事後学習は、毎回1時間をかけること。第2に受講および慈善事後学習の際は手を動かす（線を引く、印をつける、メモをとるなど）こと。第3に知識が不足する際には、指定の参考文献を積極的に利用すること。

教 職 科 目

科目名	教育課程論	科目名(英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	(1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画・編成し、かつ、実践、評価できる資質が身につく。
授業方法と留意点	テキストや資料を中心に授業を進める講義形式が基本となりますが、扱うテーマによってはグループワークを導入するなど、学生一人一人の授業への主体的な参加が求められます。また、授業準備として各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を読んだり、それぞれの免許取得教科の学習指導要領を入手し、目を通しておくことが望ましいと考えます。また本授業用のノートを1冊準備してください。授業でレジュメを配布予定としていますが、板書内容やパワーポイント資料の中の内容を記述するためのノートを一冊準備しておいてください。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か/オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げているテキストの該当する分を読んでおくこと。
2	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ	戦前から戦後(経験主義～系統主義：高度経済成長期)の教育課程変遷について。	課題：テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
3	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
4	教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。	課題：シラバスに挙げているいずれかのテキストの該当する分を読んでおくこと。
5	教育評価 その1	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。
6	教育評価 その2	教育課程評価について。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
7	『総合的な学習の時間』について	導入の背景とそのねらいについて(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
8	新しい教育課程 その1	「キャリア教育」について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
9	新しい教育課程 その2	「アクティブラーニング」について。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
10	新しい教育課程 その3	「社会に開かれた教育課程」について。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
11	教育課程と教育改革 その1	特色のある学校づくり＝小中高編(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
12	教育課程と教育改革 その2	カリキュラム・マネジメントについて。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
13	教育課程と教育格差 その1	学力格差と学力低下問題について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
14	教育課程と教育格差 その2	教育格差に抗する学校の取り組みについて(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー(OECD)について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。

関連科目	教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新教育課程ライブラリ (Vol.1～Vol.12)	(株)ぎょうせい	(株)ぎょうせい
	2			
	3			

評価方法(基準)	出席(全15回出席が当たり前、少なくとも8割以上出席必須)、学期末試験(単位取得のためには60点以上必要)、中間試験(実施予定)、レポート及び授業態度や授業への貢献度(グループでの発表を含む)など総合的に評価を行う。特に、学期末試験の結果は成績評価に大きく影響することから、日頃からしっかりと予習復習をする。また、遅刻、欠席が多い者については成績評価の対象から外すので注意すること(原則、第一回目から全15回出席すること)。
----------	--

学生へのメッセージ	以下の項目、必ず守ってください。 1. 第一回目の授業は必ず出席すること。 2. 欠席・遅刻はしない。 3. 授業中、むやみやたらに出入りしたり、私語、飲食はしない。 4. グループワークでは何事にも積極的に取り組む(グループ内の他のメンバーに迷惑をかけない)。
-----------	---

	<p>5. 毎回授業内容の復習をする。</p> <p>6. テキスト、資料等については配布するので準備の必要はありません。参考書にあげているテキストは 12 セット販売で高額なテキストですので担当者のほうで印刷し配布します。</p> <p>7. 授業内容で分からない点については遠慮せずに担当者に空いている時間を見つけて質問に行くこと。</p>
担当者の研究室等	7号館3階(大野順子研究室)
備考	<p>2009 年度以前入学生は、(高校) 教免取得上選択 授業計画、及び内容は授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 テキストに代わる配布資料 (『新教育課程ライブラリ』、発行：ぎょうせい) を使用予定) については事前に該当箇所を配布します。</p>

科目名	教育経営論	科目名(英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本科目では、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。これを通して、私たちにとってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について考え、理解を深めます。
到達目標	例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がりが見えてくるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としてのLTDについて説明 公教育の成立前史 教育における「公」と「私」	シラバス、テキスト第1部を読んでくる。
	2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」「学習する権利」	テキスト第2部を読んでくる。
	3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 教育の制度原理	教育権論争についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第1部を読んでくる。
	4	学校体系のしくみ	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	教育の制度原理についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第1部を読んでくる。
	5	学校体系の現代的課題	選別・分離と接続・統合	テキスト第1部を読んでくる。
	6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第3部を読んでくる。
	7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第3部を読んでくる。
	8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき	テキスト第3部を読んでくる。
	9	中央・地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 教育行政の原則、監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第3部を読んでくる。
	10	教育費と教育財政	教育財政の考え方 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務	テキスト第3部を読んでくる。
	11	指導行政と教育課程管理	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政 学力論争と教育評価論	テキスト第4部を読んでくる。
	12	人事行政と教職員管理	学力低下論争をめぐって簡単なグループワーク 教職員の資格・身分・労務管理、教育労働管理	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第4部を読んでくる。
	13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第4部を読んでくる。
	14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第4部を読んでくる。
	15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第4部を読んでくる。

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公教育経営概説 (改訂版)	堀内 孜	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 60%、レポート内容 30%、グループワーク・ピア評価 10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。

科目名	教育原理	科目名(英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山 裕樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	あなたは、「そもそも「教育」とはいったい何なのだろう」と疑問に思ったことはありませんか。あるいは、この疑問と関連して、次のように問うてみたことはありませんか。すなわち、「教育を受けることで、自分は本当に「善く」なったのだろうか。」「いやむしろ、教育を受けることで、何らかの「型」にはめられてしまったのではないか。」「教育には、今あるいわゆる「学校教育」のようなあり方しか存在しないのだろうか」……などなど。この授業では、以上のような素朴な、とはいえ重要な問いを大切にしながら、「教育」という営みについてもう一度丁寧に考え直してみることが目的とします。なお、その際に参考にするのは、「教育」に対して真摯に向き合った思想家たちの思索や、「教育」の歴史です。これらの思索や歴史を踏まえることで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができるようになります。
到達目標	「教育」をめぐる思想や歴史に関する基礎的な知識や考え方を身に付けたうえで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行います。とはいえ、毎回授業の最後に受講者にコメントペーパーを書いてもらって次の授業中にその内容のいくつかを紹介することで、受講者が相互に関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して主体的かつ多角的に考えを深められるよう配慮します。
科目学習の効果(資格)	(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得 (3) 学芸員資格の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:教育を原理的に考察すること	教育を原理的に考察することの意味を考える。	「自分にとって教育とは何か」を考えておく。
2	動物と人間の違い①	「野生児」の例から教育について考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」は教育されるべきであったかについても一度考える。
3	動物と人間の違い②	「野生児」の例から教育について引き続き考察を深める。	二回分の授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」の教育についてより広い観点から考察を深める。
4	教育をめぐる諸論①:「教える」と「学ぶ」	①教育という営みを構成している二大要素である「教える」と「学ぶ」の関係について考える。 ②ヘレン・ケラーの「学び」を事例として、「学び」を形成している諸側面について検討する。	「教える」と「学ぶ」の違いや関係について、授業後にもう一度整理しておく。
5	教育をめぐる諸論②:「発達」と「生成」	いわゆる「発達」論と「生成」論に含まれている「教育」観(あるいは「人間形成」観)の質的な違いについて考える。	「発達」と「生成」の違いについて、授業後にもう一度整理しておく。
6	教育をめぐる諸論③:「子ども」観の歴史的变化と「子どもの権利」	①「子ども」観や親子関係に対する見方が、古代から現代まで歴史的にどのように変化してきたのかを概観する。 ②「子ども」観の歴史的变化を踏まえたうえで、「子どもの権利条約」が制定されるまでの経緯を確認する。	「子ども」一般に対して自分が抱いているイメージを思い起こしておく。さらに、授業の内容を踏まえたうえで、授業後にもう一度自分の「子ども」観について考えてみる。
7	教育の思想の歴史①	ロック、ルソーらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
8	教育の思想の歴史②	ペスタロッチ、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
9	教育の思想の歴史③	ヘルバルト、デューイらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
10	日本の教育の歴史①	明治期の日本における近代学校制度の成立と展開の過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
11	日本の教育の歴史②	大正自由主義教育運動から、大戦中の教育、そして戦後教育改革へとという歴史の展開過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
12	教育と権力①	ミシェル・フーコーの規律訓練論について概観し、教育を権力論との関わりから捉え直す。	教育と権力との関わりについて、授業後にもう一度考えてみる。
13	教育と権力②	①権力論の新たな展開の例として「環境管理型権力」の問題について扱う。 ②いわゆる「教育空間論」について考えを深める。	「教育空間論」の可能性について、授業後にもう一度考えてみる。
14	媒介者としての教師	様々な困難のなかに立たされつつも、極めて重要な役割を与えられる教師のあり方を、「媒介者」という観点から考える。	「自分が将来どのような教師になりたいか」を考えておく。
15	まとめと補足	授業に関してまとめの考察を行う。	授業時に指示する。

関連科目 教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西洋教育思想史	眞壁宏幹	慶應義塾大学出版会
	2			
	3			

評価方法 (基準)	毎回の授業中に書いてもらうコメントペーパーの内容(30%)や、学期末試験の結果(70%)をもとに、総合的に評価します。なお、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る者に対しては厳正に対処をします(マイナス点やペナルティも課されます)ので、学生としての自覚と覚悟をもって授業に参加すること。
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の 研究室等	7号館4階(小山研究室)
備考	

科目名	教育実習 I	科目名 (英文)	Teaching Practice I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明・大野 順子・小山 裕樹・林 茂樹・吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	(1) 教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。(2) 教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。(3) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。
到達目標	教育実習の目的や意義、内容等を理解し、教育実習へ向けての十分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。
授業方法と留意点	講義(体験報告を含む)、演習(文献購読、発表、討議を含む)、実習(指導案作成、模擬授業を含む)を行う。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育実習」5単位あるいは3単位のうち1単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	教育実習への準備と心がまえ等	事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について	授業時に指示する
3	実習中の勤務の要領	学校の日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する
4	授業の方法と技術	授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について	授業時に指示する
5	授業の記録と評価	授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について	授業時に指示する
6	生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営	生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について	授業時に指示する
7	指導案の作成(1)	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成	授業時に指示する
8	指導案の作成(2)	学級(ホームルーム)活動等の指導案について	授業時に指示する
9	模擬授業(1)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
10	模擬授業(2)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
11	模擬授業(3)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
12	模擬授業(4)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
13	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する
14	特別支援教育の現状と課題	障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について	授業時に指示する
15	まとめ		

関連科目	教職課程で学んだ全科目
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『新編 教育実習の常識』	教育実習を考える会	蒼丘書林
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題の提出状況とその内容、指導案と模擬授業、授業における積極性・貢献度、期末レポート等によって総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、十分に準備してください。
-----------	---

担当者の研究室等	吉田研究室・林研究室・大野研究室・朝日研究室(7号館3階) 小山研究室(7号館4階)
----------	---

備考	教育実習体験発表会(10月末土曜日)、教育実習総括講義(11月末土曜日)には原則として必ず出席すること。 ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を必ずすること。 担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。
----	---

科目名	教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 小山 裕樹, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じる。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月～5月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～5月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～6月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(9月～10月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(11月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。</p>																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び課題提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(小山研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。																		

科目名	教育実習Ⅲ	科目名(英文)	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 小山 裕樹, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じる。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月～5月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～5月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～6月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(9月～10月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(10月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。</p>																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(小山研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。																		

科目名	教育社会学	科目名(英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。特に、最近社会問題化している子どもの貧困や教育格差・学力格差問題等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性について学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。																																																																		
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。 2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。 3. 教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。 4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。																																																																		
授業方法と留意点	講義形式を中心としますが、ワークショップや体験活動・課外活動、問題理解・解決に向け議論する手法を取り入れるなど、受講生の皆さんの主体的な参加の機会を多く提供します。例えば、実際に学校教育現場へ向かい、リアルな学校教育現場の様子を体験し、学ぶ機会ももつきます(授業時間外に実施する場合もある)。よって、基本的に受講生の皆さんは本講義が提供する全プログラム(週末などに実施される課外活動含む)に出席する義務があります。また、毎回、講義開始の5分間、教育社会学必須単語の小テストを行います。遅刻や欠席が多い場合小テストが0点となりますので気を付けてください。 ○準備学習の具体的な方法 指定しているテキストを購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分を要約しておく。そして日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておく。また、毎時間の小テスト対策として必須単語帳に記載されている教育社会学必須単語をすべて覚える。																																																																		
科目学習の効果(資格)	(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目: 教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項: 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション 教育社会学とは</td> <td>教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。</td> <td>事前課題: 教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新自由主義と学校教育</td> <td>近年の学校教育(制度)の質的転換について事前資料を基にグループで意見交換し、発表する(学校教育を社会学観点から考察します)。</td> <td>事前課題: 小テスト対策、事前配布資料を読み、その内容についてまとめてくる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>マイノリティと教育I</td> <td>マイノリティ体験ワークショップの実施。</td> <td>事前課題: 小テスト対策</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>マイノリティと教育II</td> <td>前時を踏まえ、学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の実態、現状について考える。</td> <td>事前課題: 小テスト対策、前時のワークショップの感想をまとめてくる。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>マイノリティと教育III</td> <td>予定: 当事者(外国にルーツのある子ども)による学校での経験についてのお話を聞く。その後、質疑応答、ふりかえりの実施。</td> <td>事前課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>教育格差・学力格差問題I</td> <td>教育格差・学力格差に関する近年の研究動向を紹介し、その基礎的理解を深める。</td> <td>事前課題: 小テスト対策、教科書の第7章の要約。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>教育格差・学力格差問題II</td> <td>貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。子どもの貧困・格差に関する映画、あるいはビデオの鑑賞(予定)</td> <td>事前課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>教育格差・学力格差問題III</td> <td>格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて、グループで話し合い、発表する。</td> <td>事前課題: 小テスト対策、事前に配布する資料を読み、要約する。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>学校教育の現場を知るI</td> <td>予定: 学校関係者等、話題提供者による学校教育が抱える問題についての講義。</td> <td>事前課題: 小テスト対策、前時の復習、及び話題提供者からの課題等があれば予習をしてくる。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学校教育の現場を知るII</td> <td>予定: 学校関係者等、話題提供者による学校教育が抱える問題についての講義。</td> <td>事前課題: 小テスト対策、前時の復習、及び話題提供者からの課題等があれば予習をしてくる。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学校教育の現場を知るIII</td> <td>前々回～前回の授業を踏まえ、学校教育が抱える諸問題について、小グループに分かれ発表する。</td> <td>事前課題: 小テスト対策、発表資料の準備をしてくる。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ジェンダーと教育I</td> <td>学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考えるワークの実施。</td> <td>事後課題: 小テスト対策、事前に配布する資料を読み、要約する。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ジェンダーと教育II</td> <td>ジェンダー問題を扱った映画鑑賞(予定)。</td> <td>事後課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ジェンダーと教育III</td> <td>ジェンダーにとらわれない教育、社会の創造について意見交換しながら考える。</td> <td>事後課題: 小テスト対策、映画の感想をまとめてくる。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総括</td> <td>まとめの確認テストと「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える。</td> <td>事後課題: 小テスト対策、教科書の第10章の要約。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション 教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題: 教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。	2	新自由主義と学校教育	近年の学校教育(制度)の質的転換について事前資料を基にグループで意見交換し、発表する(学校教育を社会学観点から考察します)。	事前課題: 小テスト対策、事前配布資料を読み、その内容についてまとめてくる。	3	マイノリティと教育I	マイノリティ体験ワークショップの実施。	事前課題: 小テスト対策	4	マイノリティと教育II	前時を踏まえ、学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の実態、現状について考える。	事前課題: 小テスト対策、前時のワークショップの感想をまとめてくる。	5	マイノリティと教育III	予定: 当事者(外国にルーツのある子ども)による学校での経験についてのお話を聞く。その後、質疑応答、ふりかえりの実施。	事前課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。	6	教育格差・学力格差問題I	教育格差・学力格差に関する近年の研究動向を紹介し、その基礎的理解を深める。	事前課題: 小テスト対策、教科書の第7章の要約。	7	教育格差・学力格差問題II	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。子どもの貧困・格差に関する映画、あるいはビデオの鑑賞(予定)	事前課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。	8	教育格差・学力格差問題III	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて、グループで話し合い、発表する。	事前課題: 小テスト対策、事前に配布する資料を読み、要約する。	9	学校教育の現場を知るI	予定: 学校関係者等、話題提供者による学校教育が抱える問題についての講義。	事前課題: 小テスト対策、前時の復習、及び話題提供者からの課題等があれば予習をしてくる。	10	学校教育の現場を知るII	予定: 学校関係者等、話題提供者による学校教育が抱える問題についての講義。	事前課題: 小テスト対策、前時の復習、及び話題提供者からの課題等があれば予習をしてくる。	11	学校教育の現場を知るIII	前々回～前回の授業を踏まえ、学校教育が抱える諸問題について、小グループに分かれ発表する。	事前課題: 小テスト対策、発表資料の準備をしてくる。	12	ジェンダーと教育I	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考えるワークの実施。	事後課題: 小テスト対策、事前に配布する資料を読み、要約する。	13	ジェンダーと教育II	ジェンダー問題を扱った映画鑑賞(予定)。	事後課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。	14	ジェンダーと教育III	ジェンダーにとらわれない教育、社会の創造について意見交換しながら考える。	事後課題: 小テスト対策、映画の感想をまとめてくる。	15	総括	まとめの確認テストと「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える。	事後課題: 小テスト対策、教科書の第10章の要約。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション 教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題: 教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。																																																																
2	新自由主義と学校教育	近年の学校教育(制度)の質的転換について事前資料を基にグループで意見交換し、発表する(学校教育を社会学観点から考察します)。	事前課題: 小テスト対策、事前配布資料を読み、その内容についてまとめてくる。																																																																
3	マイノリティと教育I	マイノリティ体験ワークショップの実施。	事前課題: 小テスト対策																																																																
4	マイノリティと教育II	前時を踏まえ、学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の実態、現状について考える。	事前課題: 小テスト対策、前時のワークショップの感想をまとめてくる。																																																																
5	マイノリティと教育III	予定: 当事者(外国にルーツのある子ども)による学校での経験についてのお話を聞く。その後、質疑応答、ふりかえりの実施。	事前課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。																																																																
6	教育格差・学力格差問題I	教育格差・学力格差に関する近年の研究動向を紹介し、その基礎的理解を深める。	事前課題: 小テスト対策、教科書の第7章の要約。																																																																
7	教育格差・学力格差問題II	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。子どもの貧困・格差に関する映画、あるいはビデオの鑑賞(予定)	事前課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。																																																																
8	教育格差・学力格差問題III	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて、グループで話し合い、発表する。	事前課題: 小テスト対策、事前に配布する資料を読み、要約する。																																																																
9	学校教育の現場を知るI	予定: 学校関係者等、話題提供者による学校教育が抱える問題についての講義。	事前課題: 小テスト対策、前時の復習、及び話題提供者からの課題等があれば予習をしてくる。																																																																
10	学校教育の現場を知るII	予定: 学校関係者等、話題提供者による学校教育が抱える問題についての講義。	事前課題: 小テスト対策、前時の復習、及び話題提供者からの課題等があれば予習をしてくる。																																																																
11	学校教育の現場を知るIII	前々回～前回の授業を踏まえ、学校教育が抱える諸問題について、小グループに分かれ発表する。	事前課題: 小テスト対策、発表資料の準備をしてくる。																																																																
12	ジェンダーと教育I	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考えるワークの実施。	事後課題: 小テスト対策、事前に配布する資料を読み、要約する。																																																																
13	ジェンダーと教育II	ジェンダー問題を扱った映画鑑賞(予定)。	事後課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。																																																																
14	ジェンダーと教育III	ジェンダーにとらわれない教育、社会の創造について意見交換しながら考える。	事後課題: 小テスト対策、映画の感想をまとめてくる。																																																																
15	総括	まとめの確認テストと「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える。	事後課題: 小テスト対策、教科書の第10章の要約。																																																																
関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習I」「教職実践演習」「各教科教育法」																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教師教育テキストシリーズ『教育社会学』</td> <td>久富善之、長谷川裕</td> <td>学文社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕	学文社	2																																																							
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕	学文社																																																																
2																																																																			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代教育社会学	岩井八郎、近藤博之	有斐閣ブックス
	2	新版『教育社会学を学ぶ人のために』	石戸教嗣	世界思想社
	3			
評価方法 (基準)	出席・授業への貢献度、試験（毎時間行う小テストとまとめの確認テスト）、学校でのボランティア活動体験報告書（必須）、課題・レポート等をすべてこなした上で総合的に評価するが、まとめの確認テストで6割以上取れない場合、さらに、出席が80%に満たない者、課題（要約）の提出が十分でない者は成績評価の対象外とする。また、遅刻は欠席とするので注意すること。			
学生への メッセージ	本講義を履修する者は、原則、学校現場での活動経験（学習支援、授業補助、部活指導等内容は問わない長期、短期の無償・有償ボランティア活動）をしている（あるいは今後する予定、過去に経験したことがある）ことが必須条件とします。学校でのボランティア等活動経験のない者については本講義を履修期間中、学校でボランティア活動することを義務づけます。よって、学校でのボランティア活動をやっていない者、やりたくない者、やる予定がない者は履修しても単位認定しません。また、提出物に関しては締め切りを厳守すること。締め切り以降の提出に関しては受け取りませんが「未提出」扱いとします。			
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室)			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。また、いくつかの課外活動を通常の時間割外に行う予定です。課外活動に参加できない人は本科目の単位を取得することは困難な場合もあります。また、学校でのボランティア活動への参加も必須です。こちらへの参加ができない人も本科目の単位取得が困難となりますので、履修を決める前にしっかりと考えてから履修登録してください。履修登録をした時点で、あなた自身が本講義のシラバス内容をすべて了解した上で登録したことになりますので、履修登録以降のシラバスに関するご意見については一切受け付けませんのでご了承ください。			

科目名	教育心理学	科目名(英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	学校での教育活動において、教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、様々な形で援助していくためにはどうすればよいのか、それを考えていくにあたって必要な、基礎的な知識を身につけることを目標とし、特に、認知的な側面に焦点を当てて議論していく。具体的には、教育について考える際に、ある意味基本となる「発達と学習」、学習者が主体的に学ぶための「学習意欲」、個人差の理解、障害の理解と特別支援教育について考える「個に応じた教育」を中心とする。また、学校を学習の場としてとらえたときの「人間関係」についてもふれることとする。
到達目標	教育心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。そのことにより、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」6単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と	教育に対して心理学ができること、発達と教育	—————
2	教育を支える認知機能1	思考(1)……人間の思考の特徴	テキスト第8章、第9章を読む
3	教育を支える認知機能2	思考(2)……思考の発達、メタ認知	テキスト第7章の1、第8章、第9章を読む
4	教育を支える認知機能3	言語(1)……言語の機能、言語の発達	テキスト第9章の2、第11章を読む
5	教育を支える認知機能4	言語(2)……文章理解	テキスト第11章を読む
6	教育を支える認知機能5	記憶(1)……記憶のメカニズム	テキスト第4章、第5章を読む
7	教育を支える認知機能6	記憶(2)……記憶の発達	テキスト第4章、第5章を読む
8	こどもの学び1	様々な学習(1)……学習とは何か、古典的条件づけ	テキスト第1章を読む
9	こどもの学び2	様々な学習(2)………道具的条件づけ、観察学習	テキスト第1章を読む
10	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か……動機づけ過程、期待×価値理論、学習性無力感	テキスト第2章、第3章を読む
11	学習を支える動機づけ2	さまざまな学習意欲(1)……外発的動機づけ	テキスト第2章、第3章を読む
12	学習を支える動機づけ3	さまざまな学習意欲(2)……内発的動機づけ	テキスト第2章、第3章を読む
13	学習を支える動機づけ4	学習意欲を育むために……報酬と罰、評価、目標、教師の対応	テキスト第0章の2、第2章、第3章を読む
14	個に応じた教育1	個人差の理解と教育……ATI、学習方略	テキスト第0章の3、第6章を読む
15	個に応じた教育2	「障害」の理解と特別支援教育	テキスト第13章を読む

関連科目 教育原理、教育相談

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論、理論を实践—	藤田哲也(編著)	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	小テスト30% 期末試験70%
学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
担当者の研究室等	7号館3階(吉田研究室)
備考	・授業内で、moodleを使用することがあります。利用できるようにしておいてください。 ・定期テストは希望者に返却します。

教職科目

科目名	教育相談	科目名(英文)	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	教育相談の考え方や進め方についての理解を深め、生徒が成長する過程に生じるさまざまな課題や問題に対処するための援助の考え方や実際、カウンセリングの基礎知識と教育相談の技法を身につけることを目標とする。学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識およびその実践的な手法を紹介する。併せて、「問題」に悩む児童・生徒への実践的な取り組み方を考える。
到達目標	教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせで行う。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について	—————
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方や、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第1章、第2章を読む
3	グループ発表の準備	グループワーク	—————
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第12章、第13章を読む
5	学校におけるカウンセリング活動1	カウンセリング活動のいろいろ(1)……治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む
6	学校におけるカウンセリング活動2	カウンセリング活動のいろいろ(2)……開発的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	—————
8	問題の理解と対応1	問題とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第3章を読む
9	問題の理解と対応2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第3章、第4章を読む
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達	教育心理学の復習
11	相談援助活動の実際1	不登校……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第5章を読む
12	相談援助活動の実際2	いじめ……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第6章を読む
13	相談援助活動の実際3	学級崩壊・授業崩壊……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第7章を読む
14	相談援助活動の実際4	反社会的行動……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第8章を読む
15	教員のメンタル・ヘルス	教員自身が健康であるために、教員への対応	テキスト第14章を読む

関連科目 教育方法論、生徒指導論、教育心理学、教育社会学など。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教育相談	森田健宏・吉田佐治子(編著)	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	グループ発表 50% 期末試験 50%
学生へのメッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。
担当者の研究室等	7号館3階(吉田研究室)
備考	グループ発表について、他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。また、全発表中最も評価が高かったグループも、最後にお知らせします。 グループ内ではピア評価を行います。

科目名	教育方法論	科目名(英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			

教職科目

授業概要・目的	<p>教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。授業は、教育方法の歴史と理論の概観、授業の設計から評価に至る授業構成の理解、学習指導を組織化するための基礎的な授業技術と方略の習得、および、グループに分かれて、共同作業による教材開発とマイクロ・ティーチングの体験により構成する。授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを経験する。</p> <p>それらのことを通じて、つぎのことをめざす。</p> <p>(1) 自己の被教育体験を出発点に、学ぶこと・教えることの意味について考え、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を通して、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。</p> <p>(2) 「教え込む技術」の習得ではなく、生徒の生活背景や教室の人間関係を把握し、生徒の声を聴き取り、生徒どうしをつなぎ、教材の文脈にもどし、日々の教室での出来事に柔軟かつ的確に対処しながら、教室を豊かな学びの場とする授業づくりをめざす。</p> <p>(3) 教育実践の質を向上させるためには、個々の教師が、上記(2)に関する専門性を向上させるだけでなく、職場で相互に学び合える同僚性を構築すること、また、教育諸科学の最新の研究から新しい知見を積極的に摂取することの重要性を理解する。</p>
到達目標	<p>教師と生徒が意思疎通を図りつつ、相互に作用しながら、主体的に問題を発見し、協力協同しながら解に接近する時空間としての授業を構想することをめざして、</p> <p>(1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、同僚との協議を踏まえて指導案を改善することができる。</p> <p>(2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる。</p>
授業方法と留意点	<p>(1) 講義・ワークを中心に授業を進める。インタラクティブ(双方向的)な授業構成となるよう積極的な参加を求める。私語は厳禁だが、質問や意見提起は歓迎する。</p> <p>(2) 毎回、講義資料とコメントペーパーを配付する。講義資料は各自ファイリングし、「コメントペーパー」は記入・提出すること(編集して、次回に配布し、共有すべき点についてコメントを行う。なお、「コメントペーパー」の返却はできないので、必要場合はメモを残しておくこと)。</p> <p>(3) 第9～12回でチームによるマイクロティーチングを実施する。また、チーム授業に関するレポートの提出をもとめる(中間レポートとして)。</p> <p>(4) 定期試験を受験すること。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育課程及び指導法に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項：教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、教育方法論の論点と課題 授業技術ミニ講座①授業びらき・授業じまい	「学力」の登場と学力論争、「問題解決学習」論争、「たのしい授業」論争、「教育技術」をめぐる論争	教科書第3章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
2	子どもは何を学ぶのか(教育目標・内容論) 授業技術ミニ講座②授業のルールづくり	教育目標に関する基本的な考え方、教育目標・内容の諸相、育成すべき資質と能力、学校教育目標	教科書第4章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
3	学習とは何か(学習論) 授業技術ミニ講座③私語の傾向と対策	学習をめぐる3つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割、学習指導の形態	教科書第5章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
4	欧米における授業の歴史(教授論の歴史①) 授業技術ミニ講座④板書の技術	近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開、科学技術の進歩と教育改革	教科書第1章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
5	日本における授業の歴史(教授論の歴史②) 授業技術ミニ講座⑤発問の工夫と仕方	近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、新教育の受容と戦後改革、新自由主義的教育改革	教科書第2章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
6	学力をどう高めるか(学力論) 授業技術ミニ講座⑥指名、指示の仕方、発言のさせ方 チーム顔合わせ・自己紹介	学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高める、学力調査をめぐって	教科書第6章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
7	授業をどうデザインするか(計画論) チームで教材開発・模擬授業の打ち合わせ①	授業のデザインとは、教育内容と子どもの学び、対話的・協働的な学び合い、授業づくりの課程と構造、学びのための指導・支援	教科書第7章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
8	教育の道具・素材・環境(教材論) チームで教材開発・模擬授業の打ち合わせ②	教材づくり、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間	教科書第8章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
9	何をどう評価するか(評価論) 第1・2グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	目標に準拠した評価と相対評価、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、指導と評価の一体化	教科書第9章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
10	誰がカリキュラムを編成するのか(カリキュラム論) 第3・4グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	カリキュラム・イメージの払拭、カリキュラムの編成原理、学習指導要領、カリキュラム開発、隠れたカリキュラム	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。
11	ICTを活用した授業をつくる① 第5・6グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	各種メディアの授業への活用、学習用デジタル・コンテンツの利用	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。

	12	ICTを活用した授業をつくる② 第7・8グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	情報教育、メディア・リテラシー、eラーニング、学校運営・教務事務のICT化	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。																
	13	インクルーシブな授業をつくる チームによるマイクロ・ティーチングの振り返り① 授業技術ミニ講座⑦個別指導と一斉指導	通常学級における特別支援教育、個に応じた指導とは、学級集団づくりと授業づくり、授業の「わかりやすさ」と多様な参加	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。																
	14	ユニバーサルデザイン化した授業をつくる チームによるマイクロ・ティーチングの振り返り② 授業技術ミニ講座⑥ほめ方・叱り方	バリアフリーとユニバーサルデザイン、学習環境のユニバーサルデザイン化、指導方法のユニバーサルデザイン化、学習のユニバーサルデザインと合理的配慮	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。																
	15	まとめ〜学び続ける教員像をめぐって 授業技術ミニ講座⑨グループ学習の方法	2つの教師モデル、専門家としての教師、教師としての成長に向けて	教科書第11章をよく読んでおく。学習内容を整理する。																
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新しい時代の教育方法</td> <td>田中耕治他</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新しい時代の教育方法	田中耕治他	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新しい時代の教育方法	田中耕治他	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教育の方法</td> <td>佐藤学</td> <td>左右社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教育の方法	佐藤学	左右社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	教育の方法	佐藤学	左右社																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、レポート (30%)、コメントペーパー (20%) により総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	「授業に出席するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、日々、メディアで取り上げられる教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。																			
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)																			
備考																				

科目名	教職実践演習 (中・高)	科目名 (英文)	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明・大野 順子・小山 裕樹・林 茂樹・吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。</p> <p>○中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。</p> <p>○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。</p> <p>○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。</p>
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	<p>○教職課程の専任教員5名による全体指導と、各専任教員ごとのグループ学習を中心に進める。1グループは10名程度。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。</p> <p>○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目(教職実践演習を除く)の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するもの。</p> <p>○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	「教職実践演習」の全体ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義の目的、内容方法についての確認。 ・受講者各自の教育実習後の課題についての確認。 ・3回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。 	教育実習ノートの点検と再確認
	2	専攻科目における実践上の課題①	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する受講者各自の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理
	3	専攻科目における実践上の課題②	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野における実践上の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理
	4	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)①	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる
	5	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)②	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、教科指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導(教科指導のあり方)についてレポートにまとめる
	6	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
	7	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
	8	ジェンダーと教育	近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方では伝統的な価値観を強制している部分があるのではないかと。そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点をを用い、学校教育を改めて考えてみたい。特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。	(事前)第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1~2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
	9	学校の中のマイノリティ:外国にルーツをもつ子どもたち	1990年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。ここでは外国にルーツをもつ子どもたちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。	(事前)第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1~2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。

	10	「甘え」と「自律」の教育学入門①	従来の常識的な見方では、「甘え」を脱して「自律」に至ることが「教育」の理想とされてきた。本講義では、この常識的な見方に対して、様々な角度から再検討を加えていく。第一回目は、特に子どもの「甘え」について教育学的に考える。	(事前) 子ども「甘え」や自分自身の「甘え」について改めて考え直しておく。 (事後) 講義内容を踏まえたうえでの小レポートを提出する。																
	11	「甘え」と「自律」の教育学入門②	第一回目の講義内容を踏まえつつ、第二回目は、特に子どもの「自律」について教育学的に考える。まさに大人へと「自律」しようとしている大学生諸氏とともに探究してみたい。	(事前) 子どもの「自律」や自分自身の「自律」について改めて考え直しておく。 (事後) 二回分の講義内容を踏まえたうえでの論述試験を課す。																
	12	教員の体罰はなぜなくなるのか?	教員の体罰の実態や体罰防止の現状等について学ぶとともに、体罰の背景にある指導観、子ども観について考える。	(事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。																
	13	教員の勤務時間はなぜ長くなるのか?	労働時間法制や教員の勤務時間の実態について学ぶとともに、長時間勤務の背景にある問題について考察し、働き方改革の方途を考える。	(事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。																
	14	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	(事前) カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。 (事後) 小レポート																
	15	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための1方法としてのエゴグラム作成を行う。	(事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート																
関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科ごとの必修科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。																			
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。そのなかで、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力を身に付けること。																			
担当者の 研究室等	7号館3階(朝日、大野、林、吉田) 7号館4階(小山)																			
備考																				

科目名	教師論	科目名(英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や責任は何か」「教師の職務とはどのようなものか」「教師として生きるとはどのようなことか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づいてグループワークを行います。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教職の意義等に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む)・進路選択に資する各種の機会の提供等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	さまざまな教師像(1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	さまざまな教師像(2)	「不良教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	さまざまな教師像(3)	「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	さまざまな教師像(4)	「人間教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」に関する配布資料を読みレポート提出
11	さまざまな教師像(5)	「プロ教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
12	教員の役割・職務(1)	教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
13	教員の役割・職務(2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
14	教員の役割・職務(3)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障 教員の勤務条件	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務(4)	教員のメンタルヘルス、バーンアウト 教育改革と教員	メンタルヘルスに関する配布資料

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験70%、レポート20%、グループワーク・ピア評価10%

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養とともに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。

教職科目

	遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。

科目名	工業科教育法 I	科目名 (英文)	Engineering Education I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	福岡 優
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	工業科教育法 I では、工業教育の意義・役割・目標や教育関連法規、歴史と現状などについて学び、工業高等学校教員として必要な基礎的知識の修得を図る。
到達目標	工業高等学校における技術教育を行うために必要な基礎的知識を修得できる。
授業方法と留意点	教科書と配付プリントによる講義を中心に、時間内にレポートの質疑応答の時間を設けるなど実践的な基礎的知識の修得を図る。
科目学習の効果 (資格)	工業高等学校の教員 1 種免許を得るために必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

教職科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業教育の意義・役割・目標・内容>	工業教育の役割について、適正年齢などに基づき説明する。 レポート 1	教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間)
2	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業教育の意義・役割・目標・内容>	工業教育の目標やその内容を取り扱う。 レポート 1 に対する質疑応答	教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間)	
3	工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分を取り扱う (日本国憲法、教育基本法等)。 レポート 2	教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間)	
4	工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分を取り扱う (学校教育法等)。 レポート 2 に対する質疑応答	教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間)	
5	工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分を取り扱う (学習指導要領等)。	教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間)	
6	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業高校発展の歴史と現状>	日本の工業高校発展の明治以来の歴史と現在の状況について取り扱う (I)。 レポート 3	教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間)	
7	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業高校発展の歴史と現状>	日本の工業高校発展の明治以来の歴史と現在の状況について取り扱う (II)。 レポート 3 に対する質疑応答	教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間)	
8	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業高校発展の歴史と現状>	数種類の工業高校発展の具体例を挙げて歴史について考える。 小テスト 1	教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間)	
9	教科・工業の内容関係<教科・工業の共通科目>	教科・工業の原則履修科目 (情報技術基礎、課題研究) の考え方とねらいについて説明する。	教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間)	
10	教科・工業の内容関係<教科・工業の共通科目>	教科・工業の各分野における基礎科目 (工業英語等) について説明する。	教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間)	
11	外国の技術・工業教育の紹介	外国の技術・工業教育の具体例を紹介する (アメリカ)。	教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間)	
12	外国の技術・工業教育の紹介	外国の技術・工業教育の具体例を紹介する (韓国、ドイツ)。 小テスト 2	教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間)	
13	教科・工業の内容関係<専門学校などの工業教育について>	専門学校などの工業教育の内容について説明する。	教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間)	
14	教科・工業の内容関係<工業科の主な学科の実験・実習の内容紹介>	工業科の主な学科の実験・実習について説明する。	教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間)	
15	教科・工業の内容関係<実践的工業教育>	就業体験学習の指導計画、就業資格等について説明する。 小テスト 3	教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間)	

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい視点と実践に基づく工業科教育法の研究	池守滋、佐藤弘幸、中村豊久	実教出版株式会社

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領	文部科学省	
	2	高等学校学習指導要領解説工業編	文部科学省	
	3			

評価方法 (基準)	レポート (50%)、小テスト (50%) により評価する。
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	工業科教育関係に必要な科目です。
-----------	------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室、図書館
----------	------------

備考	連絡は 1 1 号館 1F 教務課へ
----	--------------------

科目名	工業科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Engineering Education II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	福岡 優
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	工業科教育法Ⅱでは、工業教育における学習指導、学習指導計画の作成から授業の進め方と成績評価、授業改善、さらに進路指導や学校運営について学び、工業高等学校教員として必要な基礎的知識の修得を図る。
到達目標	工業高等学校における技術教育を行うために必要な基礎的知識が修得できる。
授業方法と留意点	教科書と配付プリントによる講義、模擬授業を中心におこない、時間内にレポートの質疑応答の時間を設けるなど実践的な基礎的知識の修得を図る。
科目学習の効果(資格)	工業高等学校の教員1種免許を得るために必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	教育課程・授業設計・教育評価・教育実習関係<教育課程の編成から単元の計画まで>	教育課程の意義・目標・役割などについて説明する。	教科書による予習(1時間) 配付プリントによる復習(1時間)
2	教育課程・授業設計・教育評価・教育実習関係<教育課程の編成から単元の計画まで>	教育課程の編成から単元の計画までの手順や配慮事項について説明する。	教科書による予習(1時間) 配付プリントによる復習(1時間)
3	教育課程・授業設計・教育評価・教育実習関係<授業設計、学習指導案、授業改善および教育実習>	授業構造や学習指導案について説明する。	教科書による予習(1時間) 配付プリントによる復習(1時間)
4	教育課程・授業設計・教育評価・教育実習関係<授業設計、学習指導案、授業改善および教育実習>	授業改善および教育実習について説明する。	教科書による予習(1時間) 配付プリントによる復習(1時間)
5	教育課程・授業設計・教育評価・教育実習関係<教育評価>	新しい学力観に基づく教育評価、評価・認定について説明する。 レポート1	教科書による予習(1時間) 配付プリントによる復習(1時間)
6	学習理論関係<学習と授業理論、自作教具の勧め>	学習と授業理論の歴史的展開、授業の方法や形態、教具の種類や具体例について説明する。 レポート1に対する質疑応答	教科書による予習(1時間) 配付プリントによる復習(1時間)
7	模擬授業と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業と評価および意見交換をする。	模擬授業の予習(1時間)・復習(1時間)
8	模擬授業と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業と評価および意見交換をする。	模擬授業の予習(1時間)・復習(1時間)
9	模擬授業と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業と評価および意見交換をする。 小テスト1	模擬授業の予習(1時間)・復習(1時間)
10	模擬授業と評価および意見交換	原則履修科目の模擬授業と評価および意見交換をする。	模擬授業の予習(1時間)・復習(1時間)
11	模擬授業と評価および意見交換	原則履修科目の模擬授業と評価および意見交換をする。	模擬授業の予習(1時間)・復習(1時間)
12	模擬授業と評価および意見交換	原則履修科目の模擬授業と評価および意見交換をする。 小テスト2	模擬授業の予習(1時間)・復習(1時間)
13	進路指導・学校運営・工業高校の展望<工業教育と進路指導>	工業教育と進路指導の説明をする。 レポート2	教科書による予習(1時間) 配付プリントによる復習(1時間)
14	進路指導・学校運営・工業高校の展望<学校運営と教員研修・工業高校の展望>	学校運営と教育力向上への取り組みについて説明する。 レポート2に対する質疑応答	教科書による予習(1時間) 配付プリントによる復習(1時間)
15	進路指導・学校運営・工業高校の展望<工業高校の展望>創造性教育課題研究	工業教育の現状と今後の発展、問題解決学習について説明する。	教科書による予習(1時間) 配付プリントによる復習(1時間)

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「新しい観点と実践に基づく工業科教育法の研究」	池守滋、佐藤弘幸、中村豊久	実教出版株式会社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領	文部科学省	
	2	高等学校学習指導要領解説工業編	文部科学省	
	3			

教職科目

評価方法 (基準)	レポート20%、模擬授業60%、小テスト20%により評価する。
学生への メッセージ	工業科教育関係に必要な科目です。
担当者の 研究室等	非常勤講師室、図書館
備考	連絡は11号館1F教務課へ

科目名	職業指導	科目名(英文)	Vocational Guidance
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	通年	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広げ、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果(資格)	工業科における職業指導に関する基礎知識が身に付く

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	本科目のシラバスを熟読すること。
2	職業指導の基礎理論	・職業指導における基本的な考え方、手法	職業指導に関する資料を熟読すること。
3	職業指導の歴史①	・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	欧米の職業指導に関する資料を熟読すること。
4	日本の産業構造の変化	・日本の産業、雇用事情の変化を知る	日本の産業史に関する資料を熟読すること。
5	職業指導の歴史②	・日本の戦後の教育改革について	日本の戦後の教育改革についての資料を熟読すること。
6	日本型雇用と職業指導	・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	日本型雇用の見直しについて考えること。
7	新規高卒就職システム	・新規高卒労働市場の変容と現状	高卒労働市場に関する資料を熟読すること。
8	高等学校における職業指導	・各種学校における職業指導の在り方について	職業指導の事例を調査すること。
9	「労働すること」を考える	・仕事をするものの意義を考える	授業後は自らの労働観を持つようにすること。
10	職業指導の領域	・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	職業指導領域に関する資料を熟読すること。
11	キャリア教育の基礎理論①	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること。
12	キャリア教育の基礎理論②	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること。
13	授業内容立案	・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	模擬授業の準備をすること。
14	模擬授業①	・講義13で立案した内容で模擬授業を実施	模擬授業の準備をすること。
15	講義の振り返り	・講義の振り返り、前期の中間レポートの提出	前期のレポートを提出できるようにすること。
16	オリエンテーション	・後期授業概要の説明	本科目のシラバスを再度熟読すること。
17	商業教育と職業指導	・商業高校における職業指導について	商業高校の職業指導事例に関する資料を熟読すること。
18	工業教育と職業指導	・工業高校における職業指導について	工業高校の職業指導事例に関する資料を熟読すること。
19	普通科高校と職業指導	・普通科高校における職業指導について	提示する資料を熟読すること。
20	フリーターとニートについて	・グループ(またはペア)でフリーター・ニート対策を考える	フリーター・ニート問題に関する資料を熟読し、ディスカッションできるよう準備すること
21	職業指導・キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	発表の準備をすること。
22	キャリアデザインとは何か	・キャリアデザインとは何かを考える	・自らの節目について考えること
23	高校生の就業力について 職業適性とは何か	・新規高卒者が求められる就業力について ・職業適性、各種アセスメントについて	・就業力育成のための企画を考えること。 ・自らの適性の活かし方を考えること。
24	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	配布資料を精読すること。
25	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来における働き方を考える	配布資料を精読すること。
26	就業力向上企画を立案①	・高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	発表の準備をすること。
27	就業力向上企画を立案②	・26回目まで考えた内容を発表する	発表の準備をすること。
28	キャリアカウンセリング理論①	・自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	配布資料を精読するおと。
29	キャリアカウンセリング理論②	・カウンセリングマインドを知る	配布資料を資料を精読すること。
30	まとめ/講義の振り返り	・提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	自らの労働観について考えること。

関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。</p> <p>また、前期最終時に中間レポートを実施します。</p>			
学生への メッセージ	<p>「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室(水野)			
備考				

科目名	数学科教育法 I	科目名 (英文)	Method of Mathematics Teaching I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 俊公
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	数学科教育法 I では、高等学校数学科教員を目指す学生の意識を高め、実際に教育を担当できるようにするための基礎的な実践能力の育成をめざす。「カリキュラム・教育目標・目的・方法・内容・評価・教授及び学習に関する理論」をとらえ、数学教育における教育の方法や技術の修得に重点を置く。また、問題発見力と解決のための「情報活用法」を体得するべく、グループ学習を重視し、マイクロティーチング・プレゼンテーションを通して「教えるもの」と「学ぶもの」の相互の立場を経験し、自己の教育観・教育力の基礎的基盤の確立を目指す。
到達目標	(1) 現行の学習指導要領を踏まえて、学習目標をたて、指導案を作成し、高等学校数学科の科目内容に関する30分程度のマイクロティーチングを行うことができる。 (2) 相互評価・自己評価を通じて、現在の自分を見つめ直し、教育観・教育力を育むことができる。
授業方法と留意点	グループ学習・活動を実施する。自らが発見した課題に積極的に取り組むことにより学ぶ「メタ学習」を根本におく。レポートの提出を求める。ビデオ、教材提示装置等視聴覚教材を用いて講義を進める。
科目学習の効果 (資格)	「創造型人材育成教育 (数学教育) を実践しうる教育者」となるための基礎・基本の確立ができる。(高等学校一種免許 (数学))

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、 学び方、ガイダンス、 全体の展望、学習の進め方	課題レポート
2	教育と評価(1)	「評価」観の変遷から新しい「学力」観におけるメタ認知・メタ学習における評価について考える。	課題レポート
3	教育と評価(2)	教育における指導と評価を一体化させる方法を考え、「教育改善のための評価法」に統合する。	課題レポート
4	数学教育の目的と目標	教授の概念を学び、教授論の歴史的展開から教授メディアの発展及び学習理論について学ぶ。	課題レポート
5	新しい学力観	数学的な見方・考え方に関わる教授法に関する知識を、学習理論に結びつけ、新しい「学力」観について考える。	課題レポート
6	生きる力(1)	近接校種等の総合的な学習の時間における教育のあり方を学び、先進的な実践校の内容と、その分析をおこなう。	課題レポート
7	生きる力(2)	教授法・学習理論をメタ学習・数学教育の観点から教育の現場で役立つ力とする。	課題レポート
8	学級崩壊・学力崩壊	近接校種の教育の現場の状況を知り、各自の目指す校種に至るまでの現状を知る。特に小学校低学年における学級崩壊の実状を考察して、各自の教育観をたてる。	課題レポート
9	学習指導要領(1)	学習指導要領制定の経緯、変遷の経過に、それぞれの時代の求められた教育観がいかに反映されたかを学ぶ。	課題レポート
10	学習指導要領(2)	高等学校の学習指導要領について学び、その目標や内容について知り、教科書の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学ぶ。	課題レポート
11	数学科教授計画	授業の設計法を体系的に学ぶ。目標の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学び、その知識を援用して学習指導案にまとめる。	課題レポート
12	マイクロティーチングの方法	教育機器と教授メディア、教授メディアの発展と現状、チャート・カード・OHPなどの活用について。	課題レポート
13	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(1)	各自の求める数学教育について、「30分間のマイクロティーチング」にまとめ、実践する。	課題レポート
14	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(2)	グループ員各々のマイクロティーチングを「学ぶもの立場」、「同僚(教えるもの)としての立場」で相互評価し、「教えるもの」としての自己評価を加えて総合的にまとめる。	課題レポート
15	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(3)	マイクロティーチングの相互評価と自己評価の発表と検討により、自己の教育力・評価力育成のための方法を体得する。	課題レポート

関連科目 本科目を学ぶまでに開講されている他の教職関連科目、一般教養科目をあらかじめ履修しておくことが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 数学編 理数編		
2	高等学校学習指導要領解説 総則編			
3	中学校学習指導要領解説 数学編			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	バズセッションを中心に展開(グループ員との連携が必須・特に欠席時)。マイクロティーチング(模擬授業)は必須。レポートの提出を求める。マイクロティーチングと評価のまとめで50%、レポートと日常学習状況(出席状況を含む)の評価を50%とする。			
学生への メッセージ	将来教員をめざす学生の切磋琢磨の場として、プレゼンテーション能力の育成をはかり、グループを中心に、新しい教材開発など積極的な活動を求める。			
担当者の 研究室等	3号館3階 数学研究室			
備考				

科目名	数学科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Method of Mathematics Teaching II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小林 俊公
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	数学科教育法Ⅱでは、高等学校数学科教員を目指す学生が実際に教育を担当できるようにするための基盤となる実践力の育成をめざす。数学科教育法Ⅰでまとめあげた各自の「教える立場に立ったときの心構え・知識」と、体験したマイクロティーチングを礎にして、生きる力を知的な側面から支える「確かな学力」を育成し、生徒の学習意欲を高め、自ら学び自ら考える力などを育成できるプロジェクトをたて、教育コースウェアを研究・開発し、バズ式セッション・グループ活動・他者評価・自己評価、相互評価などで実践的な学びを展開する。
到達目標	高等学校数学科の科目内容に関して、学習目標・内容・評価を含む指導計画をたて、学習指導案(指導細案)を作成し、約50分の模擬授業を行うことができる。
授業方法と留意点	主に講義形式を取りながら、グループ学習・活動を取り入れ、学ぶ意欲を維持し自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決し、プレゼンテーションする資質や能力を涵養する。
科目学習の効果(資格)	「創造型人材育成教育(数学教育)を実践しうる教育者」となるための基盤力が涵養できる。(高等学校一種免許(数学)) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

教職科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、学び方、ガイダンス、全体の展望、学習の進め方。	課題レポート
	2	生きる力と確かな学力、学力観(1)	高等学校教科「数学」や専門教科「理数」において、生徒の学習意欲を高め、生きる力を支える「確かな学力」について考える。	課題レポート
	3	生きる力と確かな学力、学力観(2)	「生徒が数学的な見方・考え方が好きだと思うこと」とは、また「授業以外に学ぶ習慣を体得できる種々の方策」とはについて考える。	課題レポート
	4	生きる力と確かな学力、学力観(3)	「生活の中での数学の有効性を体験し、論理的に考える態度の育成」とは、また「人やものに関わる力を高めるための体験」とはどのようなものであるかを考える。	課題レポート
	5	生きる力と確かな学力、学力観(4)	身近な事象から、どのような数学的知識が引き出されているか具体例を挙げ、数学的思考の構成過程を振り返って、当初の事象にどのように活用されているかを考える。	課題レポート
	6	高等学校の数学教育開発プロジェクト(1)	高等学校普通教科数学「Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、A、B、数学活用」や専門科目「理数」の各々について、その理念と意義及び目標・内容について理解する。	課題レポート
	7	高等学校の数学教育開発プロジェクト(2)	理解の過程で各自が持った問題意識でテーマをたて「自分が求める数学教育」を設定し、各自のたてた学力観から教授モデルや評価のあり方についてさらに考えをすすめる。	課題レポート
	8	高等学校の数学教育開発プロジェクト(3)	自ら学び自ら考える力や表現力を身につけさせることができる「各自の行いたい教育コースウェア」を開発するプロジェクトを考察する。	課題レポート
	9	高等学校の数学教育開発プロジェクト(4)	教育目標・目的、内容・方法、評価について考え、教育課程、年間指導計画、単元計画、本時の学習についての学習指導案・学習指導細案・ワークシート・板書計画・評価法をまとめ上げる。	課題レポート
	10	バズ式セッション、模擬授業・評価(1)	グループ活動として、各自の開発した教育コースウェアについてバズ式セッションで討議する。	課題レポート
	11	バズ式セッション、模擬授業・評価(2)	討議の結果をフィードバックして各自の考えた教育コースウェアを修正し、「50分間の模擬授業」を行う。	課題レポート
	12	バズ式セッション、模擬授業・評価(3)	各自の考えた「評価規準」「評価基準」「ルーブリック」等で評価を行い、観点別評価を実践する。	課題レポート
	13	バズ式セッション、模擬授業・評価(4)	実践により各々のプロジェクト型問題解決学習を完結し、一人ひとりの「Plan-Do-Check-Actionのサイクル」をシステマティックに組み上げる。	課題レポート
	14	バズ式セッション、模擬授業・評価(5)	教育者としての基盤を確立し、自己の教育力(授業改善力・評価力等)育成のための方法を体得する。	課題レポート
15	まとめ	高等学校教科「数学」の学習指導要領について体系的な知識を身につけ、「生きる力」や「確かな学力」について考えをまとめ、各自の「学力観」を立てる。	課題レポート	

関連科目	本科目を学ぶまでに数学科教育法Ⅰを履修すること。他の教職関連科目、一般教養科目などもあらかじめ履修しておくことが望ましい。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 数学編 理数編		
	2	高等学校学習指導要領解説 総則編		
	3	中学校学習指導要領解説 数学編		
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	マイクロティーチング(模擬授業)は必須。授業への参画(受講態度、平常点)、課題提出、課題解決の経過等の日常学習状況の評価が50%、マイクロティーチングと評価のまとめで50%とする。			
学生への メッセージ	生徒の自己実現を支援する高等学校数学科の教員を目指すという目的意識を持ち、常に問題を発見し問題解決・課題解決に情熱を傾け、日々の課題を着実に解決し、自ら継続的に問題(課題)解決のための取り組みを日常的に行う学生の受講を希望する。			
担当者の 研究室等	3号館3階 数学研究室			
備考				

科目名	数学科教育法Ⅲ	科目名(英文)	Method of Mathematics Teaching III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	富永 雅
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	数学科教育法Ⅲでは、中学校数学科教員を目指す学生の意識を高め、実際に教育を担当できうるための基礎的な実践能力の育成をめざす。中学生の実態を捉え、「カリキュラム・教育目標・目的・方法・内容・評価・教授及び学習に関する理論」に関する知識を展開し、数学教育における教育の方法や技術の修得に重点を置く。また、問題発見力と解決のための「情報活用法」を体得するべく、グループ学習を重視し、マイクロティーチング・プレゼンテーションをとおして「教えるもの」と「学ぶもの」の相互の立場を経験し、自己の教育観・教育力の基礎的基盤の確立を目指す。また、校種間の連携として小学校・高等学校の指導要領についても学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校学習指導要領(数学)の理解 ・数学的な活動の理解と体得 ・PISA型学力と生きる力の理解と育成法の体得 ・必須授業力の理解と自己の授業力の育成 ・マイクロティーチングの基礎力 ・評価と評定についての理解
授業方法と留意点	グループ学習・活動で実施する。自らが発見した課題に積極的に取り組み、レポートの提出を求める。
科目学習の効果(資格)	「創造型人材育成教育(数学教育)を実践しうる教育者」となるための基礎・基本の確立ができる。(中学校一種免許(数学)) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	数学教育の目的と目標 学習指導案	学習指導要領から目標などを学ぶ。典型的な学習指導案の作成について学ぶ。	課題レポート
3	数学教育の歴史(1)	数学教育体制がどのように始められ変遷してきたか学ぶ。	課題レポート
4	数学教育の歴史(2)	数学教育でなにか教えられてきたか、教科内容の取捨選択がいかに行われてきたかを学ぶ。	課題レポート
5	数学科教科書比較	中学校数学科教科書において1単元を取り上げ、その教科書比較を行い、指導を考える。	課題レポート
6	算数教育から数学教育へ(1)	小学校算数教育の内容の変遷を通じて、小中の算数数学教育の連携がどのように考えられてきたか学ぶ。	課題レポート
7	算数教育から数学教育へ(2)	現行算数教育と数学教育の間にどのような問題があるのか、その課題とよかに改善すべきか考える。	課題レポート
8	数学的な考え方の育成	学習指導要領などを基に教科書の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学ぶ。	課題レポート
9	数学科教授計画	授業の設計法を体系的に学ぶ。目標の分析法や、授業・指授業の設計法を体系的に学び、その知識を援用して学習指導案にまとめる。	課題レポート
10	数学教材とその応用(1)	幾何分野の数学教材を基にその指導についての現状を知り各自の教育・指導観を吟味する。	課題レポート
11	数学教材とその応用(2)	代数分野の数学教材を基にその指導についての現状を知り各自の教育・指導観を吟味する。	課題レポート
12	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(1)	各自の求める数学教育について、「15分間のマイクロティーチング」にまとめ、実践する。	課題レポート
13	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(2)	グループ員各々のマイクロティーチングを「学ぶもの立場」、「同僚(教えるもの)としての立場」で相互評価し、「教えるもの」としての自己評価を加えて総合的にまとめる。	課題レポート
14	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(3)	マイクロティーチングの相互評価と自己評価の発表と検討により、自己の教育力・評価力育成のための方法を体得する。	課題レポート
15	数学教育の指導のマイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(2) グループ員各々のマイクロティーチングを「学ぶもの立場」、「同僚(教えるもの)としての立場」で相互評価し、「教えるもの」としての自己評価を加えて総合的にまとめる。 課題レポート	具体的な問題を取り上げ、学習してきた内容を基に、その指導法について考察する。	課題レポート
14	マイクロティーチング		

	(プレゼンテーション)・グループ学習(3) マイクロティーチングの相互評価と自己評価の発表と検討により、自己の教育力・評価力育成のための方法を体得する。課題レポート 15 まとめ																		
関連科目	本科目を学ぶまでに開講されている他の教職関連科目、一般教養科目を予め履修しておくことが望ましい。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	バズセッションを中心に展開(グループ員との連携が必須・特に欠席時)。マイクロティーチング(模擬授業)は必須。レポートの提出を求める。基本的に、マイクロティーチングと評価のまとめで40%、レポートを含む日常学習状況の評価が60%とする。																		
学生への メッセージ	将来教員をめざす学生の切磋琢磨の場として、プレゼンテーション能力の育成をはかり、グループを中心に、新しい教材開発など積極的な活動を求める。																		
担当者の 研究室等	当該講義内での対応が中心となります。																		
備考																			

科目名	数学科教育法Ⅳ	科目名(英文)	Method of Mathematics Teaching IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	富永 雅
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	数学科教育法Ⅳでは、中学校数学科教員を目指す学生が実際に教育を担当できるようにするための基盤となる実践力の育成をめざす。数学科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲでまとめあげた各自の「教える立場に立ったときの心構え・知識」と、体験したマイクロティーチングを礎にして、生きる力を知的な側面から支える「確かな学力」を育成するための教育コースウェアを研究・開発する。バズ式セッション・グループ活動を学習形態に取り入れ、生徒の学習意欲をたかめ、自ら学び自ら考える力を育てるという課題を持ってプロジェクトをたてる。各自がたてた課題解決プロジェクトを互いに他者評価し、自己評価して実践的な学びを展開する。教育職としてのPDCA策定。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校学習指導要領(数学)の内容(単元の学年配当、4領域+1分野)の体得 ・数学的な活動を含んだ教育課程の編成についての理解 ・学習指導案の作成力 ・マイクロティーチングの実践力 ・他者評価法の理解と実践力
授業方法と留意点	学ぶ意欲を維持し自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決し、プレゼンテーションする資質や能力の涵養
科目学習の効果(資格)	「創造型人材育成教育(数学教育)を実践しうる教育者」となるための基盤力が涵養できる。(中学校一種免許(数学)) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	中学校・高等学校学習指導要領と評価	学習指導要領の確認、評価の方法に浮いて学ぶ。	課題レポート
3	数学教材とその応用(1)	中学校の教材を中心に集合的分野においてその指導法・発展的内容について考える。	課題レポート
4	数学教材とその応用(2)	「中学校の教材を中心に代数的分野においてその指導法・発展的内容について考える。	課題レポート
5	数学教材とその応用(3)	「中学校の教材を中心に幾何的分野においてその指導法・発展的内容について考える。	課題レポート
6	バズ式セッション、模擬授業・評価(1)	各自の考えた「評価規準」「評価基準」「ループリック」等で評価をおこない、観点別評価を実践する。	課題レポート
7	バズ式セッション、模擬授業・評価(2)	グループ活動として、各自の開発した教育コースウェアについてバズ式セッションで討議する。	課題レポート
8	バズ式セッション、模擬授業・評価(3)	討議の結果をフィードバックして各自の考えた教育コースウェアを修正し、「50分間の模擬授業」をおこなう。	課題レポート
9	数学教材とその応用(4)	「中学校の教材を中心に解析的分野においてその指導法・発展的内容について考える。	課題レポート
10	数学教材とその応用(5)	「中学校の教材を中心に統計的分野においてその指導法・発展的内容について考える。	課題レポート
11	数学史的観点からの数学教材(1)	数学史的観点を取り入れ円周率について考察する。	課題レポート
12	数学史的観点からの数学教材(2)	数学史的観点を取り入れ円周率についての学びを深め公式を導き出す。	課題レポート
13	バズ式セッション、模擬授業・評価(4)	実践により各々のプロジェクト型問題解決学習を完結し、ひとりひとりの「Plan-Do-Check-Actionのサイクル」をシステムティックに組み上げる。	課題レポート
14	バズ式セッション、模擬授業・評価(5)	教育者としての基盤を確立し、自己の教育力(授業改善力・評価力等)育成のための方法を体得する。	課題レポート
15	まとめ	高等学校教科「数学」の学習指導要領について体系的な知識を身につけ、「生きる力」や「確かな学力」について考えをまとめ、各自の「学力観」を立てる。	課題レポート

関連科目 本科目を学ぶまでに数学科教育法Ⅲを履修すること。他の教職関連科目、一般教養科目なども予め履修しておくことが望ましい。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	バズセッションを中心に展開(グループ員との連携が必須・特に欠席時)。マイクロティーチング(模擬授業)は必須。レポートの提出を求める。 基本的に、マイクロティーチングと評価のまとめで40%、レポートを含む日常学習状況の評価が60%とする。
学生への メッセージ	生徒の自己実現を支援する中学校数学科の教員を目指すという目的意識を持ち、常に問題を発見し、問題解決・課題解決に情熱を傾け、日々の課題を着実に解決し、自ら継続的に問題(課題)解決のための取り組みを日常的におこなう学生の受講を希望する。
担当者の 研究室等	当該講義内での対応が中心となります。
備考	

科目名	生徒指導論	科目名(英文)	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、多くの具体的な問題事象に通底する基本的で普遍的な原理について学びます。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導の意義や指導の方法に関する基本的な事柄について必要最低限の知識を獲得し、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に、内容をめぐるディスカッション等も織り交ぜて授業を進めます。また時折、レポートを課します。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 生徒指導の目標と意義	科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり 生徒指導の目標と意義	テキスト pp. 3-10
2	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 10-24
3	生徒指導の理論(1)	理論の重要性 発達に関する理論	テキスト pp. 32-39
4	生徒指導の理論(2)	生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 39-42
5	生徒理解の進め方(1)	生徒理解の意義と目的	テキスト pp. 43-46
6	生徒理解の進め方(2)	生徒理解の方法 生徒の自己理解の支援	テキスト pp. 46-56
7	生徒理解の進め方(3)	教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 56-61
8	学級経営の進め方(1)	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
9	学級経営の進め方(2)	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-74
10	学級経営の進め方(3)	教師のリーダーシップ	テキスト pp. 74-79
11	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
12	進路指導の意義と課題	進路指導の意義 進路指導の現代社会的課題	テキスト pp. 135-159
13	勤労観・職業観の形成と変容	青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
14	進路指導の理論	キャリア発達に関する諸理論	キャリア発達理論に関する配布資料
15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導における「ガイダンスの機能」 進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 215-234

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	生徒指導・進路指導	高橋超・石井真治・熊谷信順	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験 80%、レポート 20%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。

学生へのメッセージ 生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。
授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行う者としての適格性が問われます。

担当者の研究室等 7号館3階 朝日研究室

備考 ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポート課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。

科目名	道徳教育の研究	科目名(英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山 裕樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業では、日本の道徳教育に関する基礎的な知識や考え方（日本の道徳教育の歴史、道徳教育の内容を構成する諸概念、道徳性の発達理論、等）について解説を加え、実際に学校でどのように道徳教育を行えばよいのかを考えていきます。
到達目標	受講者が日本の道徳教育に関する基礎的な知識や考え方を身に付け、道徳教育に関する具体的な授業計画を立案することができるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行いますが、「道徳科」の学習指導案を書く演習等も適宜取り入れます。また、毎回授業の最後に受講者にコメントペーパーを書いてもらって次の授業中にその内容のいくつかを紹介することで、受講者が相互に関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して主体的かつ多角的に考えを深められるよう配慮します。
科目学習の効果(資格)	中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各項目に含める必要事項：道徳の指導法

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日本の道徳教育の歴史①:戦前の道徳教育	①明治から昭和初期にかけての道徳教育の歴史を概観する。 ②「個人主義」について多角的に考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「個人主義」についてより深く考える。
3	日本の道徳教育の歴史②:戦後の道徳教育	道徳教育に関する戦後すぐの教育改革の動向と、それに対するいわゆる保守反動的な動きについて考える。	政治的・経済的状況との関わりから、道徳教育の歴史の変遷を整理する。
4	日本の道徳教育の歴史③:現代の道徳教育	①近年の道徳教育をめぐる教育改革の動向を概観する。 ②道徳教育推進論の論拠の一つともなっている「いじめ」問題について考えを深める。	自分の周囲で起こった「いじめ」体験について思い出しておく。さらに、その体験について、授業の内容を踏まえたうえで再考する。
5	諸外国の道徳教育	①諸外国の道徳教育の状況について概観する。 ②諸外国の道徳教育を事例として、道徳教育と「宗教教育」との関係について考える。	諸外国の道徳教育と自分の受けてきた道徳教育とを比較検討し、共通点と相違点を整理する。
6	道徳教育の内容①:自我	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として自分自身に関すること」をめぐり、「自我」(＝「私」)について道徳教育の視点から考える。	普段の自分の生活や授業の内容を振り返り、「私」のあり方についてより深く考える。
7	道徳教育の内容②:他者	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として人との関わりに関すること」をめぐり、道徳教育の視点から「他者」との関わりをなかで「私」を捉え直す。	普段の自分の生活を振り返り、そこでの「私」と「他者」との関わりについて考えておく。さらに、授業を踏まえたうえで、それについて再考する。
8	道徳教育の内容③:生命と自然	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」をめぐり、道徳教育(とりわけ「いのちの教育」)の実践例を検討する。	「いのちの教育」の実践について、授業の内容を踏まえたうえで、より深く考える。
9	道徳教育の内容④:美と崇高	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として生命や自然、崇高なもののかかわりに関すること」をめぐり、道徳教育をいわゆる「情操教育」的な観点から検討する。	授業の内容を踏まえたうえで、「情操教育」的な観点から道徳教育について再考する。
10	道徳教育の内容⑤:社会	①学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として集団や社会との関わりに関すること」をめぐり、道徳教育の視点から「社会」との関わりをなかで「私」を捉え直す。 ②いわゆる「スクールカースト」について考える。	自分の周囲で起こった「スクールカースト」の体験について思い出しておく。さらに、その体験について授業の内容を踏まえたうえで再考する。
11	道徳性の発達	①コールバーグによる道徳性の発達理論(およびギリガンによるその批判)について検討する。 ②道徳性の発達理論を応用したいいわゆる「モラル・ジレンマ授業」について理解を深める。	「モラル・ジレンマ授業」について構想するための準備をする。
12	道徳の授業の位置づけ	①教育課程編成上の道徳教育の位置づけを確認する。 ②他教科での教育のなかで行われた道徳教育の実践例をもとに、道徳教育の幅広い可能性について考える。	他教科での教育と道徳教育の関わりについて整理する。
13	学習指導案の作成と授業の展開①	①学校における道徳教育の「要」とされている「道徳科」の位置づけについて考える。	授業時に指示する。

			②「道徳科」の時間を計画的に進めるための学習指導案の書き方について具体的に考えていく。																	
	14	学習指導案の作成と授業の展開②	「道徳科」の学習指導案の書き方について、引き続き具体的に考えていく。	授業時に指示する。																
	15	まとめ:道徳教育と教師の責任	①道徳教育についてまとめとして考えるために、ある実験授業の記録を扱う。 ②この実験授業において生じた結果から、道徳教育が有する「可能性」や「限界」等について考察する。	授業時に指示する。																
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性</td> <td>下司晶</td> <td>世織書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性	下司晶	世織書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性	下司晶	世織書房																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	毎回の授業中に書いてもらうコメントペーパーの内容(30%)や、課題として作成してもらう「道徳科」の学習指導案の内容(4%)、学期末試験の結果(66%)をもとに、総合的に評価します。なお、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る者に対しては厳正に対処をします(マイナス点やペナルティも課されます)ので、学生としての自覚と覚悟をもって授業に参加すること。																			
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。																			
担当者の 研究室等	7号館4階(小山研究室)																			
備考																				

科目名	特別活動の理論と方法	科目名(英文)	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	(1) 学級活動(ホームルーム活動)、生徒会活動(児童会活動)、学校行事について、それぞれの指導目標や内容等に関する基礎的・基本的事項について整理する。 (2) 子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについての理解を深める。 (3) 「学級づくり」(教師と生徒の関係づくり、生徒どうし関係づくり)に視点を据え、7つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の方法について、事例をもとにグループ討議や即興劇を行い、交流する。
到達目標	子どもたちが、さまざまな集団活動に自主的、実践的に取り組み、多様な他者と協働し、互いのよさを認め合い、発揮しながら、集団や自己の生活上の課題を解決するために必要な資質・能力を育成する育成できるよう、また、自己の生き方について考えていくための資質・能力を育成できるよう、実践的な指導ができる。
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動を指導する立場にたつ教員として、集団をファシリテートすることができるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：特別活動の指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・特別活動の意義と課題	特別活動とは何か、特別活動の教育的意義、社会の変貌と子どもたちの状況、学級担任の役割	教科書第1章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
	2	特別活動の目的・内容・方法 ワーク①「キャラ」をめぐる	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動 ソロワークと意見交換	教科書第1・2章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
	3	学級活動(ホームルーム活動)その1 ワーク②大学に入って	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 ソロワークと意見交換	教科書第4・11章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
	4	学級活動(ホームルーム活動)その2 ワーク③学級活動(係・班・当番・委員)の思い出	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 ソロワークと意見交換	教科書第4・11章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
	5	生徒会活動(児童会活動)・学級行事 ワーク④学校行事(運動会・体育祭・文化祭等)の思い出	生徒会(児童会)活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 ソロワークと意見交換	教科書第5・6・12・13章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
	6	体験活動の意義 ワーク⑤「14歳の頃」・「17歳の頃」	特別活動の目標と体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験のもつ教育力と教師の指導性 グループワークの班分け、顔合わせ	教科書第2章、配布プリントをよく読んでおく。
	7	特別活動の歴史・領域・方法 グループワーク①いじめ(その1)	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがいがい グループ討議・発表・交流	教科書第2・3章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
	8	特別活動と学級経営 グループワーク②不登校	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 グループ討議・発表・交流	教科書第9章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく
	9	特別活動と生徒指導 グループワーク③暴力	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 即興劇・交流	教科書第10章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく
	10	特別活動における評価 グループワーク④インクルーシブ教育(外国にルーツ)	評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 グループ討議・発表・交流	配布プリントをよく読んでおく。学習事項を整理する。
	11	特別活動と道徳教育 グループワーク⑤進路指導・キャリア教育	特別活動と道徳教育との関連及びそれぞれの教育的意義 即興劇・交流	教科書第8章を読んでおく。学習事項を整理する。
	12	特別活動と総合的な学習 グループワーク⑥インクルーシブ教育	特別活動と総合的な学習の時間との関連及びそれぞれの教育的意義 グループ討議・発表・交流	教科書第7章を読んでおく。学習事項を整理する。
	13	特別活動とキャリア教育 グループワーク⑦ジェンダー	特別活動におけるキャリア教育の位置づけ、進路選択支援の課題 即興劇・交流	教科書第14章を読んでおく。学習事項を整理する。
	14	学習指導要領(特別活動)について グループワーク⑧いじめ(その2)	現行学習指導要領の特徴、次期学習指導要領改定の要点 グループ討議・発表・交流	配布プリントをよく読んでおく。学習事項を整理する。
	15	特別活動の指導計画・指導案の作成と全体のまとめ	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成 集団的な自尊感情を育むことの重要性について	配布プリントを読んでおく。 全学習事項について再度振り返り整理する。
関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」、「教育原理」「教育心理学」で学習したことと関連づけるとともに、「教育方法論」、「生徒指導論」、「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の特別活動	相原次男他	ミネルヴァ書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 特別活動	文部科学省	ぎょうせい
	2	高等学校学習指導要領解説 特別活動	文部科学省	海文堂出版
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、中間レポート (30%)、コメントペーパー、ミニエッセイ及び授業への参加状況 (20%) を総合的に評価する。定期試験の内容は客観式+記述式とする。中間レポートは、ミニエッセイをもとに「自分史に関するエッセイ」をまとめ、提出すること。毎回のコメントペーパー・ミニエッセイの作成と授業への出席をもとに授業への参加状況の評価する。			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力することに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。			
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)			
備考				

科目名	理科教育法 I	科目名 (英文)	Science Teaching I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	菅波 昌広
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	理科教育法は中等教育において理科教育をいかに行うかを考える科目である。理科教育法 I では、高等学校を中心に戦後からの理科教育の流れをみつめ、現代の理科教育のあり方を考えていく。 教育の目標、内容、方法等の基本的必須事項を理解し、授業計画、授業設計ができるようになる。 学科の到達目標: [A]
到達目標	《一般目標》 楽しく、わかりやすい、魅力ある授業を行うために、それらに必要な知識の習得や技術を身につける。 《行動目標》 ① わかりやすい文章が書けるようになること ② 理解しやすい話(説明)ができるようになること ③ 授業に必要な知識を身につけること ④ 授業計画・授業設計ができるようになること ⑤ 授業に必要な教材や教具が作成できるようになること ⑥ 適切な評価ができるようになること ⑦ 適切な板書ができるようになること ⑧ 学習指導案が作成できるようになること ⑨ 理科実験における安全管理・危機管理ができるようになること ⑩ 何事に対しても臨機応変に対処できること
授業方法と留意点	講義をベースにグループワーク、演習、討議などを行う。授業では講義プリントに沿った説明や解説を行うが、それらを授業で配布する学習ノートに各自でまとめる。講義プリントは授業の最後に配布し、まとめに使用する。学習ノートを期日までに提出し、点検と評価を行った後に返却する。 授業では中学校・高等学校学習指導要領に則った教育課程の編成や授業展開の実際を示し、その具体的な例として、サンプル授業を実施する。サンプル授業では高等学校での授業展開の実際を体験してもらい、自身が授業を行うときの参考にしてもらいたい。教育実習等で不可欠な学習指導案の内容、作成などにも触れる。
科目学習の効果 (資格)	高等学校一種免許 (理科) 中学校一種免許 (理科)

	授業計画			
	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
授業計画	1	はじめに(理科教育法の目的)	本教科目のガイダンスとして、授業の内容、特徴、学び方、進め方についての説明を行ない、理科教育法を学ぶ目的や意義を知る。また、教育とは何かについて考える。	課題・レポート(学習ノートの作成と提出)
	2	戦後の高校理科の教育課程と授業時間数の変遷	高等学校の理科教育がどのようにしてはじめられ、どのようにして変遷してきたかを知り、新旧の教科書を比較することによってその内容を学びとる。	課題・レポート(学習ノートの作成と提出)
	3	教育課程の変遷と歴史的背景	高等学校の理科教育がどのようにして変遷してきたかを時代の背景とともに学び、近年ではOECDが実施しているPISA調査から見えた問題点や課題を受けて改訂されていることを知る。	課題・レポート(学習ノートの作成と提出)
	4	PISA調査	PISA調査とはどのような調査であるかを知り、実際に解いてみることによって、新しい学力観、能力観とはどのようなものが求められているかを知る。	課題・レポート(学習ノートの作成と提出)
	5	学習指導要領理科の授業内容の取り扱い	高等学校「理科」の学習指導要領について、その目標や内容について知り、生きる力について考える。また、教科書の分析方法や授業のねらいについても学ぶ。	課題・レポート(学習ノートの作成と提出)
	6	理科における評価の方法	評価についての教育的意義を知り、学習指導とその評価について考える。また、目標に応じた評価方法について学び、教育評価を教育の改善に役立たせる方法を考えてみる。	課題・レポート(学習ノートの作成と提出)
	7	年間授業計画とシラバス・授業設計	授業を設計するにあたり、単元や年間授業計画との関わりについて知り、年間を通して効率の良い授業ができることを学ぶ。学習目標を定めることにより、教師の授業デザイン力の向上となるような授業設計について学ぶ。	課題・レポート(学習ノートの作成と提出)
	8	理科の授業づくり～授業の進め方～	具体的な授業の進め方を知るためにサンプルとなる高等学校の授業を実際に行なう。終了後に疑問点や課題について話し合い、授業でのねらいについて学ぶ。	課題・レポート(学習ノートの作成と提出)
	9	理科の授業づくり～指導計画～	理科の授業づくりの意義を知り、教材研究の進め方と手順、授業の工夫について学ぶ。	課題・レポート(学習ノートの作成と提出)
	10	学習指導案の事例と研究	学習指導案について、その事例を用いて、授業の組み立ての基本について学ぶ。また、学習指導案を作成するための	課題・レポート(学習ノートの作成と提出)

			ワークシートを用いて、指導案作成の準備を行う。																	
	11	授業における導入について	授業の進め方の中で導入部分の重要性を知り、魅力ある授業設計や授業計画を行うことを学ぶ。そのための導入部分の授業を実際に考える。	課題・レポート(学習ノートの作成と提出)																
	12	授業における展開について	授業の展開において、発問の重要性は大きく、学習者に魅力ある学習活動ができるような指導方略を考える。また、プロ(某予備校人気講師)が行う授業のビデオを見て、展開の方法、発問のタイミングなどについて学び取る。	課題・レポート(学習ノートの作成と提出)																
	13	授業におけるまとめについて	授業の締めくくりであるまとめの意義について考え、授業でのまとめの方法について学ぶ。	課題・レポート(学習ノートの作成と提出)																
	14	授業における板書について	具体的に授業を進める際、板書の方法によって、学習者にもたらす効果は異なる。授業を行なうための板書の方法について知り、授業を行うにあたっての板書計画・板書レイアウトなどについても学ぶ。	課題・レポート(学習ノートの作成と提出)																
	15	授業における話し方について 理科教育法Ⅰのまとめ	授業を進める際、話し方によって、学習者にもたらす効果は異なる。授業を行なうための適切な話し方の方法について学ぶ。高等学校の理科教育の流れをみつめ、現代の理科教育のあり方を考えてまとめる。また、教育の目標、内容、方法等の基本的必須事項を理解し、授業の設計ができるようになったかを確認する。	課題・レポート(学習ノートの作成と提出)																
関連科目	本科目を履修するにあたり、開講されている教職関連科目、一般教養科目等を予め履修されていることが望ましい。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高等学校学習指導要領解説理科編</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	高等学校学習指導要領解説理科編	文部科学省		2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	高等学校学習指導要領解説理科編	文部科学省																		
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	レポート(学習ノート)、小論文課題の評価および受講態度等の平常成績で総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	学習者の自己実現を支援する理科教員を目指すという自覚と目的意識を持ち、理科教育に関する理解を深め、理科教育に必要な基礎能力を習得して欲しい。わかりやすい文章、理解しやすい話など豊かな表現力も身につけて欲しい。																			
担当者の 研究室等	3号館2階学習支援センタースタッフルーム																			
備考	教員採用試験を見越して、志望理由書を小論文課題として提出してもらおう。																			

科目名	理科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Science Teaching II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	菅波 昌広
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	日本の教育問題の1つに理科離れがあり、理科の面白さを引き出すためには理科実験の果たす役割は大きい。理科教育法Ⅱでは理科実験を行う意義をとらえ、理科の教科指導と授業力に関する資質と能力の育成をはかる。さらに理科教育法Ⅰと関連付けて実験観察、指導計画、指導の方法などを実践の場で具体的に役立つ方法として考える。
到達目標	<p>学科の到達目標:[A]</p> <p>《一般目標》 楽しく、わかりやすい、魅力ある授業を行うために、それらに必要な知識の習得や技術を身につける。</p> <p>《行動目標》 ①わかりやすい文章が書けるようになること。 ②理解しやすい話(説明)ができるようになること。 ③授業に必要な知識を身につけること。 ④授業計画・授業設計ができるようになること。 ⑤授業に必要な教材や教具が作成できるようになること。 ⑥適切な評価ができるようになること。 ⑦適切な板書ができるようになること。 ⑧学習指導案が作成できるようになること。 ⑨理科実験における安全管理・危機管理ができるようになること。 ⑩何事に対しても臨機応変に対処できること。</p>
授業方法と留意点	<p>講義をベースにグループワーク、演習、討議、模擬授業などを行う。授業では講義プリントに沿った説明や解説を行うが、それらを授業で配布する学習ノートに各自でまとめる。講義プリントは授業の最後に配布し、まとめて使用する。学習ノートを期日までに提出すること。点検、評価を行なった後に返却する。</p> <p>実験・手作業を通して身につく“見えない学力”は将来、技術者や研究者についたときの基礎力になる。理科教育法Ⅱでは実験を取り入れた授業を組み立てることを前提に、授業計画や実験の方法について、具体例や実践例を挙げながら授業をすすめる。理科教育法Ⅰの内容とあわせて各自に高等学校の模擬授業も実施してもらう。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>高等学校一種免許(理科)</p> <p>中学校一種免許(理科)</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	理科の実験授業・その意義と方法	理科の授業における実験の意義について学び、探求的な活動としての理科実験を知る。また、中学校における実験を取り入れた授業(仮説実験授業)について紹介する。	学習課題・レポート(学習ノートの作成と提出)
2	理科実験における安全・管理	ワークシートを用いて、実験室における危険な行動や器具の取り扱いについて考え、その安全管理について学ぶ。さらに理科実験における事故・安全・管理について学び、事故防止やその対策について考える。	学習課題・レポート(学習ノートの作成と提出)	
3	学校現場における理科実験の事故例	学校現場における過去に起きた事故の例から事故原因などを考え、事故防止をふまえた安全管理を考えてみる。	学習課題・レポート(学習ノートの作成と提出)	
4	理科の実験観察とその授業計画・実施	安全管理、事故防止をふまえたうえで理科実験の計画を考え、予備実験の重要性についても学ぶ。さらに生徒実験における結果の分析方法や意義について知り、評価の方法についても学ぶ。	学習課題・レポート(学習ノートの作成と提出)	
5	理科における教育機器の活用と課題研究	理科教育とICTの活用の現状や課題について学び、その活用事例について知る。理科の課題研究における目標や内容について学び、その事例についても知る。あわせて、ICTを活用した課題研究についても考えてみる。	学習課題・レポート(学習ノートの作成と提出)	
6	教材・教具の研究とその重要性	学習者にとって魅力ある授業は教材がうまく配列されており、必要に応じた教材が多用されている。教材・教具の必要性・重要性を知り、学習者により効果をもたらす教材や教具について考える。講義では教材・教具のサンプルも紹介する。	学習課題・レポート(学習ノートの作成と提出)	
7	指導計画案の作成と留意点	学習指導案を作成するにあたっての留意点についての解説と、その作成手順について学ぶ。また、学習指導案を作成するためのワークシートを用いて、自身が行う模擬授業のための指導案作成の準備を行う。	学習課題・レポート(学習ノートの作成と提出)	
8	模擬授業(1)	各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、高等学校の50分間の模擬授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議や講評を行なう。	<p>《授業者》 学習者側からの助言をまとめ、自己評価を行う。行なった模擬授業はビデオ撮りを実施し、DVDにして配布する。視聴した上で自身の課題点などをレポートする。</p> <p>《学習者》 受けた模擬授業に対する評価と講評を行なう。</p>	
9	模擬授業(2)	各自が目指す理科教育をふまえて作	《授業者》	

		成した指導案に基づき、高等学校の 50 分間の模擬授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議や講評を行なう。	<p>学習者側からの助言をまとめ、自己評価を行う。 行なった模擬授業はビデオ撮りを実施し、DVD にして配布する。視聴した上で自身の課題点などをレポートする。 《学習者》 受けた模擬授業に対する評価と講評を行なう。</p>																
10	模擬授業(3)	各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、高等学校の 50 分間の模擬授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議や講評を行なう。	<p>《授業者》 学習者側からの助言をまとめ、自己評価を行う。 行なった模擬授業はビデオ撮りを実施し、DVD にして配布する。視聴した上で自身の課題点などをレポートする。 《学習者》 受けた模擬授業に対する評価と講評を行なう。</p>																
11	模擬授業(4)	各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、高等学校の 50 分間の模擬授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議や講評を行なう。	<p>《授業者》 学習者側からの助言をまとめ、自己評価を行う。 行なった模擬授業はビデオ撮りを実施し、DVD にして配布する。視聴した上で自身の課題点などをレポートする。 《学習者》 受けた模擬授業に対する評価と講評を行なう。</p>																
12	模擬授業(5)	各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、高等学校の 50 分間の模擬授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議や講評を行なう。	<p>《授業者》 学習者側からの助言をまとめ、自己評価を行う。 行なった模擬授業はビデオ撮りを実施し、DVD にして配布する。視聴した上で自身の課題点などをレポートする。 《学習者》 受けた模擬授業に対する評価と講評を行なう。</p>																
13	模擬授業(6)	各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、高等学校の 50 分間の模擬授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議や講評を行なう。	<p>《授業者》 学習者側からの助言をまとめ、自己評価を行う。 行なった模擬授業はビデオ撮りを実施し、DVD にして配布する。視聴した上で自身の課題点などをレポートする。 《学習者》 受けた模擬授業に対する評価と講評を行なう。</p>																
14	模擬授業(7)	各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、高等学校の 50 分間の模擬授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議や講評を行なう。	<p>《授業者》 学習者側からの助言をまとめ、自己評価を行う。 行なった模擬授業はビデオ撮りを実施し、DVD にして配布する。視聴した上で自身の課題点などをレポートする。 《学習者》 受けた模擬授業に対する評価と講評を行なう。</p>																
15	授業と演習と理科教育法Ⅱのまとめ	学習者が授業で新しく学んだことを長期記憶とできるような学習活動として演習がある。単元計画を行なうにあたり、本時の学習がより効果をもたらす演習を考えてみる。	学習課題・レポート(学習ノートの作成と提出と本講義の自己評価を行う)																
関連科目	本科目を履修するにあたり、開講されている教職関連科目、一般教養科目等を予め履修されていることが望ましい。 理科教育法Ⅰを履修のこと。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高等学校学習指導要領 解説 理科編</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	高等学校学習指導要領 解説 理科編	文部科学省		2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	高等学校学習指導要領 解説 理科編	文部科学省																	
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	模擬授業(必須)と評価のまとめ、レポート課題、受講態度等の平常成績で総合評価する。 目安として、模擬授業 50%、学習ノート・課題レポート 50%としています。																		
学生へのメッセージ	授業も学生主導となり、事前準備や事後処理に時間がかかったり、労力を要するが、将来教員を目指している学生の切磋琢磨の場として積極的に取り組んで欲しい。また、自他を問わず正しい評価、適切な講評を行えるようになって欲しい。																		
担当者の研究室等	3号館2階学習支援センタースタッフルーム																		
備考	高等学校の教科書は貸し出ししています。学習支援センターまで借りに来ること。 模擬授業で時間が不足した場合は、土曜日等に別途補講にて対応することがある。																		

科目名	理科教育法Ⅲ	科目名(英文)	Science Teaching III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	菅波 昌広
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>中学校理科の教師は物理、化学、生物、地学の各分野の特徴についての知識を必要とする。理科教育法Ⅲでは中学校の理科教師を目指す学生に、理科教育の内容、指導法に関する基本事項を再確認させ、中学校で授業を行うために必要な授業作りの方法を身につける。また、楽しく、わかりやすい授業を行うための知識や技術を習得する。</p> <p>学科の到達目標:[A]</p>
到達目標	<p>《一般目標》 楽しく、わかりやすい、魅力ある授業を行うために、それらに必要な知識の習得や技術を身につける。</p> <p>《行動目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> ① わかりやすい文章が書けるようになること ② 理解しやすい話(説明)ができるようになること ③ 授業に必要な知識を身につけること ④ 授業計画・授業設計ができるようになること ⑤ 授業に必要な教材や教具が作成できるようになること ⑥ 適切な評価ができるようになること ⑦ 適切な板書ができるようになること ⑧ 学習指導案が作成できるようになること ⑨ 理科実験における安全管理・危機管理ができるようになること ⑩ 何事に対しても臨機応変に対処できること
授業方法と留意点	<p>講義をベースにグループワーク、演習、討議、模擬授業などを行う。授業では講義プリントに沿った説明や解説を行うが、それらを授業で配布する学習ノートに各自でまとめる。講義プリントは授業の最後に配布し、まとめて使用する。学習ノートは期限までに提出すること。点検と評価を行った後に返却する。</p> <p>高等学校理科では選択制が導入されており、中学校理科の果たすべき役割は大きい。授業では中学校第1分野、第2分野の内容の特徴と小学校、高等学校の接続や内容との関連性について解説し、理科教育について理解を深めてもらう。また、聞き手である生徒が授業をよりわかりやすく受けられるための方法や工夫を研究する。随時レポート課題を課す。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>高等学校一種免許(理科) 中学校一種免許(理科)</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	教員を目指すために(教員採用試験では)	教員になるために超えなければならない2つのハードルについてふれ、今後の取り組みや準備に関するヒントについて話す。また、過去問を解くことにより今後の対策や学習計画について考える。	課題・レポート(学習ノートの作成と提出)
2	中学校学習指導要領理科の取り扱いと留意点	中学校学習指導要領の改訂の経過に様々な学力調査や学習状況調査がある。改訂の基本方針についての解説と様々な調査についてもふれ、実際に解いてみる。	課題・レポート(学習ノートの作成と提出)	
3	中学校学習指導要領理科の改定の要点	中学校学習指導要領における内容の改善の要点についての解説を行う。また、新旧の教科書を比較することにより、中学校理科教育の中で教育課程の変遷について知り、小学校理科教育と高等学校理科教育の連携がどのように考えられてきたかを学ぶ。	課題・レポート(学習ノートの作成と提出)	
4	中学校学習指導要領理科指導計画の作成と内容の取扱い	中学校学習指導要領における指導計画の作成、観察、実験の時間や探究する時間の設定、ものづくりの推進などについて解説を行い、それらの実施や取り扱いについてのヒントを紹介する。	課題・レポート(学習ノートの作成と提出)	
5	中学校理科の授業づくりと授業の進め方	具体的な授業の進め方を知るためにサンプルとなる中学校の授業を受講者を生徒として実際に行なうので、終了後に疑問点や課題について話し合う。また、高等学校と中学校との教授法の違いについて学び、授業づくり、教材研究、授業の工夫について役立てる。	課題・レポート(学習ノートの作成と提出)	
6	中学校学習指導案について	学習指導案を作成するにあたっての留意点についての解説と、その作成手順について学ぶ。また、学習指導案を作成するためのワークシートを用いて、自身が行う模擬授業のための指導案作成の準備を行う。	課題・レポート(学習ノートの作成と提出)	
7	模擬授業(1)	各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、中学校の50分間の模擬授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議や講評を行なう。	《授業者》 学習者側からの助言や講評をまとめる。また、行なった模擬授業はビデオ撮影を実施し、DVDにして配布する。視聴した上で自身の課題点などをレポートする。 《学習者》 受けた模擬授業に対する評価と講評を行なう。	
8	模擬授業(2)	各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、中学校の50分間の模擬授業を行なう。さらにその模擬	《授業者》 学習者側からの助言や講評をまとめる。また、行なった模擬授業はビデオ撮影を実施し、DVDにして	

			授業について研究協議や講評を行なう。	配布する。視聴した上で自身の課題点などをレポートする。 《学習者》 受けた模擬授業に対する評価と講評を行なう。																
9	模擬授業(3)		各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、中学校の50分間の模擬授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議や講評を行なう。	《授業者》 学習者側からの助言や講評をまとめる。また、行なった模擬授業はビデオ撮影を実施し、DVDにして配布する。視聴した上で自身の課題点などをレポートする。 《学習者》 受けた模擬授業に対する評価と講評を行なう。																
10	模擬授業(4)		各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、中学校の50分間の模擬授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議や講評を行なう。	《授業者》 学習者側からの助言や講評をまとめる。また、行なった模擬授業はビデオ撮影を実施し、DVDにして配布する。視聴した上で自身の課題点などをレポートする。 《学習者》 受けた模擬授業に対する評価と講評を行なう。																
11	模擬授業(5)		各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、中学校の50分間の模擬授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議や講評を行なう。	《授業者》 学習者側からの助言や講評をまとめる。また、行なった模擬授業はビデオ撮影を実施し、DVDにして配布する。視聴した上で自身の課題点などをレポートする。 《学習者》 受けた模擬授業に対する評価と講評を行なう。																
12	模擬授業(6)		各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、中学校の50分間の模擬授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議や講評を行なう。	《授業者》 学習者側からの助言や講評をまとめる。また、行なった模擬授業はビデオ撮影を実施し、DVDにして配布する。視聴した上で自身の課題点などをレポートする。 《学習者》 受けた模擬授業に対する評価と講評を行なう。																
13	模擬授業(7)		各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、中学校の50分間の模擬授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議や講評を行なう。	《授業者》 学習者側からの助言や講評をまとめる。また、行なった模擬授業はビデオ撮影を実施し、DVDにして配布する。視聴した上で自身の課題点などをレポートする。 《学習者》 受けた模擬授業に対する評価と講評を行なう。																
14	模擬授業(8)		各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、中学校の50分間の模擬授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議や講評を行なう。	《授業者》 学習者側からの助言や講評をまとめる。また、行なった模擬授業はビデオ撮影を実施し、DVDにして配布する。視聴した上で自身の課題点などをレポートする。 《学習者》 受けた模擬授業に対する評価と講評を行なう。																
15	理科教育法 III のまとめ		中学校・高等学校「理科」の体系的な知識を確認し、「生きる力」についての考えをまとめる。	課題・レポート(学習ノートの作成と提出)																
関連科目	本科目を履修するにあたり、開講されている教職関連科目、一般教養科目等を予め履修されていることが望ましい。理科教育法 I・II は履修していること。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領解説 理科編</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領解説 理科編	文部科学省		2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学校学習指導要領解説 理科編	文部科学省																		
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	模擬授業(作成した教材・教具)、発表への積極性や参加態度、受講態度とレポート課題の評価等で総合的に評価する。目安として、模擬授業50%、学習ノートと課題レポート50%としています。																			
学生へのメッセージ	授業内容も学生主導型となり、事前準備や事後処理に時間がかかったり、努力を要するが、将来教員を目指している学生の切磋琢磨の場として積極的に取り組んで欲しい。模擬授業ではグループワークなどのアクティブラーニングを積極的に取り入れ、学習者主体の活動的な授業が行えるようになって欲しい。また、自他を問わず正しい評価、適切な講評が行えるように心がけること。																			
担当者の研究室等	3号館2階学習支援センタースタッフルーム																			
備考	模擬授業等で用いる中学校の教科書は3号館2階学習支援センタースタッフルームにて貸し出します。 模擬授業で時間が不足した場合、土曜日に別途補講として実施することがあります。																			

科目名	理科教育法IV	科目名(英文)	Science Teaching IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	菅波 昌広
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	理科教育法IVでは、教育実習時に十分通用するような授業実践力を培うことを第一目標とする。また、指定された単元の模擬授業を実際に行うことで、授業の難しさ、教材研究の重要性を知る。さらに、模擬授業に対する研究協議によって、授業計画や指導法の改善を行う。
到達目標	学科の到達目標:[A] 《一般目標》 楽しく、わかりやすい、魅力ある授業を行うために、それらに必要な知識の習得や技術を身につける。 《行動目標》 ① わかりやすい文章が書けるようになること ② 理解しやすい話(説明)ができるようになること ③ 授業に必要な知識を身につけること ④ 授業計画・授業設計ができるようになること ⑤ 授業に必要な教材や教具が作成できるようになること ⑥ 適切な評価ができるようになること ⑦ 適切な板書ができるようになること ⑧ 学習指導案が作成できるようになること ⑨ 理科実験における安全管理・危機管理ができるようになること ⑩ 何事に対しても臨機応変に対処できること

授業方法と留意点	講義をベースにグループワーク、演習、討議、模擬授業などを行う。授業では講義プリントに沿った説明や解説を行うが、それらを授業で配布する学習ノートに各自でまとめる。講義プリントは授業の最後に配布し、まとめに使用する。学習ノートは期限までに提出すること。点検、評価の後に返却する。 教授フローチャートをもとにした模擬授業を行ってもらおう。教育実習で授業を行うことを主眼におき、そのために必要な授業計画や教材研究、板書計画、教材・教具の作成などの授業構想から実施までを行う。模擬授業を聴講した学生は模擬授業を実施した学生への評価を行い、その評価に基づいてディスカッションを行う。
----------	--

科目学習の効果(資格)	高等学校一種免許(理科) 中学校一種免許(理科)
-------------	-----------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンスと教育実習に向けて	本教科目のガイダンスを行ない、授業の内容、特徴、学び方、進め方についての説明を行なう。また、教育実習に向けての準備しておくべきことや実習中についてのヒントについて話す。	課題・レポート(学習ノート作成と提出)
2	教育実習と授業の実際	先輩の教育実習時におけるビデオを見て、学習指導案をもとに講評を行い、疑問点や課題について協議する。また、実際の教育現場や教室の雰囲気なども感じ取る。	課題・レポート(学習ノート作成と提出)
3	教授フローチャートによる授業(1)	指導案を共同利用する目的で考案された教授フローチャートについて、その特徴や利点について知り、授業計画、授業設計を行う際に利用してみる。	課題・レポート(学習ノート作成と提出)
4	教授フローチャートによる授業(2)	学習指導案に代えて教授フローチャートを用いた模擬授業の指導計画を行う。教育目標、目的、内容、方法、評価についても考え、板書計画を含めた、指導細案の作成も行う。	課題・レポート(学習ノート作成と提出)
5	学習者から高い評価を受ける授業の実践例とその分析	達人が行う中学校の授業のビデオを視聴する。授業づくりや教材研究、授業の展開の工夫や教授法について学びとったことをレポートする。	課題・レポート(学習ノート作成と提出)
6	教授フローチャートを用いた模擬授業(1)	教授フローチャートを用いて作成した指導計画に基づき、50分間の模擬授業を行なう。(板書計画を含めた、指導細案の作成も行う) 模擬授業終了後は研究協議と講評を行なう。	《授業者》 学習者側からの助言をまとめ、講評を踏まえた上で自己評価を行う。また、行なった模擬授業はビデオ撮影を実施し、DVDにして配布する。視聴した上で自身の課題点などをレポートする。 《学習者》 受けた模擬授業に対する評価と講評を行いレポートする。
7	教授フローチャートを用いた模擬授業(2)	教授フローチャートを用いて作成した指導計画に基づき、50分間の模擬授業を行なう。(板書計画を含めた、指導細案の作成も行う) 模擬授業終了後は研究協議と講評を行なう。	《授業者》 学習者側からの助言をまとめ、講評を踏まえた上で自己評価を行う。また、行なった模擬授業はビデオ撮影を実施し、DVDにして配布する。視聴した上で自身の課題点などをレポートする。 《学習者》 受けた模擬授業に対する評価と講評を行いレポートする。
8	教授フローチャートを用いた模擬授業(3)	教授フローチャートを用いて作成した指導計画に基づき、50分間の模擬授業を行なう。(板書計画を含めた、指導細案の作成も行う) 模擬授業終了後は研究協議と講評を行なう。	《授業者》 学習者側からの助言をまとめ、講評を踏まえた上で自己評価を行う。また、行なった模擬授業はビデオ撮影を実施し、DVDにして配布する。視聴した上で自身の課題点などをレポートする。 《学習者》 受けた模擬授業に対する評価と講評を行いレポートする。

	9	教授フローチャートを用いた模擬授業（４）	教授フローチャートを用いて作成した指導計画に基づき、50 分間の模擬授業を行なう。（板書計画を含めた、指導細案の作成も行っておく） 模擬授業終了後は研究協議と講評を行なう。	《授業者》 学習者側からの助言をまとめ、講評を踏まえた上で自己評価を行う。また、行なった模擬授業はビデオ撮影を実施し、DVD にして配布する。視聴した上で自身の課題点などをレポートする。 《学習者》 受けた模擬授業に対する評価と講評を行いレポートする。																
	10	教授フローチャートを用いた模擬授業（５）	教授フローチャートを用いて作成した指導計画に基づき、50 分間の模擬授業を行なう。（板書計画を含めた、指導細案の作成も行っておく） 模擬授業終了後は研究協議と講評を行なう。	《授業者》 学習者側からの助言をまとめ、講評を踏まえた上で自己評価を行う。また、行なった模擬授業はビデオ撮影を実施し、DVD にして配布する。視聴した上で自身の課題点などをレポートする。 《学習者》 受けた模擬授業に対する評価と講評を行いレポートする。																
	11	教授フローチャートを用いた模擬授業（６）	教授フローチャートを用いて作成した指導計画に基づき、50 分間の模擬授業を行なう。（板書計画を含めた、指導細案の作成も行っておく） 模擬授業終了後は研究協議と講評を行なう。	《授業者》 学習者側からの助言をまとめ、講評を踏まえた上で自己評価を行う。また、行なった模擬授業はビデオ撮影を実施し、DVD にして配布する。視聴した上で自身の課題点などをレポートする。 《学習者》 受けた模擬授業に対する評価と講評を行いレポートする。																
	12	教授フローチャートを用いた模擬授業（７）	教授フローチャートを用いて作成した指導計画に基づき、50 分間の模擬授業を行なう。（板書計画を含めた、指導細案の作成も行っておく） 模擬授業終了後は研究協議と講評を行なう。	《授業者》 学習者側からの助言をまとめ、講評を踏まえた上で自己評価を行う。また、行なった模擬授業はビデオ撮影を実施し、DVD にして配布する。視聴した上で自身の課題点などをレポートする。 《学習者》 受けた模擬授業に対する評価と講評を行いレポートする。																
	13	教授フローチャートを用いた模擬授業（８）	教授フローチャートを用いて作成した指導計画に基づき、50 分間の模擬授業を行なう。（板書計画を含めた、指導細案の作成も行っておく） 模擬授業終了後は研究協議と講評を行なう。	《授業者》 学習者側からの助言をまとめ、講評を踏まえた上で自己評価を行う。また、行なった模擬授業はビデオ撮影を実施し、DVD にして配布する。視聴した上で自身の課題点などをレポートする。 《学習者》 受けた模擬授業に対する評価と講評を行いレポートする。																
	14	魅力ある授業をつくる	自己の行なったマイクロティーチングと学習者から高い評価を受ける授業とを比較し、自己の授業力を高める方法について考える。	課題・レポート(学習ノート作成と提出)																
	15	理科教育法Ⅳのまとめ	理科教育法で学んだことについて総括的にまとめ、自分が考える生きる力について考えをまとめる。	課題・レポート(学習ノート作成と提出)																
関連科目	本科目を履修するにあたり、開講されている教職関連科目、一般教養科目等を予め履修されていることが望ましい。 理科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していること。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高等学校学習指導要領解説 理科編</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領解説 理科編</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	高等学校学習指導要領解説 理科編	文部科学省		2	中学校学習指導要領解説 理科編	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	高等学校学習指導要領解説 理科編	文部科学省																		
2	中学校学習指導要領解説 理科編	文部科学省																		
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	模擬授業（必須）と評価のまとめ、レポート課題、受講態度等の平常成績で総合評価する。 目安として、模擬授業 50%、学習ノートと課題レポート 50%としています。																			
学生への メッセージ	理科教育法Ⅳは教科教育の集大成として、教育実習時に生徒たちが少しでも理科に対して興味・関心を持ち、授業を受けられて良かったと思えるような授業づくりをこころがけよう。そのため十分に時間をかけて教材研究を行ない、教材教具を多用し、アクティブラーニングを取り入れた価値ある授業展開ができるようになって欲しい。模擬授業では将来教員を目指している学生の切磋琢磨の場として、積極的な取り組みを期待する。																			
担当者の 研究室等	3号館2階学習支援センタースタッフルーム																			
備考	模擬授業等で用いる教科書は貸し出します。																			

発行 2018年4月

常翔学園 摂南大学

寝屋川校地

〒572-8508

大阪府寝屋川市池田中町17番8号

電話(072)-839-9106 【教務課】

枚方校地

〒573-0101

大阪府枚方市長尾峠町45番1号

電話(072)-866-3100 【枚方事務室】

